

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

# 島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

( 第 3 分 冊 )

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

島名熊の山遺跡  
(第3分冊)

財団法人

茨城県教育財団

平成 19 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

しま な くま やま い せき  
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

( 第 3 分冊 )

平成 19 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## 第 3 分冊

3 奈良時代の遺構と遺物 .....	577
(1) 竪穴住居跡 .....	577
(2) 掘立柱建物跡 .....	611
4 平安時代の遺構と遺物 .....	617
(1) 竪穴住居跡 .....	617
(2) 掘立柱建物跡 .....	704
(3) 土坑 .....	725
(4) 柱穴の可能性がある土坑 .....	727
(5) 柵跡 .....	729
5 中・近世の遺構と遺物 .....	733
(1) 掘立柱建物跡 .....	733
(2) 方形竪穴遺構 .....	738
(3) 地下式墳 .....	746
(4) 堀跡 .....	763
(5) 溝跡 .....	787
(6) 道路跡 .....	798
(7) 井戸跡 .....	801
(8) 土坑 .....	825
(9) 粘土貼り土坑 .....	834
(10) 火葬土坑 .....	838
(11) 墓坑 .....	841
(12) 墓坑の可能性がある土坑 .....	848
(13) 柱穴の可能性がある土坑 .....	872
(14) ピット群 .....	874
(15) 不明遺構 .....	880

### 3 奈良時代の遺構と遺物

奈良時代の竪穴住居跡16軒，掘立柱建物跡3棟を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

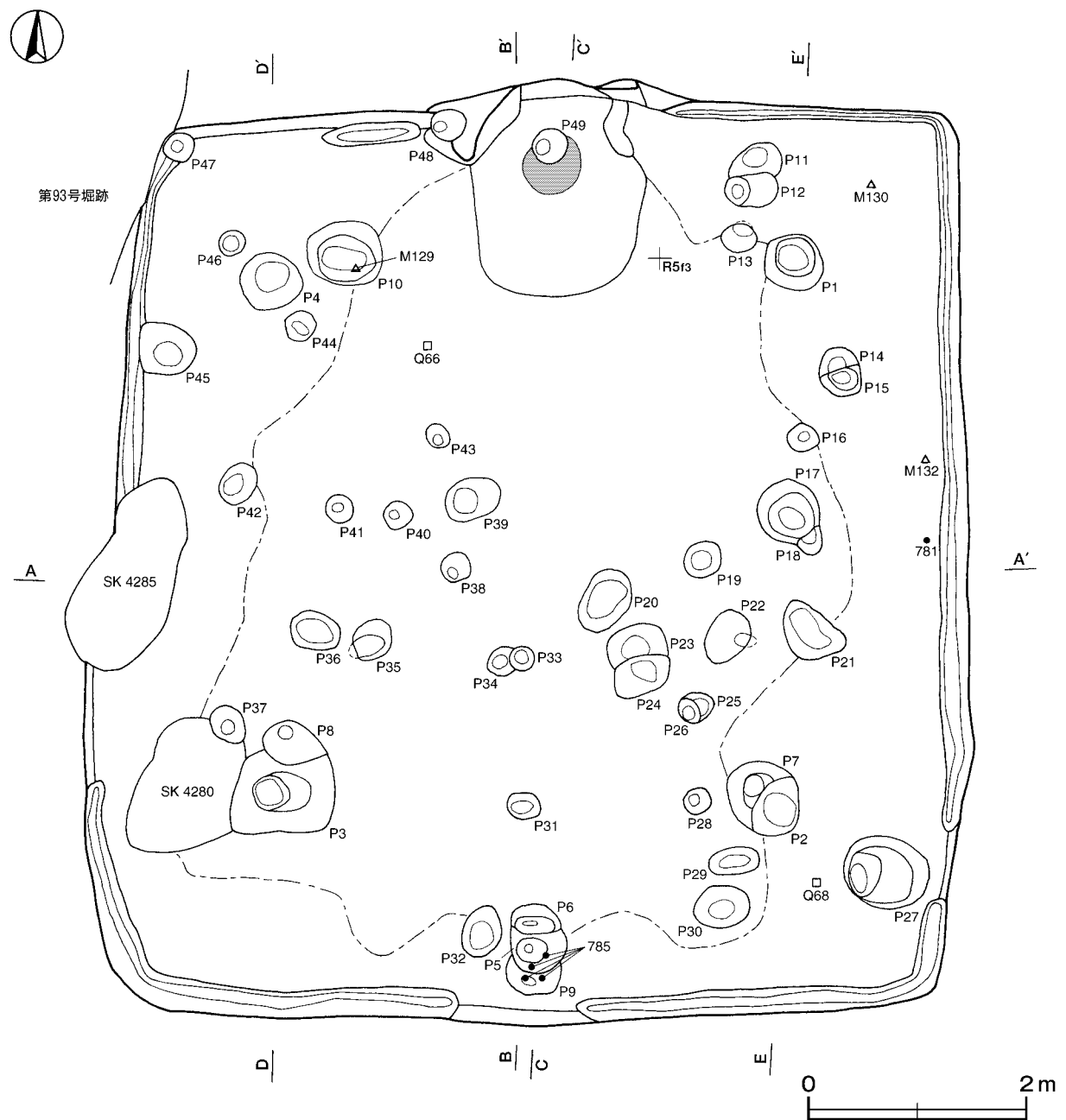
#### (1) 竪穴住居跡

#### 第2599号住居跡（第491～493図）

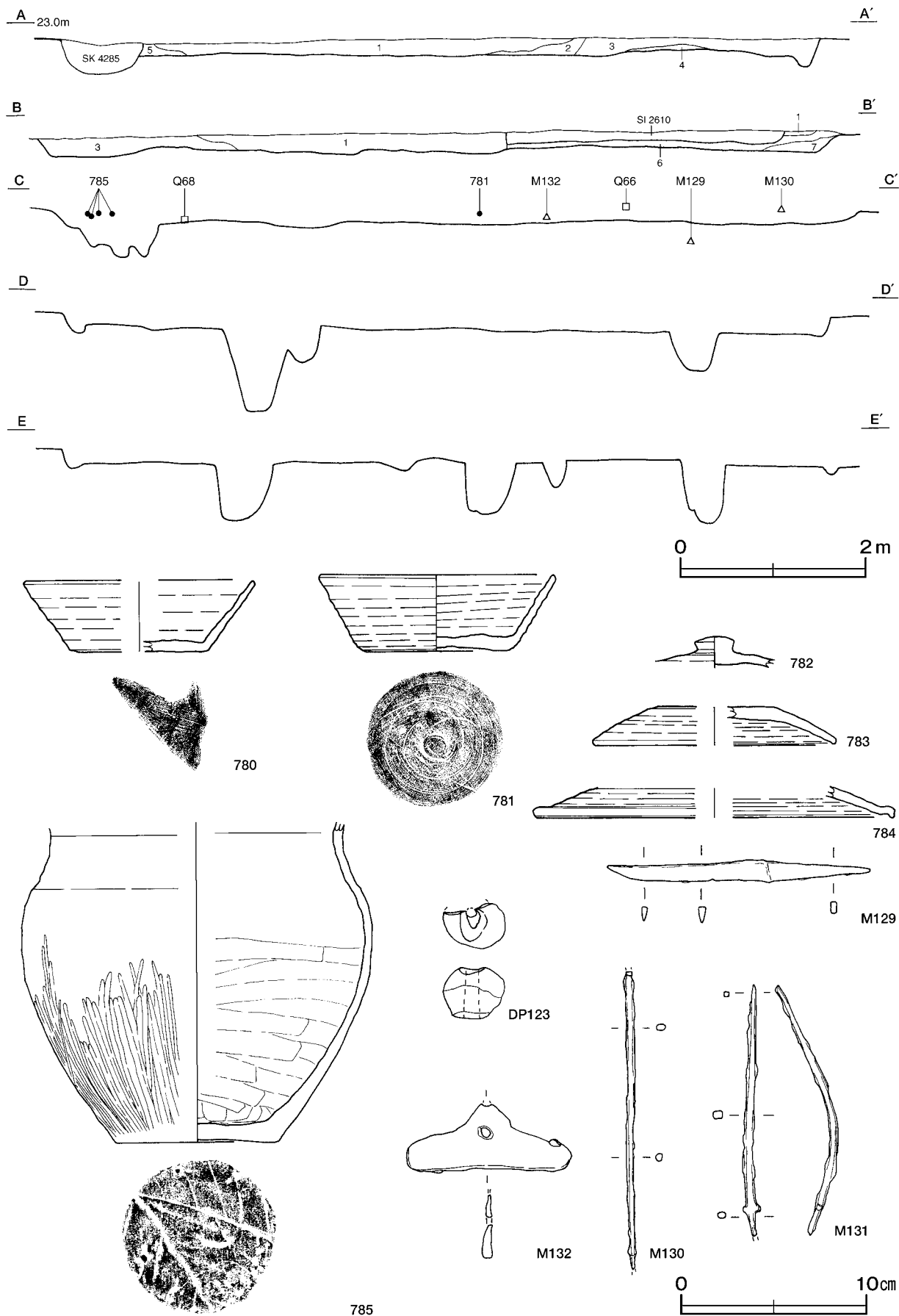
**位置** 調査区中央部のR 5 f 2 区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2610号住居，第93号堀，第4280・4285号土坑に掘り込まれている。

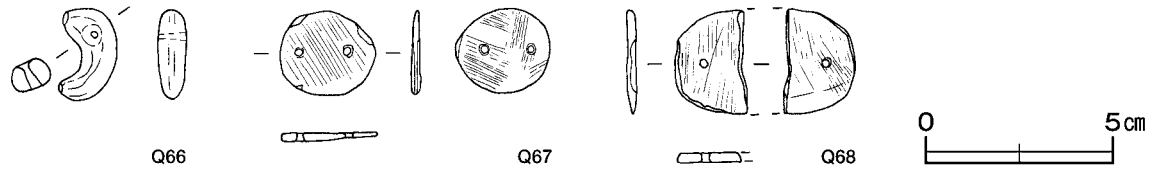
**規模と形状** 長軸8.46m，短軸8.13mの方形で，主軸方向はN - 3° - Eである。壁高は7～11cmで，外傾して立ち上がっている。



第491図 第2599号住居跡実測図



第492图 第2599号住居跡・出土遺物実測図



第493図 第2599号住居跡出土遺物実測図

**床** ほぼ平坦で、竈の周辺と主柱穴の内側および出入口施設付近が踏み固められている。壁下には幅16～20cm、深さ6～10cmで、U字状の断面を呈する壁溝がみられ、北壁の北東コーナー部付近、東壁南東部、西壁中央部、出入口施設周辺が部分的に途切れている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。第2610号住居の掘り込みと耕作などによる削平により、袖部や煙道部は遺存状態が悪く、焚口部から煙道部まで203cm、袖部幅194cmを確認している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面が赤変硬化している。

**ピット** 49か所。P1～P4は主柱穴で、深さは40～90cmである。P5は、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられ、P6は付属する支柱穴と考えられる。深さはP5、P6ともに35cmである。また、P7はP2、P8はP3、P9はP5をそれぞれ掘り込んでおり、主柱穴あるいは出入口施設の抜き取り痕と考えられる。深さは21～56cmである。P10～P49は性格が不明であり、後世の諸施設が重複していた可能性も考えられるが、構造は把握できなかった。

**覆土** 7層に分けられる。全体的に粒径の大きいブロック状の含有物がみられる人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                          |       |                          |
|-------|--------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量   | 5 褐色  | ロームブロック多量、焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量     | 6 灰褐色 | 粘土ブロック・砂粒多量、焼土ブロック少量     |
| 3 褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化物微量 | 7 褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量             |
| 4 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子多量              |       |                          |

**遺物出土状況** 土師器片1489点（坏106、高坏8、甕類1369、甑5、手捏土器1）、須恵器片291点（坏177、高台付坏7、盤1、蓋27、鉢5、甕類73、甗1）、土製品1点（球状土錘）、石製品3点（勾玉1、双孔円板2）、鉄製品4点（刀子1、紡錘車2、火打具1）、粘土塊2点が覆土中に散在した状態で出土しており、大形の破片は壁際に集中する傾向がみられる。781は東壁際の中央部、785は南壁際の中央部からそれぞれ出土しており、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉以前と考えられる。

第2599号住居跡出土遺物観察表（第492・493図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
780	須恵器	坏	[12.3]	3.8	[7.2]	長石・石英	灰黄褐	普通	体部内・外面口クロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	20%
781	須恵器	坏	12.6	4.2	7.6	長石・雲母	褐灰	普通	体部内・外面口クロナデ 体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	上層	80% PL126
782	須恵器	蓋	-	(1.7)	-	長石・石英	灰白	良好	天井部左回りの回転ヘラ削り後つまみ貼り付け つまみ径2.4cm つまみ高1.0cm	覆土中	5%
783	須恵器	蓋	[12.8]	(2.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不良	天井部左回りの回転ヘラ削り	竈覆土中	10%
784	須恵器	蓋	[19.4]	(1.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	不良	内・外面口クロナデ	覆土中	20%
785	土師器	甕	-	(17.2)	8.6	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外面ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ 底部木葉痕	上層	45%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP123	球状土錘	3.3	2.8	[1.1]	(17.6)	土(長石・石英)	一部欠損 ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q66	勾玉	2.4	1.6	0.8	3.6	蛇紋岩	孔径0.2cm 全面研磨 一方向からの穿孔	上層	PL144

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q67	双孔円板	2.5	0.2	0.2	2.4	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL144
Q68	双孔円板	(2.8)	0.3	0.19	(2.3)	滑石	一部欠損 両面研磨 一方向からの穿孔	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M129	刀子	14.7	1.2	0.3	14.9	鉄	両関 刃部断面三角形	P 4 上層	PL145
M132	火打具	8.8	(3.8)	0.5	(33.0)	鉄	紐孔有	下層	PL147

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M130	紡錘車	(16.1)	0.7	0.45	(9.4)	鉄	軸部 端部欠損 断面方形	中層	PL145
M131	紡錘車	(13.6)	0.9	0.4	(10.0)	鉄	軸部 端部欠損 彎曲 断面方形	覆土中	PL145

### 第2613号住居跡 (第494・495図)

**位置** 調査区中央部の R 4 f 9 区, 標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2638号住居跡を掘り込み, 第155号溝, 第4269・4270・4334・4336号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.24m, 短軸4.68mの長方形で, 主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は10~16cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で, 支柱穴の内側を中心に, 竈の周辺や東側の壁際が踏み固められている。南壁際の中央部を除く壁下には, 幅18~24cm, 深さ8~11cmで, 逆台形の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで132cm, 袖部幅126cmである。袖部は床面を深さ22cmほどに掘りくぼめて第11~13層を充填し, その上部に粘土を主体とした第8~10層を積み上げて構築している。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり, 火床面は赤変硬化している。また, 上部には灰を含む第6層が堆積しており, 層厚は6cmである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がり, 奥壁には袖部の構築材と同じ粘土層を貼り付けて補強している。覆土は, 第1~5層に分けられ, 第4・5層が天井部の崩落土層に相当する。各層はブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 竈土層解説

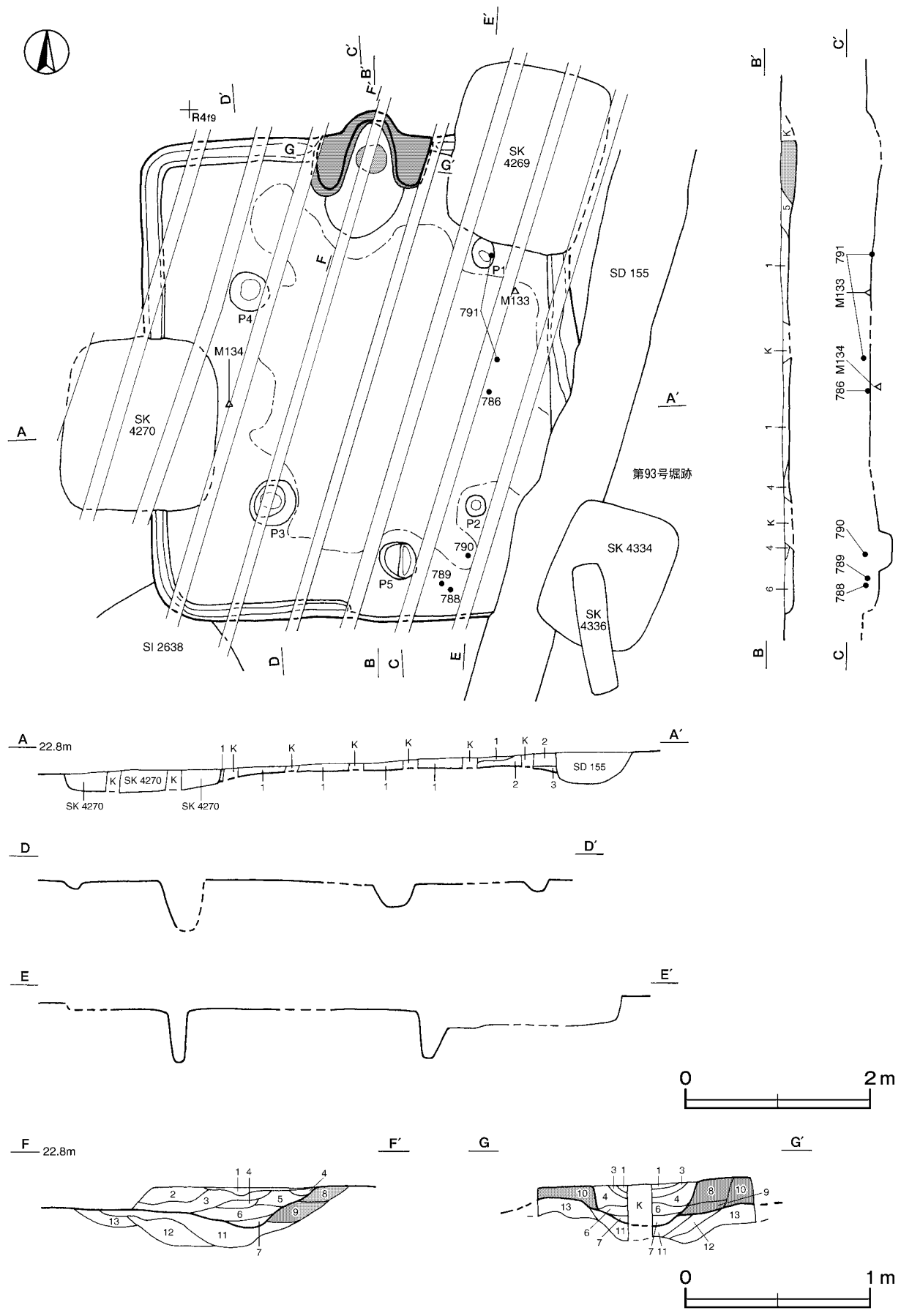
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	10 灰褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 灰褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	11 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4 にぶい褐色	粘土粒子少量, 焼土粒子微量	12 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土粒子中量	13 灰褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
6 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 灰少量		
7 褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量		
8 褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量		

**ピット** 5か所。P1~P4は支柱穴で, 深さは25~57cmである。P5は深さ23cmで, 南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 5層に分けられる。全体的に粘土ブロックや焼土ブロックを含む人為堆積である。

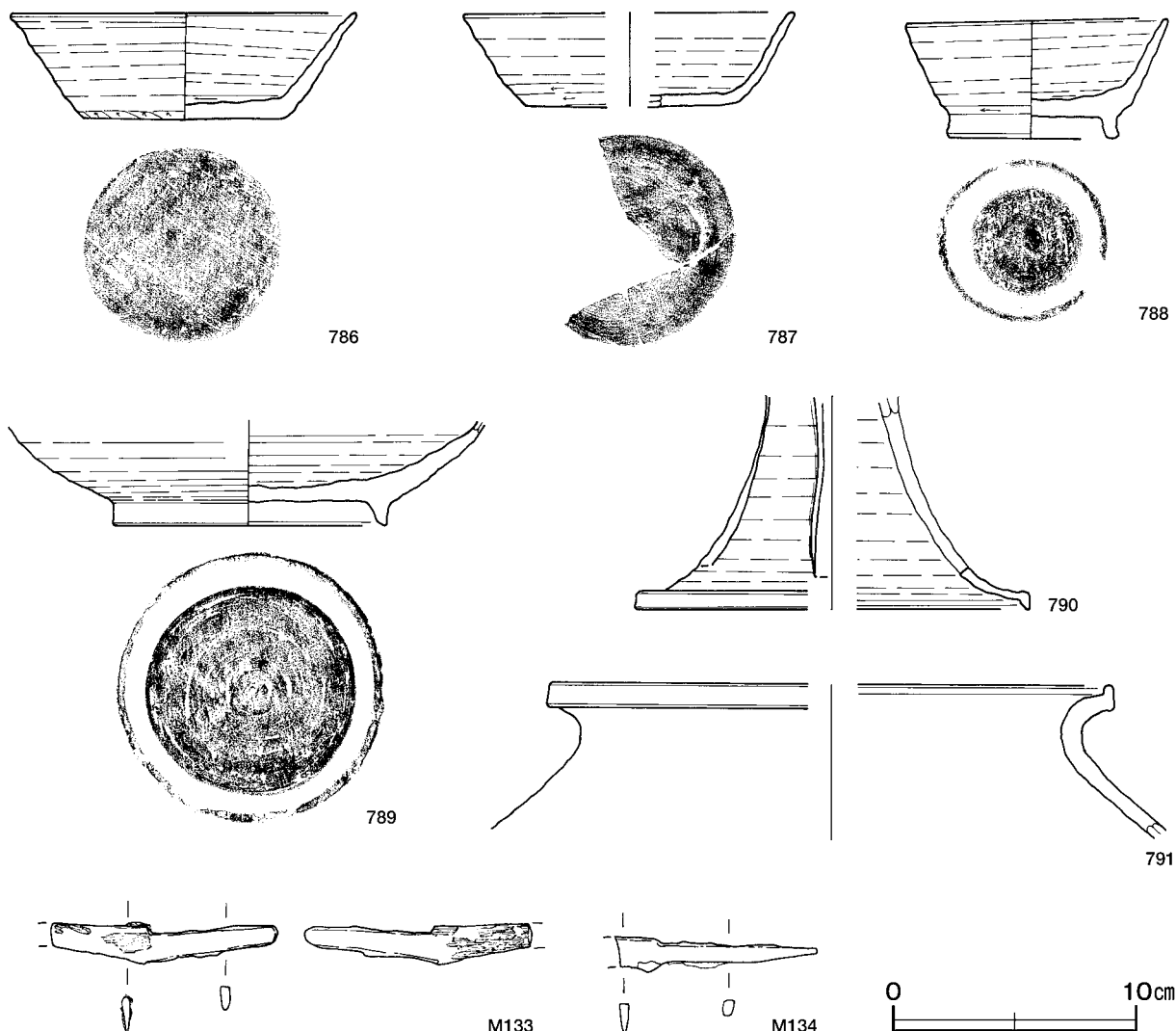
#### 土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子微量		



第494图 第2613号住居跡実測图





第495図 第2613号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片128点（坏10，甕117，甑1），須恵器片63点（坏36，高台付坏1，蓋10，盤1，高盤1，瓶類1，甕類13），鉄製品2点（刀子）が出土している。786～789は、完形もしくは完形に近い状態で出土しているが、いずれも覆土中からの出土であり、住居の廃絶後に投棄されたものと考えられる。M133は東壁側の中央部，M134は西壁側の中央部の床面からそれぞれ出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第2613号住居跡出土遺物観察表（第495図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
786	須恵器	坏	14.0	4.5	8.3	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	下層	80% PL127
787	須恵器	坏	[13.4]	3.9	[8.8]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	40%
788	須恵器	高台付坏	10.8	4.9	6.9	長石・石英・雲母	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	下層	80% PL127
789	須恵器	盤	-	(3.3)	11.1	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	75%
790	須恵器	高盤	-	(9.8)	[16.2]	長石・石英	黄灰	良好	体部内・外面ロクロナデ 四方向の透かし孔	下層	15%
791	土師器	甕	[22.8]	(6.3)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M133	刀子	(9.9)	1.7	0.5	(12.3)	鉄	刃部欠損 断面三角形 鞘木質残存 片開	床面	
M134	刀子	(8.3)	1.5	0.4	(10.4)	鉄	刃部欠損 断面三角形 両開	床面	

### 第2622号住居跡（第496図）

**位置** 調査区中央部のR 4 i 8区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2638号住居跡を掘り込み，第480号掘立柱建物，第93号堀，第155号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.18m，短軸3.15mの長方形で，主軸方向はN - 4° - Eである。壁高は8～9cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で，竈周辺を含めた中央部と南・東側の壁際が踏み固められている。北西コーナー部と南東コーナー部の一部を除く壁下には，幅10～14cm，深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで104cmで，袖部は両端が耕作の攪乱で失われており，最大で幅97cmを確認している。袖部は，床面を11cmほど掘りくぼめて第19層を充填し，その上部に砂質粘土を主体とした第11～15層を塊状に積み上げている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり，火床面は赤変硬化している。また，火床面の西奥側には支脚が据えられており，焚口からの距離は54cmである。煙道部は，壁外への掘り込みが25cmで，火床部から彎曲して立ち上がり，奥壁は砂質粘土を主体とする第16～18層を貼り付けて補強している。覆土は，第1～9層に分けられ，第2・6層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。各層は焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

#### 竈土層解説

1 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量	11 暗褐色	焼土ブロック少量，炭化物・砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	炭化粒子多量，砂質粘土ブロック中量，ローム粒子微量	12 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
3 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色	焼土ブロック少量，炭化物・砂質粘土粒子微量
4 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5 明赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	15 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 にぶい黄色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	16 赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 明褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量	18 にぶい橙色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
9 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量	19 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
10 暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	20 灰黄褐色	砂質粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

**ピット** 4か所。主柱穴で，深さは32～54cmである。

**覆土** 6層に分けられる。各層とも締まりが強いことから人為堆積と考えられ，踏み固めながら埋め戻されたと推定される。

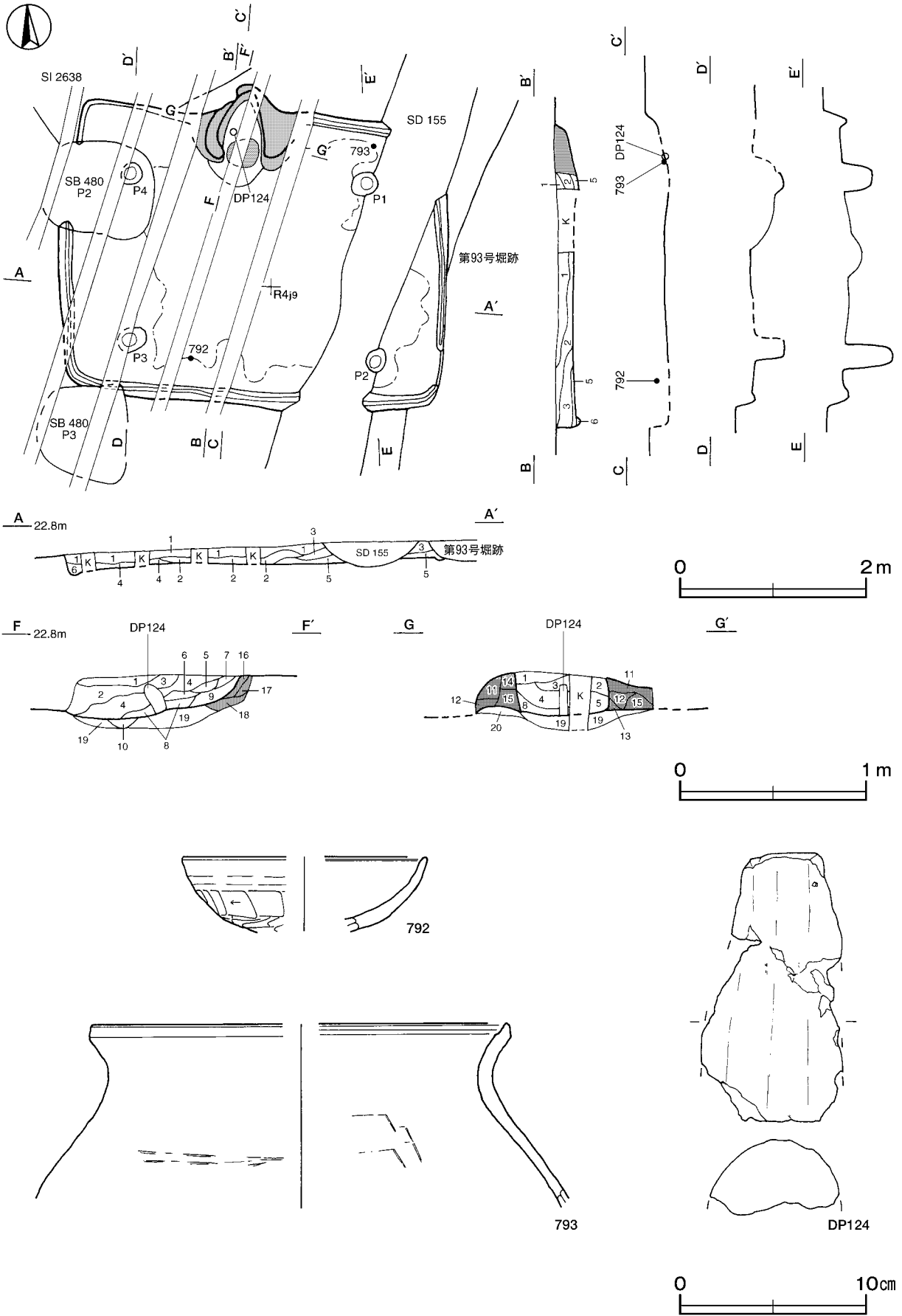
#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子微量	4 褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片96点(坏15，高坏2，甕類79)，須恵器片7点(蓋1，瓶3，甕類3)，土製品1点(支脚)が出土している。792は南壁付近の覆土中層，793は北東部北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

いずれも細片であることから，廃絶後に周囲から流入した可能性が考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀前葉以前と考えられる。



第496图 第2622号住居跡・出土遺物実測図

第2622号住居跡出土遺物観察表（第496図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
792	土師器	坏	[13.0]	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	中層	20%
793	土師器	甕	[22.2]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	床面	10%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP124	支脚	(17.3)	4.0	(7.6)	(846.5)	土(長石・石英)	ナデ 火を受けている にぶい橙色	竈火床面	

第2631号住居跡（第497・498図）

**位置** 調査区中央部のR 5 i5区、標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2635号住居跡を掘り込み、第2630号住居、第471号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.50m、短軸6.47mの方形で、主軸方向はN - 86° - Eである。壁高は22～32cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、壁際を除いて、全面が踏み固められている。壁下には、幅13～24cm、深さ10～13cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 東壁中央部に付設されている。南東部を第471号掘立柱建物のP1に掘り込まれており、また、袖部が崩落しているため遺存状態は悪い。規模は、焚口から煙道部まで163cmであり、袖部幅は竈の中軸線で反転復元すると160cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は焼土ブロックが集中する程度で、赤変硬化は不明瞭である。煙道部は壁外への掘り込みが43cmで、奥壁は外傾して立ち上がっており、第6・7層の粘土を貼り付けて補強している。覆土は第1～5層に分けられ、第2層が天井部の崩落土層に相当する。各層とも焼土や粘土をブロック状に含む人為堆積である。

**竈土層解説**

1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量	5 褐色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2 灰白色 粘土ブロック多量，焼土粒子少量	6 灰白色 粘土ブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3 褐色 焼土粒子多量，粘土ブロック少量	7 褐色 粘土ブロック少量，炭化粒子微量
4 暗褐色 焼土粒子少量，炭化粒子微量	8 暗褐色 炭化粒子微量

**ピット** 10か所。P1～P4は主柱穴で、深さは65～71cmである。P5は深さ18cmで、西壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6はP1・P4、P7はP2・P3の中央部にそれぞれ位置しており、深さは32～50cmで支柱穴と考えられる。P8～10は性格が不明である。

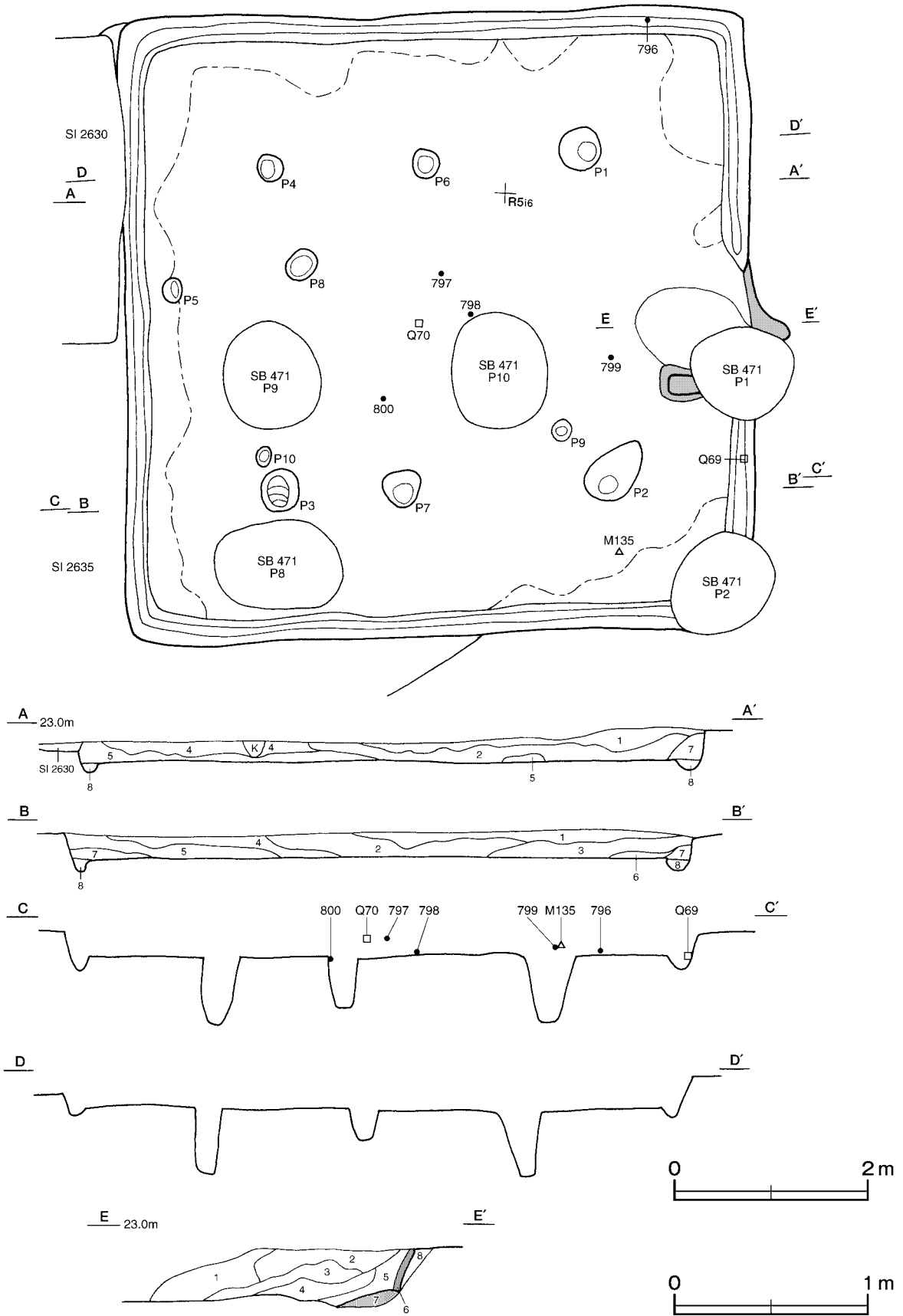
**覆土** 8層に分けられる。全体的にロームブロックを含む人為堆積である。

**土層解説**

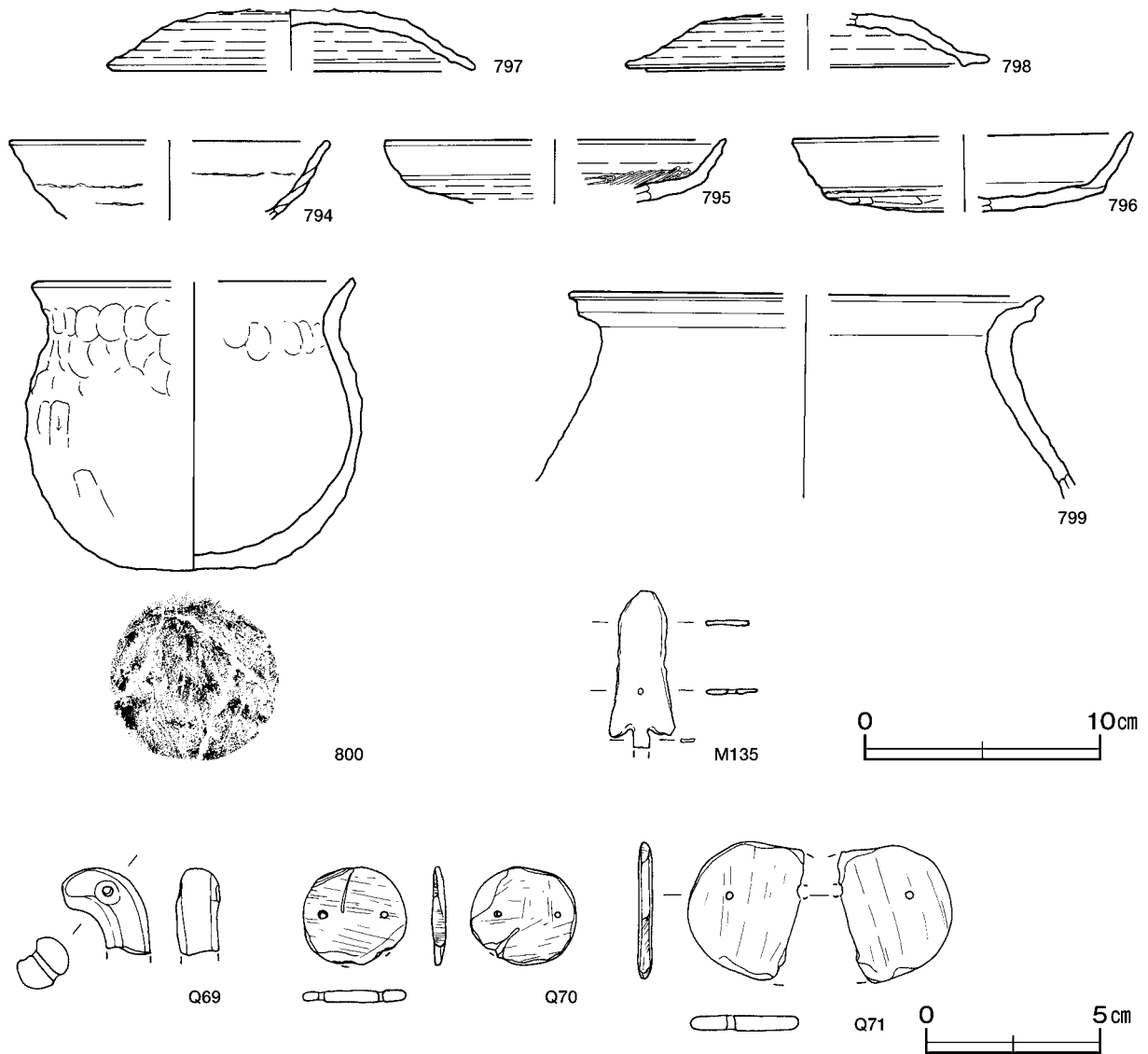
1 極暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量	5 黒褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量	8 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片1184点（坏209，高坏9，甕類945，小形甕19，甌2），須恵器片100点（坏41，高台付坏1，蓋39，瓶類5，甕類14），石製品3点（勾玉1，双孔円板2），鉄製品4点（刀子3，鏃1）が覆土上層から下層にかけてのほぼ全域から出土している。798・800は中央部，796は北壁際，799は竈前の覆土下層，797・Q70・M135は覆土中層からそれぞれ出土している。出土土器はいずれも破片であり、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀前葉以前と考えられる。



第497图 第2631号住居跡実測图



第498図 第2631号住居跡出土遺物実測図

第2631号住居跡出土遺物観察表（第498図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
794	土師器	坏	[13.4]	(3.3)	-	長石・石英	橙	普通	体部内・外面横ナデ 輪積み痕	覆土中	20%
795	土師器	坏	[14.3]	(2.6)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラ磨き	竈覆土中	15%
796	土師器	坏	[14.4]	(3.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	20%
797	須恵器	蓋	[15.3]	(2.9)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	中層	15%
798	須恵器	蓋	[15.6]	(2.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	下層	40%
799	土師器	甕	[20.0]	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	10%
800	土師器	小形甕	[13.4]	12.3	6.8	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部内・外面ナデ 指頭痕 体部外面ヘラ削り 底部ヘラナデ	下層	45%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q69	勾玉	(2.5)	2.5	1.3	(8.7)	瑪瑙	孔径2.6cm 下部欠損 二方向からの穿孔	壁溝覆土中	PL144

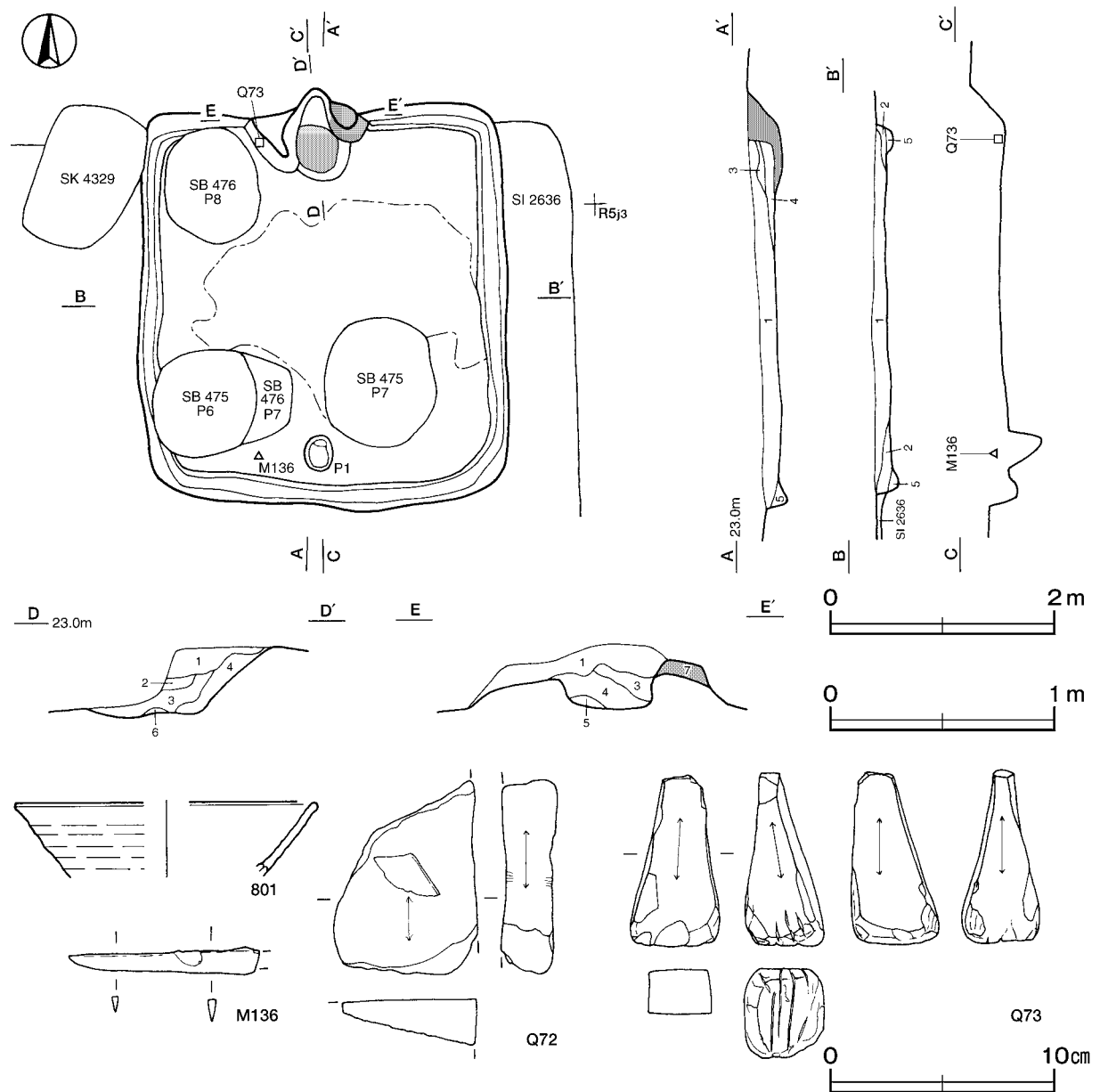
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q70	双孔円板	2.8	0.4	0.15	(5.0)	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	中層	PL144
Q71	双孔円板	(3.9)	0.4	0.2	(9.4)	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL144

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M135	鏃	(6.7)	2.8	0.2	(8.9)	鉄	茎部欠損 柳葉式 両丸造 腸袂 透孔有	中層	PL145

### 第2632号住居跡 (第499図)

**位置** 調査区中央部のR 5 j2 区, 標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2636号住居跡を掘り込み, 第475・476号掘立柱建物, 第4329号土坑に掘り込まれている。



第499図 第2632号住居跡・出土遺物実測図

**規模と形状** 長軸3.58m，短軸3.26mの方形で，主軸方向はN - 0°である。壁高は6～20cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。覆土を除去した段階で袖部の基部が露出しており，遺存状態は悪い。規模は，焚口部から煙道部まで94cm，袖部幅114cmである。袖部は，地山を掘り残して基部とし，砂質粘土ブロックを多く含む第7層を積み上げて構築している。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめた部分を使用しており，火床面が赤変硬化している。煙道部は壁外への掘り込みが24cmで，外傾して立ち上がっている。覆土は第1～5層に分けられ，焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

**竈土層解説**

- |          |                       |          |                         |
|----------|-----------------------|----------|-------------------------|
| 1 極暗褐色   | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量   | 5 褐色     | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色    | ローム粒子・炭化粒子微量          | 6 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量，炭化物微量          |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物微量 | 7 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 4 暗褐色    | 焼土粒子・炭化粒子微量           |          |                         |

**ピット** 深さ27cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 5層に分けられる。周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                     |        |                   |
|-------|---------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量      | 4 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量           | 5 極暗褐色 | ローム粒子微量           |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |        |                   |

**遺物出土状況** 土師器片264点（坏11，高坏1，甕類251，甑1），須恵器片31点（坏20，蓋2，高盤1，甕類8），石器2点（砥石），鉄製品1点（刀子）が出土している。いずれも細片の状態で覆土中に散在しており，廃絶後に投棄されたものと考えられる。Q73は竈左袖際，M136は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 第476号掘立柱建物跡との重複関係から9世紀前葉より古く位置付けられ，出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。

**第2632号竪穴住居跡出土遺物観察表（第499図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
801	須恵器	坏	[13.1]	(3.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部内・外面口クロナデ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q72	砥石	(8.7)	(6.5)	(2.6)	(132.2)	凝灰岩	一部欠損 砥面2面 断面長方形	覆土中	
Q73	砥石	7.7	4.0	3.5	103.2	凝灰岩	砥面5面 断面長方形	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M136	刀子	(8.5)	1.2	0.3~0.4	(7.8)	鉄	茎部欠損 断面三角形	中層	

**第2636号住居跡（第500図）**

**位置** 調査区中央部のR5j1区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2617・2632号住居，第474～477掘立柱建物，第73号井戸，第4329・4377号土坑に掘り込まれている。また，遺構の重複と耕作による削平のため，北西部以外が失われており，床面はほとんど露出した状態で検出されている。

**規模と形状** 南北軸は6.80m，東西軸は7.85mを確認している。西壁の方向はN - 0°である。壁高は残りの良い部分で4cmであり，壁の立ち上がりの状況は不明瞭である。



**床** 確認した部分ではほぼ平坦で、壁際まで踏み固められている。北壁および西壁下には、幅10~12cm、深さ6~7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**ピット** 2か所。主柱穴で、深さは28~54cmである。南東および南西部にもP1・P2と対をなす位置に主柱穴が想定されるが、遺構の重複が激しく確認できなかった。

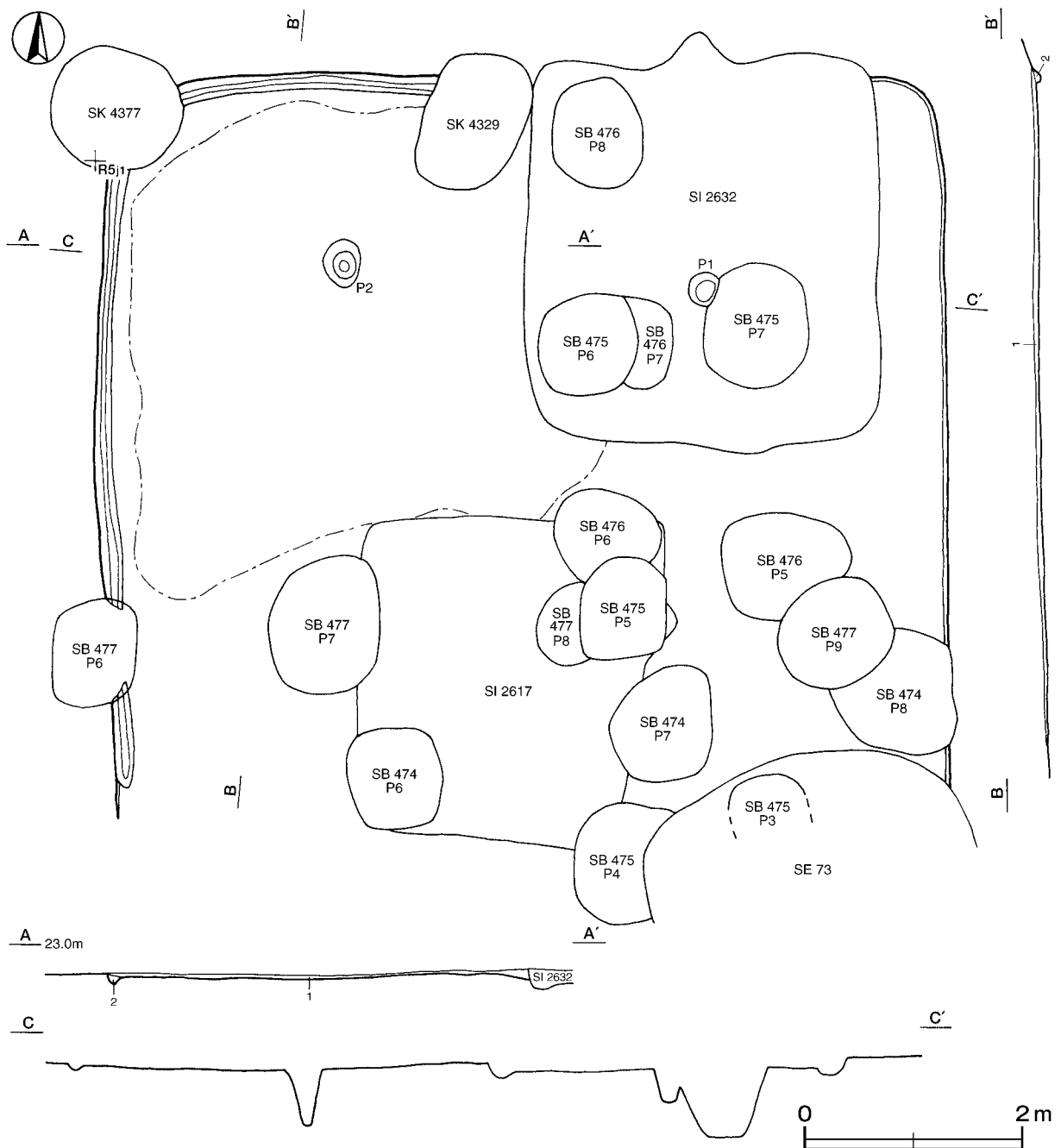
**覆土** 2層に分けられるが、層厚が薄いため堆積状況は不明である。

**土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 極暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片173点(坏17, 甕類156), 須恵器片16点(坏11, 甕類5)が出土している。いずれも覆土中から細片で出土しており、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

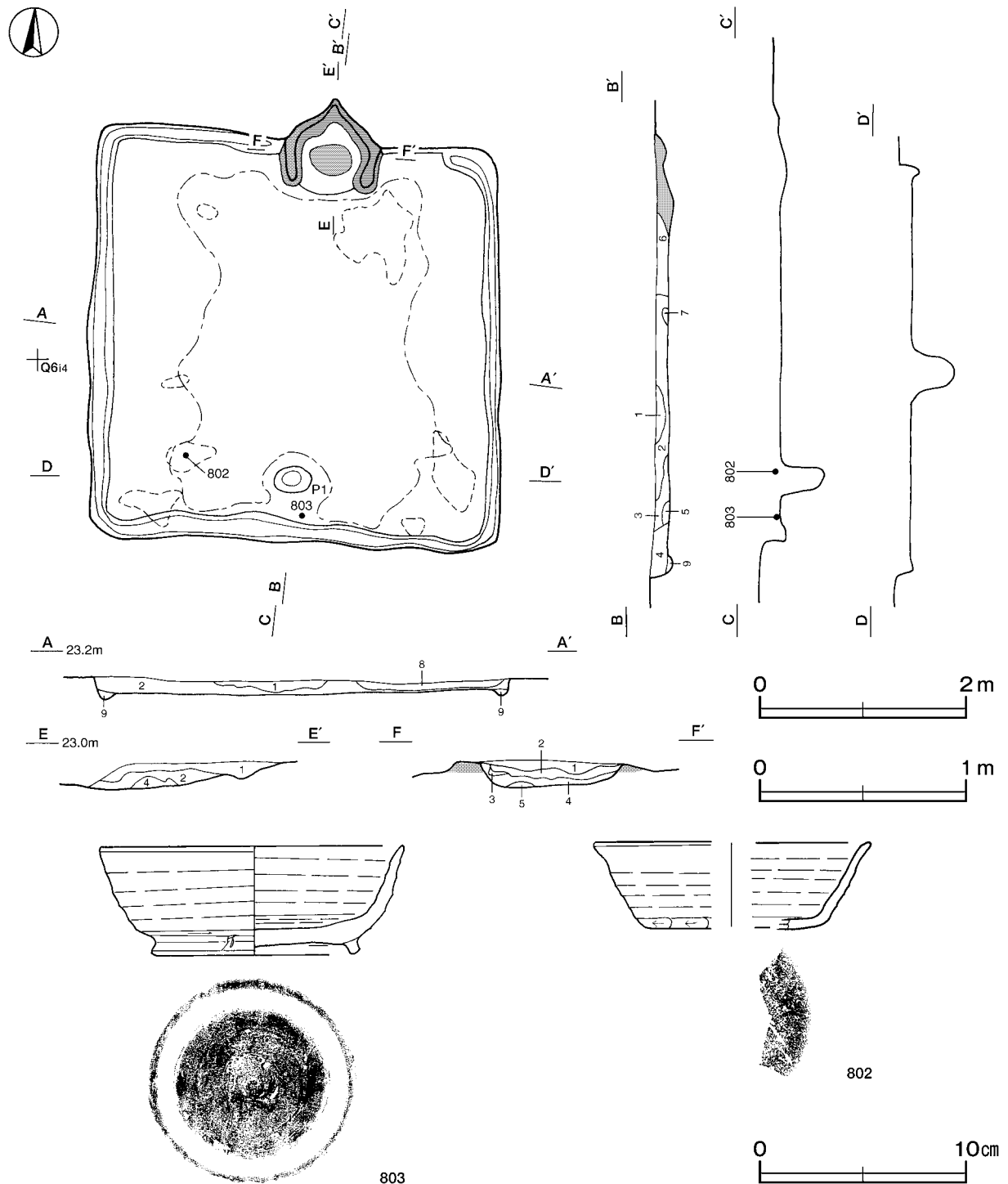


第500図 第2636号住居跡実測図

所見 第474号掘立柱建物跡との重複関係から8世紀後葉より古く位置付けられ、出土土器からも8世紀代と考えられる。また、重複する第2632号住居跡とは主軸方向が一致しており、近接した時期に建て替えられたことが想定される。

第2641号住居跡（第501図）

位置 調査区北東部のQ 6 h4 区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。



第501図 第2641号住居跡・出土遺物実測図

**規模と形状** 長軸4.05m，短軸4.01mの方形で，主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は13～17cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅12～18cm，深さ4～6cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南東部及び南西部に中心に向かって焼土が広がり，中央部北寄りの床面にも焼土ブロックが検出され，焼失住居と考えられる。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで76m，袖部幅99cmである。袖部は砂質粘土で構築している。火床部は床面を6cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～5層に分けられ，各層は焼土ブロックを含む人為堆積である。

**土層解説**

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐色 炭化物・ローム粒子少量，焼土ブロック微量   | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子少量     |
| 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |                             |

**ピット** 深さ44cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 9層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量  | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量    |
| 3 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量    | 8 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量       |
| 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量          |                             |

**遺物出土状況** 土師器片145点（坏27，蓋1，甕類117），須恵器片17点（坏10，高台付坏4，甕類3），灰釉陶器片1点が出土している。南西部及び南東部から中心部に向かう覆土上層から中層にかけて集中して出土していることから，多くの遺物は廃絶後に廃棄されたと考えられる。802は南壁西寄りの床面，803はほぼ完形の状態で南壁際中央の床面から出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 検出された焼土の状況などから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

**第2641号住居跡出土遺物観察表（第501図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
802	須恵器	坏	[13.2]	4.2	[7.8]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	30%
803	須恵器	高台付坏	14.8	5.3	9.6	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラナデ後高台貼り付け	床面	80% PL126

**第2642号住居跡（第502・503図）**

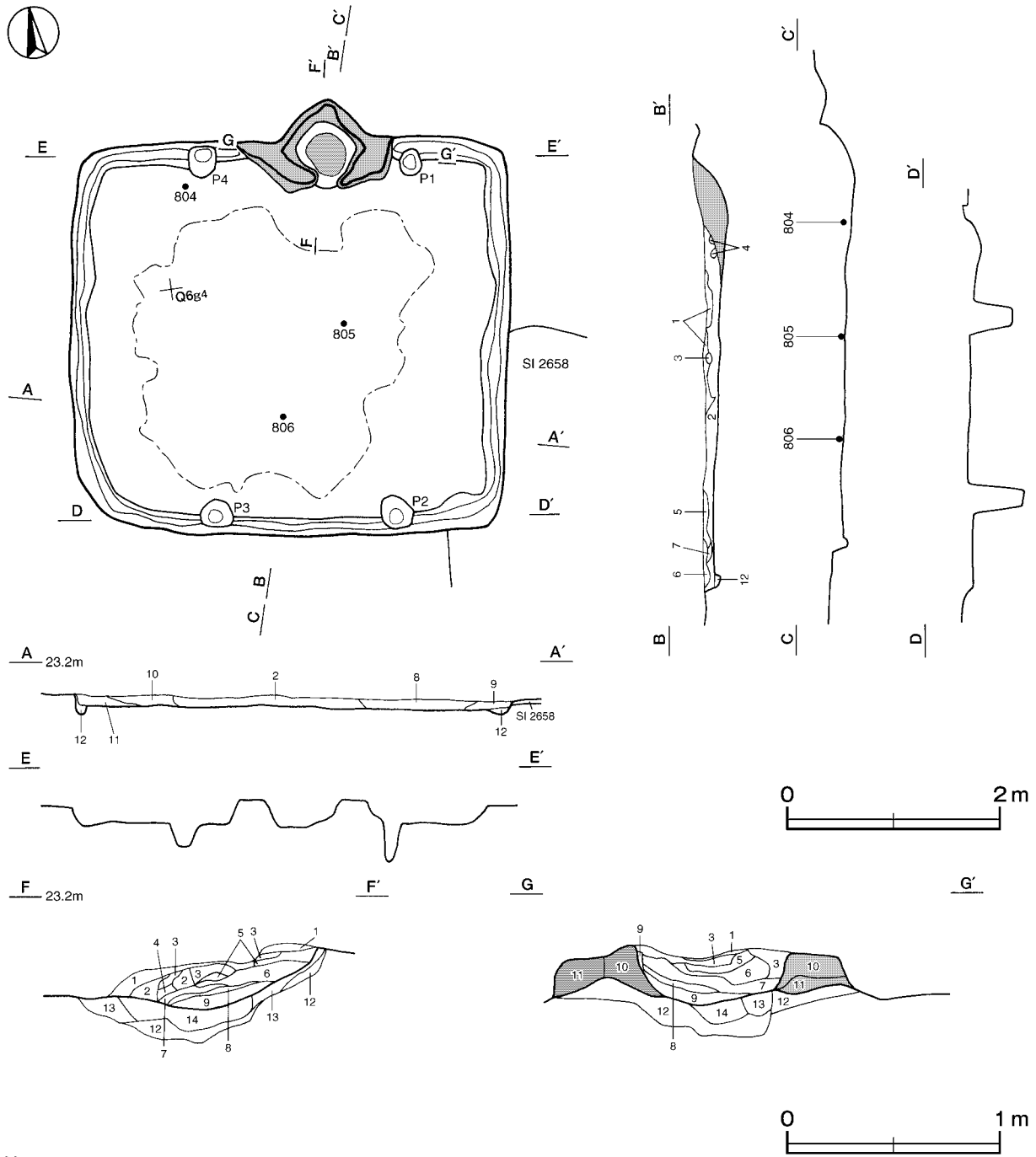
**位置** 調査区北東部のQ 6 g4区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2658号住居跡を掘り込んでいる。

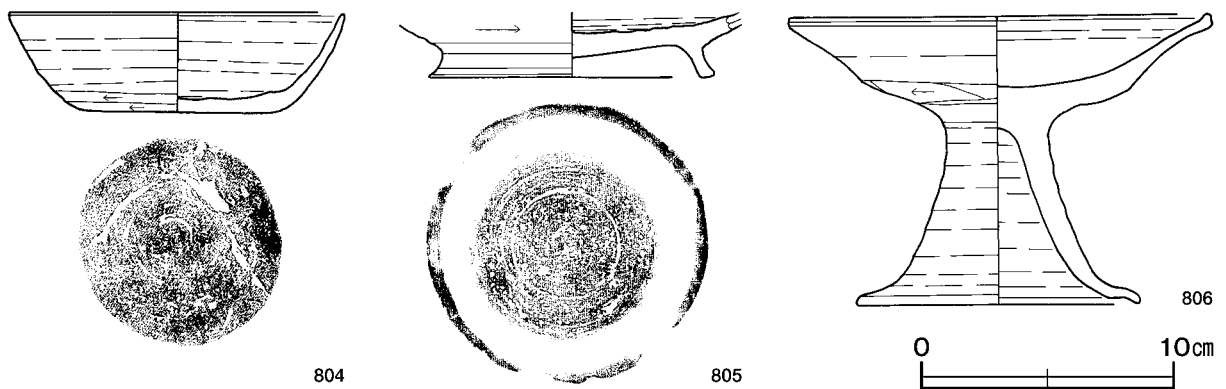
**規模と形状** 長軸4.10m，短軸3.74mの長方形で，主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は8～12cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅10～13cm，深さ4～8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで64cm，袖部幅134cmである。袖部は床面を20cmほど掘りくぼめて第12～14層を充填し，その上部に砂質粘土を主体とする第10・11層を積み上げて構築し



第502图 第2642号住居跡実測图



第503图 第2642号住居跡出土遺物実測图

ている。火床部は床面を8cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ、火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～9層に分けられ、各層は焼土のブロックや粒子を含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

**覆土層解説**

1 暗褐色 焼土粒子微量	9 赤褐色 焼土ブロック中量
2 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量	10 にぶい橙色 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい黄褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量	11 にぶい橙色 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
4 赤褐色 焼土粒子多量	12 褐色 ローム粒子中量
5 赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量	13 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
6 暗褐色 焼土粒子少量	14 暗赤褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量	
8 にぶい橙色 焼土ブロック微量	

**ピット** 4か所。P1～P4は主柱穴で、深さは28～54cmである。

**覆土** 12層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

1 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量	8 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	9 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量	10 黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 明褐色 ローム粒子少量	11 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
6 黄褐色 ローム粒子少量、炭化物微量	12 褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片214点(坏26, 高坏4, 甕類184), 須恵器片28点(坏9, 高台付坏1, 盤1, 高坏14, 甕類3)が竈周辺の覆土中層から下層にかけて集中して出土している。また、混入した平安時代の土師器片9点も出土している。804は北壁西寄り, 805は中央部の床面から正位, 806は中央部南寄りの床面から坏部を北に向いた斜位でそれぞれ出土し、いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。

**第2642号住居跡出土遺物観察表(第503図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
804	須恵器	坏	13.3	4.0	8.0	長石・石英・雲母	灰褐	良好	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り 後回転ヘラ削り	床面	75% PL127
805	須恵器	盤	-	(2.6)	11.3	長石・石英・雲母	灰褐	良好	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	下層	60%
806	須恵器	高坏	16.7	11.5	11.2	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロ成形 坏部外面下端回転ヘラ削り 脚部 内面ヘラナデ	床面	80% PL127

**第2652号住居跡(第504・505図)**

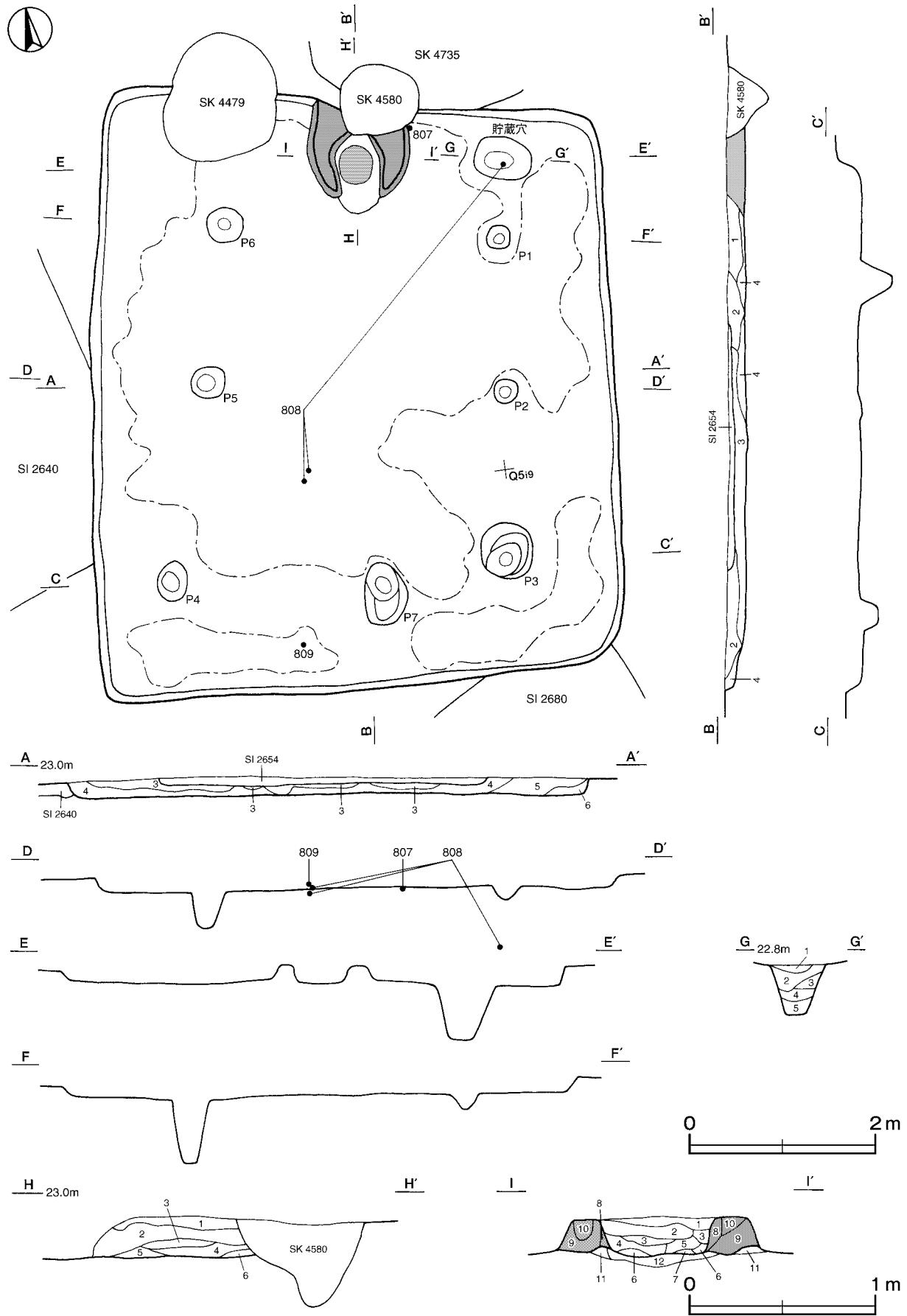
**位置** 調査区北東部のQ5h8区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2640・2680号住居跡を掘り込み、第2654号住居、第4479・4580・4735号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.41m、短軸5.64mの長方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は10～24cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、北西コーナー部と中央部南東寄りを除き壁際まで踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。煙道部を第4580号土坑に掘り込まれているため、遺存する焚口部から煙道部までは84cm、袖部幅111cmである。袖部は床面を10cmほど掘りくぼめて第11・12層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第8～10層を積み上げて構築している。内側は火を受けて赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。覆土は第1～7層に分けられ、第1～5層は、天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は、砂質粘土のブロックや粒子を含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。



第504图 第2652号住居跡実测图

**覆土層解説**

- |          |                                |           |                            |
|----------|--------------------------------|-----------|----------------------------|
| 1 黒褐色    | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量     | 6 にぶい赤褐色  | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量       |
| 2 にぶい褐色  | 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色     | 焼土粒子・炭化粒子中量，砂質粘土粒子少量       |
| 3 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量       | 8 赤褐色     | 砂質粘土粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子微量     |
| 4 暗赤褐色   | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量           | 9 にぶい橙色   | 砂質粘土粒子多量                   |
| 5 暗赤褐色   | 焼土粒子多量，炭化粒子中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 10 にぶい橙色  | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量      |
|          |                                | 11 にぶい橙色  | 砂質粘土粒子微量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
|          |                                | 12 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量        |

**ピット** 7か所。P1～P6は主柱穴で、深さは14～74cmである。P7は深さ26cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。長径61cm，短径47cmの楕円形で、深さは60cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、覆土は人為堆積の状況を示している。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |                     |      |                |
|-------|---------------------|------|----------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子中量，焼土粒子微量      | 5 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |      |                |

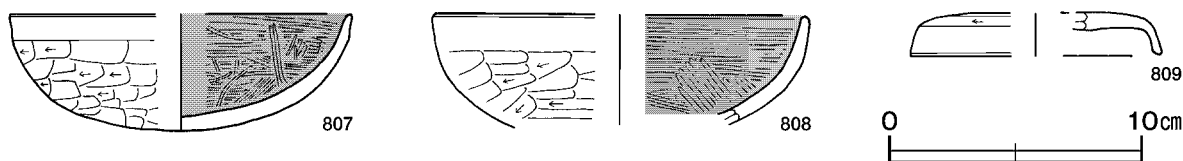
**覆土** 6層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |         |                              |       |                     |
|---------|------------------------------|-------|---------------------|
| 1 にぶい褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量   | 3 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色    | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量 | 4 褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量      |
|         |                              | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
|         |                              | 6 褐色  | ロームブロック少量           |

**遺物出土状況** 土師器片384点（坏77，高坏4，甕類301，甑2），須恵器片76点（坏45，蓋7，甕類24）が出土している。ほとんどが細片であり、北東部から南西部の覆土中層から下層にかけて出土している。807は竈東側の床面から出土し、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。808は中央部の覆土下層から床面および貯蔵穴の覆土中から出土した破片が接合し、809は南部中央の覆土下層から出土している。いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。細片のため図示できないが口縁端部がつまみ上げられた土師器甕片や横位の平行叩きが施された須恵器甕片が出土している。

**所見** 7世紀代と考えられる土師器坏を図示したが、7世紀後葉と考えられる第2640号住居跡を掘り込んでいたりことや土師器および須恵器の甕の形態から、時期は8世紀前葉と考えられる。



**第505図** 第2652号住居跡出土遺物実測図

第2652号住居跡出土遺物観察表（第505図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
807	土師器	坏	[13.6]	4.6	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	55%
808	土師器	坏	[14.8]	(4.4)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙 黒褐	普通	口辺部内・外面横ナデ後磨き 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面・貯蔵穴下層	55%
809	須恵器	蓋	[9.8]	(1.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	ロク口成形 天井部右回りの回転ヘラ削り	下層	10%

**第2658号住居跡（第506図）**

**位置** 調査区北東部のQ 6 g5 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2642号住居，第4493・4570号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.47m，短軸3.42mの方形で，主軸方向はN - 14° - Eである。壁高は4～7cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められているが，攪乱や第4493号土坑に掘り込まれているため，全容は不明である。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで111cmである。中央部を第4570号土坑に掘り込まれ，さらに東側が攪乱されているため袖部幅，火床部は不明である。煙道部は壁外に40cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

**覆土層解説**

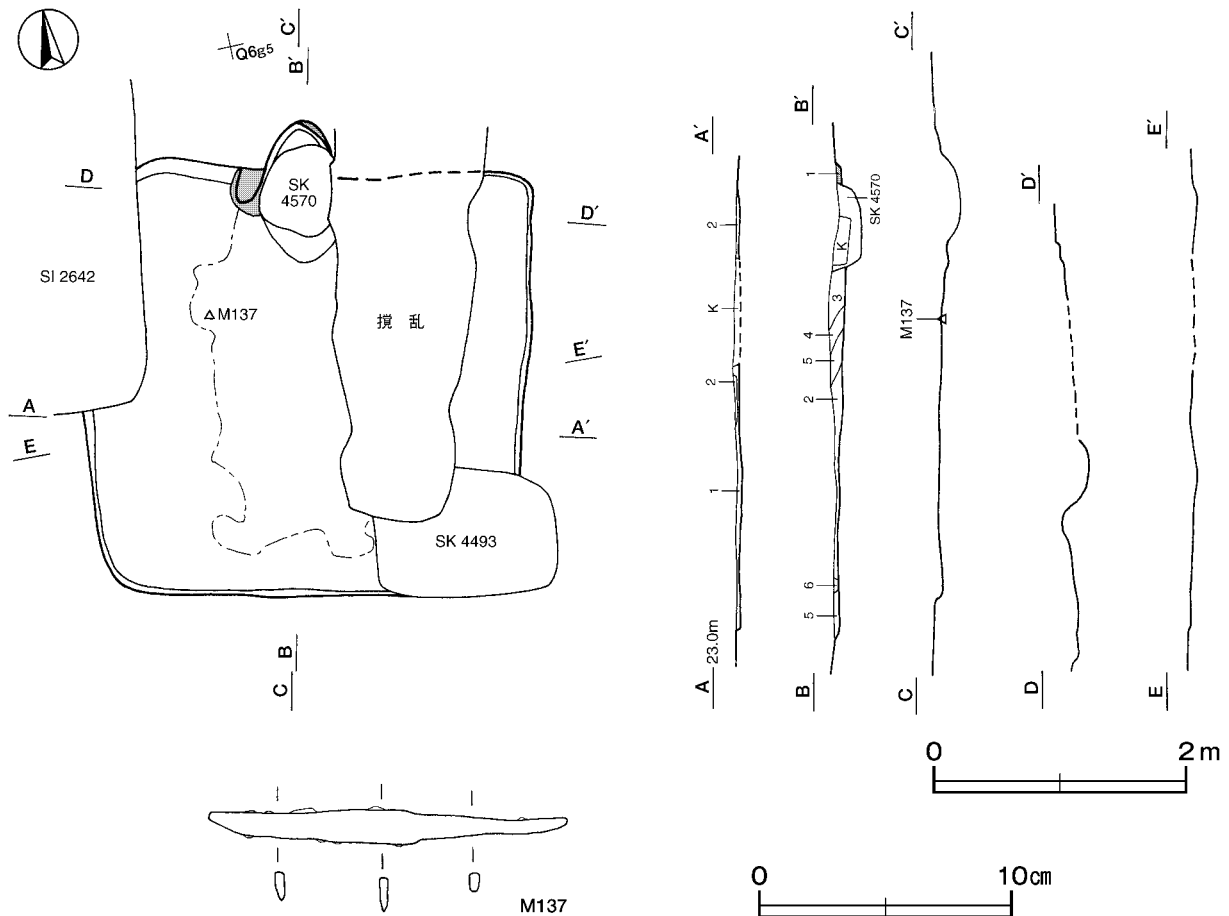
- 1 褐色 砂質粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**覆土** 6層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                               |      |                                |
|-------|-------------------------------|------|--------------------------------|
| 1 褐色  | ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量          | 5 褐色 | ロームブロック・白色粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量 焼土粒子少量 炭化粒子微量       | 6 褐色 | ローム粒子多量                        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・白色粘土粒子・砂少量，炭化物微量 |      |                                |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，白色粘土粒子微量  |      |                                |

**遺物出土状況** 土師器片55点（坏3，甕類52），須恵器片11点（坏7，蓋1，甕類3），鉄製品2点（刀子，不



**第506図** 第2658号住居跡・出土遺物実測図



明)のほか、混入した陶磁器片2点も出土している。覆土が薄いため遺物のほとんどが細片であり、出土量も少ない。M137は中央部西寄りの床面から出土し、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 出土土器が細片のため土器による時期判断は困難であるが、8世紀中葉と考えられる第2642号住居に掘り込まれていることや覆土中から出土した須恵器の形態から8世紀前半と考えられる。

第2658号住居跡出土遺物観察表(第506図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M137	刀子	14.2	1.4	0.4	19.3	鉄	ほぼ完形 平造 両区 断面三角形	床面	PL145

### 第2667号住居跡(第507～509図)

**位置** 調査区北東部のR6d2区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2677号住居跡を掘り込み、第2670号住居、第486号掘立柱建物、第4540号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.56m、短軸3.85mの長方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は50～54cmで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅20～23cm、深さ5～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。右袖部を第486号掘立柱建物に掘り込まれているため、遺存する規模は焚口部から煙道部まで103cm、袖部幅は118cmである。袖部は床面を10cmほど掘りくぼめて第11・12層を充填し、その上部にローム混じりの砂質粘土を主体とする第13～15層を積み上げて構築している。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に33cm掘り込まれ、火床部から急に傾斜して立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第14層を貼り付けて補強している。覆土は第1～10層に分けられ、各層にロームや焼土、砂質粘土のブロックを含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

#### 竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	10 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
3 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11 赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	12 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 にぶい黄褐色	灰中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
6 にぶい黄橙色	灰中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	14 灰褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック・灰少量、ロームブロック・炭化粒子微量	15 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 にぶい黄橙色	灰多量、焼土粒子・炭化粒子微量		

**ピット** 深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 7層に分けられる。各層にロームを多く含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

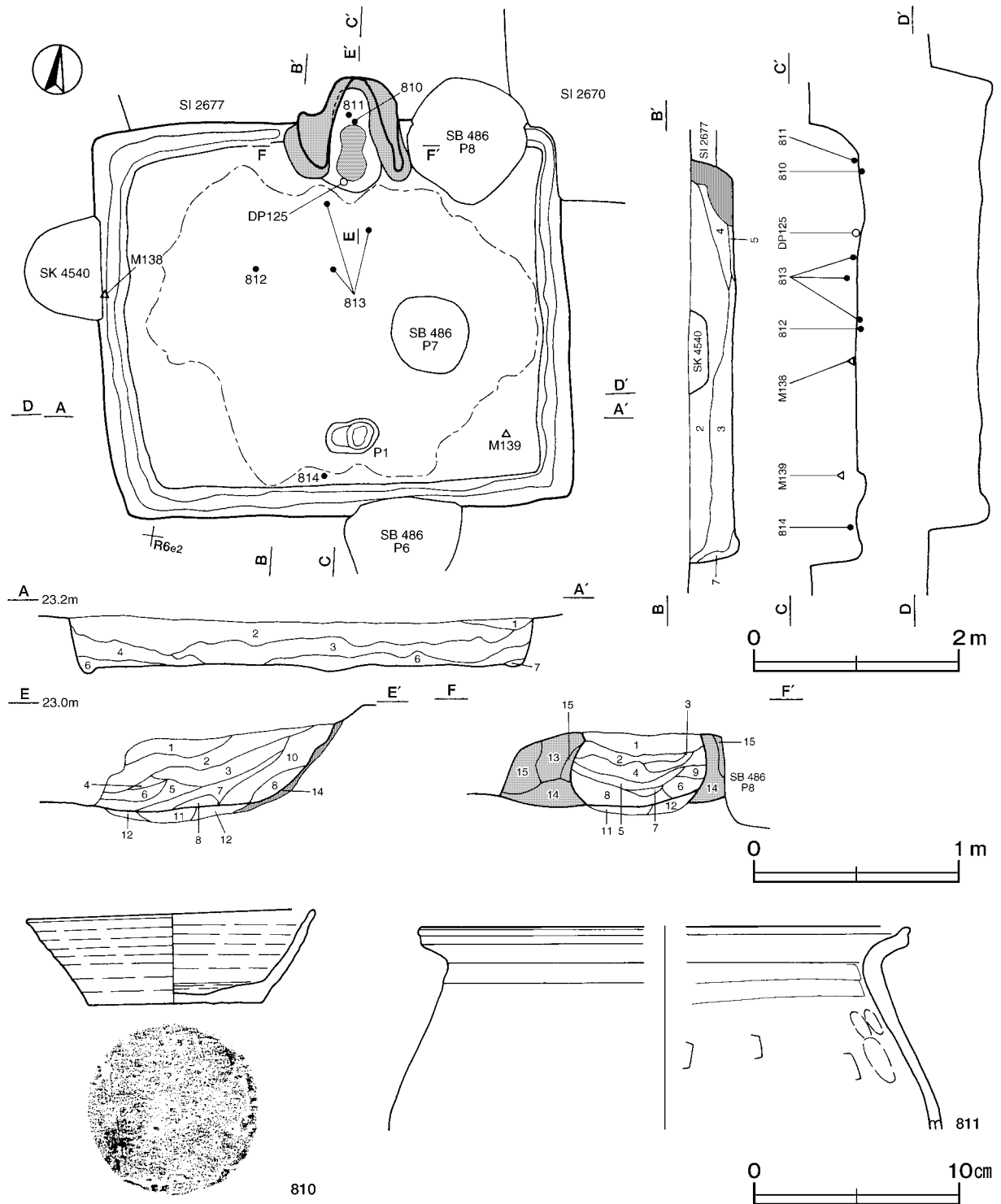
#### 土層解説

1 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	5 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量
2 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量		

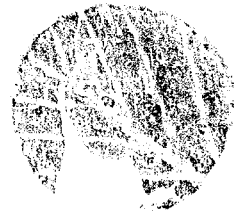
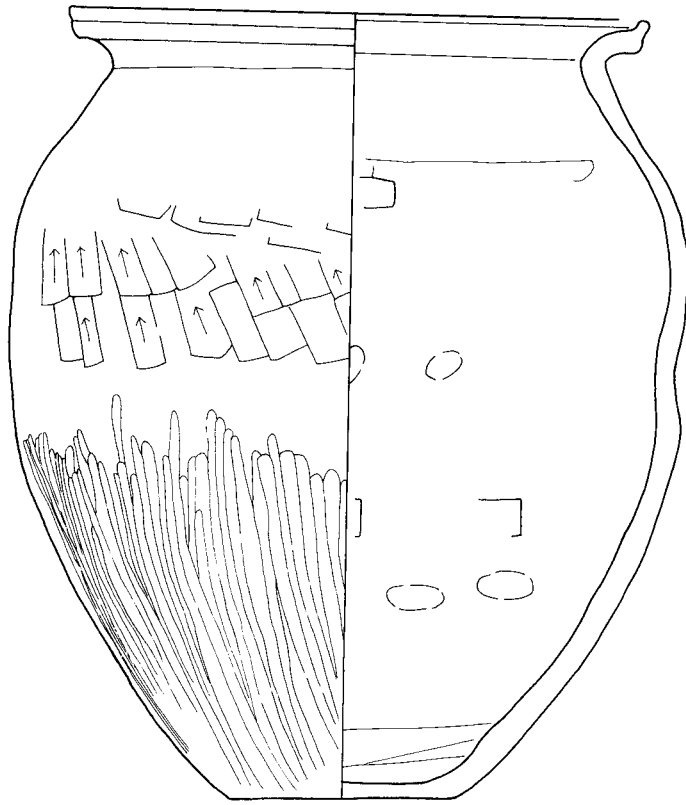
**遺物出土状況** 土師器片616点(坏104、高坏1、甕類511)、須恵器片130点(坏60、高台付坏1、蓋4、瓶1、甕類59、甌5)、土製品3点(紡錘車1、支脚2)、石製品1点(双孔円板)、鉄製品2点(刀子、鎌)のほか、鉄滓1点が覆土中層から下層にかけて全面から出土している。また混入した平安時代の土師器片12点、灰釉陶

器片 2 点も出土している。810・DP125は竈の火床面，812は中央部西寄りの床面，M138は西壁際，811は竈煙道部の覆土下層からそれぞれ出土し，また813は中央部北寄りの覆土下層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。814は南部，M139は南東部の覆土下層，Q74は覆土中からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

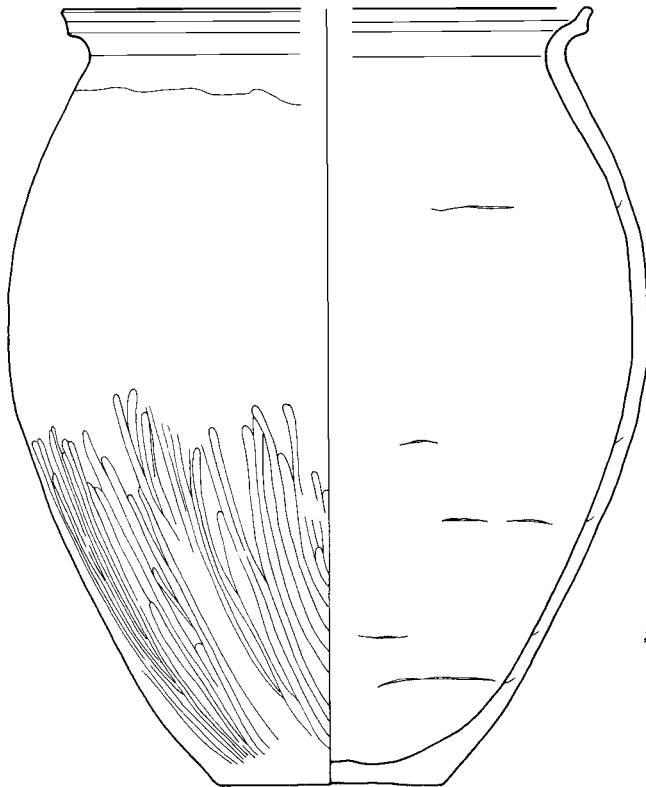
所見 時期は，出土土器から 8 世紀中葉と考えられる。



第507図 第2667号住居跡・出土遺物実測図



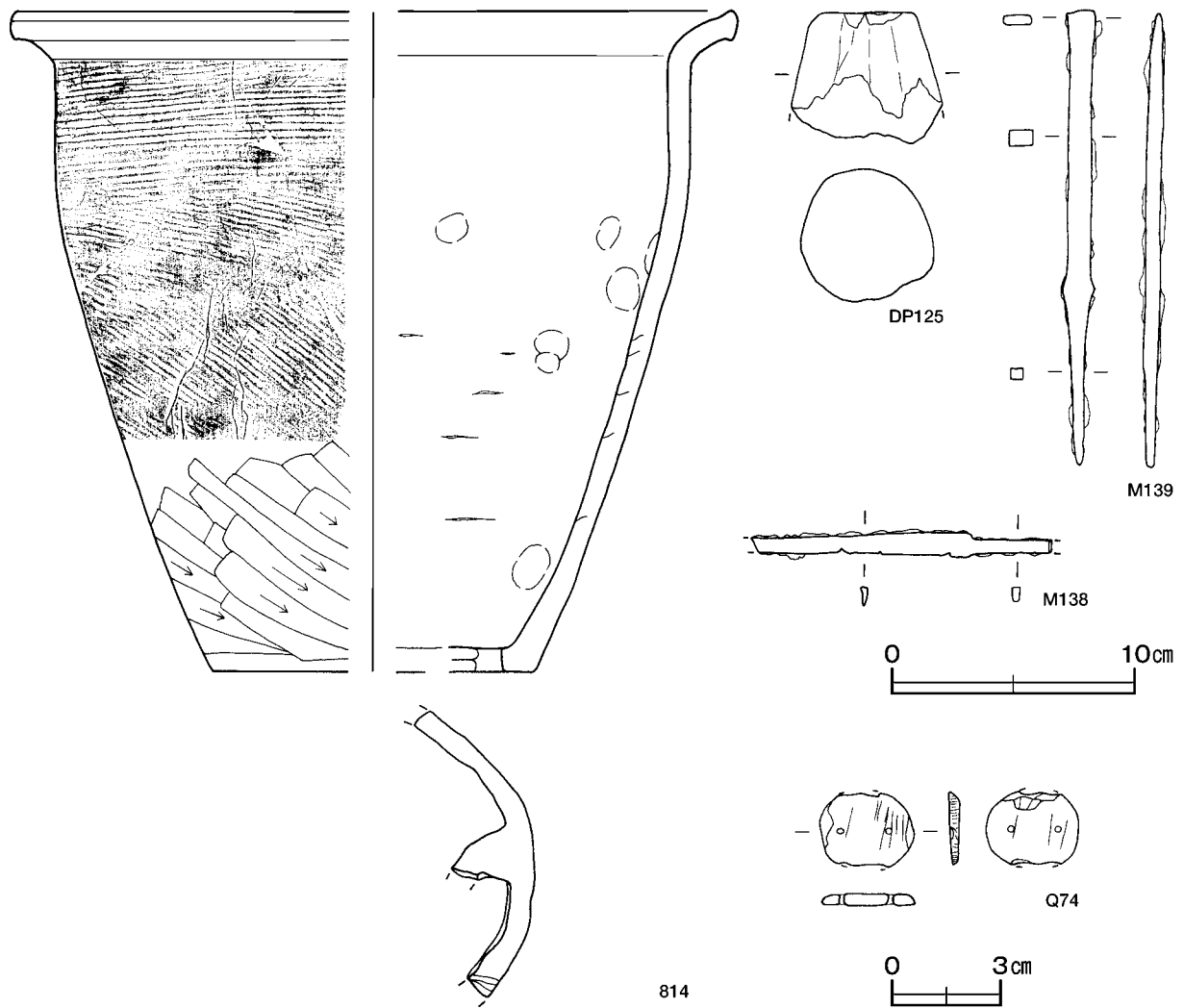
812



813



第508图 第2667号住居跡出土遺物実測図(1)



第509図 第2667号住居跡出土遺物実測図(2)

第2667号住居跡出土遺物観察表 (第507~509図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
810	須恵器	坏	14.0	4.5	8.4	長石・石英・雲母	褐灰	良好	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	竈火床面	60% PL127
811	土師器	甕	[23.8]	(9.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ 指頭痕	下層	10%
812	土師器	甕	22.7	31.5	8.9	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面上位ヘラ削り 下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ 指頭痕 底部木葉痕	床面	85% PL127
813	土師器	甕	[20.4]	30.9	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き 内面輪積み痕残しのナデ 底部一方向のヘラ削り	下層・床面	50%
814	須恵器	甌	[29.4]	27.2	[13.2]	長石・石英・雲母・礫	灰	良好	口辺部内・外面口クロナデ 体部外面横・斜位の平行叩き 下位ヘラ削り 内面輪積み痕残しのナデ 指頭痕	下層	30% PL127

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP125	支脚	(5.4)	(3.8)	(6.3)	(146.8)	土(長石・石英・小礫)	ヘラナデ 火を受けている にぶい黄橙色	竈火床面	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q74	双孔円板	2.6	0.3	0.15	(3.1)	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL144

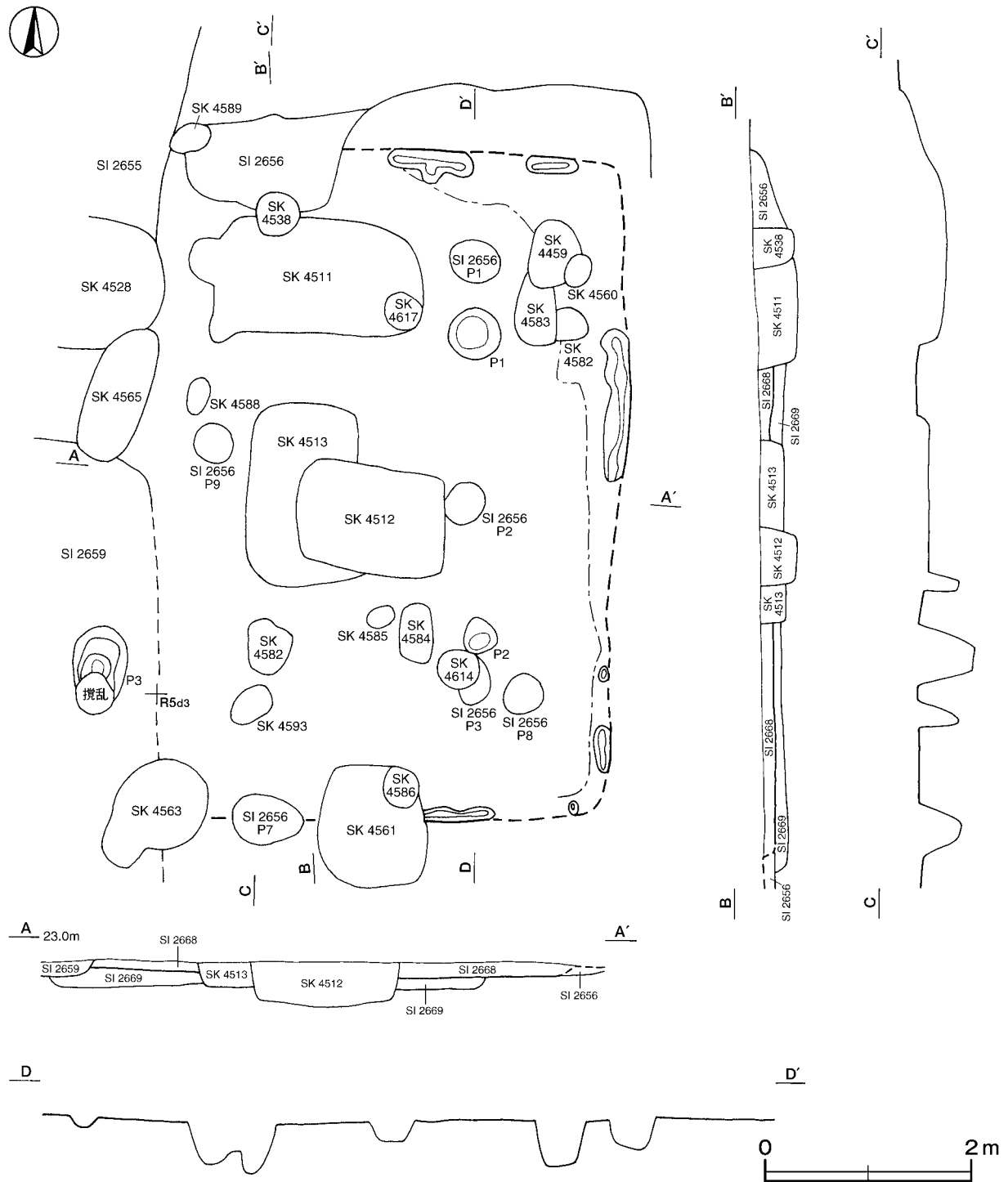
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M138	刀子	(12.4)	1.1	0.35	(11.8)	鉄	刃部・切先部・茎部一部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	床面	PL145
M139	鏃	18.6	1.5	0.6	67.4	鉄	ほぼ完形 鏃身先端部一部欠損 断面長方形	下層	PL145

**第2668号住居跡 (第510・511図)**

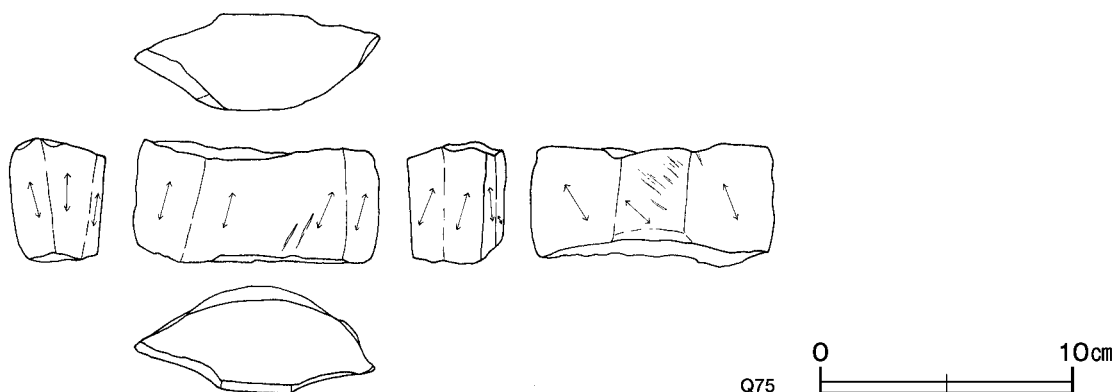
**位置** 調査区中央部のR5c3区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2669号住居跡を掘り込み, 第2655・2656・2659号住居, 第4511~4513号土坑ほか18基の土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西側を第2659号住居に掘り込まれているため, 南北軸6.50m, 東西軸は4.64mだけが確認された。主軸方向はN - 3° - Eで方形と推定される。



**第510図** 第2668号住居跡実測図



第511図 第2668号住居跡出土遺物実測図

**床** ほぼ平坦で、壁際まで踏み固められている。北・南・東壁の一部には、幅23cm、深さ10cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認できる。

**ピット** 3か所。P1～P3は主柱穴で、深さは46～51cmである。

**覆土** 第2656号住居に掘り込まれているため、不明である。

**遺物出土状況** 土師器片74点(坏27,高坏2,椀2,甕類43),須恵器片1点(高台付坏),土製品2点(支脚),石器1点(砥石)のほか、鉄滓1点が出土している。Q75はP1の覆土中から出土し、ピットが埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。

**所見** 遺物が少量細片のため、土器による時期判断は困難であるが、8世紀前葉と考えられる第2669号住居跡を掘り込んでいることや、9世紀前葉と考えられる第2656号住居に掘り込まれていることから、8世紀後半と考えられる。

第2668号住居跡出土遺物観察表(第511図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	砥石	9.8	4.9	4.2	235.0	凝灰岩	砥面6面うち1面に条線状の研磨痕有り 他は破断面	P1覆土中	PL142

### 第2669号住居跡(第512図)

**位置** 調査区中央部のR5c3区、標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2656・2659・2668号住居、第4511～4513号土坑ほか17基の土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.80m、短軸4.12mの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は7～12cmで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

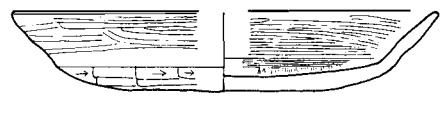
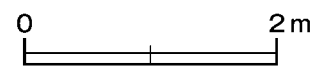
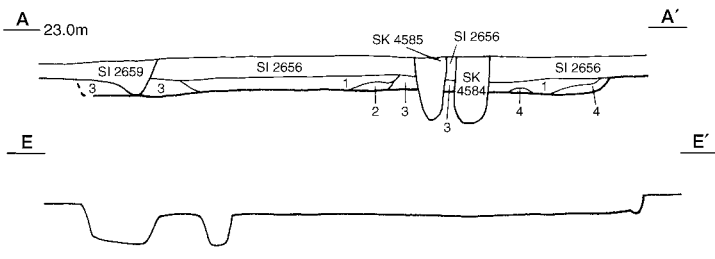
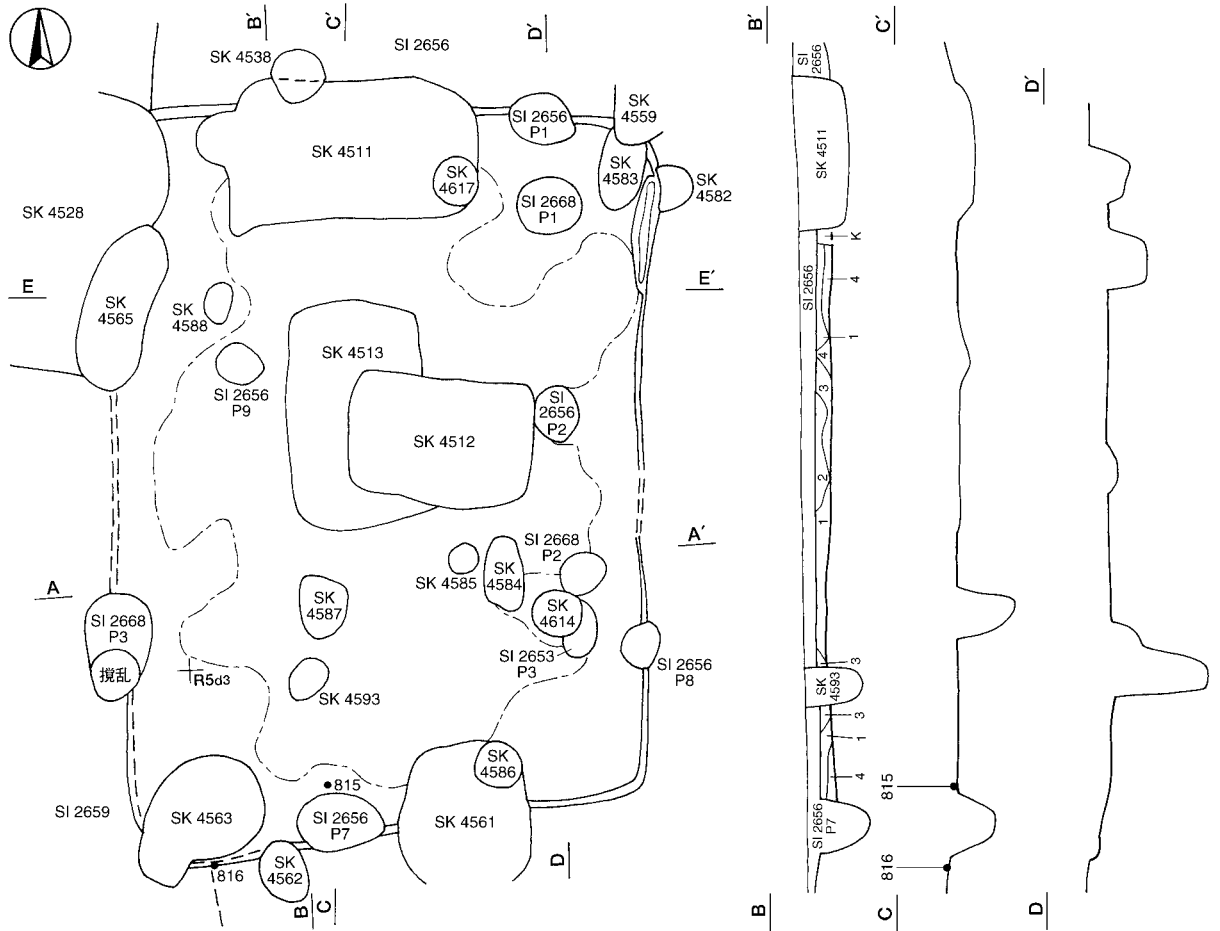
**覆土** 4層に分けられる。各層にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

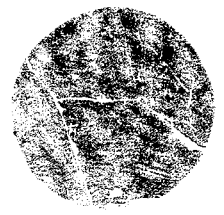
- |       |                    |       |                       |
|-------|--------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック中量,炭化粒子微量   | 3 褐色  | ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック中量,砂質粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量        |

**遺物出土状況** 土師器片46点(坏18,椀2,甕類26),須恵器片36点(坏16,高台付坏1,蓋3,瓶2,甕類14)のほか、混入した平安時代の土師器片2点,土師質土器片6点が出土している。815は南部,816は南西部壁際の床面から出土し、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

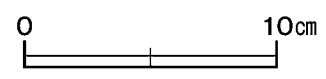
**所見** 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



816



815



第512图 第2669号住居跡・出土遺物実測図

第2669号住居跡出土遺物観察表（第512図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
815	土師器	坏	[16.8]	3.2	8.0	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面へラ磨き 底部多方向のへラ削り	床面	70% PL126
816	土師器	坏	[19.4]	3.6	[9.0]	長石・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面へラ磨き	床面	50% PL126

第2673号住居跡（第513・514図）

**位置** 調査区北東部のQ5j9区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2680号住居跡を掘り込み，第4618～4621・4623・4625～4629・4697・4700号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.34m，短軸5.06mの方形で，主軸方向はN-12°-Wである。壁高は6～18cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，東壁および西壁を除いた壁際まで踏み固められている。壁下には，幅16～29cm，深さ8～16cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。右袖部を第4618号土坑に掘り込まれているため，遺存する規模は焚口部から煙道部まで105cm，袖部幅は153cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体とする第7～14層を積み上げて構築している。火床部は床面を10cm掘りくぼめているが，火を受けた様子は確認されていない。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ，火床部から急に傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～6層に分けられ，いずれも天井部および袖部の崩落土層に相当する。火床部に直に接していることから廃絶後間もなく崩落している状況を示しており，人為的に破壊されたと想定される。

**竈土層解説**

1 灰黄褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	7 黒褐色	砂質粘土ブロック微量
2 暗灰黄色	砂質粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量	8 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量
3 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量，焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子少量	9 灰黄褐色	砂質粘土ブロック中量
4 黒色	炭化物多量，砂質粘土ブロック・ローム粒子中量，焼土ブロック少量	10 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量
5 灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量	11 黒褐色	砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗灰黄色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック中量	12 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック微量
		13 暗褐色	ロームブロック・炭化物・砂質粘土ブロック中量，焼土粒子少量
		14 褐灰色	炭化物多量，砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック少量

**ピット** 5か所。P1～P4は主柱穴で，深さは91～96cmである。P5は深さ60cmで南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 8層に分けられる。各層にロームブロックを多く含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第8層はロームを主体とする貼床の構築土である。

**土層解説**

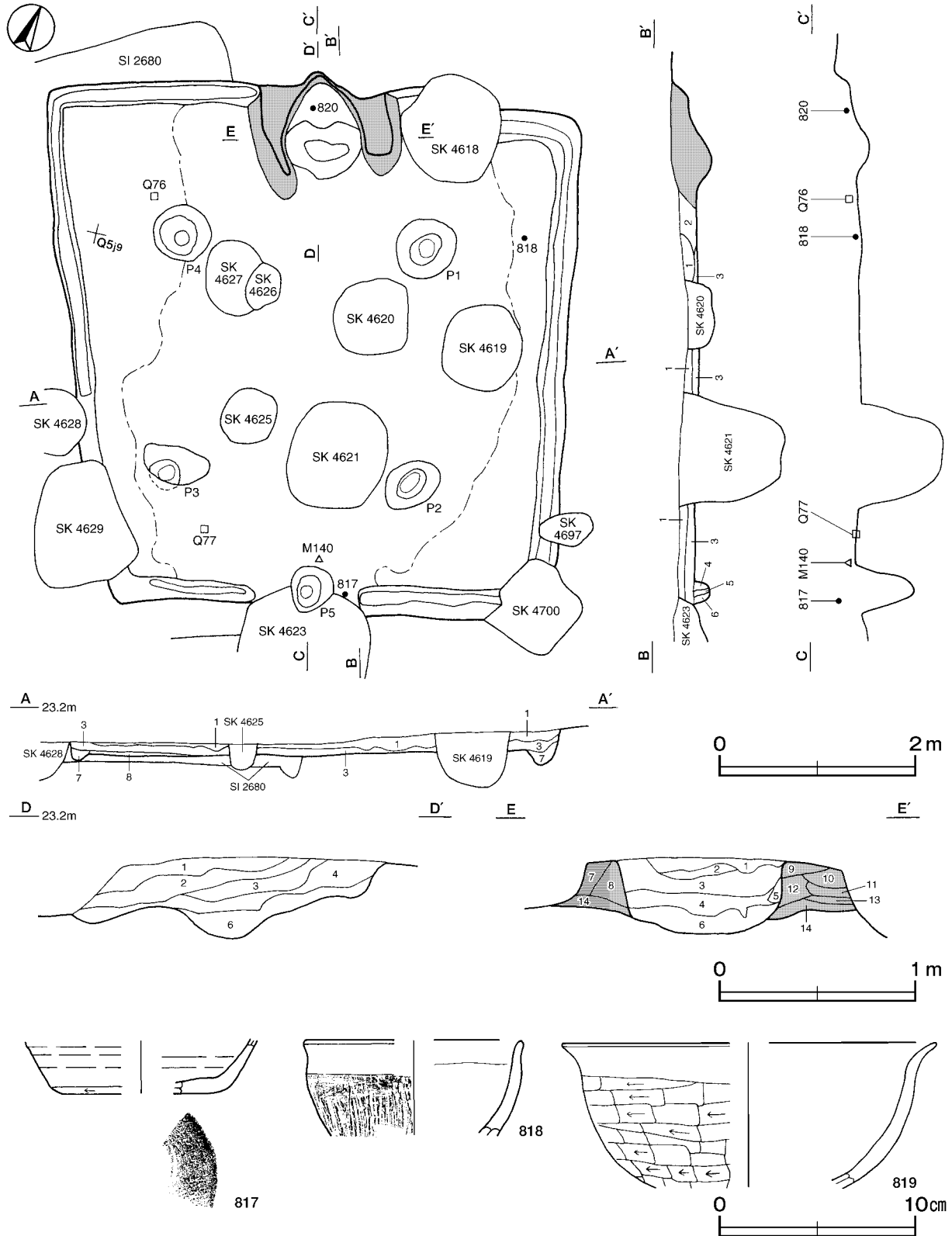
1 にぶい黄褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量
2 灰黄褐色	砂質粘土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量	6 灰黄褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量	7 褐灰色	ロームブロック少量
4 にぶい黄褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量	8 灰褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片476点(坏81，椀10，高坏1，鉢3，甕類381)，須恵器片18点(坏10，蓋5，甕類3)，石製品2点(紡錘車，剣形模造品)，鉄製品1点(刀子)が散在した状態で出土しており，土器はほとんどが細片である。また混入した土師質土器片1点，灰釉陶器片1点も出土している。817は南壁際中央の覆土中層から出土し，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。818は北東部の床面，819は竈覆土中，820は竈火床部の覆土中層，Q77は南西部の床面からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。Q76は

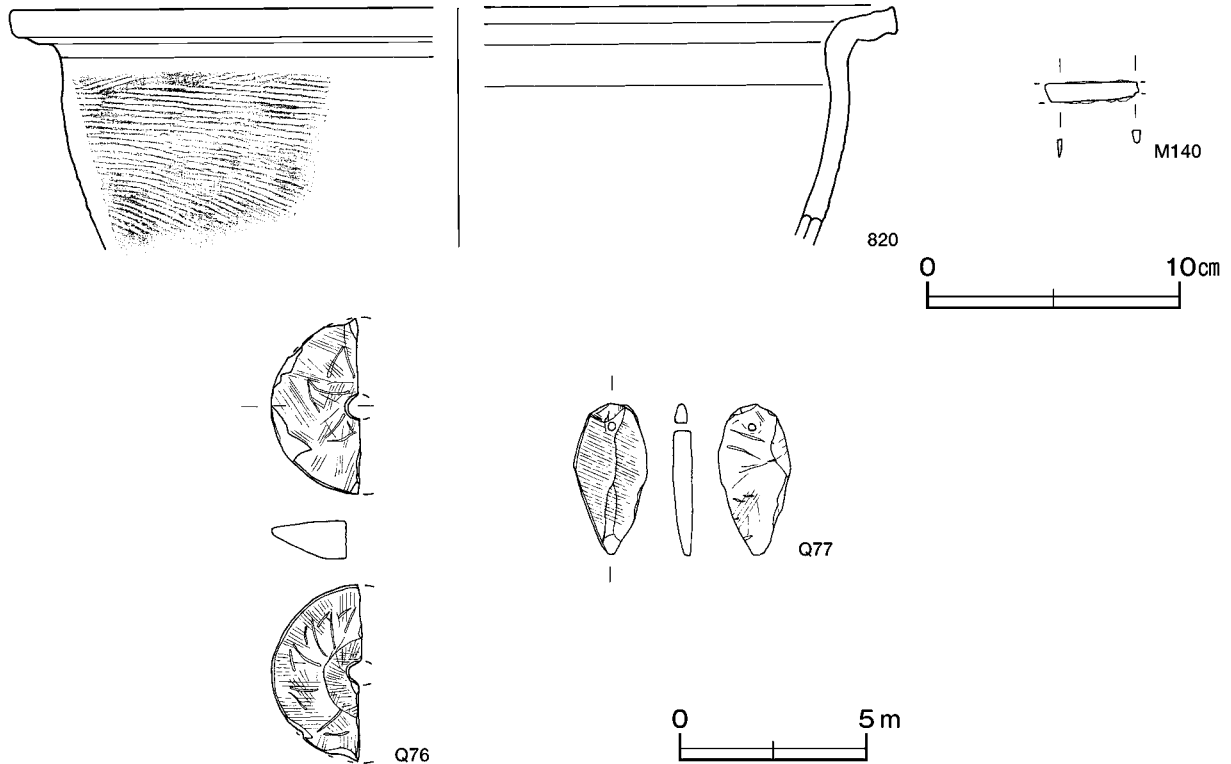


北西部，M140は南部の覆土下層からそれぞれ出土し，廃絶後間もなく投棄されたものと考えられる。細片のため図示できないが，かえりのついた須恵器蓋片も出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第513図 第2673号住居跡・出土遺物実測図



第514図 第2673号住居跡出土遺物実測図

第2673号住居跡出土遺物観察表（第513・514図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
817	須恵器	坏	-	(2.8)	[7.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	中層	10%
818	土師器	椀	[11.0]	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面クシ状工具による削り 内面ヘラナデ	床面	15%
819	土師器	椀	[19.2]	(7.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	竈覆土中	20%
820	須恵器	甕	[35.6]	(9.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	灰	良好	口辺部内・外面口クロナデ 体部横位の平行叩き 内面ヘラナデ	竈中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q76	紡錘車	(4.7)	1.0	(0.7)	(13.7)	蛇紋岩	全面研磨 上・側面に鋸歯状の線刻文 二方向からの穿孔	下層	PL142

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q77	剣形模造品	4.0	1.9	0.5	5.2	粘板岩	完形 両面研磨 一方向からの穿孔 孔径0.2cm	床面	PL144

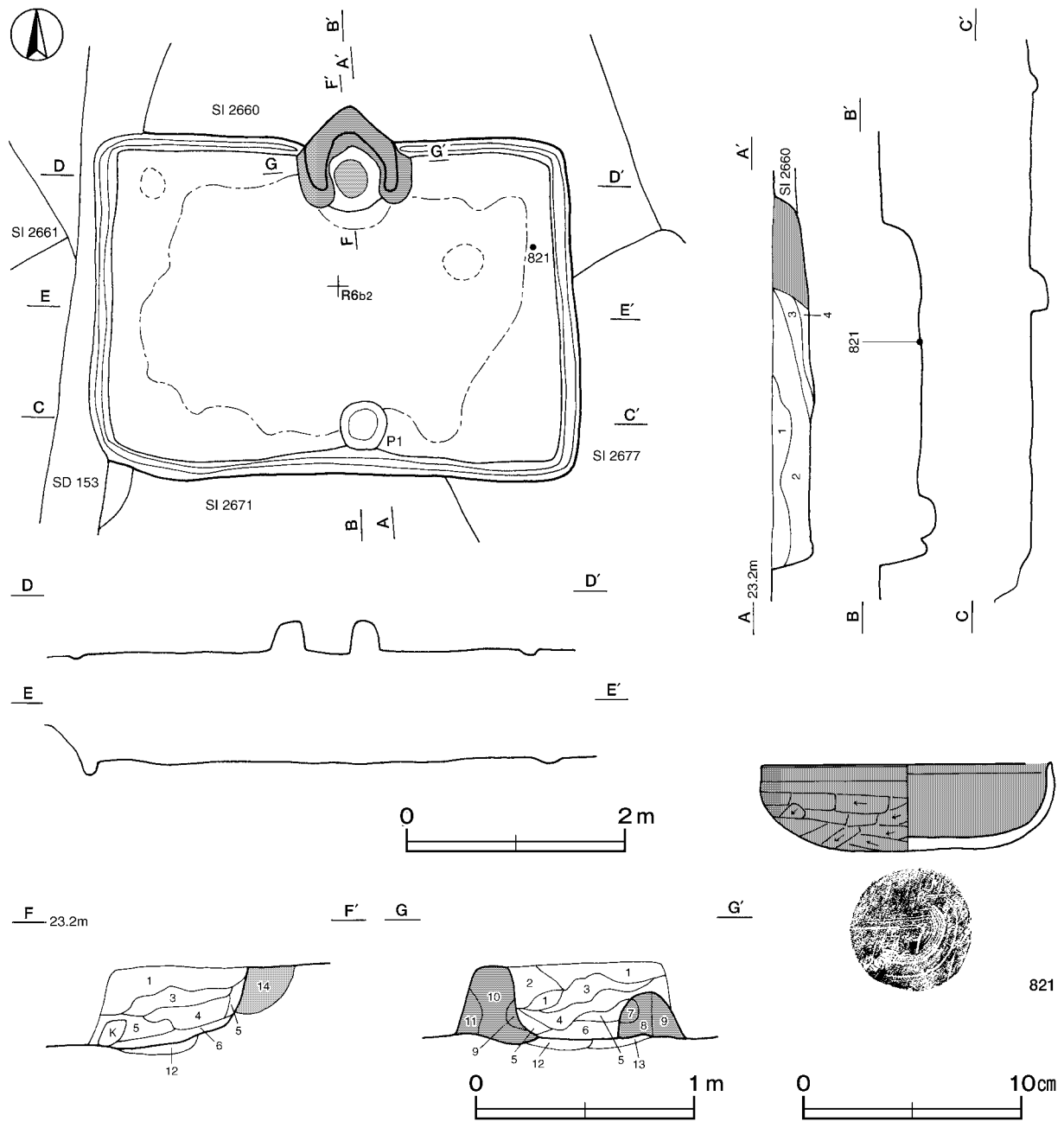
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M140	刀子	(3.8)	0.7	0.3	(2.8)	鉄	切先部一部欠損 茎部欠損 両区 断面三角形	下層	

第2676号住居跡（第515図）

位置 調査区東部のR 6 a1区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2660・2661・2671・2677号住居跡を掘り込み、第153号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.57m、短軸3.14mの長方形で、主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は10~32cmで、外傾して立ち上がっている。



第515図 第2676号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅15～17cm、深さ6～16cmで、U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。北西コーナー部と北東部に焼土が堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで61cm、袖部幅105cmである。袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体とする第7～11層を積み上げて構築している。内側は火を受けてわずかに赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床部から急に傾斜して立ち上がっている。奥壁には砂質粘土を含む第14層を貼り付けて補強している。覆土は第1～6層に分けられ、第1～5層は天井部および袖部が東から西へ崩落した土層に相当する。各層は、焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

**覆土層解説**

- |          |                                |           |                                 |
|----------|--------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 灰 褐 色  | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量     | 9 灰 褐 色   | 砂質粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量          |
| 2 にぶい褐色  | 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量         | 10 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量   |
| 3 にぶい橙色  | 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量          | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量                       |
| 4 にぶい橙色  | 砂質粘土粒子多量，炭化物・焼土粒子微量            | 12 明 赤 褐色 | 焼土ブロック多量                        |
| 5 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 13 暗 褐 色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土ブロック少量   |
| 6 赤 褐 色  | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量          | 14 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量 |
| 7 赤 褐 色  | 砂質粘土ブロック多量                     |           |                                 |
| 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量                       |           |                                 |

**ピット** 深さ18cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 4層に分けられる。各層にロームを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |         |                              |          |                       |
|---------|------------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量          | 4 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量           |          |                       |
| 3 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |          |                       |

**遺物出土状況** 土師器片741点（坏176，椀10，高台付椀5，高坏12，甕類537，甑1），須恵器片16点（坏10，盤1，高盤1，瓶3，甕類1），土製品1点（支脚），石器1点（砥石）が覆土中層から下層にかけて全面から出土している。また混入した土師質土器片4点，灰釉陶器片1点も出土している。821は北東部の床面から出土し，覆土中の細片と接合していることから廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

**所見** 北西コーナー部や北東部に焼土が堆積していることや覆土中の各層に焼土粒子や炭化物・粒子が含まれていることから焼失住居の可能性がある。時期は，7世紀後葉と考えられる第2671号住居跡を掘り込んでいることや出土土器から8世紀代と考えられる。

**第2676号住居跡出土遺物観察表（第515図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
821	土師器	坏	13.4	4.0	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後磨き 内面ナデ 底部ヘラ削り	床面	80% PL126

**第2695号住居跡（第516図）**

**位置** 調査区東部のR 6 g5区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2703・2704号住居跡を掘り込み，第150号溝に掘り込まれている。

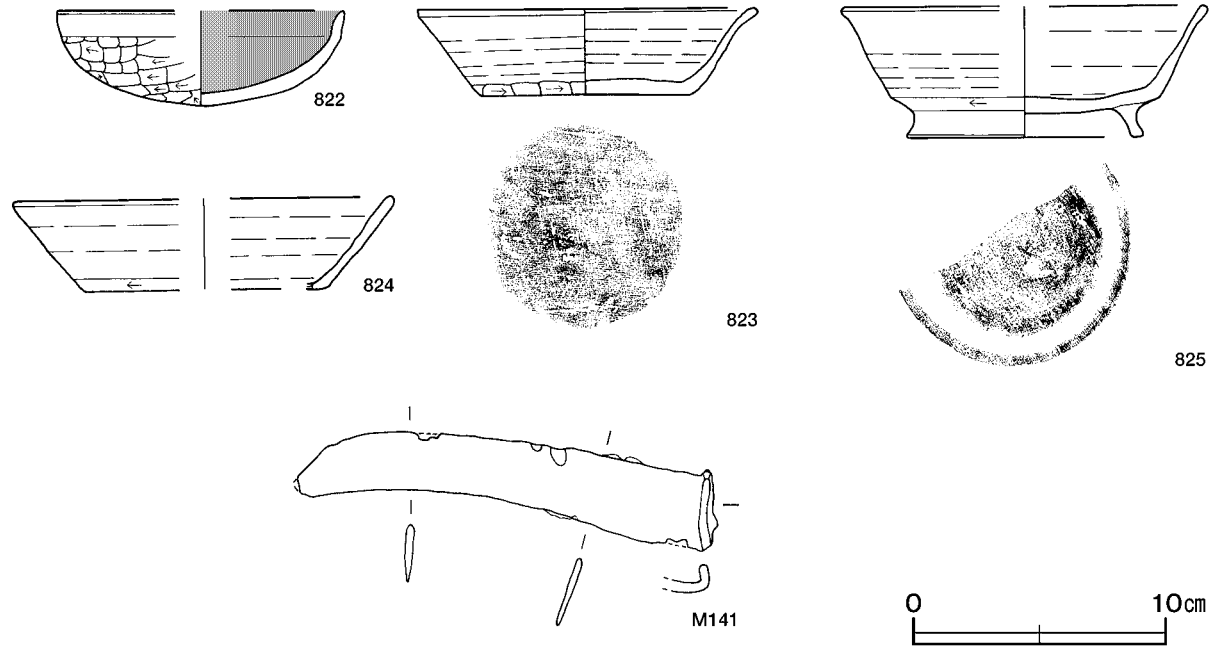
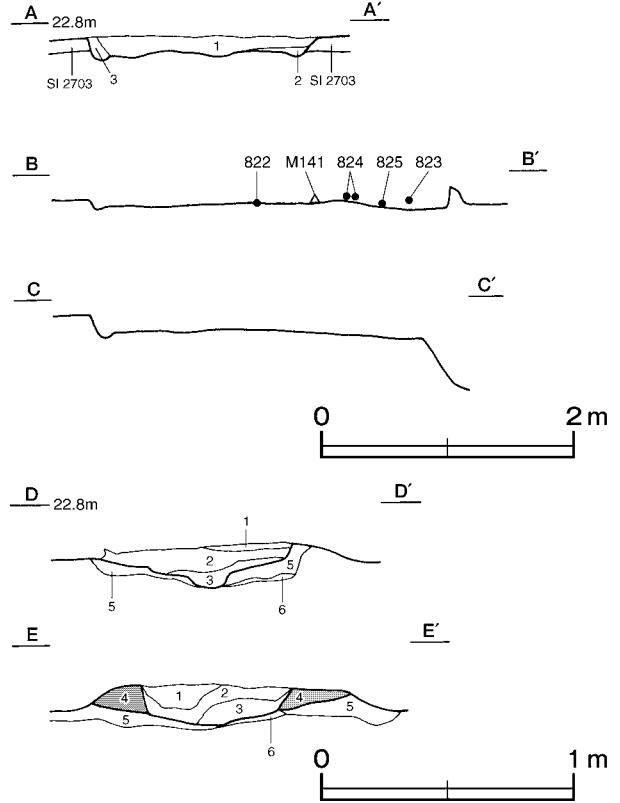
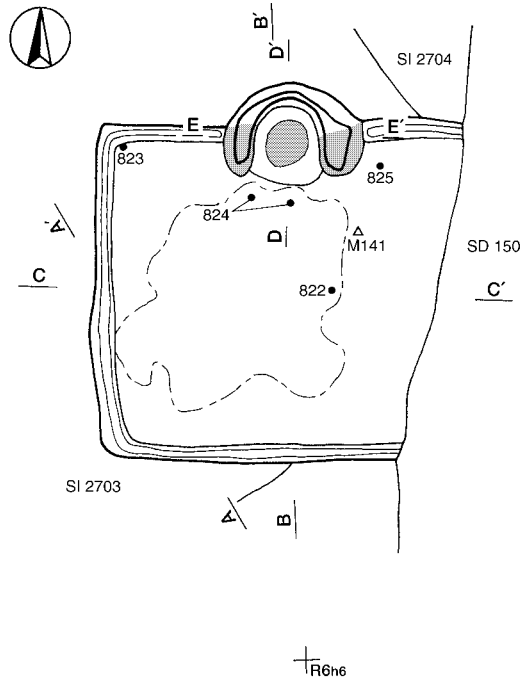
**規模と形状** 東部を第150号溝に掘り込まれているため，南北軸2.66m，東西軸は2.86mだけが確認された。東西軸の長さから長方形と推定される。主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は6～14cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅8～15cm，深さ2～4cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで64cm，袖部幅111cmである。袖部は床面を10cmほど掘りくぼめて第5・6層を充填し，その上部に砂質粘土を主体とする第4層を積み上げて構築している。内側は火を受けてわずかに赤変している。火床部は床面を9cm掘りくぼめており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に17cm掘り込まれ，火床部から階段状に立ち上がっている。覆土は第1～3層に分けられ，第2層は天井部の崩落土層に相当する。

**甑土層解説**

- |         |                              |          |                            |
|---------|------------------------------|----------|----------------------------|
| 1 黒褐色   | 焼土粒子少量,炭化物・ローム粒子微量           | 5 暗褐色    | ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 2 暗赤褐色  | 焼土粒子中量,砂質粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 赤褐色   | 焼土ブロック・灰少量,炭化粒子微量            |          |                            |
| 4 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |          |                            |



第516図 第2695号住居跡・出土遺物実測図

**覆土** 3層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片94点（坏14，高坏1，甕類79），須恵器片29点（坏15，高台付坏7，盤5，甕類2），鉄製品1点（鎌）が出土している。822は中央部の床面，823は北西コーナー部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。824は竈前，825は北壁際東寄りの覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものであり，いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。M141は中央部北東寄りの床面から出土し，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第2695号住居跡出土遺物観察表（第516図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
822	土師器	坏	[11.4]	3.7	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	65%
823	須恵器	坏	13.3	3.4	8.1	長石・雲母・礫	黒	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	下層	80% PL128
824	須恵器	坏	[15.0]	3.6	[9.6]	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐色	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	下層	30%
825	須恵器	高台付坏	[14.4]	5.2	9.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 後高台貼り付け	下層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M141	鎌	(16.6)	3.2	0.4	(52.1)	鉄	切先部・茎部一部欠損	床面	PL146

(2) 掘立柱建物跡

**第473号掘立柱建物跡（第517図）**

**位置** 調査区中央部のR 5 g4区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** P5～P8が第2619号住居に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向がN-5°-Eの南北棟である。規模は桁行6.3m，梁行4.2mで，面積は26.46㎡である。柱間寸法は梁行，桁行ともに2.1m（7尺）を基調とし，均等に配置されている。柱穴の配置から，柱筋はほぼ揃っていたと考えられる。

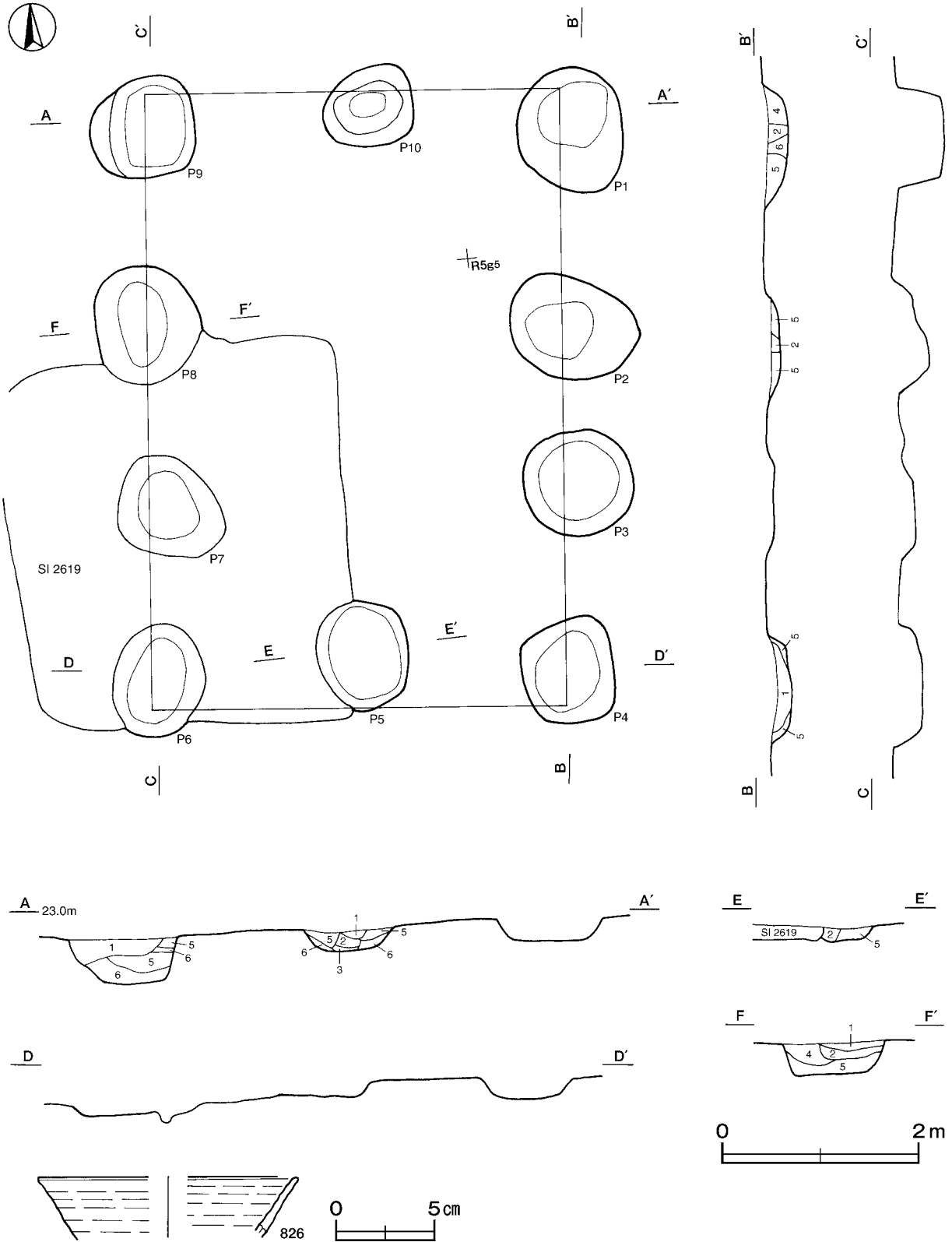
**柱穴** 10か所。深さは14～49cmである。第1～3層が柱抜き取り痕，第4～6層が埋土に相当し，第5層と第6層を主体として，版築状に突き固められている。

**土層解説（各柱穴共通）**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物微量
- 6 明褐色 ロームブロック多量

**遺物出土状況** 土師器片98点（坏15，高坏2，甕類81），須恵器片17点（坏11，蓋1，甕類5）が各柱穴から出土している。826はP5の埋土から出土している。

**所見** 台地上には同時期の住居跡群が展開しており，本跡はその南端に単独で存在しており，倉庫としての機能が想定される。時期は，重複関係から9世紀中葉の第2619号住居より古く位置付けられ，出土遺物から8世紀中葉と考えられる。



第517図 第473号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

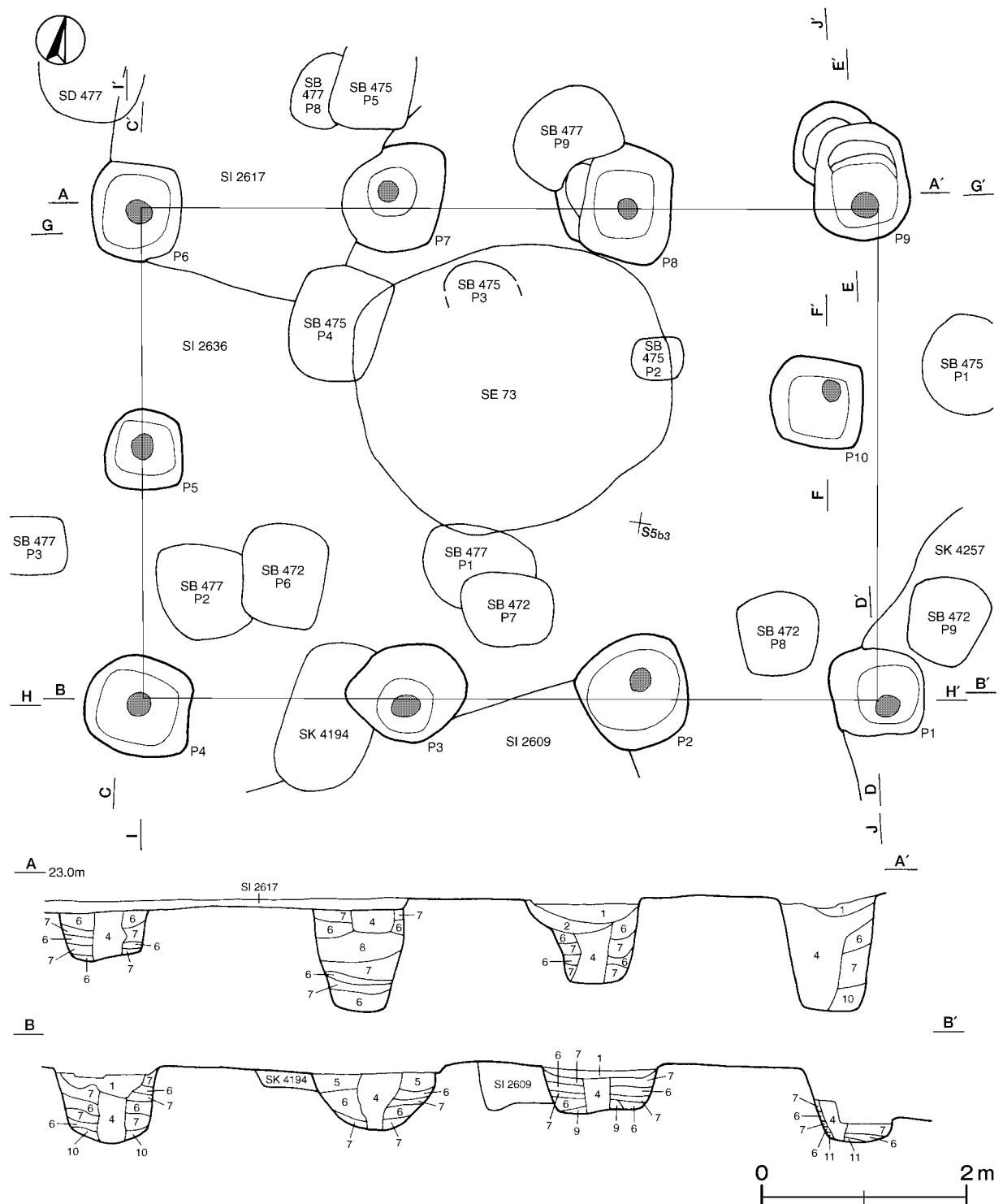
第473号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第517図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
826	須恵器	坏	[13.0]	(3.1)	-	石英・雲母	にんげん色	普通	内・外面口クロナデ	P 5 埋土	10%

**第474号掘立柱建物跡 (第518・519図)**

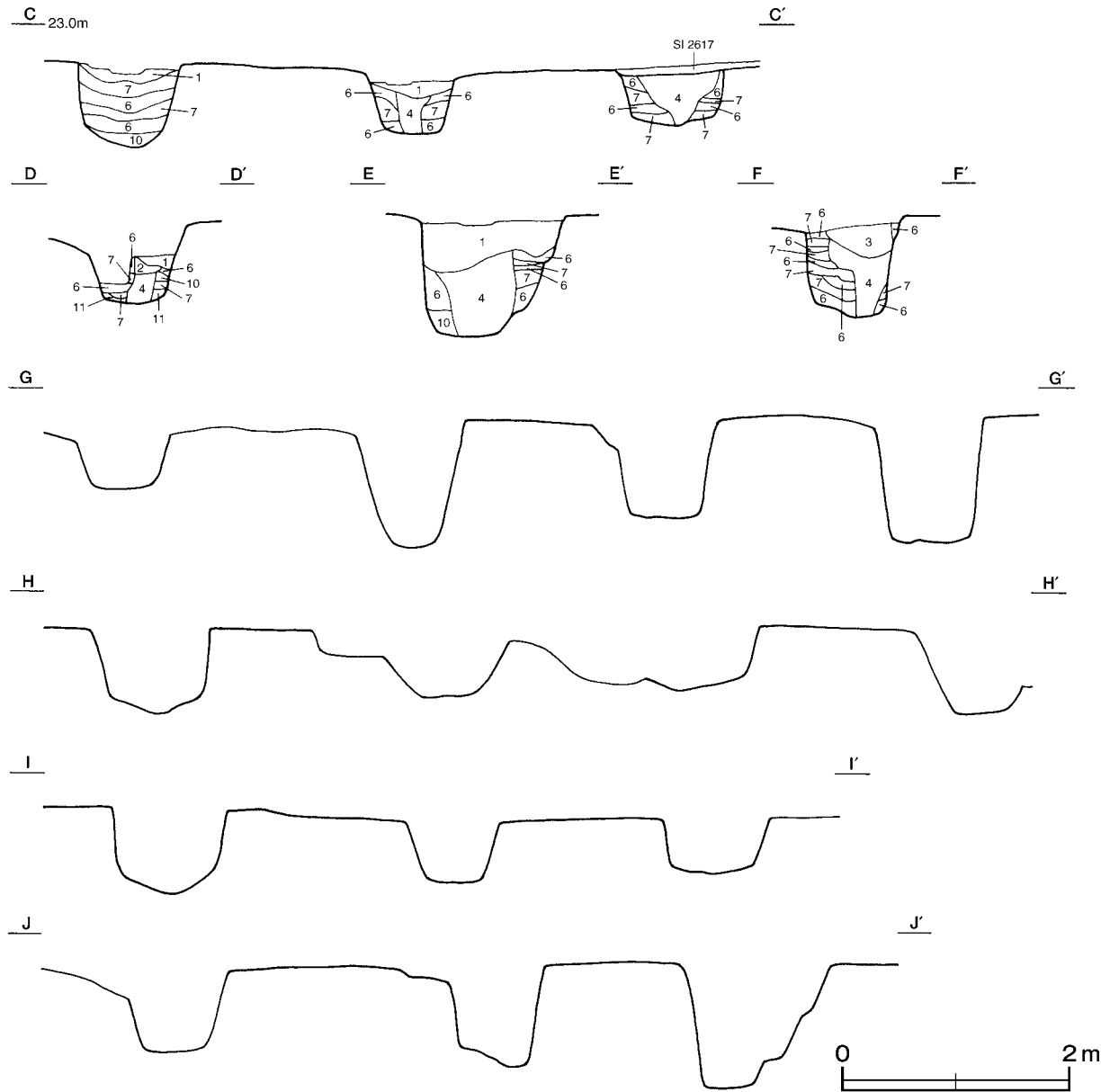
**位置** 調査区南部のS 5 a2区, 標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** P2・P3が第2609号住居跡, P3が第4194号土坑, P6～P8が第2636号住居跡を掘り込み, P1が第4257号土坑, P6・P7が第2617号住居, P8が第477号掘立柱建物のP9に掘り込まれている。また, 平面構造が第472・475号掘立柱建物, 第73号井戸と重複しており, 第477号掘立柱建物との切り合い関係から最も古く位置づけられる。



**第518図** 第474号掘立柱建物跡実測図(1)





第519図 第474号掘立柱建物跡実測図(2)

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向がN - 82° - Eの東西棟である。規模は桁行7.2m，梁行4.8m，面積は34.56㎡である。柱間寸法は，梁行，桁行ともに2.4m（8尺）を基調とし，柱穴は均等に配置されており，柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。深さ49～109cmである。土層は，第1～4層が柱抜き取り痕である。第5～11層は埋土に相当し，第6層と第7層を主体として版築状に突き固められている。柱のあたりは各柱穴とも掘り方の底面に明瞭に認められ，径19～27cmの円形の範囲が硬化している。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |          |                             |        |                 |
|----------|-----------------------------|--------|-----------------|
| 1 極暗褐色   | ロームブロック・炭化物微量               | 6 暗褐色  | ロームブロック少量       |
| 2 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子微量            | 7 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量  |
| 3 黒褐色    | ロームブロック・炭化物少量，粘土ブロック・焼土粒子微量 | 8 褐色   | ロームブロック中量，炭化物微量 |
| 4 極暗褐色   | ロームブロック・炭化粒子微量              | 9 暗褐色  | ローム粒子少量         |
| 5 褐色     | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量     | 10 褐色  | ロームブロック中量       |
|          |                             | 11 黒褐色 | ローム粒子微量         |

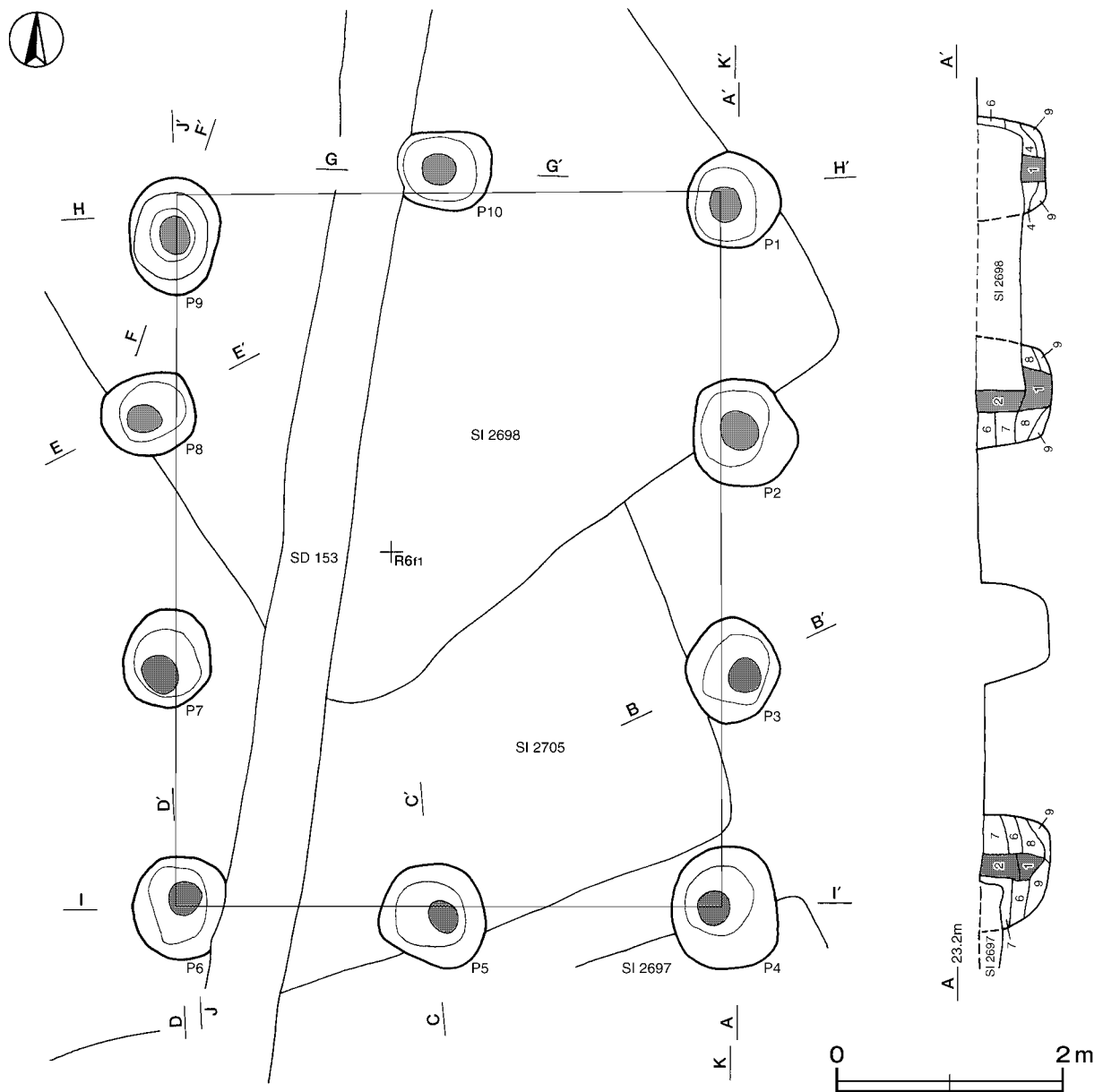
**遺物出土状況** 土師器片326点（坏44，高坏1，甕類279，甑2），須恵器片4点（坏2，甕類2），土製品1点（土玉），鉄滓1点が各柱穴から出土しているが，多くは下層の遺構から混入したものである。

**所見** 台地上には同時期の住居跡群が展開しており，本跡はその南端に単独で存在していることから，倉庫としての機能が想定される。出土遺物からの時期判定は困難であるが，重複関係から8世紀中葉の第2636号住居跡より新しく，9世紀中葉の第477号掘立柱建物より古く位置付けられる。また，第477号掘立柱建物の前身である9世紀前葉の第476号掘立柱建物と近接しているものの，主軸方向が一致していないことから，さらに遡る時期と推定される。したがって，時期は8世紀後葉と考えられる。

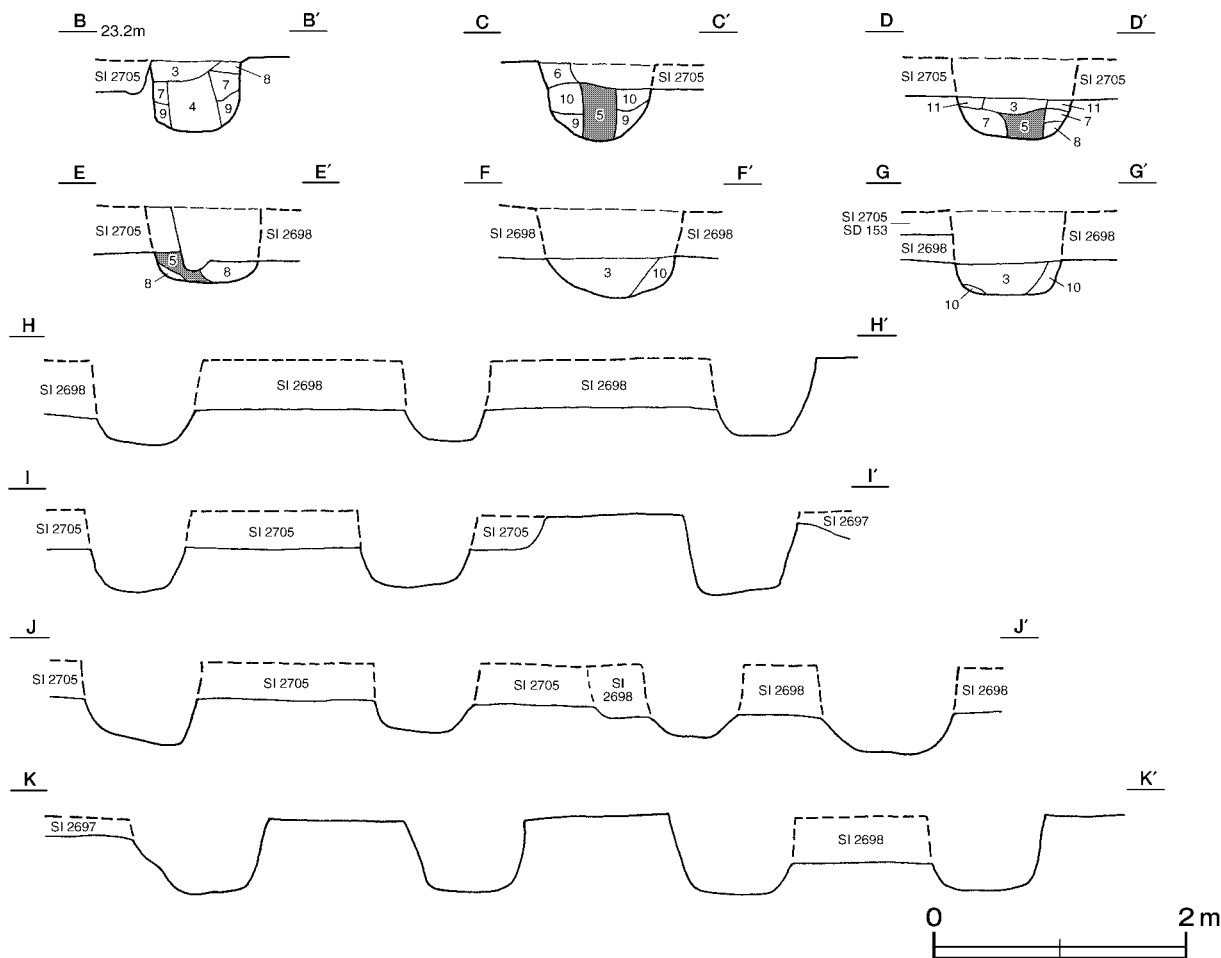
**第489号掘立柱建物跡（第520・521図）**

**位置** 調査区東部のR6e1区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2697・2698・2705号住居跡，第4724号土坑を掘り込み，第153号溝に掘り込まれている。



第520図 第489号掘立柱建物跡実測図(1)



第521図 第489号掘立柱建物跡実測図(2)

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向N - 0 °の南北棟である。規模は，桁行6.3m，梁行4.8mで，面積は30.24㎡である。柱間寸法は，桁行2.1m（7尺），梁行2.4m（8尺）を基調とし，均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。深さは54～63cmである。土層は第1・2・5層が柱痕，第3・4層が柱抜き取り痕に相当し，P8～P10を除いた柱穴の下半部では柱の形状が比較的良好に残っている。第6～11層が埋土であり，やや強く突き固められている。柱のあたりは，各柱穴の底面に明瞭に残っており，径15cmほどが著しく硬化している。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子微量	8 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	10 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子少量		

**遺物出土状況** 土師器片38点（坏9，甕29），須恵器片3点（坏2，蓋1），土製品1点（支脚）がP5・P7・P9・P10を除いた柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはない。

**所見** 規模や形状から，倉庫としての機能が想定される。本跡の南西には第473号掘立柱建物跡があり，ほぼ軸線を揃えている。時期は，7世紀前葉と考えられる第2698号住居跡を掘り込んでいることや出土した須恵器蓋の形態から8世紀代と考えられる。

表43 奈良時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2599	R 5 f 2	N - 3 ° - E	方形	8.46×8.13	7 ~ 11	平坦	ほぼ全周	4	1	44	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、勾玉、双孔丹版、鉄製の鎌、火打具	8世紀中葉以前
2613	R 4 f 9	N - 10 ° - E	長方形	5.24×4.68	10 ~ 16	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、刀子	8世紀中葉
2622	R 4 i 8	N - 4 ° - E	長方形	4.18×3.15	8 ~ 9	平坦	ほぼ全周	4	-	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、支脚	8世紀前葉以前
2631	R 5 i 5	N - 86 ° - E	方形	6.50×6.47	22 ~ 32	平坦	全周	4	1	5	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、石製勾玉、双孔丹版、刀子、鉄鎌	8世紀前葉以前
2632	R 5 j 2	N - 0 °	方形	3.58×3.26	6 ~ 20	平坦	全周	-	1	-	竈 1	-	自然	土師器片、須恵器片、磁石、刀子	8世紀中～後葉
2636	R 5 j 1	N - 0 °	[方形]	7.85×(6.80)	4	平坦	一部	2	-	-	-	-	不明	土師器片、須恵器片	8世紀代
2641	Q 6 h 4	N - 2 ° - E	方形	4.05×4.01	13 ~ 17	平坦	全周	-	1	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、灰釉陶器片	8世紀後葉
2642	Q 6 g 4	N - 10 ° - E	長方形	4.10×3.74	8 ~ 12	平坦	全周	4	-	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片	8世紀中葉
2652	Q 5 h 8	N - 7 ° - E	長方形	6.41×5.64	10 ~ 24	平坦	-	6	1	-	竈 1	1	人為	土師器片、須恵器片	8世紀前葉
2658	Q 6 g 5	N - 14 ° - E	方形	3.47×3.42	4 ~ 7	平坦	-	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、刀子	8世紀前半
2667	R 6 d 2	N - 8 ° - W	長方形	4.56×3.85	50 ~ 54	平坦	全周	-	1	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、土製紡錘車、双孔丹版、刀子、鉄鎌	8世紀中葉
2668	R 5 c 3	N - 3 ° - E	[方形]	6.50×(4.64)	-	平坦	一部	3	-	-	-	-	-	土師器片、須恵器片、支脚、磁石	8世紀後半
2669	R 5 c 3	N - 2 ° - E	長方形	5.80×4.12	7 ~ 12	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片、須恵器片	8世紀前葉
2673	Q 5 j 9	N - 12 ° - W	方形	5.34×5.06	6 ~ 18	平坦	[全周]	4	1	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、石製紡錘車、刺形模造品、刀子	8世紀中葉
2676	R 6 a 1	N - 2 ° - E	長方形	4.57×3.14	10 ~ 32	平坦	全周	-	1	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、支脚、磁石	8世紀代
2695	R 6 g 5	N - 2 ° - E	[長方形]	(2.86)×2.66	6 ~ 14	平坦	[全周]	-	-	-	竈 1	-	人為	土師器片、須恵器片、鎌	8世紀後葉

表44 奈良時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
473	R 5 g 4	N - 5 ° - E	3 × 2	6.3×4.2	26.46	2.1	2.1	側柱	10	楕円形	14 ~ 49	土師器片、須恵器片	8世紀中葉
474	S 5 a 2	N - 82 ° - E	3 × 2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.4	側柱	10	隅丸方形 楕円形	49 ~ 109	土師器片、須恵器片、土玉	8世紀後葉
489	R 6 e 1	N - 0 °	3 × 2	6.3×4.8	30.24	2.1	2.4	側柱	10	円形 楕円形	54 ~ 63	土師器片、須恵器片、支脚	8世紀代

#### 4 平安時代の遺構と遺物

平安時代の竪穴住居跡41軒，掘立柱建物跡13棟，土坑1基，柱穴の可能性のある土坑30基，柵跡1列を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

##### (1) 竪穴住居跡

##### 第2590号住居跡 (第522・523図)

**位置** 調査区南部のS 4 f 9区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2607号住居跡を掘り込み，第102号堀に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西軸4.58mで，南側は第102号堀に掘り込まれており，南北軸は3.20mを確認している。主軸方向はN - 6 ° - Eである。壁高は6 ~ 16cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，竈の周辺が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部のやや東寄りの位置に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで136cm，袖部幅98cmである。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に65cm掘り込まれ，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は第1 ~ 7層に分けられ，第1層は天井部

の崩落土層に相当する。ローム粒子や炭化粒子，砂質粘土粒子を多く含む人為堆積である。また，第4層中には15cmほどの雲母片岩の角礫が含まれており，袖部の構築材に用いられたものと考えられる。

**電土層解説**

- |         |                              |       |                       |
|---------|------------------------------|-------|-----------------------|
| 1 にごい褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量       | 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          |
| 2 暗褐色   | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量   | 6 黒褐色 | 炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量，炭化粒子微量              | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 4 灰褐色   | ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |       |                       |

**貯蔵穴** 北西コーナー部に位置している。長径97cm，短径79cmの楕円形で，深さは50cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土はローム粒子を多く含む人為堆積である。

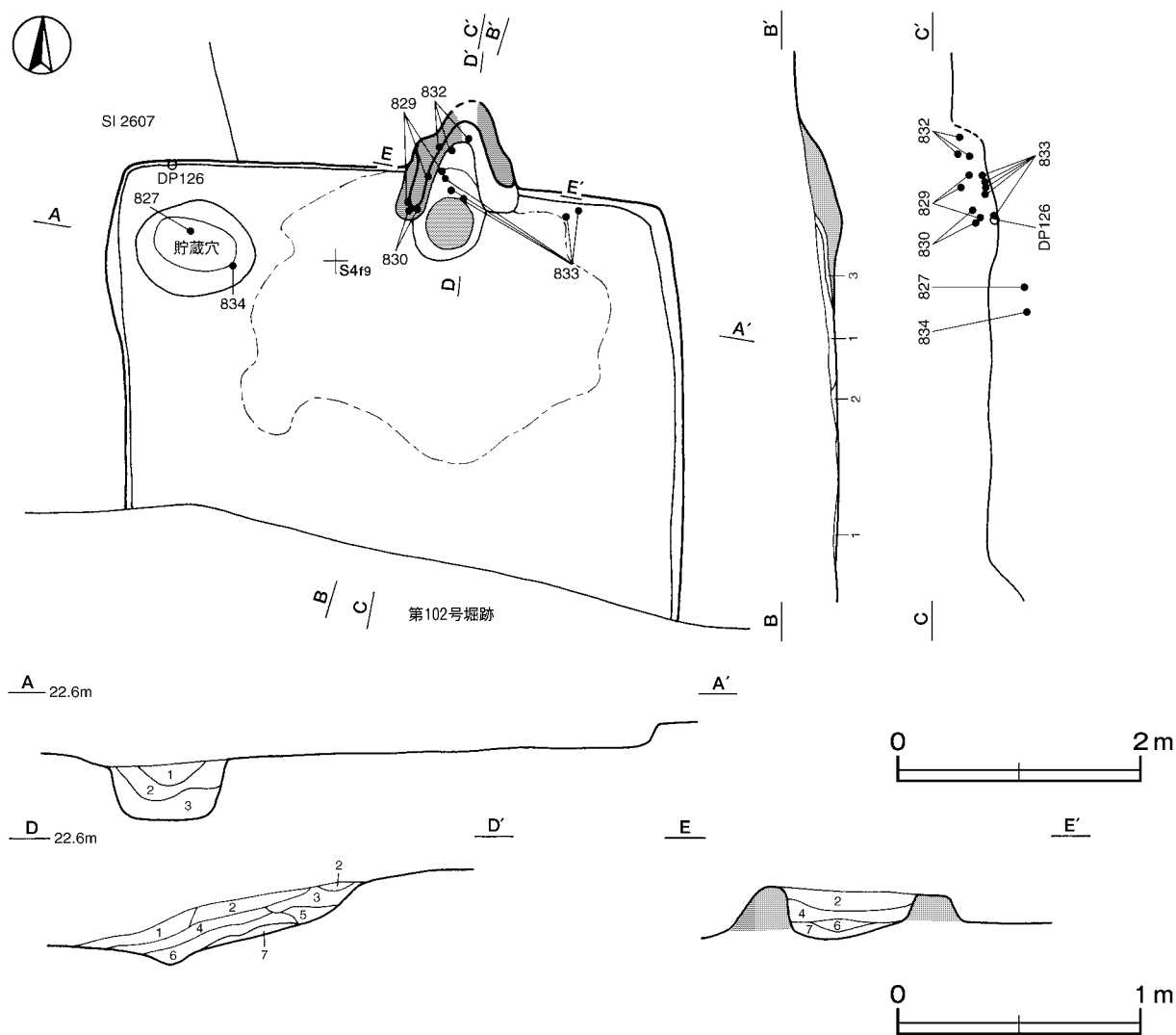
**貯蔵穴土層解説**

- |       |                     |       |         |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量      |       |         |

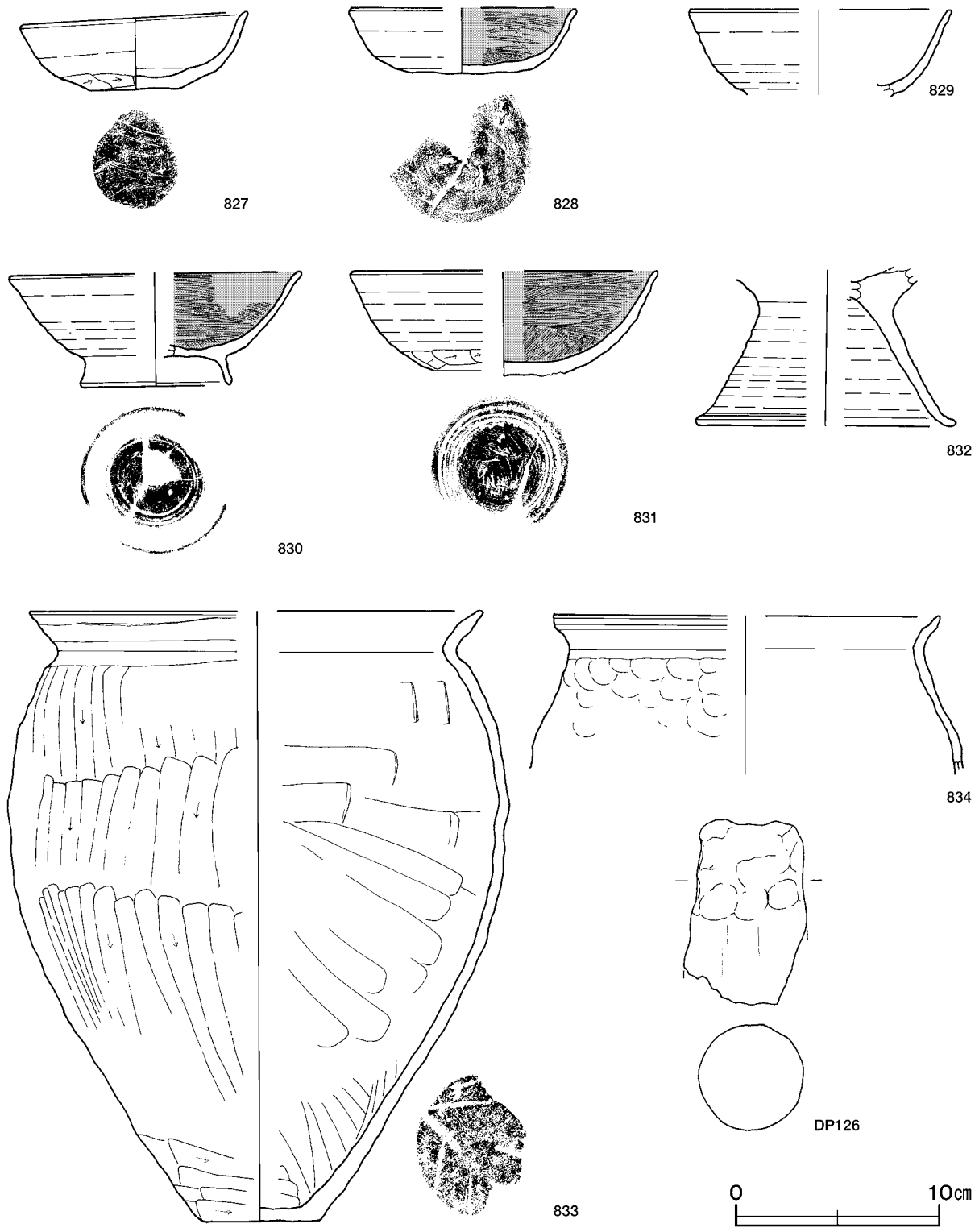
**覆土** 3層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

**土層解説**

- |       |                     |         |                            |
|-------|---------------------|---------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 にごい褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子少量             |         |                            |



第522図 第2590号住居跡実測図



第523図 第2590号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片451点（坏95，高台付椀24，甕類332），須恵器片43点（坏8，高台付坏1，蓋5，甕類29），灰釉陶器片3点（瓶類），土製品1点（支脚），鉄滓1点，粘土塊2点が出土しているほか，縄文土器片1点流れ込んでいる。827・834は，貯蔵穴の覆土下層から斜度で出土しており，貯蔵穴を埋め戻す際に廃棄されたものと考えられる。829・830・832は竈の左袖部際の覆土中層，833は竈の覆土下層および北壁際の覆土下層，DP126は北西コーナー部北壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており，いずれも廃絶後に投棄された

ものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第2590号住居跡出土遺物観察表（第523図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
827	土師器	坏	11.1	3.7	4.3	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後二方向の手持ちヘラ削り	貯蔵穴下層	85% PL130
828	土師器	坏	[11.0]	3.2	6.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面口クロナデ 下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後不定方向の手持ちヘラ削り	竈覆土中	45%
829	土師器	高台付椀	[12.8]	(4.2)	-	長石・石英	橙	普通	体部内・外面口クロナデ	竈中層	30%
830	土師器	高台付椀	[14.2]	5.5	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面口クロナデ 下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ 高台貼り付け	竈中層	50%
831	土師器	高台付椀	[15.0]	(5.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤橙	普通	体部外面口クロナデ 下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ 高台貼り付け	覆土中	40%
832	土師器	足高台付椀	-	(7.7)	[12.4]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	高台部内・外面口クロナデ	竈中層	25%
833	土師器	甕	[22.0]	30.0	[6.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈下層	40%
834	土師器	甕	[18.8]	(7.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 指頭痕	貯蔵穴下層	10%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP126	支脚	(9.1)	4.4	(5.2)	(252.4)	土(長石・石英・雲母)	下部欠損 ナデ 指頭痕 にぶい橙色	下層	

### 第2591号住居跡（第524図）

**位置** 調査区南部のS 4 g 0 区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第2623号住居跡を掘り込み，第102号堀，第4275・4276号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.01m，短軸3.45mの長方形で，主軸方向はN - 4 ° - Wである。壁高は16～20cmで，ほぼ直立している。

**床** 中央部は第102号堀の掘り込みによって失われており，確認できた部分ではほぼ平坦で，出入口施設の周辺が踏み固められている。壁下には，幅8～14cm，深さ5～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。煙道部を第4276号土坑に掘り込まれており，焚口部から煙道部，壁外への掘り込みの規模は不明である。袖部幅は95cmである。袖部は，床面を深さ5cmほど掘りくぼめて第11層を充填し，砂質粘土を主体とする第9・10層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は赤変，硬化ともに弱い。覆土は第1～7層に分けられ，第1・4・7層は袖部及び天井部の構築材，第3・5層は火を受けて赤変した部分の崩落土層に相当している。

#### 竈土層解説

1	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量	7	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
3	赤褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	9	褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量	10	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5	灰赤色	砂質粘土粒子多量，焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量	11	褐色	ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

**ピット** 深さ41cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 4層に分けられる。含有物が細粒かつ微量であり，周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

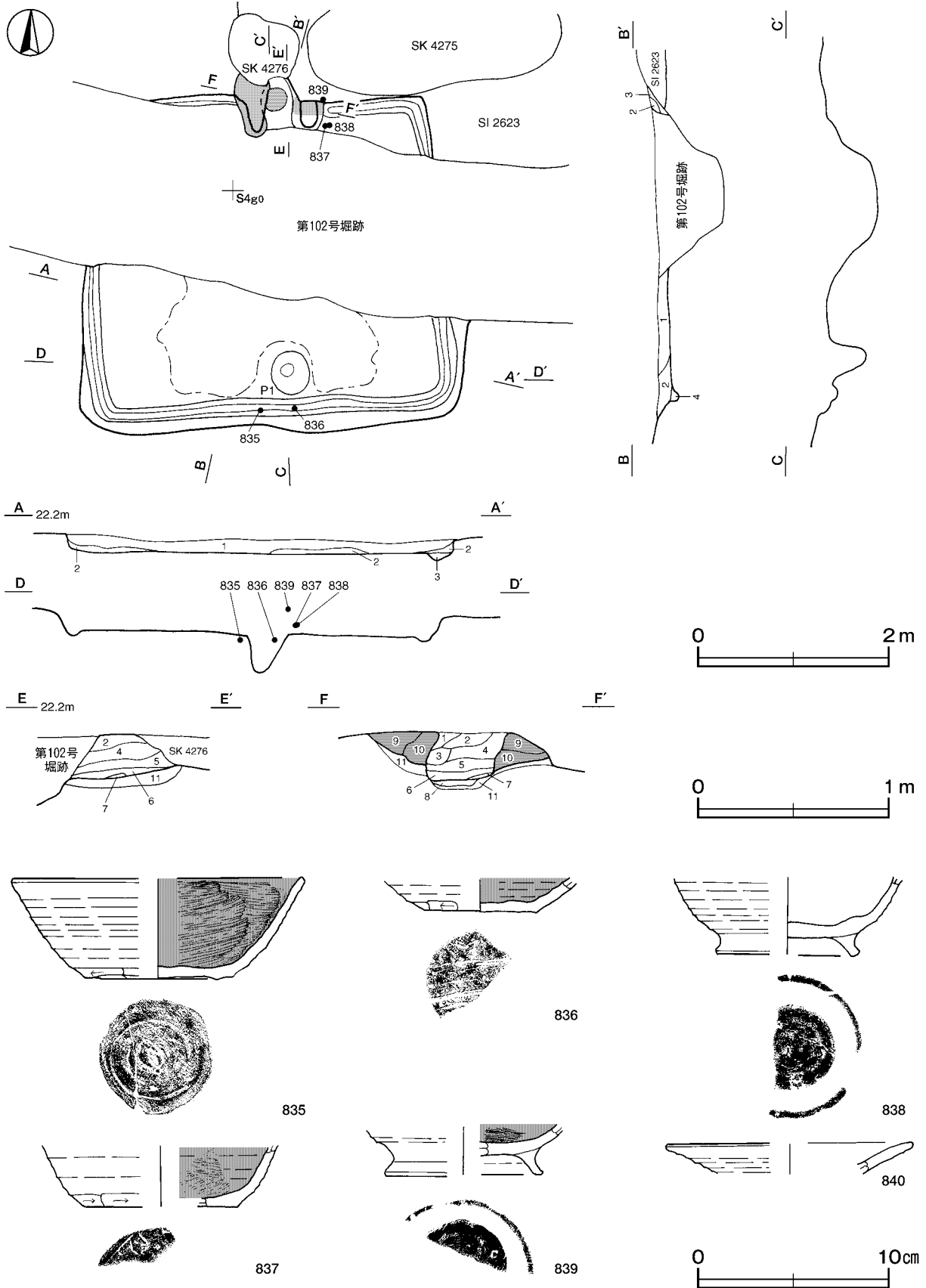
#### 土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	3	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
2	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量	4	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片140点（坏56，高台付椀3，皿1，甕類80），須恵器片36点（坏21，甕類14，瓶類1）が出土している。835・836は出入口施設付近の壁溝の覆土中，837～839は竈の右袖部際の覆土下層からそれぞれ

れ出土しており，廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉以前と考えられる。



第524図 第2591号住居跡・出土遺物実測図



第2591号住居跡出土遺物観察表（第524図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
835	土師器	坏	[15.2]	5.2	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	壁溝覆土中	80%
836	土師器	坏	-	(1.7)	[5.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後一方向の手持ちヘラ削り	壁溝覆土中	10%
837	土師器	坏	-	(3.2)	[7.8]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部ヘラ削り後一方向の手持ちヘラ削り	下層	10%
838	土師器	高台付椀	-	(4.0)	[7.4]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ 高台貼り付け	下層	35%
839	土師器	高台付椀	-	(2.6)	[8.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後ナデ 高台貼り付け	下層	15%
840	土師器	皿	[12.8]	(1.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%

第2593号住居跡（第525・526図）

**位置** 調査区南部のS 5 f 3区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第102号堀，第4164号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 東西軸4.58mで，南側は第102号堀に掘り込まれており，南北軸は3.86mを確認している。主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は15～22cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，竈の前面が踏み固められている。東西の壁下には，幅13～15cm，深さ6～7cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで97cm，袖部幅100cmである。火床部は床面から2cmほどくぼんでおり，ほぼ同じ高さを使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ，火床部から階段状に立ち上がっている。覆土は第1～5層に分けられる。全体的にロームや焼土，砂質粘土の粒子を多く含む人為堆積である。

**竈土層解説**

- |                                    |                                       |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量   | 4 褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量            |
|                                    | 5 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量            |

**ピット** 2か所。P1は深さ55cmで，南壁の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ19cmで，竈の前面に位置している。上屋を支える補助的な柱穴，または作業台などに伴う柱穴の可能性が考えられる。

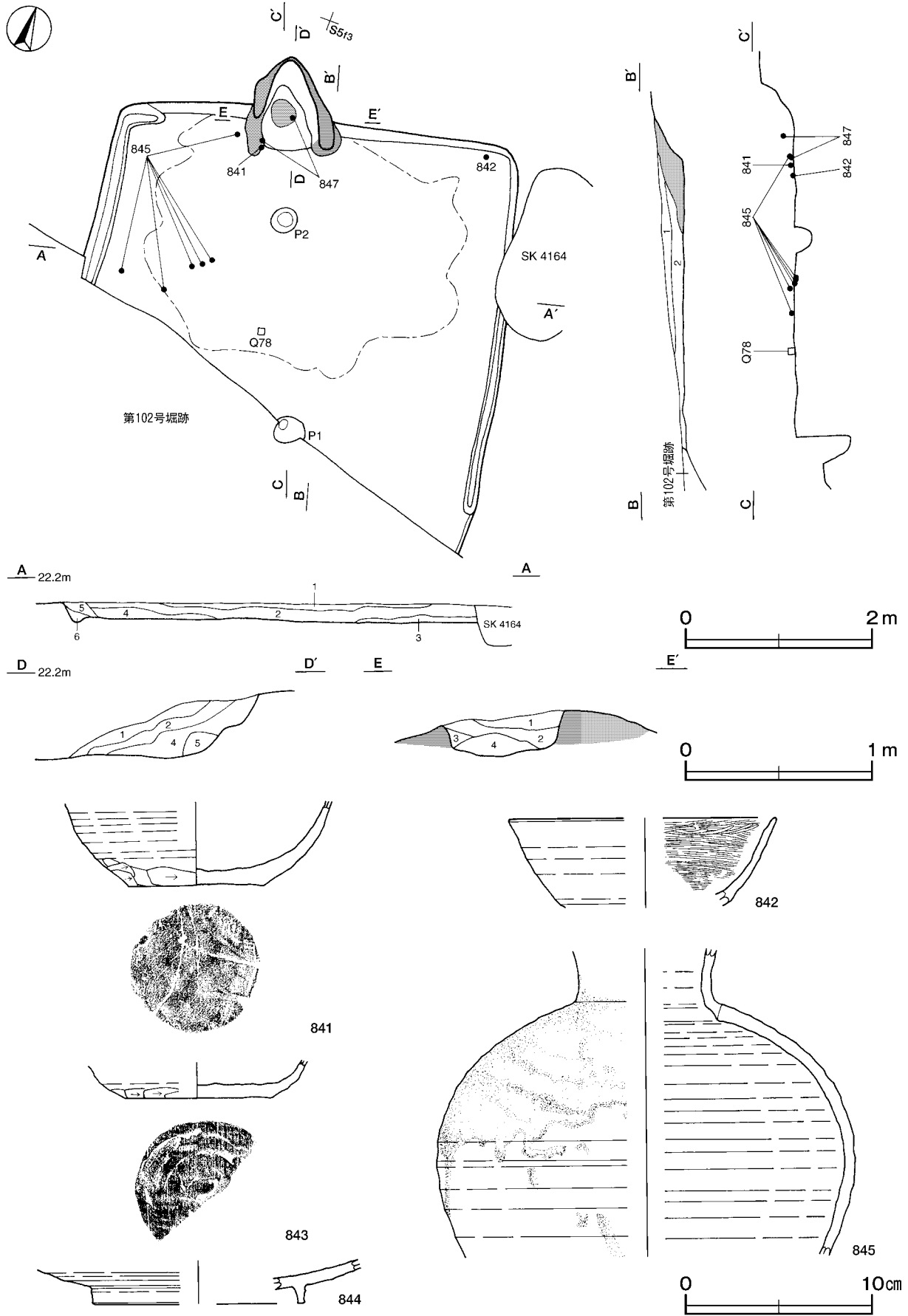
**覆土** 6層に分けられる。含有物が細粒かつ微量であり，周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

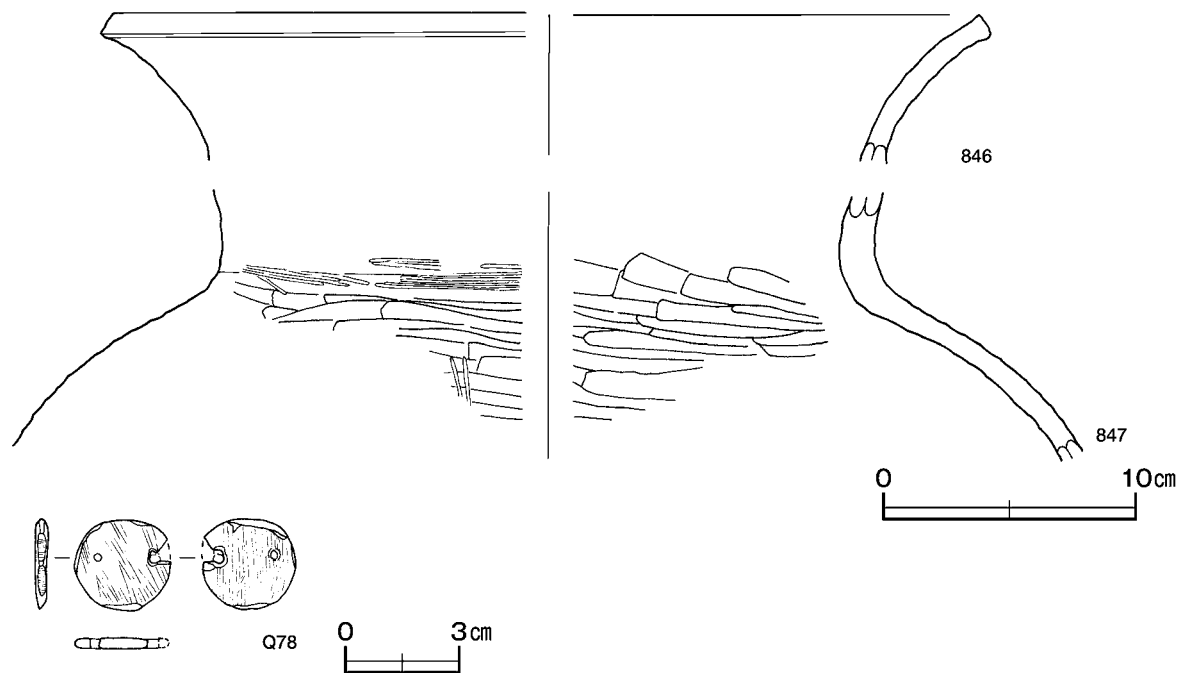
- |                           |                               |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量             | 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 暗赤褐色 焼土粒子少量，ローム粒子微量         |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量                 |

**遺物出土状況** 土師器片205点（坏77，高台付椀2，高台付皿1，甕類125），須恵器片81点（坏31，高台付坏2，蓋6，盤1，高盤2，甕類39），灰釉陶器片10点（瓶類），石器1点（砥石），石製品1点（双孔円板），鉄滓1点，粘土塊1点が出土している。841は竈の焚口部付近，842は北東コーナー部，845は北西部，Q78は中央部の床面からそれぞれ出土しており，廃絶時に遺棄されていたものと考えられる。846・847は竈の覆土下層から破片の状態出土しており，同一個体と考えられる。

**所見** 時期は，出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第525图 第2593号住居跡・出土遺物実測図



第526図 第2593号住居跡出土遺物実測図

第2593号住居跡出土遺物観察表（第525・526図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
841	土師器	坏	-	(4.5)	7.0	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	床面	70%
842	土師器	坏	[14.4]	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 内面 ヘラ磨き	床面	5%
843	須恵器	坏	-	(1.9)	[7.8]	石英・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	20%
844	須恵器	盤	-	(2.4)	[11.2]	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部高台貼り付け	覆土中	5%
845	灰釉陶器	長頸瓶	-	(16.5)	-	長石	灰白	良好	体部内・外面ロクロナデ	床面	35%
846	土師器	大形甕	[34.8]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈下層	5%
847	土師器	大形甕	-	(10.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 頸部外面ヘラ磨き 体 部内・外面ヘラナデ	竈下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q78	双孔円板	2.5	0.3	0.19	(3.3)	滑石	一部欠損 両面研磨 一方向からの穿孔 再穿孔	床面	

### 第2602号住居跡（第527図）

**位置** 調査区南部のS4i8区，標高21.5mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第94号堀，第4176・4177・4178号土坑に掘り込まれている。また，耕作と造成による削平によって，南半部は床面がほとんど露出した状態で検出されている。

**規模と形状** 東西軸3.69m，南北軸5.83mを確認している。主軸方向はN-16°-Eである。壁高は12cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，支柱穴の内側が踏み固められている。

**ピット** 2か所。P1・P2は支柱穴で，深さは34~51cmである。

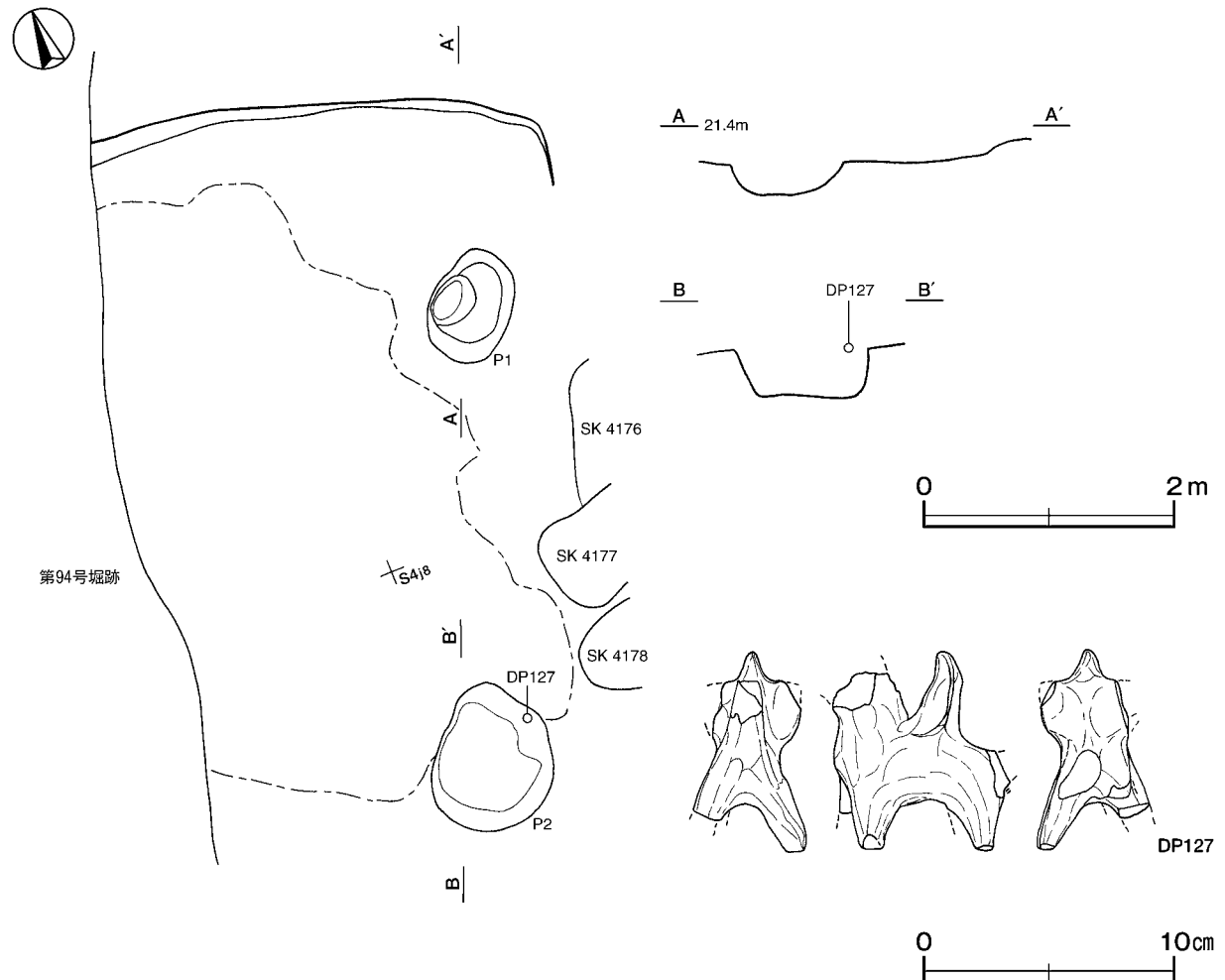
**覆土** 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

#### 土層解説

1 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片 1 点 (甕類), 須恵器片 3 点 (坏 1, 甕類 2), 土製品 1 点 (土馬) が出土している。DP127は, P2 の抜き取り痕の覆土上層から横位で出土しており, 抜き取り痕を埋め戻した最終段階で埋置されたものと考えられる。

**所見** 土馬は縮小化の傾向がみられ, 脚部や騎人像の表現が簡略化していることから, 9 世紀後半のものと考えられ, 本跡の時期もほぼ同時期と考えられる。



第527図 第2602号住居跡・出土遺物実測図

第2602号住居跡出土遺物観察表 (第527図)

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP127	土馬	(7.1)	(4.5)	7.9	(107.6)	土(長石・石英・雲母)	ナデ	P 2 上層	PL138

### 第2604号住居跡 (第528・529図)

**位置** 調査区南部の S 4 e0 区, 標高22.5mほど台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2603号住居跡を掘り込み, 第2615号住居, 第4193・4197・4401・4438号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.56m, 短軸4.16mの方形で, 主軸方向はN - 5° - Eである。壁高は19~32cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で, 竈の前面を含む中央部が踏み固められている。

**竈** 2か所。竈1は東壁中央部のやや南寄りの位置に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで121cm,

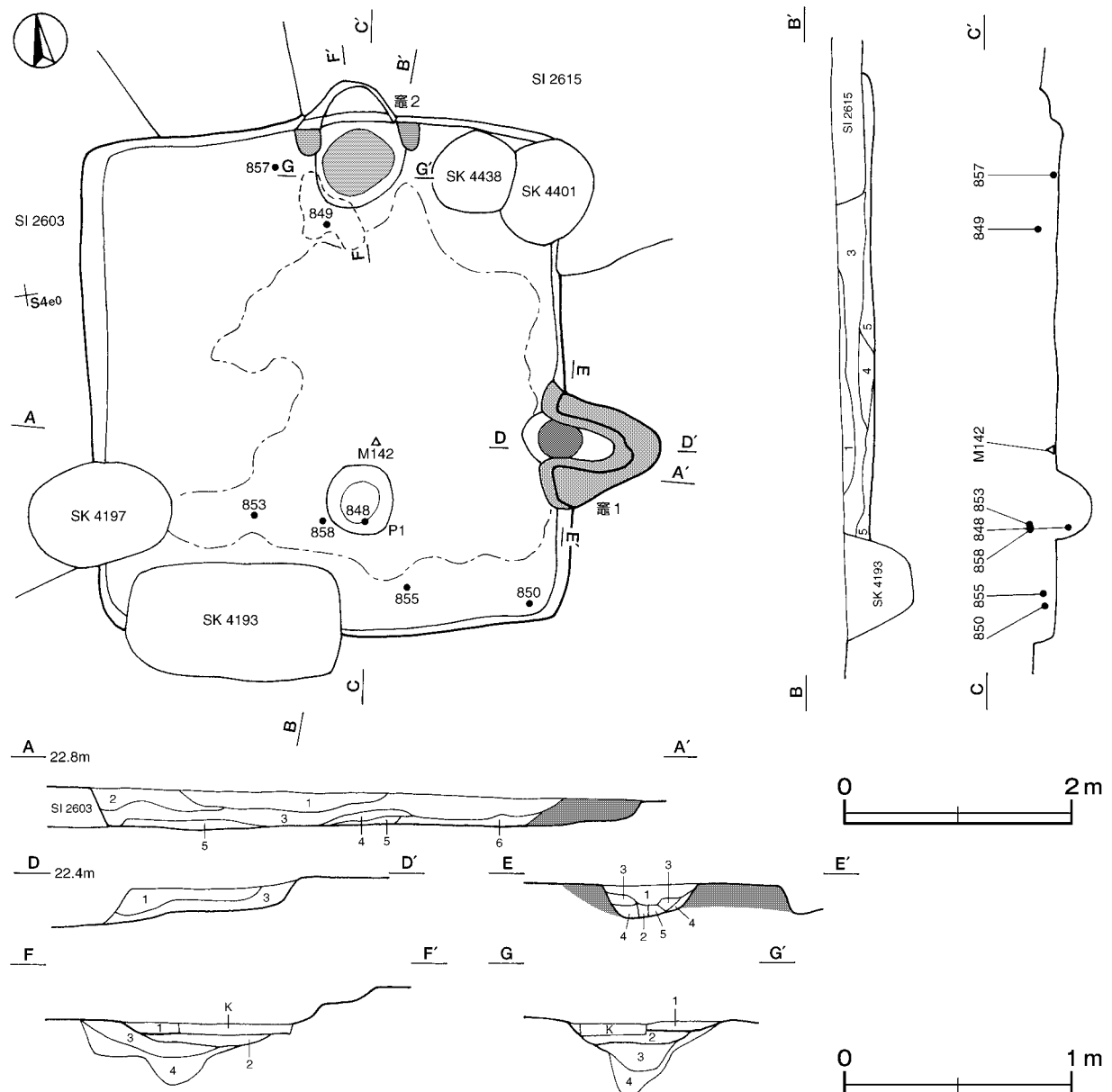
袖部幅113cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に80cm掘り込まれており、奥壁で外傾して立ち上がっている。覆土は第1～5層に分けられ、第3～5層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。これらの層は火床部と直に接しており、廃絶後間もなく崩落している状況を示している。竈2は北壁中央部に付設されている。第2615号住居に掘り込まれているため遺存状態は悪く、袖部は基部の粘土範囲がわずかに認められる程度である。規模は焚口部から煙道部まで112cm、袖部幅108cmである。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から階段状に立ち上がっている。覆土は単一層で、堆積状況は不明である。

**竈1土層解説**

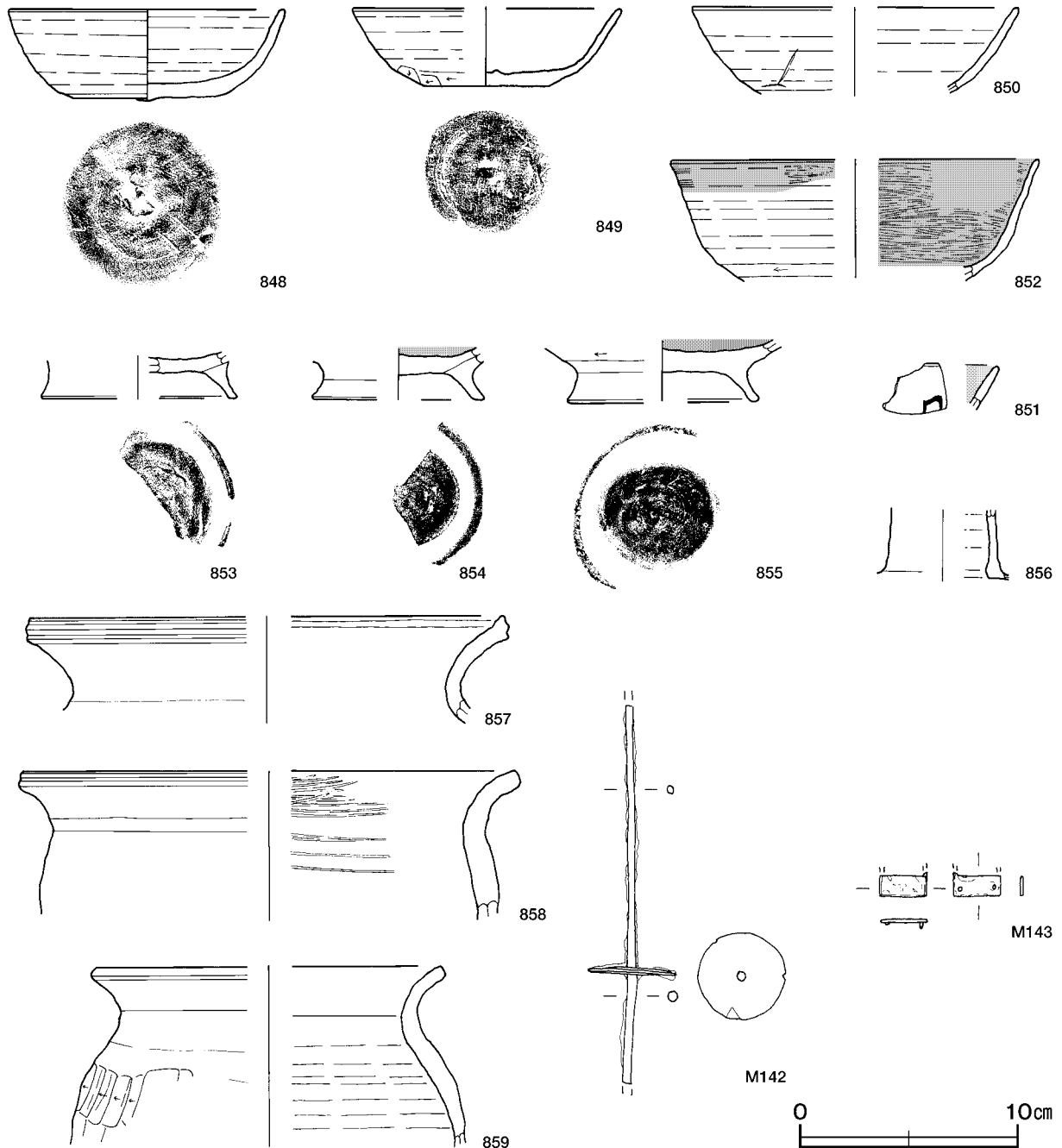
- |        |                                |         |                          |
|--------|--------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒色   | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量        | 4 赤褐色   | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量    |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量              | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |         |                          |

**竈2土層解説**

- |        |                        |        |                 |
|--------|------------------------|--------|-----------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量   | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 赤褐色  | 焼土ブロック多量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色   | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |



第528図 第2604号住居跡実測図



第529図 第2604号住居跡出土遺物実測図

**ピット** P1は深さ24cmで、南壁側の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 6層に分けられる。ブロック状の堆積がみられる人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                   |         |                         |
|-------|-------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      | 4 にぶい褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量    | 5 極暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒色    | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量   |

**遺物出土状況** 土師器片540点（坏198，高台付碗39，甕類303），須恵器片109点（坏17，高台付坏4，蓋1，高盤1，鉢3，甕類82，甌1），鉄製品1点（紡錘車），銅製品1点（巡方）が出土している。848はP1の埋土中層から押しつぶされた状態で出土している。853・858は覆土上層，849・850・855・M143は覆土中層，857・M142は覆土下層からそれぞれ出土しており、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 北側と東側に2か所の竈を確認している。竈2の遺存状態が悪いため、新旧関係は不明であるが、竈1は堆積状況から廃絶時に伴うものと考えられ、竈2は同時に機能したか、先行するものと推定される。時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2604号住居跡出土遺物観察表（第529図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
848	土師器	坏	12.6	4.2	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	P 1 中層	75% PL130
849	土師器	坏	[12.2]	3.6	5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後一方向の手持ちヘラ削り	中層	60%
850	土師器	坏	[15.0]	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り	中層	25%
851	土師器	坏	-	(1.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 体部墨書「クカ」
852	土師器	高台付碗	[17.0]	(5.6)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部外面・体部内面ヘラ磨き 下端回転ヘラ削り	覆土中	20%
853	土師器	高台付碗	-	(2.2)	[9.0]	長石・石英	橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	上層	15%
854	土師器	高台付碗	-	(2.4)	[8.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土中	20%
855	土師器	高台付碗	-	(2.9)	[8.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	中層	35%
856	灰釉陶器	長頸瓶	-	(3.4)	-	長石・石英	灰	良好	頸部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
857	土師器	甕	[21.6]	(4.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	5%
858	土師器	甕	[22.6]	(6.9)	-	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部外面横ナデ 体部内面ヘラ磨き	上層	5%
859	土師器	小形甕	[15.8]	(8.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M142	紡錘車	(17.4)	4.1	0.2~0.5	(23.1)	鉄	軸部断面方形 端部欠損	下層	PL145

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M143	巡方	(1.2)	2.2	0.17	(1.2)	銅	裏金具 長軸1.8cmの垂孔有 鋳二本残存	中層	PL147

第2605号住居跡（第530～532図）

**位置** 調査区南部のS 5 g4区、標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第2606号住居跡を掘り込み、第102号堀に掘り込まれている。

**規模と形状** 一辺3.36mの方形で、主軸方向はN - 7° - Eである。壁高は72cmで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で、各コーナー部付近を除いて踏み固められている。壁下には、幅10～13cm、深さ8～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで85cm、袖部幅118cmである。袖部は床面を深さ21cm掘りくぼめて第12層を充填し、その上部に白色粘土を主体とする第8・9層を積み上げて構築している。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり、火床面は赤変、硬化ともに弱い。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。奥壁には白色粘土ブロックを含む第10・11層を厚く貼り付けて補強している。覆土は第1～7層に分けられ、第2・4層は袖部及び天井部の構築材、第6層は火を受けて赤変した部分の崩落土層に相当する。全体的に焼土や白色粘土の粒子を含む人為堆積である。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	極暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子少量
2	黄褐色	白色粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量	8	にぶい黄色	白色粘土ブロック多量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9	黄褐色	白色粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	にぶい褐色	白色粘土粒子多量、焼土粒子少量	10	にぶい黄褐色	白色粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
5	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
6	明赤褐色	焼土粒子・白色粘土粒子中量、炭化物少量	12	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

**ピット** P1は深さ15cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

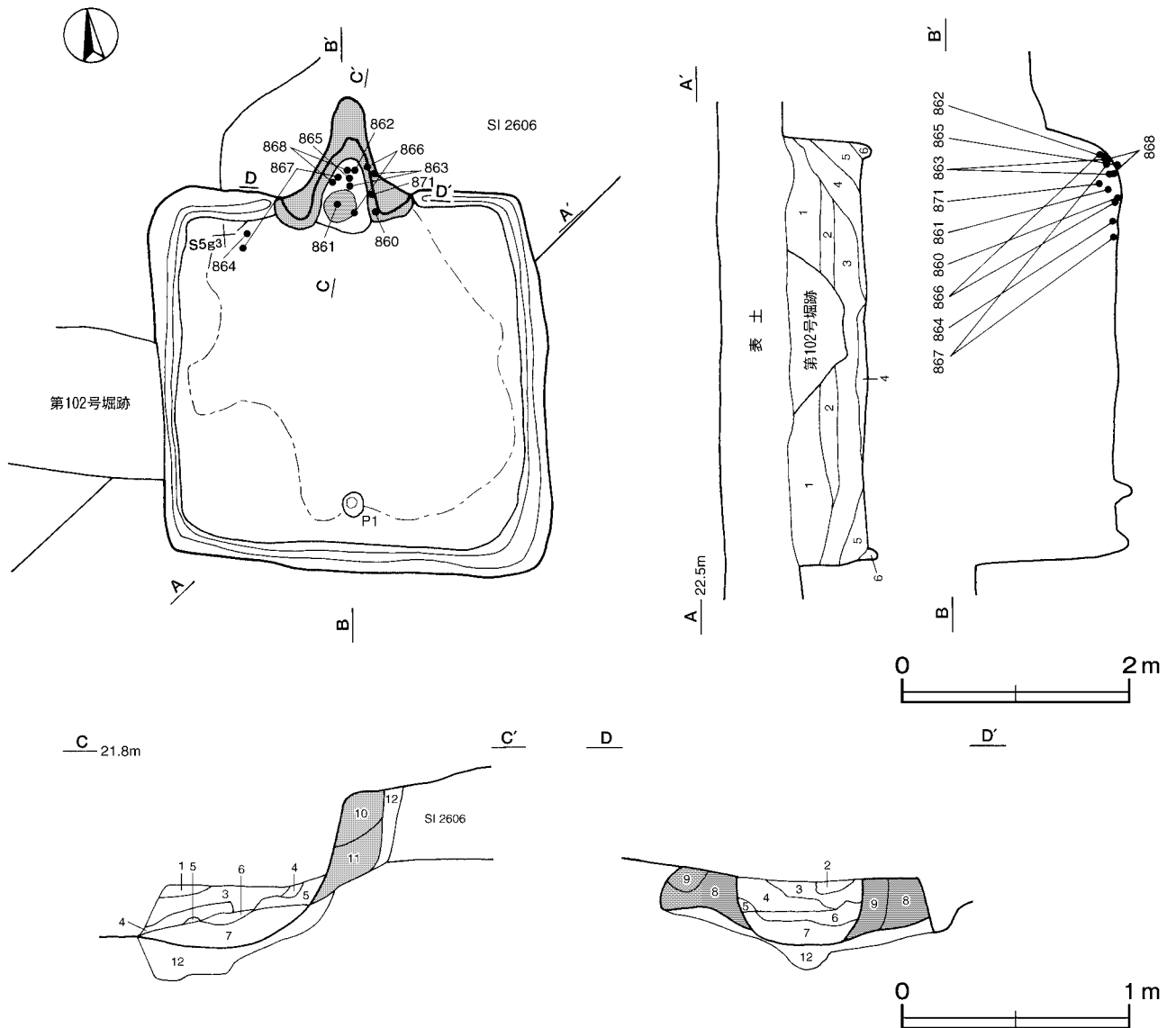
**覆土** 6層に分けられる。ローム粒子や白色粘土粒子を含む人為堆積である。

**土層解説**

- |                       |                             |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量     | 4 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量         |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量    | 5 黒褐色 炭化粒子・白色粘土粒子少量,ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子少量,白色粘土粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量       |

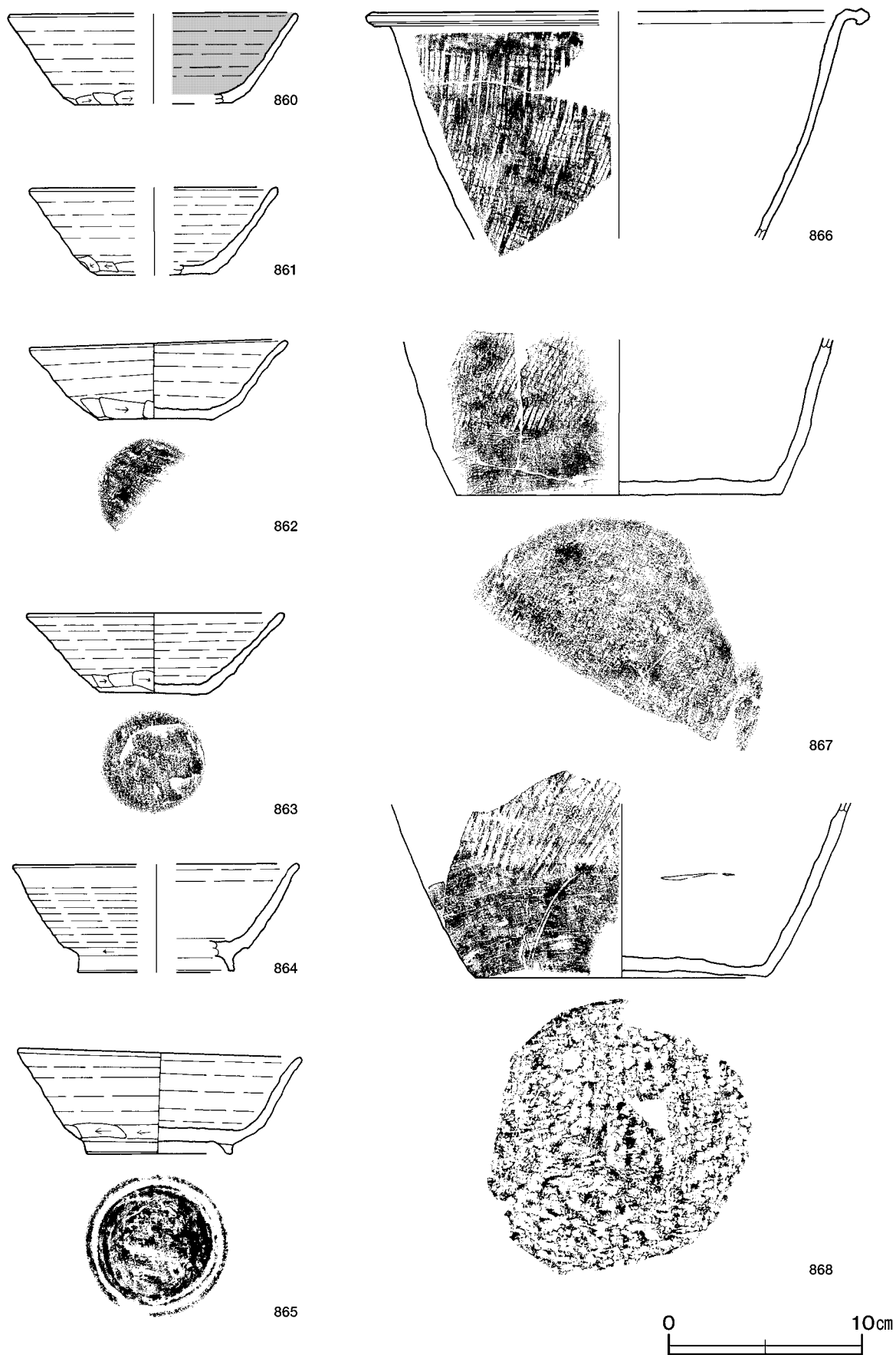
**遺物出土状況** 土師器片193点(坏51,鉢19,甕類122,甑1),須恵器片241点(坏40,高台付坏21,蓋3,盤3,高盤1,瓶類13,鉢42,甕類117,甑1),土製品2点(土玉,紡錘車),石製品1点(紡錘車),鉄滓1点が出土している。863・865は火床部の煙道部寄りの位置から重ねられた状態で逆位で出土しており、支脚に転用されている。860～862・866・868・871は竈の覆土中・下層からまとめて出土している。いずれも原位置を保っていないため、廃絶時に廃棄されたものと考えられるが、一部は支脚の補強材として用いられていた可能性がある。867は北壁際の床面と竈の覆土中層から出土した破片が接合している。864は北壁際の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

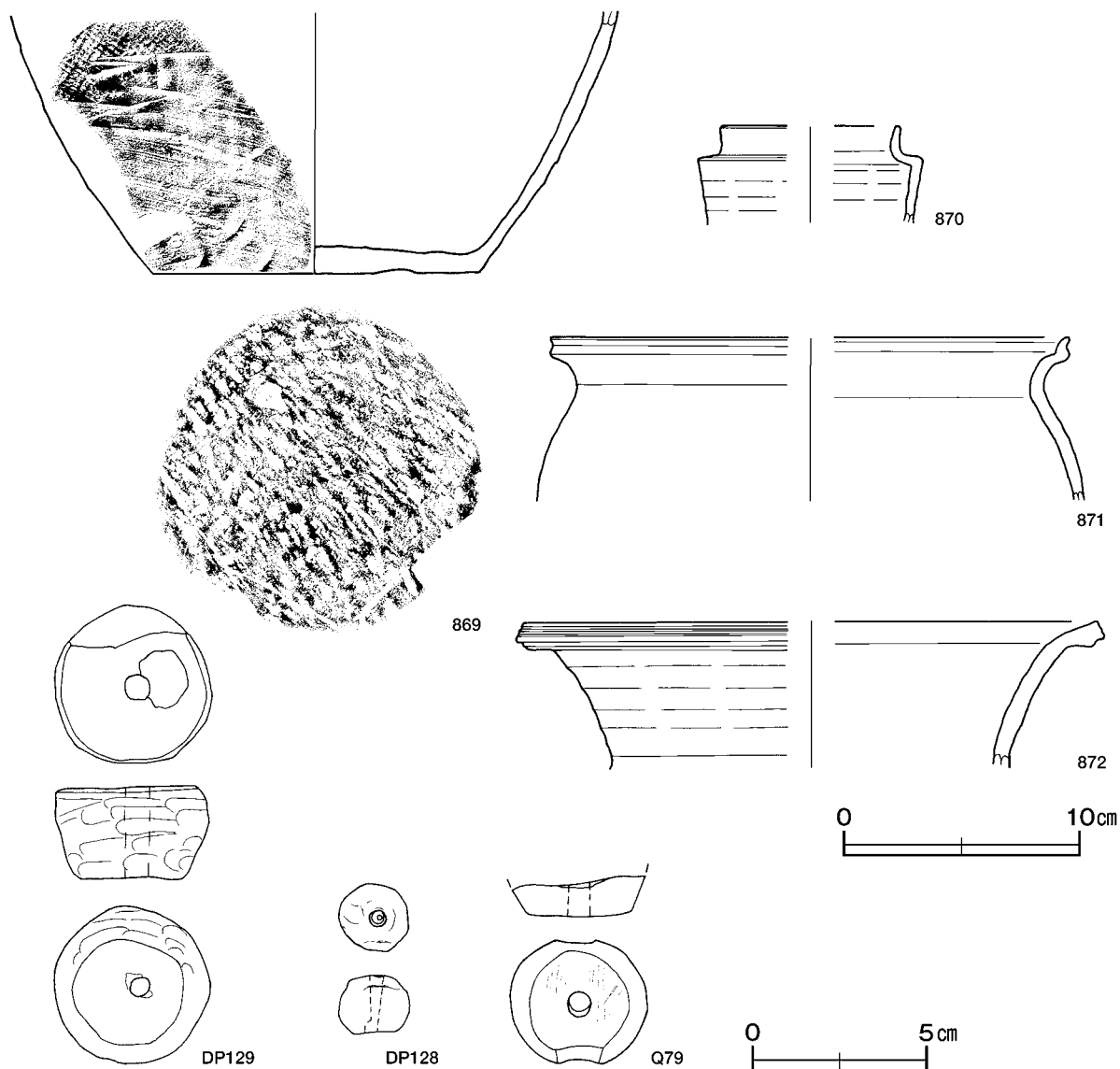


第530図 第2605号住居跡実測図





第531图 第2605号住居跡出土遺物実測図(1)



第532図 第2605号住居跡出土遺物実測図(2)

第2605号住居跡出土遺物観察表(第531・532図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
860	須恵器	坏	[14.8]	4.7	[8.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	竈下層	10%
861	須恵器	坏	[12.6]	4.5	[5.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部内・外面口クロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	中層	15%
862	須恵器	坏	13.2	4.2	5.8	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部内・外面口クロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	竈下層	60%
863	須恵器	坏	13.1	4.4	6.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ	竈火床部	95% 支脚 転用 PL129
864	須恵器	高台付坏	[14.6]	5.6	[8.0]	長石・石英・雲母	灰褐	不良	体部内・外面口クロナデ 高台貼り付け	床面	40%
865	須恵器	高台付坏	14.5	5.5	7.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	不良	体部内・外面口クロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部 回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り 高台貼り付け	竈火床部	85% 支脚 転用 PL129
866	須恵器	鉢	[25.4]	(11.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面口クロナデ 体部外面格子状叩き 下位手持ちヘラ削り	竈下層	15%
867	須恵器	鉢	-	(8.0)	[16.8]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面格子状叩き 下位手持ちヘラ削り 底部 網代痕	竈中層・床面	35%
868	須恵器	鉢	-	(9.0)	[15.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面格子状叩き 下位手持ちヘラ削り 底部 網代痕	竈下層	35%
869	須恵器	鉢	-	(11.1)	14.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面格子状叩き 下位手持ちヘラ削り 底部 網代痕	覆土中	40%
870	須恵器	短頸壺	[7.6]	(4.1)	-	長石・石英	灰	良好	体部内・外面口クロナデ	覆土中	5%
871	土師器	甕	[22.0]	(6.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈下層	5%
872	須恵器	甕	[24.4]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面格子状叩き	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP128	土玉	2.0	1.7	0.4	6.5	土(長石・石英・赤粘土)	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL140
DP129	紡錘車	4.4	2.7	0.7	54.4	土(長石・石英)	側面へラ磨き 二方向からの穿孔	覆土中	PL139

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q79	紡錘車	(3.8)	(1.1)	0.7	(15.2)	粘板岩	上部欠損 全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL142

### 第2608号住居跡 (第533・534図)

**位置** 調査区南部のS5c3区、標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

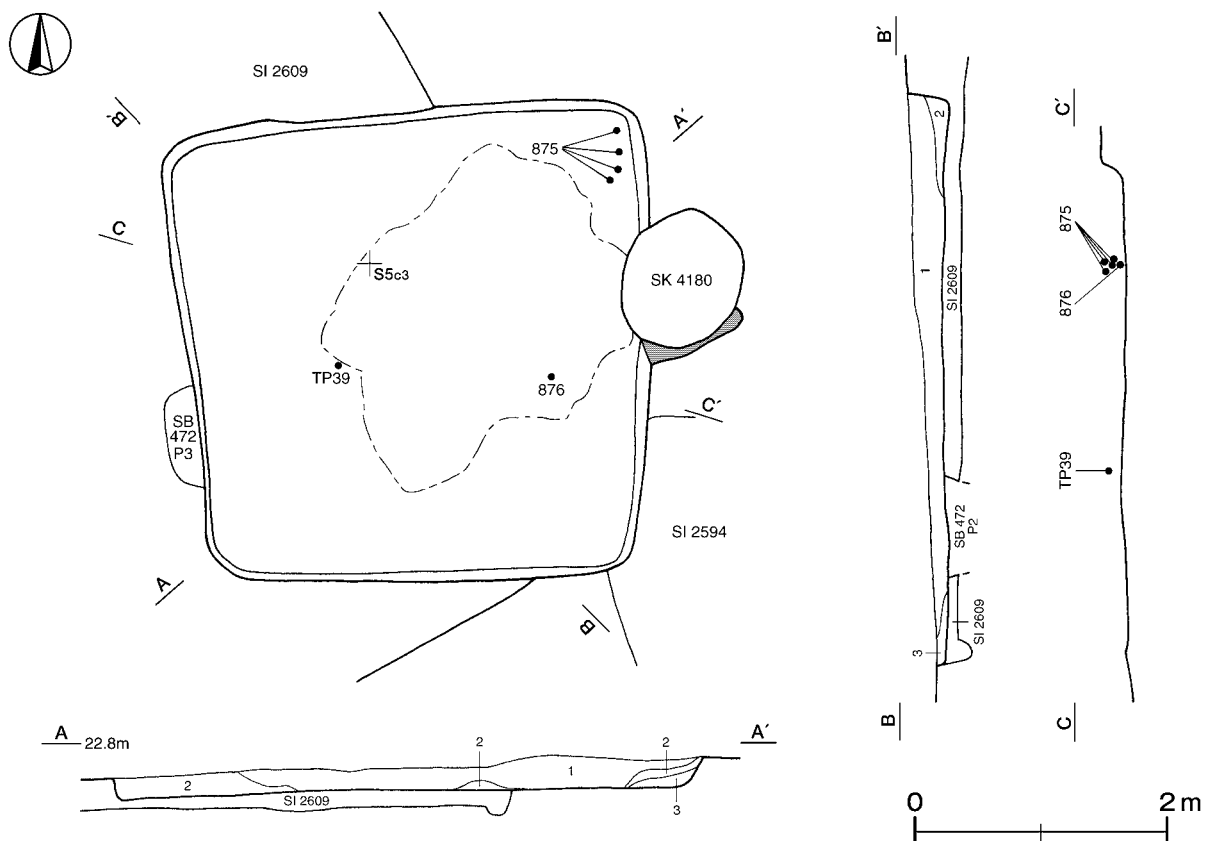
**重複関係** 第2594・2609号住居跡、第472号掘立柱建物跡を掘り込み、第4180号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.82m、短軸3.74mの方形で、主軸方向はN-88°-Eである。壁高は6~33cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、竈の周辺から中央部が踏み固められているが、硬化は弱い。

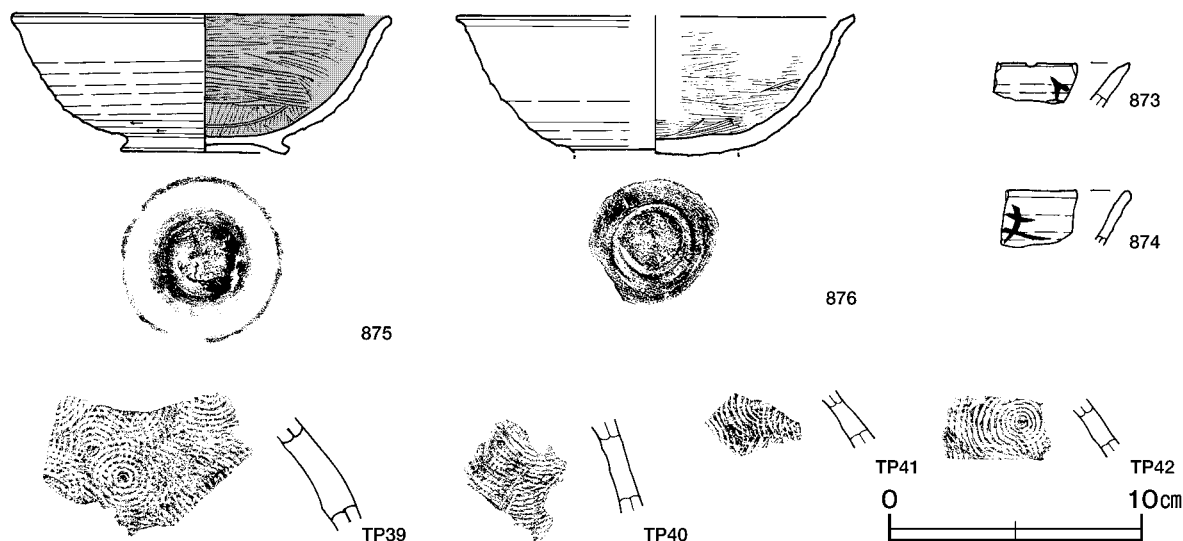
**竈** 東壁中央部に付設されている。第4180号土坑に掘り込まれており、煙道部の一部が遺存するのみである。

壁外への掘り込みは81cmで、奥壁には補強のための粘土が貼り付けられている。



第533図 第2608号住居跡実測図

**覆土** 3層に分けられる。ロームブロックは壁際から中央部に向かって細粒化しており、周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。



第534図 第2608号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

- 3 極黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片216点（坏40，高台付坏4，甕類171，甌1），須恵器片115点（坏33，蓋7，高盤1，甕類73，甌1）が出土している。遺物は、覆土下層から出土しており，出土位置が壁際に集中する傾向がみられることから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から11世紀前半以前と考えられる。

第2608号住居跡出土遺物観察表（第534図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
873	土師器	坏	-	(1.6)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 体部墨書「入カ」
874	土師器	坏	-	(2.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 体部墨書「丈カ」
875	土師器	高台付碗	14.9	5.3	6.4	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面口クロナデ 下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	85% PL132
876	土師器	高台付碗 [15.6]	(5.5)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面口クロナデ 下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP39	須恵器	甕	-	(4.4)	-	長石・石英	黄灰	良好	体部外面同心円文叩き 内面ナデ	覆土中	
TP40	須恵器	甕	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部外面同心円文叩き 内面ナデ	覆土中	
TP41	須恵器	甕	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	黄灰	良好	体部外面同心円文叩き 内面ナデ	覆土中	
TP42	須恵器	甕	-	(3.7)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面同心円文叩き 内面ナデ	覆土中	

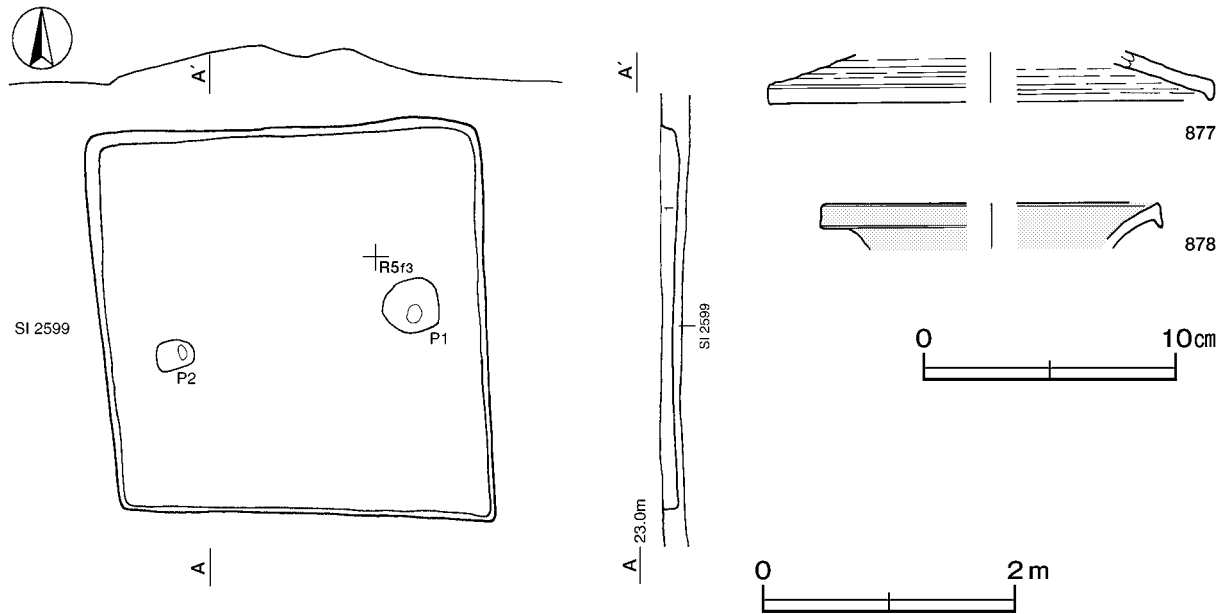
第2610号住居跡（第535図）

**位置** 調査区中央部のR 5 f2区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2599号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.08m，短軸3.03mの方形で，主軸方向はN - 4° - Wである。壁高は8cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。第2599号住居跡の覆土を掘り込んだ底面を床として利用しており，硬化は弱く，硬化面の範囲は不明瞭である。



第535図 第2610号住居跡・出土遺物実測図

**覆土** 単一層で、ロームや粘土のブロックを多く含む人為堆積である。

**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・粘土粒子少量

**ピット** 2か所。主柱穴で，深さは25～47cmである。

**遺物出土状況** 土師器片55点（坏7，高台付坏2，鉢1，甕類45），須恵器片14点（坏6，蓋3，甕類4，甑1），灰釉陶器片2点（瓶類），鉄製品1点（釘），粘土塊1点が出土している。877・878は，いずれも細片であり，覆土中から出土していることから，埋没過程で流入したものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀前葉以前と考えられる。

第2610号住居跡出土遺物観察表（第535図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
877	須恵器	蓋	[17.6]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	覆土中	10%
878	灰釉陶器	長頸瓶	[13.3]	(1.8)	-	長石・石英	灰オリブ	良好	口辺部内・外面ロクロナデ	覆土中	5%

**第2611号住居跡（第536・537図）**

**位置** 調査区中央部のR 5 h2区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第4235号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.00m，短軸2.80mの方形で，主軸方向はN - 95° - Eである。壁高は13～16cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，竈の前面が踏み固められている。

**竈** 東壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで87cm，袖部幅86cmである。袖部は遺存状態が悪く，一部に灰褐色の粘土が認められるが，大半は地山を掘り残した基部が露出した状態である。火床部は床面から5cmほど掘りくぼめた部分を使用しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は奥壁で外傾して立

ち上がっている。覆土は第1～3層に分けられ、第3層は、袖部あるいは天井部の被熱部が崩落したものと考えられる。各層とも含有物を多く含んでおり、人為堆積の状況を示している。

**竈土層解説**

- |                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 | 3 灰褐色 焼土ブロック多量, 粘土ブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 4 浅黄橙色 焼土粒子多量            |

**ピット** 7か所。P1～P4は主柱穴で、深さは11～22cmである。P5は深さ48cmで、竈の袖際に位置することから、竈に付属する施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ18cm, P7は深さ30cmで性格は不明である。

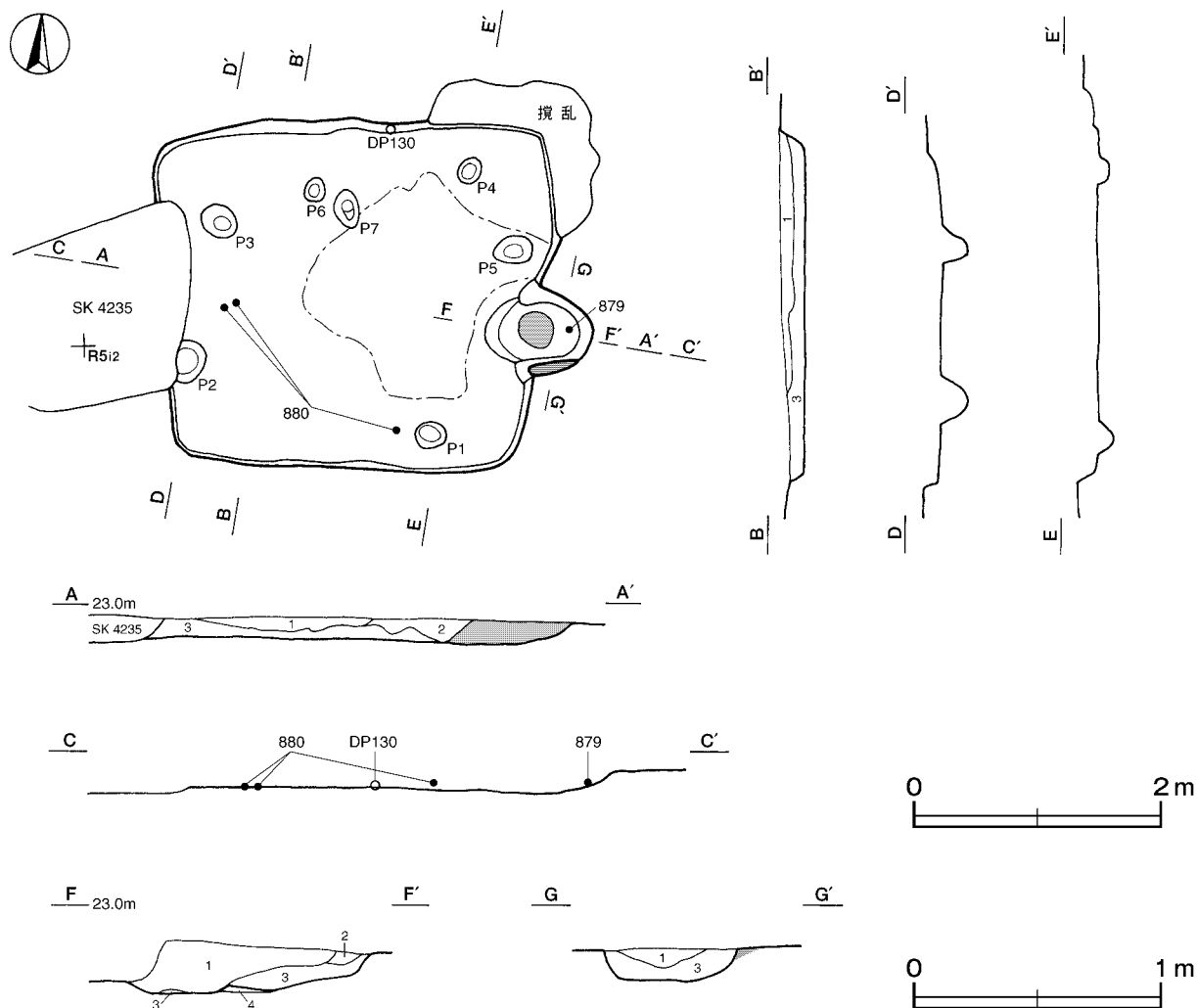
**覆土** 3層に分けられる。全体的にロームブロック等を多く含む人為堆積である。

**土層解説**

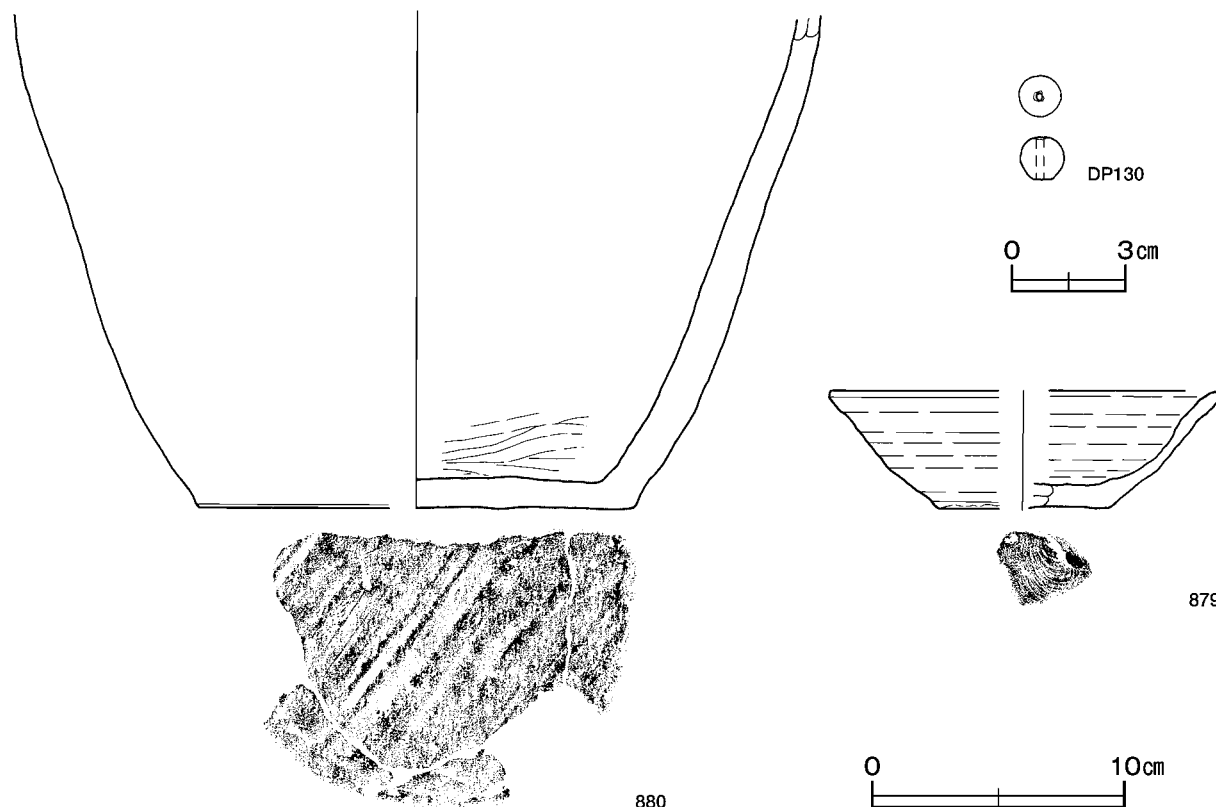
- |                               |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量        | 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |                        |

**遺物出土状況** 土師器片379点(坏15, 高台付坏1, 小皿58, 甕類305), 須恵器片85点(坏35, 蓋1, 甕類49), 灰釉陶器片4点(椀2, 瓶類2), 土製品1点(小玉), 鉄滓1点, 粘土塊1点が出土している。880は西側と南側の床面に散在して、879は竈の煙道部の覆土下層から破砕された状態で、DP130は、北壁際の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から11世紀前葉と考えられる。



第536図 第2611号住居跡実測図



第537図 第2611号住居跡出土遺物実測図

第2611号住居跡出土遺物観察表（第537図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
879	土師器	坏	[15.2]	4.7	[6.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り痕	竈下層	25%
880	土師器	甕	-	(19.6)	[17.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ 底部板目痕	床面	15%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP130	小玉	1.1	1.1	0.2	1.6	土(長石・石英・赤色粒子)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL140

### 第2615号住居跡（第538・539図）

**位置** 調査区南部のS 5 d1区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2604号住居跡，第478号掘立柱建物跡を掘り込み，第4183・4401・4438号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.94m，短軸3.86mの長方形で，主軸方向はN - 5° - Wである。壁高は12～30cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，竈の前面から中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで134cm，袖部幅142cmである。袖部は地山を掘り残して基部としている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に83cm掘り込まれ，奥壁が外傾して立ち上がっている。覆土は第1～9層に分けられ，第6層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。各層中にブロック状の堆積がみられる人為堆積である。

#### 竈土層解説

- |       |                     |        |                      |
|-------|---------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色  | 焼土粒子・炭化粒子微量          |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 |

- |                                      |                           |
|--------------------------------------|---------------------------|
| 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量               | 8 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 砂質粘土ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量   |
| 7 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量                | 10 明赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量  |

**ピット** P1は深さ57cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

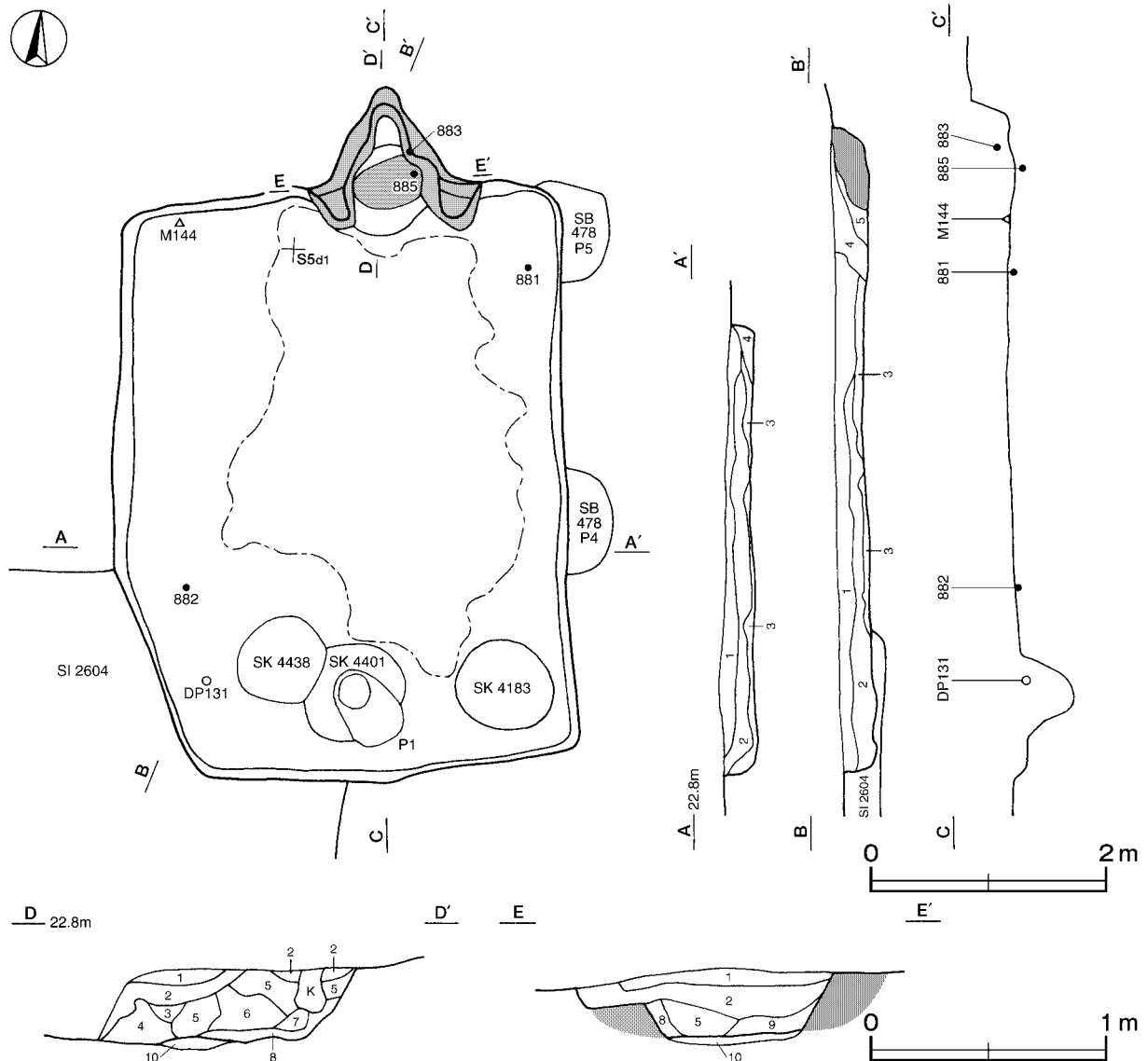
**覆土** 5層に分けられる。周囲から流入した状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |                              |                                  |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 4 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量        |
| 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量    | 5 明褐色 焼土粒子中量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 焼土粒子少量 炭化粒子微量 |                                  |

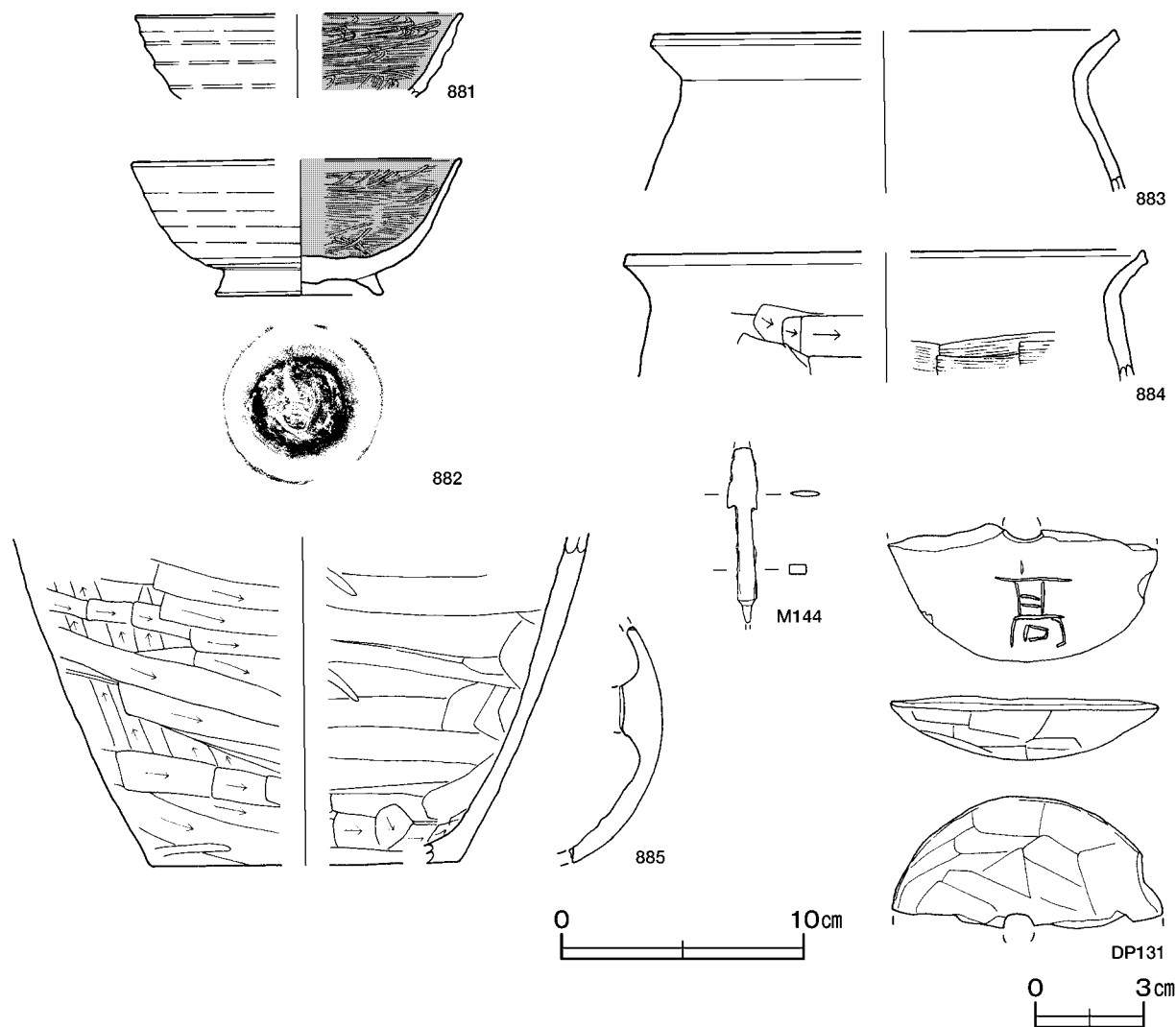
**遺物出土状況** 土師器片316点(坏107, 高台付椀20, 甕類189), 須恵器片93点(坏11, 蓋2, 盤1, 高盤1, 瓶類1, 甕類76, 甑1), 灰釉陶器片2点(瓶類), 土製品1点(紡錘車), 鉄製品1点(鏟), 鉄滓5点, 粘土塊1点が出土しているほか, 石器3点(石核, 剥片, 磨石)が流れ込んでいる。885は火床部, M144は北西コーナー部, 881は北東コーナー部付近, 882・DP131は南西側の床面からそれぞれ出土している。882はほぼ完形で, 正位で出土していることから, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第538図 第2615号住居跡実測図





第539図 第2615号住居跡出土遺物実測図

第2615号竪穴住居跡出土遺物観察表（第539図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
881	土師器	坏	[13.4]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き	床面	15%
882	土師器	高台付碗	[13.5]	5.6	6.7	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面口クロナデ 下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	70%
883	土師器	甕	[19.0]	(6.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	竈中層	5%
884	土師器	甕	[21.4]	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中	5%
885	土師器	甌	-	(13.5)	[12.4]	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部内面ヘラ削り 5孔式カ	竈火床面	15%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP131	紡錘車	(7.4)	1.8	(0.9)	(37.1)	土(長石・石英)	断面半円形 側面ヘラ削り 一方向からの穿孔	床面	PL139 刻書「高」

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M144	鏃	(7.2)	1.2	0.4	(7.9)	鉄	刃・茎部端部欠損 長三角形式 両丸造 台状開	床面	

**第2616号住居跡（第540図）**

**位置** 調査区南部のS 4 b9区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第73号方形竪穴遺構，第4188号土坑に掘り込まれている。また，耕作などによる削平を受けているため，床面の西側が失われており，中央部はほとんど露出した状態で検出されている。

**規模と形状** 南北軸3.65m，東西軸は2.50mを確認している。主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は10cmで，外傾している。

**床** ほぼ平坦で，竈の前面から南側へ広がる帯状の範囲が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで81cm，袖部幅111cm，壁外への掘り込み31cmを確認している。火床部は床面から7cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。覆土は第1～5層に分けられ，各層は焼土や砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

**竈土層解説**

- |   |       |                            |   |      |                            |
|---|-------|----------------------------|---|------|----------------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量       | 4 | 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量       |
| 2 | 褐色    | 砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 褐色   | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 | 極暗赤褐色 | 炭化物中量，焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量      |   |      |                            |

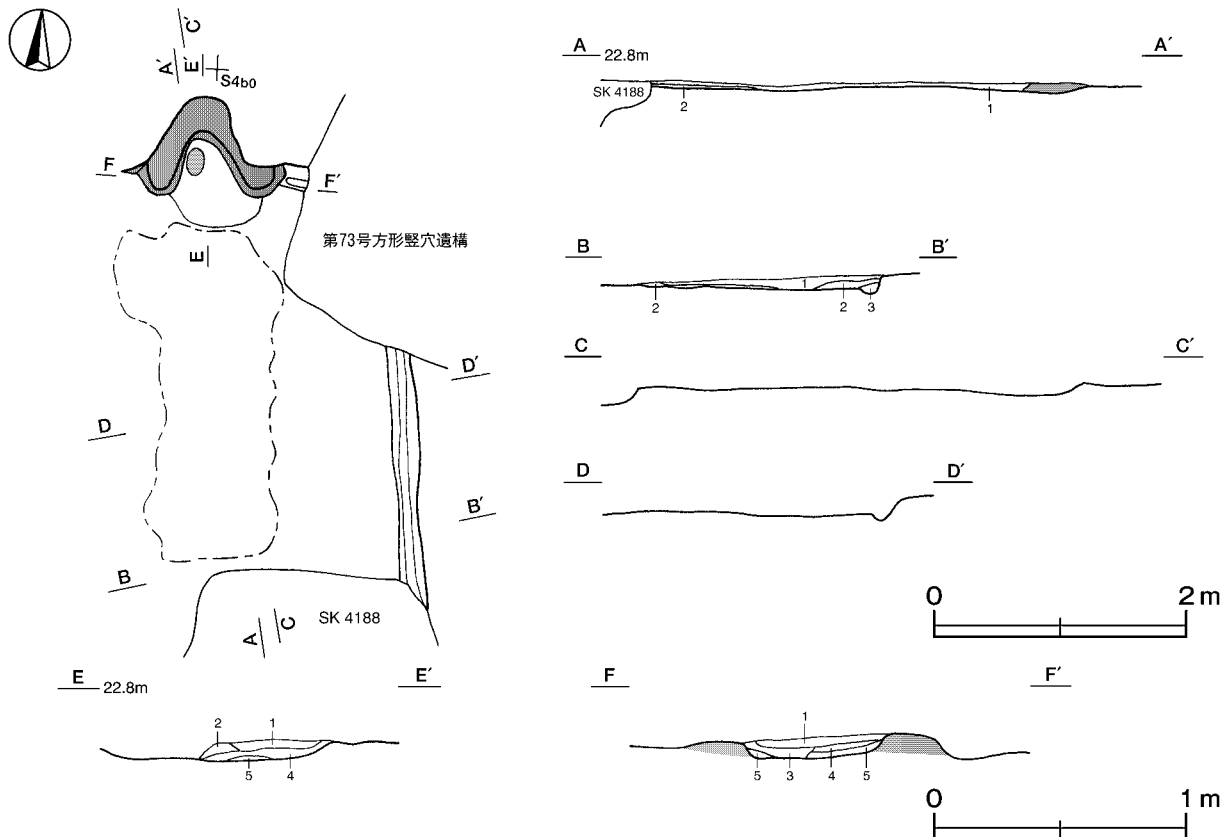
**覆土** 3層に分けられる。層厚が薄いため堆積状況は明確でないが，含有物が微量であることから自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- |   |     |                   |   |    |         |
|---|-----|-------------------|---|----|---------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子少量，炭化粒子微量    |   |    |         |

**遺物出土状況** 土師器片126点(坏31，甕類95)，須恵器片29点(坏13，甕類16)が出土している。土師器坏は，内面に黒色処理が施されたものが主体であるが，いずれも細片である。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀後葉以前と考えられる。



**第540図** 第2616号住居跡実測図

### 第2617号住居跡（第541図）

**位置** 調査区南部のS 5 a1区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2636号住居跡，第474～477号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.94m，短軸2.80mの方形で，主軸方向はN - 87° - Eである。壁高は2～10cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

**竈** 東壁中央部のやや北寄りの位置に付設されている。火床面がほとんど露出した状態で確認され，煙道部の立ち上がりや覆土の状況は不明である。規模は，焚口部から煙道部まで113cm，袖部幅123cmを確認している。袖部は，床面を26cmほど掘りくぼめて，砂質粘土を主体とした第4・5層を積み上げた後，第3層を充填して火床部としている。火床部は床面から2cmほどくぼむ程度で，ほぼ平坦であり，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外への掘り込みが18cmである。

#### 竈土層解説

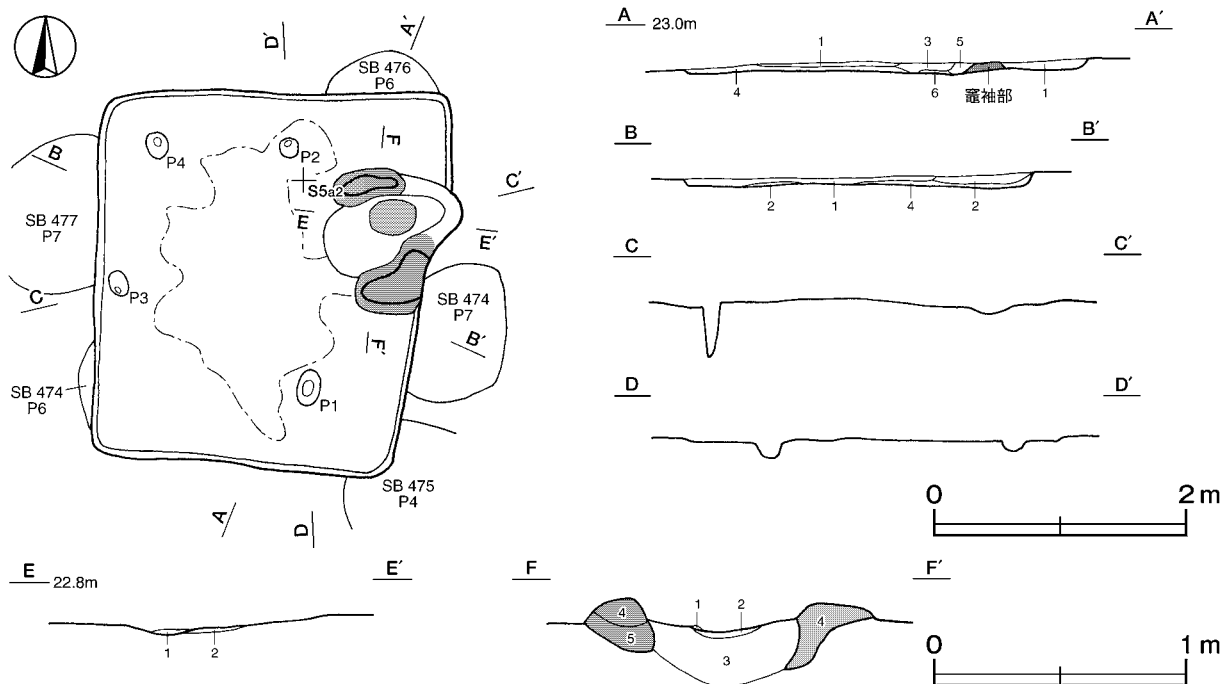
- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量      | 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量        |
| 3 暗褐色 炭化物中量，ロームブロック少量     |                             |

**ピット** 4か所。P1・P2は主柱穴で，深さは16～17cmである。P3は深さ39cmで，西壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ23cmで，北西コーナー部に位置しており，補助的な柱穴と考えられるが明確でない。

**覆土** 6層に分けられる。ロームや砂質粘土のブロックを含む人為堆積である。

#### 土層解説

- |                                |                                   |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量             | 4 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量            | 5 にぶい黄褐色 砂質粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量         |



第541図 第2617号住居跡実測図

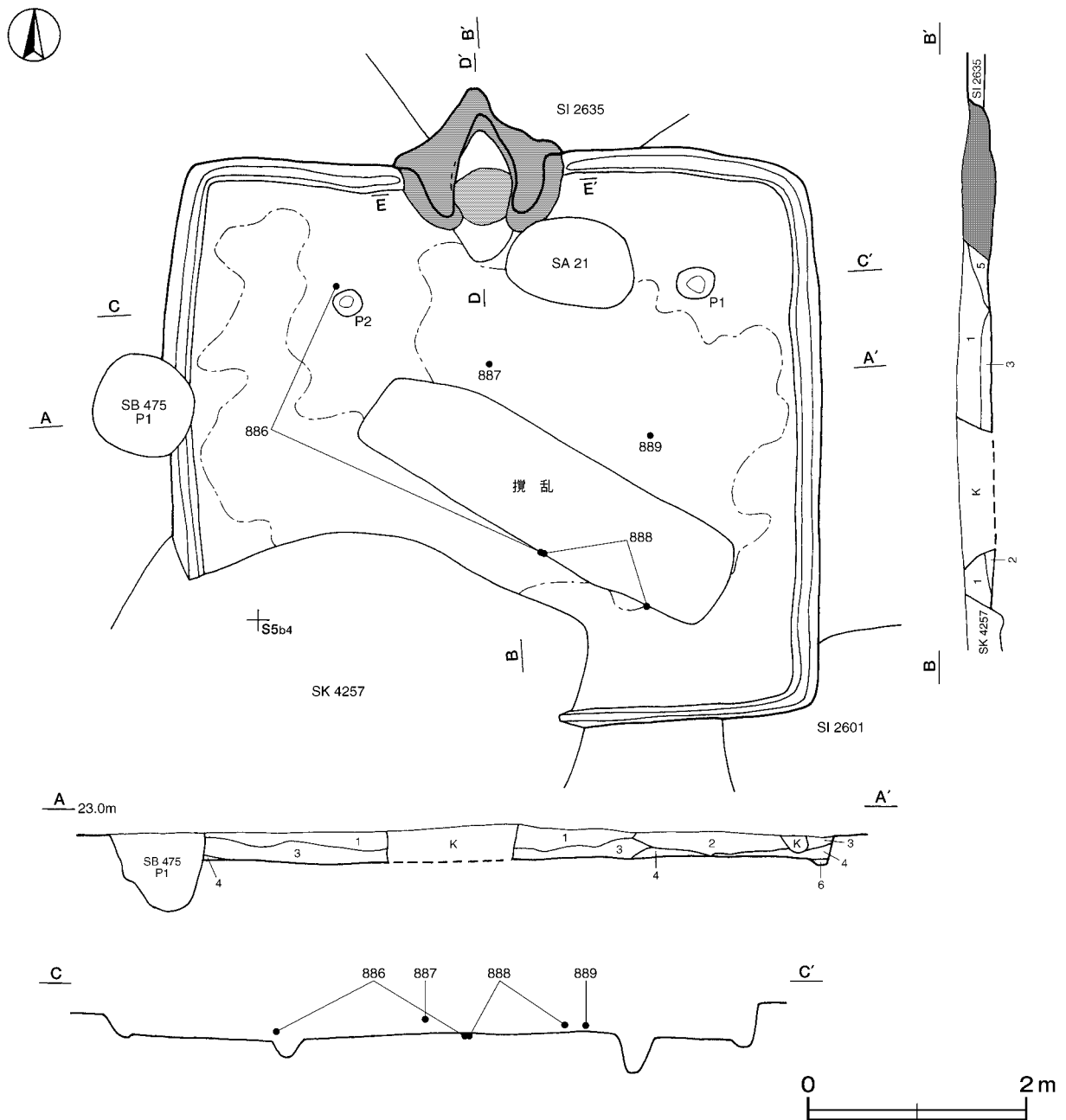
**遺物出土状況** 縄文土器片1点, 土師器片98点( 坏9, 甕類88, 甑1 ), 須恵器片25点( 坏13, 高盤1, 甕類10, 甑1 )が出土しているが, いずれも細片で, 埋没過程で流入したものである。

**所見** 本跡の北方6.5mに位置する第2611号住居跡, 北東28.5mに位置する第2682号住居跡は, いずれも東竈であり, 規模や主軸方向が近似していることから, 同時期に機能した可能性が高い。したがって, 時期は, 第2611・2682号住居跡の年代観から, 11世紀前葉と考えられる。

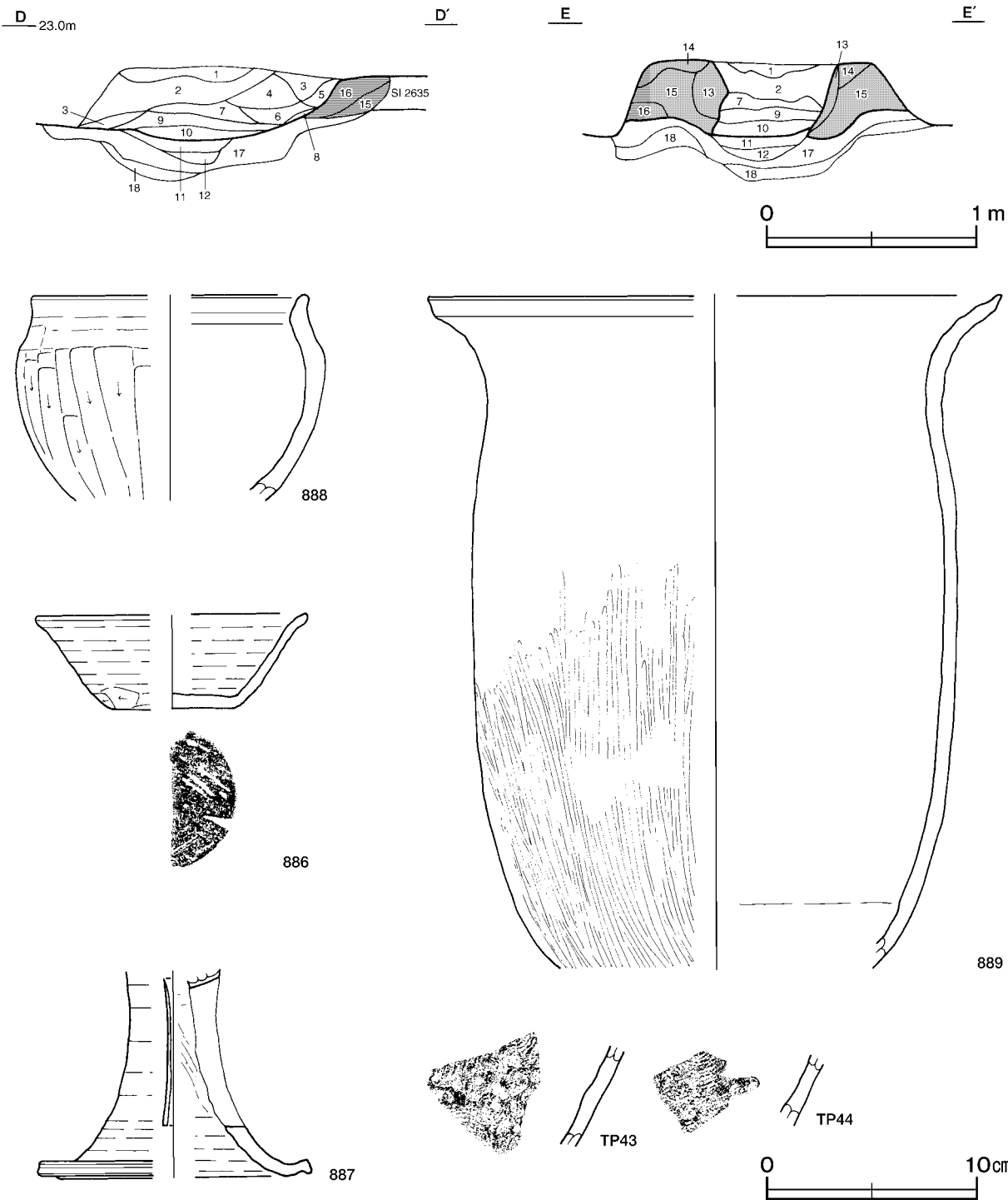
**第2618号住居跡 ( 第542・543図 )**

**位置** 調査区南部のS 5 a4区, 標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2601・2635号住居跡を掘り込み, 第475号掘立柱建物, 第4257号土坑, 第21号柵に掘り込まれている。



第542図 第2618号住居跡実測図



第543図 第2618号住居跡・出土遺物実測図

**規模と形状** 長軸6.0m，短軸5.25mの長方形で，主軸方向はN - 3° - Wである。壁高は15～35cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅17～18cm，深さ4～9cm，U字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで140cm，袖部幅147cmである。袖部は床面を26cmほど掘りくぼめ，第17・18層を盛り上げて袖部の基部を作り，その上部に砂質粘土を主体とする第14～16

層を積み上げて構築している。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。上部には第10層の灰層が7cmの厚さで堆積している。煙道部は緩やかに彎曲して立ち上がっており、奥壁は袖部と同じ砂質粘土で補強されている。覆土は、第1～10層に分けられ、第2層が天井部の崩落土層に相当する。

**竈土層解説**

1 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10 灰褐色	灰多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量	11 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量	12 にぶい赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	14 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
6 暗赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	15 灰黄褐色	砂質粘土粒子多量, ロームブロック・焼土粒子少量
7 灰赤色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量, 炭化粒子微量	16 灰褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
8 にぶい赤褐色	ローム粒子中量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
9 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土粒子微量

**ピット** 2か所。主柱穴で、深さは18～38cmである。

**覆土** 6層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

1 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量	5 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	6 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		
4 褐色	ローム粒子少量		

**遺物出土状況** 土師器片909点(坏123, 高坏6, 鉢3, 甕類764, 甌13), 須恵器片208点(坏70, 高台付坏1, 盤2, 蓋37, 高盤2, 甕類92, 甌4), 灰釉陶器片1点(瓶類), 石製品1点(管玉), 鉄製品2点(不明), 粘土塊1点のほか, 石器2点(剥片)が流れ込んでいる。886・888・889は覆土下層, 887は覆土上層から, 中央部に散在した状態でそれぞれ出土しており, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀前葉以前と考えられる。

**第2618号住居跡出土遺物観察表(第543図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
886	須恵器	坏	[12.6]	4.5	[6.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面口ロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	下層	30%
887	須恵器	高盤	-	(9.8)	[13.0]	長石・石英	黄灰	普通	脚部内・外面口ロナデ 脚柱部内面ナデ 二方向の透かし孔	上層	15%
888	土師器	鉢	[12.8]	(9.8)	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	下層	40%
889	土師器	甕	[27.2]	(32.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	下層	35%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP43	須恵器	甕	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面同心円文叩き 内面ナデ	覆土中	
TP44	須恵器	甕	-	(3.4)	-	長石・雲母	灰黄	普通	体部外面同心円文叩き 内面ナデ	覆土中	

**第2619号住居跡(第544・545図)**

**位置** 調査区中央部のR5g4区, 標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第473号掘立柱建物跡を掘り込み, 第74号井戸に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.75m, 短軸3.40mの長方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁高は10～14cmで, ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で, 竈周辺を含む中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで100cm, 袖部幅115cmである。火床部は床面から15cm

ほどくぼんでおり、火床面が赤変硬化し、焚口から58cmの位置に支脚が据えられている。煙道部は奥壁で急に立ち上がっている。覆土は3層に分層され、焼土や炭化物を多く含む人為堆積である。

**覆土層解説**

- |                                   |                                 |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 2 暗褐色 焼土ブロック多量, 炭化物・粘土粒子微量      |
|                                   | 3 灰褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量 |

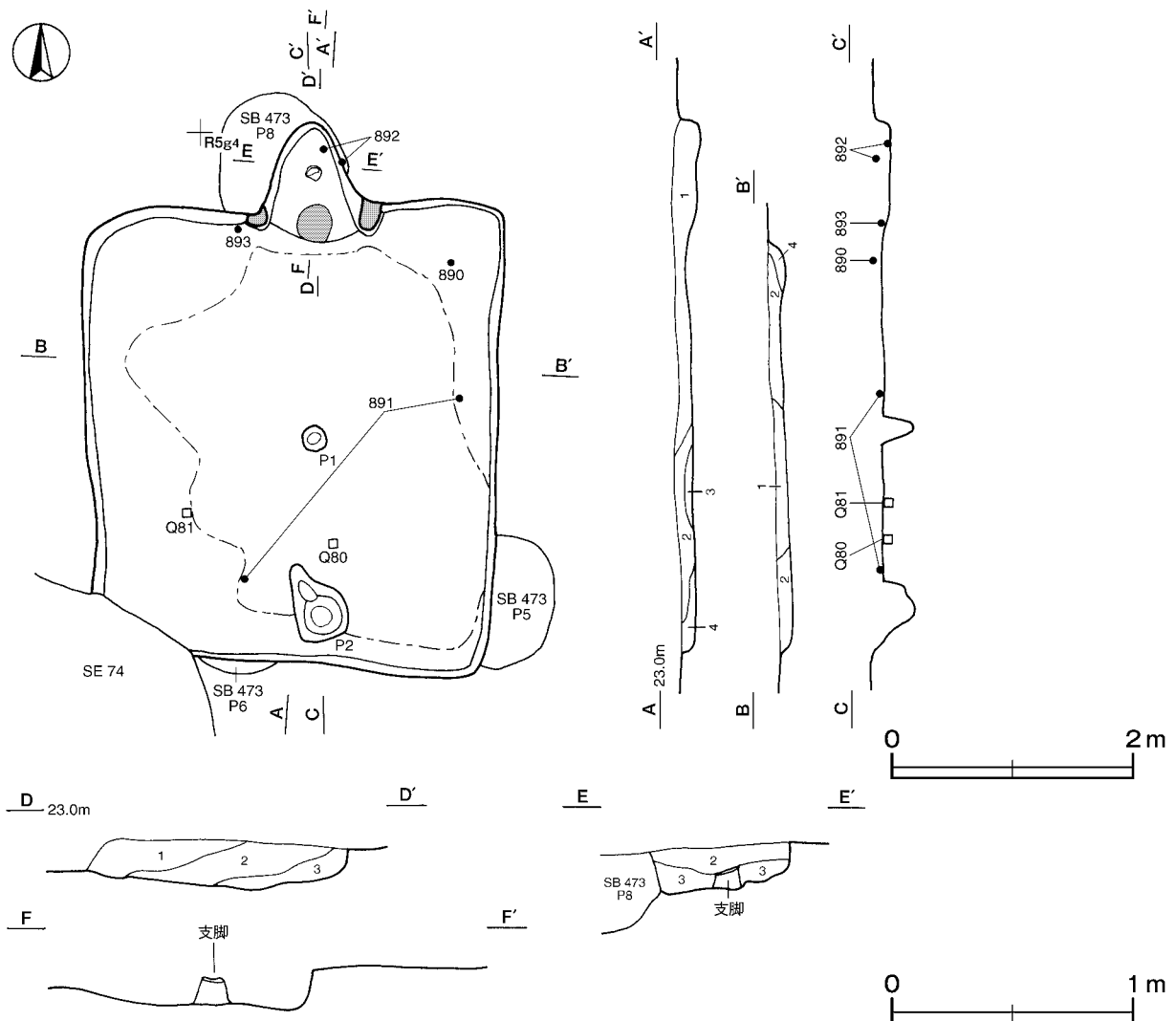
**ピット** 2か所。P1は深さ24cmで、中央部に単独で位置しており、主柱穴と考えられる。P2は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 4層に分けられる。各層とも炭化物やロームブロックを含む人為堆積である。

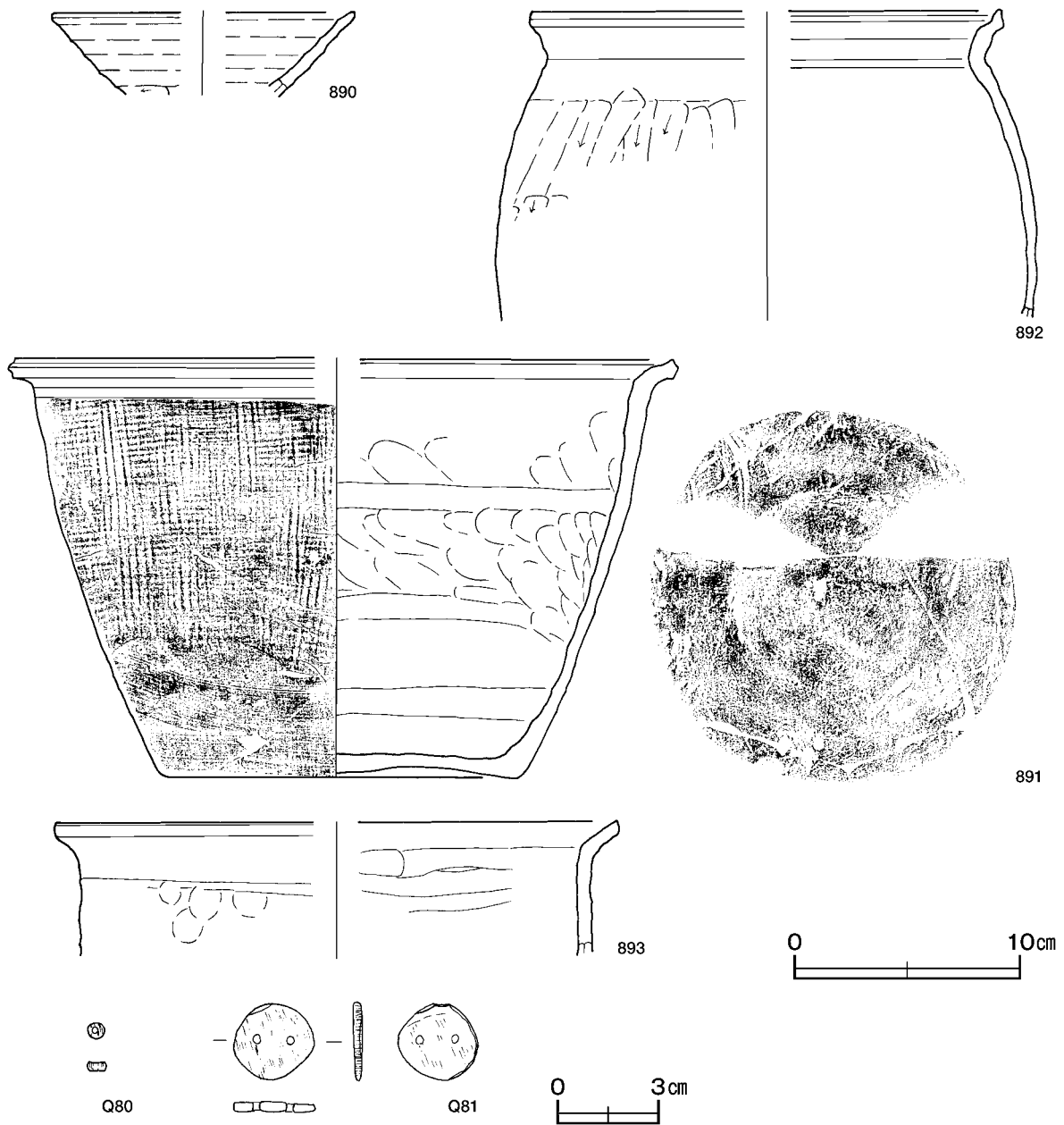
**土層解説**

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック少量         |
| 2 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |

**遺物出土状況** 土師器片378点(坏25, 高坏1, 甕類352), 須恵器片110点(坏27, 蓋6, 鉢16, 甕類61), 土製品1点(支脚), 石製品2点(白玉, 双孔円板), 鉄滓1点が出土している。891は床面に散在した状態で出土している。また, 893は竈の左袖部際, Q80は中央部の南側, Q81は中央部の南西側の床面, 890は北東部の覆土下層, 892は竈の煙道部の覆土中層からそれぞれ出土している。出土土器はいずれも破片であり, 廃絶時に遺棄されたものが破碎したか, 廃絶直後に投棄された可能性が考えられる。



第544図 第2619号住居跡実測図



第545図 第2619号住居跡出土遺物実測図

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2619号住居跡出土遺物観察表（第545図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
890	土師器	坏	[13.1]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り	下層	5%
891	須恵器	鉢	[28.6]	18.6	16.4	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面ロクロナデ 体部外面格子状叩き 下位手持ちヘラ削り 内面ナデ 指頭痕 底部網代痕	床面	55% PL129
892	土師器	甕	[21.8]	(13.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	竈中層	20%
893	土師器	甌	[24.8]	(6.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 指頭痕 内面ヘラナデ	床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q80	白玉	0.5	0.3	0.2	0.2	滑石	円筒状 両面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL144
Q81	双孔円板	2.4	0.3	0.19	2.9	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL144



## 第2620号住居跡（第546・547図）

**位置** 調査区南部のS 5 g1区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第102号堀に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.90m，短軸3.50mの長方形で，主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は5～15cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，主柱穴の内側が踏み固められている。北東コーナー部の一部を除く壁下には，幅14～15cm，深さ5～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 2か所。竈1は，北壁中央部に付設されている。煙道部を第102号堀に掘り込まれており，袖部幅106cmを確認している。火床部は床面から13cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。覆土は第1～3層に分けられ，全体的に焼土ブロックや砂質粘土粒子含む人為堆積である。竈2は，東壁南寄りに付設されている。焚口はP2に掘り込まれており，また，袖部もほとんど遺存していない。火床部は床面から9cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に47cm掘り込まれ，奥壁が外傾して立ち上がっている。竈は，主柱穴の位置や袖部の遺存状態から，竈2から竈1へ作り替えられている。

### 竈1土層解説

- |         |                            |       |                         |
|---------|----------------------------|-------|-------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 赤褐色 | 焼土粒子多量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色  | 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |       |                         |

### 竈2土層解説

- |        |                     |       |                            |
|--------|---------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量               |
| 3 褐色   | ローム粒子中量，焼土粒子微量      | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 4 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |       |                            |

**ピット** 6か所。P1～P4は主柱穴で，深さは15～52cmである。P5は深さ25cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ15cmで，南東コーナー部に位置している。竈2の機能時に伴う主柱穴と考えられ，竈の作り替えの際に，P2へ移設されたと推定される。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。長径80cm，短径55cmの楕円形で，深さは43cmである。底面は皿状で，南側の中位に階段状のテラス面をもち，その他の壁は外傾して立ち上がっている。覆土は土層の締まりが強い人為堆積である。

### 貯蔵穴土層解説

- |        |                       |      |           |
|--------|-----------------------|------|-----------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色  | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 |      |           |

**覆土** 11層に分けられる。上層に粒径の大きいロームブロックを含み，複雑な堆積状況を示す人為堆積である。

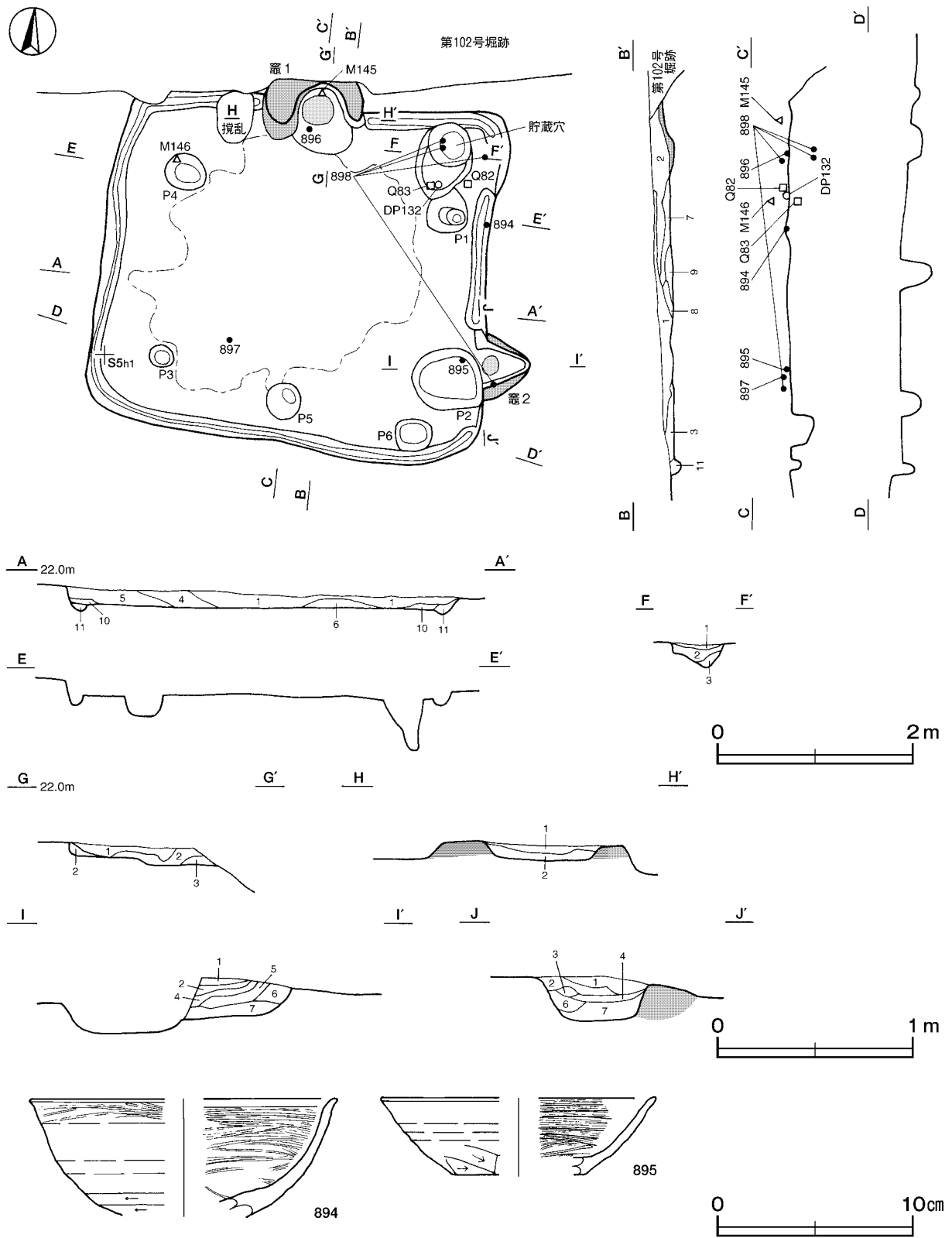
### 土層解説

- |        |                       |          |                        |
|--------|-----------------------|----------|------------------------|
| 1 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 7 暗褐色    | 炭化粒子少量，焼土ブロック・ローム粒子微量  |
| 2 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量             | 9 暗褐色    | 炭化粒子少量，砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量        | 10 褐色    | ロームブロック少量              |
| 5 暗褐色  | ロームブロック微量             | 11 暗褐色   | ローム粒子少量                |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック少量             |          |                        |

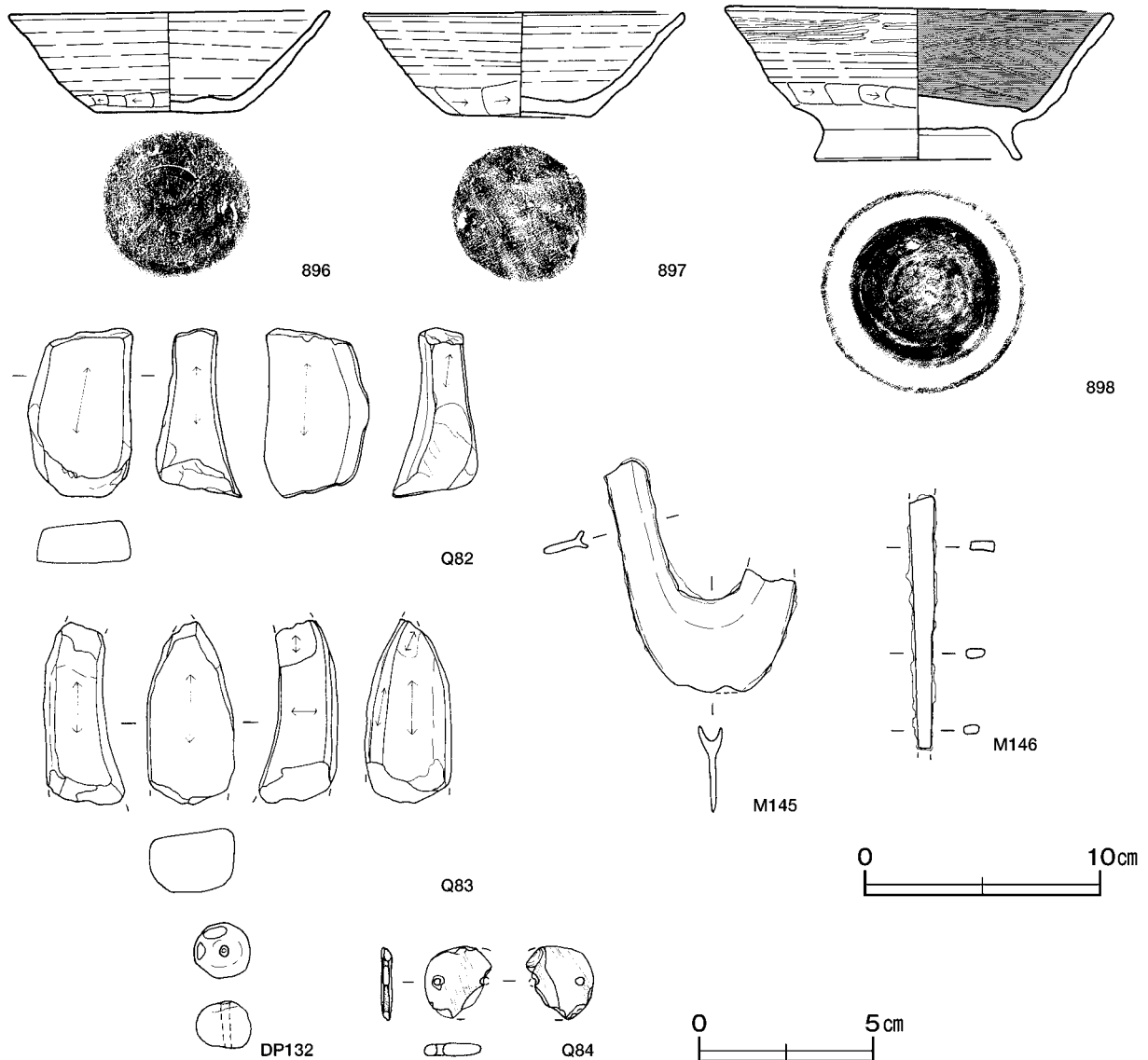
**遺物出土状況** 土師器片447点(坏178，高台付椀17，甕類252)，須恵器片95点(坏69，蓋3，高盤2，甕類21)，土製品1点(土玉)，石器2点(砥石)，石製品1点(双孔円板)，鉄製品2点(鋤先1，鎌カ1)，粘土塊2点が出土している。898は竈2の覆土中と貯蔵穴の底面から出土した破片が接合しており，竈2と貯蔵穴が同時に廃絶した可能性が考えられる。DP132も貯蔵穴のテラス面上から出土しており，貯蔵穴の廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M146は北西側，Q84は東壁際の覆土上層，897は中央部の覆土中層，895はP2の覆土上層，894は東側の壁溝の覆土中，M145は竈の覆土上層，896は竈の覆土下層からそれぞれ出土しており，い

いずれも廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第546図 第2620号住居跡・出土遺物実測図



第547図 第2620号住居跡出土遺物実測図

第2620号住居跡出土遺物観察表 (第546・547図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
894	土師器	坏	[15.6]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部外面・体部内面へラ磨き 外面下端回転へラ削り	壁溝覆土中	35%
895	土師器	坏	[14.0]	3.9	[6.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面口クロナデ 下端手持ちへラ削り 内面へラ磨き	P 2 上層	30%
896	須恵器	坏	13.6	4.3	5.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ切り後一方向の手持ちへラ削り	竈下層	100% PL130
897	須恵器	坏	13.6	4.1	6.1	長石・石英	灰黄	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端手持ちへラ削り 底部回転へラ切り後一方向の手持ちへラ削り	中層	95% PL130
898	土師器	高台付碗	16.3	6.6	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部外面・体部内面へラ磨き 外面下端手持ちへラ削り 底部回転へラ切り後ナデ 高台貼り付け	貯蔵穴底面 竈 2 覆土中	80% PL130

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP132	土玉	1.6	1.3	0.25	3.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	貯蔵穴底面	PL140

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q82	砥石	7.2	4.3	1.8	112.1	凝灰岩	砥面4面 断面長方形	上層	
Q83	砥石	(7.8)	3.7	3.4	(113.1)	凝灰岩	端部欠損 砥面8面 断面六角形	上層	PL142

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q84	双孔円板	(2.1)	0.3	0.21	(1.8)	滑石	一部欠損 両面研磨 一方向からの穿孔	上層	PL144

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M145	鋤先	9.9	(8.1)	0.7~1.0	(50.1)	鉄	U字状 断面Y字状 身(着装部)の差込式 1部欠損	竈上層	PL146

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M146	鎌カ	(10.8)	1.1	0.4	(23.2)	鉄	刃部欠損 断面長方形 棒状	上層	

### 第2621号住居跡(第548・549図)

**位置** 調査区中央部のR4j0区, 標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第93号堀, 第4196・4240号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北軸3.86mで, 西側は第93号堀に掘り込まれており, 東西軸は3.64mを確認している。主軸方向はN-0°である。壁高は25~45cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で, 支柱穴の内側が踏み固められている。壁下には, 幅16~18cm, 深さ7~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで147cm, 袖部幅156cmである。袖部は床面を25cmほど掘りくぼめて第17層を充填し, 砂質粘土を含む第13~16層を積み上げて構築している。火床部は床面から13cmほどくぼんでおり, 火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40cm掘り込まれており, 火床面から緩やかに立ち上がっている。奥壁には袖部と同じ第16層を貼り付けて補強している。覆土は第1~11層に分けられ, 第2層が天井部の崩落土層に相当する。各層は煙道部側から流入した自然堆積の状況を示しており, その上部に天井部が崩落していることから, 住居の廃絶後, 竈は一定期間放置された状態であったと推定される。

#### 竈土層解説

1 極暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量	13 暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
3 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 極暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量	17 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
7 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・灰微量		
8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		
9 極暗赤褐色	焼土粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量		
10 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量		
11 暗赤褐色	焼土粒子少量, 砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

**ピット** 6か所。P1~P4は深さ12~21cmで, 位置と形状から支柱穴に相当する。P5は深さ25cmで, 南側中央部の壁際に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ23cmで, P5を掘り込んでおり, 抜き取り痕と考えられる。

**覆土** 7層に分けられる。下層にみられる含有物は, 壁や竈の崩落土層に相当し, 上層では細粒かつ微量であることから自然堆積と考えられる。

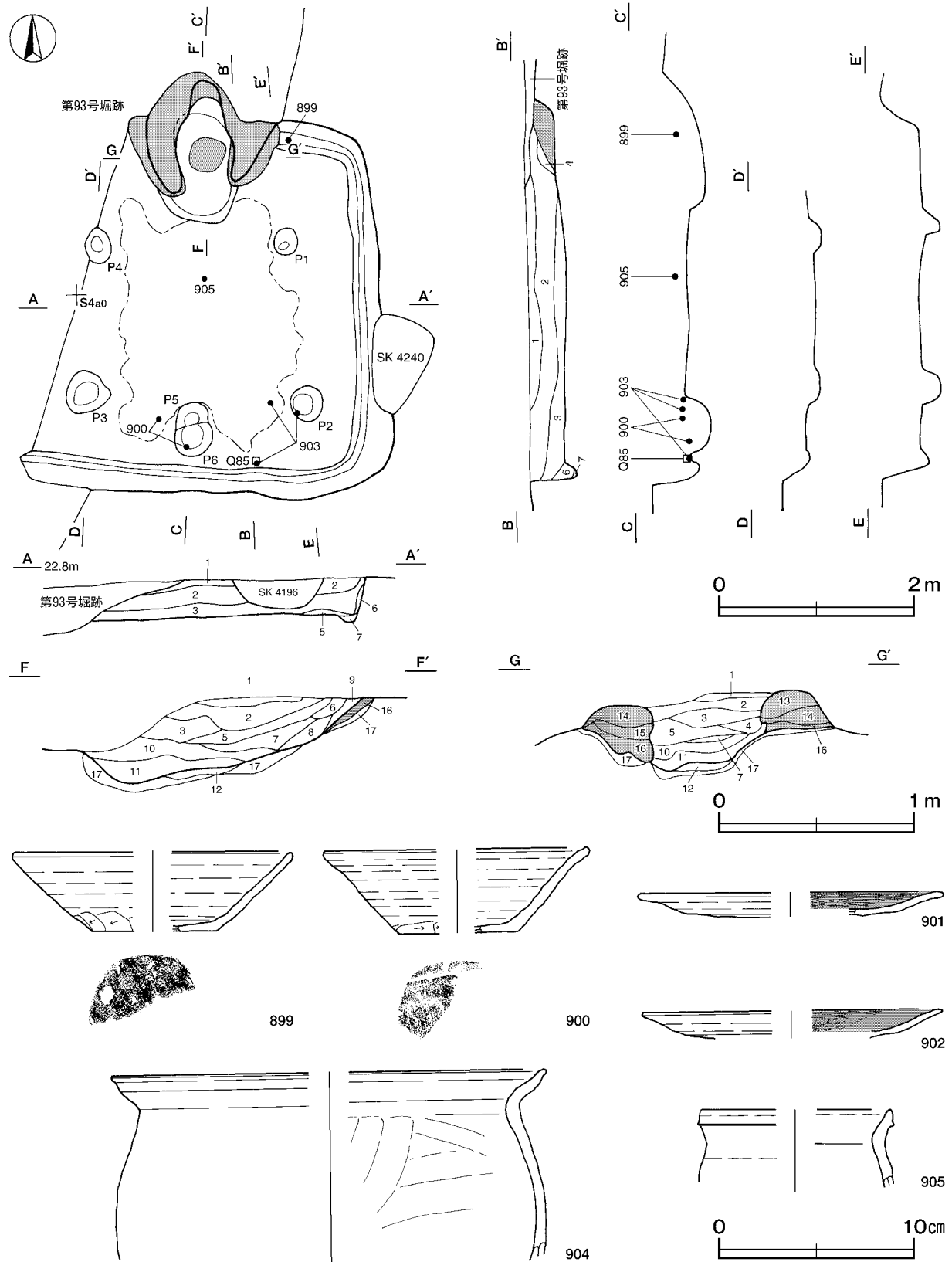
#### 土層解説

1 暗褐色	焼土粒子微量	5 にぶい褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		

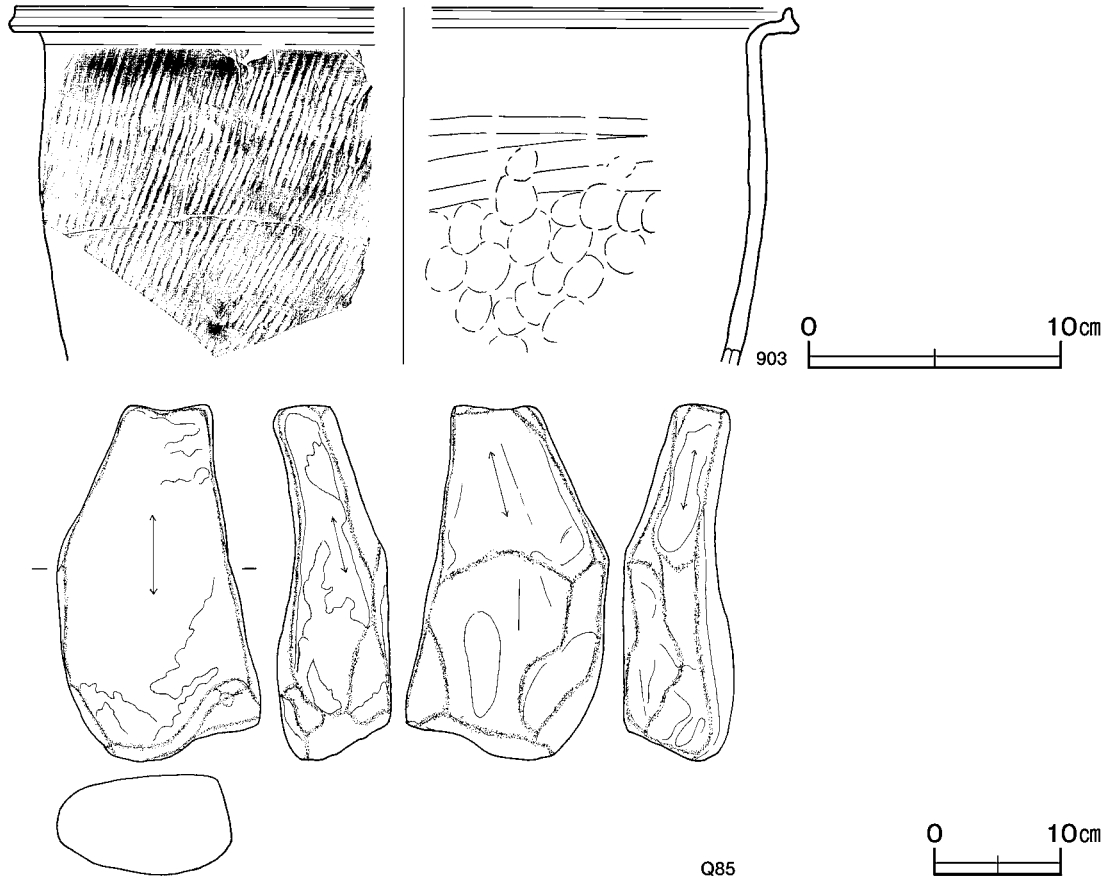
**遺物出土状況** 土師器片517点(坏53, 皿3, 高坏2, 甕類458, 甌1), 須恵器片164点(坏74, 蓋2, 盤7, 鉢8, 甕類72, 甌1), 灰釉陶器片1点(瓶類), 石器1点(砥石), 鉄製品1点(刀子)が出土している。900・

903・Q85は南壁際の床面に散在した状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。899・905は覆土下層から出土しており、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第548図 第2621号住居跡・出土遺物実測図



第549図 第2621号住居跡出土遺物実測図

第2621号住居跡出土遺物観察表（第548・549図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
899	須恵器	坏	[13.9]	4.1	[6.9]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ 体部外面下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向の手持ちヘラ削り	下層	35%
900	須恵器	坏	[13.4]	4.3	[6.0]	長石・石英・雲母	黒	不良	体部内・外面口クロナデ 体部外面下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	床面	45%
901	土師器	皿	[14.8]	(1.2)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5%
902	土師器	皿	[16.2]	(1.3)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5%
903	須恵器	鉢	[30.6]	(14.2)	-	石英・雲母	灰黄	良好	体部外面縦位平行叩き 体部内面当て具痕	床面	15%
904	土師器	甕	[22.2]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	竈覆土中	10%
905	土師器	小形甕	[9.7]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ	下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q85	砥石	28.3	16.2	8.0	5180.4	砂岩	砥面4面 断面隅丸長方形	床面	

第2623号住居跡（第550・551図）

位置 調査区南部のS 4 f0区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2591号住居，第102号堀，第4275・4276号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は6.22mで，南半部は第102号堀に掘り込まれており，南北軸は3.60mを確認している。

主軸方向はN - 2° - Wである。壁高は12~44cmで，ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅10~12cm，深さ7~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部のやや東寄りの位置に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで83cm，袖部幅102cmである。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。覆土は第1～7層に分けられ，全体的にロームや焼土の粒子を含む人為堆積である。

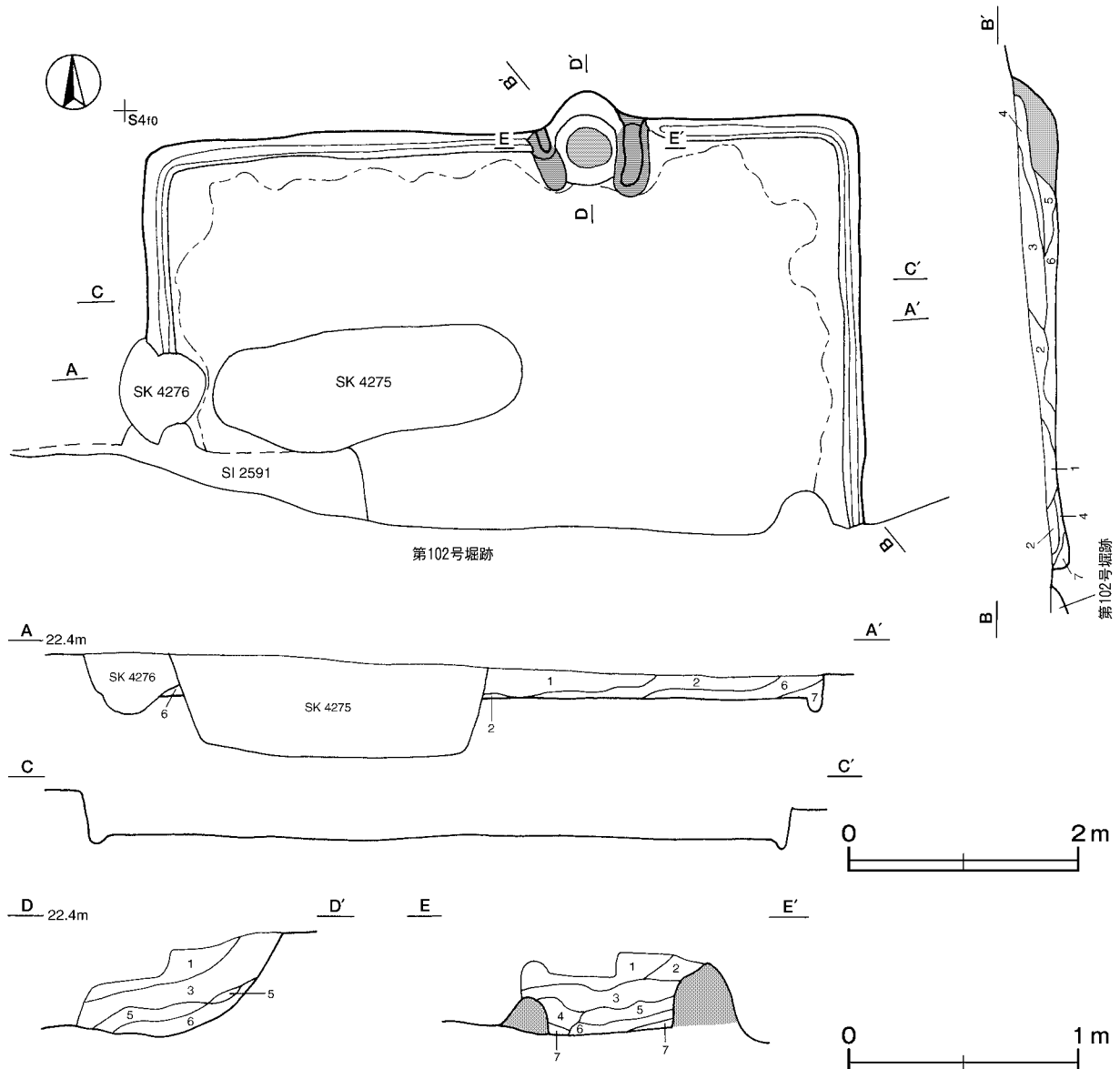
**竈土層解説**

- |          |                          |        |                        |
|----------|--------------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        | 5 黒褐色  | 砂質粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色    | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量      | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量   |
| 3 暗褐色    | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量    | 7 黒褐色  | 焼土ブロック・炭化粒子少量          |
| 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |        |                        |

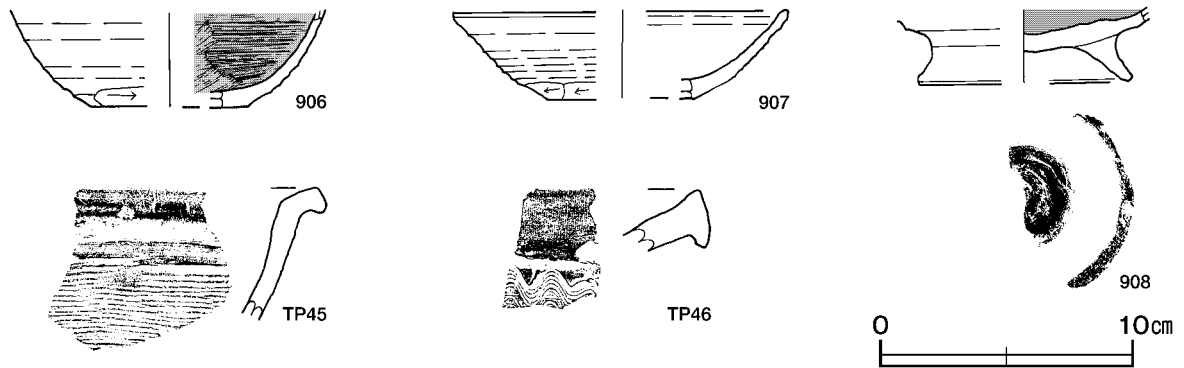
**覆土** 7層に分けられる。第5層は天井部および袖部の構築材である砂質粘土粒子を多く含んでおり，北側から押し出されるように，竈の前面に広がっている。各層ともローム粒子を含む人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                              |         |                         |
|-------|------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量          | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子少量，炭化粒子微量               | 6 黒褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量            |
| 3 褐色  | ローム粒子中量，焼土粒子微量               | 7 褐色    | ローム粒子中量                 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |         |                         |



第550図 第2623号住居跡実測図



第551図 第2623号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片641点（坏135，高台付碗8，甕類498），須恵器片107点（坏47，高台付坏1，蓋2，鉢1，瓶類6，甕類50）が出土している。906～908は北西部の覆土中から出土しており，廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉以前と考えられる。

第2623号住居跡出土遺物観察表（第551図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
906	土師器	坏	-	(2.8)	[6.0]	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	15%
907	土師器	坏	[13.2]	3.5	[5.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	覆土中	10%
908	土師器	高台付碗	-	(2.9)	[8.6]	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP45	須恵器	鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	不良	口辺部内・外面ロクロナデ 体部外面横位平行叩き 内面ナデ	覆土中	
TP46	須恵器	甕	-	(2.4)	-	長石・石英	灰	良好	口辺部内・外面ロクロナデ 頸部外面波状文	覆土中	

### 第2626号住居跡（第552・553図）

**位置** 調査区中央部のR 4 a0区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2628号住居跡を掘り込み，第74号方形竪穴遺構，第51・53号地下式塙，第4331～4333号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.96m，短軸5.37mの長方形で，主軸方向はN - 5° - Eである。壁高は4～28cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，竈周辺を含む主柱穴の内側が踏み固められている。壁下には，幅14～28cm，深さ3～7cmで浅いU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

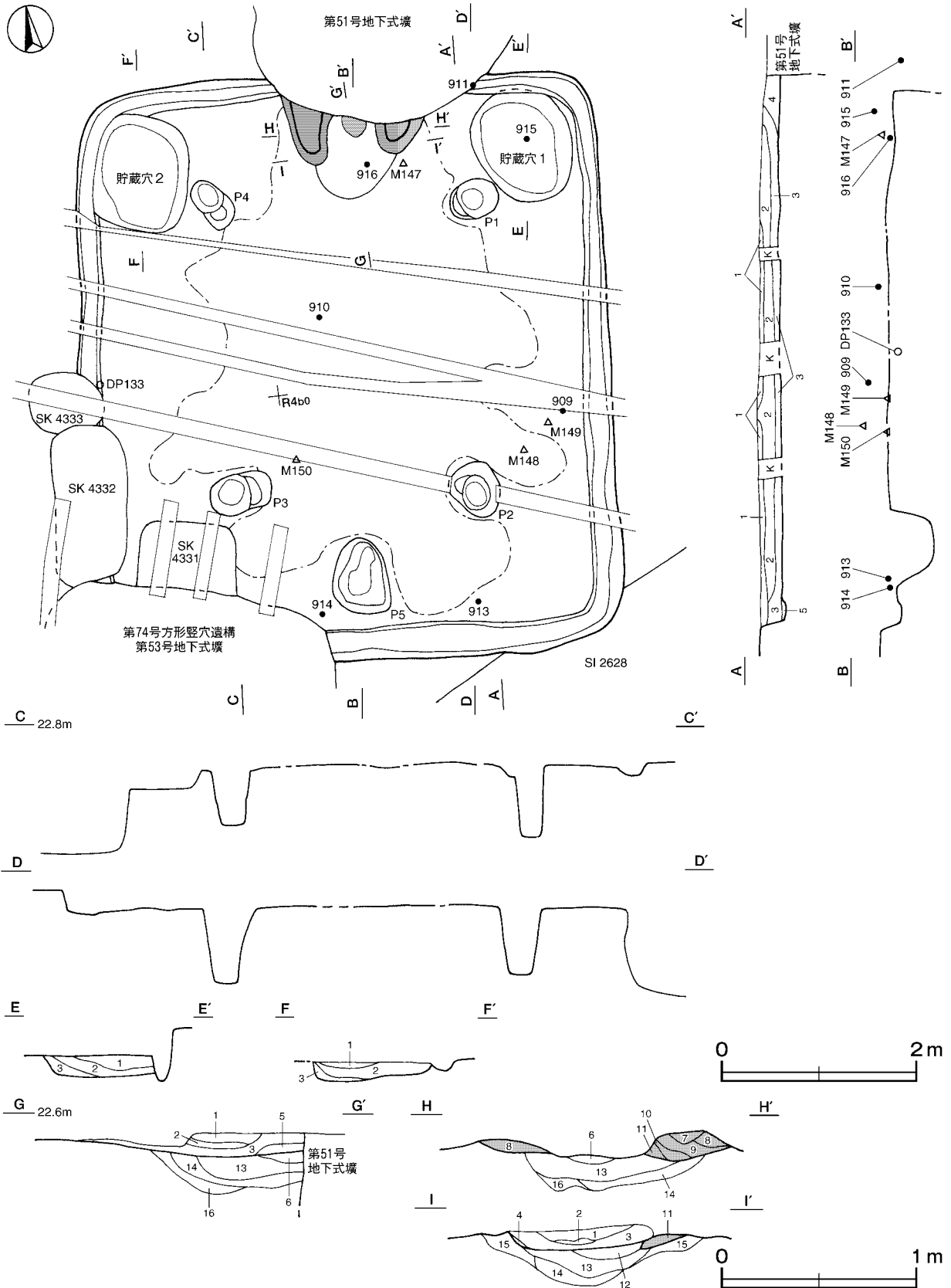
**竈** 北壁中央部に付設されている。竈の北半分を第51号地下式塙に掘り込まれており，煙道部の規模や形状は不明である。袖部は幅138cmで，床面を26cmほど掘りくぼめて，第12～16層を充填し，その上部に粘土粒子を含む第7～11層を積み上げて構築している。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり，火床面は赤変硬化している。覆土は第1～5層に分けられ，全体的にロームや焼土，粘土の粒子を含む人為堆積である。

#### 竈土層解説

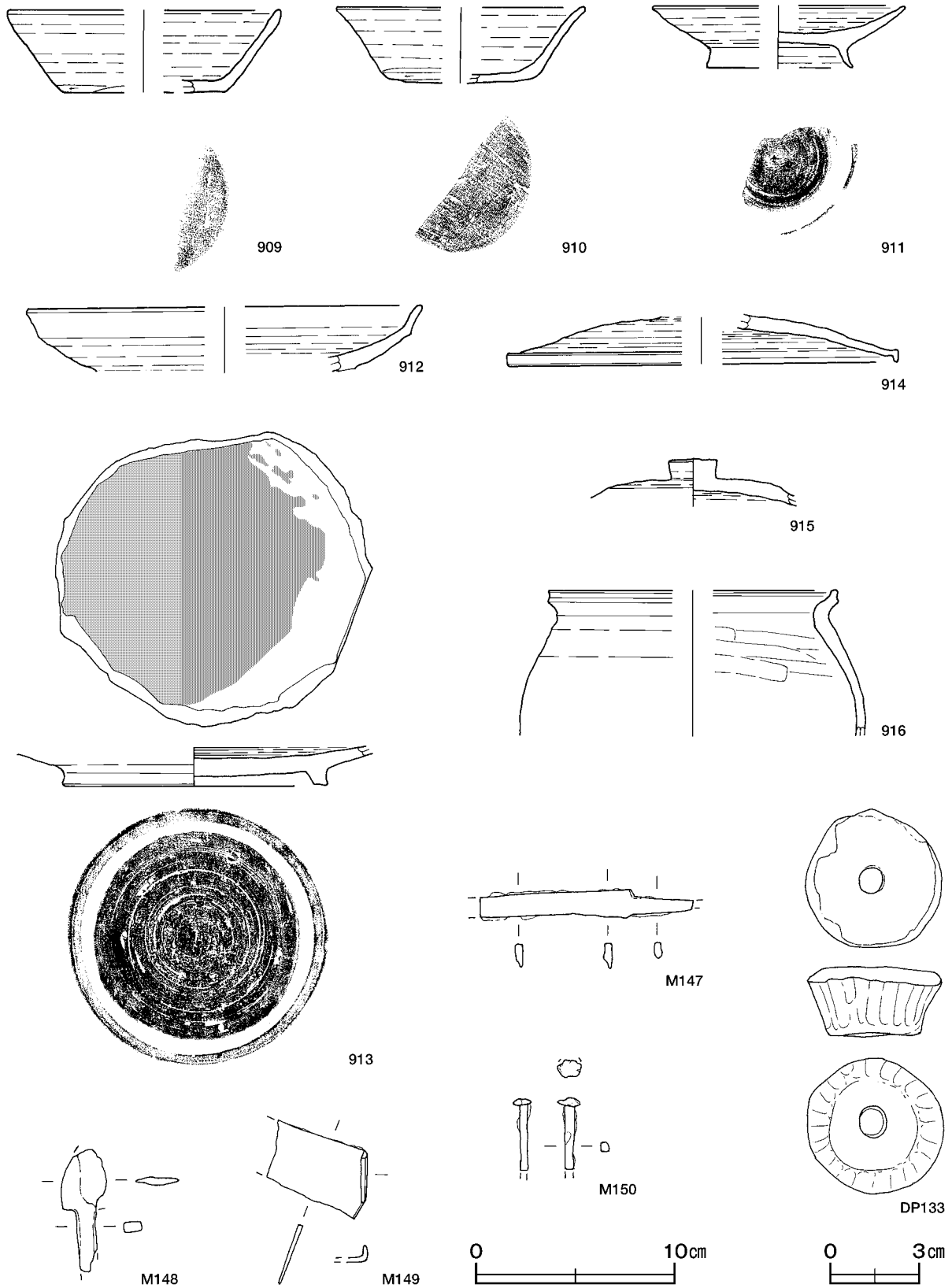
1	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	4	灰褐色	粘土ブロック少量 焼土ブロック・ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量
3	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	6	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量



- |          |                        |          |                           |
|----------|------------------------|----------|---------------------------|
| 7 暗 褐 色  | ローム粒子・粘土粒子微量           | 13 灰 褐 色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |
| 8 灰 褐 色  | 粘土粒子中量, ローム粒子微量        | 14 暗 褐 色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量        |
| 9 灰 褐 色  | 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量   | 15 褐 色   | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 10 褐 色   | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量    | 16 褐 色   | ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量      |
| 11 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |          |                           |
| 12 灰 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |          |                           |



第552図 第2626号住居跡実測図



第553図 第2626号住居跡出土遺物実測図

**ピット** 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは59～79cmである。P5は深さは46cmで、南壁際中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。各ピットとも柱の抜き取り痕が認められる。

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に位置し、長径121cm、短径99cmの楕円形で、深さは24cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。貯蔵穴2は北西コーナー部に位置し、長軸107cm、短軸96cm、深さ21cmである。底面は皿状で、壁は彎曲して立ち上がっている。覆土はともに不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**貯蔵穴1土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

**貯蔵穴2土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

**覆土** 5層に分けられる。層中にブロック状の堆積がみられる人為堆積である。また、中央部ではほぼ水平な堆積状況が認められ、締まりも強いことから、土を均して、踏み固めながら埋め戻されたと考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片545点（坏44，高坏1，鉢1，甕類499），須恵器片268点（坏167，蓋16，盤12，高盤1，鉢2，甕類67，瓶類2，甌1），灰釉陶器片3点（瓶類），土製品1点（紡錘車），鉄製品5点（刀子1，鏃1，鎌1，釘2）が覆土上層から中層を中心に出土している。いずれも破片で、出土位置は東半部や壁際に偏る傾向がみられることから、廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉以前と考えられる。

**第2626号住居跡出土遺物観察表（第553図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
909	須恵器	坏	[13.6]	4.2	[8.3]	長石・石英	灰	良好	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後一方向のヘラナデ	上層	15%
910	須恵器	坏	[12.5]	3.9	[7.4]	長石・石英・雲母	黒	普通	体部内・外面ロクロナデ 下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後一方向のヘラナデ	中層	15%
911	須恵器	高台付皿	[12.6]	3.1	[7.4]	長石	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後 高台貼り付け	壁溝覆土中	40%
912	須恵器	盤	[19.6]	(3.2)	-	長石・雲母	灰黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後 高台貼り付け	覆土中	10%
913	須恵器	盤	-	(2.0)	13.0	長石・石英	灰	良好	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後 高台貼り付け	下層	70% 硯転用
914	須恵器	蓋	[19.6]	(2.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り	下層	20%
915	須恵器	蓋	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り後摘貼り付け つまみ径2.6cm つまみ高1.1cm	上層	15%
916	土師器	甕	[14.4]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	下層	10%

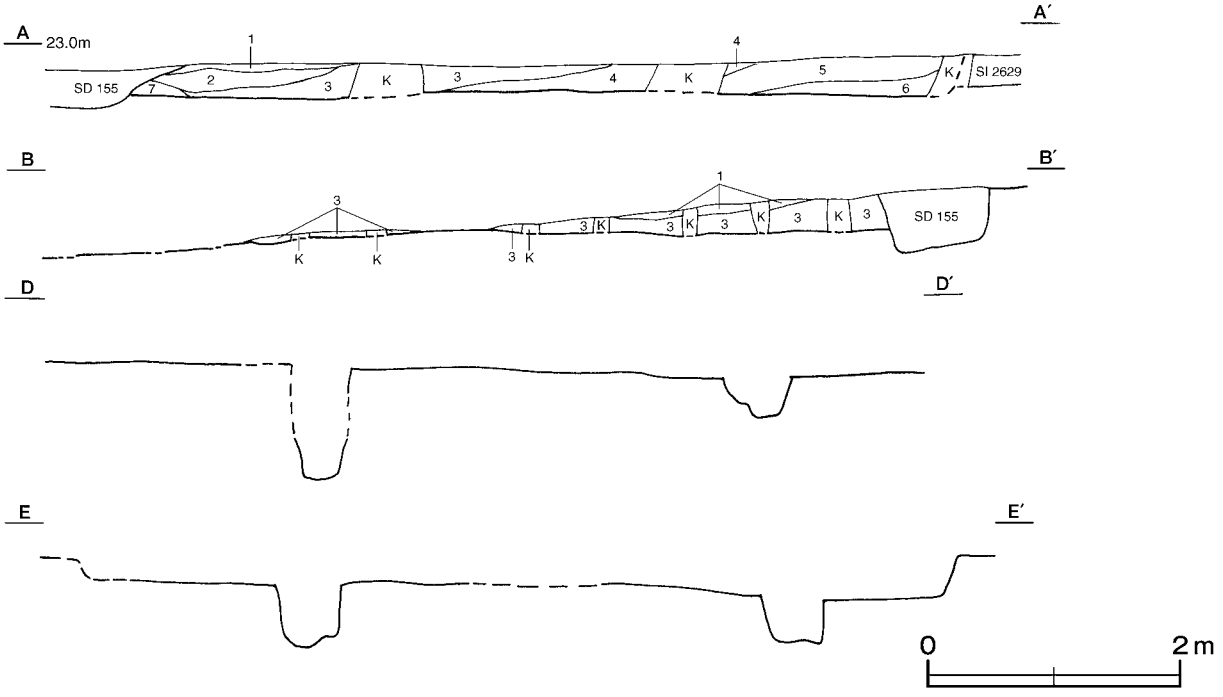
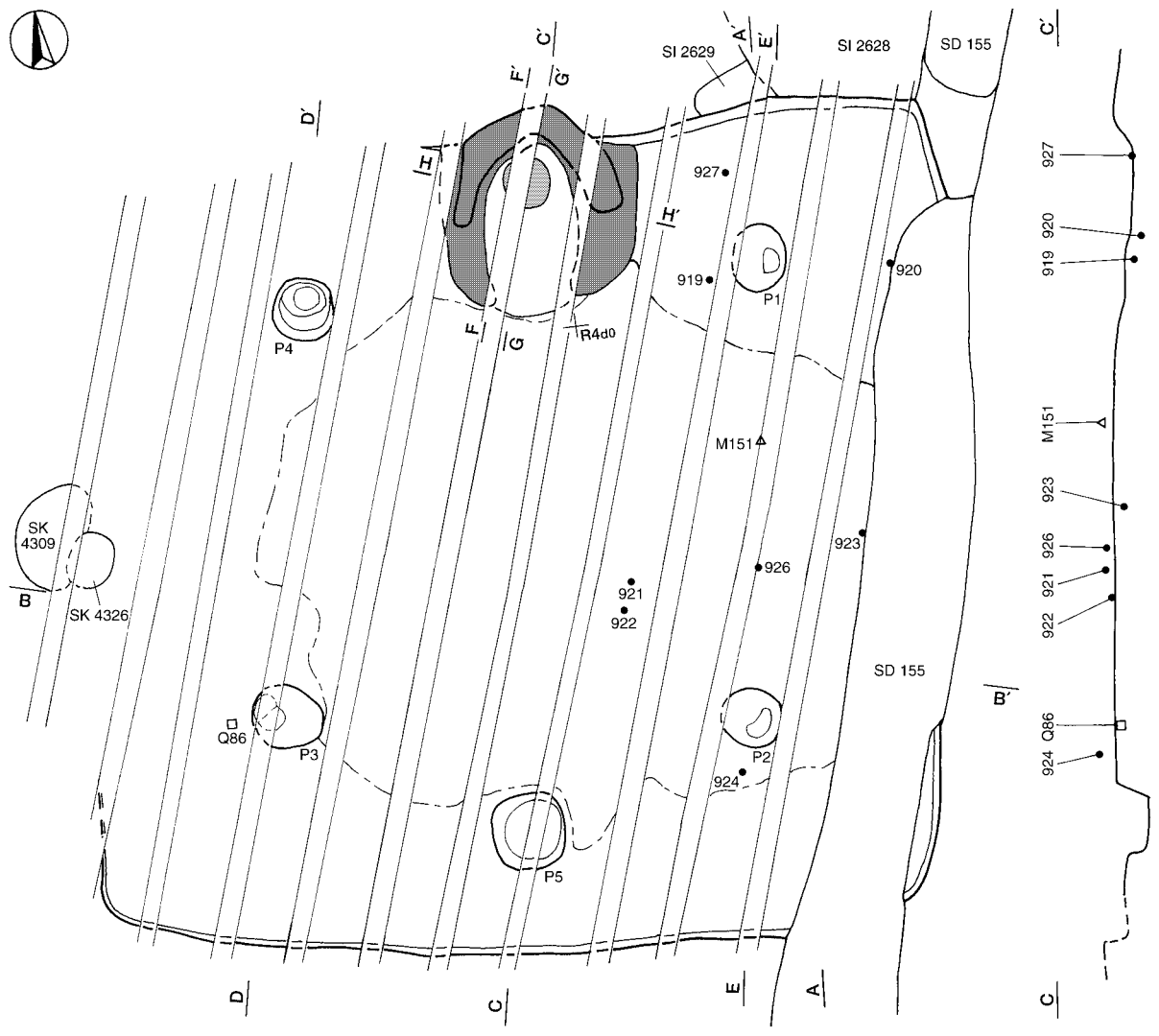
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP133	紡錘車	4.6	2.3	1.0	48.4	土(長石・石英)	ヘラ磨き 二方向からの穿孔	床面	PL139

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M147	刀子	(10.8)	1.5	0.4~0.5	(13.5)	鉄	刃部一部欠損 断面三角形	下層	
M148	鏃	(6.2)	(2.3)	0.57	(12.0)	鉄	刃部・頸部一部欠損 三角形式 両鑄造	上層	
M149	鎌	(5.1)	(3.4)	0.2	(18.5)	鉄	刃部欠損 片開	床面	PL146
M150	釘	(3.6)	0.7	0.5	(2.9)	鉄	端部欠損 頭部円形 断面方形	床面	

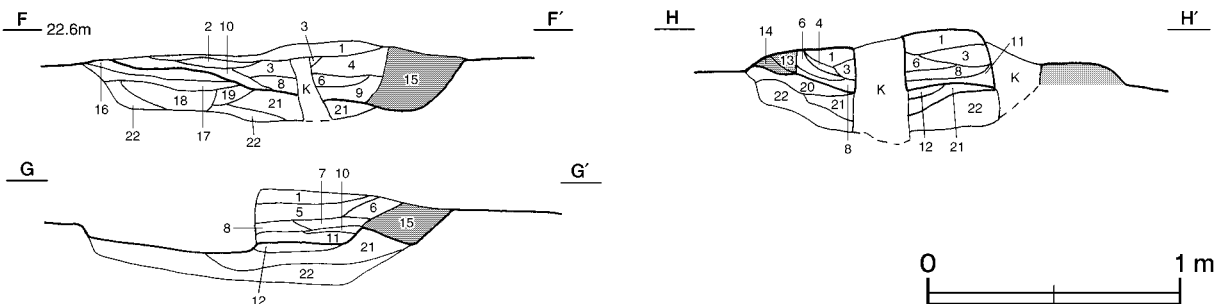
**第2627号住居跡（第554～556図）**

**位置** 調査区中央部のR4d9区、標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2628・2629号住居跡を掘り込み、第155号溝に掘り込まれている。また、耕作などの攪乱や削平のため遺存状態は悪く、西半部分は床面が露出した状態で検出されている。



第554图 第2627号住居跡実測图(1)



第555図 第2627号住居跡実測図(2)

**規模と形状** 長軸6.94m, 短軸約6.80mの方形で, 主軸方向はN - 11° - Eである。壁は最も残りが良い東側で壁高32cmであり, 外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで153cm, 袖部幅は157cmである。袖部は床面を30cmほど掘りくぼめて第16~22層を充填し, その上部に粘性の強い第13・14層を積み上げて構築している。火床部は床面から17cmくぼんでおり, 火床面は赤変硬化している。上部には第11層の灰層が堆積しており, 層厚は4cmである。煙道部は壁外への掘り込みが12cmで, 奥壁で外傾して立ち上がっている。奥壁は粘土粒子を含む第15層を貼り付けて補強している。覆土は第1~10層に分けられ, 第4・5層は袖部や天井部の構築材とその火を受けて赤変した部分の崩落土層に相当する。全体的に不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**竈土層解説**

- |                              |                                      |
|------------------------------|--------------------------------------|
| 1 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量     | 14 にぶい褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 15 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量     |
| 3 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 16 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量             |
| 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土粒子微量    | 17 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量      |
| 5 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量           |
| 6 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子微量         | 19 灰褐色 焼土粒子少量                        |
| 7 にぶい赤褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量      | 20 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 8 にぶい赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量       | 21 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量        |
| 9 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量      | 22 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量         |
| 10 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子微量     |                                      |
| 11 にぶい赤褐色 灰多量, 焼土粒子・炭化粒子微量   |                                      |
| 12 にぶい赤褐色 焼土粒子中量             |                                      |
| 13 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量   |                                      |

**ピット** 5か所。P1~P4は主柱穴で, 深さは31~89cmであり, 柱痕が住居の壁側に寄った位置に認められる。P5は深さ30cmで, 南側中央部に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

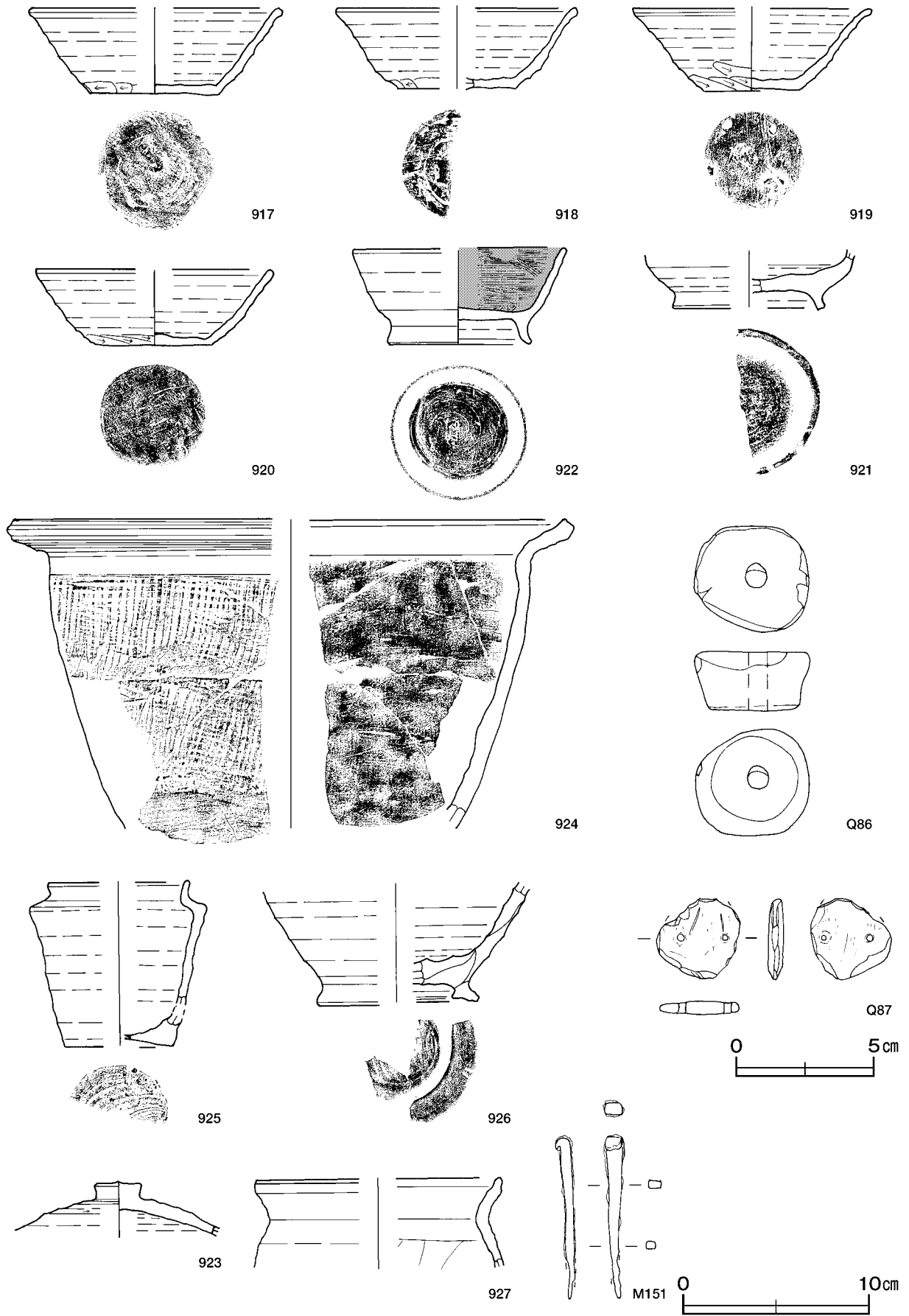
**覆土** 7層に分けられる。ロームブロックを含む人為堆積であり, 北側から埋め戻された堆積状況を示している。

**土層解説**

- |                                   |                                 |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量           | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量         |
| 2 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量         | 6 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量  |
|                                   | 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量              |

**遺物出土状況** 土師器片723点(坏43, 高台付坏6, 高坏2, 甕類672), 須恵器片699点(坏367, 高台付坏6, 蓋57, 盤16, 高盤3, 鉢25, 壺4, 甕類214, 甑7), 緑釉陶器片1点(瓶類), 灰釉陶器片4点(椀1, 瓶類3), 石製品2点(紡錘車, 双孔円板), 鉄製品2点(釘, 不明)が出土している。922は中央部, 919・920・927は北東部, 923・926は東側の床面からそれぞれ出土しており, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第556图 第2627号住居跡出土遺物実測図

第2627号住居跡出土遺物観察表（第556図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
917	須恵器	坏	[13.4]	4.6	6.5	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	覆土中	35%
918	須恵器	坏	[13.0]	4.3	[6.2]	長石	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	覆土中	35%
919	須恵器	坏	[12.8]	4.4	5.3	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	床面	55% PL130
920	須恵器	坏	[12.4]	4.1	5.8	長石・石英	黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ	床面	55% PL130
921	須恵器	高台付坏	-	(3.2)	[8.0]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	20%
922	土師器	高台付椀	[11.2]	5.1	7.5	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	50%
923	須恵器	蓋	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	天井部左回りの回転ヘラ削り後つまみ貼り付け つまみ径2.6cm つまみ高1.1cm	床面	20%
924	須恵器	鉢	[29.4]	[16.5]	-	長石・石英・雲母	黒褐	良好	口辺部内・外面口クロナデ 体部外面格子状叩き 下位手持ちヘラ削り	上層	15%
925	須恵器	短頸壺	[7.4]	[8.9]	[5.8]	長石・石英	灰	良好	体部内・外面口クロナデ 下端回転ヘラ削り 底部糸切り痕	覆土中	10% PL130
926	灰釉陶器	長頸瓶	-	(6.5)	[8.4]	長石・石英	黄灰	良好	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラナデ 高台貼り付け	床面	30%
927	土師器	小形甕	[13.2]	(4.8)	-	長石・石英	灰褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q86	紡錘車	4.1	2.1	0.7	45.7	滑石	両面研磨	床面	PL142

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q87	双孔円板	(2.9)	0.5	0.19	(6.4)	滑石	両面研磨 一方向からの穿孔	覆土中	PL144

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M151	釘	(8.9)	1.0	0.5	(13.5)	鉄	端部欠損 頭部折り返し 断面方形	上層	

第2630号住居跡（第557図）

**位置** 調査区中央部のR 5 i4区、標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2631・2635号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.20m、短軸2.84mの長方形で、主軸方向はN - 10° - Wである。壁高は5 ~ 7cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。耕作などによる攪乱や削平により遺存状態は悪く、火床面がほぼ露出した状態で確認され、袖部の構築方法や煙道部、覆土の堆積状況は不明瞭である。確認できた規模は、焚口から煙道部まで63cm、袖部幅65cm、壁外への掘り込み19cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変しているが、硬化は弱い。

**ピット** 深さ24cmで、南側の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

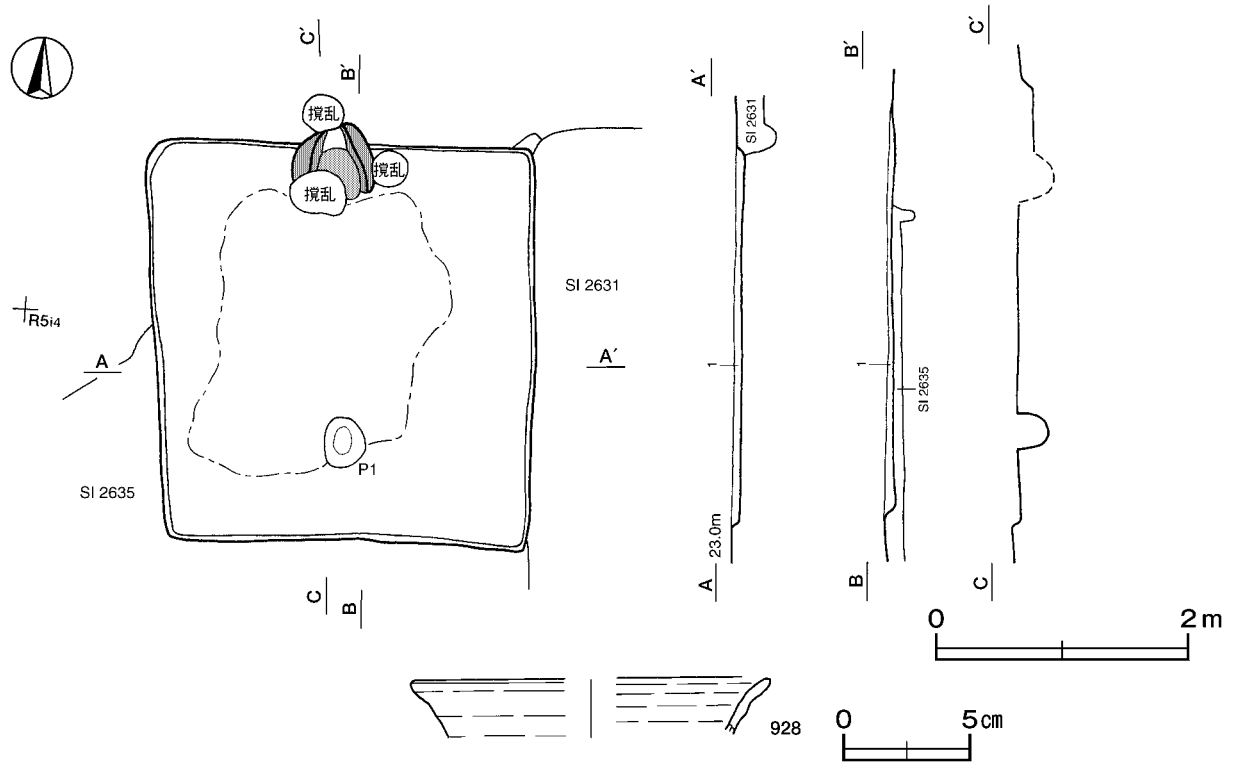
**覆土** 単一層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

1 褐 色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片129点（坏11、甕類118）、須恵器片18点（坏11、蓋1、甕類6）、灰釉陶器片2（瓶類）が出土している。いずれも覆土中から細片で出土しており、廃絶後の埋没過程で投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉以前と考えられる。



第557図 第2630号住居跡・出土遺物実測図

第2630号住居跡出土遺物観察表（第557図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
928	須恵器	坏	[14.0]	(2.3)	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	口辺部内・外面口クロナデ	覆土中	5%

### 第2633号住居跡（第558図）

**位置** 調査区中央部のR 5 h1区，標高23.0mの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第93号堀，第4223号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北軸は4.58mで，東西軸は3.15mを確認している。東壁の方向はN - 10° - Eで，壁高は10～12cmでほぼ直立している。

**床** 確認した部分ではほぼ平坦であり，壁際を除いて踏み固められている。

**ピット** 3か所。P1は深さ64cm，P2は深さ26cmで，位置と形状から主柱穴に相当する。P3は深さ24cmで，性格は不明である。

**覆土** 5層に分けられる。層中にロームや暗褐色土をブロック状に含む人為堆積である。

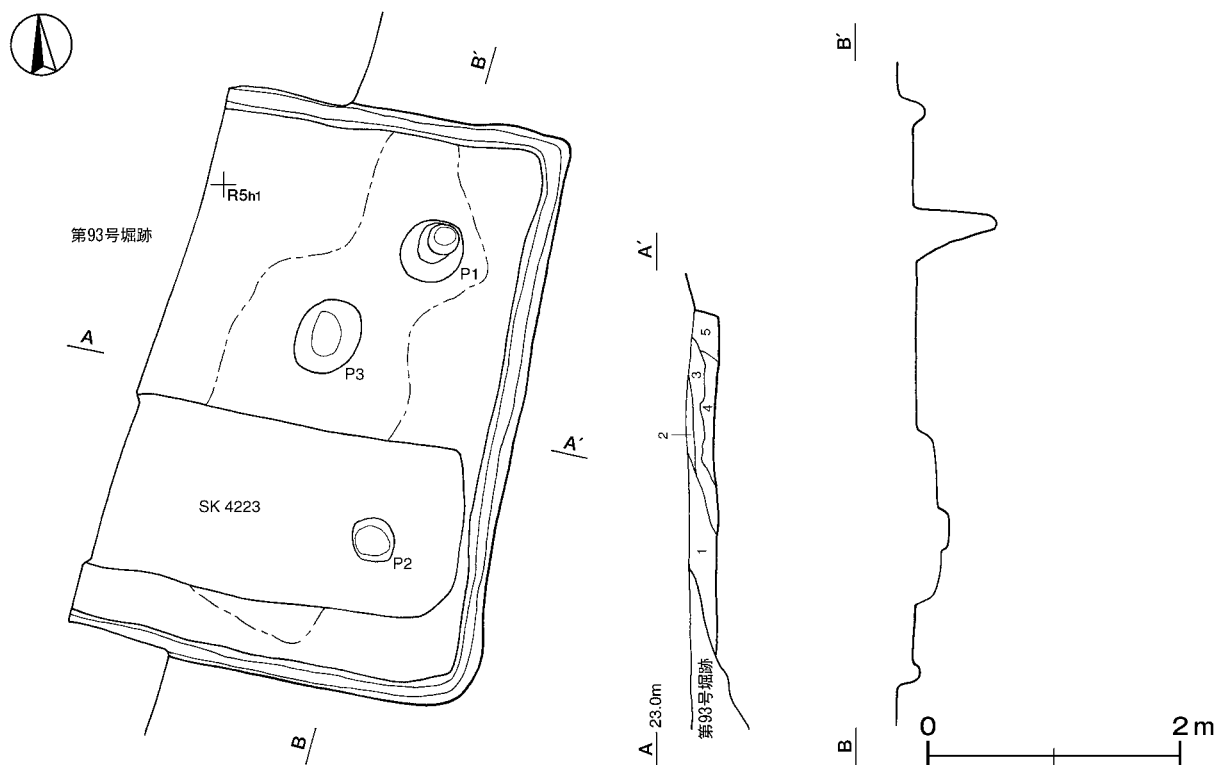
#### 土層解説

1	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4	明褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5	明褐色	暗褐色土ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量			

**遺物出土状況** 土師器片130（坏9，高台付椀2，小皿3，甕類116），須恵器片20点（坏8，高台付坏2，蓋2，甕類8），灰釉陶器片2点（瓶類），石器3点（砥石），粘土塊1点が出土している。土師器片には体部内面にヘラ磨きと黒色処理が施された高台付椀や小皿が含まれるが，細片のため図示できなかった。

**所見** 時期は，出土土器から11世紀代と考えられる。





第558図 第2633号住居跡実測図

**第2644号住居跡 (第559図)**

**位置** 調査区北部のQ 5 h5区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2640号住居跡を掘り込み, 第484号掘立柱建物, 第4468・4473号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.02m, 短軸3.63mの長方形で, 主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は2 ~ 4cmで, ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。西壁と南および北壁の一部の壁下には, 幅20 ~ 21cm, 深さ6 ~ 12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで103cmである。袖部は左側のみ遺存しており, 砂質粘土で構築している。火床部は床面を12cm掘りくぼめており, 火床面は火を受けてやや赤変している。煙道部は壁外に51cm掘り込まれ, 火床部から急に傾斜して立ち上がっている。覆土は第1 ~ 4層に分けられ, 第1層は天井部の崩落土層に相当する。

**竈土層解説**

- |       |                             |          |                             |
|-------|-----------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 褐色  | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子微量             | 4 暗褐色    | ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量      |

**ピット** 深さ25cmで, 南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

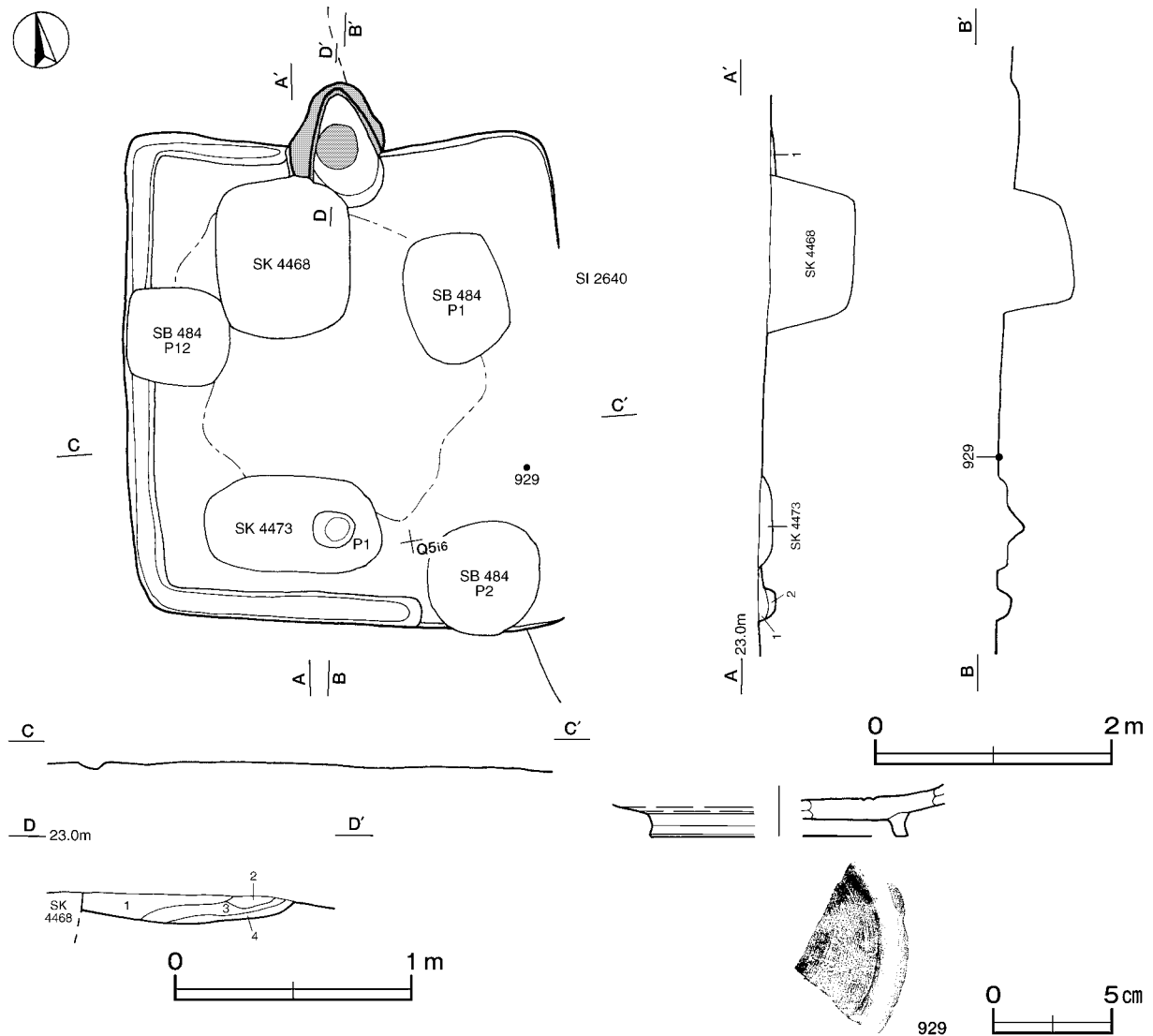
**覆土** 2層に分けられる。覆土が薄いため堆積状況は不明であり, 第2層は壁溝の覆土である。

**土層解説**

- |      |                      |       |         |
|------|----------------------|-------|---------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子中量 |
|------|----------------------|-------|---------|

**遺物出土状況** 土師器片62点(坏14, 甕類48), 須恵器片12点(坏8, 盤1, 蓋1, 甕類2)が出土している。

覆土が薄いため遺物のほとんどが細片であり、出土量も少ない。929は南東部の床面から出土し、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。また、竈の覆土中から縦位の平行叩きを施した須恵器甕の体部片も出土している。  
**所見** 出土土器が細片のため時期判断は困難であるが、7世紀後葉と考えられる第2640号住居跡を掘り込んでいることや、出土土器から9世紀前葉以降と考えられる。



第559図 第2644号住居跡・出土遺物実測図

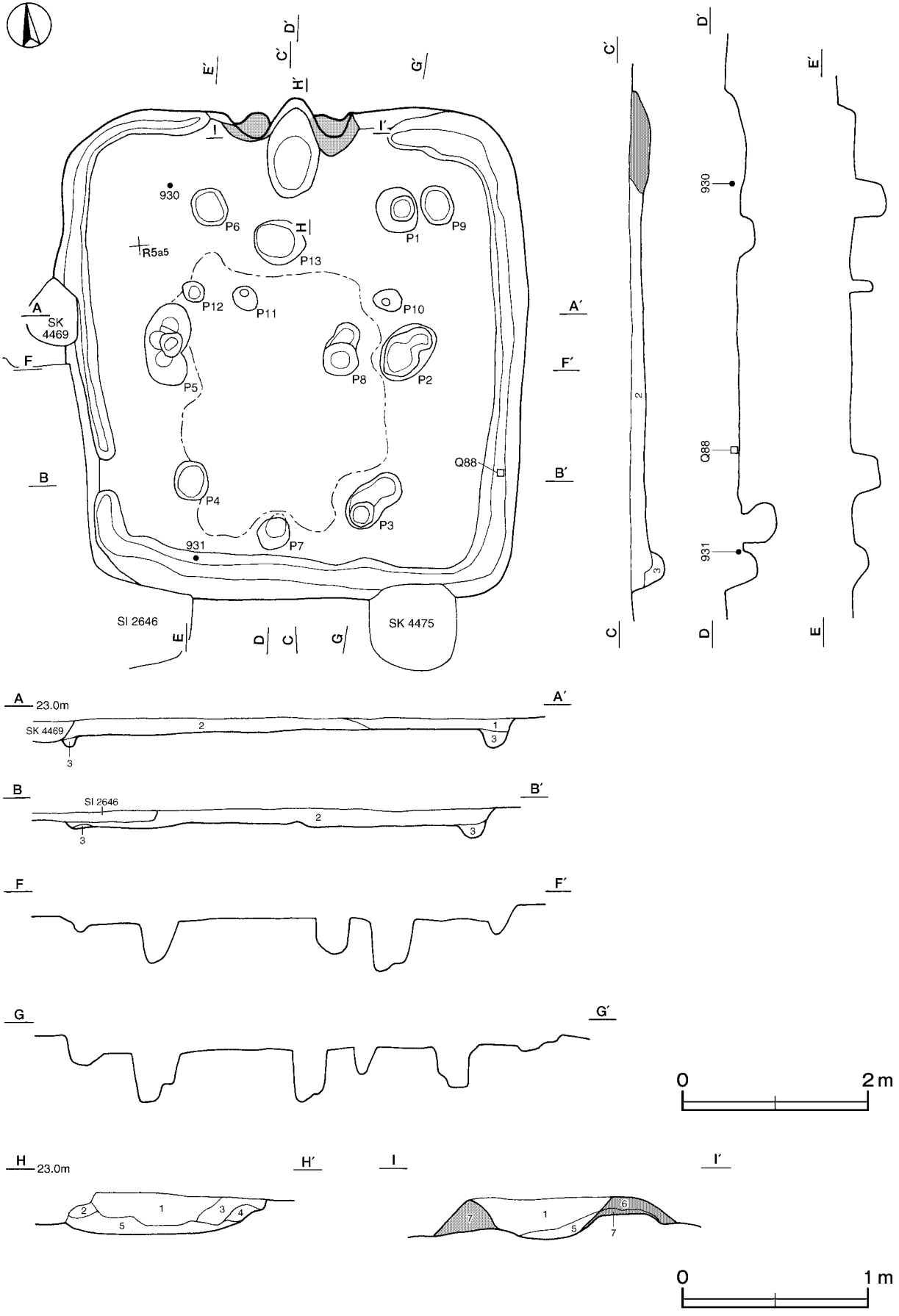
第2644号住居跡出土遺物観察表（第559図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
929	須恵器	盤	-	(2.2)	[11.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	良好	口口成形 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	10%

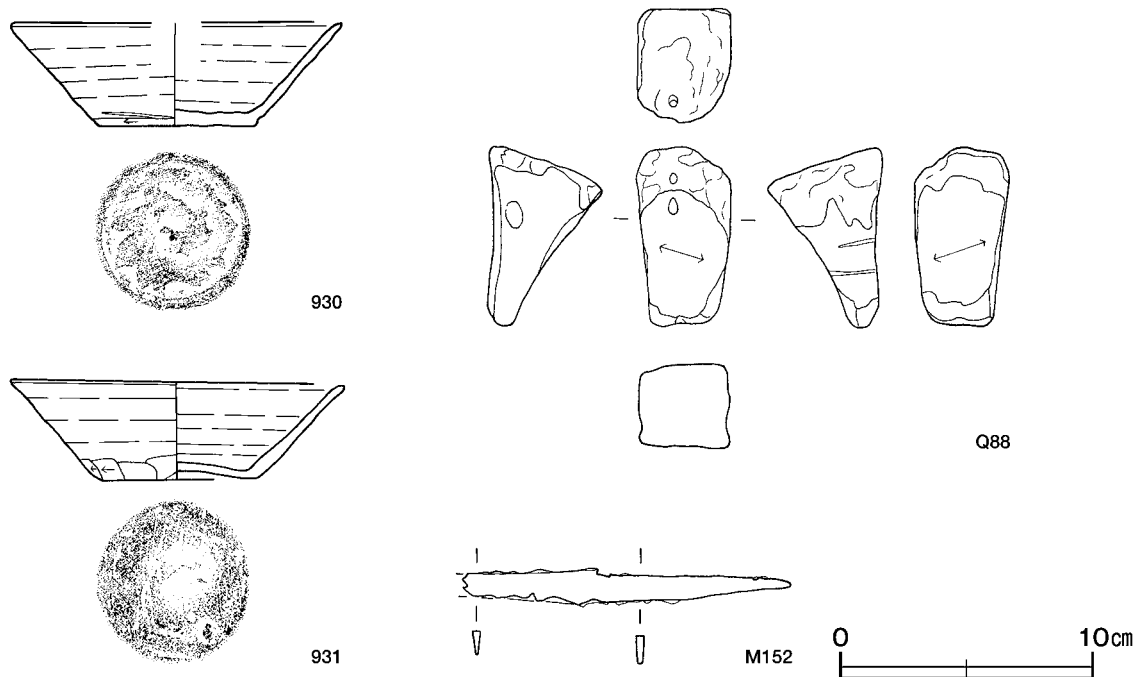
第2645号住居跡（第560・561図）

**位置** 調査区中央部の R 5 a5 区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2646号住居，第4469・4475号土坑に掘り込まれている。



第560图 第2645号住居跡実測図



第561図 第2645号住居跡出土遺物実測図

**規模と形状** 長軸5.26m，短軸5.02mの方形で，主軸方向はN - 7° - Eである。壁高は8～21cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。西壁の一部を除いた壁下には，幅15～37cm，深さ8～20cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，遺存している袖部幅は144cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，第6・7層を積み上げて構築している。火床部は床面を5cm掘りくぼめている。煙道部は壁外に15cm掘り込まれ，火床部から階段状に傾斜して立ち上がっている。

**竈土層解説**

- |          |                            |       |                                |
|----------|----------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量     |
| 2 黒褐色    | 粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック微量             |
| 3 暗赤褐色   | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量        | 7 褐色  | ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量      |       |                                |

**ピット** 13か所。P1～P6は主柱穴で，深さは33～55cmであり，P2・P5は棟持柱の可能性が考えられる。P7は深さ36cmで，南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P8～P13の性格は不明である。

**覆土** 3層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                        |      |           |
|-------|------------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量    | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 |      |           |

**遺物出土状況** 土師器片384点（坏54，高台付椀1，甕類328，甌1），須恵器片273点（坏159，高台付坏1，盤3，蓋16，甕類90，甌4），灰釉陶器片2点（瓶類），石器1点（砥石），鉄製品2点（刀子）が覆土中層から下層にかけて全面から出土している。また，混入した土師質土器片2点も出土している。930は北西部，931は南西部の壁際，Q88は南東部壁際の覆土下層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。M152は覆土中から出土した破片が接合したものであり，廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、9世紀後葉と考えられる第2646号住居に掘り込まれていることや、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

### 第2645号住居跡出土遺物観察表（第561図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
930	須恵器	坏	[13.0]	4.1	6.2	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層	50%
931	須恵器	坏	13.2	4.1	6.2	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	下層	80% PL128

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q88	砥石	7.1	3.6	3.4	113.1	凝灰岩	堤砥石 一方方向からの穿孔 孔径0.5cm 砥面4面の1面に糸線状の研磨痕	下層	PL142

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M152	刀子	(13.0)	1.5	0.3	(14.0)	鉄	切先部欠損 両区 断面三角形	覆土中	PL145

### 第2646号住居跡（第562図）

**位置** 調査区中央部のR5 a4区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2645号住居跡を掘り込み、第4470・4491号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.10m、短軸3.60mの長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は10～14cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。南西部を第4491号土坑に掘り込まれているが、南壁と西壁の壁下には、幅17～28cm、深さ9～17cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。南東コーナー部に焼土が堆積し、その周囲から炭が検出され、焼失住居と考えられる。

**竈** 北壁中央部に付設されている。中央部から煙道部を第4470号土坑に掘り込まれているため、焚口部から煙道部までの規模は不明である。袖部幅は92cmである。第1～6層は掘り方の土層である。

#### 竈土層解説

1	黒褐色	炭化粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量			
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量			

**ピット** 2か所。P1は深さ22cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ18cmで、性格不明である。

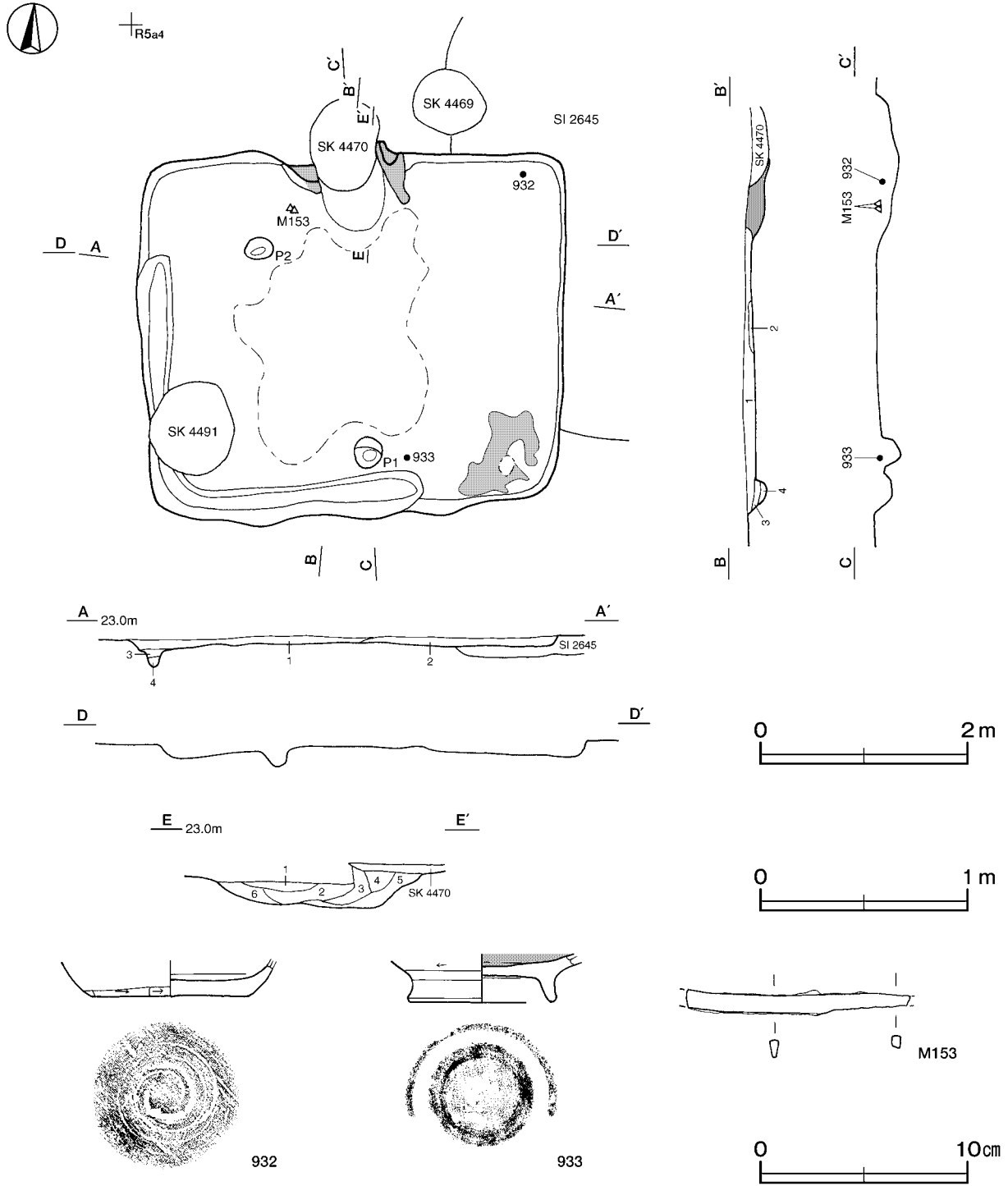
**覆土** 4層に分けられる。各層にロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	4	褐色	ローム粒子中量

**遺物出土状況** 土師器片100点(坏42, 高台付椀4, 甕類53, 手捏土器1), 須恵器片40点(坏11, 高台付坏2, 甕類27), 鉄製品2点(刀子, 鎌)のほか、鉄滓3点が散在した状態で出土しており、ほとんどの遺物が細片である。932は北東部の壁際、933は南部の覆土下層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。M153は北部中央の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

**所見** 南東コーナー部に焼土と炭の広がりが確認でき、覆土第1・2層には焼土ブロックや炭化物が含まれていることから焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から10世紀前半と考えられる。



第562図 第2646号住居跡・出土遺物実測図

第2646号住居跡出土遺物観察表（第562図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
932	土師器	坏	-	(1.8)	7.5	長石・雲母・赤色粒子	橙 黒	普通	ロクロ成形 体部下端手持ちヘラ削り 内面ナデ 底部回転ヘラ削り	下層	50%
933	土師器	高台付椀	-	(2.3)	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	ロクロ成形 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M153	刀子	(10.8)	1.0	0.4	(12.2)	鉄	切先部・茎部一部欠損 両区 断面三角形	下層	PL145

**第2647号住居跡 (第563・564図)**

**位置** 調査区中央部の R 5 e 4 区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第4490号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.76m, 短軸2.40mの長方形で, 主軸方向はN - 7° - Wである。壁高は2cmで, 外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で, 壁際まで踏み固められている。東壁は攪乱を受けており, 西壁は第4490号土坑に掘り込まれているため明らかではないが, 壁下には幅12cm, 深さ5cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。左袖部を第4490号土坑に掘り込まれているため, 遺存する規模は焚口部から煙道部まで47cm, 袖部幅は124cmである。袖部は砂質粘土で構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ, 火床部から緩やかに傾斜し, 奥壁でほぼ直立している。覆土は6層に分けられ, 第2・4層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。

**竈土層解説**

- |       |                                  |          |                                  |
|-------|----------------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量              | 5 黒褐色    | 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 褐色  | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量          |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量             |          |                                  |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      |          |                                  |

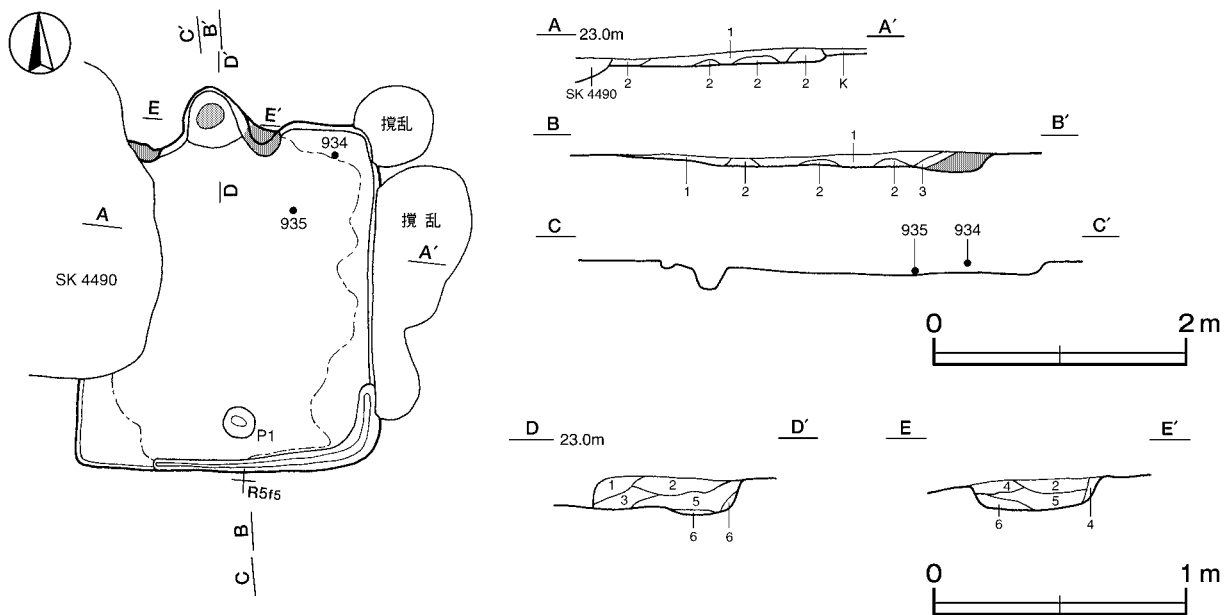
**ピット** 深さ18cmで, 南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 3層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積であり, 住居の廃絶後間もなく埋め戻されたと考えられる。

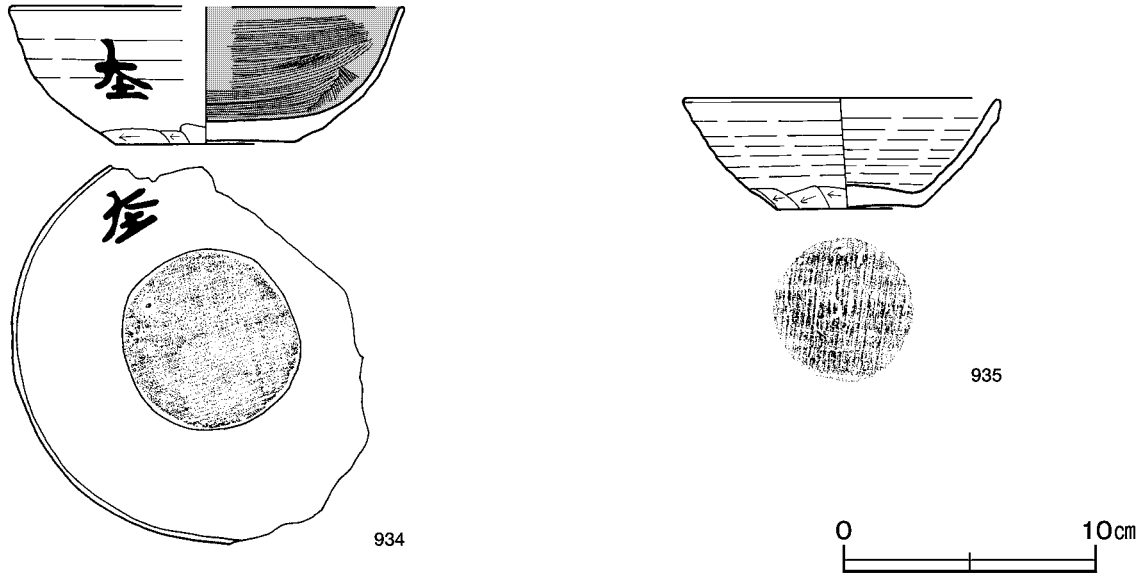
**土層解説**

- |       |                   |      |                        |
|-------|-------------------|------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子少量, 炭化粒子微量   |      |                        |

**遺物出土状況** 土師器片27点(坏2, 甕類25), 須恵器片9点(坏7, 瓶1, 甕類1)が北西部の覆土下層を中心に出土している。934は北東コーナー部の覆土中層, 935は北東部の床面からそれぞれ出土し, いずれも廃



**第563図** 第2647号住居跡実測図



第564図 第2647号住居跡出土遺物実測図

絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

第2647号住居跡出土遺物観察表（第564図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
934	土師器	坏	[15.6]	5.4	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部多方向のヘラ削り	中層	70% PL130・137 墨書「空」
935	須恵器	坏	12.5	4.4	5.7	長石・石英・雲母・小礫	にぶい褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	100% PL130

### 第2648号住居跡（第565図）

位置 調査区中央部のR 5 c5区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2649号住居跡、第491号掘立柱建物跡、第4505・4549号土坑を掘り込み、第4515号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.10m、短軸2.50mの長方形で、主軸方向はN - 10° - Eである。壁高は20～23cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。踏み固められた様子はない。

竈 北壁中央部に付設されている。中央部から煙道部を第4515号土坑に掘り込まれているが、火床面までは達していない。規模は、焚口部から煙道部まで132cmである。袖部は両方とも遺存しない。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けた様子は確認できない。煙道部は壁外に92cm掘り込まれ、火床部から急に傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～7層に分けられ第1・6・7層は、天井部が西側から崩落した土層に相当する。

#### 竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	6	暗褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	7	黒褐色	粘土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			



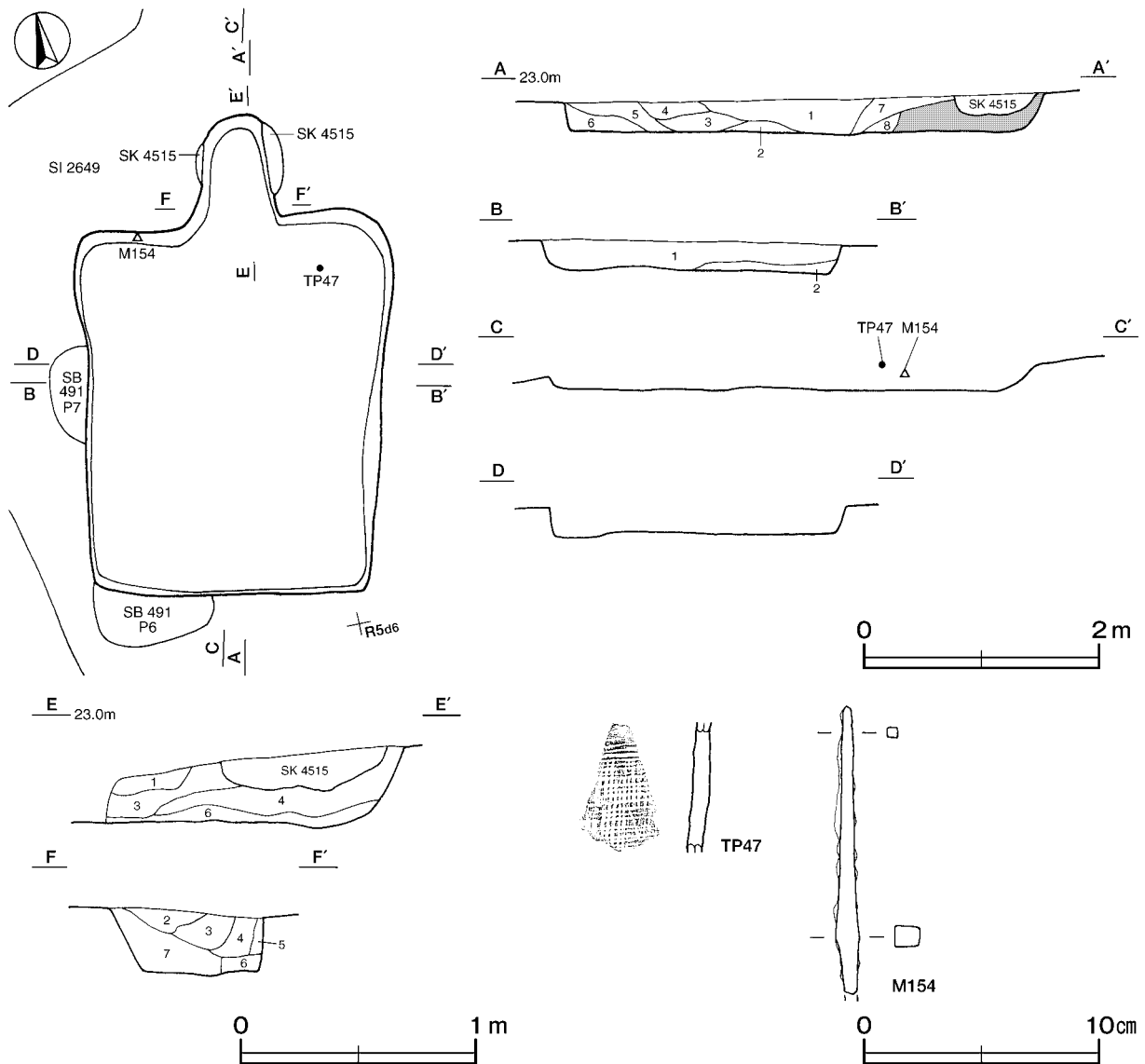
覆土 8層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |                       |       |                             |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量                |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量  |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量    | 8 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量        |       |                             |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |       |                             |

遺物出土状況 土師器片280点(坏56, 椀1, 高台付椀3, 高坏3, 甕217), 須恵器片26点(坏15, 蓋1, 高盤2, 甕8), 鉄製品3点(鏝), 石製品1点(硯)のほか, 鉄滓2点が北東部から中央部の覆土中層から下層に集中して出土しているが, いずれも細片である。また, 混入した土師質土器片3点も出土している。TP47は北東部の覆土上層, M154は北壁西寄りの覆土中層から出土し, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 出土土器が細片であるため土器による時期判断は困難であるが, 7世紀前葉と考えられる第2649号住居跡を掘り込んでいることや, 土師器椀の形態から9世紀後葉以降と考えられる。



第565図 第2648号住居跡・出土遺物実測図

第2648号住居跡出土遺物観察表（第565図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP47	須恵器	甕	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部格子状の叩き	上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M154	鏝	(12.3)	1.1	0.9	(34.4)	鉄	茎部一部欠損 断面方形	中層	

第2654号住居跡（第566・567図）

**位置** 調査区北東部のQ5 h8区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2652号住居跡を掘り込んでいる。

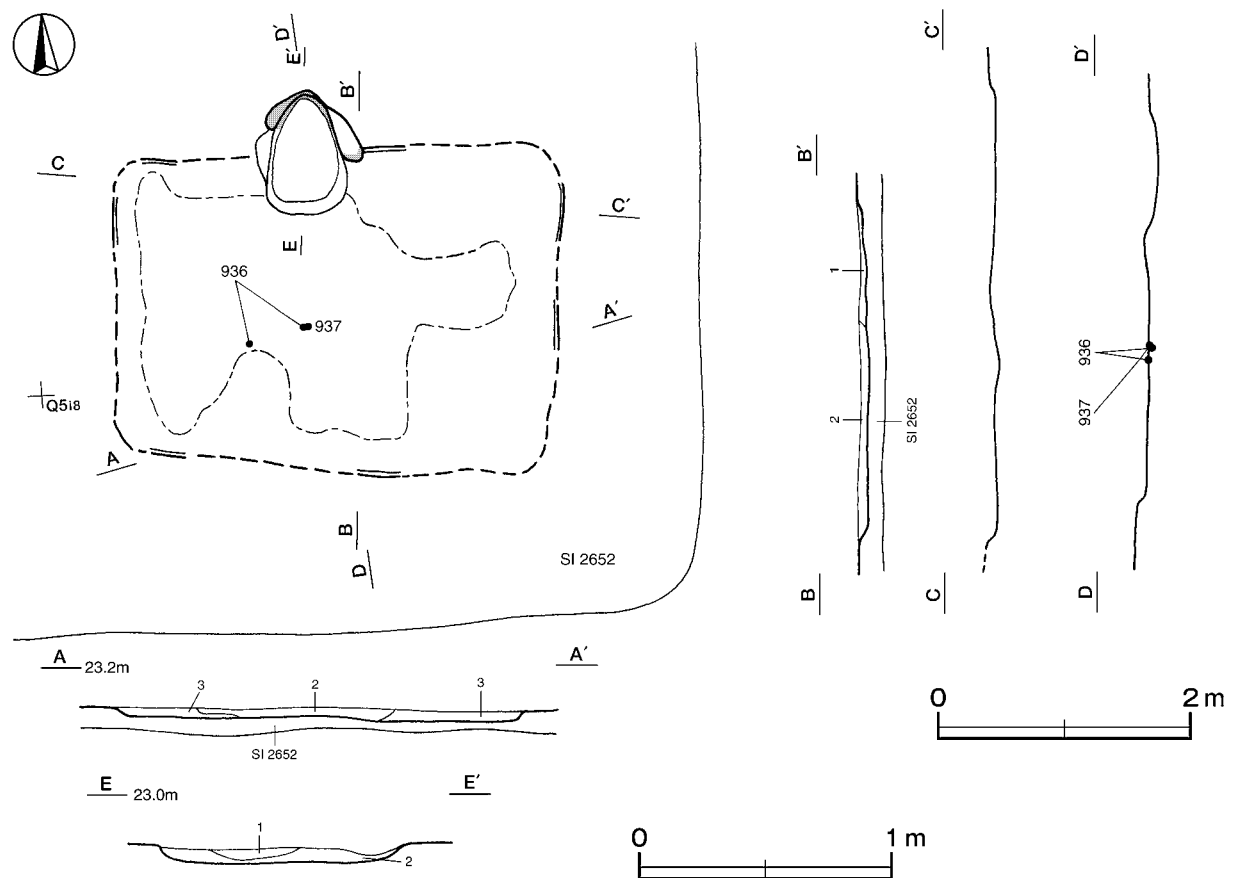
**規模と形状** 長軸3.57m，短軸2.58mの長方形で，主軸方向はN - 8° - Eである。壁高は6～8cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，北東・南東コーナー部を除いた壁際まで踏み固められている。

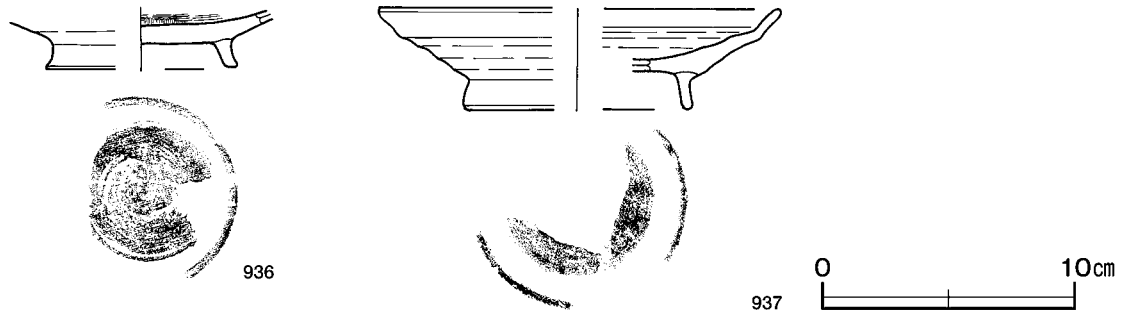
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで91cm，袖部幅82cmである。火床部は床面を6cm掘りくぼめており，わずかに赤変している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれている。

**竈土層解説**

- 1 赤褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量



第566図 第2654号住居跡実測図



第567図 第2654号住居跡出土遺物実測図

**覆土** 3層に分けられる。各層にローム粒子，焼土粒子，炭化粒子を含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

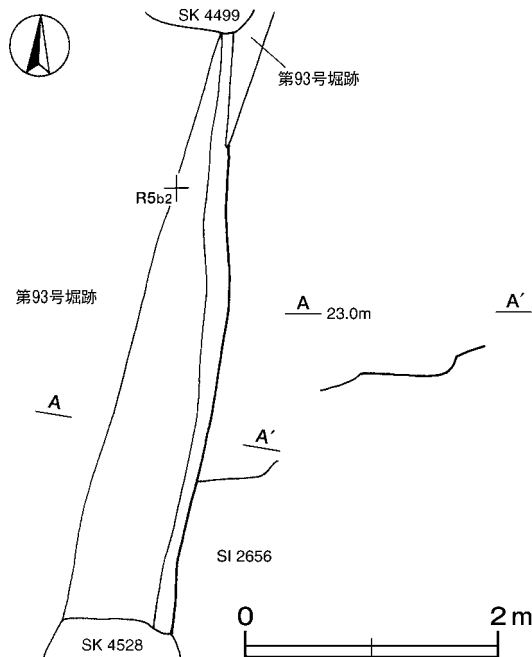
- |   |    |                            |   |     |                     |
|---|----|----------------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 | 2 | 黒褐色 | 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |
|   |    |                            | 3 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |

**遺物出土状況** 土師器片46点（坏8，高台付椀3，甕類35），須恵器片14点（坏7，盤3，蓋1，甕類3）のほか，鉄滓4点が出土している。ほとんどが細片であり，出土量も少ない。936・937はそれぞれ中央部の床面から出土した破片が接合したものであり，いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第2654号住居跡出土遺物観察表（第567図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
936	土師器	高台付椀	-	(2.3)	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	ロクロ成形 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り 後高台貼り付け	床面	20%
937	須恵器	盤	[16.0]	4.0	[9.0]	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰	普通	ロクロ成形 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	50%



第568図 第2655号住居跡実測図

**第2655号住居跡（第568図）**

**位置** 調査区中央部のR 5 b2区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2656・2668号住居跡を掘り込み，第93号堀，第4499・4528号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 大部分を第93号堀に掘り込まれているため，遺存する部分はわずかであり，規模は南北軸は4.70m，東西軸は0.80mだけが確認された。主軸方向はN - 9° - Eで，方形または長方形と推定される。壁高は10cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦であるが，踏み固められた様子は確認されない。

**遺物出土状況** 遺存する部分はわずかであり，覆土も薄いため，遺物は出土していない。

**所見** 大部分を第93号堀に掘り込まれているため遺存する部分はわずかであり，出土土器が確認されていないため時期判断は困難であるが，9世紀前葉と考えられる第2656号住居跡を掘り込んでいることから，9世紀前葉以降と考えられる。

## 第2656号住居跡（第569・570図）

**位置** 調査区中央部のR5c3区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2668・2669号住居跡，第4582・4583号土坑を掘り込み，第2655・2659号住居，第93号堀，第4509・4511～4513号土坑ほか18基の土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部を第2659号住居に掘り込まれているため，規模は南北軸7.68m，東西軸は6.60mだけが確認された。主軸方向はN-1°-Wで方形と推定される。壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦であるが，踏み固められた様子は確認されていない。東および南壁の一部には，幅20～22cm，深さ6～9cmでU字状の断面を呈する壁溝が確認できる。

**竈** 北壁中央部に付設されている。焚口部を第4638号土坑，左袖部を第2655号住居，第4589号土坑に掘り込まれているため，遺存する規模は焚口部から煙道部まで117cm，袖部幅は148cmである。袖部は砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さであり，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に6cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜し，奥壁でほぼ直立している。覆土は第1～10層に分けられ，第4・5層は天井部の崩落土層に相当する。

### 竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・砂微量
2 褐灰色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	7 黒褐色	焼土ブロック多量，炭化粒子少量
3 灰褐色	砂多量，焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量	8 褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐色	砂多量，焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量	9 褐色	砂多量，焼土粒子・炭化粒子中量
5 暗褐色	焼土粒子・砂中量，粘土ブロック少量，炭化粒子微量	10 暗褐色	焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・砂微量

**ピット** 8か所。P1～P5は支柱穴で，深さは17～44cmである。P6は深さ42cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ22cmで，P2とP5の間に位置していることから支柱穴と考えられる。P8は深さ43cmで，P3のすぐ東側に位置しているが，性格は明らかではない。

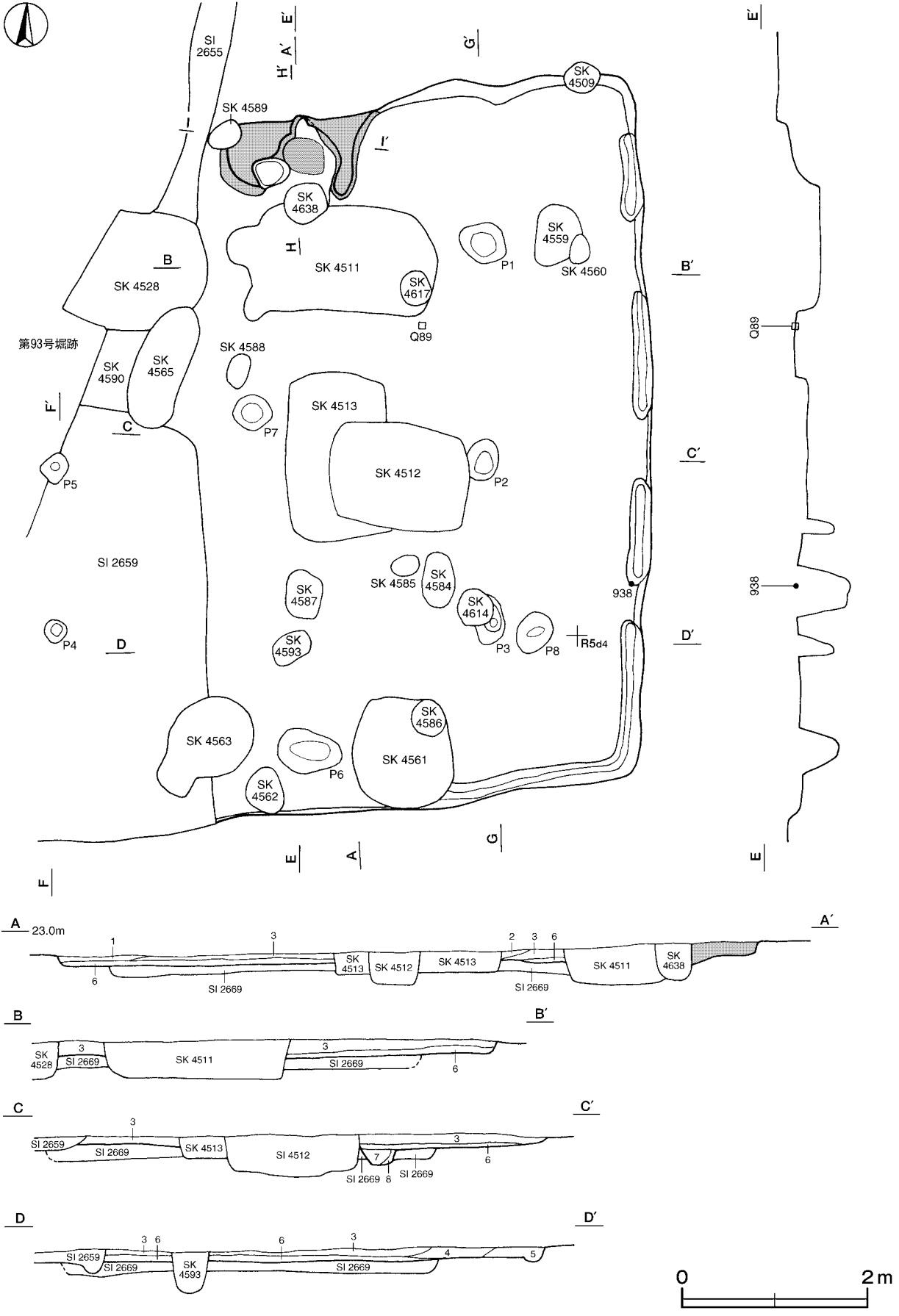
**覆土** 8層に分けられる。各層にロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第7・8層はP2の覆土である。

### 土層解説

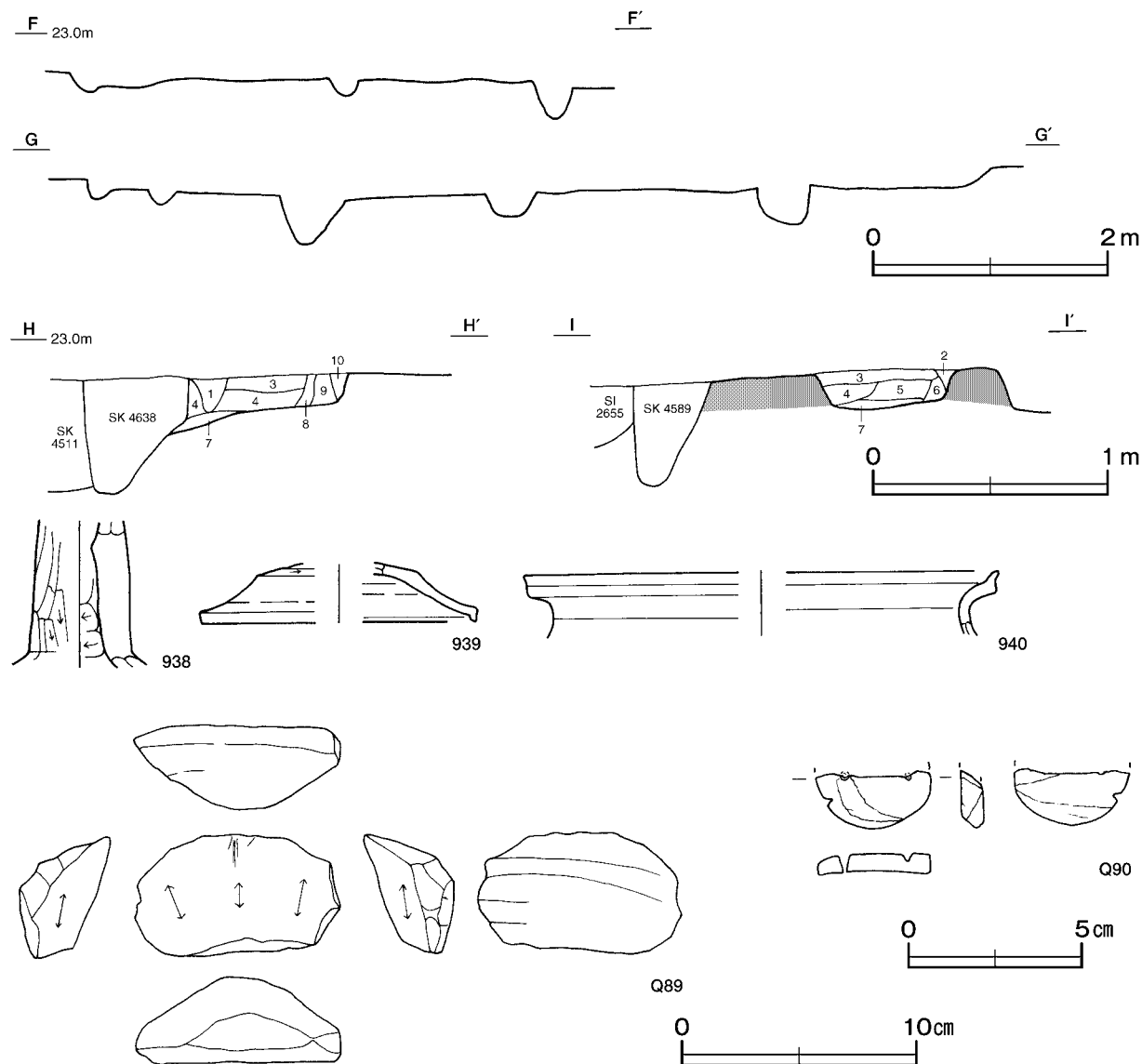
1 褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量，炭化物微量	7 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量	8 褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片246点（坏27，高坏1，甕類218），須恵器片40点（坏11，蓋14，甕類15），石器・石製品2点（砥石，双孔円板）が覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。938は東壁際の覆土下層，940は北西部の覆土中からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。939はP3の覆土中から出土し，ピットの埋没する過程で流れ込んだものと考えられる。Q89は中央部の床面から出土し，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第569图 第2656住居跡実測图



第570図 第2656号住居跡・出土遺物実測図

第2656号住居跡出土遺物観察表（第570図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
938	土師器	高坏	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面へラ削り後ナデ 内面へラ削り	下層	20%
939	須恵器	蓋	[11.6]	(2.5)	-	長石・石英	灰	良好	ロクロ成形 天井部回転へラ削り	P 3 覆土中	10%
940	土師器	甕	[20.2]	(2.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 89	砥石	5.1	8.7	4.2	139.6	凝灰岩	砥面1面 他は破断面	床面	
Q 90	双孔円板	(3.3)	(1.6)	0.6	(4.3)	滑石	孔径0.1~0.3mm	覆土中	

第2659号住居跡（第571・572図）

位置 調査区中央部のR 5 d2 区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2656・2668・2669号住居跡を掘り込み，第93号堀，第4563・4565号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西側の大部分を第93号堀に掘り込まれているため、南北軸4.72m、東西軸は2.23mだけが確認された。主軸方向はN - 3° - Wで方形または長方形と推定される。壁高は8 ~ 18cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、南部が踏み固められている。南東部を第4563号土坑に掘り込まれているため全容は明らかではないが、壁下には幅14 ~ 16cm、深さ6 ~ 15cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**ピット** 3か所。P1・P2は支柱穴で、深さは34cm・28cmである。P3は深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

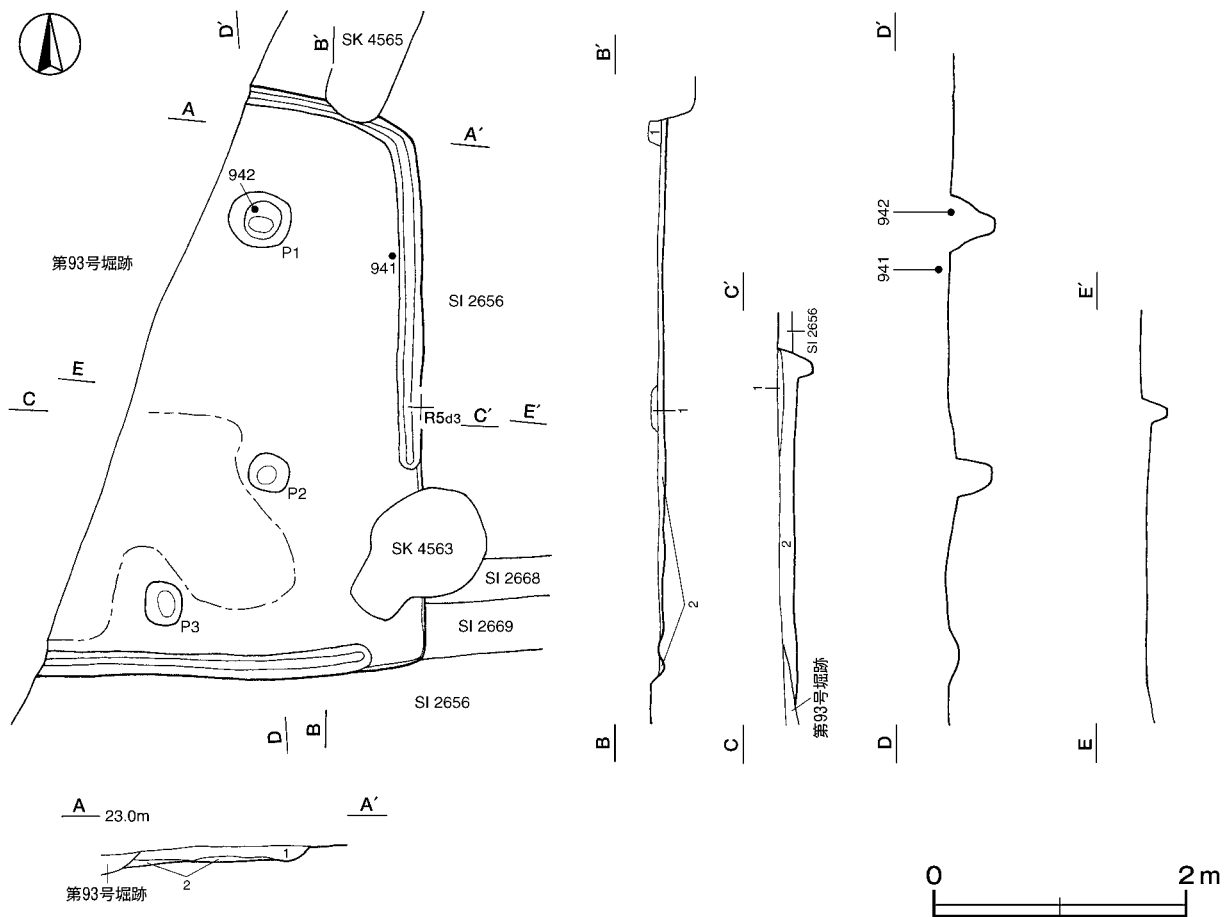
**覆土** 2層に分けられる。各層にロームブロックを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

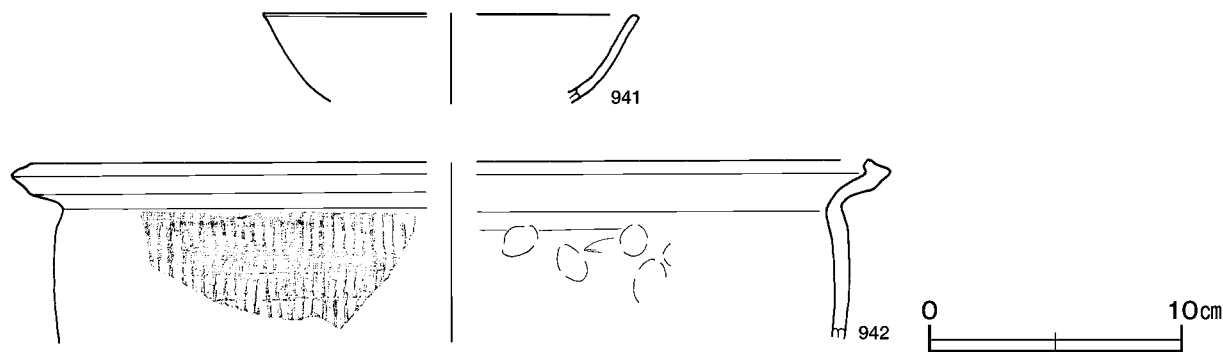
- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量      2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片22点（坏8，甕類14），須恵器片27点（坏3，蓋2，甕類22），灰釉陶器片1点（椀）が北東部の覆土下層を中心に出土しているが、層厚が薄いため出土量は少ない。941は東壁際北寄りの覆土下層，942はP1の覆土上層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第571図 第2659号住居跡実測図



第572図 第2659号住居跡出土遺物実測図

第2659号住居跡出土遺物観察表（第572図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
941	灰釉陶器	椀	[15.0]	(3.5)	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	ロク口成形 体部内面灰釉塗り掛	下層	15%
942	須恵器	甕	[33.0]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口辺部内・外面ロクロナデ 体部縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 指頭痕	P 1 上層	10%

### 第2664号住居跡（第573図）

**位置** 調査区北東部のQ 6 h3 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2665・2672号住居，第4641号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西側の大部分を第2665・2672号住居に掘り込まれているため，遺存する部分はわずかである。規模は，南北軸は3.44m，東西軸は3.07mだけが確認された。主軸方向はN - 88° - Eで，方形または長方形と推定される。壁高は3～4cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，東壁際が踏み固められている。

**竈** 東壁中央部に付設されている。焚口部を第2672号住居に掘り込まれ，また右袖部も攪乱を受けているため，焚口部から煙道部，袖部幅は不明である。袖部は砂質粘土を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。また火床部の東側には支脚が南北に2か所据えられている。煙道部は壁外に46cm掘り込まれ，火床部から緩やかに傾斜し，奥壁でほぼ直立している。覆土は第1～6層に分けられ，第1・2・4層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は，ロームや焼土のブロックを含む人為堆積である。

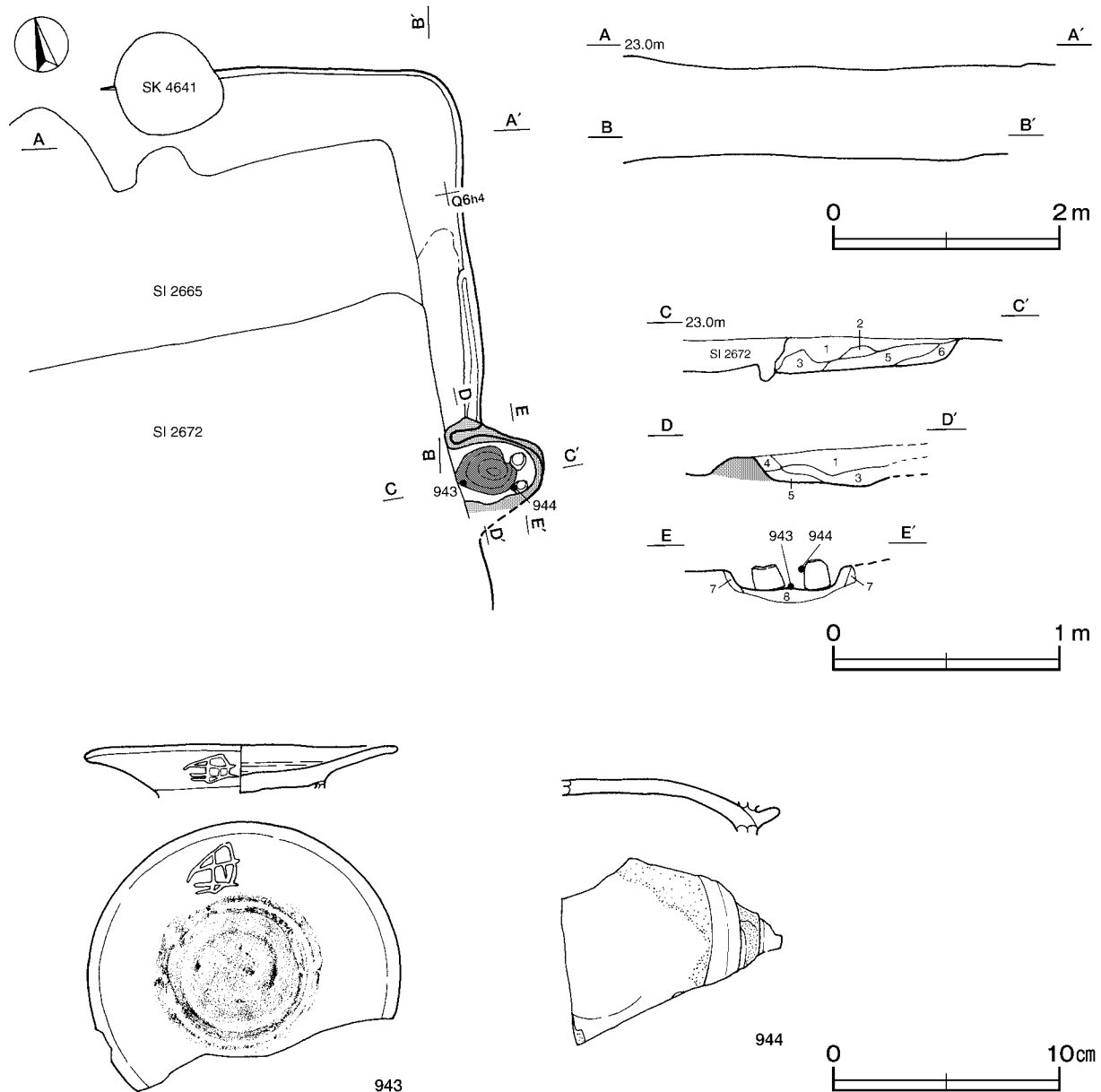
#### 竈土層解説

1 黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量・炭化粒子微量	4 にぶい橙色	砂質粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，砂質粘土ブロック少量，ロームブロック微量	5 にぶい黄橙色	焼土ブロック少量，炭化物微量
3 オリーブ黒色	炭化物多量，灰中量，ロームブロック・焼土ブロック少量	6 黒褐色	焼土ブロック・炭化物中量，ロームブロック少量
		7 にぶい褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
		8 暗赤褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片15点（坏3，高台付椀3，高台付皿1，甕類8），須恵器片4点（坏2，甕類1，円面硯1），土製品2点（支脚）が出土している。覆土が薄いためいずれも細片で出土量も少ない。943・944は竈火床部の覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。





第573図 第2664号住居跡・出土遺物実測図

第2664号住居跡出土遺物観察表（第573図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
943	土師器	高台付皿	13.8	(2.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後 高台貼り付け 体部外面ヘラ書き	竈中・下層	70% PL131・137 刻書「田カ」
944	須恵器	円面硯 [17.4]	(2.5)	-	長石・赤色粒子	黄灰	良好	ロク口整形		竈中・下層	10%

### 第2665号住居跡（第574～578図）

**位置** 調査区北東部のQ 6 h3 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2662・2664号住居跡を掘り込み，第2672号住居，第4685・4688号土坑に掘り込まれている。なお，本跡は床と竈がそれぞれ作り替えられており，その対応関係を把握するため，竈2と貯蔵穴及び覆土の土層解説を一括して記載している。

**規模と形状** 長軸7.05m，短軸6.77mの方形で，主軸方向はN - 3° - Eである。壁高は25～27cmで，ほぼ直

立している。

**床** 4面確認されている。廃絶時の床（第4次床面）は、ほぼ平坦で、壁際まで踏み固められている。壁下には幅28～40cm、深さ10～12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。第3次床面以下では、出入口部から竈側へ緩やかに傾斜しており、第1次床面では15cmほどの高低差がある。第3次床面は竈2の焚口部付近、第2次床面は西半部、第1次床面は竈2の前面にそれぞれ認められる。各床の構築土は、第5・13・18・25層に相当する。各層は黒色土と砂質粘土ブロックが互層をなし、それぞれ3～10層に細分され、版築状に突き固められている。また、第1次床面の構築土を除去した段階で、中央部と南側に第26層の焼土層を確認しており、径60cmほどの範囲が火を受けて赤変硬化している。

**竈** 2か所。竈1は北壁の東寄りに付設されている。煙道部は攪乱を受けているため、焚口から煙道部までの規模は不明である。袖部幅は51cmで、砂質粘土を主体とする第2層で構築している。火床部は赤変、硬化ともに弱い。覆土は単一層で砂質粘土ブロックを多く含む人為堆積である。竈2は北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで167cm、袖部幅141cmである。袖部は砂質粘土を主体とする第27層を積み上げて構築している。火床面は第12・17・24層の3面を確認しており、第1～3次床面に伴うものと考えられる。第2・3次床面段階では2～10cmほど高く、第1次床面段階では7cmほどくぼんでいる。火床面の上部には第11・16・22層の灰層が堆積しており、層厚は第11層が6cm、第16層が4cm、第22層が11cmである。第2次床面段階の焚口部には竈から掻き出された炭化物や灰を含む第15層が堆積している。火床部はいずれも火を受けて赤変硬化しており、赤変の範囲は煙道部まで広がっている。煙道部は壁外に84cm掘り込まれており、火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土は第6～8層で、焼土や砂質粘土のブロックを多く含む人為堆積である。また、竈1に伴う壁溝に掘り込まれており、竈2から竈1への作り替えが想定される。

#### 竈1土層解説

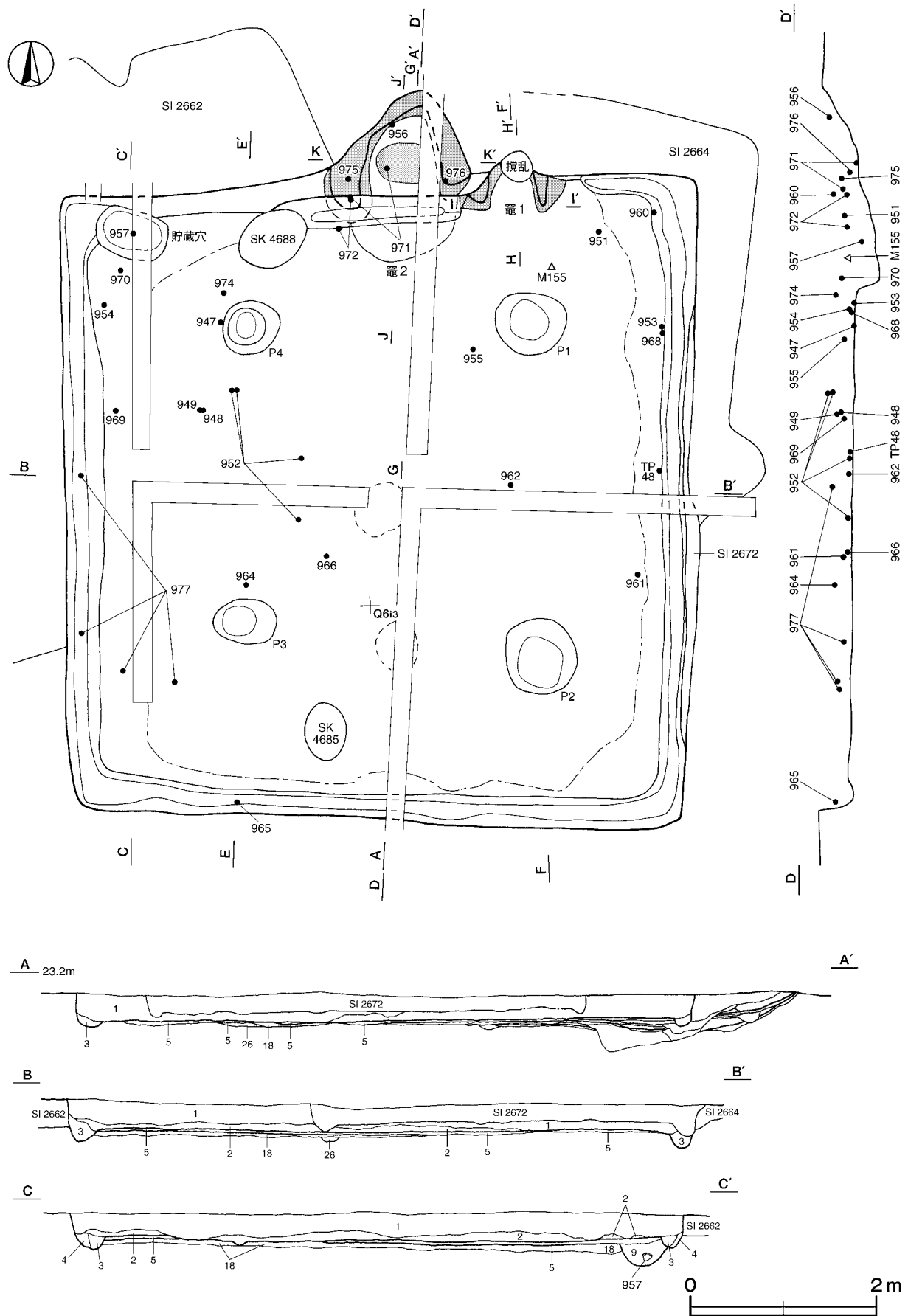
- |   |       |                                    |   |      |            |
|---|-------|------------------------------------|---|------|------------|
| 1 | オリブ褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量 | 2 | 暗灰黄色 | 砂質粘土ブロック中量 |
|---|-------|------------------------------------|---|------|------------|

#### 竈2・貯蔵穴・覆土土層解説

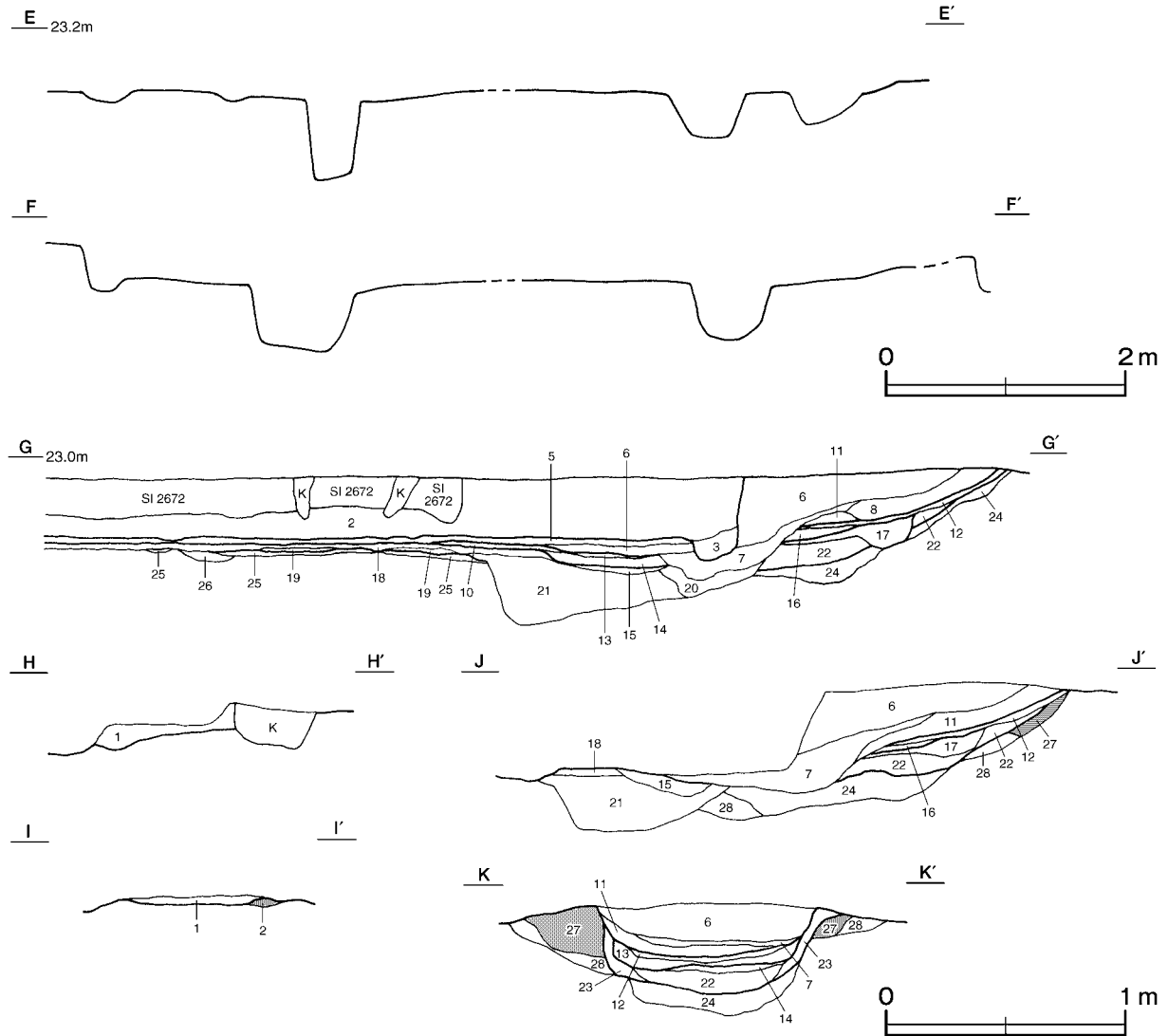
- |    |        |   |    |        |                               |
|----|--------|---|----|--------|-------------------------------|
| 1  | 暗褐色    | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量                     | 15 | 暗灰色    | 炭化物・灰多量                       |
| 2  | にぶい黄褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量                   | 16 | 灰白色    | 灰多量、焼土粒子微量                    |
| 3  | 黒褐色    | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量                    | 17 | 赤色     | 焼土ブロック多量                      |
| 4  | 暗灰黄色   | ロームブロック少量                               | 18 | オリブ黒色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量             |
| 5  | 黒色     | 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子微量                     |    | 暗褐色    | 砂質粘土粒子中量                      |
|    | にぶい黄褐色 | ロームブロック中量                               |    |        | 両層は互層をなし、8～10層に細分される          |
| 6  | 褐色     | 両層が互層をなし、8層に細分される                       | 19 | にぶい黄褐色 | ロームブロック多量                     |
|    |        | 焼土ブロック・炭化粒子中量、砂質粘土ブロック・ローム粒子少量          | 20 | 褐色     | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物・灰少量      |
| 7  | にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック・暗褐色土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 21 | 灰黄褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量 |
| 8  | 赤褐色    | 焼土ブロック中量、砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量        | 22 | 灰白色    | 灰多量、焼土粒子・炭化粒子微量               |
| 9  | 暗褐色    | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量          | 23 | 暗褐色    | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量         |
| 10 | 明赤褐色   | 焼土粒子多量                                  | 24 | 赤褐色    | 焼土ブロック多量                      |
| 11 | 灰黄色    | 灰多量、焼土粒子・炭化粒子微量                         | 25 | 黒褐色    | 焼土ブロック微量                      |
| 12 | 明赤褐色   | 焼土ブロック多量                                |    | にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量                    |
| 13 | オリブ黒色  | 焼土粒子少量                                  |    |        | 両層が互層をなし、6層に細分される             |
|    | にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量                              | 26 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子微量             |
|    |        | 両層が互層をなし、3層に細分される                       | 27 | 灰黄褐色   | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量        |
| 14 | 褐色     | ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量        | 28 | 褐色     | ロームブロック多量                     |

**ピット** 4か所。P1～P4は主柱穴で、深さ33～70cmである。

**貯蔵穴** 北西コーナー部に位置している。規模は、長径76cm、短径65cmの楕円形で、深さは28cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は第9層に相当する。ロームブロックを含む人為堆積であり、上部には第4次床面の貼床が構築されていることから、第3次面以前の床面に伴うものと考えられる。下部から957が逆位で出土している。



第574图 第2665号住居跡実測图(1)

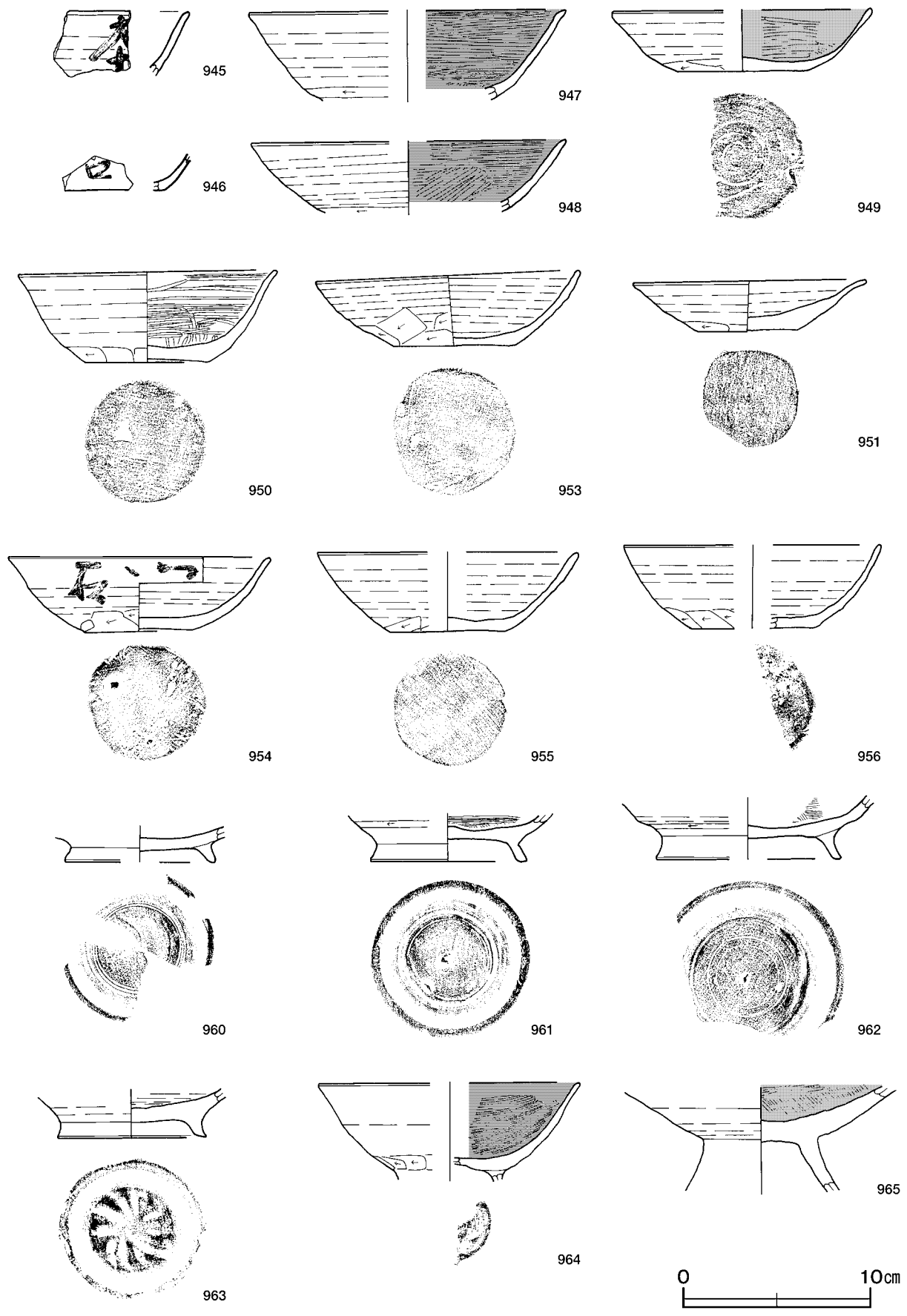


第575図 第2665号住居跡実測図(2)

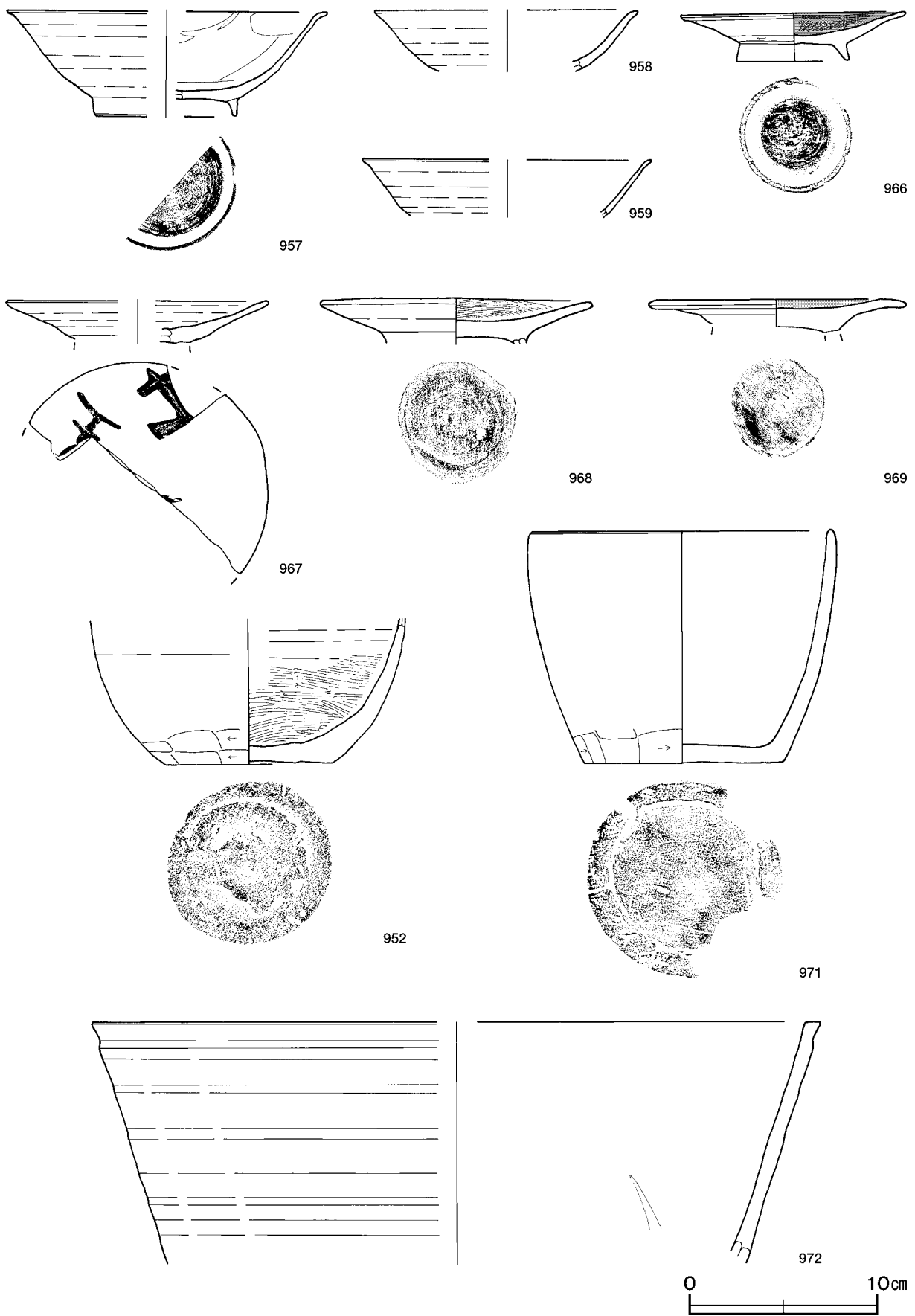
**覆土** 2層に分けられ、第1・2層に相当する。不規則な堆積状況を示した人為堆積であり、北側から埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片1769点（坏648，高台坏椀53，皿17，高台付皿7，鉢2，甕類1041，小形甕1），須恵器片359点（坏118，高台付坏5，蓋6，甕類224，甑6），灰釉陶器片23点（椀16，瓶類7），鉄製品2点（不明），馬歯2点，貝殻片1点が出土している。また，竈2内に堆積した灰層から小動物や魚の骨片が出土しているが，小片のため種の同定は出来なかった。957は貯蔵穴の中位から逆位で，956・971・972・975・976は竈2の覆土中からそれぞれ出土しており，第4次床面の構築以前の遺物である。947はP4周辺，953・968・TP48は東壁際，954は北西コーナー部，962・966は中央部の第4次床面の上面からそれぞれ出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。948・949・951・955・961・965・969・970・M155は覆土下層，952が覆土上層から下層，960・964・974が覆土上層から出土している。

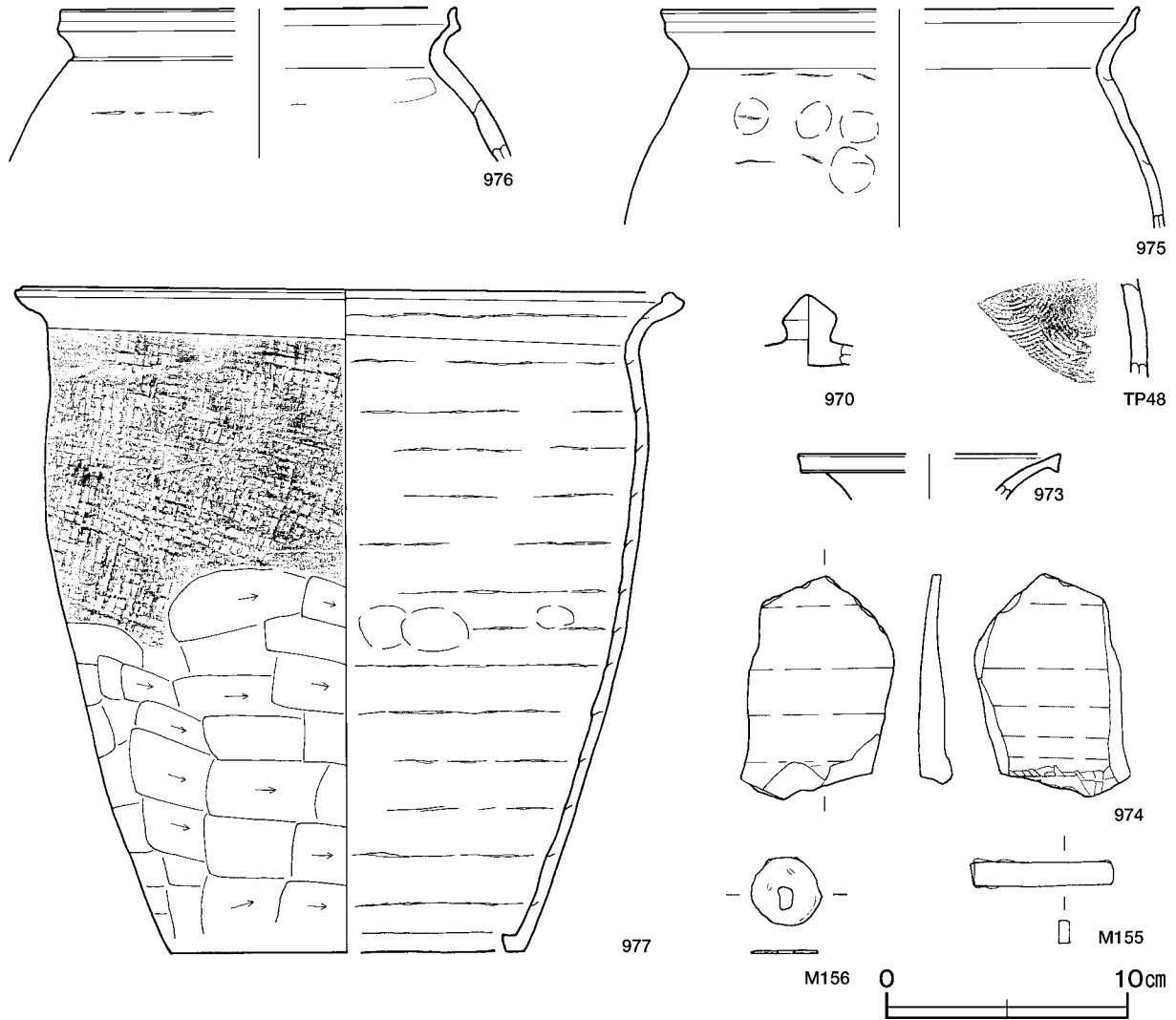
**所見** 一辺約7mの大形住居で，出土遺物に灰釉陶器や墨書土器などを含んでいることから，富裕層の居宅と考えられる。また，床の構築から短期間に4期の作り替えが想定される。時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第576图 第2665号住居跡出土遺物実測図(1)



第577图 第2665号住居跡出土遺物実測図(2)



第578図 第2665号住居跡出土遺物実測図(3)

第2665号住居跡出土遺物観察表 (第576~578図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
945	土師器	坏	-	(3.5)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形	覆土中	10% PL137 墨書「奎」
946	土師器	坏	-	(1.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	淡橙	普通	ロクロ成形 内面へら磨き	覆土中	10% PL137 墨書「石カ」
947	土師器	坏	[16.8]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロ成形 体部下端回転へら削り 内面へら磨き	床面	30%
948	土師器	坏	[16.8]	(3.8)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形 体部下端回転へら削り 内面へら磨き	下層	50%
949	土師器	坏	[13.8]	3.3	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形 体部下端回転へら削り 内面へら磨き 底部回転へら削り	下層	50%
950	土師器	坏	13.7	4.9	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形 体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部一方向のへら削り	覆土中	70% PL131
951	土師器	坏	12.4	2.7	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形 体部下端手持ちへら削り 底部二方向のへら削り	下層	60%
952	土師器	坏	-	(7.7)	8.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロ成形 体部下端手持ちへら削り 内面へら磨き 底部回転へら削り	上~下層	50%
953	須恵器	坏	14.0	4.0	6.6	長石・石英・雲母	明褐灰	良好	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	床面	90% PL131
954	須恵器	坏	13.9	4.1	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	床面	90% PL131・137 墨書「石」
955	須恵器	坏	[13.8]	4.3	6.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	下層	40%
956	須恵器	坏	[13.8]	4.5	[6.8]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへら削り 底部一方向のへら削り	竈2 覆土中	35%
957	灰釉陶器	椀	[17.0]	5.6	[7.4]	黒色粒子	灰白	良好	体部内・外面ロクロナデ 内面灰釉刷毛塗り 高台貼り付け	貯蔵穴中層	45% PL131
958	灰釉陶器	椀	[14.0]	(3.3)	-	黒色粒子	灰白	普通	体部外面ロクロナデ 内面ロクロ目消しのナデ	覆土中	10%
959	灰釉陶器	椀	[15.4]	(3.1)	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	体部外面ロクロナデ 内面ロクロ目消しのナデ	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
960	須恵器	高台付椀	-	(1.9)	[8.0]	雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	上層	30%
961	土師器	高台付椀	-	(3.5)	8.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口クロ成形 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	50%
962	土師器	高台付椀	-	(3.4)	[9.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口クロ成形 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	40%
963	土師器	高台付椀	-	(2.6)	8.0	長石・石英・赤色粒子・小礫	にぶい橙	普通	口クロ成形 底部ヘラ切り後高台貼り付け 底部ヘラ整形(花弁状)	覆土中	30%
964	土師器	高台付椀	[14.0]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口クロ成形 体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	上層	35%
965	土師器	足高高台付椀	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口クロ成形 体部内面ヘラ磨き	下層	40%
966	土師器	高台付皿	11.8	2.7	6.1	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口クロ成形 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	70% PL131
967	須恵器	高台付皿	[13.8]	(2.3)	-	長石・雲母	浅黄	良好	体部内面口クロ目消しのナデ	覆土中	45% PL137 墨書「土」
968	土師器	高台付皿	14.4	(2.5)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口クロ成形 体部内面ヘラ磨き	床面	80% PL131
969	土師器	高台付皿	13.8	(1.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口クロ成形 体部内面ヘラ磨き	下層	70%
970	須恵器	蓋	-	(2.9)	-	長石・赤色粒子	灰	普通	摘部のみ残存	下層	10%
971	土師器	鉢	16.0	12.4	10.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部下端ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部多方向のヘラ削り	竈2 覆土中	60% PL132
972	須恵器	鉢	[38.8]	(13.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口辺部内・外面口クロナデ 体部内・外面ヘラナデ	竈2 覆土中	20%
973	灰釉陶器	瓶	[11.0]	(1.9)	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	口辺部内・外面口クロナデ	覆土中	10%
974	灰釉陶器	平瓶	-	(9.3)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	良好	頸部のみ残存	上層	10%
975	土師器	甕	[19.8]	(9.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面輪積み痕残しのナデ 指頭痕 内面ナデ	竈2 覆土中	10%
976	土師器	小形甕	[16.4]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面輪積み痕残しのナデ 内面ヘラナデ	竈2 覆土中	10%
977	須恵器	甌	27.0	27.7	14.9	長石・石英	橙	良好	口辺部内・外面口クロナデ 体部外面上位格子状の平行叩き 下位ヘラ削り 内面輪積み痕残しのナデ 指頭痕	上層	70% PL131
TP48	須恵器	甕	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	体部外面同心円状の叩き	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M155	不明	(5.8)	1.0	0.5	(15.4)	鉄	平面・断面長方形	下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M156	不明	2.9	0.15	0.9	4.4	銅	平面円形 孔形長方形	覆土中	PL147

### 第2670号住居跡(第579～581図)

**位置** 調査区東部のR6c3区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2667・2671・2677・2678号住居跡を掘り込み、第486号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.00m、短軸4.86mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は15～25cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、幅14～24cm、深さ7～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

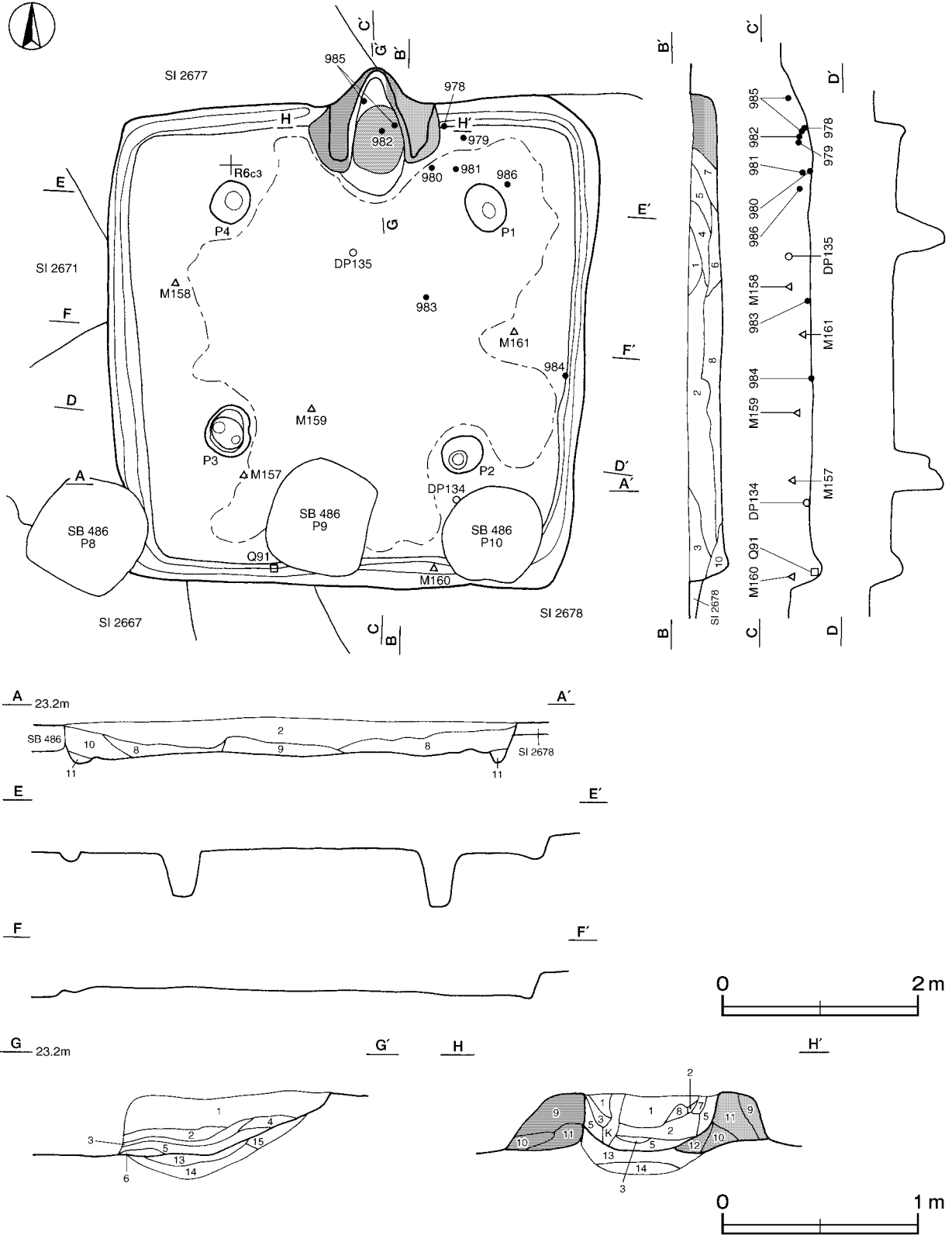
**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで138cm、袖部幅133cmである。袖部はローム混じりの粘土を主体とする第9～12層を積み上げて構築し、内側は火を受けてわずかに赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。上部には灰層の第5層が堆積しており、層厚は5cmである。煙道部は壁外に39cm掘り込まれ、火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土は第1～8層に分けられ、第1・2層は天井部の崩落土層に相当する。各層は、焼土や粘土の粒子を含む人為堆積であり、住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

#### 竈土層解説

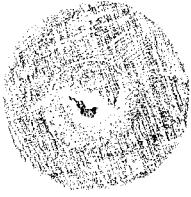
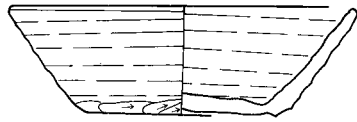
- |          |                              |          |                              |
|----------|------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子<br>微量 | 4 暗褐色    | 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄橙色 | 粘土粒子多量、炭化物・焼土粒子微量            | 5 にぶい黄橙色 | 灰多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 3 暗赤褐色   | 焼土粒子中量、ローム粒子微量               | 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、灰・粘土粒子微量              |



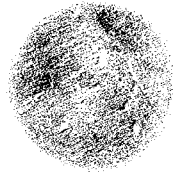
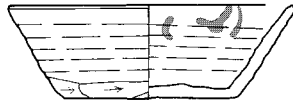
- |                                      |                                      |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 7  にぶい黄褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量       | 12  にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8  暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量              | 13  暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量      |
| 9  暗赤褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14  暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 10  暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量         | 15  極暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量        |
| 11  にぶい褐色 粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量       |                                      |



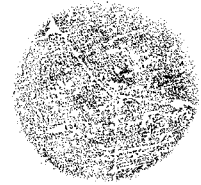
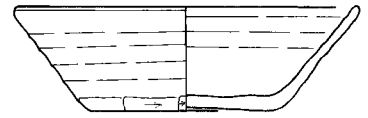
第579図 第2670号住居跡実測図



978



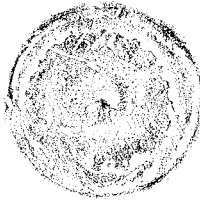
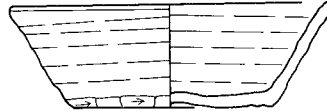
979



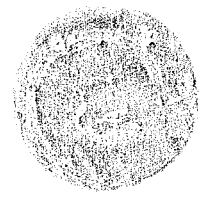
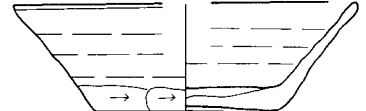
980



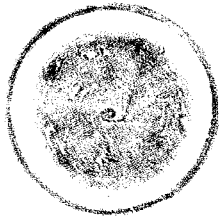
981



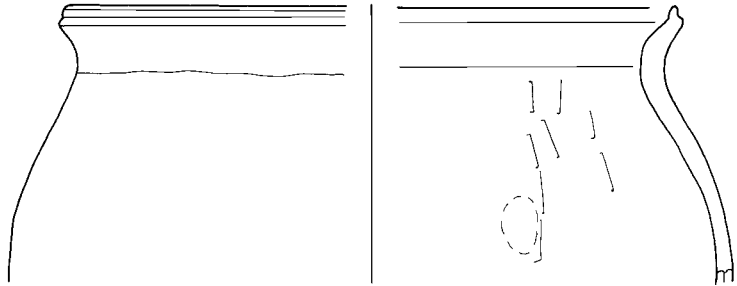
982



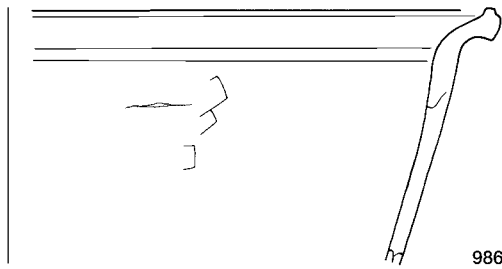
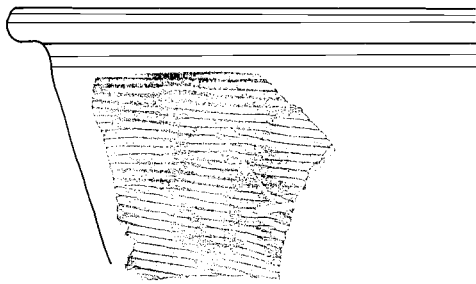
983



984



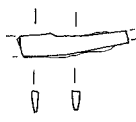
985



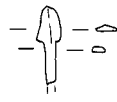
986



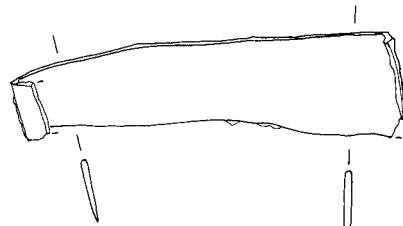
M157



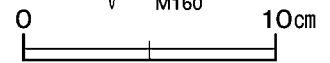
M158



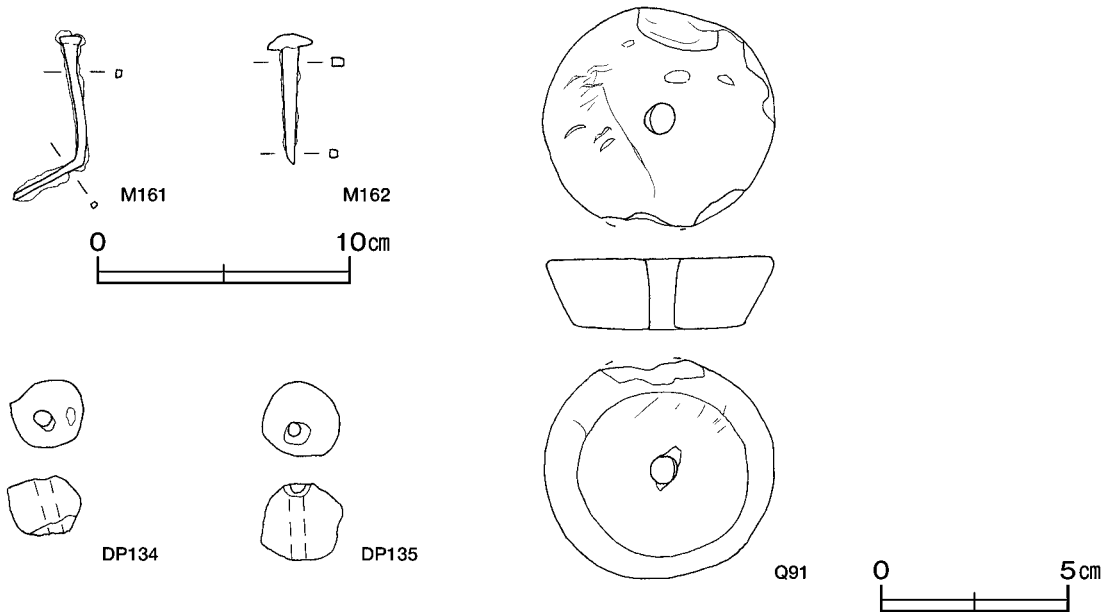
M159



M160



第580图 第2670号住居跡出土遺物実測図(1)



第581図 第2670号住居跡出土遺物実測図(2)

**ピット** 4か所。P1～P4は主柱穴で、深さは46～58cmである。

**覆土** 11層に分けられる。各層にロームを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

1	にぶい褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量,炭化物微量
2	褐色	ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量,ローム粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量,炭化物・焼土粒子微量
4	暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量,焼土ブロック・ローム粒子微量	9	明褐色	ロームブロック中量,炭化粒子微量
5	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量,炭化粒子少量,焼土ブロック微量	10	暗褐色	ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
			11	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片1079点(坏231, 椀8, 高台付椀1, 蓋7, 高坏12, 壺4, 甕類794, 小形甕22), 須恵器片211点(坏145, 高台付坏1, 蓋8, 甗1, 甕類56), 灰釉陶器片4点(瓶類), 土製品2点(球状土錘), 石製品1点(紡錘車), 鉄製品6点(刀子2, 鋸1, 鎌1, 釘2)のほか, 粘土塊3点, 鉄滓1点が覆土中層から下層にかけて全面から出土している。また混入した土師質土器片1点, 磁器片1点, 瓦片2点も出土している。978～981は, 北東部の覆土下層からそれぞれほぼ完形で出土している。また983は中央部の覆土下層, 984は東部の床面, Q91は南西部壁溝の覆土上層からそれぞれ出土している。さらに982は竈火床部の覆土下層から出土し, 985は竈火床部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。986は北東部の覆土中層, DP134は南東部の覆土下層からそれぞれ出土し, 廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。DP135は中央部, M158は西部, M160は南東部壁際の覆土上層, またM157は南西部, M159は中央部, M161は東部の覆土中層, さらにM162は北西部の覆土中からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2670号住居跡出土遺物観察表(第580・581図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
978	須恵器	坏	13.7	4.3	7.2	長石・石英・雲母・小礫	灰黄褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	下層	100% PL128

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
979	須恵器	坏	11.2	3.7	6.7	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	下層	95% PL128 内面煤付着
980	須恵器	坏	13.6	4.2	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面下位ロクロ目消しのナデ 底部一方向のヘラ削り	下層	85% PL128
981	須恵器	坏	12.6	4.0	6.6	長石・石英・雲母・小礫	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部多方向の削り	下層	80% PL128
982	須恵器	坏	12.6	4.2	7.8	長石・石英・雲母	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	竈下層	70% PL128
983	須恵器	坏	[13.6]	4.3	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい赤褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	下層	65%
984	須恵器	高台付坏	-	(2.0)	8.2	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	30%
985	土師器	甕	[24.2]	(11.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ヘラナデ 内面指頭痕	竈中・下層	15%
986	須恵器	甕	[38.6]	(10.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口辺部内・外面口ロナデ 体部外面横位の平行叩き 内面ヘラナデ 輪積み痕残しのナデ	中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP134	球状土錘	2.0	(1.6)	0.4	(5.7)	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	下層	PL140
DP135	球状土錘	2.1	2.0	0.4	8.7	土(長石・石英)	ナデ 一方向からの穿孔	上層	PL140

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q91	紡錘車	(5.9)	6.1	2.0	(7.2)	泥岩	全面研磨 一方向からの穿孔 孔径0.7cm	壁溝上層	PL142

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M157	刀子	(4.4)	(1.15)	0.3	(5.9)	鉄	刀部・茎部一部欠損 刀部断面三角形 茎部断面長方形	中層	
M158	刀子	(4.5)	(1.0)	0.35	(3.6)	鉄	刀部・茎部一部欠損 刀部断面三角形 茎部断面長方形	上層	
M159	鋏	(3.2)	1.0	0.3	(3.1)	鉄	鋏身先端部一部欠損 鋏身断面両丸	中層	PL145
M160	鎌	(16.3)	4.2	0.3	(68.8)	鉄	切先部・柄付部一部欠損 切先部「U」の字に屈曲	上層	PL146
M161	釘	8.1	0.9	0.3	5.4	鉄	ほぼ完形 断面長方形 中央部で「く」の字に屈曲	中層	
M162	釘	5.2	1.9	0.4	8.4	鉄	完形 断面長方形	覆土中	PL147

### 第2672号住居跡(第582図)

**位置** 調査区北東部のQ6h3区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2664・2665号住居跡を掘り込み, 第4685号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.80m, 短軸4.32mの長方形で, 主軸方向はN-2°-Eである。壁高は12~20cmで, ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で, 壁際まで踏み固められている。壁下には, 幅20~24cm, 深さ4~8cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

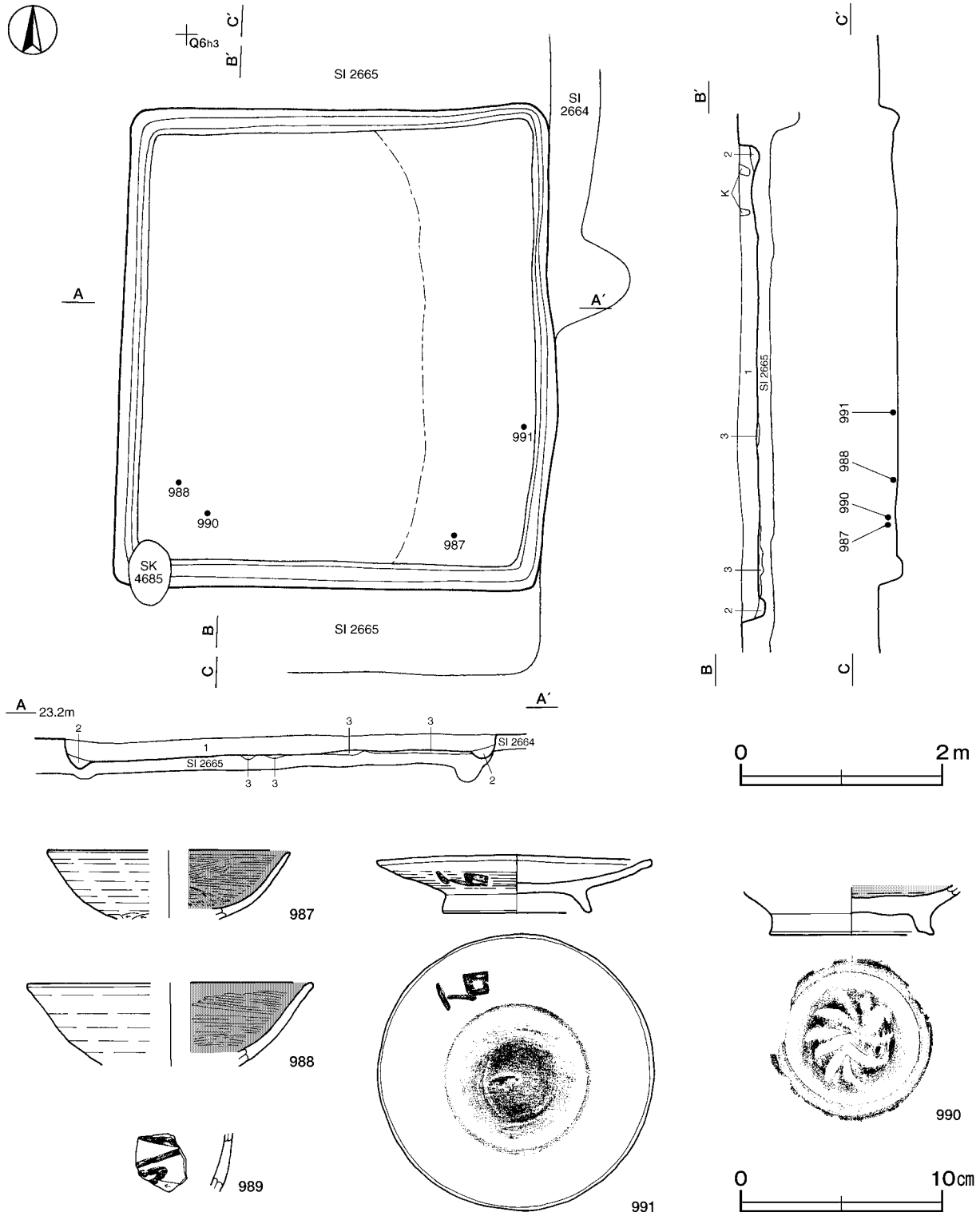
**覆土** 3層に分けられる。第1層は覆土で, ローム・焼土・炭化粒子を含む人為堆積である。第2層は壁溝の覆土, 第3層はロームを主体とする貼床の構築土である。

#### 土層解説

- 1 灰黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黄褐色 ロームブロック多量

**遺物出土状況** 土師器片1153点(坏300, 椀1, 高台付椀26, 皿7, 高台付皿1, 高坏5, 鉢1, 甕類809, 小形甕1, 甌2), 須恵器片254点(坏106, 高台付坏5, 高台付皿1, 蓋5, 鉢1, 瓶3, 甕類132, 甌1), 灰釉陶器片4点(椀2, 瓶2), 鉄製品1点(鎌)のほか, 粘土塊3点, 鉄滓1点が全面の覆土中層から下層にかけて出土している。987は南東部, 990は南西部の覆土下層, 988は南西部, 991は南東部の床面からそれぞれ出土し, いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器や9世紀後葉と考えられる第2665号住居を掘り込んでいることから10世紀前半と考えられる。



第582図 第2672号住居跡・出土遺物実測図

第2672号住居跡出土遺物観察表（第582図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
987	土師器	坏	[12.0]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロ成形 体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	下層	15%
988	土師器	坏	[14.2]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロ成形 内面ヘラ磨き	床面	10%
989	土師器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 r

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
990	土師器	高台付碗	-	(2.4)	8.2	長石・石英・雲母	橙	普通	ロク口成形 底部へラ切り後高台貼り付け 部へラ整形 (花卉状)	底層	20%
991	土師器	高台付皿	13.5	2.9	7.4	長石・石英・雲母	灰	普通	ロク口成形 体部内面ロク口目消しのナデ 部回転へラ切り後高台貼り付け	底層 床面	100% PL132・ 137 墨書「石」

### 第2679号住居跡 (第583・584図)

**位置** 調査区東部のR 5 b8 区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸3.18m、短軸3.10mの方形で、主軸方向はN - 79° - Eである。壁高は4 ~ 6cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

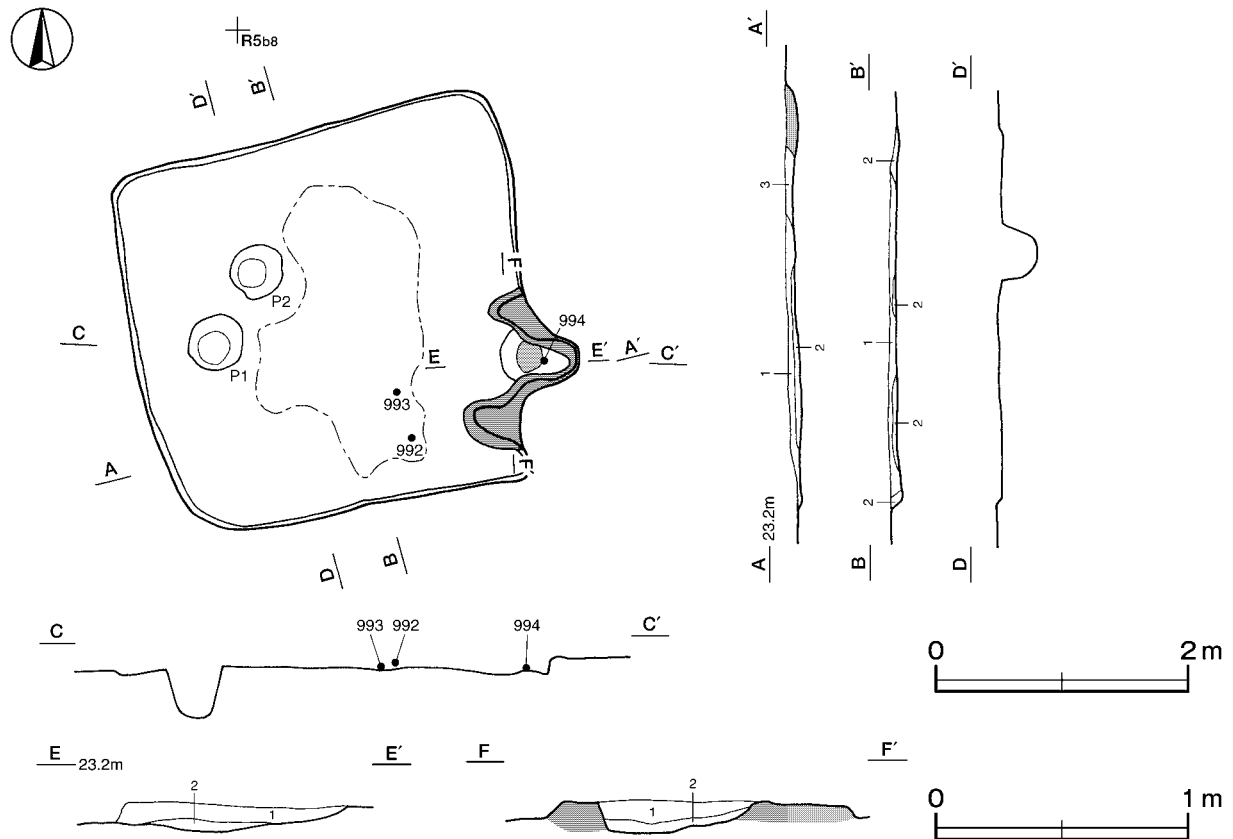
**竈** 東壁の南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで55cm、袖部幅121cmである。袖部は砂質粘土で構築している。また両袖の内側に補強材として土師器甕片が据えられている。火床部は床面を3cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に37cm掘り込まれ、火床部から緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土は第1・2層に分けられる。各層はロームや焼土のブロックを含む人為堆積である。

#### 竈土層解説

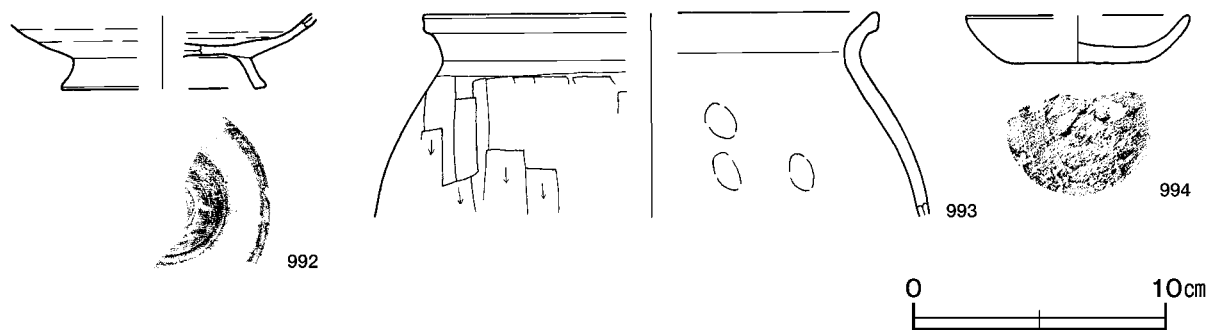
1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

**ピット** 2か所。P1は深さ40cmで南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ30cmで、性格は不明である。



第583図 第2679号住居跡実測図



第584図 第2679号住居跡出土遺物実測図

**覆土** 3層に分けられる。各層にロームを含み、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片55点（坏14，高台付椀2，小皿7，甕類32），須恵器片53点（坏3，甕類50），鉄製品1点（刀子）が南東部の覆土中層から下層を中心に出土している。また混入した瓦片1点も出土している。992は南東部の覆土下層，993は南東部の床面，994は竈火床部の覆土下層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。

第2679号住居跡出土遺物観察表（第584図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
992	土師器	高台付椀	-	(2.9)	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ成形 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	20%
993	土師器	甕	[18.0]	(8.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削りおよびヘラナデ 内面ナデ 指頭痕	床面	10%
994	土師器	小皿	[8.8]	1.9	5.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロ成形 底部回転ヘラ切り	竈下層	50%

**第2682号住居跡（第585図）**

**位置** 調査区東部のR5i9区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第7号陥し穴，第2701号住居跡を掘り込み，第153号溝，第4713号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 一辺3.59mの方形で，主軸方向はN-88°-Eである。壁高は16~20cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で，壁際を除いて踏み固められている。壁下には，幅9~10cm，深さ6~14cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 東壁中央部のやや南寄りの位置に付設されている。煙道部を第153号溝に掘り込まれており，詳細は不明である。袖部幅は73cmである。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。覆土は第1~6層に分けられ，第4層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。全体的に焼土や砂質粘土の粒子を含む人為堆積である。

**竈土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 砂質粘土粒子多量，焼土粒子微量
- 5 褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量

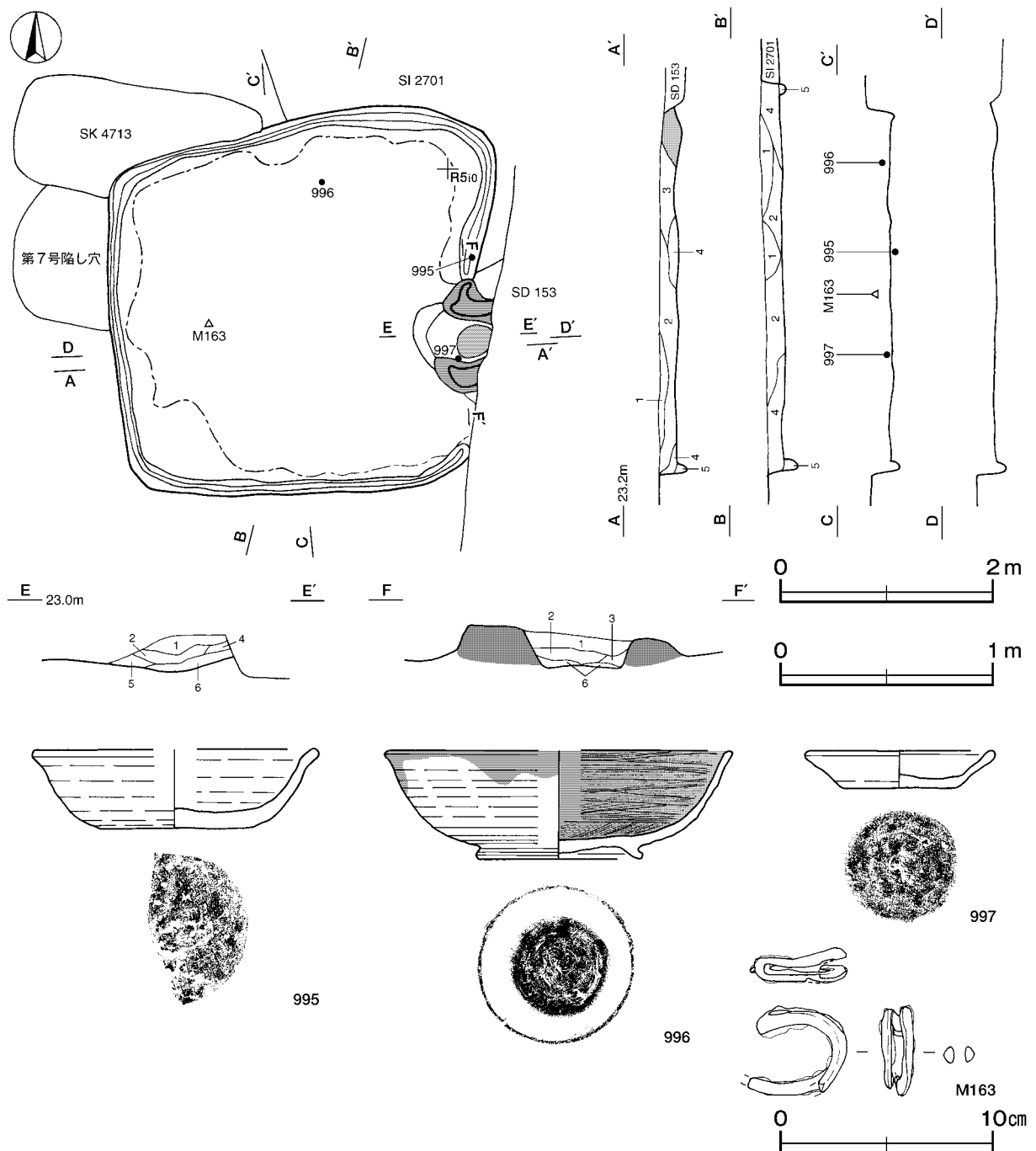
**覆土** 5層に分けられる。全体的にローム粒子を含む人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                             |       |                 |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------|
| 1 褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量        | 4 明褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量                | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |       |                 |

**遺物出土状況** 土師器片197点(坏97, 高台付椀16, 皿5, 甕類79), 須恵器片26点(坏11, 蓋3, 鉢1, 甕類11), 灰釉陶器片2点(瓶類), 鉄製品1点(鎖カ)が出土している。996は北側の覆土下層, M163は西側の覆土中層, 995は東壁溝の覆土中, 997は竈の覆土下層からそれぞれ出土しており, いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土遺物から10世紀後半以前と考えられる。



第585図 第2682号住居跡・出土遺物実測図



第2682号住居跡出土遺物観察表（第585図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
995	土師器	坏	[13.0]	3.7	7.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転ヘラ切り	壁溝覆土中	45%
996	土師器	高台付碗	[15.8]	5.1	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	下層	50%
997	土師器	小皿	8.8	1.8	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部糸切り痕	竈下層	85%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M163	鎖カ	(4.7)	4.2	1.7	(16.8)	鉄	端部欠損 断面半円形 鉄棒をU字状に折り曲げ、さらに円形に彎曲させている	中層	PL147

第2684号住居跡（第586・587図）

**位置** 調査区東部のR 5 g0区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2692・2705号住居跡を掘り込み，第4708号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.81m，短軸2.74mの方形で，主軸方向はN - 7° - Eである。壁高は20～22cmで，ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁下には，幅12～13cm，深さ7～10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。北半部を第4708号土坑に掘り込まれており，煙道部の状況は不明である。確認できた袖部幅は106cmである。火床部は床面から3cmほどくぼんでおり，火床面は火を受けて赤変硬化している。覆土は第1～4層に分けられ，第3・4層には灰が含まれている。各層はロームや焼土のブロックを含む人為堆積である。

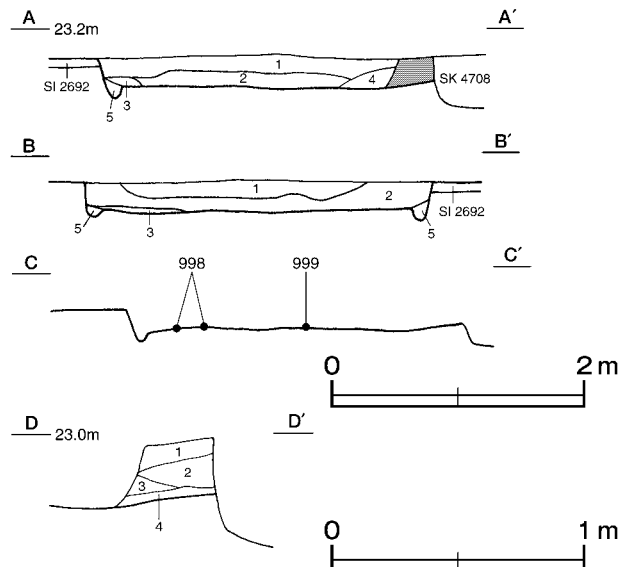
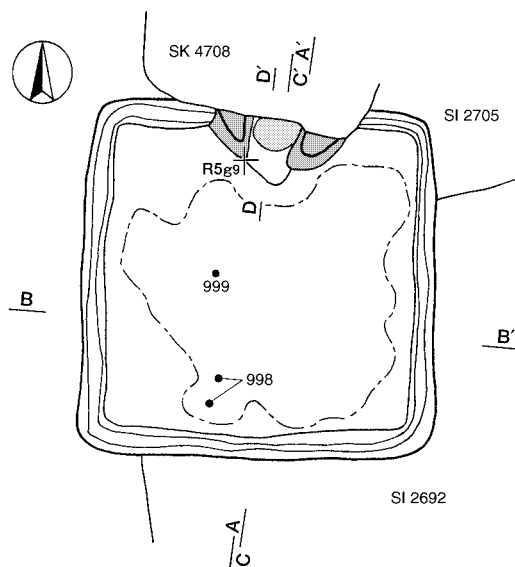
**覆土層解説**

- |       |                                  |        |                                |
|-------|----------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量      | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・灰少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 赤褐色  | 焼土ブロック・砂質粘土粒子・灰少量，ローム粒子・炭化粒子微量 |

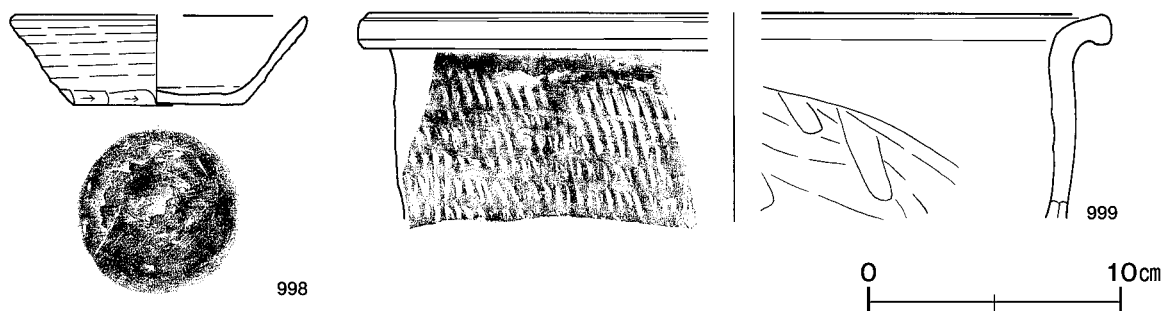
**覆土** 5層に分けられる。粒径の大きいロームブロックや炭化物を含む人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                       |      |                             |
|-------|-----------------------|------|-----------------------------|
| 1 褐色  | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化物微量         | 5 褐色 | ロームブロック少量                   |
| 3 褐色  | ローム粒子中量               |      |                             |



第586図 第2684号住居跡実測図



第587図 第2684号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片177点（坏30，甕類147），須恵器片25点（坏22，蓋1，鉢1，瓶1），鉄製品1点（刀子）が出土している。998は南側，999は中央部の床面からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2684号住居跡出土遺物観察表（第587図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
998	須恵器	坏	[11.7]	3.6	6.4	長石・石英・雲母	灰黄褐	良好	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	75% PL128
999	須恵器	鉢	[29.0]	(8.0)	-	長石・雲母	灰黄	普通	口辺部内・外面ロクロナデ 体部外面格子状叩き	床面	10%

### 第2687号住居跡（第588・589図）

**位置** 調査区東部のR 6 h3区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2691号住居跡を掘り込み，第152号溝，第15号道路に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部を第152号溝に掘り込まれているため，南北軸4.40m，東西軸は4.60mだけが確認された。東西軸の長さから長方形と推定される。主軸方向はN - 6° - Eである。壁高は15~20cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，中央部と北西部の壁際が踏み固められている。東壁を除いて確認できる壁下には，幅15~18cm，深さ5~9cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで112cm，袖部幅149cmである。袖部は床面を15cmほど掘りくぼめて第12~15層を充填し，その上部に砂質粘土を主体とする第9~11層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ，火床部から階段状に立ち上がっている。奥壁には袖部の構築材と同じ第9層を貼り付けて補強している。覆土は第1~8層に分けられ，第2・3層は天井部および袖部の崩落土層に相当する。各層は，焼土のブロックや粒子，砂質粘土粒子を含む人為堆積であり，住居の廃絶に伴って破壊されたと考えられる。

#### 竈土層解説

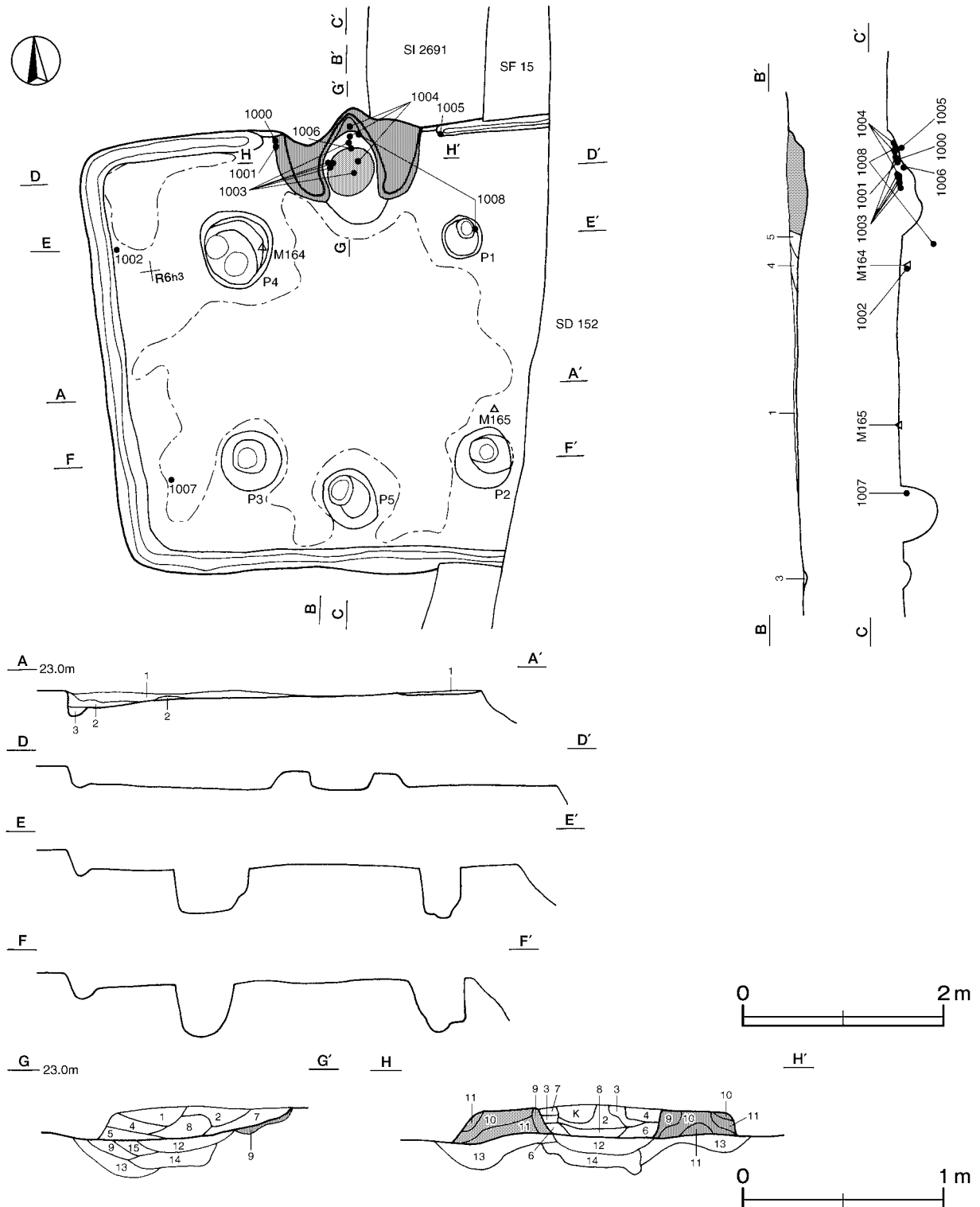
1 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量
2 赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量	10 灰褐色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3 灰褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	11 黒褐色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
4 にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	12 赤褐色	焼土ブロック中量，ローム粒子少量
5 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
6 にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	14 褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7 赤褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	15 にぶい赤褐色	灰中量，焼土ブロック・ローム粒子微量
8 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

**ピット** 5か所。P1～P4は主柱穴で、深さは47～55cmである。P5は深さ35cmで、南壁際の中央部に位置していることや硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

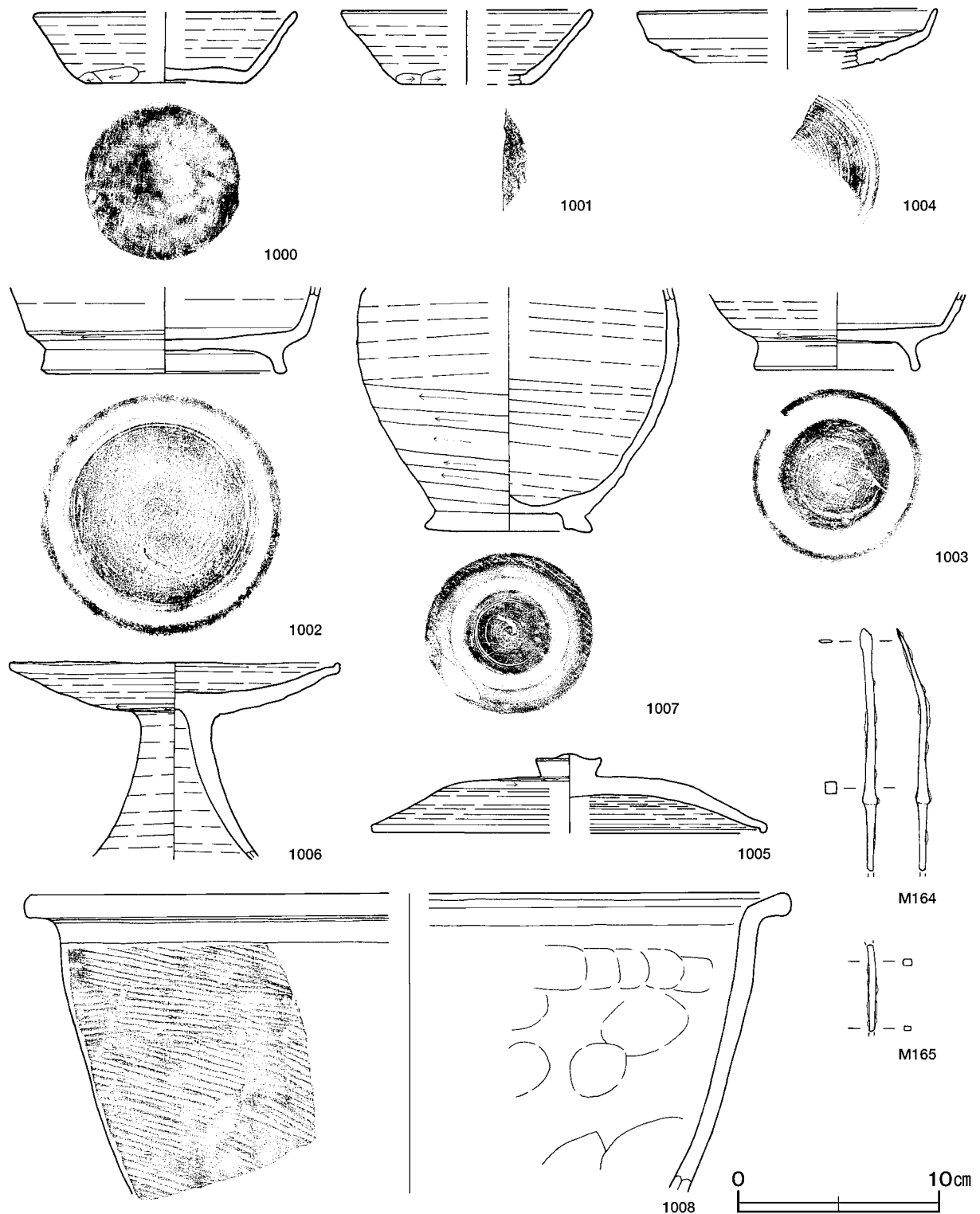
**覆土** 5層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |                           |                                |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量       | 5 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量    |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量      |                                |



第588図 第2687号住居跡実測図



第589図 第2687号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片253点(坏24, 甕類229), 須恵器片79点(坏40, 高台付坏8, 盤6, 蓋4, 高盤2, 甕類17, 甌2), 灰釉陶器片2点(長頸瓶), 鉄製品2点(鏃, 釘)のほか, 粘土塊2点が北西から南西部の覆土上層から中層にかけて出土している。また, 混入した土師器片2点も出土している。1000・1001は北壁際の西寄り, 1002は西壁際の北寄り, 1005は北壁際の東寄り, 1007は南西部の床面からそれぞれ出土し, いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。1003・1004・1008は, 竈内の覆土中層から下層にかけてそれぞれ出土

した破片が接合したものであり、いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。1006は竈の火床面から逆位で出土していることから支脚として使用されていたものと考えられる。M164はP4の覆土上層、M165は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2687号住居跡出土遺物観察表（第589図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1000	須恵器	坏	[13.0]	3.6	7.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	下層・床面	60% PL128
1001	須恵器	坏	[12.2]	3.7	[6.2]	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	下層・床面	30%
1002	須恵器	高台付坏	-	(4.3)	11.7	長石・石英	褐灰	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	50%
1003	須恵器	高台付坏	-	(3.9)	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	竈中・下層	40%
1004	須恵器	盤	[15.0]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	灰白	良好	ロクロ成形 底部ヘラ削り後高台貼り付け	竈中・下層	30%
1005	須恵器	蓋	[19.6]	3.9	-	長石・石英・雲母・小礫	明褐灰	良好	ロクロ成形 天井部左回りのヘラ削り	床面	70%
1006	須恵器	高盤	16.2	(9.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	ロクロ成形 坏部下端ヘラ削り	竈火床面	90% 内面焼土付着PL129
1007	灰釉陶器	長頸瓶	-	(12.2)	8.0	長石・黒色粒子	暗灰黄褐	良好	体部内・外面ロクロ成形 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	50%
1008	須恵器	甕	[37.6]	(14.9)	-	長石・石英・雲母	褐灰	良好	口辺部内・外面横ナデ 体部外面横位の平行叩き 当て具痕・指頭圧痕を残すナデ	竈中・下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M164	鐵	(12.1)	0.9	0.6	(11.9)	鉄	柳葉状 茎部一部欠損 鐵身部中心よりわずかに屈曲	P4上層	PL145
M165	釘	(4.3)	(0.5)	0.35	(3.0)	鉄	頭部・下端部欠損 断面長方形	下層	

### 第2688号住居跡（第590図）

**位置** 調査区東部のR5g8区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2681・2699号住居跡を掘り込み、第4658号土坑のほか7基の土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.97m、短軸6.76mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は12~14cmで、ほぼ直立している。

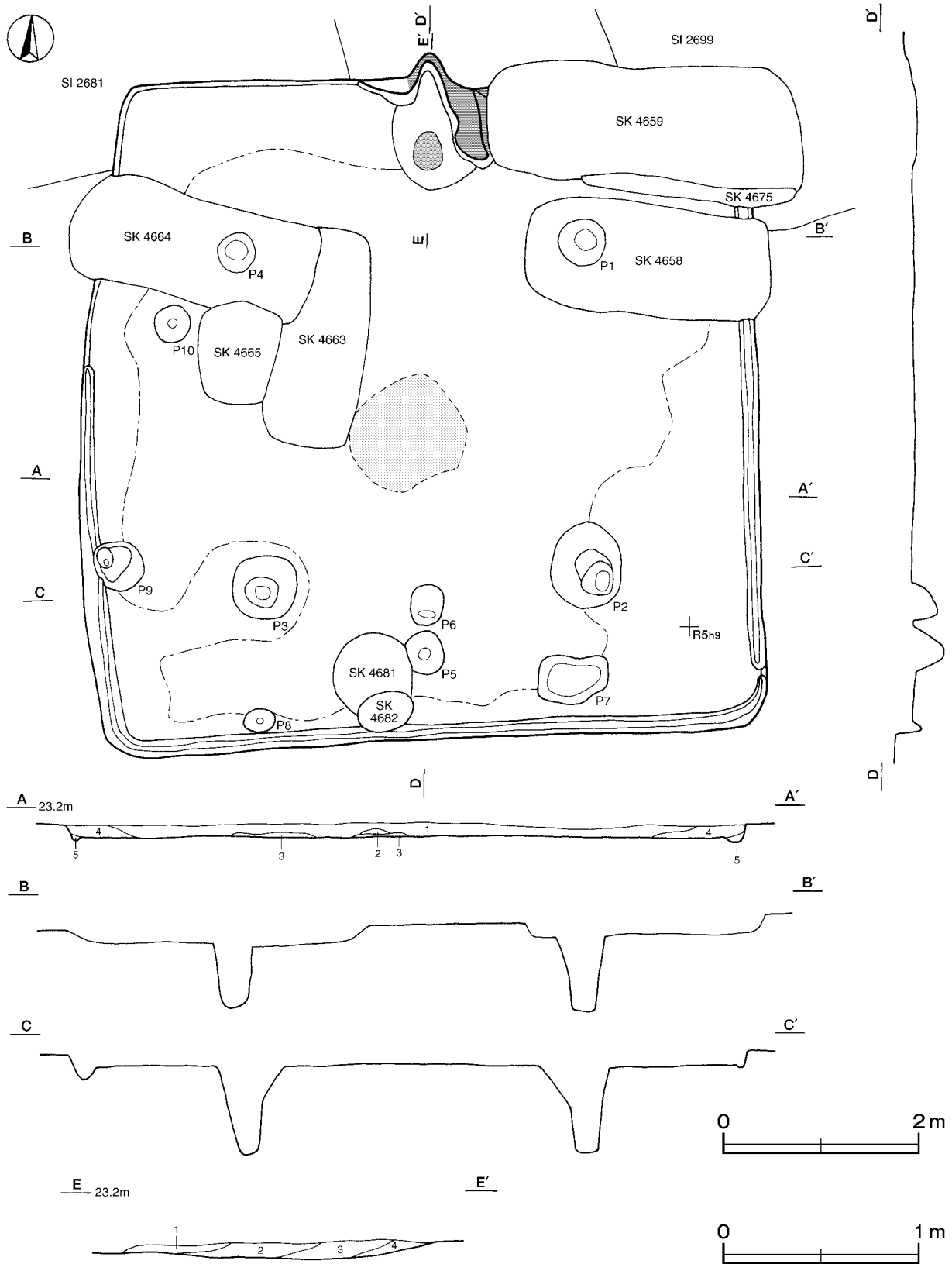
**床** ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北西側を除く壁下には、幅11~18cm、深さ6~13cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 北壁中央部に付設されている。耕作による削平を受けており、袖部の遺存状態が悪い。規模は、焚口部から煙道部まで133cm、袖部幅108cmである。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に24cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。覆土は第1~4層に分けられ、第2・3層は袖部及び天井部の崩落土層に相当する。各層はロームや焼土、砂質粘土の粒子を含む人為堆積である。

#### 竈土層解説

- |        |                              |          |                              |
|--------|------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量     | 3 暗赤褐色   | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量  |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |

**ピット** 10か所。P1~P4は主柱穴で、深さは56~61cmである。P5・P6は、深さ14・21cmで、南壁際の中央部に位置していることから、ともに出入口施設に伴うピットと考えられる。P7~P10は性格が不明である。



第590図 第2688号住居跡実測図

覆土 5層に分けられる。焼土粒子や炭化粒子を含むブロック状の堆積がみられる人為堆積である。

土層解説

- |       |                      |      |           |
|-------|----------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量    | 4 褐色 | ローム粒子少量   |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量              |      |           |

**遺物出土状況** 土師器片144点（坏51，高台付椀5，甕類88），須恵器片19点（坏5，盤2，甕類12）は，いずれも細片で，覆土中に散在した状態で出土している。また，石器（剥片）が流れ込んでいる。

**所見** 出土土器が少ないため，明確な時期は不明であるが，内面黒色処理された土師器坏や高台付椀，焼成の悪い須恵器片が含まれていることから，時期は9世紀後葉以前と考えられる。

**第2691号住居跡（第591・592図）**

**位置** 調査区東部のR 6 g4区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

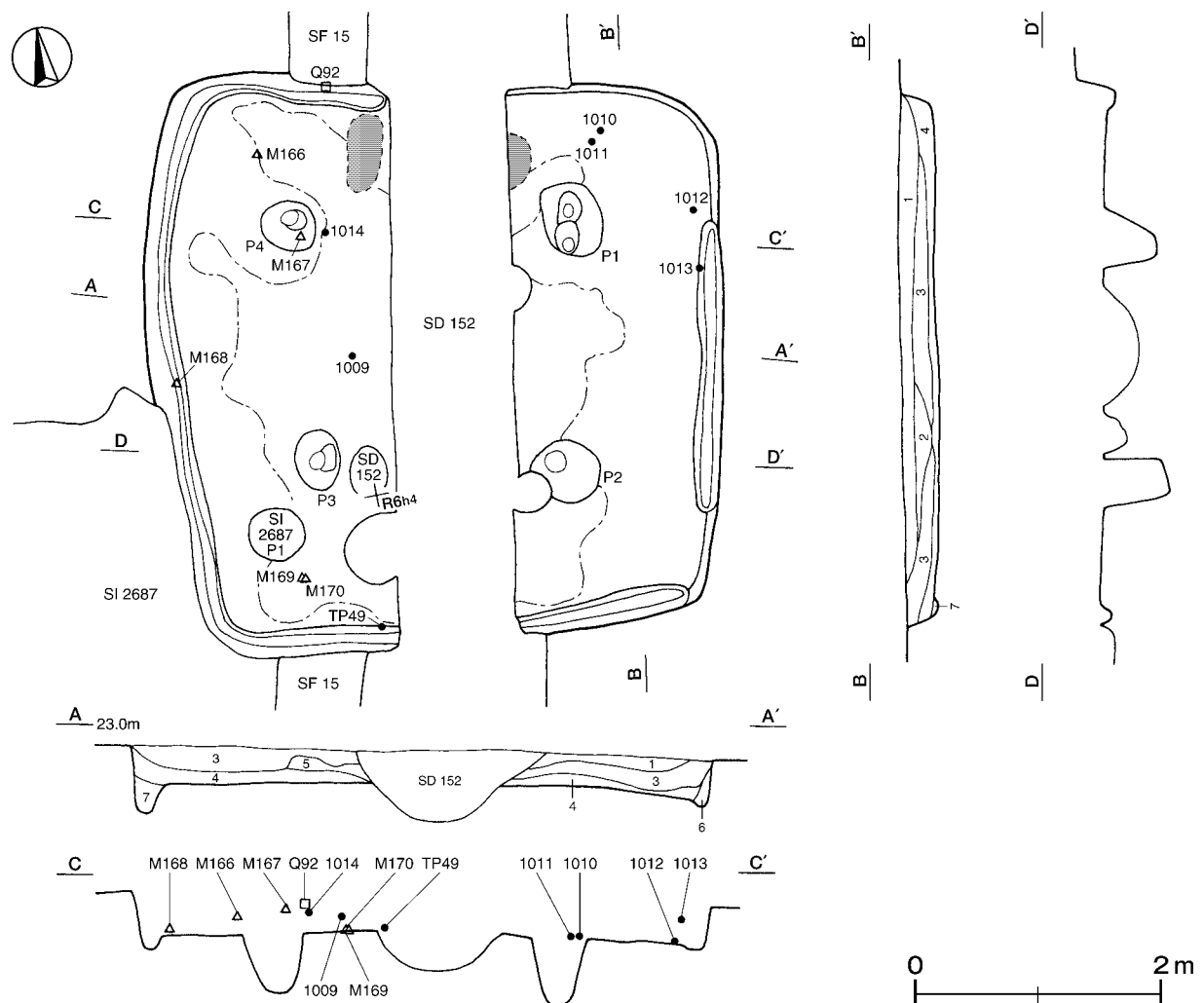
**重複関係** 第2687号住居，第152号溝，第15号道路に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.84m，短軸4.70mの方形で，主軸方向はN - 9° - Eである。壁高は28~34cmで，ほぼ直立している。

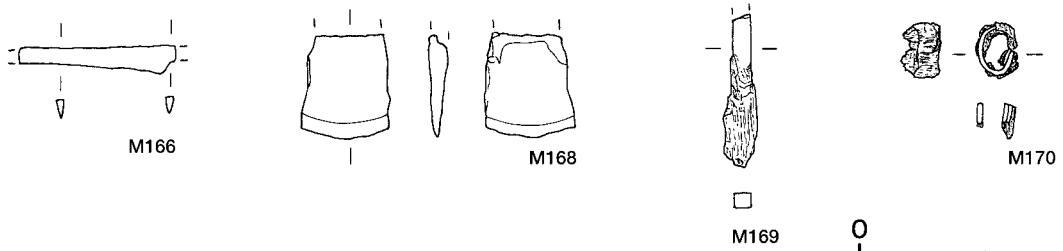
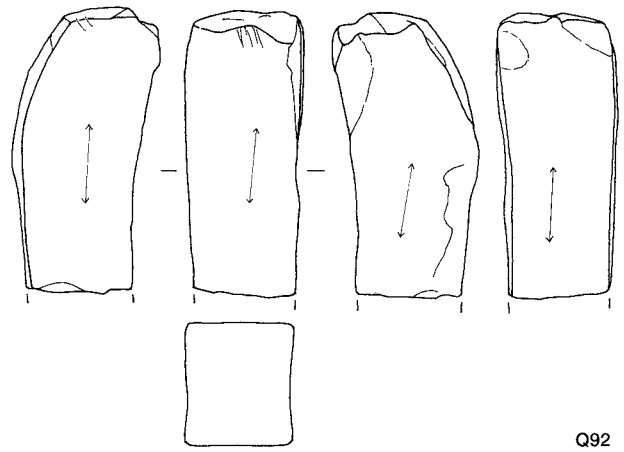
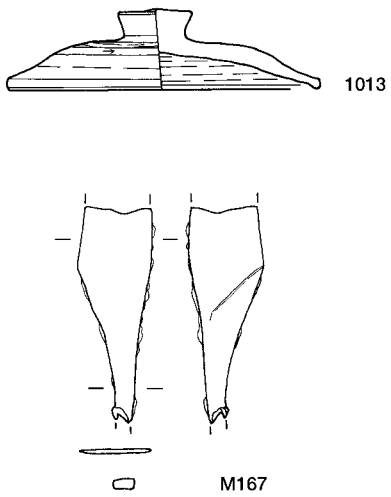
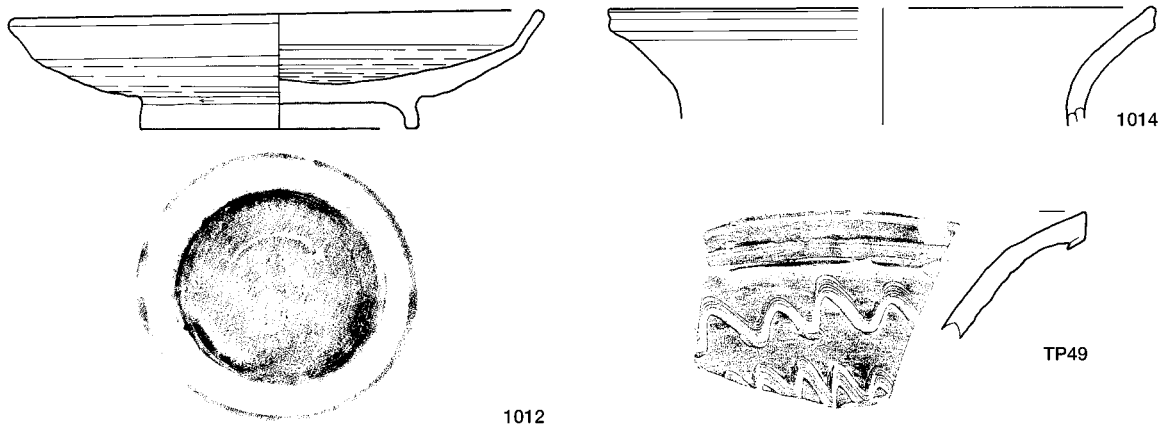
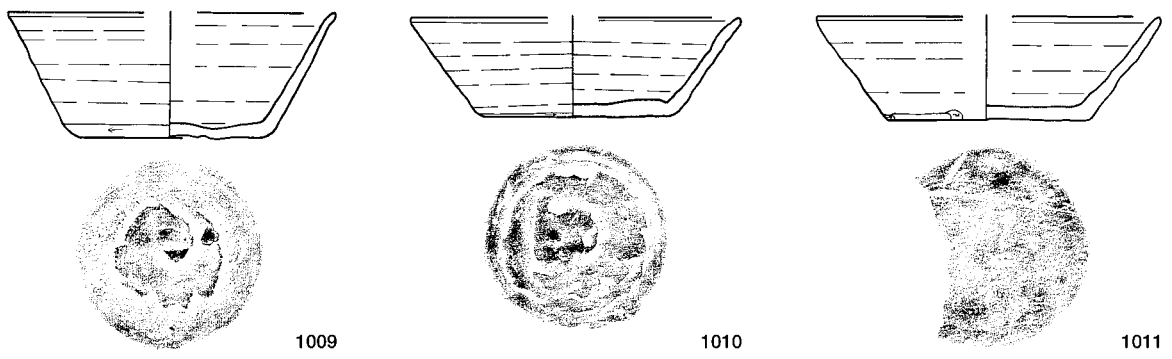
**床** ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除いた壁下には，幅16~19cm，深さ6~12cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 中央部を南北に第152号溝に掘り込まれているため規模などは不明であるが，袖部材に使われたと思われる粘土塊が確認できることから，北壁中央部に付設されていたと考えられる。

**ピット** 4か所。P1~P4は主柱穴で，深さは46~56cmである。P1は掘り直された可能性がある。



**第591図** 第2691号住居跡実測図



第592图 第2691号住居跡出土遺物実測図



**覆土** 7層に分けられる。各層に焼土粒子，第5層に焼土ブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |         |                            |        |                     |
|---------|----------------------------|--------|---------------------|
| 1 褐色    | ローム粒子中量，焼土粒子微量             | 4 褐色   | ローム粒子中量，焼土粒子少量      |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色   | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量        | 6 褐色   | ロームブロック少量，炭化粒子微量    |
|         |                            | 7 褐色   | ロームブロック・焼土粒子微量      |

**遺物出土状況** 土師器片343点（坏25，盤1，高坏4，甕類312，甑1），須恵器片119点（坏73，盤15，蓋10，甕類21），石器1点（砥石），鉄製品7点（刀子1，鏃1，手斧1，釘1，縁金具1，不明2）が中央部から北部の覆土中層から下層にかけて出土している。また，混入した平安時代後半の土師器片3点，土師質土器片1点も出土している。1009は中央部の西寄り，1013は東壁際の中央寄り，1014は北西部の覆土中層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。1010・1011は北東部の覆土下層から床面，1012は北東部東壁際の床面から逆位でそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に遺棄されたものと考えられる。TP49は南壁際中央の覆土下層から出土している。また，Q92は北壁際の西寄り，M166・M167は北西部の覆土中層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。M168は西壁際の中央，M169・M170は南西部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

**第2691号住居跡出土遺物観察表（第592図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1009	須恵器	坏	[13.0]	5.0	7.4	長石・石英・雲母・小礫	浅黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	中層	70% PL129
1010	須恵器	坏	[13.0]	4.0	7.3	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	下層・床面	65% PL129
1011	須恵器	坏	[13.6]	4.2	8.0	長石・石英・雲母・小礫	灰褐	良好	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	下層・床面	40%
1012	須恵器	盤	21.0	4.7	11.0	長石・石英・雲母	灰	普通	口口成形 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	床面	100% PL129
1013	須恵器	蓋	12.4	3.2	-	長石・石英・雲母・小礫	褐灰	良好	口口成形 天井部左回りのヘラ削り	中層	95% PL129
1014	須恵器	甕	[21.8]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	口辺部内・外面ヘラナデ	中層	10%
TP49	須恵器	甕	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	暗灰	良好	口縁部折返し 口辺部内・外面ヘラナデ 外面波状文	下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q92	砥石	(11.3)	4.7	5.9	(466.5)	凝灰岩	砥面4面の1面に条線状の研磨痕有り 他は破断面	中層	PL142

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M166	刀子	(6.3)	1.1	0.4	(4.9)	鉄	切先部・茎部欠損 両区 断面三角形	中層	
M167	鏃	(8.6)	3.0	0.4	(19.7)	鉄	鏃身先端部・茎部一部欠損 茎部断面三角形	中層	PL145
M168	手斧	(4.2)	3.6	0.8	(36.5)	鉄	袋部・刃部一部欠損 刃部は幅広	下層	PL146
M169	釘	(6.1)	0.7	0.6	(15.7)	鉄	頭部・下端部欠損 断面長方形 木質残存	下層	PL147
M170	不明	2.1	0.8	0.2	3.7	鉄	リング状 木質残存	下層	PL147

**第2696号住居跡（第593・594図）**

**位置** 調査区東部のR6h1区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2697・2701号住居跡を掘り込み，第488号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.87m，短軸3.55mの方形で，主軸方向はN-92°-Eである。壁高は15~18cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には、幅12~21cm、深さ7~10cmでU字状の断面を呈する壁溝が巡っている。

**竈** 東壁中央部に付設されている。煙道部を第488号掘立柱建物のP3に掘り込まれており、焚口部から煙道部までの規模は不明である。袖部幅は106cmである。袖部は床面を16cmほど掘りくぼめて第11層を充填し、その上部に砂質粘土を主体とする第7~10層を塊状に積み上げて構築している。火床部は床面から6cmほどくぼんでいる。火床面は火を受けて赤変しており、硬化は弱い。覆土は第1~5層に分けられ、第2・3層は天井部の崩落土層に相当する。各層は全体的に含有物がみられる人為堆積である。

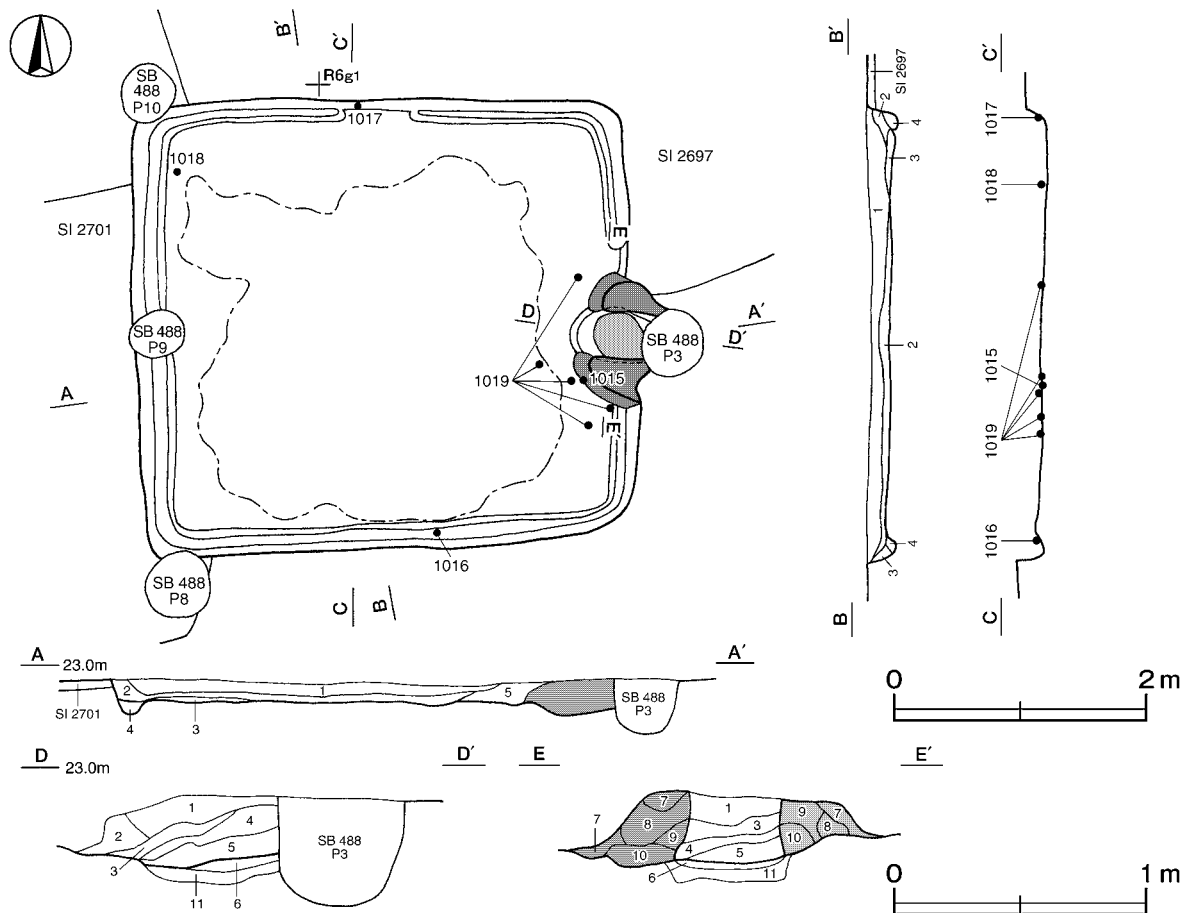
**竈土層解説**

- |          |                                |          |                                |
|----------|--------------------------------|----------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色   | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量     | 7 褐色     | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 2 にぶい褐色  | 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色    | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | 砂質粘土ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 赤褐色    | 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量          | 10 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量     |
| 5 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量     | 11 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量            |
| 6 暗赤褐色   | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量          |          |                                |

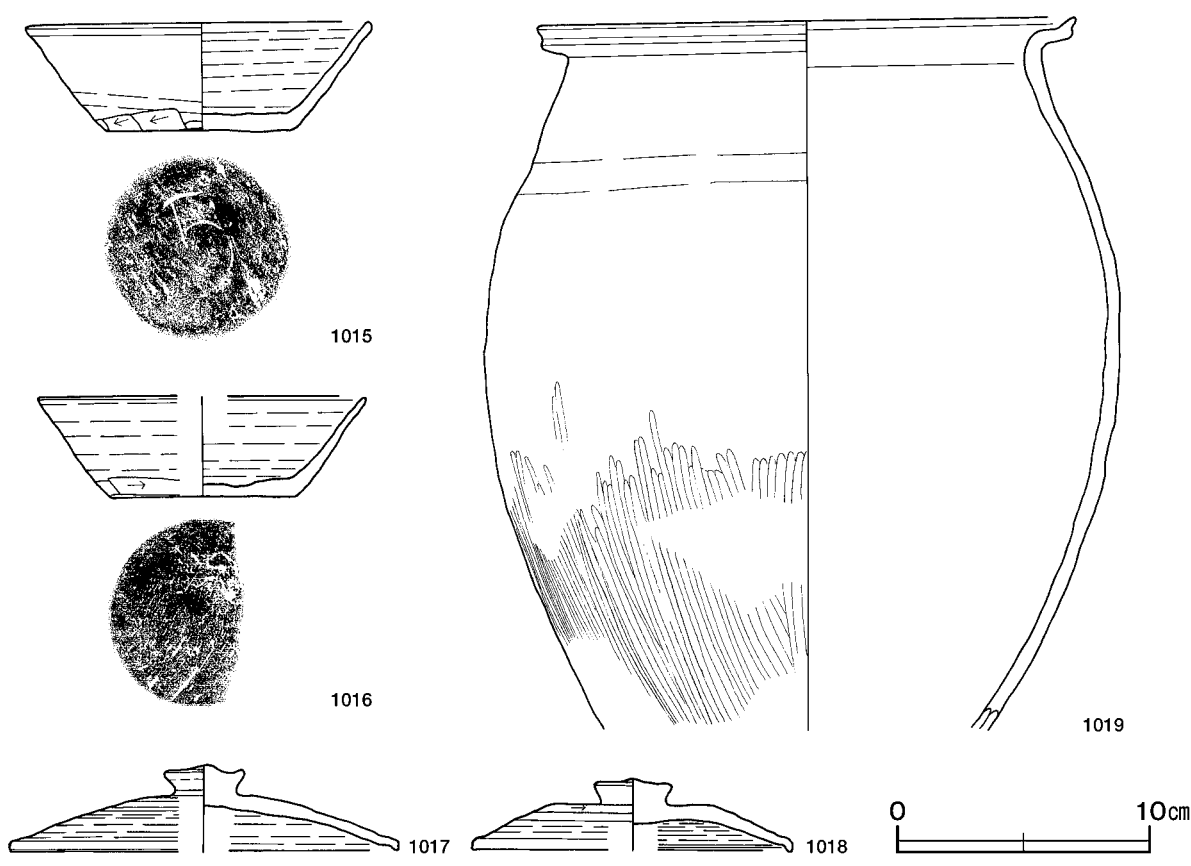
**覆土** 5層に分けられる。全体的に含有物がみられる人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                     |       |                         |
|-------|---------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量  | 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色  | ローム粒子・焼土ブロック中量、炭化粒子少量   |
| 3 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量    |       |                         |



第593図 第2696号住居跡実測図



第594図 第2696号住居跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片334点（坏39，甕類295），須恵器片66点（坏24，蓋16，盤2，鉢4，甕類20），灰釉陶器片1点（瓶類）が出土している。1015・1019は竈の前面，1017は北壁際，1016は南壁際の床面からそれぞれ出土している。1015・1016は，いずれも正位で出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第2696号竈穴住居跡出土遺物観察表（第594図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1015	須恵器	坏	13.4	4.3	7.0	長石・石英・雲母	灰	良好	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	85% PL128
1016	須恵器	坏	[12.8]	4.0	7.2	長石・石英・雲母	灰白	良好	体部内・外面ロクロナデ 下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り後一方向のヘラ削り	床面	50%
1017	須恵器	蓋	[15.2]	3.4	-	長石・石英	灰	普通	天井部左回りの回転ヘラ削り後つまみ貼り付け つまみ径3.1cm つまみ高1.2cm	床面	40%
1018	須恵器	蓋	[12.4]	2.8	-	長石・石英・雲母	黄灰	良好	天井部左回りの回転ヘラ削り後つまみ貼り付け つまみ径3.1cm つまみ高1.0cm	下層	35%
1019	土師器	甕	21.2 (28.2)	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き	床面	45% PL129

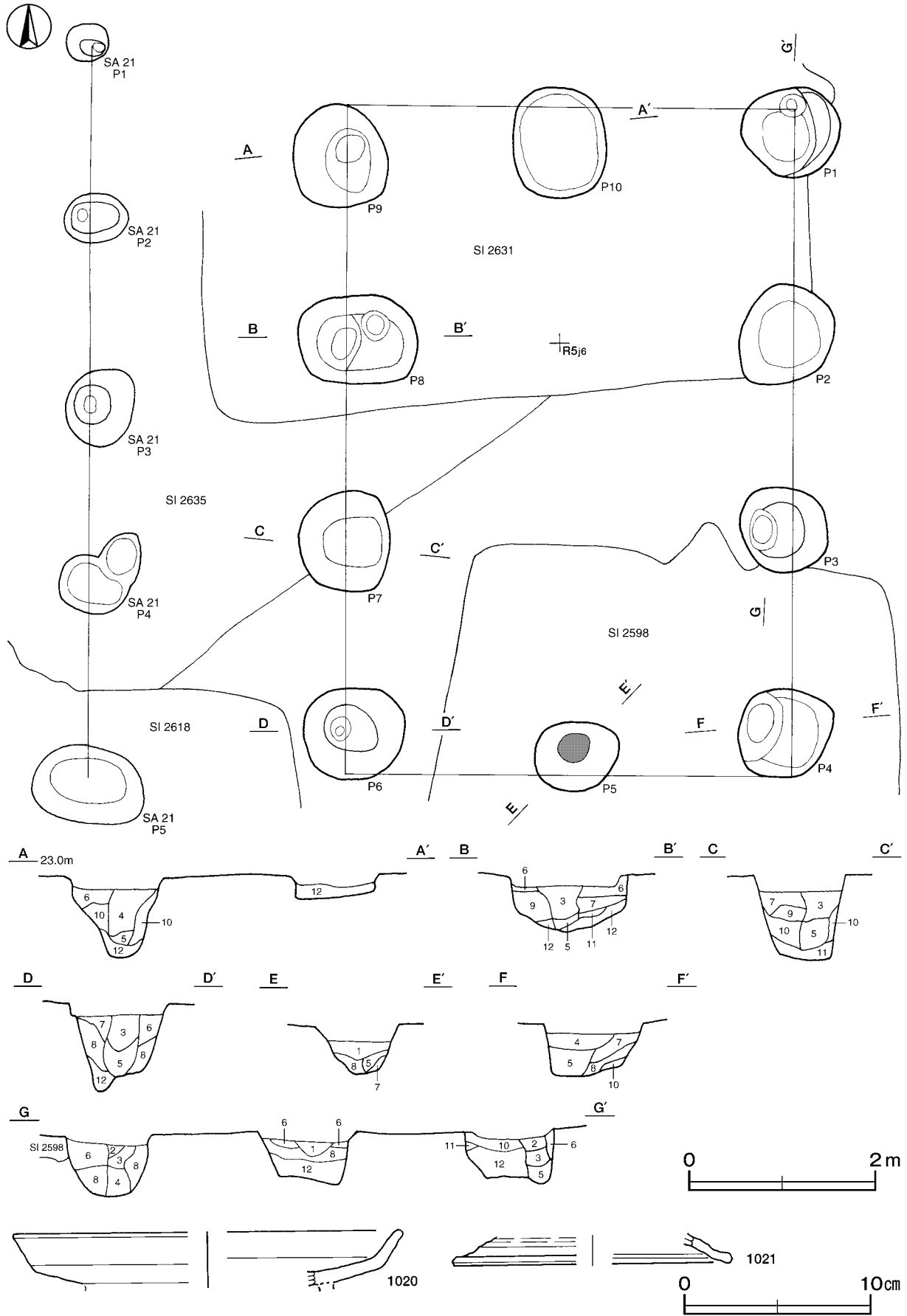
(2) 掘立柱建物跡

第471号掘立柱建物跡（第595図）

**位置** 調査区中央部のR 5 j6区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** P1・P2・P8～P10が第2631号住居跡，P3～P5が第2598号住居跡，P7～P9が第2635号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向がN-2°-Eの南北棟である。規模は桁行7.2m，梁行4.8mで，面積は34.56㎡である。柱間寸法は梁行，桁行ともに2.4m（8尺）を基調とし，均等に配置されている。



第595图 第471号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**柱穴** 10か所。深さは、桁行が60～94cm，梁行の中央が23～52cmである。土層は，第1～5層が柱抜き取り痕に相当する。第6～12層は埋土である。埋土は，掘り方掘削の際に掘り上げた土を，突き固めながら埋め立てたと考えられる。柱のあたりは，P5の底面に径33cmの円形の硬化範囲がみられるほかは，柱穴の底面に凹凸があり，不明瞭である。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック・焼土粒子多量，炭化物少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 明褐色	炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	9 暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6 灰褐色	ロームブロック中量，炭化物・焼土粒子少量	12 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片410点( 坏類59，甗類350，甑1 )，須恵器片78点( 坏43，盤1，蓋6，瓶2，甗類26 )，灰釉陶器1点( 瓶類 )が各柱穴から出土しているが，土器片の多くは下層の住居跡からの混入である。本跡に伴う遺物としては，1020がP6の埋土，1021がP1の埋土からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡は柱穴の規模が大きく，柱間寸法が広いことから，やや大形の上屋構造が推定され，居宅としての機能が想定される。西方9mの地点には，同時期の第476号掘立柱建物跡が位置し，桁行方向や南側梁行の柱筋を揃えている。西方27.4mの地点に位置している第480号掘立柱建物跡も，桁行方向を同じくすることから同時期に機能していた可能性が高い。また，本跡に付属する施設として，西側桁行から2.4m( 8尺 )の位置に第21号柵跡が並行しており，本建物の西側を遮蔽する簡易な塀と考えられる。時期は，出土遺物から9世紀前葉と考えられる。

**第471号掘立柱建物跡出土遺物観察表**（第595図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1020	須恵器	盤	[20.6]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰色	良好	内・外面口ロナデ 底部高台貼り付け	P6埋土	20%
1021	須恵器	蓋	[14.6]	(1.5)	-	長石・雲母	にぶい橙	不良	天井部回転ヘラ削り	P1埋土	10%

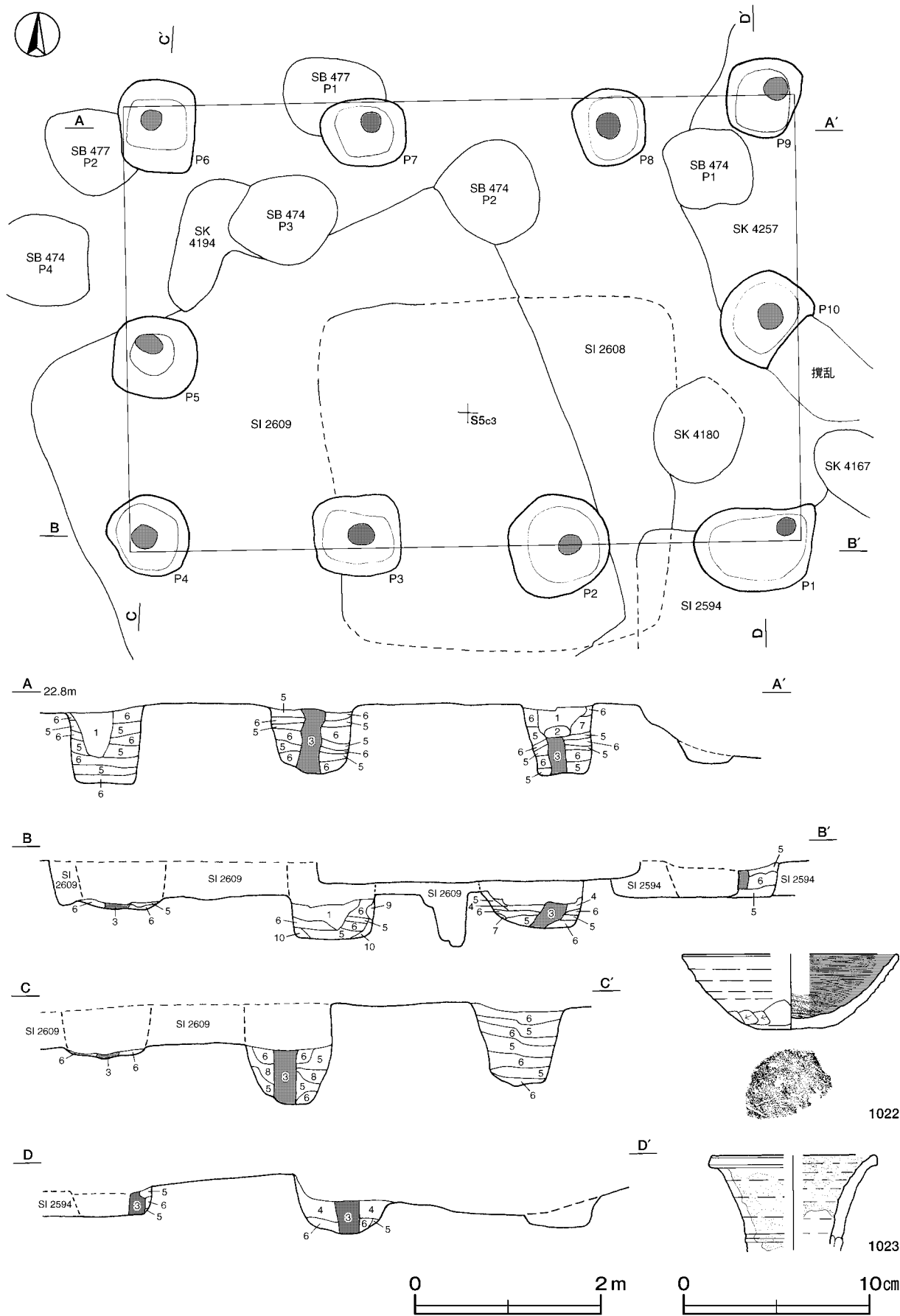
**第472号掘立柱建物跡**（第596図）

**位置** 調査区南部のS5c2区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** P1が第2594号住居跡，P2～P5が第2609号住居跡，P2～P4が第478号掘立柱建物跡の北桁行部，P6・P7が第477号掘立柱建物のP2・P1を掘り込んでいる。また，平面構造が第474号掘立柱建物跡と重複しており，本跡と第474号掘立柱建物跡，第477号掘立柱建物跡との切り合い関係から本跡が最も新しい。その他，P2・P3が第2608号住居，P9・P10が第4257号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向がN-87°-Eの東西棟である。規模は桁行7.2m，梁行4.8mで，面積は34.56㎡である。柱間寸法は桁行，梁行ともに2.4m( 8尺 )を基調とし，柱筋はほぼ通っている。ただし，北側桁行の柱間寸法については，東から2.1m( 7尺 )，2.4m( 8尺 )，2.7m( 9尺 )で，柱筋は不揃いである。

**柱穴** 10か所。深さはP1が32cmと浅く，その他は57～109cmである。土層は，第1・2層が柱抜き取り痕，第3層は柱痕に相当する。第4～10層が埋土であり，第5層と第6層を主体として，版築状に突き固められている。柱のあたりは，各柱穴とも掘り方の底面に径21～26cmの円形の硬化範囲が認められる。



第596图 第472号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**土層解説**（各柱穴共通）

1 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量
3 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子微量	9 褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片144点（坏25，高坏1，鉢類2，甕類110，甌6），須恵器片9点（坏5，蓋3，甕類1），灰釉陶器片1点（長頸瓶），土製品1点（勾玉）が各柱穴から出土している。土製勾玉は，下層の第2609号住居跡から出土した土製勾玉と接合関係にあり，柱穴の掘削の際に同住居跡から混入したものと考えられる。本跡に伴う遺物は，1022がP6，1023がP4の埋土からそれぞれ出土している。

**所見** 性格は，形状からみて倉庫的な機能が想定される。北方2.4mの地点に隣接する第475号掘立柱建物，桁行方向をほぼ同一にし，東側梁行を揃えていることから，同時期に機能していたと考えられる。時期は，出土遺物や重複関係から9世紀後葉と考えられる。

**第472号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第596図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1022	土師器	坏	[11.5]	4.0	[3.3]	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り，体部内面丁寧なヘラ磨き 底部回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラ削り	P 6 埋土	20%
1023	灰釉陶器	長頸瓶	[8.8]	(5.2)	-	長石・石英	灰黄色	良好	内・外面口クロナデ	P 4 埋土	20%

**第475号掘立柱建物跡（第597図）**

**位置** 調査中央部のS 5 j2区，標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** P1が第2618号住居跡，P5が第476号掘立柱建物跡のP6と第477号掘立柱建物跡のP8，P6が第476号掘立柱建物跡のP7，P6・P7が第2632号住居跡，P8が第476号掘立柱建物跡のP3を掘り込み，P2～P4が第73号井戸，P4・P5が第2617号住居に掘り込まれている。また，平面構造が第474号掘立柱建物跡と重複しており，第477号掘立柱建物跡との切り合い関係から本跡が新しい。

**規模と構造** 桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向がN-86°-Wの東西棟である。規模は桁行6.3m，梁行4.8mで，面積は30.24㎡である。柱間寸法は，桁行が東から2.4m（8尺），2.4m（8尺），1.5m（5尺）で，梁行は2.4m（8尺）を基調として均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

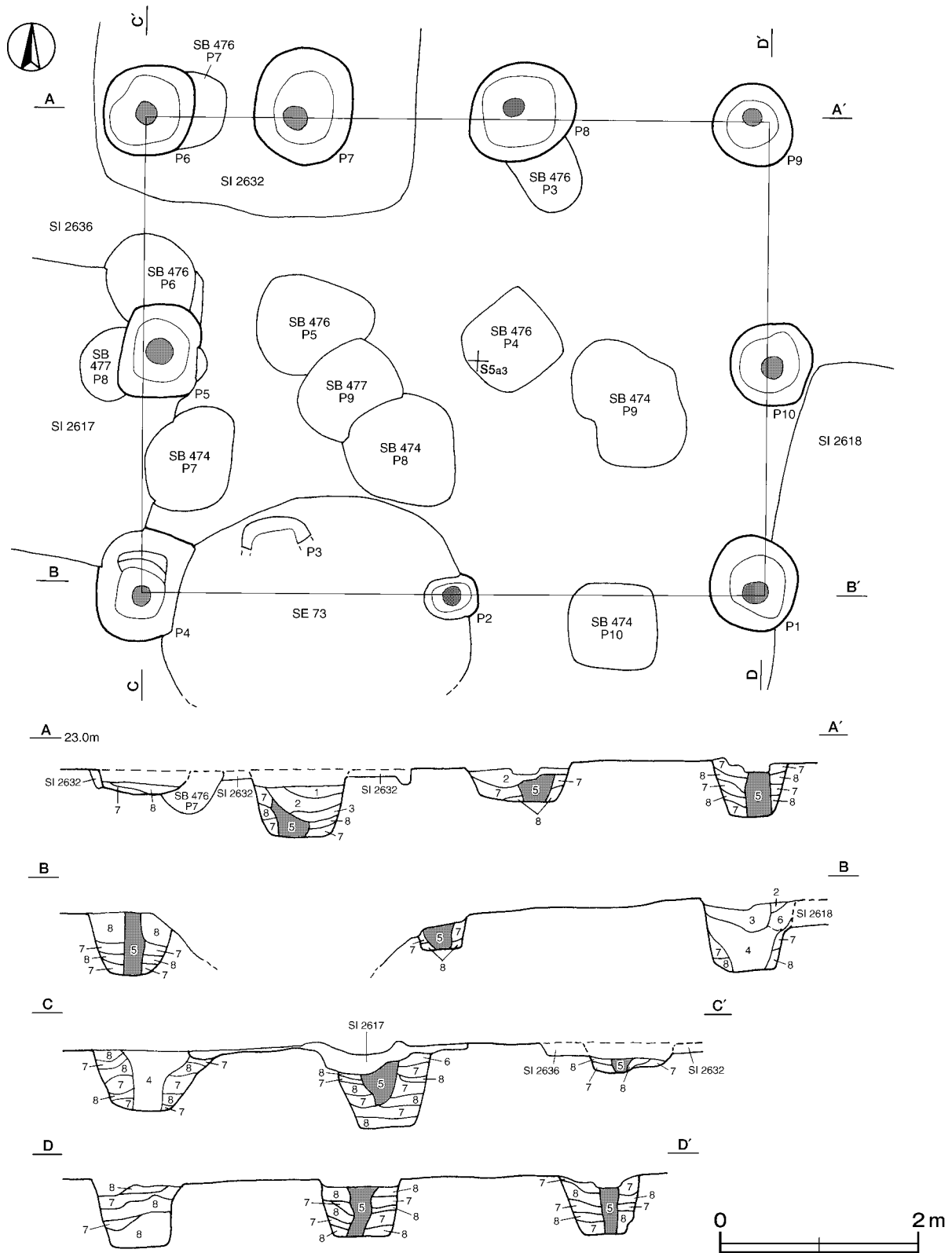
**柱穴** 10か所。深さは25～84cmである。土層は，第1～4層が柱抜き取り痕，第5層が柱痕に相当する。第6～8層は埋土で，第7層と第8層を主体とし，版築状に突き固められている。柱のあたりは，各柱穴の底面に径15～25cmの円形の硬化範囲が認められる。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量，炭化物微量	6 極暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	8 極暗褐色	ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片134点（坏23，甕類111），須恵器片17点（坏14，甕類2，甌1）が各柱穴から出土しているほか，縄文土器片がP1の抜き取り痕に流れ込んでいる。

**所見** 本跡の北方2.4mには桁行方向を同じくする第472号掘立柱建物跡が位置しており，近接して並列することから，倉庫として機能していたと想定される。時期は，重複関係から第477号掘立柱建物跡より新しく，第2617号住居跡より古く位置づけられることから9世紀後葉と考えられる。



第597図 第475号掘立柱建物跡実測図

第476号掘立柱建物跡 (第598図)

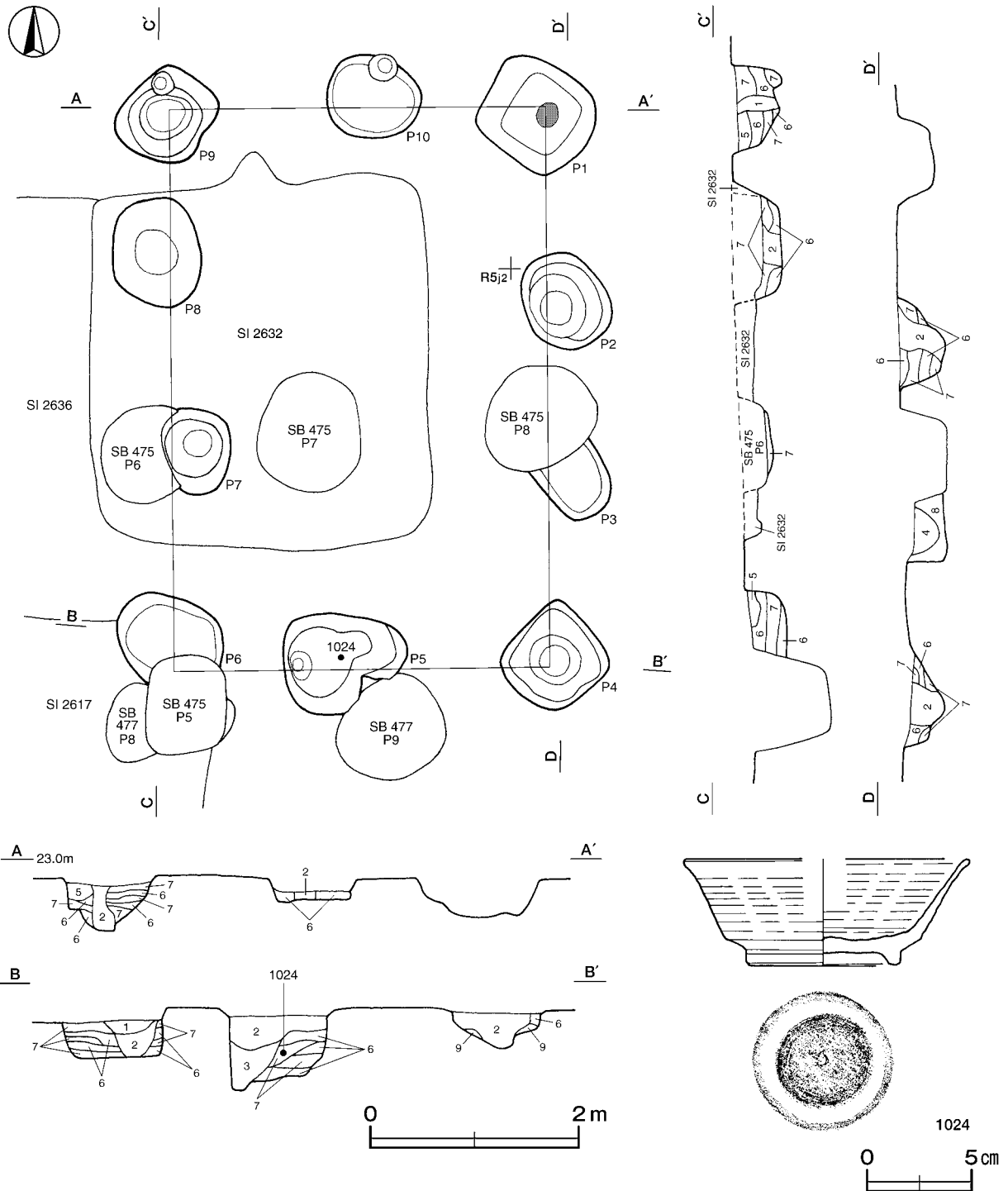
位置 調査区中央部のR 5 j 2 区, 標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 P7・P8 が第2632・2636号住居跡を掘り込み, P3・P6・P7 が第475号掘立柱建物のP8・P5・



P6 , P5・P6 が第477号掘立柱建物のP9・P8 , P6 が第2617号住居にそれぞれ掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行3間, 梁行2間の側柱建物で, 桁行方向がN - 2° - Eの南北棟である。規模は桁行5.4m , 梁行3.6mで, 面積は19.44㎡である。柱間寸法は, 桁行, 梁行ともに1.8m ( 6尺)を基調とし, 均等に配置されている。柱筋はやや不揃いである。



第598図 第476号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**柱穴** 10か所。深さは19～79cmである。土層は、第1～4層が柱抜き取り痕に相当する。第5～9層は埋土である。第6層と第7層を主体として、版築状に突き固められている。柱のあたりは、P1の底面で径22cmの円形の硬化範囲が認められ、その他の柱穴は底面に柱の抜き取りによる凹凸がみられ、不明瞭である。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量
2 極暗褐色	ローム粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器片105点（坏15，甕類89，甑1），須恵器片47点（坏23，高台付坏1，盤1，甕類19，甑3），灰釉陶器片1点（瓶類）が各柱穴から出土している。1024はP5の埋土から出土している。

**所見** 本建物の東方9mの地点には桁行方向と南側梁行の柱筋を同じくする第471号掘立柱建物跡，西方10.8mの地点にも同一方向の第480号掘立柱建物跡が位置している。両建物跡は比較的規模が大きいことから居宅と想定され，本建物は倉庫としての機能が考えられる。時期は，出土土器や第471・480号掘立柱建物跡の年代観，重複関係から9世紀前葉と考えられる。

**第476号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第598図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1024	須恵器	高台付坏	[13.6]	5.1	7.0	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	不良	内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	P5埋土	60%

**第477号掘立柱建物跡（第599図）**

**位置** 調査区南部のS5a1区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** P6～P9が第2636号住居跡，P8・P9が第476号掘立柱建物跡のP6・P5，P9が第474号掘立柱建物跡のP8を掘り込んでいる。東側梁行の中央部およびP1が第73号井戸，P1・P2が第472号掘立柱建物のP7・P6，P4が第4239号土坑，P6が第4240号土坑，P7・P8が第2617号住居，P8が第475号掘立柱建物のP5に掘り込まれている。

**規模と構造** 第73号井戸に掘り込まれているため，本来の構造は不明であるが，桁行3間，梁行2間の側柱建物と推定される。桁行方向はN-89°-Eの東西棟で，規模は桁行7.2m，梁行4.8m，面積は34.56㎡である。柱間寸法は桁行，梁行ともに2.4m（8尺）を基調とするが，南桁行は東から3.3m（11尺），1.5m（5尺），2.4m（8尺）で，柱筋も不揃いである。

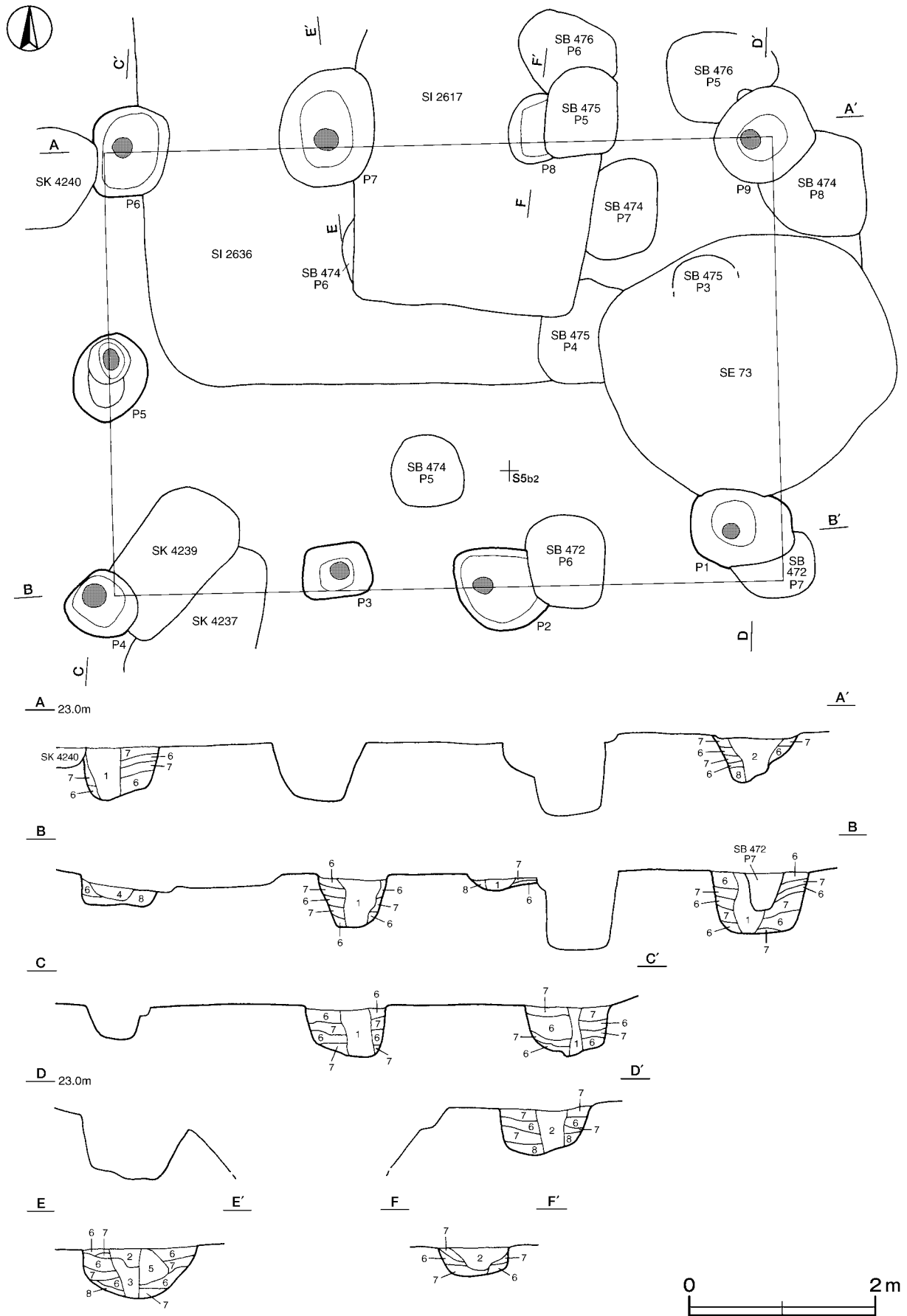
**柱穴** 9か所。第73号井戸の掘り込みによって，東梁行の中央に推定される柱穴は確認できなかった。深さは19～67cmである。土層は，第1～4層が柱抜き取り痕，第5～8層が埋土である。埋土は，第6層と第7層を主体として，版築状に突き固められている。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 極暗褐色	ローム粒子微量	5 黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック微量	7 黒褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片88点（坏10，甕類78），須恵器片7点（坏1，甕類6）が出土しているが，いずれも細片のため図示できなかった。

**所見** 本跡の南方4.8mに位置する第478号掘立柱建物跡，西方10.8mに位置する第482号掘立柱建物跡は，桁行方向が同一または直交しており，同時期に機能していた可能性が高い。これらの建物跡は規模と構造を同じ



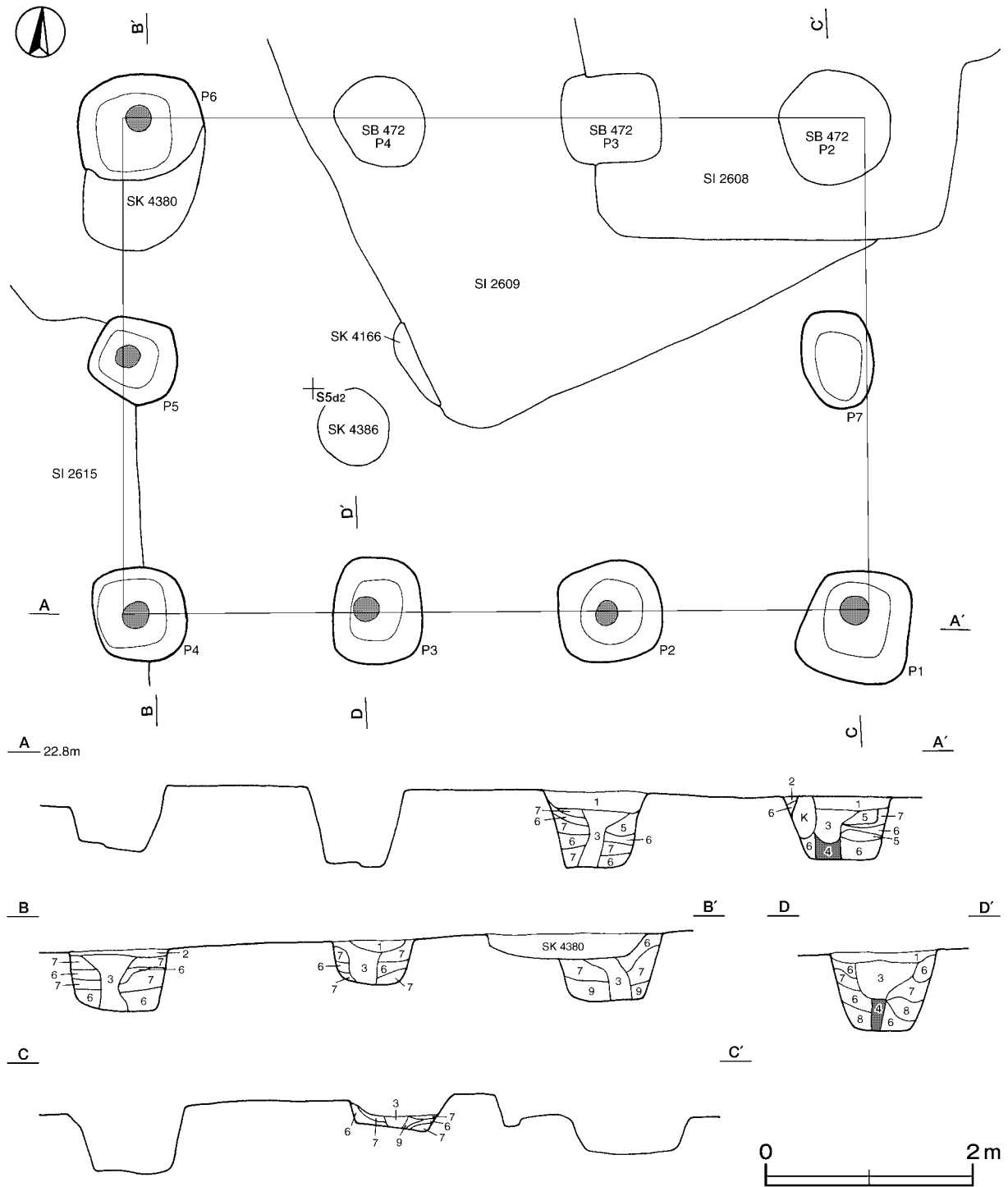
第599图 第477号掘立柱建物跡実測图

くし、近接した位置関係にあることから、倉庫として一群を形成していたと推定される。時期は、重複関係から9世紀前葉の第476号掘立柱建物跡より新しく、9世紀後葉の第472・475号掘立柱建物跡より古いことから、9世紀中葉に位置付けられる。

**第478号掘立柱建物跡（第600図）**

**位置** 調査区南部のS 5 c2 区、標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** P2～P4が第2609号住居跡、P2・P3が第2608号住居跡を掘り込み、P4・P5が第2615号住居、



**第600図** 第478号掘立柱建物跡実測図

P6 が第4380号土坑に掘り込まれている。また、北桁行の柱穴が推定される位置は、第472号掘立柱建物のP2～P4に掘り込まれており、柱穴は完全に消失したと考えられる。

**規模と構造** 北桁行を第472号掘立柱建物に掘り込まれているため、本来の構造は不明であるが、桁行3間、梁行2間の側柱建物で、規模は桁行7.2m、梁行4.8m、面積は34.56㎡と推定される。桁行方向がN-89°-Eの東西棟である。柱間寸法は、桁行、梁行ともに2.4m（8尺）を基調とし、均等に配置されている。柱筋は揃っている。

**柱穴** 7か所。深さは35～78cmである。土層は、第1～3層が柱抜き取り痕、第4層が柱痕、第6～9層が埋土に相当する。埋土は、第6層と第7層を主体として、版築状に突き固められている。柱のあたりは、各柱穴の底面に径24～28cmの円形の硬化範囲が認められる。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	6 褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量	8 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック微量	9 暗褐色 ロームブロック少量
5 黒褐色 ロームブロック微量	

**遺物出土状況** 土師器片185点（坏35，甕類150）、須恵器片2点（坏，甕類）が各柱穴から出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。

**所見** 本跡及び第477・482号掘立柱建物跡は、規模や構造、位置関係から倉庫群を形成していたと想定される。時期は、桁行方向が一致する第477号掘立柱建物跡の年代観から9世紀中葉と考えられる。

### 第480号掘立柱建物跡（第601図）

**位置** 調査区中央部のR4j7区、標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** P1が第2638号住居跡、P2・P3が第2622号住居跡、P7・P8が第2639号住居跡、P10・P11が第2612号住居跡を掘り込んでいる。また、平面構造が第482号掘立柱建物跡と重複しており、主軸方向などから本跡が新しい。

**規模と構造** 北側が削平を受けており、正確な構造は不明であるが、桁行4間、梁行2間、桁行方向N-2°-Eの南北棟の側柱建物と推定される。規模は現状で桁行9.6m、梁行5.4m、面積51.84㎡である。柱間寸法は、桁行が2.4m（8尺）、梁行が2.7m（9尺）を基調とし、均等に配置されている。柱筋は、P8がやや外側に位置しているが、その他はほぼ揃っている。

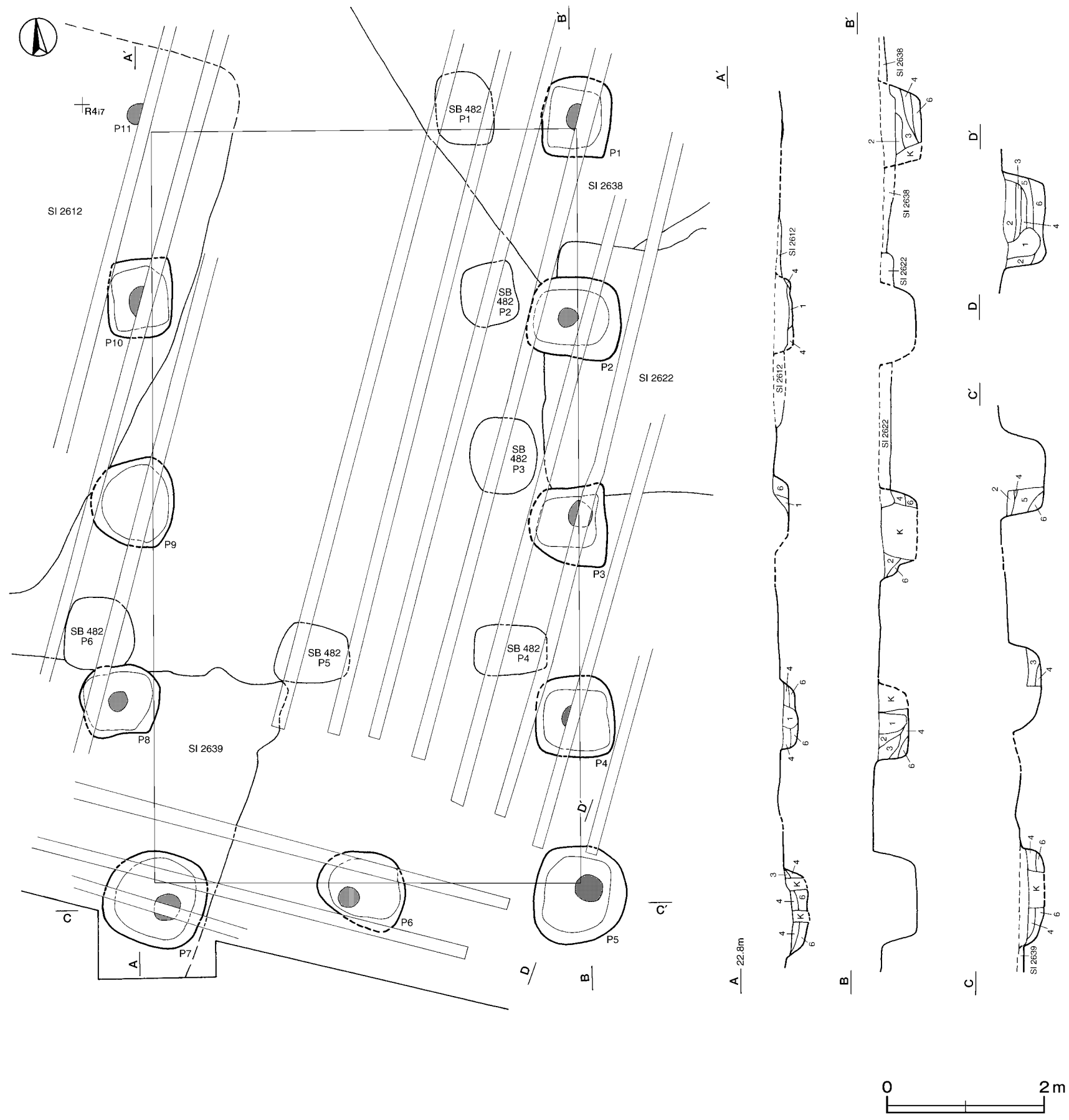
**柱穴** 11か所。削平のため北梁行中央に想定される柱穴は確認できなかった。また、P11は柱のあたりのみを確認している。深さは掘り込みが確認できたものが20～57cmである。土層は第1層が柱抜き取り痕、第2～6層は埋土に相当する。柱のあたりは、各柱穴の底面に径25～35cmの円形の硬化範囲が認められる。

**土層解説**（各柱穴共通）

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量	5 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 褐色 ローム粒子中量	6 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片184点（坏44，甕類140）、須恵器片1点（甕類）、鉄製品1点（釘）、種子1点が各柱穴から出土しているが、多くは下層の住居跡からの混入であり、本跡に伴う遺物は少ない。

**所見** 構造からやや大形の上屋構造が想定され、居宅としての機能が想定される。時期は、主軸方向を同じくする第471・476号掘立柱建物跡の年代観から9世紀前葉と考えられる。



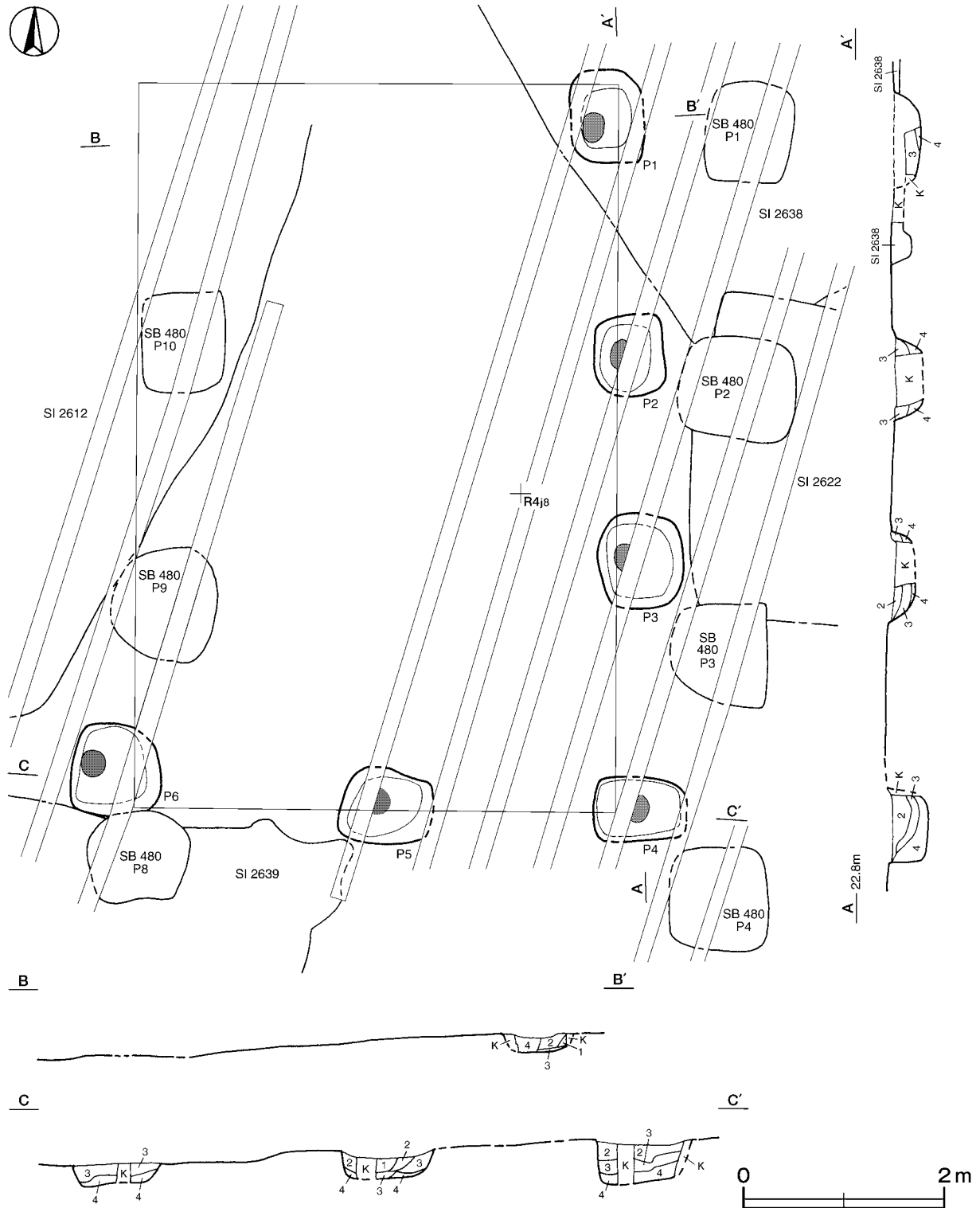
第601图 第480号掘立柱建物跡実測図

**第482号掘立柱建物跡（第602図）**

**位置** 調査区中央部のR 4 i7 区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** P1 が第2638号住居跡を掘り込んでいる。また，平面構造が第2612号住居跡，第480号掘立柱建物と重複しており，第2612号住居跡より新しく，第480号掘立柱建物より古く位置付けられる。

**規模と構造** 北西側が後世の耕作により削平されており，本来の構造は不明であるが，桁行3間，梁行2間の



**第602図** 第482号掘立柱建物跡実測図

側柱建物と考えられる。桁行方向はN - 1° - Eの南北棟で、規模は桁行7.2m、梁行4.8m、面積は34.56㎡と推定される。柱間寸法は、梁行、桁行ともに2.4m（8尺）を基調としている。

**柱穴** 6か所。北西側は耕作による削平のため失われている。深さは、21～43cmである。土層は、第1層が柱抜き取り痕、第2～4層が埋土に相当する。埋土は、掘り方掘削の際に掘り上げた土でそのまま埋め立てたと考えられる。柱のあたりは各柱穴とも径28cmほどの円形の硬化範囲が認められる。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |       |                     |       |                     |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色  | ローム粒子中量             |
| 2 褐色  | ロームブロック中量           | 4 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片76点（坏12，甕類63，手捏土器1），須恵器片5点（坏1，蓋2，甕類2）が各柱穴から出土しているが、本跡に伴う遺物は少なく、いずれも細片のため図示できなかった。

**所見** 規模や構造、位置関係からみて、桁行方向が一致する第477・478号掘立柱建物跡とともに倉庫群を形成していたと想定される。時期は、第477・478号掘立柱建物跡の年代観から9世紀中葉と考えられる。

**第484号掘立柱建物跡**（第603・604図）

**位置** 調査区北部のQ5i5区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2640・2644・2657号住居跡を掘り込み、第93号堀に掘り込まれている。また、第4468・4473号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行4間、梁行2間の側柱建物で、桁行方向N - 88° - Wの東西棟である。規模は、桁行9.6m、梁行4.2mで、面積は40.32㎡である。柱間寸法は、桁行2.4m（8尺）、梁行2.1m（7尺）を基調とし、均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

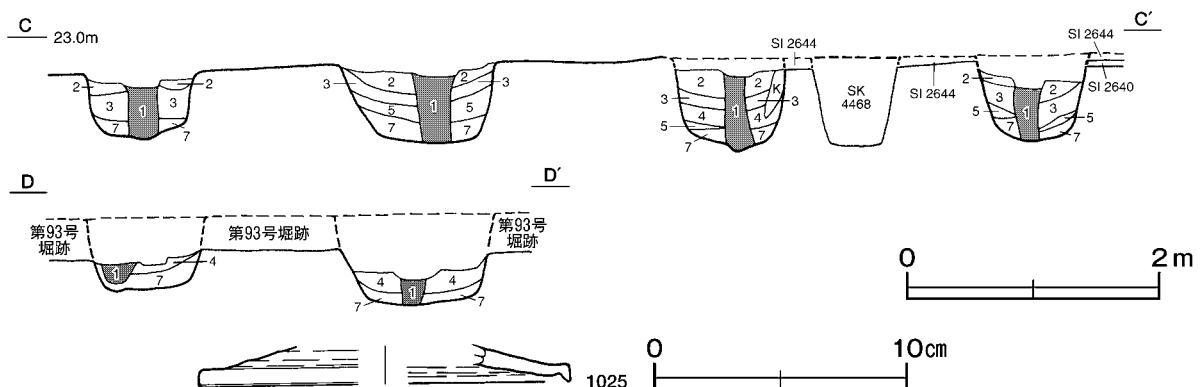
**柱穴** 12か所。深さは50～68cmである。土層は第1層が柱痕で、柱の形状が良好に残っている。第2～8層が埋土であり、強く突き固められている。柱のあたりは、P9を除いた柱穴の底面に明瞭に残っており、径10～15cmほどが硬化している。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |           |                         |        |                       |
|-----------|-------------------------|--------|-----------------------|
| 1 灰黄褐色    | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 黄灰色  | ロームブロック・砂質粘土ブロック中量    |
| 2 暗灰黄色    | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 灰黄褐色 | ロームブロック多量             |
| 3 暗オリーブ褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 黒褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色     | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 灰褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

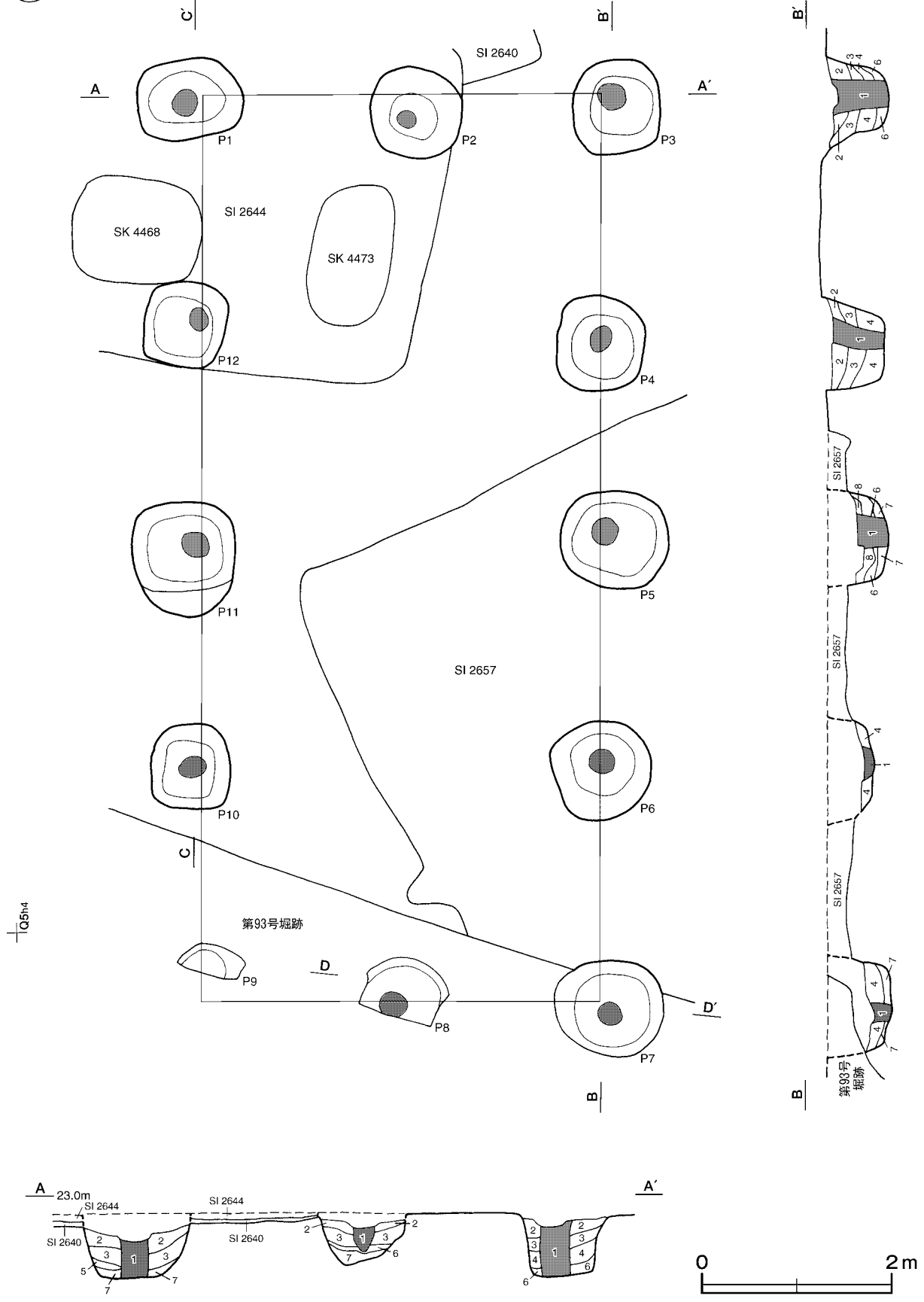
**遺物出土状況** 土師器片133点（坏14，甕類117，甑2），須恵器片3点（坏2，蓋1）のほか、混入した土師質土器片2点、瓦片1点がP9を除いた柱穴から出土している。1025はP2の覆土中から出土している。

**所見** 規模や形状から、倉庫としての機能が想定される。本跡の南には第477号掘立柱建物跡があり、軸線を揃えている。時期は、9世紀前葉以降と考えられる第2644号住居を掘り込んでいることから9世紀後半と考えられる。



第603図 第484号掘立柱建物跡・出土遺物実測図





第604图 第484号掘立柱建物跡実測图

第484号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第603図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1025	須恵器	蓋	[14.8]	(1.5)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	良好	ロクロ成形	P 2 覆土中	10%

第485号掘立柱建物跡（第605図）

**位置** 調査区北東部のQ 5 f 9 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第4458・4459号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と構造** 北側が調査区域外に伸びているため全体の規模は不明であるが，桁行3間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向N - 89° - Eの東西棟と推定される。規模は，確認された範囲では桁行5.4m，梁行4.2mで，面積は22.68㎡である。柱間寸法は，桁行は1.8m（6尺），梁行は2.1m（7尺）を基調とし，均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

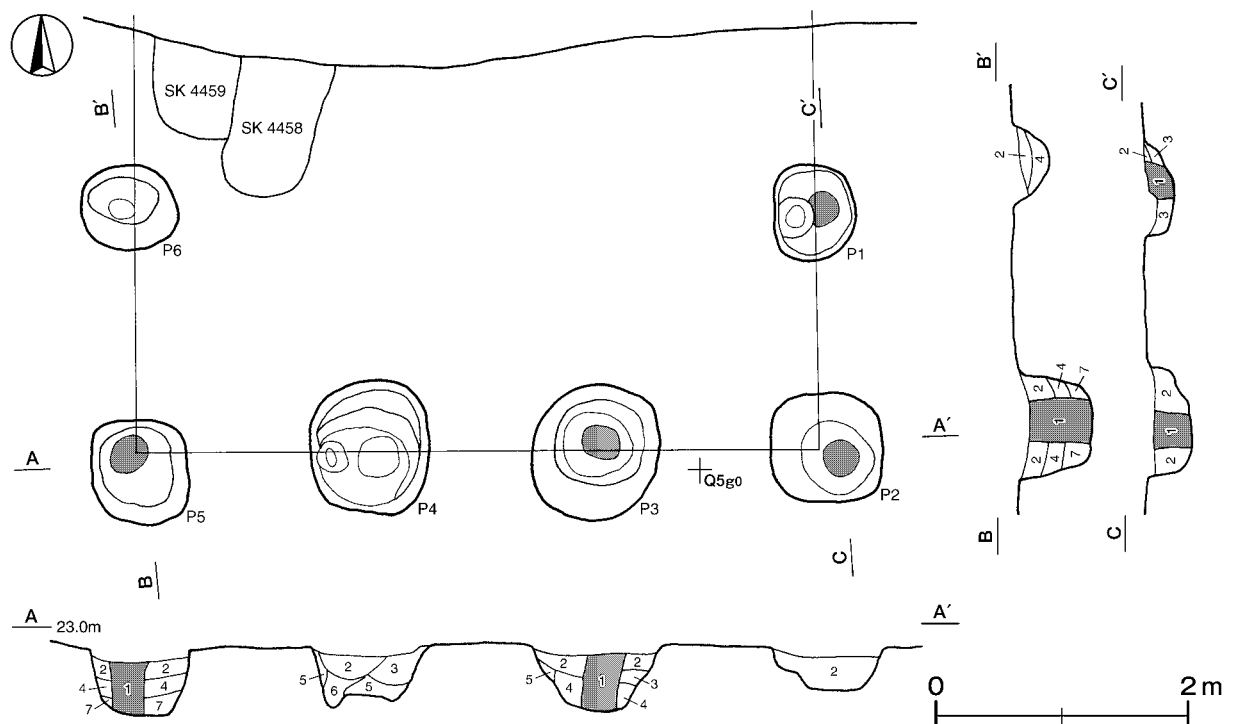
**柱穴** 6か所。深さは20～80cmである。土層は第1層が柱痕に相当し，P1～P3・P5には柱の形状が良好に残っている。第2～7層が埋土であり，強く突き固められている。柱のあたりは，P4・P6を除いた柱穴の底面に明瞭に残っており，径10～15cmほどが硬化している。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |       |                  |       |               |
|-------|------------------|-------|---------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 5 褐色  | ロームブロック少量     |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック微量     |
| 3 褐色  | ロームブロック中量        | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量        |       |               |

**遺物出土状況** 土師器片83点（坏3，甕類80），須恵器片2点（甕）のほか，混入した縄文土器片1点が各柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはない。

**所見** 規模や形状から，倉庫としての機能が想定される。本跡の南西には第484号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えている。掘り方の形状などからほぼ同位置での建て替えの可能性が考えられる。時期は，9世紀後半と考えられる。



第605図 第485号掘立柱建物跡実測図

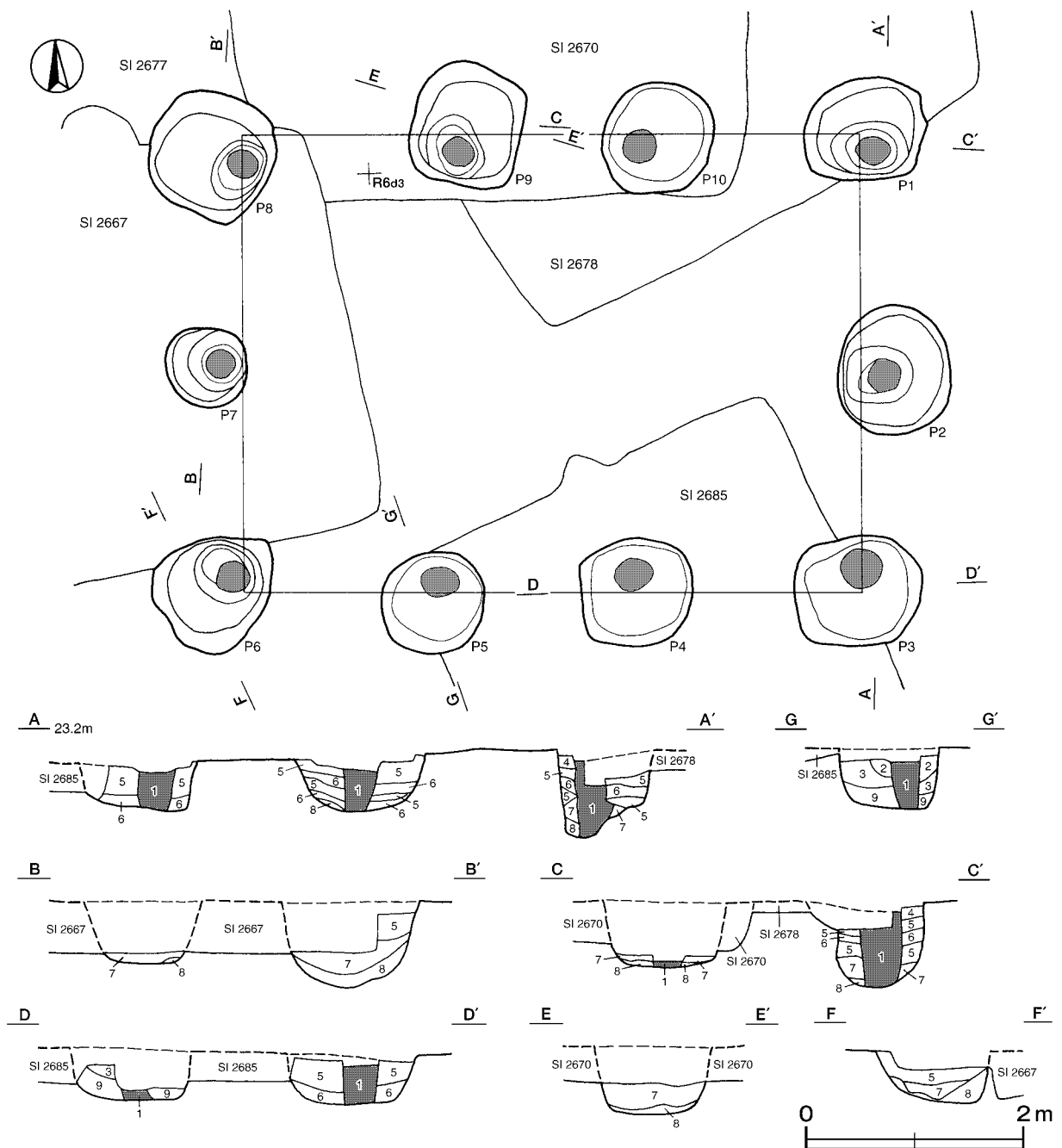
第486号掘立柱建物跡 (第606図)

位置 調査区東部のR 6 d3区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2667・2670・2677・2678・2685号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物で, 桁行方向N - 83° - Eの東西棟である。規模は, 桁行5.7m, 梁行4.2mで, 面積は23.94㎡である。柱間寸法は, 桁行は東より2.1m (7尺), 1.8m (6尺), 1.8m (6尺)で, 梁行は2.1m (7尺)を基調として配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。深さは44~80cmである。土層は第1層が柱痕に相当する。P6~P9を除いた柱穴には柱痕が良好に残っている。第2~9層が埋土であり, 第5層と第6層を主体として, 版築状に硬く突き固められている。柱のあたりは, 各柱穴の底面に明瞭に残っており, 径15cmほどが著しく硬化している。



第606図 第486号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

- |                               |  |
|-------------------------------|--|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量，ロームブロック微量        | 6 暗褐色 ロームブロック中量                        |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量   | 7 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量                   |
| 3 黒褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 ロームブロック中量                         |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量        | 9 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，<br>焼土粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量      |  |

遺物出土状況 土師器片79点（坏21，甕58），須恵器片30点（坏13，蓋2，甕15）がP9を除いた柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはない。

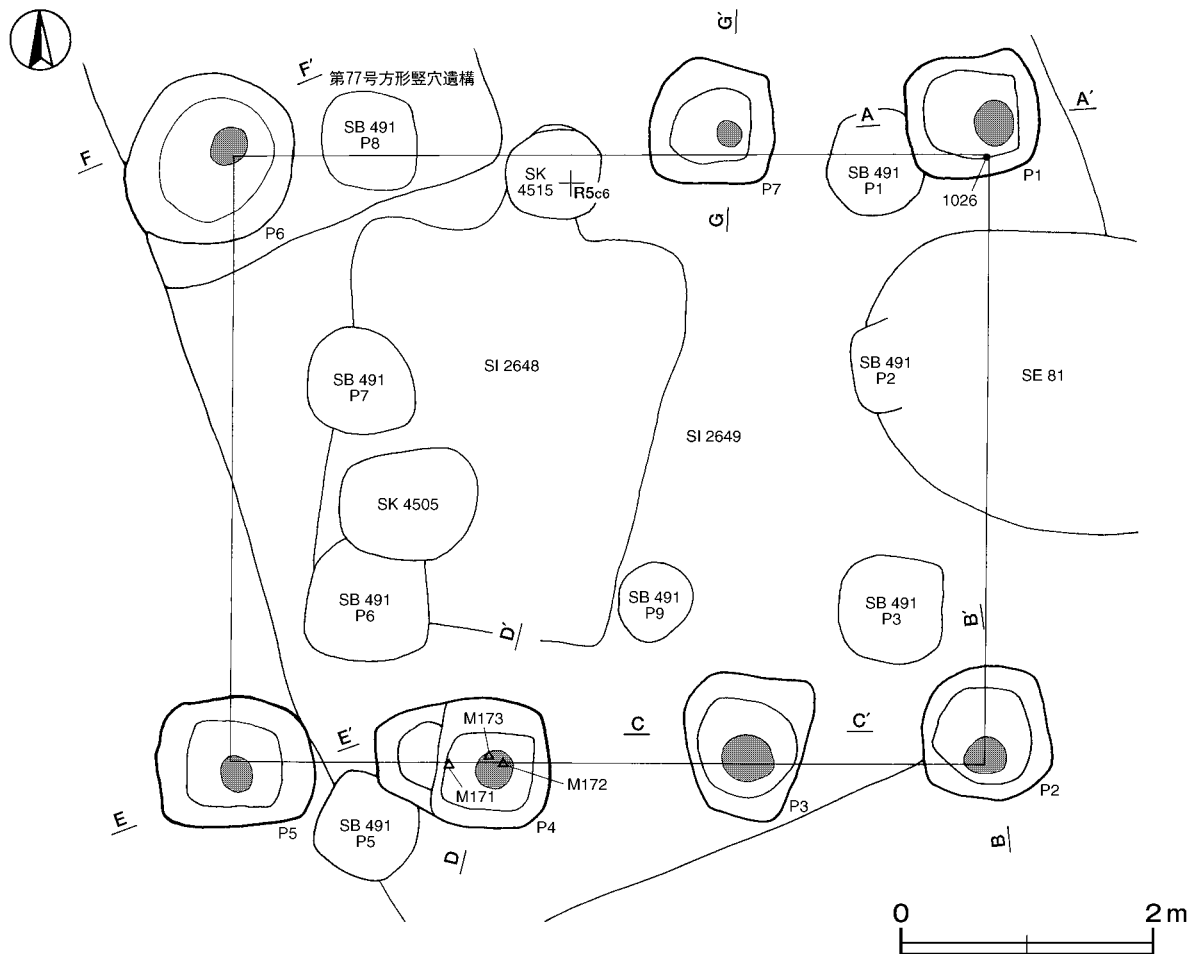
所見 規模や形状から，倉庫としての機能が想定される。本跡の北西には第485号掘立柱建物跡があり，軸線を揃えている。時期は，9世紀前葉と考えられる第2670号住居跡を掘り込んでいることから9世紀後半と考えられる。

第490号掘立柱建物跡（第607・608図）

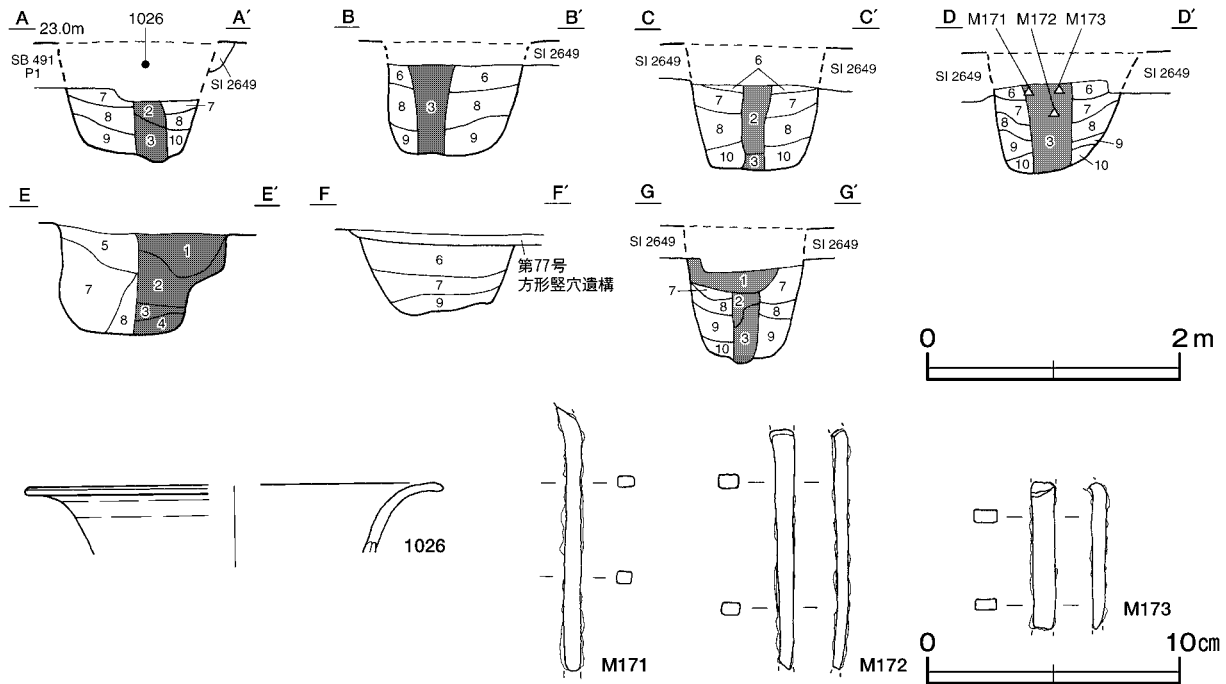
位置 調査区中央部のR5c6区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2648・2649号住居跡，第491号掘立柱建物跡，第77号方形竪穴遺構，第81号井戸に掘り込まれている。また，第4505・4515号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間，梁行1間の側柱建物で，桁行方向N-88°-Wの東西棟である。規模は，桁行6.0m，梁行4.8mで，面積は28.80㎡である。柱間寸法は，桁行は東から2.1m（7尺），1.8m（6尺），2.1m（7尺）で，梁行は4.8m（16尺）であるが，2.4m（8尺）2間と考えられる。



第607図 第490号掘立柱建物跡実測図



第608図 第490号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 7か所。深さは100cm内外である。北桁の柱穴は重複が激しいため確認できなかった。土層は第1～4層が柱痕に相当する。P6を除いた柱痕は良好に残っている。第5～10層が埋土であり、やや強く突き固められている。柱のあたりは、各柱穴の底面に明瞭に残っており、径10～20cmほどが著しく硬化している。

土層解説（各柱穴共通）

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量     |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量         | 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 4 褐色 ロームブロック少量              | 9 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量     |
| 5 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量         | 10 褐色 ロームブロック中量            |

遺物出土状況 土師器片130点（坏36，高坏3，甕91），須恵器片9点（坏2，蓋1，壺1，甕4，瓶1），鉄製品3点（不明）のほか、混入した土師質土器片1点も各柱穴から出土している。1026はP1の覆土上層から出土している。M171～M173はP4の覆土上層からそれぞれ出土し、埋土に混入したものと考えられる。

所見 規模や形状から、倉庫としての機能が想定される。時期は、9世紀後葉以前と考えられる第491号掘立柱建物跡を掘り込んでいることや出土した土器から10世紀代と考えられる。また、西妻部には2間と考えられるが重複などのため掘り方は確認されていない。

第490号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第608図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1026	須恵器	壺	[16.0]	(2.8)	-	長石・赤色粒子	灰	良好	口辺部内・外面口クロナデ	P1上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M171	釘	(10.5)	(1.0)	(0.5)	(22.6)	鉄	頭部・下端部欠損 断面長方形	P4上層	
M172	釘	(9.6)	(0.9)	(0.6)	(24.1)	鉄	頭部・下端部欠損 断面長方形	P4上層	
M173	釘	(5.9)	(0.9)	(0.6)	(17.4)	鉄	頭部・下端部欠損 断面長方形	P4上層	

第491号掘立柱建物跡 (第609図)

位置 調査区中央部の R5 c6 区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

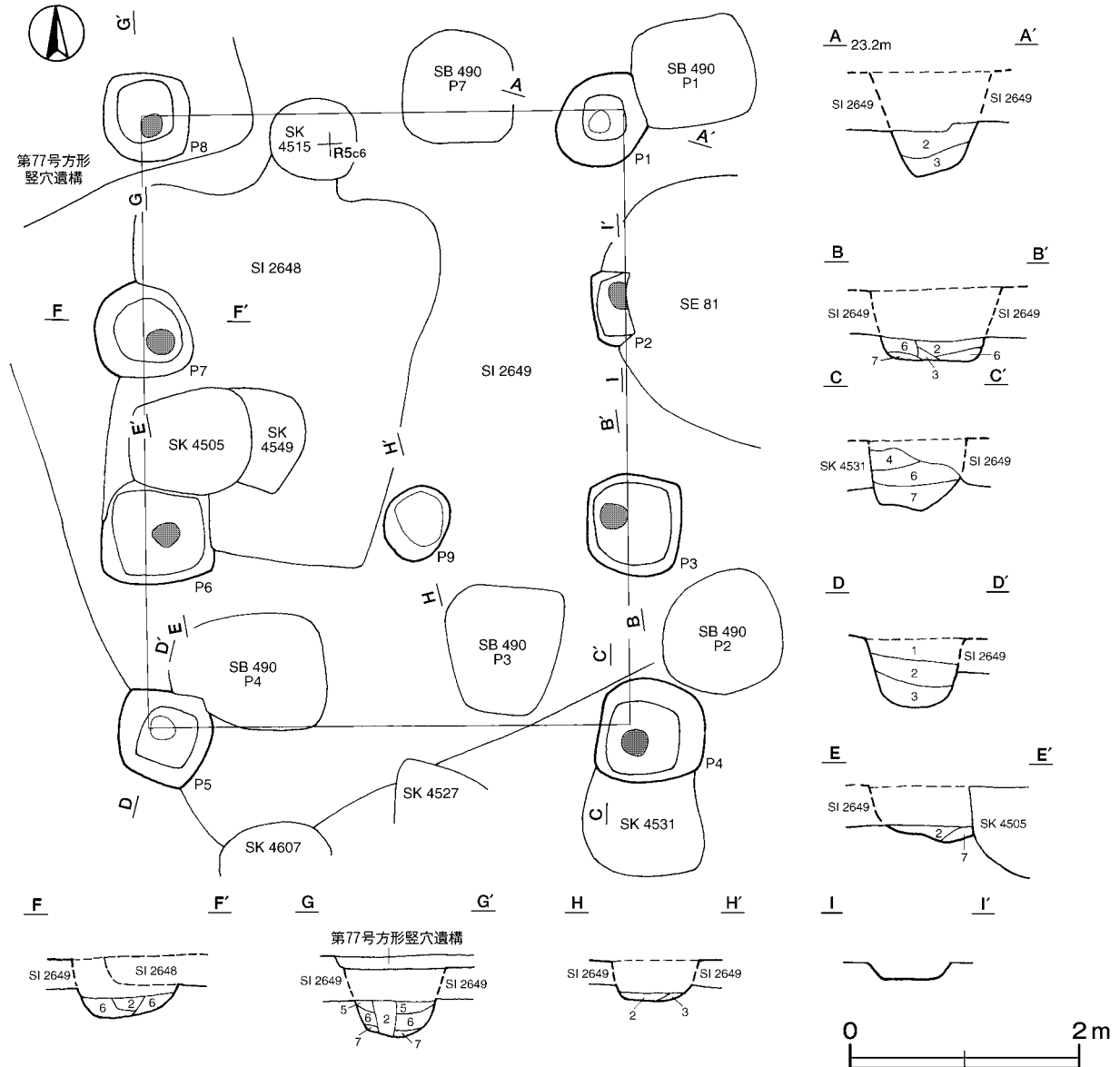
重複関係 第2649号住居跡, 第4531号土坑を掘り込み, 第2648号住居, 第490掘立柱建物, 第77号方形竪穴遺構, 第81号井戸, 第4505・4515・4549号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物で, 桁行方向 N - 2° - E の南北棟である。規模は, 桁行5.4m, 梁行4.2mで, 面積は22.68㎡である。柱間寸法は, 桁行1.8m (6尺), 梁行2.1m (7尺)を基調とし, 均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 9か所。深さは26~86cmである。土層は第1~3層が柱抜き取り痕に相当し, P7・P8には柱痕が認められる。第4~7層が埋土であり, 強く突き固められている。柱のあたりは, P1・P5・P9を除いた柱穴の底面に明瞭に残っており, 径10cmほどが著しく硬化している。

土層解説 (各柱穴共通)

- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量              | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量     | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量        |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量               |                             |



第609図 第491号掘立柱建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片42点(坏13, 甕類29), 須恵器片4点(坏2, 壺2)が, P2・P4を除いた柱穴から出土しているが, いずれも細片で図示できるものはない。

**所見** 規模や形状から, 倉庫としての機能が想定される。時期は, 9世紀後葉以降の第2648号住居に掘り込まれていることから9世紀後葉以前と考えられる。

(3) 土坑

**第5395号土坑(第610図)**

**位置** 調査区南西部のS3h9区, 標高21.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第5398号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.56m, 短径2.34mの円形で, 長径方向はN-60°-Eである。深さは96cmで, 底面は楕円状を呈し, 壁は外傾している。

**覆土** 3層に分けられる。周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。最下層の第3層は弱い粘性をおび, 滞水時に堆積した可能性がある。

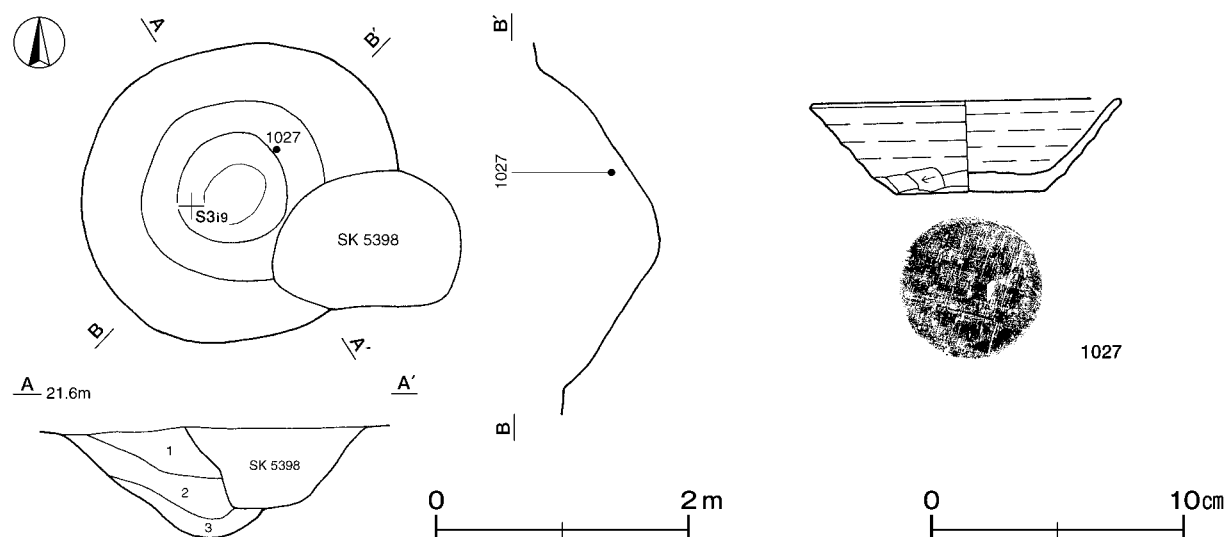
**土層解説**

- 1 灰黄褐色 ローム粒子多量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子多量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片64点(坏21, 高台付椀1, 甕類42), 須恵器片9点(坏4, 蓋1, 甕類4)が出土している。1027は覆土下層から斜位で出土し, 廃絶後に投棄あるいは流入したものと考えられる。

**所見** 本跡は, ローム層下位の粘土層まで掘り込まれており, また, 堆積状況から一時的に滞水していた状況がうかがえることから, 溜井としての性格が推定される。時期は, 出土遺物から9世紀中葉以前と考えられる。



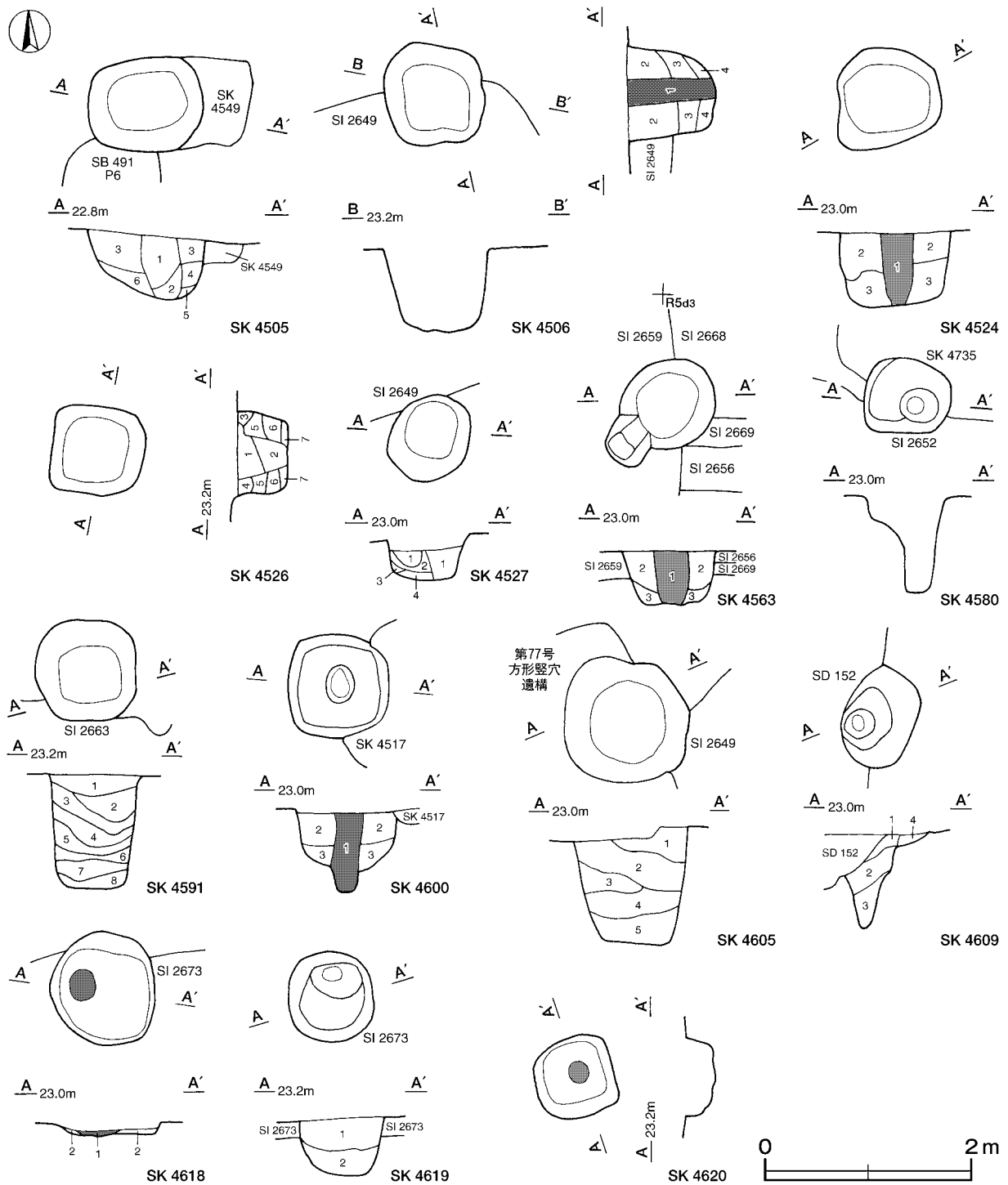
**第610図** 第5395号土坑・出土遺物実測図

**第5395号土坑出土遺物観察表(第610図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1027	須恵器	坏	12.1	3.7	5.8	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部内・外面口ロナデ。下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り後一方向のナデ	下層	70%

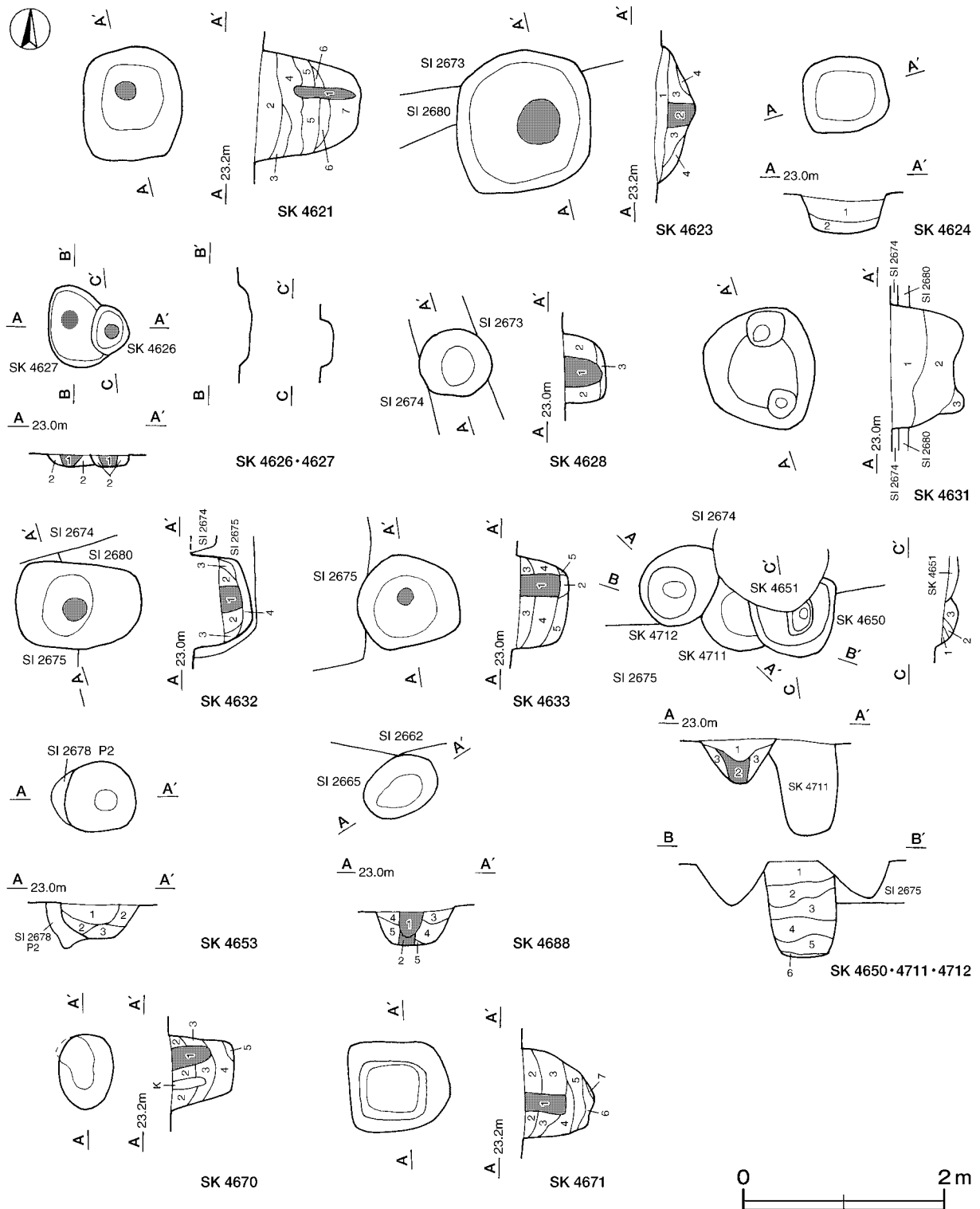
(4) 柱穴の可能性のある土坑 (第611・612図)

調査区中央部から北東部の平坦な台地上において、柱痕や柱のあたり、人為的に埋め戻された痕跡が認められる土坑が30基確認された。これらの柱穴から出土した土器はいずれも細片であり、時期を特定することは困難であるが、規模や形状が奈良・平安時代の掘立柱建物の柱穴と類似することや、重複関係から当該時期のものと判断した。何らかの建物の可能性が考えられるが、建物の配列や構造を特定することはできなかった。以下、これらの土坑について、実測図と土層解説を掲載する。



第611図 柱穴の可能性のある土坑実測図(1)





第612図 柱穴の可能性のある土坑実測図(2)

第4505号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第4506号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4524号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黄 灰 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック多量,炭化物微量

**第4526号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 7 褐 色 ロームブロック少量

**第4527号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

**第4563号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

**第4591号土坑土層解説**

- 1 灰 黄 褐色 炭化粒子少量,ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 4 灰 黄 褐色 ロームブロック少量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 7 灰 黄 褐色 ロームブロック中量
- 8 黒 褐 色 ロームブロック少量

**第4600号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量,ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

**第4605号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量,粘土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第4609号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ローム粒子多量

**第4618号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量,炭化物微量

**第4619号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量,焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量

**第4621号土坑土層解説**

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 灰 黄 褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック多量,炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック中量

**第4623号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰 褐 色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量,焼土粒子微量

**第4624号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量

**第4626号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗オレンジ褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

**第4627号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量
- 2 灰 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子少量,焼土粒子微量

**第4628号土坑土層解説**

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量

**第4631号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化物微量
- 3 褐 灰 色 ロームブロック中量

**第4632号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 4 灰 黄 褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

**第4633号土坑土層解説**

- 1 灰 黄 褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量,炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

**第4650号土坑土層解説**

- 1 褐 色 砂質粘土ブロック中量,炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 黒色土ブロック多量
- 3 暗 褐 色 砂質粘土ブロック中量,焼土ブロック少量,炭化粒子微量

**第4653号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

**第4670号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黄 褐 色 ロームブロック多量
- 5 黄 灰 色 ロームブロック少量

**第4671号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土ブロック少量
- 2 暗 灰 黄 色 ロームブロック中量, 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黄 灰 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 黄 褐 色 ロームブロック中量
- 5 黄 灰 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 黄 褐 色 ロームブロック多量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック少量

**第4688号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 3 灰 黄 褐 色 ロームブロック微量
- 4 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4711号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物少量
- 3 灰 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化物微量
- 4 灰 黄 褐 色 ロームブロック・暗褐色土ブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 5 褐 色 ロームブロック多量, 暗褐色土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 6 褐 灰 色 ロームブロック中量

**第4712号土坑土層解説**

- 1 灰 黄 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

## (5) 柵跡

**第21号柵跡 (第613図)**

**位置** 調査中央部のR 5 j4区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** P1 ~ P4が第2635号住居跡, P5が第2618号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 南北方向に5か所の柱穴が並び, 主軸方向はN - 3° - Eである。規模は, 全長8.4m, 柱穴の深さ15~36cmで, 南側ほど深くなっている。柱間寸法は, 2.1m (7尺)を基調とし, ほぼ均等に配置されている。

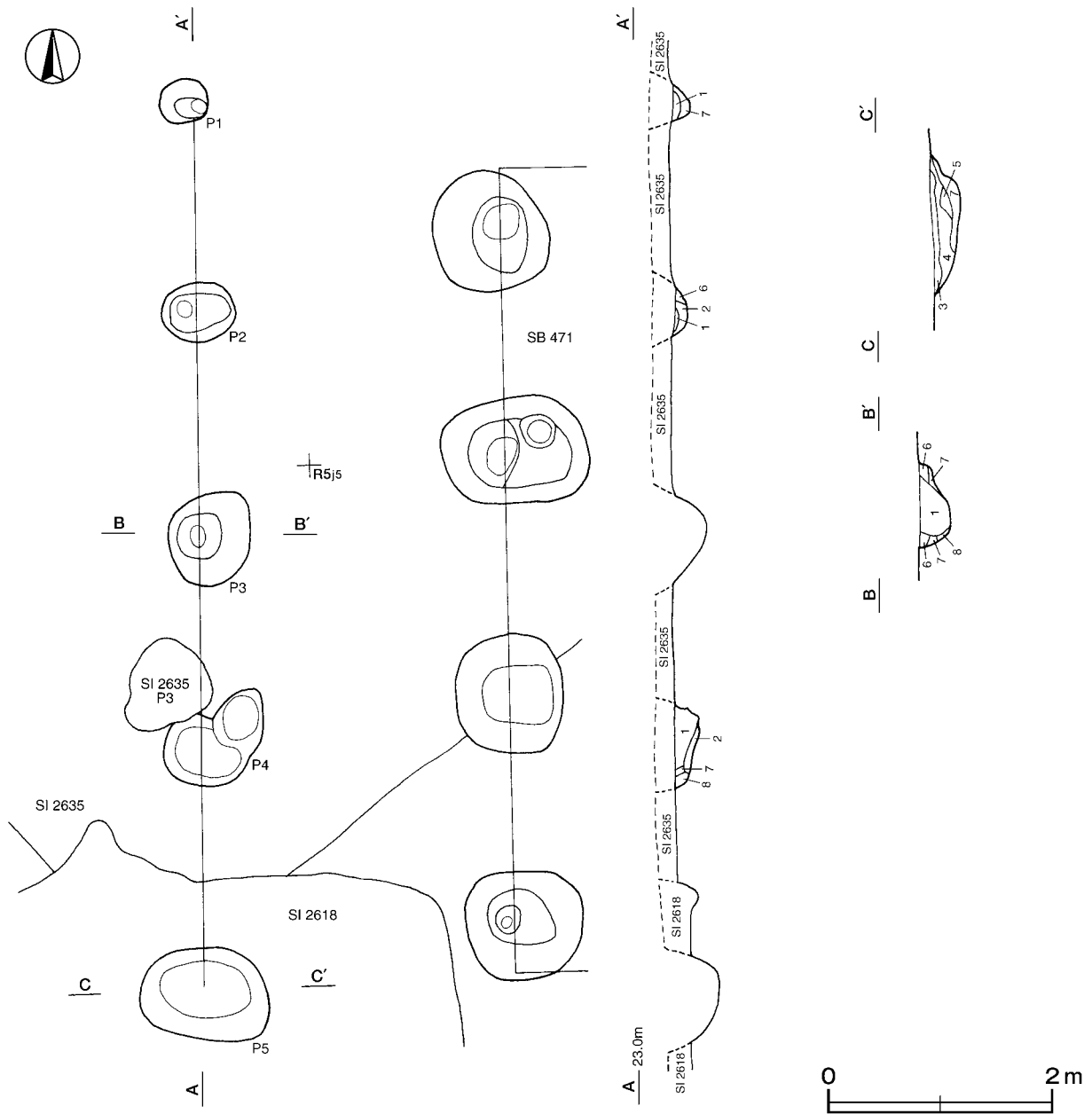
**覆土** 土層は, 第1~5層が柱抜き取り痕であり, P5は第2618号住居跡の竈を掘り込んでいるため焼土, 炭化物, 砂質粘土が混入している。第6~8層は埋土に相当する。

**土層解説 (各柱穴共通)**

- |           |                                 |          |                                  |
|-----------|---------------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 暗 褐 色   | ロームブロック微量                       | 5 にぶい赤褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 2 褐 色     | ロームブロック少量                       | 6 暗 褐 色  | ロームブロック・炭化粒子微量                   |
| 3 灰 褐 色   | ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 7 褐 色    | ロームブロック少量                        |
| 4 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量  | 8 暗 褐 色  | ローム粒子微量                          |

**遺物出土状況** 土師器片6点 (坏3, 甕類3), 須恵器片1点 (蓋)が出土しているが, いずれも下層の住居から混入したものである。

**所見** 東へ2.4m (8尺)の地点には, 主軸方向を同じくする第471号掘立柱建物跡が位置している。この距離は建物の柱間寸法と同じであり, 建物に付属する施設と考えられる。柱穴は規模が小さく, 身舎の柱間より狭く配置されていることから, 建物の西側を遮蔽する簡易な塀と想定される。時期は, 第471号掘立柱建物跡の年代観から9世紀前葉と考えられる。



第613図 第21号柵跡実測図

表45 平安時代竪穴住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2590	S 4 f 9	N - 6 ° - E	[長方形]	4.58 × (3.20)	6 ~ 16	平坦	-	-	-	-	竈 1	1	不明	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 支脚	10世紀前葉
2591	S 4 g 0	N - 4 ° - W	長方形	4.01 × 3.45	16 ~ 20	平坦 [全周]	-	1	-	竈 1	-	自然	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉以前	
2593	S 5 f 3	N - 20 ° - W	[長方形]	4.58 × (3.86)	15 ~ 22	平坦	一部	-	1	1	竈 1	-	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 磁石, 双孔円板	9世紀中葉
2602	S 4 i 8	N - 16 ° - E	[方形・長方形]	(5.83 × 3.69)	12	平坦	-	2	-	-	-	-	不明	土師器片, 須惠器片, 土馬	9世紀後半
2604	S 4 e 0	N - 5 ° - E	方形	4.56 × 4.16	19 ~ 32	平坦	-	1	-	竈 2	-	人為	土師器片, 須惠器片	9世紀後葉	
2605	S 5 g 4	N - 7 ° - E	方形	3.36 × 3.36	72	平坦	全周	-	1	-	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 土玉, 土製紡錘車, 石製紡錘車	9世紀中葉
2608	S 5 c 3	N - 88 ° - E	方形	3.82 × 3.74	6 ~ 33	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片, 須惠器片	11世紀前半以前
2610	R 5 f 2	N - 4 ° - W	方形	3.08 × 3.03	8	平坦	-	2	-	-	-	-	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 釘	9世紀前葉以前
2611	R 5 h 2	N - 95 ° - E	[方形]	[3.00] × 2.80	13 ~ 16	平坦	-	4	-	3	竈 1	-	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 小玉	11世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	備考 (時期)
								主柱穴	出入口 ピット	ピット	炉・竈	貯蔵穴			
2615	S 5 d1	N - 5 ° - W	長方形	4.94×3.86	12~30	平坦	-	-	1	-	竈1	-	自然	土師器片、須惠器片、灰陶器片、土製紡錘車、鉄鏝	10世紀前葉
2616	S 4 b9	N - 3 ° - W	[方形・長方形]	3.65×(2.50)	10	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	自然	土師器片、須惠器片	9世紀後葉以前
2617	S 5 a1	N - 87 ° - E	方形	2.94×2.80	2~10	平坦	-	2	1	1	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片	11世紀前葉
2618	S 5 a4	N - 3 ° - W	長方形	6.00×5.25	15~35	平坦	[全周]	2	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片、石製管玉	9世紀前葉以前
2619	R 5 g4	N - 4 ° - E	長方形	3.75×3.40	10~14	平坦	-	1	1	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、支脚、白玉、双孔円板	9世紀中葉
2620	S 5 g1	N - 6 ° - E	長方形	3.90×3.50	5~15	平坦	ほぼ全周	5	1	-	竈2	1	人為	土師器片、須惠器片、土玉、砥石、双孔円板、鏝先	9世紀後葉
2621	R 4 j0	N - 0 °	[方形]	3.86×(3.64)	25~45	平坦	[全周]	4	1	1	竈1	-	自然	土師器片、須惠器片、灰陶器片、砥石、刀子	9世紀後葉
2623	S 4 f0	N - 2 ° - W	[方形・長方形]	6.22×(3.60)	12~44	平坦	[全周]	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片	9世紀中葉以前
2626	R 4 a0	N - 5 ° - E	長方形	5.96×5.37	4~28	平坦	ほぼ全周	4	1	-	竈1	2	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片、土製紡錘車、鉄鏝	9世紀前葉以前
2627	R 4 d9	N - 11 ° - E	[方形]	6.94×(6.80)	32	平坦	-	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、緑釉陶器片、石製紡錘車、双孔円板	9世紀中葉
2630	R 5 i4	N - 10 ° - W	長方形	3.20×2.84	5~7	平坦	-	-	1	-	竈1	-	不明	土師器片、須惠器片、灰陶器片	9世紀中葉以前
2633	R 5 h1	N - 10 ° - E	[長方形]	4.58×(3.15)	10~12	平坦	[全周]	2	-	1	-	-	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片、砥石	11世紀代
2644	Q 5 h5	N - 10 ° - E	長方形	4.02×3.63	2~4	平坦	半周	-	1	-	竈1	-	不明	土師器片、須惠器片	9世紀前葉以降
2645	R 5 a5	N - 7 ° - E	方形	5.26×5.02	8~21	平坦	ほぼ全周	6	1	6	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片、砥石、刀子	9世紀中葉
2646	R 5 a4	N - 2 ° - W	長方形	4.10×3.60	10~14	平坦	一部	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、刀子	10世紀前半
2647	R 5 e4	N - 7 ° - W	長方形	2.76×2.40	2	平坦	一部	-	1	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片	9世紀後葉
2648	R 5 c5	N - 10 ° - E	長方形	3.10×2.50	20~23	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、硯、鉄鏝	9世紀後葉以降
2654	Q 5 h8	N - 8 ° - E	長方形	3.57×2.58	6~8	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片	9世紀中葉
2655	R 5 b2	N - 9 ° - E	[方形・長方形]	(4.70×0.80)	10	平坦	-	-	-	-	-	-	-	-	9世紀前葉以降
2656	R 5 c3	N - 1 ° - W	[方形・長方形]	7.68×(6.60)	10~16	平坦	一部	5	1	2	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、砥石、双孔円板	9世紀前葉
2659	R 5 d2	N - 3 ° - W	[方形・長方形]	4.72×(2.23)	8~18	平坦	[全周]	2	1	-	-	-	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片	9世紀後葉
2664	Q 6 h3	N - 88 ° - E	[方形・長方形]	(3.44×3.07)	3~4	平坦	一部	-	-	-	竈1	-	-	土師器片、須惠器片、支脚	9世紀中葉
2665	Q 6 h3	N - 3 ° - E	方形	7.05×6.77	25~27	平坦	全周	4	-	-	竈2	1	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片、骨片、貝類	9世紀後葉
2670	R 6 c3	N - 2 ° - E	方形	5.00×4.86	15~25	平坦	全周	4	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片、土製土器、刀子、鉄鏝	9世紀前葉
2672	Q 6 h3	N - 2 ° - E	長方形	4.80×4.32	12~20	平坦	全周	-	-	-	-	-	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片、鏝	10世紀前半
2679	R 5 b8	N - 79 ° - E	方形	3.18×3.10	4~6	平坦	-	-	1	1	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、刀子	10世紀後半
2682	R 5 i9	N - 88 ° - E	方形	3.59×3.59	16~20	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片、鏝	10世紀後半以前
2684	R 5 g0	N - 7 ° - E	方形	2.81×2.74	20~22	平坦	全周	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、刀子	9世紀前葉
2687	R 6 h3	N - 6 ° - E	[長方形]	(4.60)×4.40	15~20	平坦	[全周]	4	1	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、鉄鏝、釘	9世紀前葉
2688	R 5 g8	N - 2 ° - W	方形	6.97×6.76	12~14	平坦	ほぼ全周	4	2	4	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片	9世紀後葉以前
2691	R 6 g4	N - 9 ° - E	方形	4.84×4.70	28~34	平坦	ほぼ全周	4	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、砥石、刀子、鉄鏝、手斧、釘	9世紀前葉
2696	R 6 h1	N - 92 ° - E	方形	3.87×3.55	15~18	平坦	ほぼ全周	-	-	-	竈1	-	人為	土師器片、須惠器片、灰陶器片	9世紀前葉

表46 平安時代掘立柱建物跡一覽表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
471	S 5 j6	N - 2 ° - E	3×2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.4	側柱	10	楕円形	23~94	土師器片、須惠器片、灰陶器片	9世紀前葉
472	S 5 c2	N - 87 ° - E	3×2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.4	側柱	10	隅丸方形 楕円形	32~109	土師器片、須惠器片、灰陶器片	9世紀後葉
475	S 4 j2	N - 86 ° - W	3×2	6.3×4.8	30.24	2.4 1.5	2.4	側柱	10	隅丸長方形 楕円形	25~84	土師器片、須惠器片	9世紀後葉
476	R 5 j2	N - 2 ° - E	3×2	5.4×3.6	19.44	1.8	1.8	側柱	10	楕円形 方形	19~79	土師器片、須惠器片、灰陶器片	9世紀前葉
477	S 5 a1	N - 89 ° - E	3×2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.4	側柱	9	楕円形	19~67	土師器片、須惠器片	9世紀中葉
478	S 5 c2	N - 89 ° - E	3×2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.4	側柱	7	隅丸方形 楕円形	33~78	土師器片、須惠器片	9世紀中葉
480	R 4 j7	N - 2 ° - E	4×2	9.6×5.4	51.84	2.4	2.7	側柱	11	楕円形	20~57	土師器片、須惠器片、釘、種子	9世紀前葉
482	R 4 i7	N - 1 ° - E	3×2	7.2×4.8	34.56	2.4	2.4	側柱	6	隅丸方形	21~43	土師器片、須惠器片	9世紀中葉
484	Q 5 i5	N - 88 ° - W	4×2	9.6×4.2	40.32	2.4	2.1	側柱	12	円形 楕円形	50~68	土師器片、須惠器片	9世紀後半

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
485	Q 5 f 9	N - 89 ° - E	3 × 2	5.4×4.2	22.68	1.8	2.1	側柱	6	円形 楕円形	20~80	土師器片, 須恵器片	9世紀後半
486	R 6 d 3	N - 83 ° - E	3 × 2	5.7×4.2	23.94	2.1 1.8	2.1	側柱	10	円形 楕円形	44~80	土師器片, 須恵器片	9世紀後半
490	R 5 c 6	N - 88 ° - W	3 × 1	6.0×4.8	28.80	2.1 1.8	4.8	側柱	7	円形 楕円形	100内外	土師器片, 須恵器片	10世紀代
491	R 5 c 6	N - 2 ° - E	3 × 2	5.4×4.2	22.68	1.8	2.1	側柱	9	円形 楕円形	26~86	土師器片, 須恵器片	9世紀後葉以前

表47 平安時代柱穴の可能性のある土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径 × 短径	深さ (cm)						
4505	R 5 c 5	N - 79 ° - E	隅丸方形	1.12 × 0.93	60		外傾	皿状	人為	土師器片	S12649・S12648・SB491・SK4549→本跡
4506	R 5 b 6	N - 5 ° - W	隅丸方形	1.00 × 0.95	81		外傾	平坦	人為	土師器片	S12649→本跡
4524	Q 5 i 6	N - 44 ° - E	楕円形	1.12 × 1.00	69		外傾	平坦	人為	土師器片	
4526	R 5 d 6	N - 83 ° - W	方形	0.88 × 0.86	54		外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
4527	R 5 d 6	N - 25 ° - E	円形	0.86 × 0.76	44		外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12649→本跡
4563	R 5 d 3	N - 44 ° - E	不整楕円形	1.23 × 0.85	52		外傾	皿状	人為		S12669→S12668→S12656→S12659→本跡
4580	Q 5 g 8	N - 86 ° - W	隅丸方形	0.86 × 0.74	90		外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	S12652→SK4735→本跡
4591	R 5 i 2	N - 3 ° - W	方形	0.97 × 0.97	110		垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12663→本跡
4600	R 5 b 4	N - 3 ° - E	隅丸方形	(1.00) × 1.00	82		外傾	漏斗状	人為	土師器片	S12649→本跡→SK4517
4605	R 5 b 5	N - 1 ° - W	不整円形	(1.20) × 1.20	114		垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12649→本跡→HT77
4609	Q 6 g 6	N - 34 ° - E	楕円形	0.92 × (0.70)	92		外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡→SD152
4618	Q 5 i 9	N - 34 ° - W	円形	1.11 × 1.03	38		外傾	平坦	人為	土師器片	S12673→本跡
4619	Q 5 j 0	N - 4 ° - W	円形	0.89 × 0.82	58		外傾	皿状	人為	土師器片	S12673→本跡
4620	Q 5 j 9	N - 18 ° - W	隅丸方形	0.79 × 0.78	28		外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12673→本跡
4621	Q 5 j 9	N - 1 ° - W	隅丸長方形	1.16 × 0.98	103		外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12673→本跡
4623	Q 5 j 9	N - 6 ° - W	隅丸方形	1.41 × 1.34	40		緩斜	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	S12680→S12673→本跡
4624	Q 5 j 7	N - 81 ° - E	隅丸方形	0.84 × 0.78	42		外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
4626	Q 5 j 9	N - 4 ° - E	楕円形	0.49 × 0.37	12		外傾	平坦	人為	土師器片	S12680→S12673→本跡・SK4627
4627	Q 5 j 9	N - 19 ° - W	[楕円形]	0.84 × (0.45)	13		外傾	平坦	人為	土師器片	S12680→S12673→本跡・SK4626
4628	Q 5 j 9	N - 22 ° - W	円形	0.71 × 0.70	40		外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	S12680→S12673・S12674→本跡
4631	Q 5 j 8	N - 30 ° - W	楕円形	1.25 × 1.12	72		外傾	凹凸	人為	土師器片, 石製勾玉	S12680→S12674→本跡
4632	R 5 a 8	N - 87 ° - W	楕円形	1.28 × 0.86	35		外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	S12680→S12675→S12674→本跡
4633	R 5 a 8	N - 68 ° - W	円形	1.04 × 0.97	55		外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12675→本跡
4650	Q 5 j 7	N - 52 ° - E	[円形]	0.97 × (0.50)	52		緩斜 外傾	平坦	人為		S12675→S12674→SK4711→SK4712→本跡→SK4651
4653	R 6 c 4	N - 0 °	円形	0.70 × 0.70	34		外傾	皿状	人為	土師器片	S12670→本跡
4670	R 5 a 9	N - 8 ° - E	楕円形	0.78 × 0.56	66		外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
4671	R 5 a 9	N - 86 ° - E	隅丸長方形	1.00 × 0.90	70		外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
4688	Q 6 g 2	N - 50 ° - E	楕円形	0.76 × 0.60	40		緩斜	平坦	人為	土師器片	S12662→S12665→本跡
4711	Q 5 j 7	N - 13 ° - E	円形	(0.76 × 0.72)	97		垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S12675→本跡→SK4650・SK4712→SK4651
4712	Q 5 j 7	N - 37 ° - E	楕円形	0.92 × 0.72	48		外傾	皿状	人為	土師器片	S12675→SK4711→本跡・SK4650→SK4651

5 中・近世の遺構と遺物

中・近世の掘立柱建物跡5棟，方形竪穴遺構8基，地下式壙17基，堀跡12条，溝跡32条，道路跡4条，井戸跡56基，土坑8基，粘土貼り土坑4基，火葬土坑5基，墓坑9基，墓坑の可能性のある土坑175基，柱穴の可能性のある土坑31基，ピット群3か所，不明遺構1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

**第479号掘立柱建物跡 (第614図)**

**位置** 調査区西部のR 4 h3区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

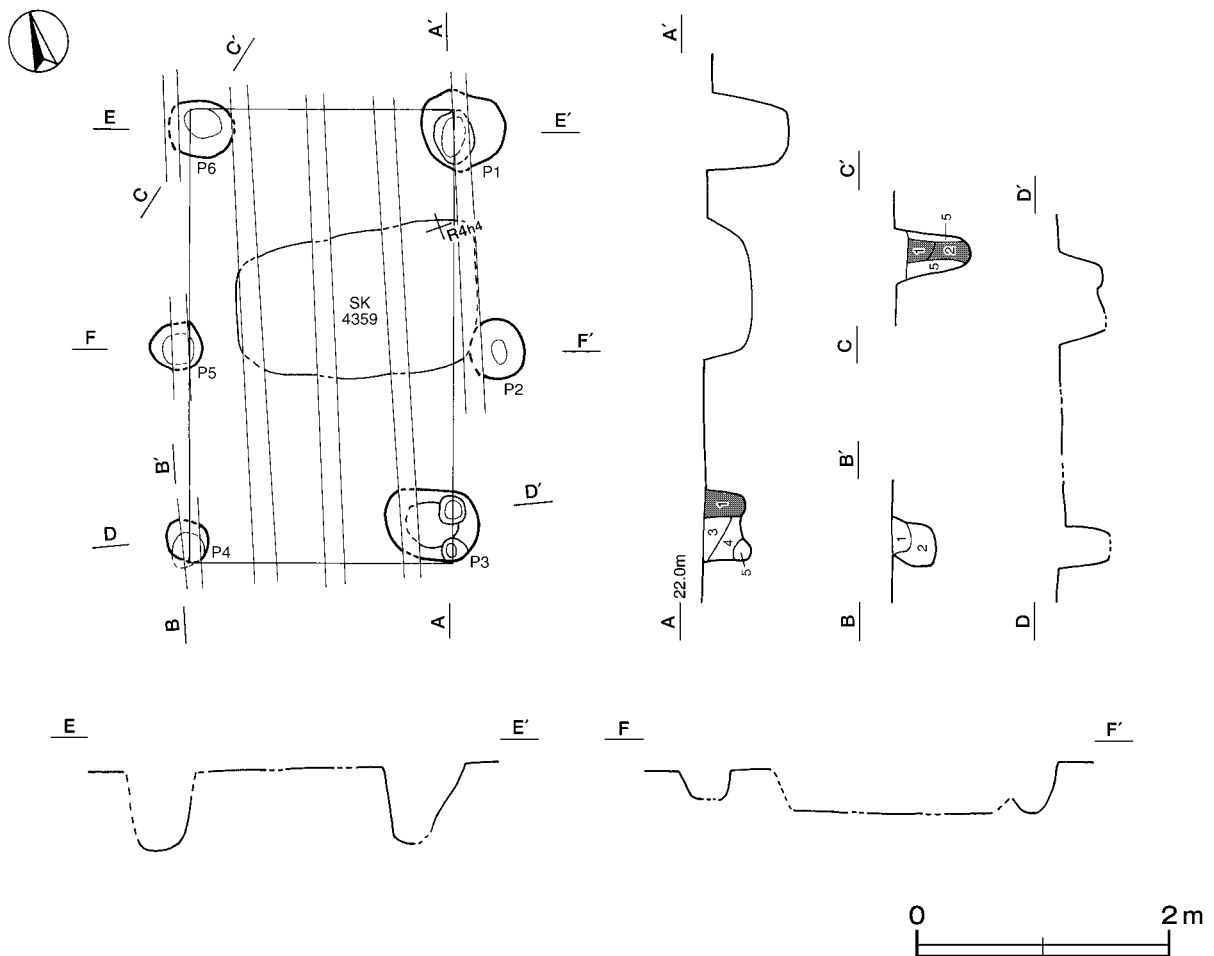
**重複関係** P3が第481号掘立柱建物跡のP4を掘り込んでいる。また，平面構造が第4359号土坑と重複しているが，時期を特定できる出土遺物が乏しく，新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行2間，梁行1間の側柱建物で，桁行方向がN - 20° - Eの南北棟である。規模は桁行3.6m，梁行2.1mで，面積は7.56㎡である。柱間寸法は，桁行が1.8m (6尺)，梁行が2.1m (7尺)を基調とする。桁行中央のP2・P5は，隅柱を繋いだ柱筋より外側に配置されている。

**柱穴** 6か所。深さは24~63cmである。土層は，第1・2層が柱痕及び柱抜き取り痕，第3~5層が埋土に相当する。柱のあたりは不明瞭である。

**土層解説 (各柱穴共通)**

- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量 | 4 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量      |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量        | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量       |                          |



第614図 第479号掘立柱建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片3点(甕類)が柱穴から出土しているが、いずれも流れ込んだものと考えられる。

**所見** 周辺には地下式壙や墓坑と考えられる長方形の土坑群が密集し、一部は主軸方向を同じくしている。本跡は柱穴の規模が小さく、簡易な構造であることから、墓域に伴う小堂としての機能が想定される。また、遺構の重複関係から、第481号掘立柱建物跡から建て替えられていると推定される。時期は、土坑群の年代観や重複関係から17世紀前半以降と考えられる。

### 第481号掘立柱建物跡 (第615図)

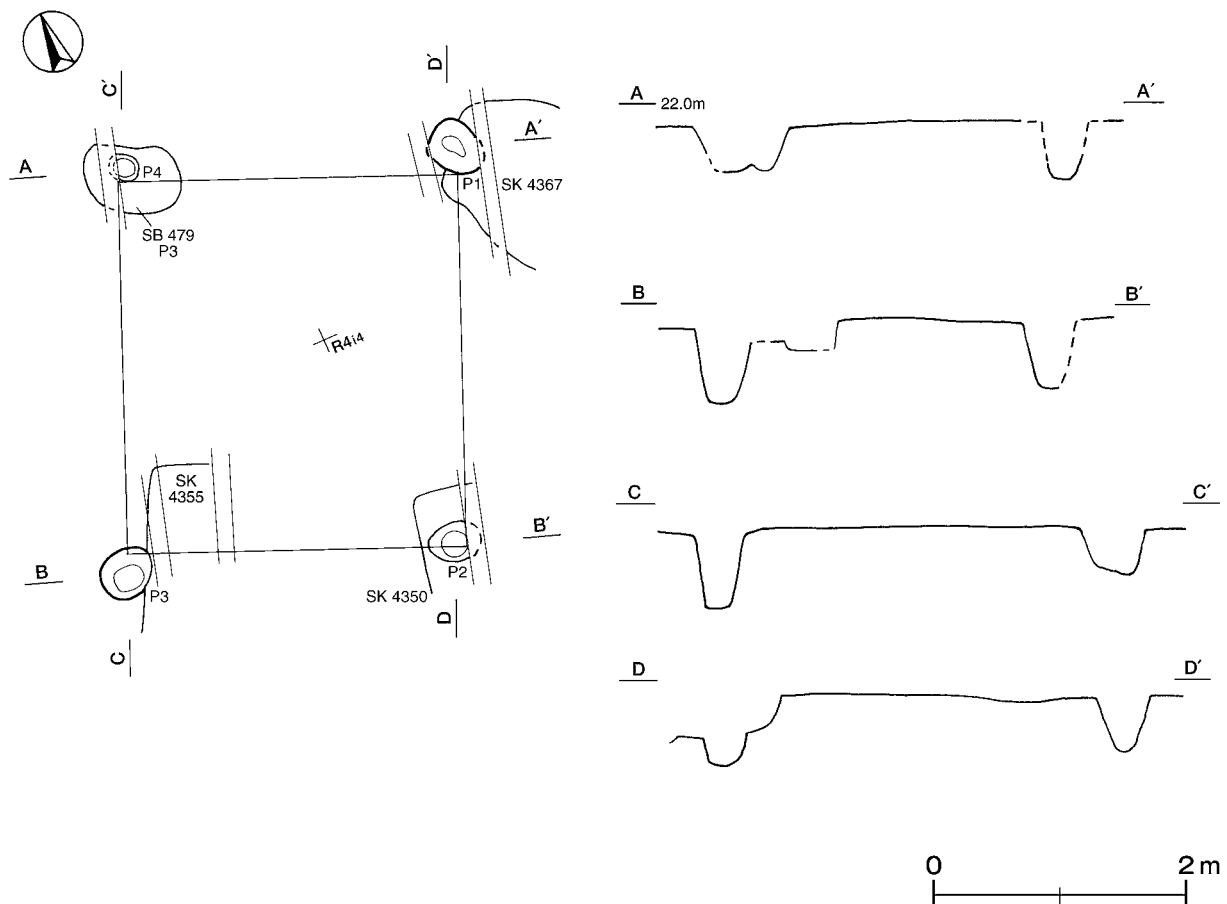
**位置** 調査区西部のR4h3区、標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** P1が第4367号土坑を掘り込み、P2が第4350号土坑、P3が第4355号土坑、P4が第479号掘立柱建物のP3に掘り込まれている。

**規模と構造** 桁行、梁行とも1間の側柱建物で、桁行方向がN-23°-Eの南北棟である。規模は桁行3.0m(9尺)、梁行2.7m(9尺)で、面積は8.1㎡である。柱筋は不揃いである。

**柱穴** 4か所。深さは36~58cmである。遺構の重複とトレンチャーによる攪乱のため、土層の観察は困難であった。

**所見** 周辺には地下式壙や墓坑の可能性のある土坑群が密集し、一部は主軸方向を同じくしている。本跡は柱穴の規模が小さく、簡易な構造であることから、墓域に伴う小堂としての機能が想定される。また、遺構の重複関係から、第479号掘立柱建物跡への建て替えが推定される。時期は、土坑群の年代観や重複関係から17世紀前半以降と考えられる。



第615図 第481号掘立柱建物跡実測図

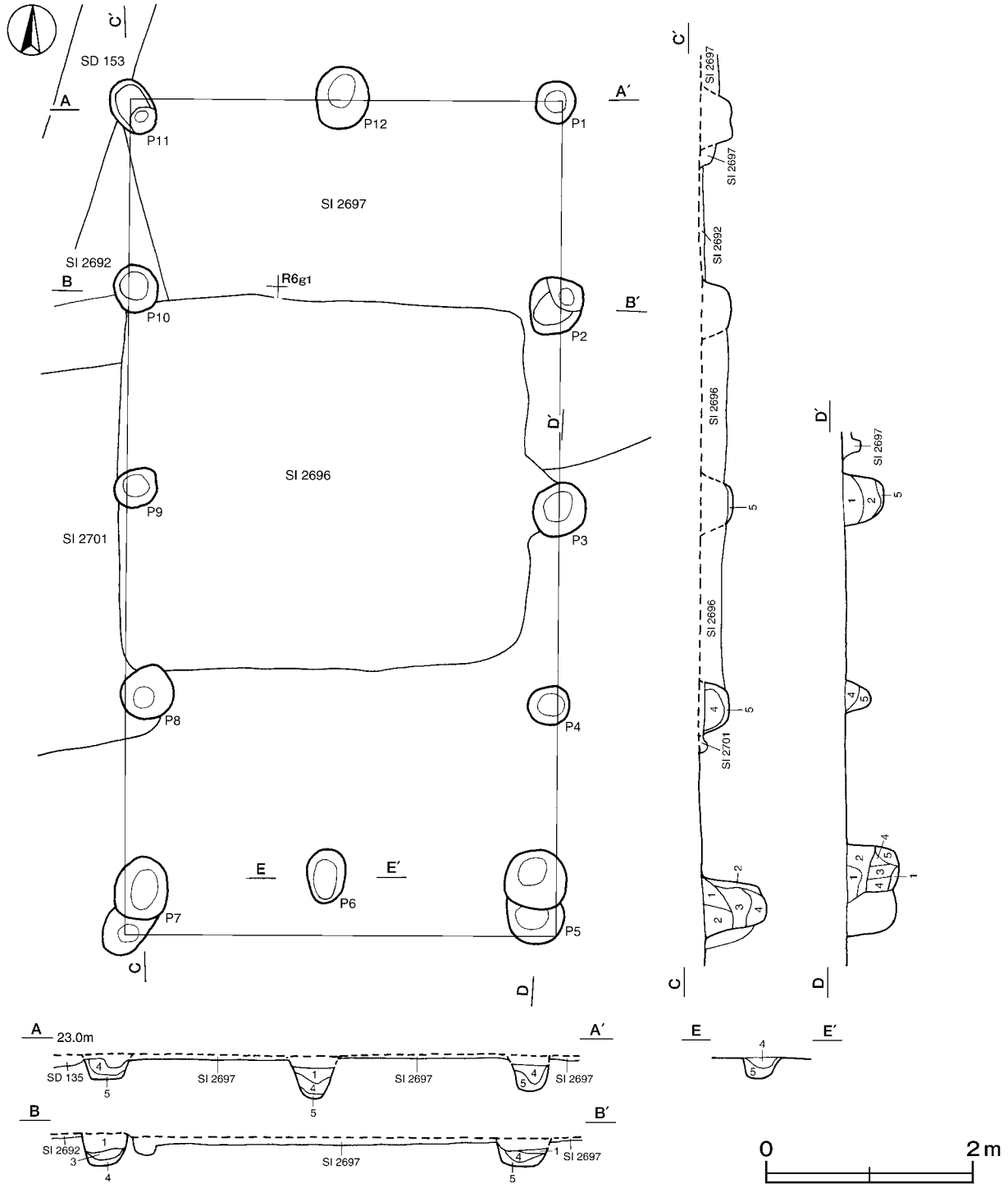


第488号掘立柱建物跡 (第616図)

位置 調査区東部のR 6 h1区, 標高23.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第2692・2696・2697・2701号住居跡, 第153号溝跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行4間, 梁行2間の側柱建物で, 桁行方向N - 2° - Wの南北棟である。規模は, 桁行8.1m, 梁行4.2mで, 面積は34.02㎡である。柱間寸法は, 当初北より1.8m(6尺), 2.1m(7尺), 2.1m(7尺), 2.1m(7尺)であったものが, 南間を1.8m(6尺)へ縮小している。梁行は2.1m(7尺)を基調とし, 柱筋はほぼ揃っている。



第616図 第488号掘立柱建物跡実測図

柱穴 12か所。深さは20～74cmである。土層は第1～5層が柱抜き取り痕に相当する。

土層解説（各柱穴共通）

- |       |                |      |                |
|-------|----------------|------|----------------|
| 1 褐色  | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック少量      | 5 褐色 | ロームブロック微量      |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 |      |                |

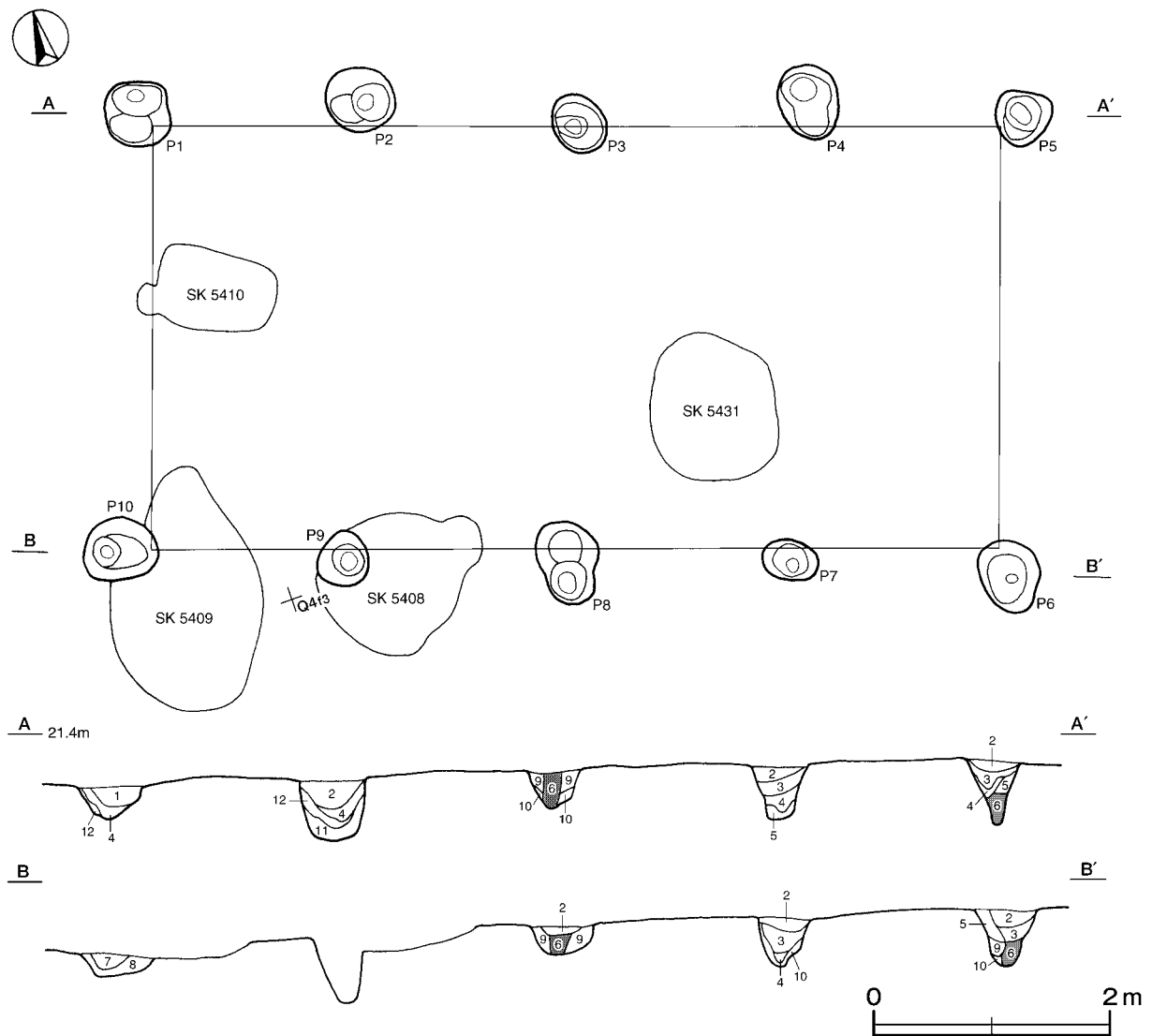
遺物出土状況 土師器片20点（坏6，甕14）がP1・P6・P9・P12を除いた柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはない。

所見 規模や形状から，倉庫としての機能が想定される。当初，桁行は北間だけ6尺であったものが南間も6尺に建て替えたものと考えられる。時期は，中世後半と考えられる第153号溝跡を掘り込んでいることや柱穴の規模・形状から中世後半以降と考えられる。

第507号掘立柱建物跡（第617図）

位置 調査区北西部のQ4e3区，標高21.0mほどの斜面上段に位置している。

重複関係 第5408・5409号土坑を掘り込んでいる。また，第5410・5431号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。



第617図 第507号掘立柱建物跡実測図

**規模と構造** 桁行4間，梁行1間の側柱建物で，桁行方向N - 60° - Wの東西棟である。規模は，桁行7.2m，梁行3.6mで，面積は25.92㎡である。柱間寸法は，桁行1.8m（6尺），梁行3.6m（12尺）を基調としているが，梁行は2間の可能性が考えられる。また，柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。深さは26～62cmである。土層は第6層が柱痕に相当する。P3・P5・P6・P8には，柱痕が認められるが，他は抜き取られている。第7・8層は埋土であり，やや強く突き固められている。

**土層解説**（各柱穴共通）

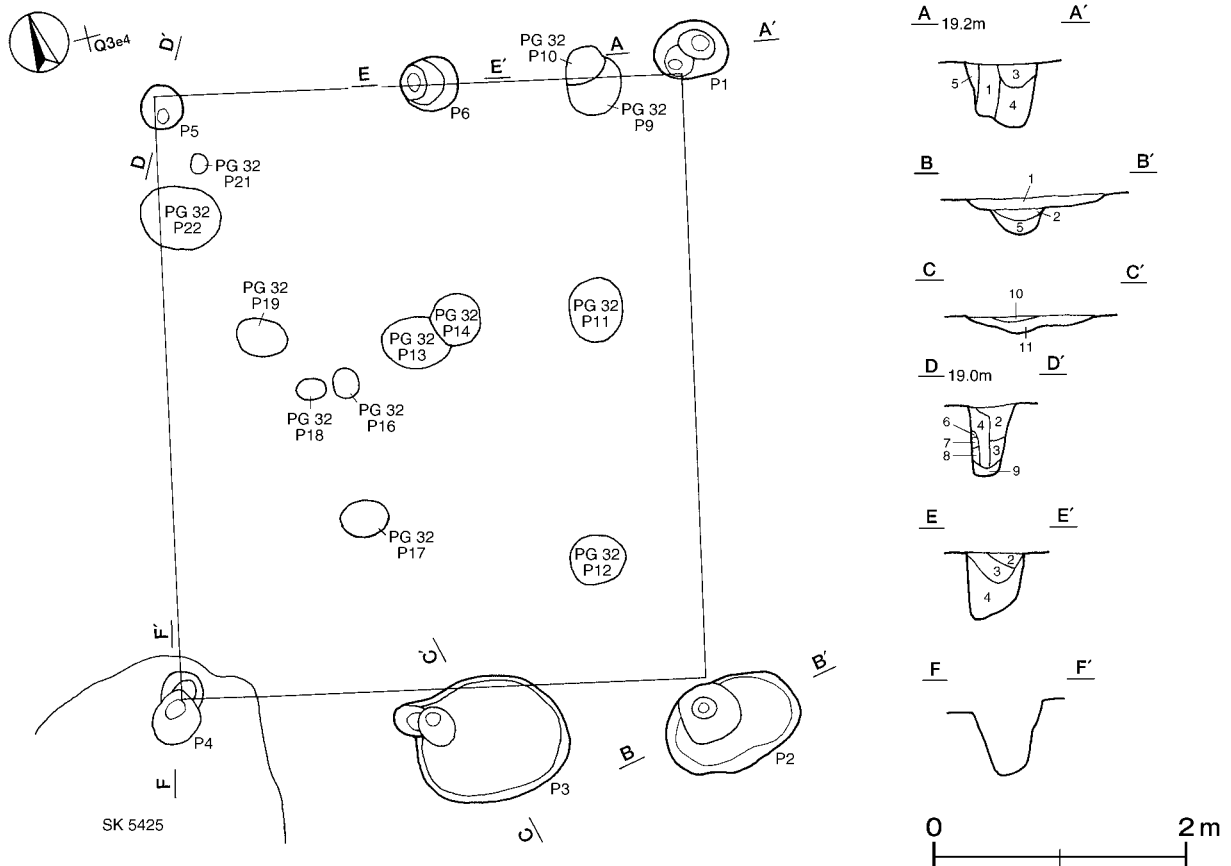
- |          |                                |          |                                  |
|----------|--------------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック少量，白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色    | 白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック中量             | 8 灰黄褐色   | 白色粘土ブロック多量，炭化粒子微量                |
| 3 黒褐色    | ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック少量               |
| 4 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，白色粘土ブロック微量 | 10 褐色    | ロームブロック・白色粘土ブロック中量，焼土粒子少量        |
| 5 灰黄褐色   | 白色粘土ブロック多量，ロームブロック少量           | 11 灰黄褐色  | ロームブロック・白色粘土ブロック少量               |
| 6 暗褐色    | ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 12 褐色    | ロームブロック・白色粘土ブロック中量               |

**所見** 規模や形状から，倉庫としての機能が想定される。桁行と梁行の軸線を揃え，本跡を囲むように第158号溝跡がL字状に並列していることから，同時期に機能していたと推測される。出土遺物は無いが，時期は17世紀前半以降と考えられる。

**第508号掘立柱建物跡（第618図）**

**位置** 調査区北西部のQ3 e4区，標高19.0mほどの斜面下部段に位置している。

**重複関係** 第5425号土坑に掘り込まれている。また，第32号ピット群と重複しているが，新旧関係は不明である。



第618図 第508号掘立柱建物跡実測図

**規模と構造** 桁行1間，梁行2間の側柱建物で，桁行方向N - 10° - Eの南北棟である。規模は，桁行4.8m，梁行4.2mで，面積は20.16㎡である。柱間寸法は，桁行4.8m（16尺）であるが2間の可能性があり，梁行は2.1m（7尺）である。柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 6か所。深さは45～68cmである。土層は第1～9層が柱抜き取り痕に相当する。

**土層解説**（各柱穴共通）

- |                                  |                           |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 白色粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黄褐色 白色粘土粒子中量            |
| 2 暗灰黄色 白色粘土粒子中量，ローム粒子微量          | 7 黒色 白色粘土粒子多量             |
| 3 黒褐色 白色粘土粒子少量，ローム粒子微量           | 8 暗灰黄色 白色粘土粒子中量           |
| 4 黒褐色 ローム粒子・白色粘土粒子少量             | 9 黒褐色 白色粘土粒子微量            |
| 5 褐灰色 白色粘土粒子多量，ローム粒子少量           | 10 黄褐色 ロームブロック中量，白色粘土粒子少量 |
|                                  | 11 黄灰色 白色粘土粒子多量，ローム粒子少量   |

**遺物出土状況** 土師質土器片26点（内耳鍋17，播鉢5，小皿4），陶器片1点（甕），粘土塊4点，鉄滓2点がP1を除いた柱穴から出土しているが，いずれも細片で図示できるものはない。

**所見** 規模や形状から，倉庫としての機能が想定される。第164号溝が桁行，第163号溝が梁行の軸線に揃えて並列していることから，それぞれの溝と同時期に機能していたと推測される。また，桁行は2間の可能性がある。時期は，出土した土器から17世紀前半以降と考えられる。

(2) 方形竪穴遺構

**第73号方形竪穴遺構**（第619図）

**位置** 調査区北部のS4b0区，標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2616号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.42m，短軸1.90mの方形で，長軸方向はN - 15° - Eである。壁高は8～29cmで，ほぼ直立している。

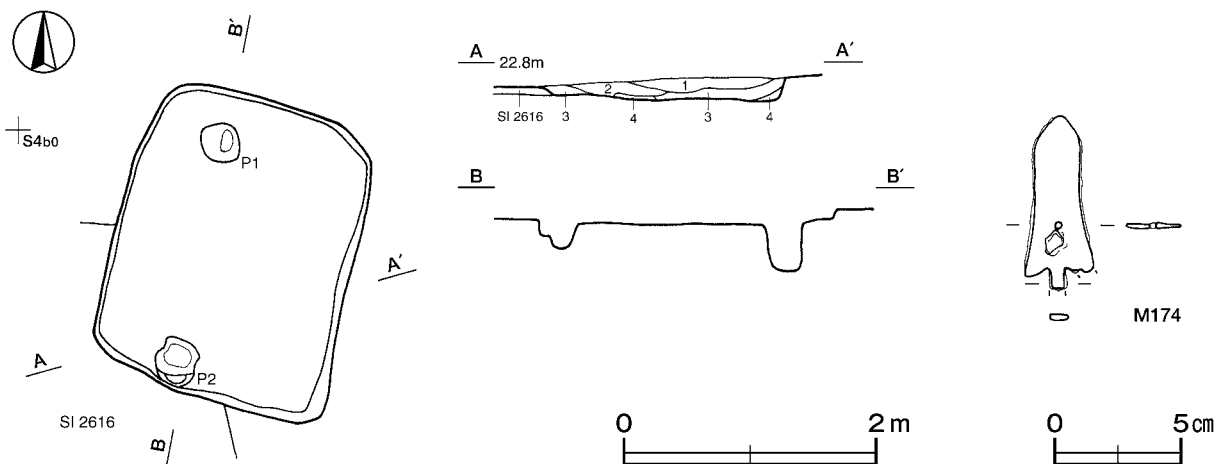
**床** ほぼ平坦である。

**ピット** 2か所。深さは21～40cmで，規模と配置から柱穴と考えられる。

**覆土** 4層に分けられる。周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子少量    |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量      | 4 明褐色 ロームブロック多量 |



第619図 第73号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(内耳鍋), 鉄製品1点(鏃)が出土しているほか, 土師器片64点, 須恵器片7点が流れ込んでいる。いずれも覆土中から細片で出土しており, 廃絶後の埋没過程で混入したものと考えられる。

**所見** 時期は, 遺構の形状から16世紀代と考えられる。

第73号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第619図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M174	鏃	(6.8)	2.8	0.2	(8.8)	鉄	茎部欠損 柳葉式 平造 逆刺 腸袂 透孔有	覆土中	PL145

第74号方形竪穴遺構(第620図)

**位置** 調査区中央部のR4c9区, 標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2626号住居跡, 第53号地下式墳, 第4331号土坑を掘り込んでいる。

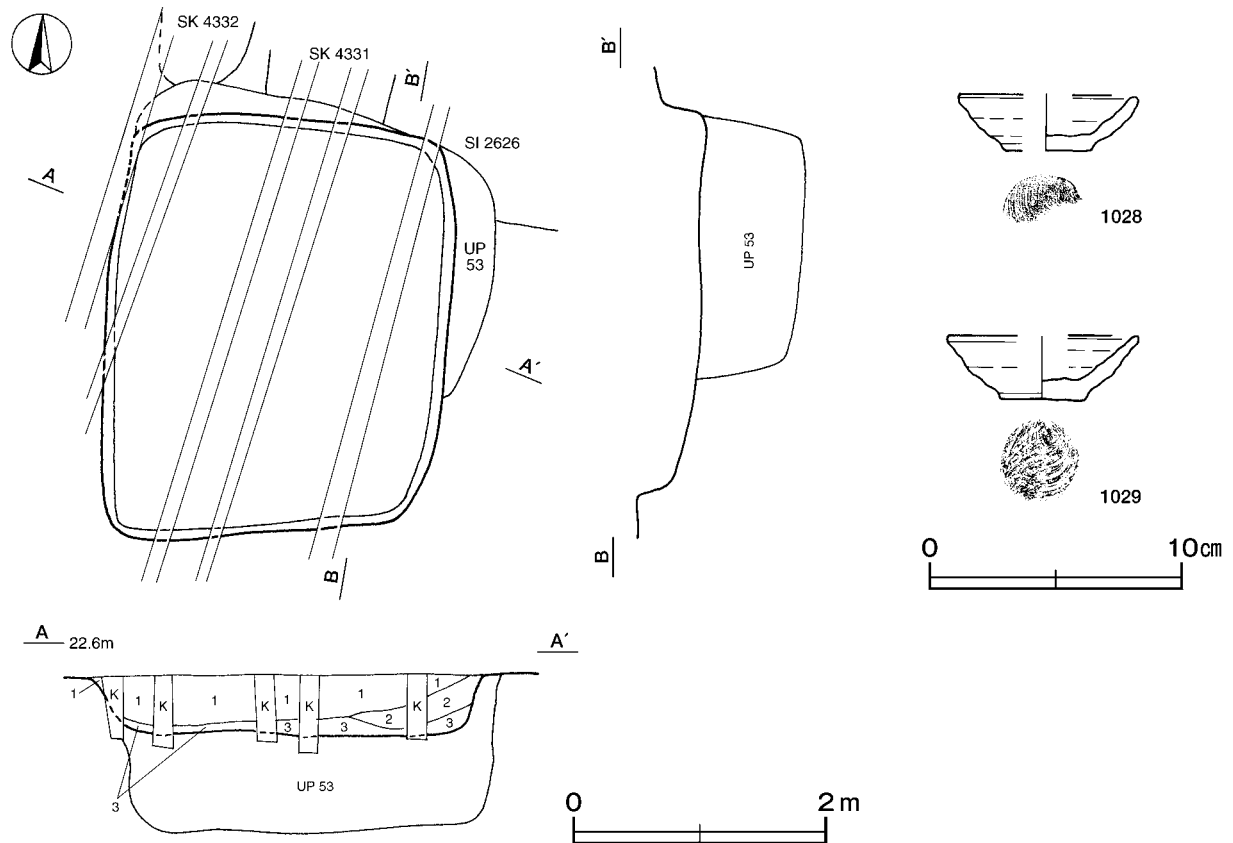
**規模と形状** 長軸3.50m, 短軸2.72mの長方形で, 長軸方向はN-6°-Eである。壁高は30~48cmで, ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦である。

**覆土** 3層に分けられる。標高の高い東側からの土砂流入の状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量



第620図 第74号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片43点（小皿4，内耳鍋39），陶器片1点（甕），石器1点（砥石），鉄滓2点が出土しているほか，土師器片158点，須恵器片37点が流れ込んでいる。1028・1029は覆土上層から出土しており，廃絶後の埋没過程で混入したものと考えられる。

**所見** 時期は，出土遺物から16世紀前半以前と考えられる。

**第74号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第620図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
1028	土師質土器	小皿	[7.0]	2.3	[3.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 回転系切り	体部内面ナデ 底部	上層	40%
1029	土師質土器	小皿	[7.4]	2.5	3.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 回転系切り後ナデ	体部内面ナデ 底部	上層	60%

**第75号方形竪穴遺構（第621図）**

**位置** 調査区中央部のR 4 h5 区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第4395号土坑を掘り込み，第4385号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.72m，短軸2.68mの方形で，長軸方向はN - 44° - Eである。壁高は50～54cmで，ほぼ直立している。

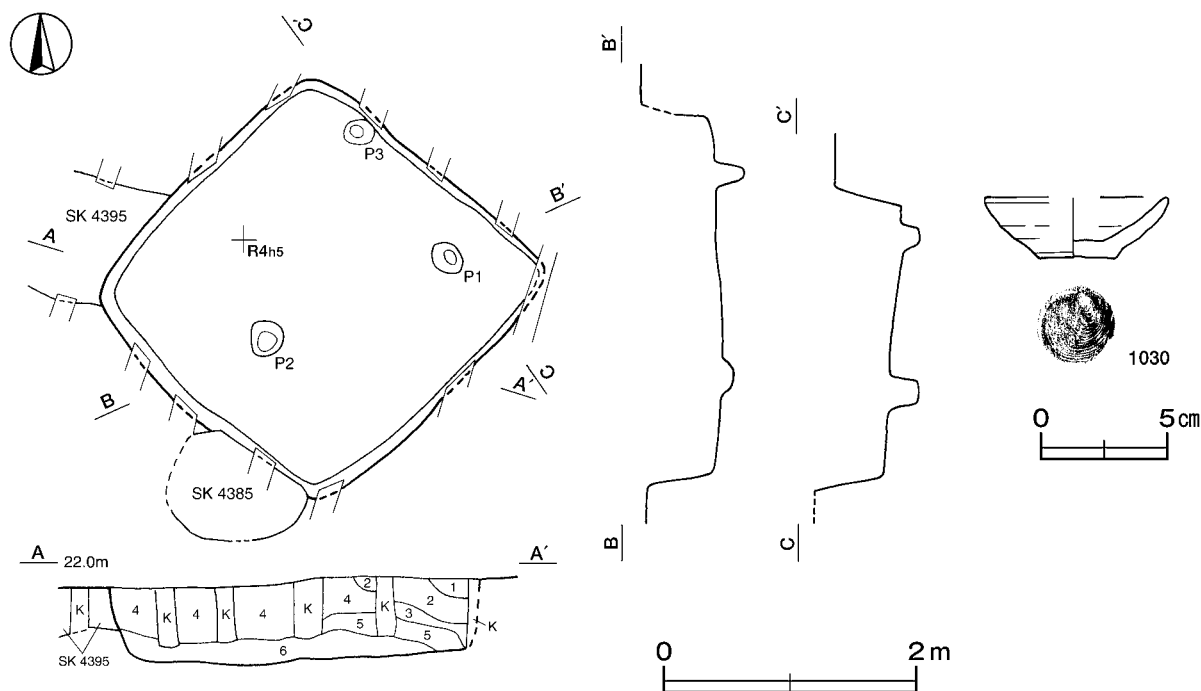
**床** ほぼ平坦である。

**ピット** 3か所。深さは10～24cmで，性格は不明である。

**覆土** 6層に分けられる。ロームや黒色土をブロック状に含む人為堆積である。

**土層解説**

- |         |                     |         |                       |
|---------|---------------------|---------|-----------------------|
| 1 にぶい褐色 | ロームブロック多量，黒色土ブロック少量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色   | ロームブロック中量，炭化粒子少量    | 5 暗褐色   | ロームブロック・炭化粒子微量        |
| 3 明褐色   | ローム粒子多量，黒色土ブロック中量   | 6 明褐色   | ロームブロック多量，黒色土ブロック中量   |



**第621図** 第75号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片17点（小皿2，内耳鍋14，播鉢1），陶器片2点（壺カ）が出土しているほか，土師器片90点，須恵器片17点が混入している。1030は覆土中から出土しており，廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土遺物から16世紀後半以前と考えられる。

第75号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第621図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
1030	土師質土器	小皿	[7.1]	2.4	3.0	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外面口ロナデ 回転系切り	体部内面ナデ 底部	覆土中	50%

第76号方形竪穴遺構（第622図）

**位置** 調査区北部のQ5h7区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2640号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.22m，短軸2.06mの方形で，長軸方向はN - 30° - Eである。壁高は34～52cmで外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。

**ピット** 4か所。深さは48～52cmで，規模と配置から柱穴と考えられる。

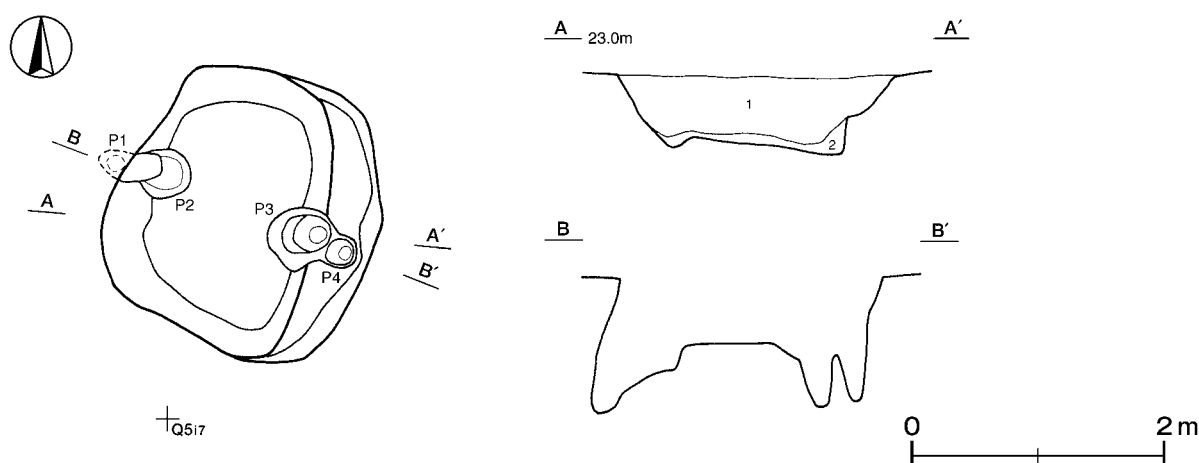
**覆土** 2層に分けられる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量      2 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点（播鉢），陶器片1点（不明），鉄滓2点が出土しているほか，土師器片146点，須恵器片10点が流れ込んでいる。いずれも細片で，覆土中に散在した状態で出土していることから，廃絶後の埋没過程で混入したものと考えられる。

**所見** 時期は，出土遺物や遺構の形状から16世紀代と考えられる。



第622図 第76号方形竪穴遺構実測図

### 第77号方形竪穴遺構（第623図）

**位置** 調査区中央部のR 5 b5区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2649号住居跡，第490・491号掘立柱建物跡，第4605号土坑を掘り込み，第4517号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸2.85m，短軸2.50mの長方形で，長軸方向はN - 68° - Eである。壁高は5～16cmで外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。

**覆土** 2層に分けられる。含有物が細粒かつ微量な自然堆積である。

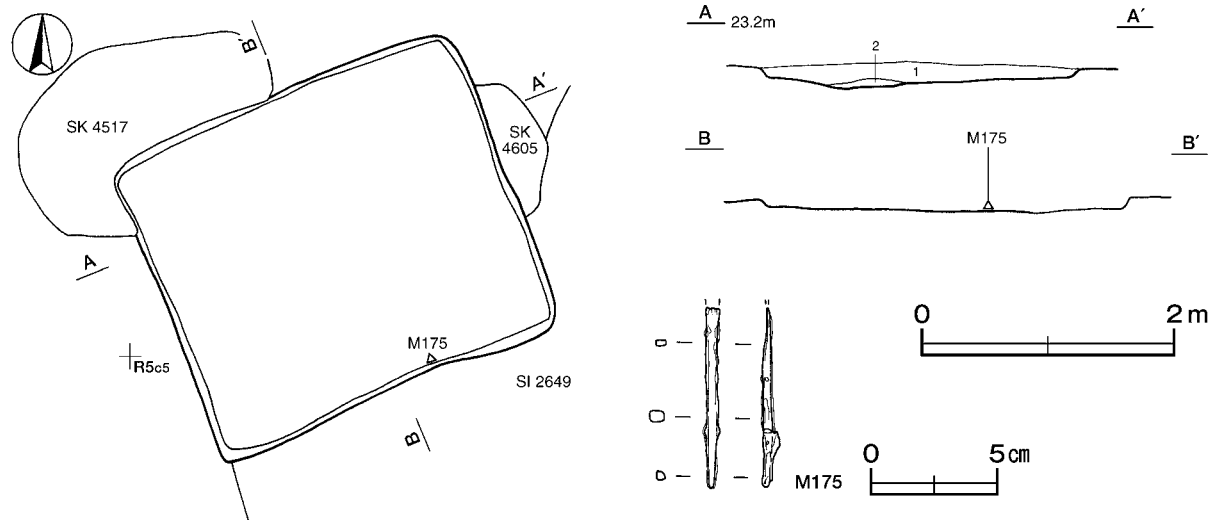
**土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片23点（小皿4，内耳鍋15，播鉢4），陶器片1（壺カ），鉄製品2点（鏃）が出土しているほか，土師器片63点，須恵器片15点が流れ込んでいる。M175は南壁際の床面から出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土遺物や遺構の形状から16世紀代と考えられる。



第623図 第77号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

### 第77号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第623図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M175	鏃	(7.2)	0.7	0.4	(5.0)	鉄	刃部端部欠損 方頭式 平造 棘状開	床面	

### 第78号方形竪穴遺構（第624図）

**位置** 調査区中央部のR 4 f2区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2689号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.14m，短軸1.49mの長方形で，長軸方向はN - 66° - Wである。壁高は22cmで外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。北西コーナー部に径30cmほどの円形の焼土範囲があり，その周辺には炭化材が確認され



ている。

**ピット** 3か所。P1・P3は、深さ36cm・48cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。P2は、深さ21cmで、補助的な柱穴と考えられる。

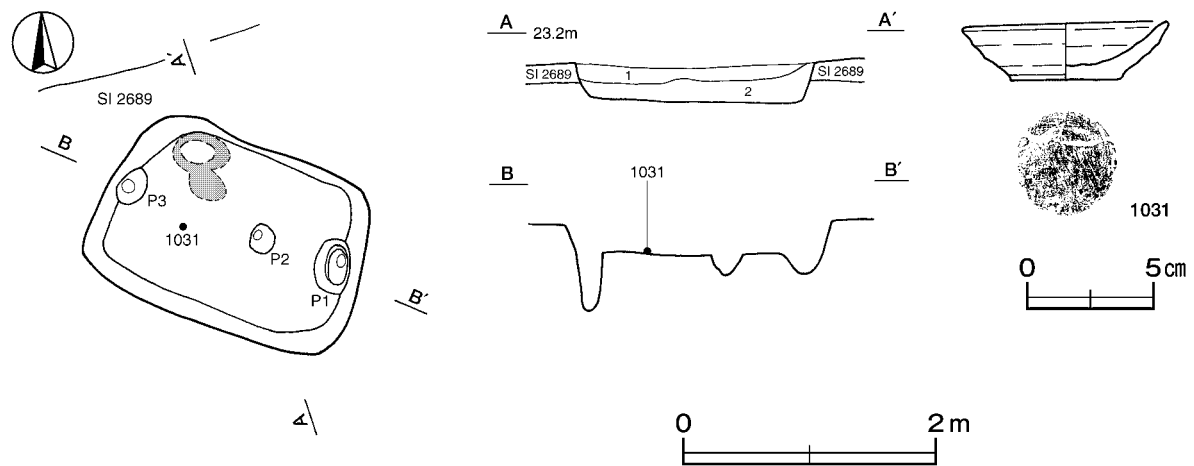
**覆土** 2層に分けられる。周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量      2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片4点(小皿),瓦質土器片1点(不明)が出土しているほか,土師器片36点,須恵器片8点が流れ込んでいる。1031は中央部の床面から出土しており,廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は,出土遺物から16世紀前半と考えられる。



第624図 第78号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第78号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第624図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1031	土師質土器	小皿	8.0	2.4	4.2	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部内・外面口ロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り後ナデ	床面	85% PL135

**第79号方形竪穴遺構(第625図)**

**位置** 調査区北部のQ4c0区,標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第96号堀跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.58m,短軸2.46mの方形で,長軸方向はN-6°-Wである。壁高は46~56cmで外傾して立ち上がっている。南壁東寄りに出入口施設をもち,長軸1.40m,短軸0.67mの方形で,壁高は56cmで,外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。

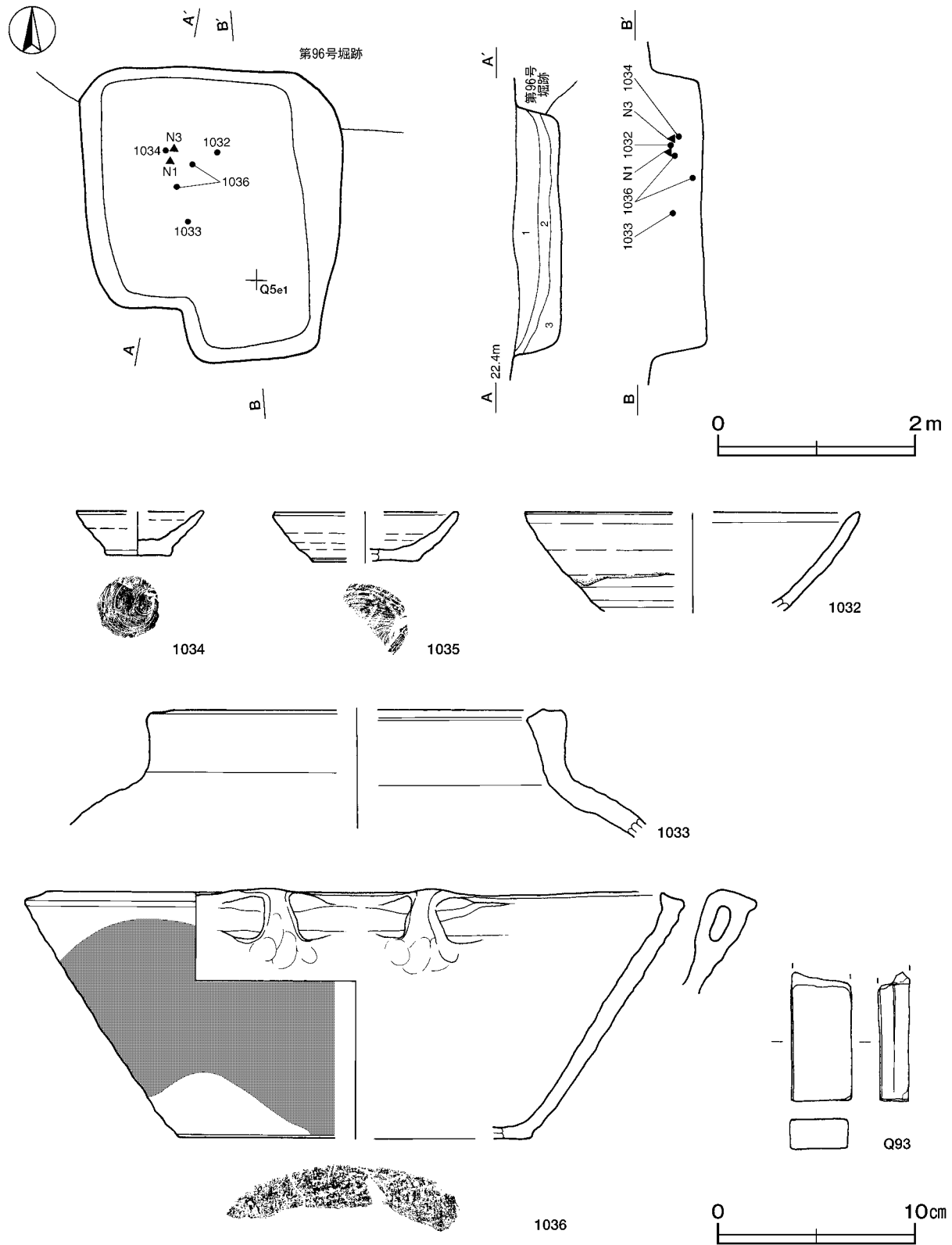
**覆土** 3層に分けられる。ロームブロックや粘土粒子などの含有物を多く含む人為堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量      2 褐色 ロームブロック中量,焼土粒子少量  
3 暗褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片64点(小皿7,内耳鍋53,播鉢3,甕1),瀬戸・美濃系陶器片3点(灰釉平碗),石器2点(石臼),石製品1点(硯),自然遺物4点(貝)が出土しているほか,土師器片53点,須恵器片8点

が混入している。1036が覆土上層から中層，1032・1033・Q93・N1～N3は覆土上層からそれぞれ出土しており，廃絶後に投棄されたものと考えられる。N1～N3はアカニシで，写真図版（PL150）に掲載した。  
**所見** 時期は，出土遺物から16世紀前半以前と考えられる。



第625図 第79号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第79号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第625図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1032	陶器	灰釉平碗	[16.8]	(5.1)	-	精良・灰釉	淡黄	良好	体部内・外面灰釉 下端露胎	上層	15% 瀬戸・美濃系
1033	土師質土器	甕	[21.0]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	上層	10%
1034	土師質土器	小皿	[6.2]	2.3	3.3	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り後ナデ	上層	80%
1035	土師質土器	小皿	[9.4]	2.5	[4.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り	上層	40%
1036	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	12.6	[17.8]	長石・雲母	灰褐色	普通	口辺部横ナデ 体部内・外面ナデ 底部すのこ状の圧痕	上・中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q93	墨	(6.5)	3.0	1.5	(47.0)	煤	一部欠損 側面に沈線有り	上層	

第80号方形竪穴遺構（第626図・第627図）

**位置** 調査区南部のS 4 j9区，標高21.0mほどの斜面部中段に位置している。

**重複関係** 第16号道路跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.18m，短軸1.94mの長方形で，長軸方向はN - 21° - Eである。壁高は26cmで，外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で，南西部に長軸98cm，短軸77cmで，深さ36cmの不整形な落ち込みがある。

**ピット** 3か所。深さは42～52cmで，位置と配置から柱穴と考えられる。

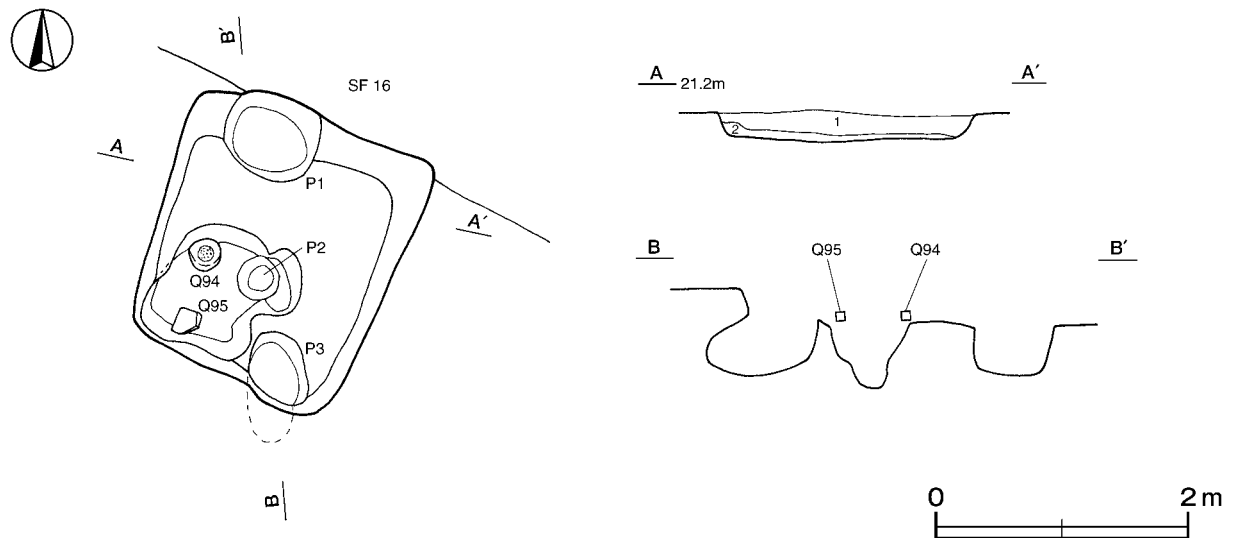
**覆土** 2層に分けられる。ロームブロックや焼土粒子などの含有物を多く含む人為堆積である。

**土層解説**

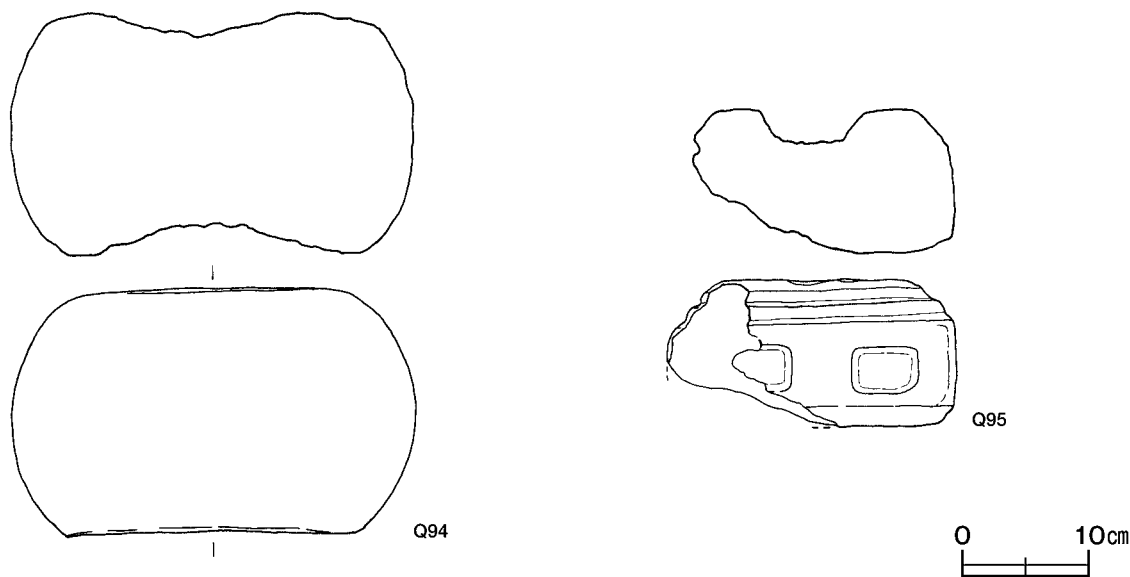
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量      2 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 石塔2点（五輪塔水輪，宝篋印塔基礎），石器3点（砥石）が南西部の覆土下層から出土しており，廃絶後に投棄されたものと考えられる。土師器片10点，須恵器片1点が流れ込んでいる。

**所見** 時期は，時期判定の根拠となる土器類が出土していないため明確でないが，遺構の形状から中世後半と考えられる。



第626図 第80号方形竪穴遺構実測図



第627図 第80号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第80号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第627図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q94	五輪塔	32.0	31.8	19.3	27.30	花崗岩	水輪	下層	PL143
Q95	宝篋印塔	(22.9)	(20.8)	11.6	(7.63)	花崗岩	基礎 一部欠損	下層	

(3) 地下式墳

第50号地下式墳 (第628図)

**位置** 調査区北部のQ 4 j0 区, 標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第55号地下式墳を掘り込み, 第51号地下式墳に掘り込まれている。

**竪坑** 主室北壁の東寄りに位置し, 長軸2.10m, 短軸1.90mの長方形である。壁高は114~120cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。また, 底面は平坦で, 主室とは高低差13cmの段が形成されている。北壁際にP1が確認されており, 深さは12cmで, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

**主室** 長軸2.95mで, 短軸は2.24mを確認している。方形で, 主軸方向はN - 13° - Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し, 確認面からの深さは124cmで, 底面は東側へ緩やかな傾斜が付いている。

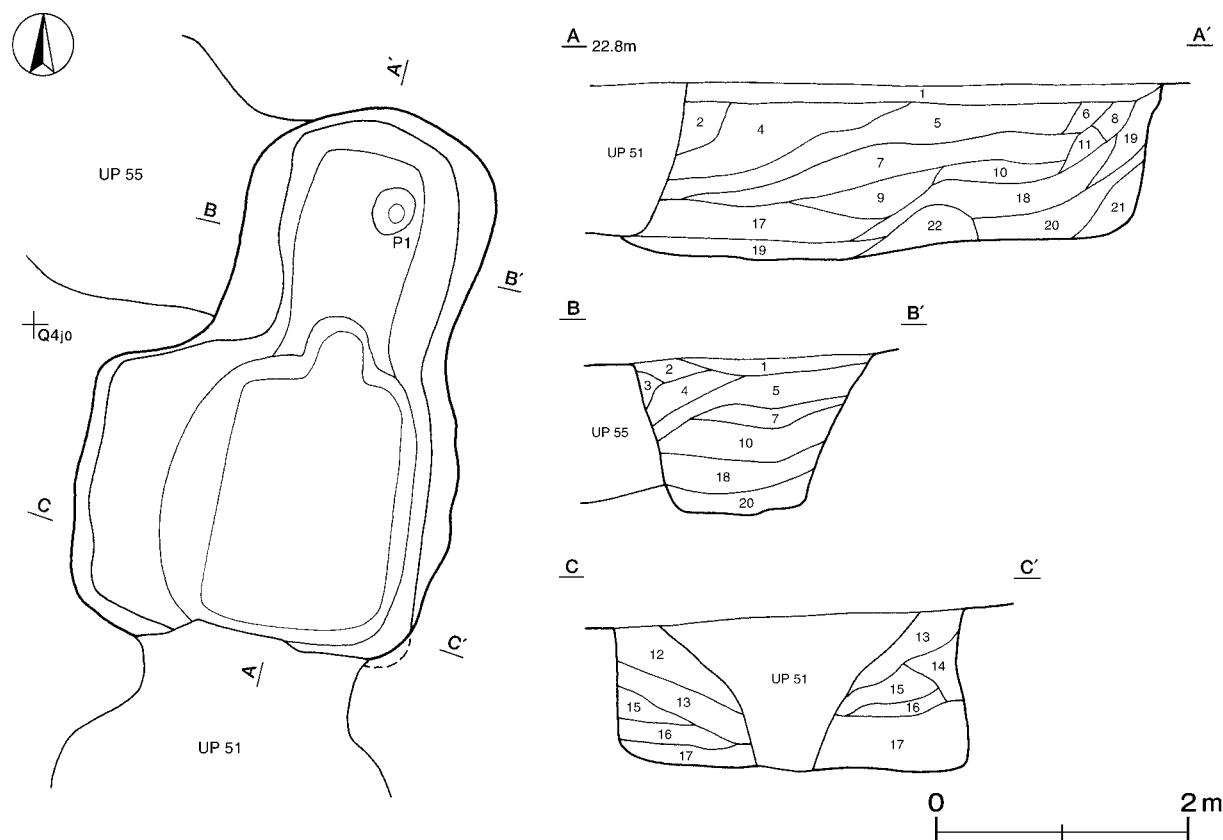
**覆土** 22層に分けられる。第17層は天井部の崩落土層に相当し, それより下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。上層は, 第2~4層が不規則な堆積状況を示し, 第1層で平坦に均されていることから, 第51号地下式墳を構築する際に人為的に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック微量	12 明褐色	ローム粒子多量
2 にぶい黄褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子多量
3 暗褐色	ローム粒子微量	14 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量	15 褐色	ロームブロック少量
5 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
6 黒色	ローム粒子微量	17 明褐色	ロームブロック多量
7 褐色	ロームブロック微量	18 黒褐色	ロームブロック微量
8 明褐色	ロームブロック中量	19 にぶい黄褐色	ローム粒子多量
9 褐色	ローム粒子中量	20 褐色	ローム粒子少量
10 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	21 黄褐色	ローム粒子多量
11 黒褐色	ローム粒子微量	22 明褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師質土器片9点(小皿4, 内耳鍋4, 播鉢1), 陶器片2点(碗, 瓶), 鉄滓1点が出土しているほか, 土師器片87点, 須恵器片16点が流れ込んでいる。いずれも覆土中から細片で出土しており, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 重複している第51号地下式墳の年代観から16世紀前葉以前と考えられる。



第628図 第50号地下式墳実測図

### 第51号地下式墳 (第629図)

**位置** 調査区北部のQ4j0区, 標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2626号住居跡, 第50号地下式墳を掘り込んでいる。

**竪坑** 主室の北壁中央部に位置し, 長軸1.64m, 短軸1.44mの長方形である。壁高は120cmで, 北壁はほぼ直立し, 東・西壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

**主室** 長径2.88m, 短径2.02mの楕円形で, 長径方向はN-79°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し, 確認面からの深さは122cmである。底面はほぼ平坦で, 中央部南側には焼土と炭化物が散在している。

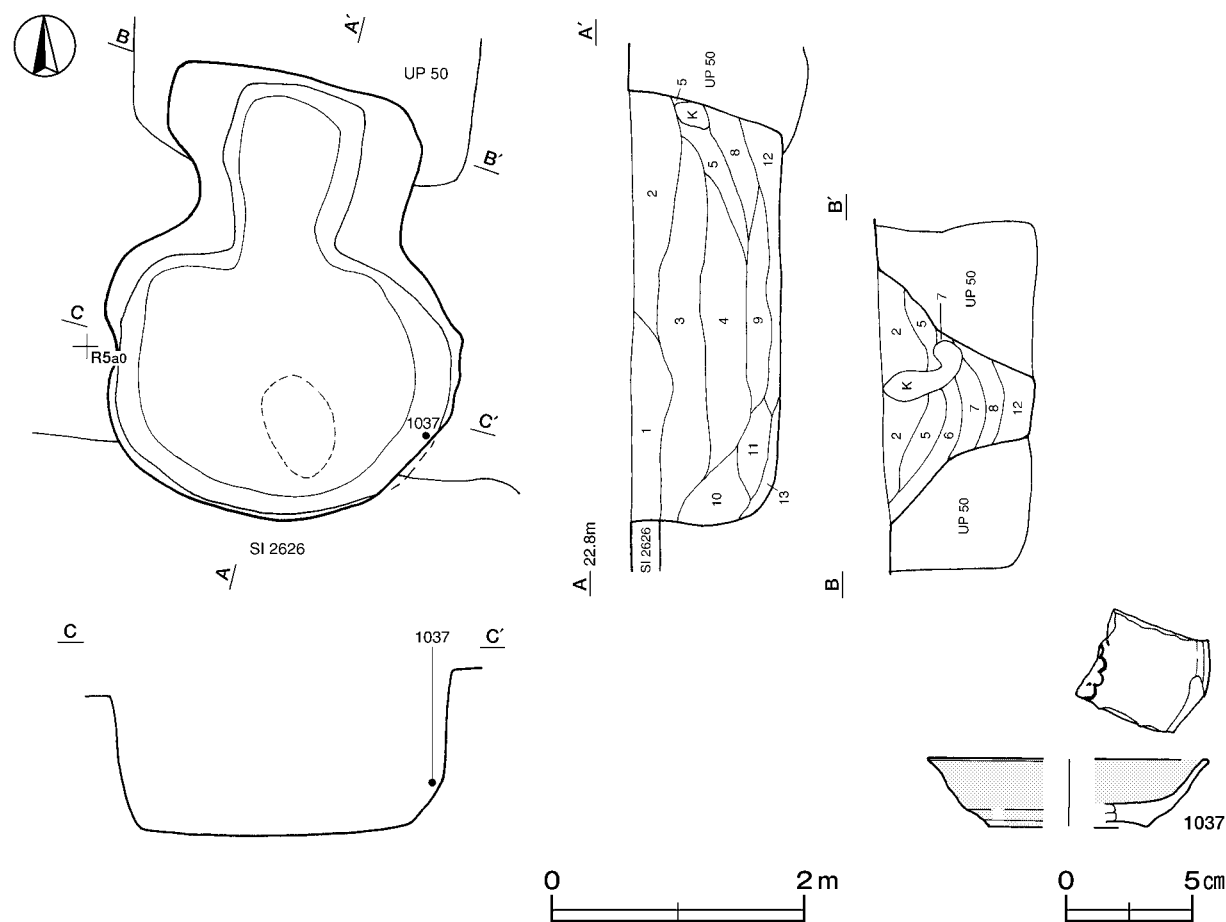
**覆土** 13層に分けられる。第9層は天井部の崩落土層に相当している。それより下層は, 天井部や壁部から崩落したローム粒子を含む自然堆積である。上層は, 層中にブロック状の構造がみられる人為堆積である。

#### 土層解説

- |        |                          |        |                      |
|--------|--------------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子微量          | 7 褐色   | ローム粒子中量, 炭化粒子微量      |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量        | 8 褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量       |
| 3 灰褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 明褐色  | ロームブロック中量            |
| 4 灰褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 10 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量         |
| 5 明褐色  | ローム粒子多量                  | 11 褐色  | ローム粒子少量              |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子微量                  | 12 褐色  | ローム粒子中量              |
|        |                          | 13 褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片4点(内耳鍋1, 播鉢3), 陶器片1点(瀬戸・美濃系灰釉端反皿), 石器1点(石臼), 自然遺物2点(種子, 貝)が出土しているほか, 土師器片162点, 須恵器片75点が流れ込んでいる。1037は覆土上層から出土しており, 天井部の崩落後に廃棄されたものと考えられる。また, 自然遺物はいずれも細片であり種類を同定するには至っていない。

**所見** 時期は, 出土遺物から16世紀前葉以前と考えられる。



第629図 第51号地下式壙・出土遺物実測図

第51号地下式壙出土遺物観察表(第629図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1037	陶器	灰釉端反皿	[11.2]	2.8	[6.2]	精良・灰釉	灰白	良好	体部内・外面口クロナデ 菊花印花文押捺 削り出し高台	上層	20% 瀬戸・美濃系

### 第52号地下式壙(第630図)

**位置** 調査区北部のQ4j6区, 標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**竪坑** 主室南壁の東寄りに位置している。長軸1.53m, 短軸1.12mの長方形で, 主室との接続部は幅0.74mほどに狭くなっている。壁高は54cmで, 壁はほぼ直立している。底面は緩やかに傾斜して主室に至っている。また, 接続部には2か所のピットが確認されており, 深さは4cmで, 天井部の崩落を防いだ支柱穴と考えられる。

**主室** 長軸2.22m, 短軸1.40mの長方形で, 主軸方向はN-51°-Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し, 確認面からの深さは69cmである。底面はほぼ平坦である。また, 南西側には長軸1.16m, 短軸

0.67mの方形の掘り込みが確認されており、底面は平坦で主室と同じ高さである。

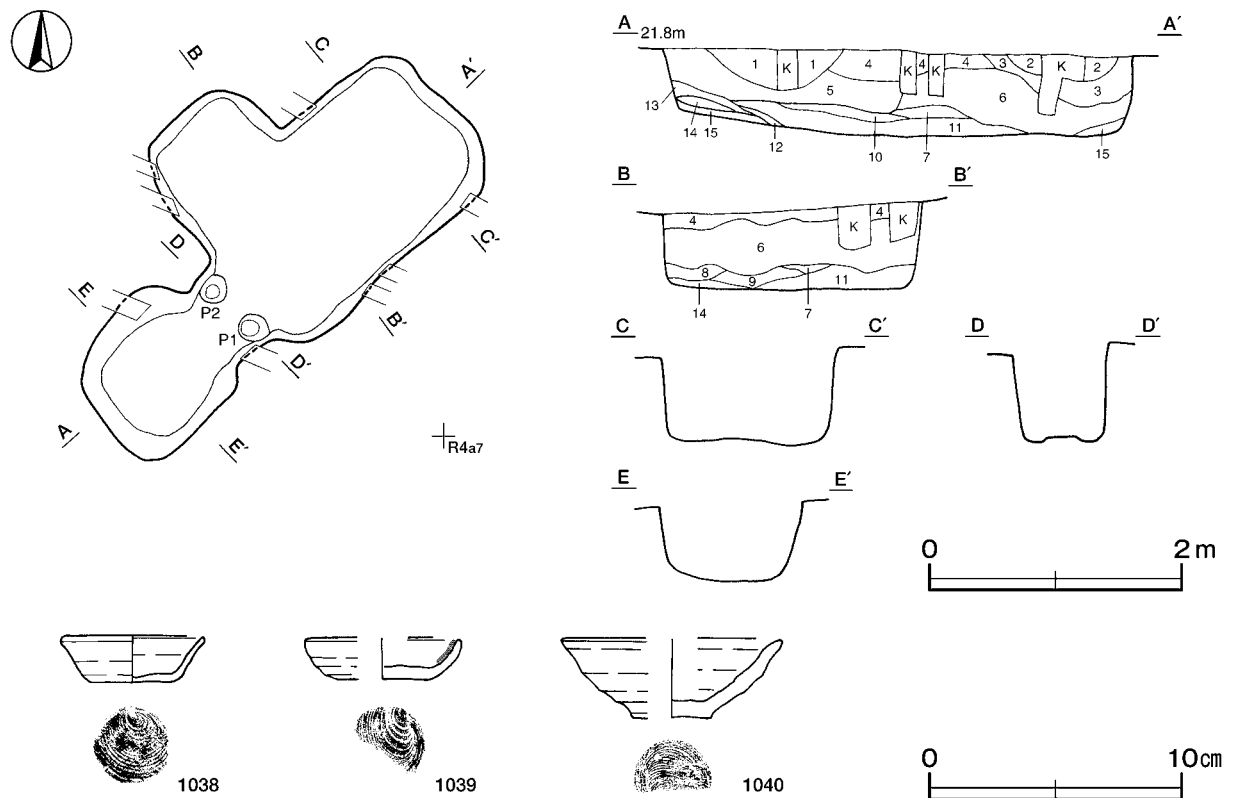
**覆土** 16層に分けられる。第6層は天井部の崩落土層に相当している。それより下層は天井部や壁部の崩落土層と流入土層が互層に堆積する自然堆積である。上層は不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |         |                          |        |                            |
|---------|--------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色   | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量        | 9 灰褐色  | ローム粒子微量                    |
| 2 灰褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量        | 10 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量             |
| 3 灰褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量      | 11 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量             |
| 4 灰褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子微量           | 12 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子微量              |
| 5 褐色    | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色    | ロームブロック中量                | 14 明褐色 | ローム粒子多量                    |
| 7 暗褐色   | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量      | 15 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック微量           |
| 8 にぶい褐色 | 粘土ブロック微量                 |        |                            |

**遺物出土状況** 土師質土器片16点（小皿8，内耳鍋7，播鉢1），陶器片7点（碗），鉄製品1点（釘），粘土塊1点が出土しているほか、土師器片45点，須恵器片11点が流れ込んでいる。1038～1040は、いずれも覆土上層から出土しており、天井部の崩落後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 主室西壁の南西側に掘り込みが確認されている。天井部の崩落土層の堆積状況から、同時期に機能した横穴の可能性が考えられる。時期は、出土遺物から17世紀前半以前と考えられる。



第630図 第52号地下式壙・出土遺物実測図

第52号地下式壙出土遺物観察表（第630図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1038	土師質土器	小皿	5.6	1.8	3.2	長石・雲母	橙	普通	体内内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	90%
1039	土師質土器	小皿	[6.1]	1.7	[3.6]	長石・石英	浅黄橙	普通	体内内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	35% 油煙付着
1040	土師質土器	小皿	[8.6]	3.2	[3.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体内内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	45% 油煙付着

### 第53号地下式墳（第631図）

**位置** 調査区中央部のR 4 b9区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第2626号住居跡，第4331・4332号土坑を掘り込み，第74号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

**竪坑** 主室南壁の中央部に位置し，長軸1.22m，短軸0.98mの長方形である。壁高は122cmで，壁はほぼ直立している。また，底面は平坦で，主室とは5cmほどの段が形成されている。

**主室** 長軸3.06m，短軸2.32mの長方形で，主軸方向はN - 72° - Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し，確認面からの深さは124cmで，底面は北側へ高低差7cmほどの緩やかな傾斜が付いている。

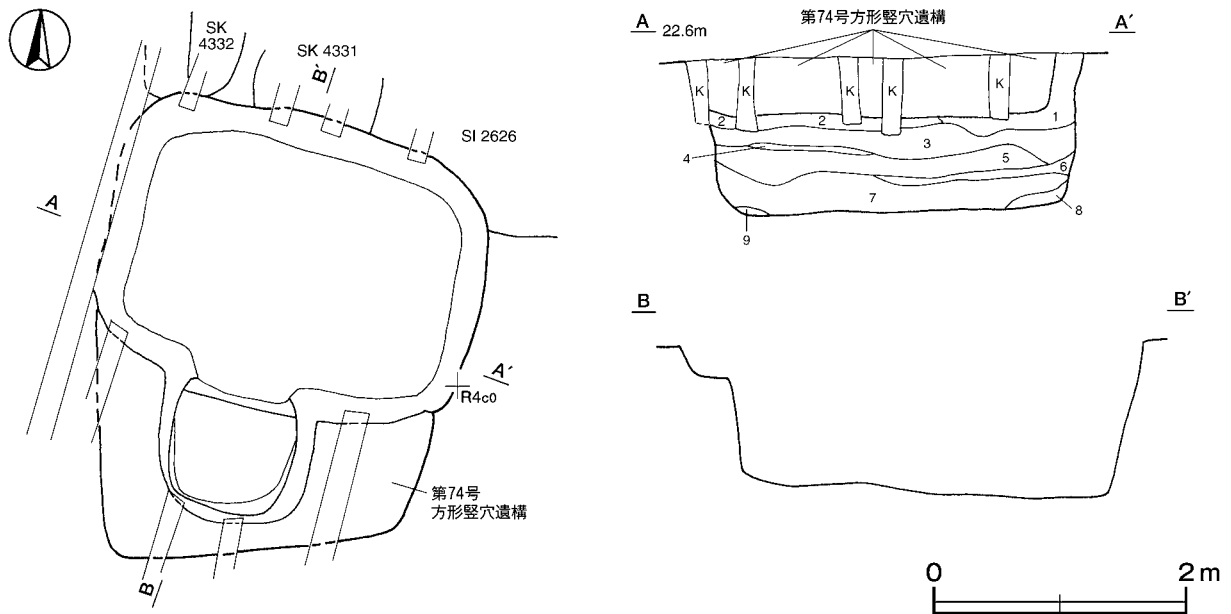
**覆土** 9層に分けられる。各層は，ブロック状あるいは粒状のロームと黒色土が混在する人為堆積であり，天井部の崩落土層は明確でない。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6 灰褐色	黒色土ブロック・ローム粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	7 灰褐色	黒色土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・黒色土粒子微量	8 褐色	ローム粒子少量，黒色土粒子微量
4 灰褐色	ロームブロック・黒色土ブロック少量	9 褐色	ローム粒子少量
5 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師質土器片6点（小皿2，内耳鍋2，擂鉢1，甕1），陶器片2点（甕類）が出土しているほか，土師器片47点，須恵器片13点が流れ込んでいる。いずれも細片で，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，重複している第74号方形竪穴遺構の年代観から16世紀前半以前と考えられる。



第631図 第53号地下式墳実測図

### 第54号地下式墳（第632図）

**位置** 調査区北部のQ 4 h0区，標高22.5mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第95号堀跡を掘り込んでいる。

**竪坑** 主室西壁の中央部に位置し，長径1.78m，短径1.58mの楕円形である。壁高は88cmで，壁は外傾して立ち上がっている。また，底面は主室に向かって階段状を呈しており，高低差は56cmである。



**主室** 長径2.00m，短径1.68mの楕円形で，主軸方向はN - 78° - Eである。天井部は遺存していない。壁は彎曲して立ち上がり，確認面からの深さは156cmである。底面はほぼ平坦で，焼土と炭化材が散在していたが，湧水のため詳細は明確でない。

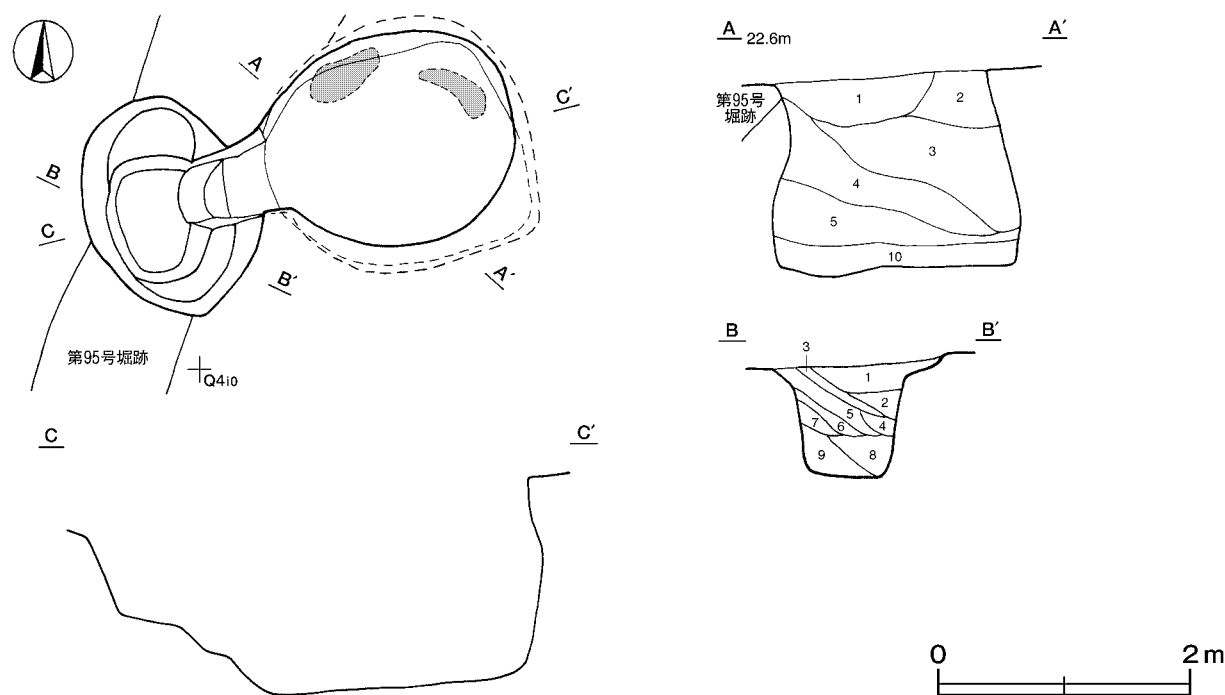
**覆土** 10層に分けられる。第5・6層は天井部の崩落土層に相当し，それより下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。上層はロームブロックを含む人為堆積である。

**土層解説**

- |       |           |         |                     |
|-------|-----------|---------|---------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量 | 6 明褐色   | ロームブロック中量           |
| 2 灰褐色 | ロームブロック中量 | 7 にぶい褐色 | ローム粒子中量             |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色    | ロームブロック微量           |
| 4 灰褐色 | ローム粒子中量   | 9 にぶい褐色 | ローム粒子多量             |
| 5 明褐色 | ロームブロック多量 | 10 赤褐色  | 粘土ブロック・焼土粒子中量，炭化材少量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片18点（内耳鍋）が出土しているほか，縄文土器片1点，土師器片28点，須恵器片3点が流れ込んでいる。また，底面から炭化材が散在して出土している。

**所見** 時期は，重複している第95号掘跡の年代観から16世紀前半以降と考えられる。



第632図 第54号地下式塙実測図

**第55号地下式塙（第633図）**

**位置** 調査区北部のQ 4 i 0 区，標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第50号地下式塙に掘り込まれている。

**竪坑** 主室東壁の中央部に位置しているが，第50号地下式塙に掘り込まれているため規模や形状は不明である。

**主室** 長径2.40m，短径2.14mの楕円形で，主軸方向はN - 77° - Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がっており，確認面からの深さは106cmで，底面は皿状である。

**覆土** 9層に分けられる。第4層は天井部の崩落土層に相当している。それより下層は天井部や壁部の崩落土層と流入土層が互層に堆積する自然堆積である。上層は複雑な堆積状況を示した人為堆積であり，第2層は遺存していた天井部が意図的に破壊されたものと考えられることから，崩落後間もなく埋め戻された様相を示し

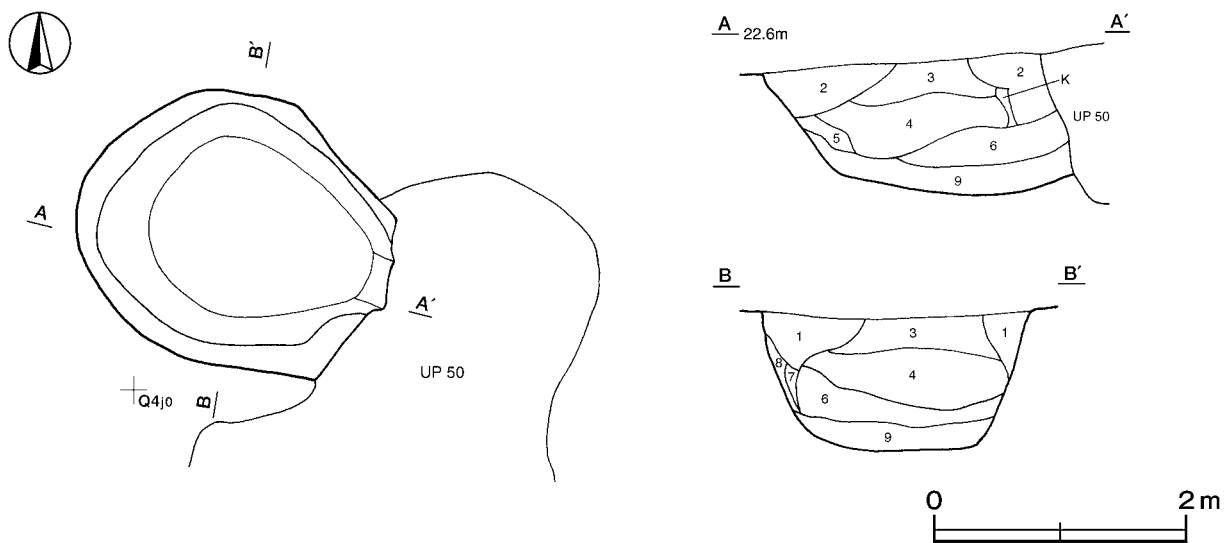
ている。

**土層解説**

- |   |       |           |   |       |           |
|---|-------|-----------|---|-------|-----------|
| 1 | にぶい褐色 | ローム粒子微量   | 6 | 褐色    | ロームブロック中量 |
| 2 | 明褐色   | ロームブロック中量 | 7 | にぶい褐色 | ローム粒子微量   |
| 3 | 褐色    | ローム粒子中量   | 8 | 褐色    | ロームブロック微量 |
| 4 | 明褐色   | ロームブロック多量 | 9 | 明褐色   | ローム粒子多量   |
| 5 | 褐色    | ロームブロック少量 |   |       |           |

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(甕), 鉄製品1点(釘)が覆土上層から出土している。いずれも細片で, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 重複している第50号地下式壙の年代観から16世紀前葉以前と考えられる。



第633図 第55号地下式壙実測図

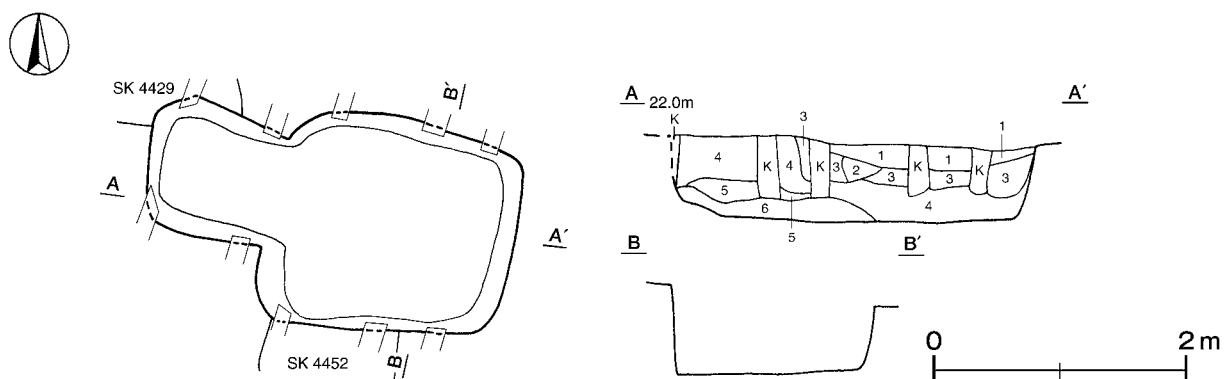
**第56号地下式壙 (第634図)**

**位置** 調査区中央部のR 4 g4区, 標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第4429・4452号土坑を掘り込んでいる。

**竪坑** 主室西壁の中央部に位置し, 一辺1.07mの方形である。壁高は54cmで, 壁はほぼ直立している。底面は緩やかに傾斜して主室に至っている。

**主室** 長軸1.94m, 短軸1.75mの長方形で, 主軸方向はN - 74° - Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し, 確認面からの深さは65cmで, 底面は平坦である。



第634図 第56号地下式壙実測図

**覆土** 6層に分けられる。第1層はロームブロックを多量に含んでいることから天井部の崩落土層と考えられる。それより下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |         |                         |         |                         |
|---------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 1 褐色    | ロームブロック多量 焼土粒子少量 炭化粒子微量 | 4 にぶい褐色 | 黒色土ブロック微量               |
| 2 暗褐色   | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量  | 5 褐色    | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量        |
| 3 にぶい褐色 | 黒色土ブロック・焼土粒子微量          | 6 暗褐色   | ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片5点(小皿2, 内耳鍋3)が出土しているほか, 土師器片74点, 須恵器片1点が流れ込んでいる。いずれも細片で, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

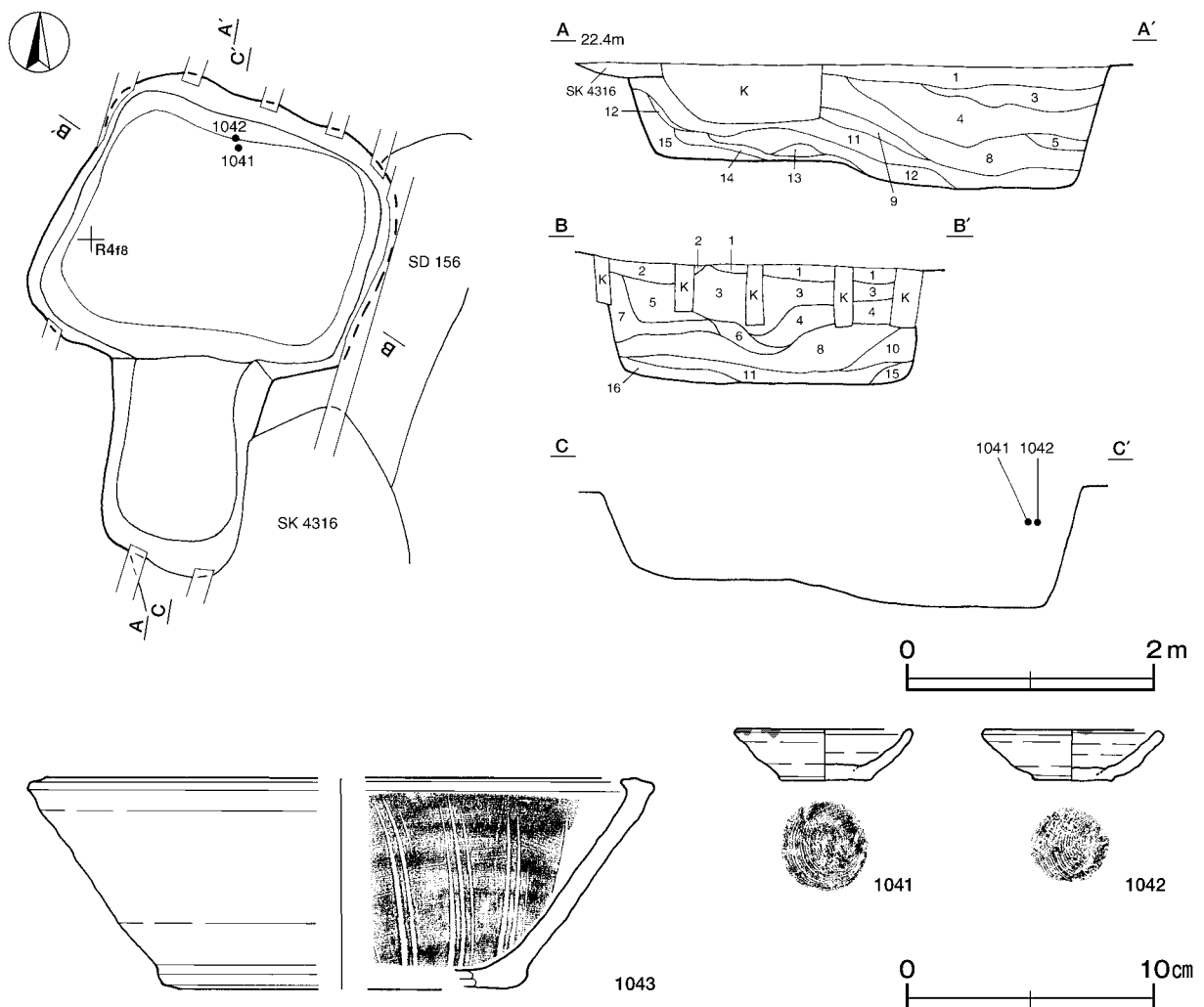
**所見** 周辺には墓坑の可能性ある長方形の土坑群が密集しており, 重複関係から本跡はそれらよりも新しく位置付けられる。時期は, 土坑群の年代観から17世紀前半以降と考えられる。

**第57号地下式墳(第635図)**

**位置** 調査区中央部のR4f8区, 標高22.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第156号溝跡を掘り込み, 第4316号土坑に掘り込まれている。

**竪坑** 主室南壁の中央部に位置し, 長軸1.80m, 短軸1.15mの長方形である。壁高は62cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。また, 底面は緩やかに傾斜して主室に至っている。



第635図 第57号地下式墳・出土遺物実測図

**主室** 長軸は2.66mと推定され、短軸2.15mである。長方形で、主軸方向はN - 15° - Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは98cmで、底面は平坦である。

**覆土** 16層に分けられる。第8～16層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。それより上層はローム粒子や粘土粒子を含む人為堆積で、天井部の崩落土層は明確でない。

**土層解説**

- |         |                           |          |                     |
|---------|---------------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色   | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 9 褐色     | ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 2 褐色    | ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量      | 10 黒褐色   | ローム粒子微量             |
| 3 褐色    | ローム粒子少量, 炭化粒子微量           | 11 灰褐色   | ロームブロック微量           |
| 4 褐色    | ローム粒子中量, 粘土粒子微量           | 12 褐色    | ロームブロック微量           |
| 5 にぶい褐色 | ロームブロック微量                 | 13 灰褐色   | ローム粒子微量             |
| 6 黒褐色   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量       | 14 灰褐色   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐色    | ローム粒子微量                   | 15 にぶい褐色 | ローム粒子微量             |
| 8 褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量         | 16 黒褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量        |

**遺物出土状況** 土師質土器片18点（小皿7，内耳鍋10，播鉢1）が出土しているほか、土師器片170点，須恵器片102点が流れ込んでいる。1041・1042は覆土上層から出土しており，埋め戻した際に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土遺物から16世紀後半以前と考えられる。

**第57号地下式竈出土遺物観察表（第635図）**

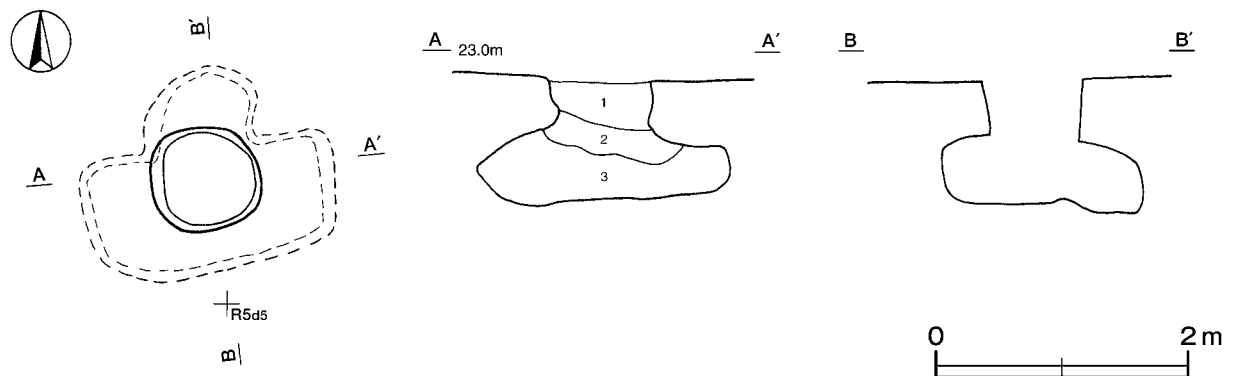
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1041	土師質土器	小皿	7.1	2.1	3.7	雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	上層	100% 油煙・煤付着 PL135
1042	土師質土器	小皿	7.1	2.0	3.2	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	上層	95% 油煙付着 PL135
1043	土師質土器	播鉢	[25.2]	8.6	[14.6]	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面口クロナデ 内面3条1単位の播り目	覆土中	10%

**第58号地下式竈（第636図）**

**位置** 調査区中央部のR 5 c4区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**竪坑** 主室中央部に位置し，径0.85mの円形である。壁高は34～49cmで，ほぼ直立している。

**主室** 長軸2.04m，短軸1.60mのT字形で，幅0.86～1.04mである。主軸方向はN - 81° - Eである。天井部が遺存している。壁は内彎して立ち上がり，竪坑部を含めた確認面からの深さは96cmである。天井部までの高さは40～60cmで，底面はほぼ平坦である。



**第636図** 第58号地下式竈実測図

**覆土** 3層に分けられる。ロームブロックを多量に含む人為堆積である。

**土層解説**

- 1 明 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

**遺物出土状況** 土師質土器片2点(小皿, 内耳鍋)が覆土中から出土している。いずれも細片で, 廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土遺物や遺構の形状から中世後半と考えられる。

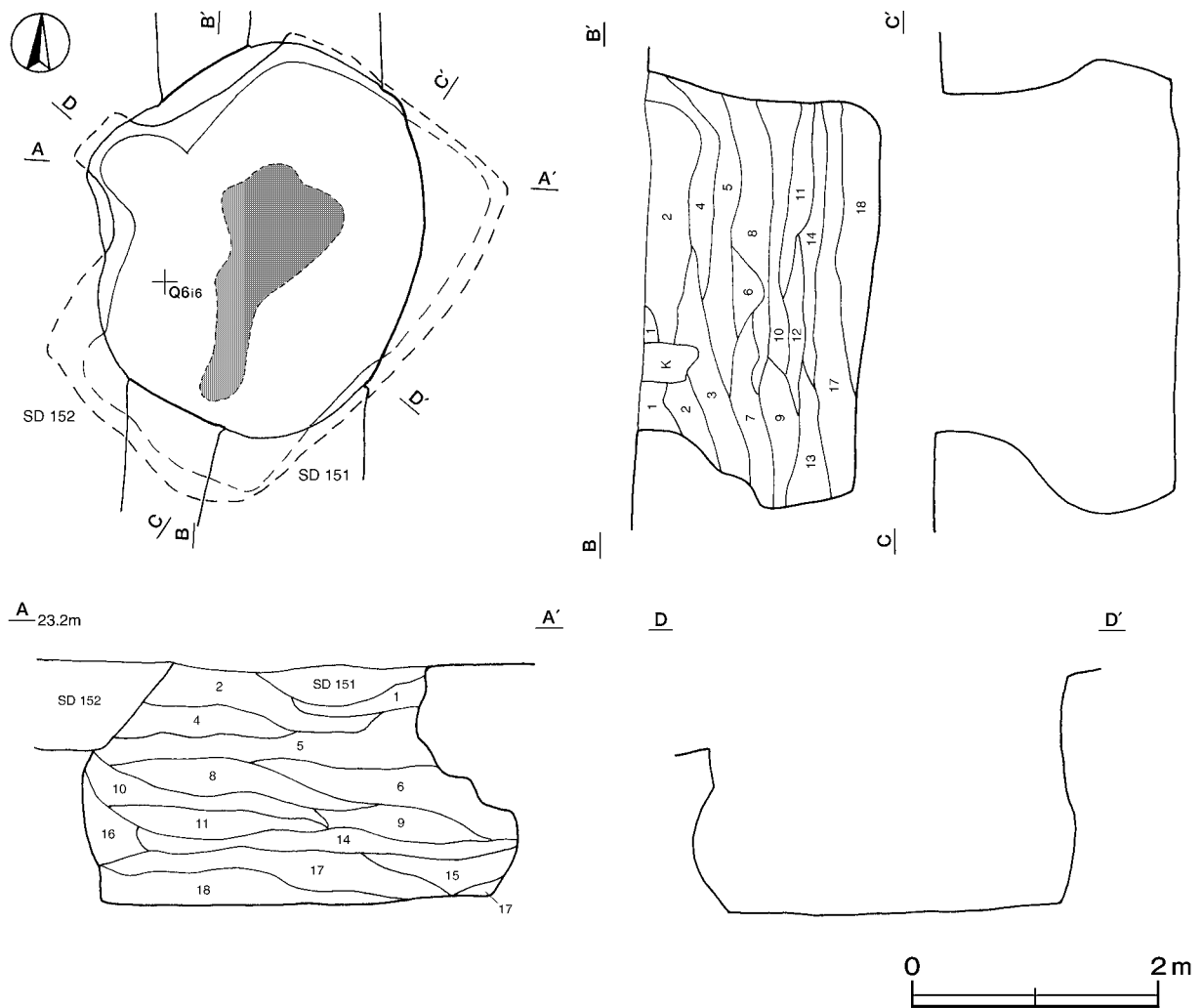
**第59号地下式墳(第637図)**

**位置** 調査区北東部のQ6h6区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第151・152号溝に掘り込まれている。

**竪坑** 主室西壁の中央部に位置し, 長軸0.70m, 短軸0.51mの長方形である。壁高は194cmで, 壁は崩落のため内彎しているが, 本来直立していたと考えられる。底面は平坦である。

**主室** 長軸3.64m, 短軸2.42mの長方形で, 主軸方向はN-46°-Wである。天井部は遺存していない。壁は内彎して立ち上がっており, 確認面からの深さは194cmである。底面は平坦で, 中央部に炭化物が散在している。



**第637図** 第59号地下式墳実測図

**覆土** 18層に分けられる。第9・13・17層は天井部の崩落土層に相当しており、その間層及び下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。上層は、複雑な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	11 黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック微量
3 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 明褐色	ロームブロック多量
4 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
5 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量	15 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
7 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	16 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
8 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	17 にぶい褐色	ロームブロック多量
9 明褐色	ローム粒子多量	18 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量

**遺物出土状況** 土師質土器片6点(内耳鍋3, 播鉢2, 甕1), 陶器片1点(不明), 瓦片1点, 鉄製品1点(不明)が出土しているほか, 土師器片57点, 須恵器片14点が混入している。いずれも細片であり, 覆土上層から散在して出土していることから, 天井部の崩落後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土遺物や重複している第151・152号溝跡の年代観から15世紀後半～16世紀前半と考えられる。

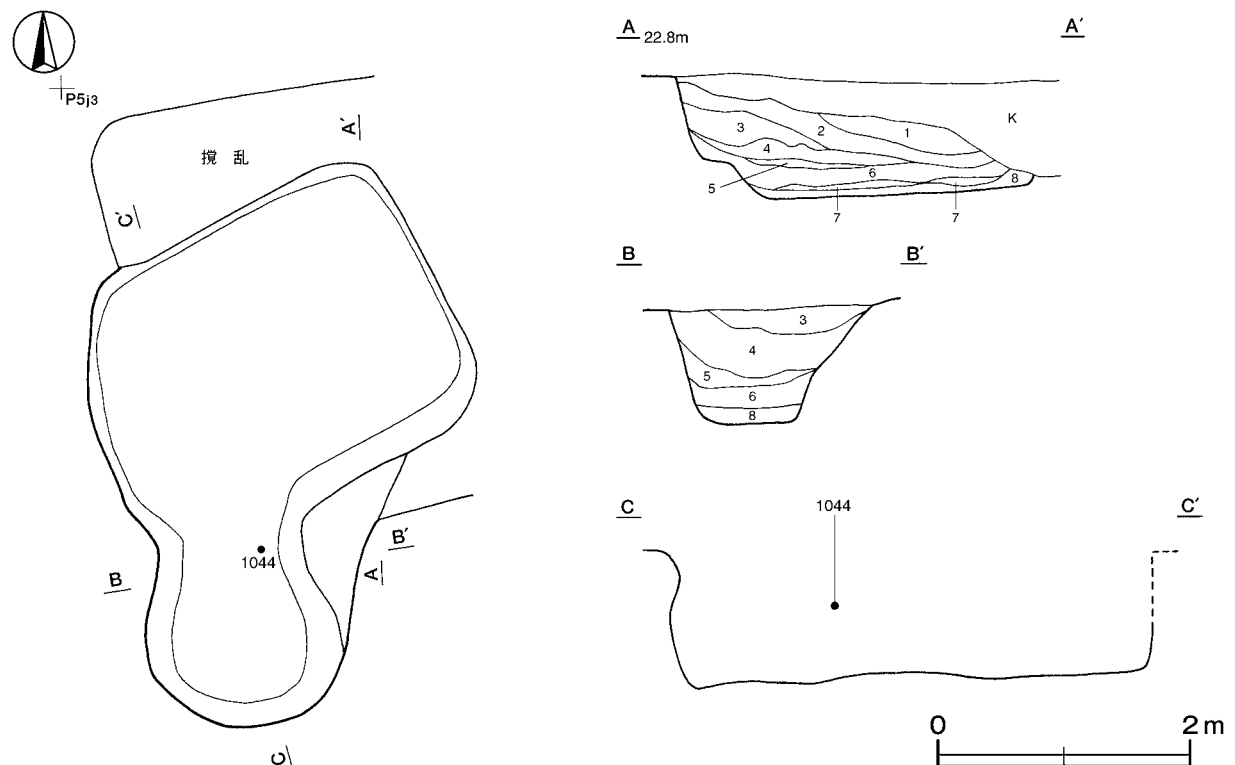
**第60号地下式墳(第638図)**

**位置** 調査区北部のP5j3区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 北側を現代の攪乱坑に掘り込まれている。

**竪坑** 主室南壁の西寄りに位置し, 径1.63mの円形である。壁高は106cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

**主室** 長軸は2.98m, 短軸は2.34mを確認している。長方形で, 主軸方向はN-15°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がっており, 確認面からの深さは106cmである。底面は平坦である。



第638図 第60号地下式墳実測図

**覆土** 8層に分けられる。第1～3層は天井部の崩落土層に相当している。それより下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |          |                      |        |                        |
|----------|----------------------|--------|------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量              | 5 黒褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色    | ロームブロック中量            | 6 灰黄褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量            | 7 褐灰色  | ローム粒子少量                |
| 4 暗褐色    | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰黄褐色 | ロームブロック中量              |

**遺物出土状況** 土師質土器片4点(播鉢)が覆土上層から出土しており, 天井部の崩落後に廃棄されたものと考えられる。そのほか土師器片383点, 須恵器片38点, 磁器片9点, 瓦片5点, 土製品1点(支脚), 鉄製品3点(不明), ガラス製品1点(おはじき)は, 流れ込みや攪乱で混入したものである。

**所見** 近接している第61号地下式墳は規模や形状, 主軸方向が類似しており, ほぼ同時期に機能していた可能性がある。時期は, 出土遺物や遺構の形状から中世後半と考えられる。



第639図 第60号地下式墳出土遺物実測図

第60号地下式墳出土遺物観察表(第639図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1043	土師質土器	播鉢	-	(5.8)	[19.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内面6条1単位の襷目	上層	10%

**第61号地下式墳(第640図)**

**位置** 調査区北部のP5j4区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 北側を現代の攪乱坑に掘り込まれている。

**竪坑** 主室南壁の西寄りに位置し, 長軸1.46m, 短軸1.28mの隅丸長方形である。壁高は106cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

**主室** 長軸は2.90m, 短軸は1.90mを確認している。長方形で, 主軸方向はN-19°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がっており, 確認面からの深さは104cmである。底面は平坦である。

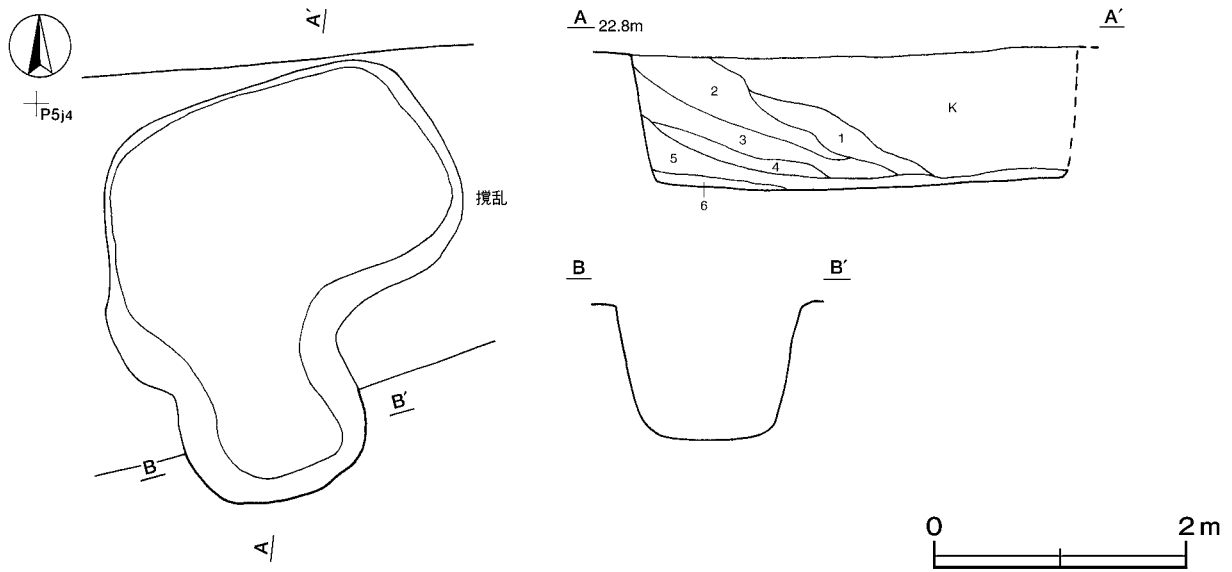
**覆土** 6層に分けられる。第1層は天井部の崩落土層に相当している。それより下層は含有物が細粒かつ微量な自然堆積である

**土層解説**

- |          |           |          |         |
|----------|-----------|----------|---------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 | 4 暗褐色    | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色    | ロームブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色    | ローム粒子少量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片6点(小皿1, 内耳鍋2, 播鉢3), 陶器片1点(甕)が出土している。そのほか土師器片159点, 須恵器片6点, 磁器片1点, 瓦片4点は, 流れ込みや攪乱で混入したものである。

**所見** 時期は, 出土遺物や遺構の形状から中世後半と考えられる。



第640図 第61号地下式壙実測図

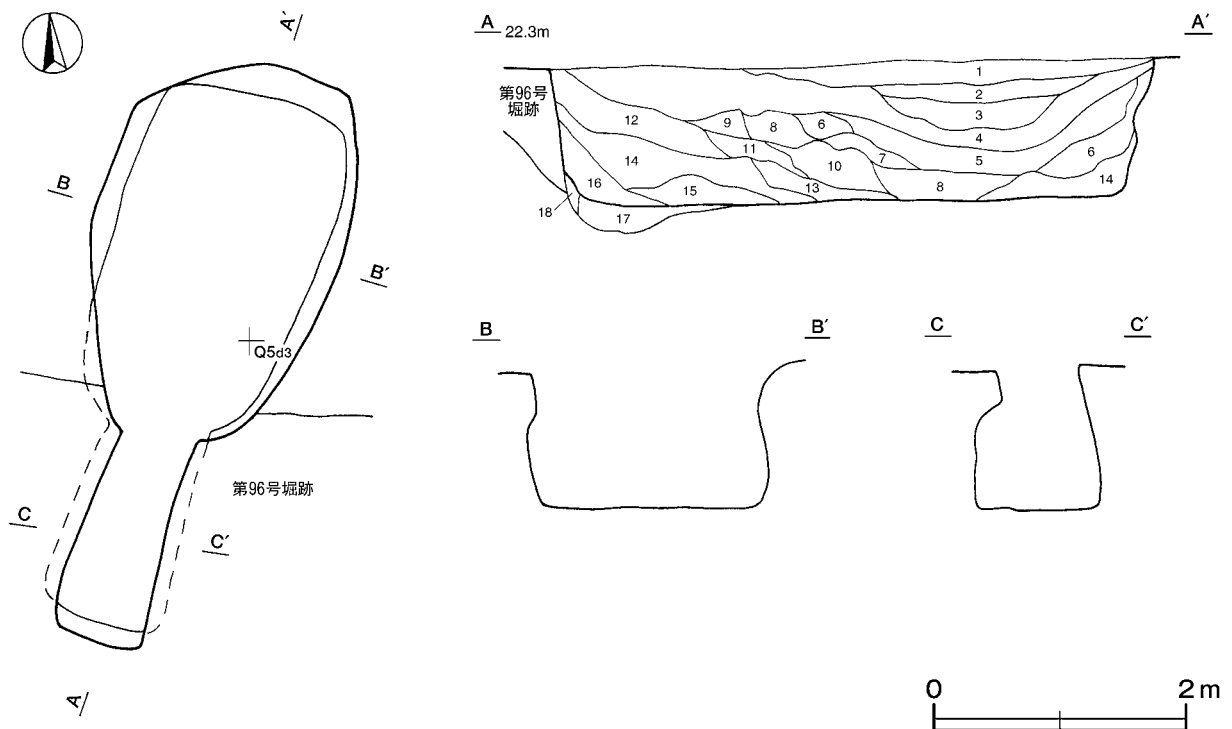
第62号地下式壙 (第641図)

**位置** 調査区北部のQ 5 c 2 区, 標高22.5mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第96号堀跡を掘り込んでいる。

**竪坑** 主室南壁の中央部に位置し, 長軸1.72m, 短軸0.68mの長方形である。壁高は118cmで, 壁は内傾して立ち上がっている。また, 底面は平坦で, 第96号堀跡を掘り込んだ部分には, 粘性の強い褐灰色土やロームブロックを充填して, 地盤が軟弱なところを補強している。

**主室** 長軸3.08m, 短軸1.98mの長方形で, 主軸方向はN - 17° - Eである。天井部は遺存していない。壁は彎曲して立ち上がっており, 確認面からの深さは112cmで, 底面は平坦である。



第641図 第62号地下式壙実測図



**覆土** 18層に分けられる。第6・9・10は天井部の崩落土層に相当するが、ブロック状に堆積しており、意図的に破壊されたと考えられる。その間層及び下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。上層は、焼土や炭化物を含む人為堆積である。また、第17・18層は、竪坑部の第96号堀跡を掘り込んだ部分に充填した埋土である。

**土層解説**

- |       |                     |           |                  |
|-------|---------------------|-----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 10 明褐色    | ローム粒子中量,炭化粒子微量   |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 11 黒褐色    | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色    | ロームブロック微量        |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量             | 13 褐色     | ロームブロック中量,炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色    | ローム粒子中量          |
| 6 褐色  | ロームブロック少量,焼土粒子微量    | 15 黒褐色    | ローム粒子少量,焼土粒子微量   |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量,炭化粒子微量      | 16 黒褐色    | ロームブロック微量        |
| 8 暗褐色 | ローム粒子微量             | 17 褐灰色    | ロームブロック微量        |
| 9 黒褐色 | ロームブロック中量           | 18 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量        |

**遺物出土状況** 陶器片1点(甕),鉄滓1点が出土しているほか,土師器片150点,須恵器片9点流れ込んでいる。いずれも覆土中から細片で出土しており,廃絶後に廃棄されたものである。

**所見** 時期は,重複している第96号堀跡の年代観から15世紀後半以降と考えられる。

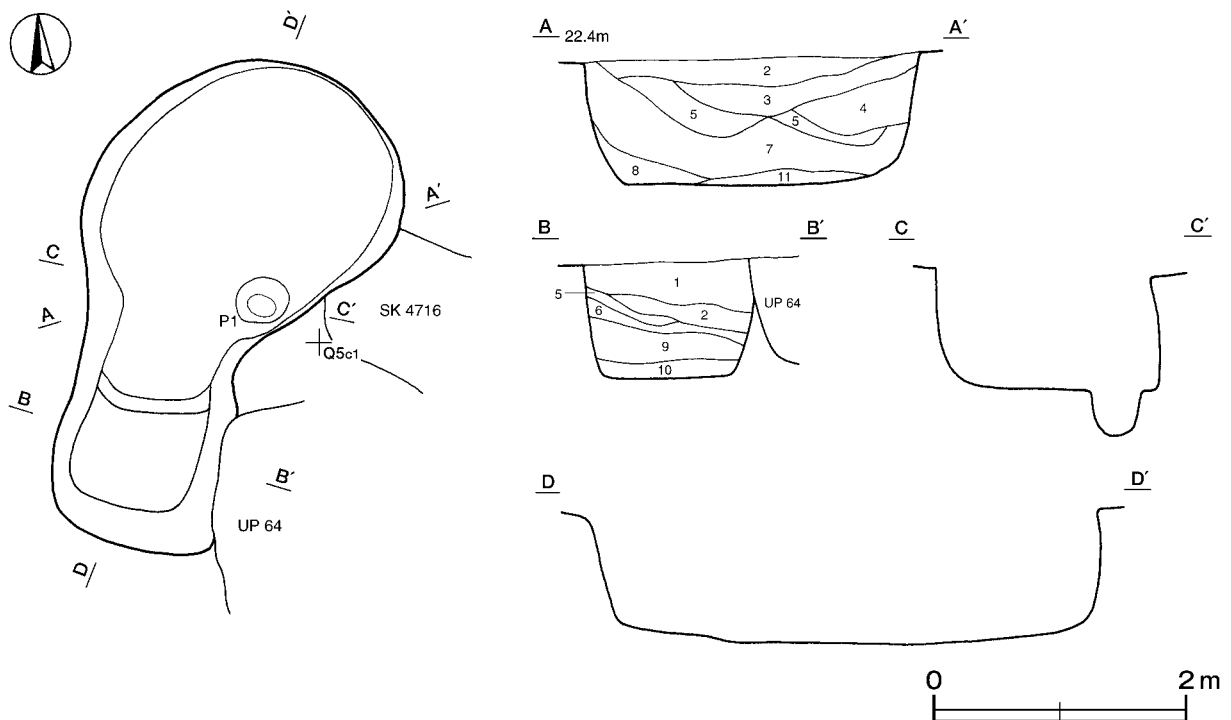
**第63号地下式塙(第642図)**

**位置** 調査区北部のQ4c0区,標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第4716号土坑を掘り込み,第64号地下式塙に掘り込まれている。

**竪坑** 主室の南西壁に位置し,長軸1.83m,短軸1.32mの長方形である。壁高は92cmで,壁はほぼ直立している。また,底面は平坦で,主室とは高低差12cmの段が形成されている。

**主室** 長径2.82m,短径2.30mの楕円形で,主軸方向はN-18°-Eである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がっており,確認面からの深さは104cmで,底面は平坦である。また,南壁際からピット1か所が確認されており,深さは34cmで,天井部の崩落を防いだ支柱穴と考えられる。



**第642図** 第63号地下式塙実測図

**覆土** 11層に分けられる。第4・7層は天井部の崩落土層に相当している。その間層及び下層は、天井部や壁部から崩落したロームブロックと流入した黒色土ブロックがみられる自然堆積である。第1～3層は含有物を含む人為堆積である。

**土層解説**

- |          |                        |           |                      |
|----------|------------------------|-----------|----------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 明褐色     | ロームブロック多量            |
| 2 黒褐色    | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色  | ロームブロック多量, 黒色土ブロック微量 |
| 3 褐色     | ロームブロック中量              | 9 暗褐色     | ロームブロック中量, 黒色土ブロック中量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量              | 10 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量, 黒色土ブロック少量 |
| 5 灰黄褐色   | ロームブロック中量, 黒色土ブロック少量   | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量            |
| 6 にぶい褐色  | ロームブロック多量              |           |                      |

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(内耳鍋)が覆土中から出土している。いずれも細片で、廃絶後に廃棄されたものである。

**所見** 時期は、出土遺物や遺構の形状から中世後半と考えられる。

**第64号地下式墳(第643図)**

**位置** 調査区北部のQ5c1区、標高22.5mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第63号地下式墳、第96号掘跡、第4716号土坑を掘り込んでいる。

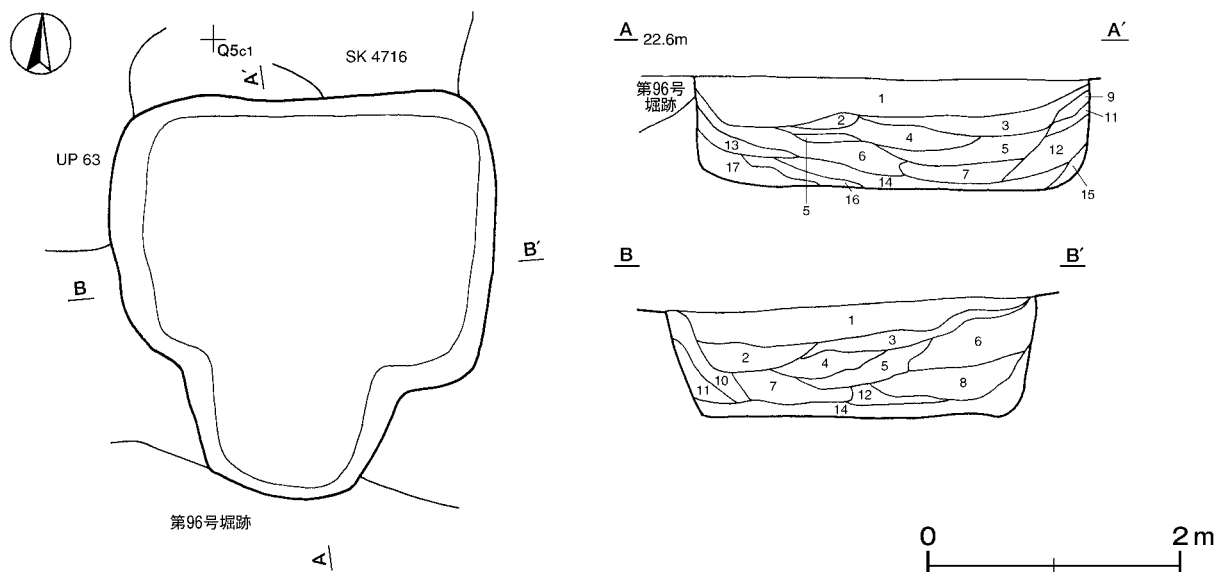
**竪坑** 主室南壁の中央部に位置し、長軸1.66m、短軸0.92mの長方形である。壁高は86cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

**主室** 長軸3.04m、短軸2.32mの長方形で、主軸方向はN-2°-Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは92cmである。底面は平坦である。

**覆土** 17層に分けられる。第7・8層は天井部の崩落土層に相当し、それより下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積である。上層はロームブロックが混在した人為堆積である。

**土層解説**

- |          |                      |           |                     |
|----------|----------------------|-----------|---------------------|
| 1 黒褐色    | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰黄褐色   | ロームブロック少量           |
| 2 暗褐色    | ローム粒子中量              | 11 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量             |
| 3 黒褐色    | ロームブロック少量            | 12 オリーブ褐色 | ローム粒子中量             |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量            | 13 黒褐色    | ローム粒子少量             |
| 5 暗褐色    | ロームブロック少量            | 14 灰黄褐色   | ロームブロック中量, 焼土粒子微量   |
| 6 黄褐色    | ローム粒子多量              | 15 暗灰黄色   | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 7 オリーブ褐色 | ロームブロック中量            | 16 オリーブ褐色 | ロームブロック多量           |
| 8 黄褐色    | ロームブロック中量            | 17 黒色     | ロームブロック少量           |
| 9 オリーブ褐色 | ローム粒子多量              |           |                     |



**第643図** 第64号地下式墳実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片7点(内耳鍋)が覆土中から出土しているほか、土師器片2点(甕)が混入している。いずれも細片で、廃絶後に廃棄されたものである。

**所見** 時期は、重複している第96号堀跡の年代観から15世紀後葉以降と考えられる。

### 第65号地下式墳(第644図)

**位置** 調査区南西部のS4d4区、標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**竪坑** 主室西壁の中央部やや南寄りに位置し、長軸1.44m、短軸1.06mの長方形である。壁高は124cmで、壁は直立している。また、底面の主室側には長軸99cm、短軸52cmの長方形で、深さ32cmの掘り込みがあり、出入口に伴う施設と考えられるが構造は不明である。

**主室** 長軸2.12m、短軸1.38mの長方形で、主軸方向はN-82°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは130cmである。底面は平坦である。

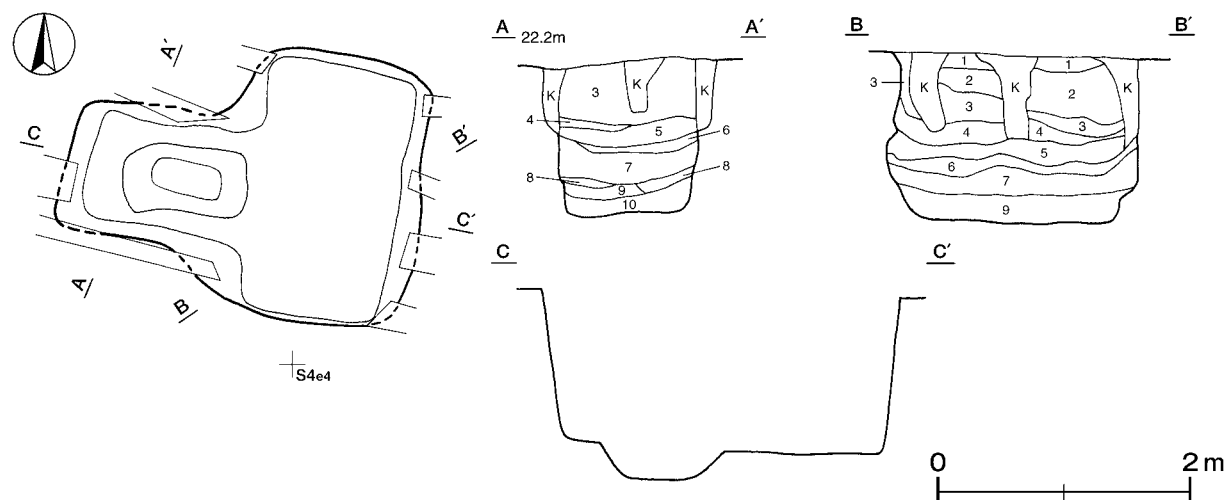
**覆土** 10層に分けられる。各層はブロック状あるいは粒状のロームを含む人為堆積で、近似した土層で互層状に埋め戻されている。天井部の崩落土層は明確でない。

#### 土層解説

- |          |                              |          |           |
|----------|------------------------------|----------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色    | ローム粒子少量   |
| 2 灰黄色    | 粘土ブロック多量                     | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量                    | 8 褐灰色    | ローム粒子少量   |
| 4 黒褐色    | ロームブロック少量                    | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 褐色     | ロームブロック中量                    | 10 褐灰色   | ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 土師器片20点, 鉄製品1点(不明)が出土しており, 埋め戻した際に混入したものと考えられる。

**所見** 近接する第66号地下式墳と規模や形状, 主軸方向が類似していることから, 同時期に機能していた可能性が考えられる。時期は, 遺構の形状から中世後半と考えられる。



第644図 第65号地下式墳実測図

### 第66号地下式墳(第645図)

**位置** 調査区南西部のS4c4区、標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第5380号土坑を掘り込んでいる。

**竪坑** 主室西壁の中央部に位置し、長軸1.16m、短軸1.04mの方形である。壁高は118cmで、壁はほぼ直立し

ている。底面は長径82cm，短径67cmの楕円形で，深さ18cmの掘り込みがあり，出入口に伴う施設と考えられるが構造は不明である。

**主室** 長軸2.74m，短軸1.80mの長方形で，主軸方向はN - 78° - Wである。天井部は遺存していない。南・北壁はほぼ直立し，確認面からの深さは100cmで，底面は平坦である。また，東壁側には，壁外へ80cm，壁高32cmの段が形成されているが，本跡を埋め戻す際に採土した痕跡と考えられる。

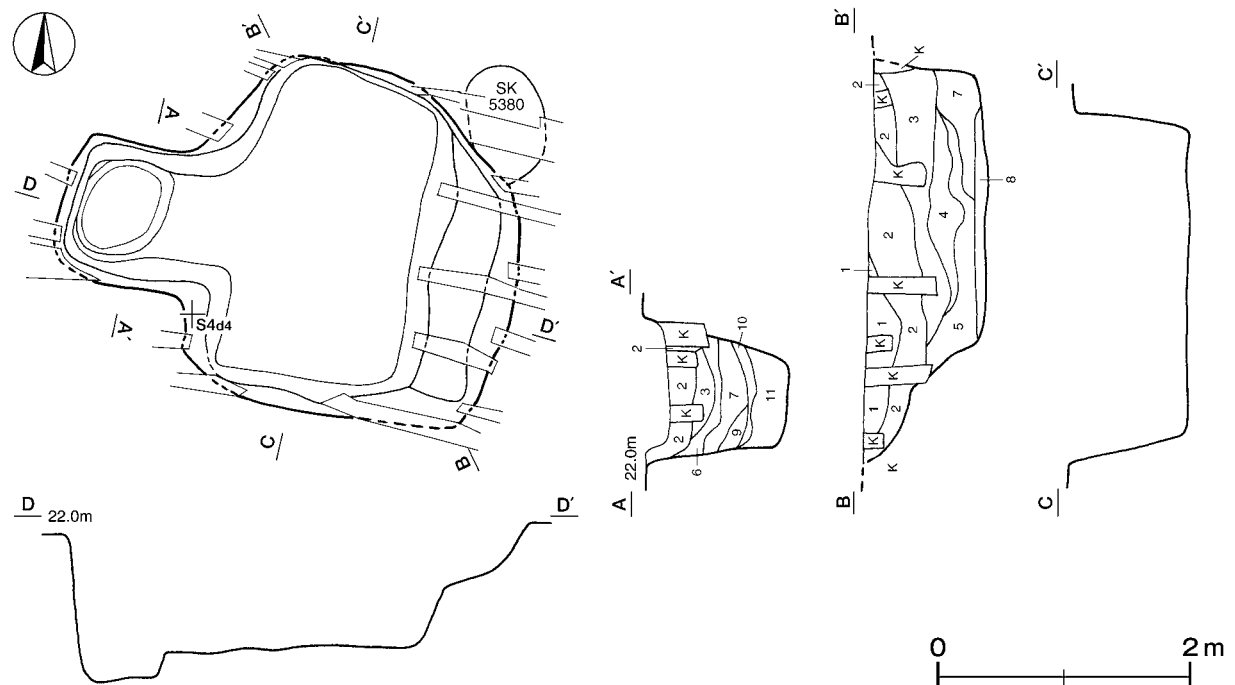
**覆土** 11層に分けられる。第7層は天井部の崩落土層に相当しており，それより下層は竪坑側から流入した堆積状況を示した自然堆積層である。上層はロームブロックを多量に含む人為堆積である。堆積状況は，東側を拡幅してロームブロックを主体とした第3～6層を充填し，その後周囲から第1・2層で埋め戻したと考えられる。

**土層解説**

- |          |                       |         |           |
|----------|-----------------------|---------|-----------|
| 1 灰黄褐色   | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 明褐色   | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 暗褐色   | ロームブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量             | 9 にぶい褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量             | 10 黒褐色  | ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色    | ロームブロック少量             | 11 黒褐色  | ロームブロック中量 |
| 6 灰黄褐色   | ロームブロック中量             |         |           |

**遺物出土状況** 土師質土器片21点（小皿4，内耳鍋12，播鉢5），石器1点（石臼）が出土しているほか，土師器片41点，須恵器片5点が流れ込んでいる。いずれも覆土上層から細片で出土しており，廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 近接する第65号地下式塙と規模や形状，主軸方向が類似していることから，同時期に機能していた可能性がある。時期は，出土遺物や遺構の形状から中世後半と考えられる。



第645図 第66号地下式塙実測図

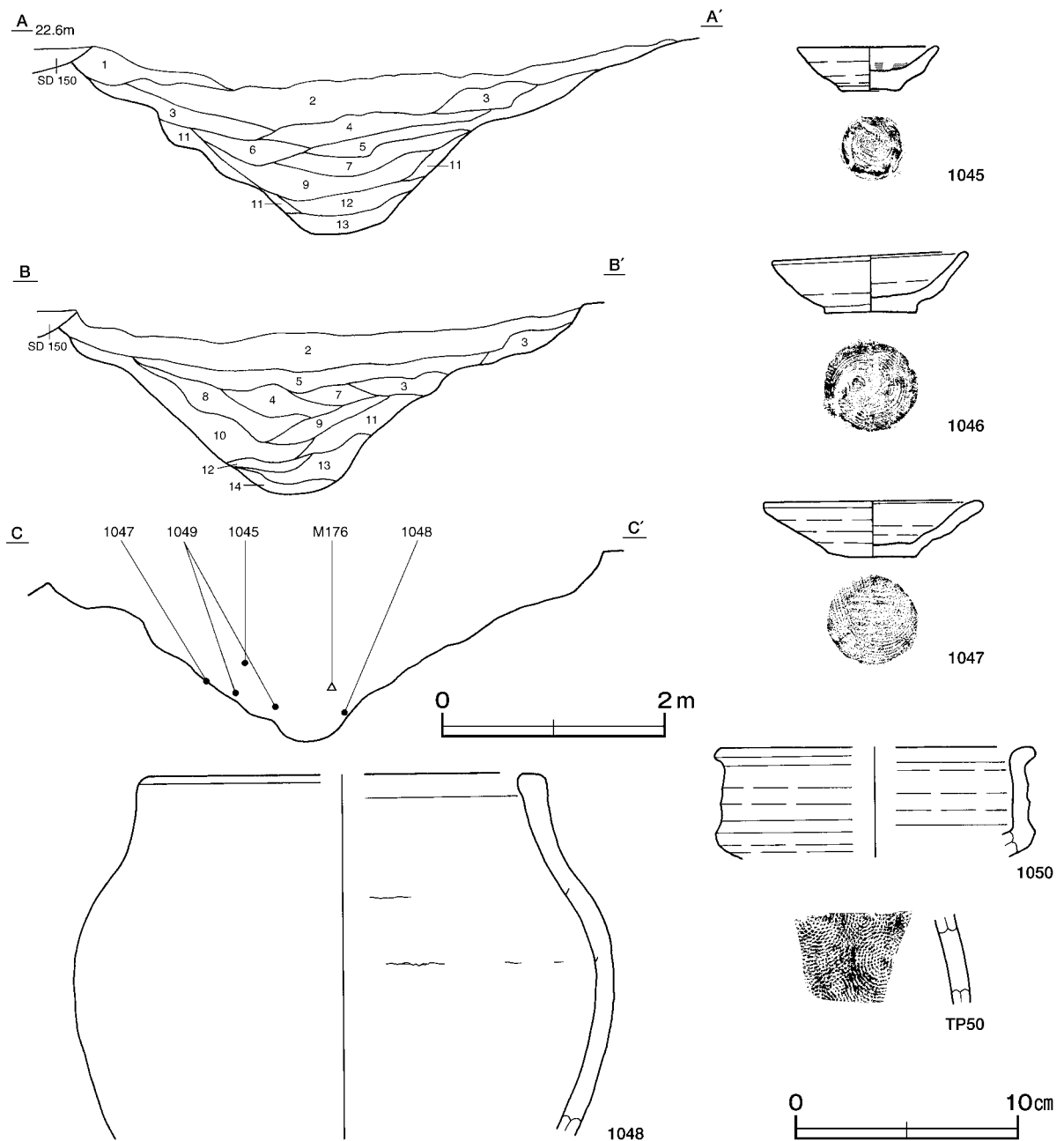
(4) 堀跡

当調査区からは12条の堀跡を確認した。そのうち第93号堀跡と第103号堀跡は当調査区の南部で合流しており、さらに北部、西部の調査区域外に延びている。以下、遺構の特徴について記述するが、ここでは土層断面図と出土遺物を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。

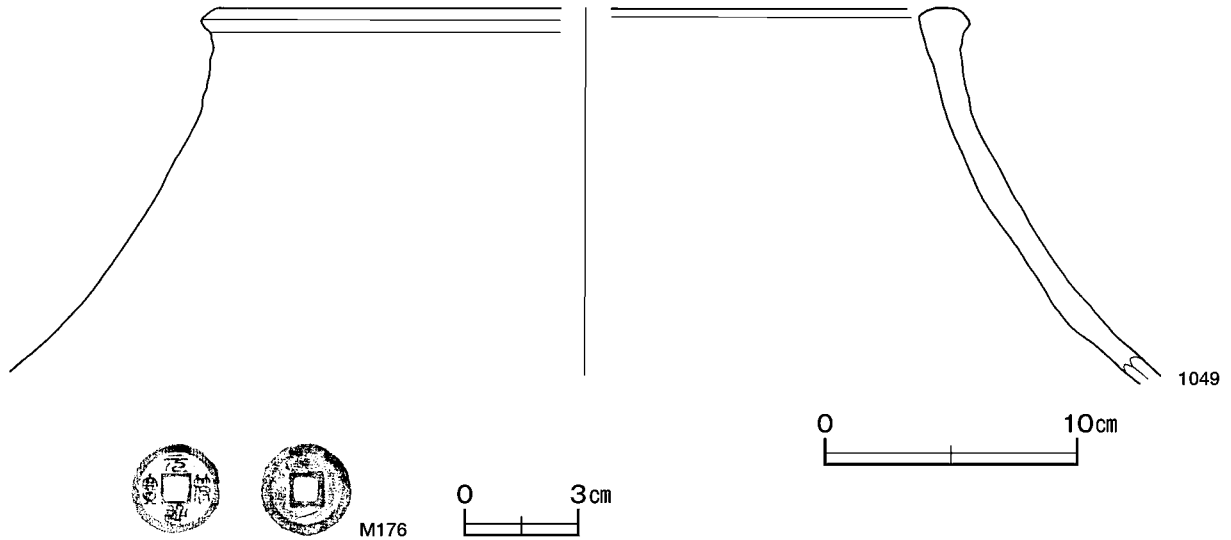
**第92号堀跡 (第646・647図)**

**位置** 調査区北東部から東部のQ 6 g7 ~ S 6 a4 区, 標高21.5~22.5mの平坦な台地上から斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第4494号土坑を掘り込み, 第150号溝に掘り込まれている。



第646図 第92号堀跡・出土遺物実測図



第647図 第92号堀跡出土遺物実測図

**規模と構造** 北部と南部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは51.0mである。Q 6 g 7 区から南方向 ( S - 6 ° - W ) に直線的に延び、規模は上幅430～540cm、下幅42～92cm、深さ183～223cmである。断面は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。両壁面の中段には長径10cm以上のピットが並び、土留めのための杭が打たれ、また、上段には長径10cm以下のピットが並び、柵列状に杭が並んでいたと推測される。

**覆土** 14層に分けられる。下層(第11層～14層)は締まりが弱くレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり、上層はロームブロックを含み東・西両側から投げ込まれたような堆積状況を示した人為堆積である。第13層は締まりが強く硬化していることから、堀浚いが行われた際何度も踏み締められたと考えられる。

**土層解説**

- |       |                       |         |                          |
|-------|-----------------------|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量     | 8 暗褐色   | ロームブロック中量 粘土ブロック少量 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 9 黒褐色   | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量   | 10 極暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量     | 11 暗褐色  | ロームブロック・粘土粒子少量           |
| 5 褐色  | ロームブロック中量             | 12 暗褐色  | 粘土粒子中量, ロームブロック少量        |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量     | 13 褐色   | 粘土粒子中量, ローム粒子少量          |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量             | 14 黒褐色  | 粘土粒子中量                   |

**遺物出土状況** 土師質土器片396点(小皿46, 内耳鍋289, 播鉢39, 甕22), 陶磁器片13点(常滑系10, 碗2, 皿1), 青磁片1点(皿), 瓦片1点, 土製品2点(支脚), 石器・石製品17点(石臼4, 茶臼1, 砥石11, 硯1), 石塔2点(五輪塔), 鉄製品4点(釘)のほか、古銭1点が散在して出土している。また混入した土師器片932点, 須恵器片224点も出土している。1047は南部, 1048は北部, 1049・M176中央部の覆土下層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。1045は南部の覆土中層, 1050は北部, 1046・TP50は南部の覆土中からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 東側には現代の道路がほぼ並行して延びていることから、区画的な機能を有していたと想定される。また、北部と南部の底面の高低差がほとんど無いことや柵列状にピットが並んでいることから、防御施設としての機能も有していたと想定される。時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

第92号堀跡出土遺物観察表(第646・647図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1045	土師質土器	小皿	6.3	2.0	2.6	雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	中層	70% 油煙付着
1046	土師質土器	小皿	8.8	2.8	4.2	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	85% PL133

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1047	土師質土器	小皿	9.6	2.5	4.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	下層	95% PL133
1048	土師質土器	甕	[17.6]	(16.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ 口辺部内面ヘラナデ 外面ナデ 体部外面ナデ 内面輪積み痕残しのナデ	下層	30%
1049	土師質土器	甕	[29.0]	(14.8)	-	長石・石英・赤色粒子・礫	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ 体部内・外面ナデ	下層	10%
1050	陶器	香炉	[14.0]	(5.0)	-	精良・鉄釉	淡黄	良好	ロクロ成形 体部外面鉄釉 内面・体部下端露胎	覆土中	5%
TP50	須恵器	甕	-	(4.1)	-	長石	褐灰	良好	体部片 外面同心円状の叩き目	覆土中	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M176	古銭	2.5	0.62	0.12	2.1	銅	元符通寶 初鑄1098年 北宋銭 無背銭	下層	PL148

### 第93号堀跡 (第648図)

**位置** 調査区北部から南部のQ 5 e4 ~ S 4 f8 区, 標高22.0~22.5mの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2599・2607・2614・2616・2621・2628・2629・2633・2643・2650・2655~2657・2659号住居跡, 第484号掘立柱建物跡, 第94・96・102号堀跡, 第4223・4484・4488・4499・4510・4528号土坑を掘り込み, 第154号溝に掘り込まれている。

**規模と構造** 北部が調査区域外に延びているため, 確認できた長さは91.3mである。Q 5 e4 区から南方向(S - 17° - W)に直線的に延び, S 4 f7 区で西方向(W - 2° - S)に屈曲し, 土橋状に地山掘り残し部を挟んで第103号堀に至っている。規模は上幅172~425cm, 下幅10~40cm, 深さ100~152cmである。断面は東壁が急な葉研状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

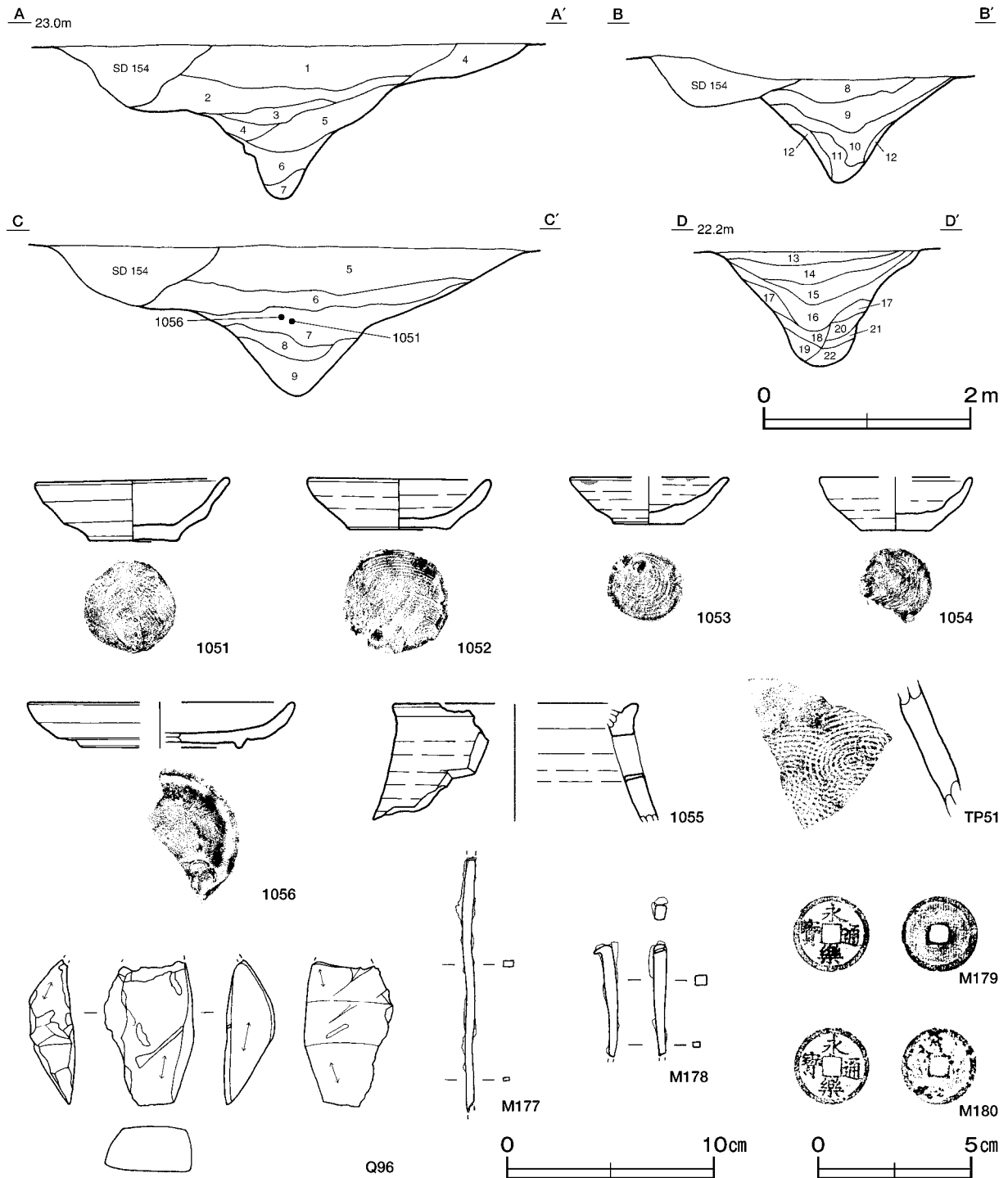
**覆土** 22層に分けられる。下層(第5~7・10~12・16~22層)は締まりが弱くレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であるが, 上層はロームブロックを含み, 締まりの強い堆積状況を示した人為堆積である。第13~17層は新たに掘り直された後の覆土で, 第20~22層がそれ以前の覆土である。

#### 土層解説

1 灰 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐 色	ローム粒子中量
2 暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	15 灰黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	16 黒 褐 色	ロームブロック少量
6 灰 褐 色	ローム粒子少量, 炭化物微量	17 にぶい黄褐色	ローム粒子少量
7 黒 褐 色	ローム粒子微量	18 暗 褐 色	ロームブロック中量
8 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	19 暗 褐 色	ロームブロック少量
9 暗 褐 色	ローム粒子微量	20 褐 色	ロームブロック中量
10 褐 色	ローム粒子少量	21 黒 褐 色	ロームブロック微量
11 褐 色	ロームブロック少量	22 灰黄褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師質土器片103点(小皿46, 内耳鍋41, 挿鉢16), 陶器片6点(常滑系甕1, 瀬戸・美濃系天目茶碗1, 瀬戸・美濃系皿1, 瀬戸・美濃系挿鉢1, 志野系皿2), 青磁片3点(皿), 磁器片5点(碗), 土製品5点(支脚), 石器・石製品4点(砥石2, 硯2), 鉄製品4点(鏃3, 釘1)のほか, 古銭2点が出土している。また, 混入した土師器片921点, 須恵器片221点も出土している。1051・1056は中央部の覆土中層からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。Q96は中央部南寄りの覆土上層から出土し, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。1052~1054・M179・M180は中央部, 1055・TP51・M177・M178は南部の覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 調査以前の農道と位置がほぼ一致することから区画的な機能を有していたと想定できる。西側に屈曲した部分には土橋状に地山を掘り残し, 幅は狭いもののピットが確認できることから橋の基部と考えられる。また, 第103号堀と同規模に上幅が広がることから, 同一の堀と想定される。時期は, 出土土器から16世紀後半と考えられる。



第648図 第93号堀跡・出土遺物実測図

第93号堀跡出土遺物観察表 (第648図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1051	土師質土器	小皿	9.2	3.1	4.3	長石・石英	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	80% PL133
1052	土師質土器	小皿	8.7	2.5	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	75%
1053	土師質土器	小皿	[7.6]	2.3	3.4	長石・石英	にぶい橘	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	60% 油煙付着
1054	土師質土器	小皿	[7.4]	2.6	[3.4]	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	50%
1055	須恵器	円面碗	[11.8]	(5.6)	-	長石・雲母	黄灰	普通	ロクロナ成 透かし孔有り	覆土中	10%
1056	陶器	皿	[12.8]	2.2	[7.8]	精良・長石釉	灰白	良好	ロクロナ成 体部内・外面長石釉 底部無釉 釉溜まり痕	中層	45% 瀬戸・美濃系



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP51	須恵器	甕	-	(6.7)	-	長石・石英	灰白	良好	体部片 外面同心円状の叩き目	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q96	砥石	(7.1)	4.3	2.2	(76.6)	凝灰岩	砥面5面 他は破断面	上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M177	鏃	(12.3)	0.5	0.3	(13.5)	鉄	鏃身部欠損 茎部一部欠損 断面長方形	覆土中	
M178	釘	(5.4)	0.6	0.5	(9.6)	鉄	先端部一部欠損 断面長方形	覆土中	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M179	古銭	2.5	0.63	0.13	3.0	銅	永楽通寶 初鑄1408年 明銭 無背銭	覆土中	PL148
M180	古銭	2.5	0.63	0.15	3.5	銅	永楽通寶 初鑄1408年 明銭 無背銭	覆土中	PL148

### 第94号堀跡 (第649図)

**位置** 調査区南部のS 4 f 8 ~ T 4 e 6 区, 標高20.5~22.0mの斜面上段から下段に位置している。

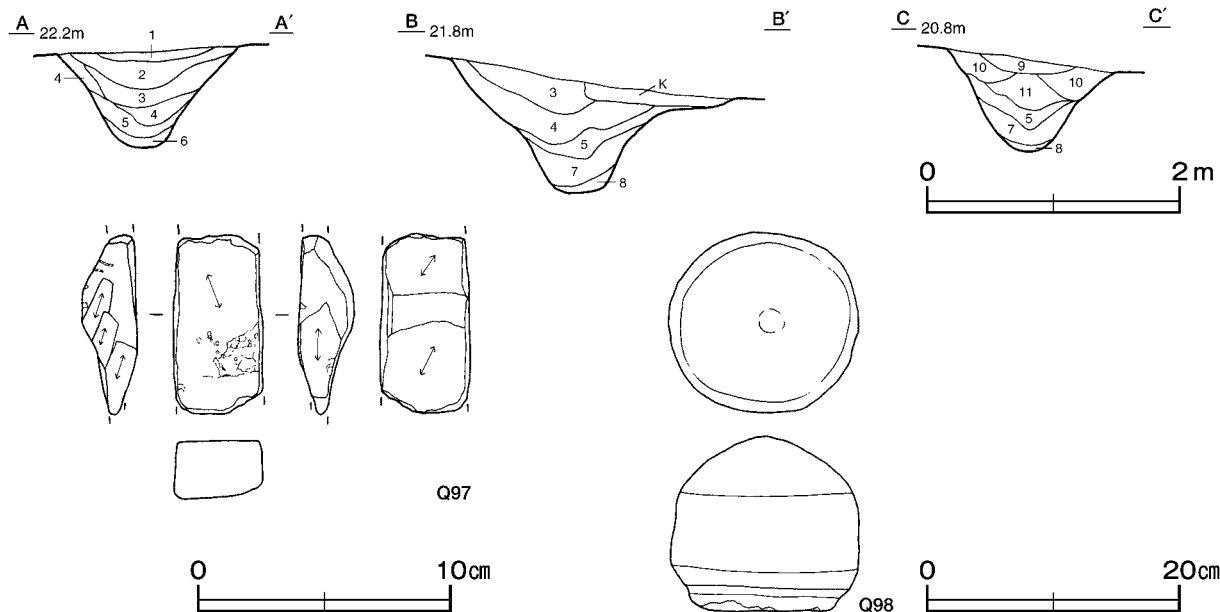
**重複関係** 第2602号住居跡, 第16・17・18号道路跡, 第5563号土坑を掘り込み, 第93・102号堀に掘り込まれている。

**規模と構造** 南部が調査区域外に延びているため, 確認できた長さは33.9mである。S 4 f 8 区から南方向(S - 17° - W) に直線的に延び, 規模は上幅78~264cm, 下幅20~68cm, 深さ74~95cmである。断面はU字状で, 壁は外傾して立ち上がっている。途中T 4 a 7 区で土橋状の地山の掘り残しが確認され, 橋の基部と考えられる。

**覆土** 11層に分けられる。下層(第5~8層)は締まりが弱くレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であるが, 上層はロームや白色粘土のブロックを含み, 特に南部では不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- |          |                     |          |                                    |
|----------|---------------------|----------|------------------------------------|
| 1 黒褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 にぶい黄褐色 | ローム粒子多量                            |
| 2 黒褐色    | 焼土粒子少量, 炭化材・ローム粒子微量 | 8 灰黄褐色   | ロームブロック中量                          |
| 3 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子少量      | 9 暗褐色    | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量             |
| 4 暗褐色    | ロームブロック少量           | 10 黒褐色   | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量             |
| 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量           | 11 灰褐色   | 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐灰色    | ロームブロック・炭化粒子微量      |          |                                    |



第649図 第94号堀跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片59点(小皿23,内耳鍋33,播鉢3),陶器片2点(瀬戸・美濃系天目茶碗,瀬戸・美濃系皿),石器・石製品13点(石臼12,砥石1),石塔2点(五輪塔)のほか,混入した土師器片201点,須恵器片42点も出土している。Q97・Q98は北部の覆土中から出土し,廃絶後に投棄されたものと考えられる。

**所見** 調査以前の農道と位置がほぼ一致することから区画的な機能を有していたと想定できる。第93号堀と比べると規模が小さく,浅いことから別の堀と考えられる。時期は,中世後半で第93号堀と同時期もしくは古くなると推定される。

第94号堀跡出土遺物観察表(第649図)

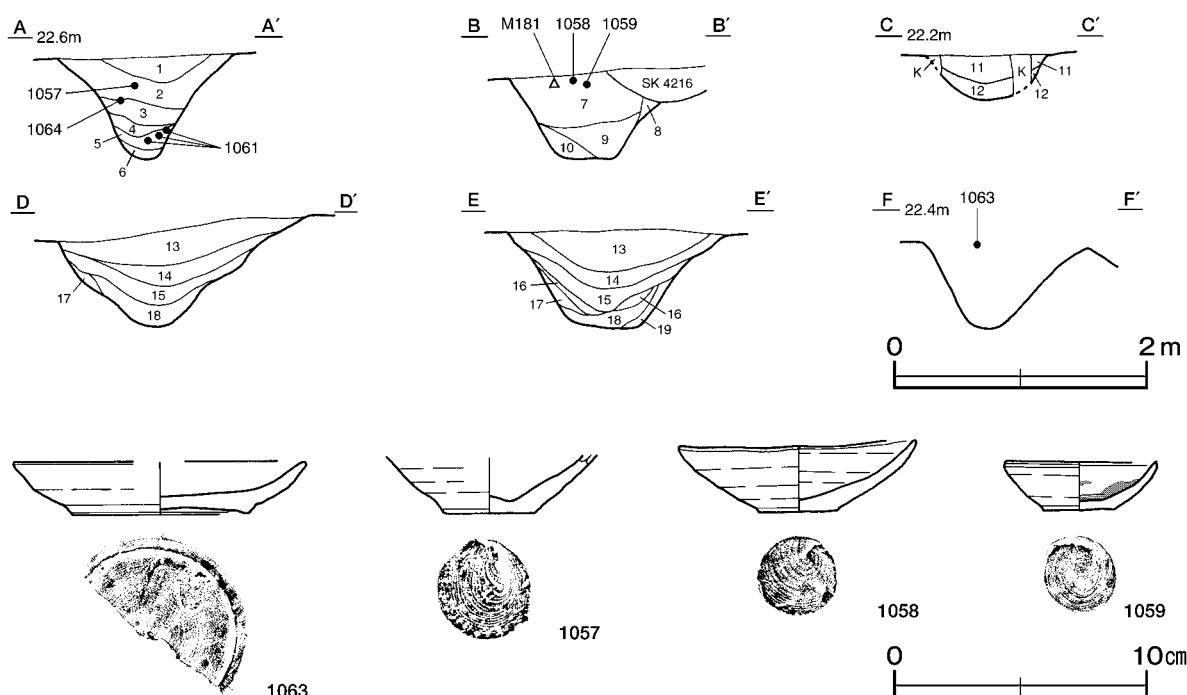
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q97	砥石	(7.1)	3.6	2.3	(66.4)	凝灰岩	砥面5面 他は破断面	覆土中	
Q98	五輪塔	14.1	15.0	14.0	4080	花崗岩	空輪 上部一部欠損	覆土中	

第95号堀跡(第650図)

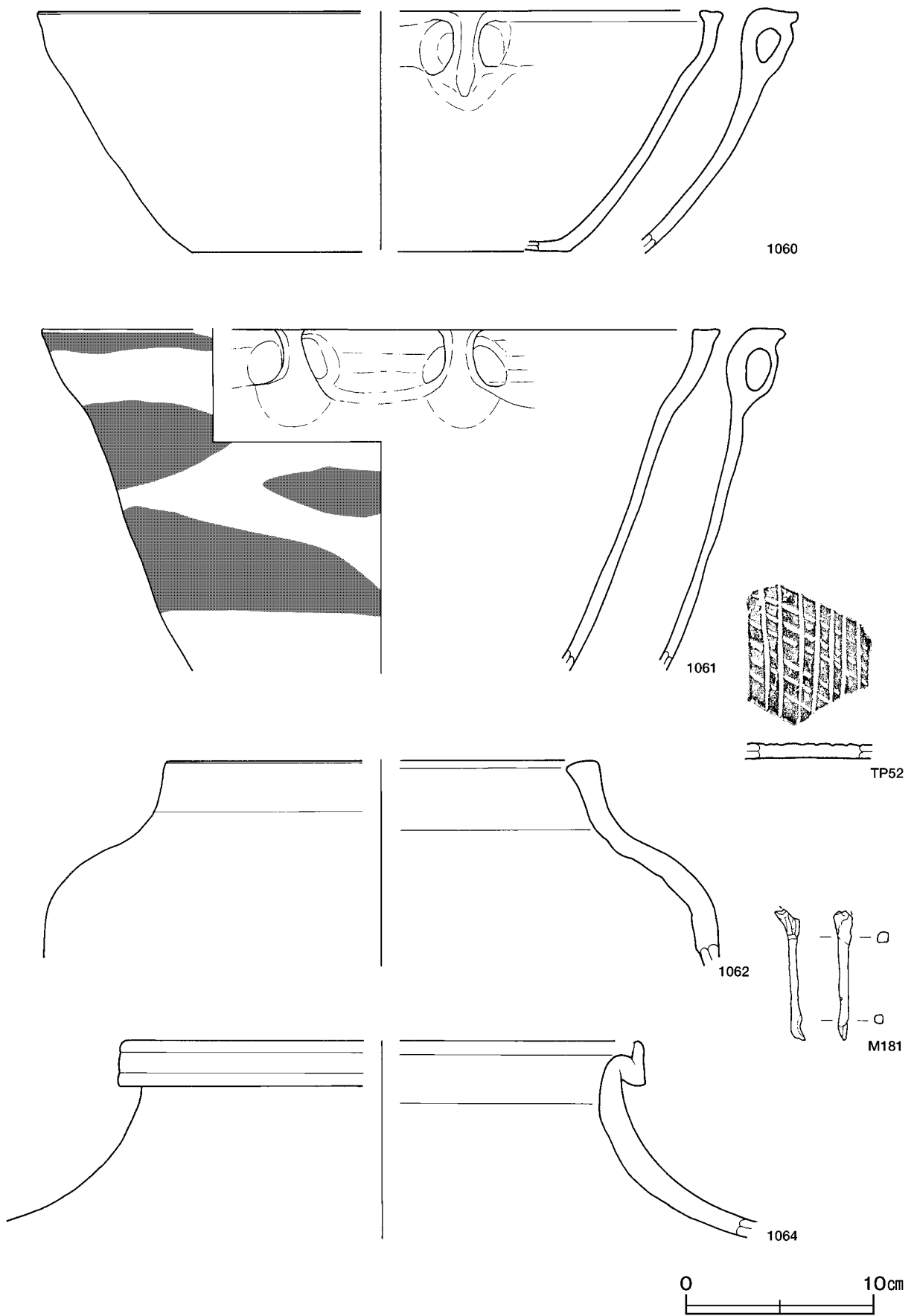
**位置** 調査区北部から南西部のP5i2～S4h4区,標高22.0～22.5mの平坦な台地上から斜面部中段に位置している。

**重複関係** 第2612・2707号住居跡,第96号堀跡,第157号溝跡,第5292・5293号土坑を掘り込み,第54号地下式塙,第103号堀,第76・77号井戸,第4208・4216・4258・4263・4264・4317・4318・4320・4321・4323・4324・4327・4330・4416号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 北部が調査区域外に延びているため,確認できた長さは118.9mである。P5i2区から南方向(S-18°-W)に直線的に延び,規模は上幅60～254cm,下幅14～60cm,深さ32～86cmである。断面はU字状で,壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。



第650図 第95号堀跡・出土遺物実測図



第651图 第95号掘跡出土遺物実測図

覆土 19層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック多量	11	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量	13	にぶい黄褐色	ロームブロック少量
4	灰黄褐色	ロームブロック中量	14	灰黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	暗オリーブ褐色	ロームブロック微量	15	暗褐色	ロームブロック中量
6	灰褐色	ロームブロック少量	17	褐灰色	ロームブロック・炭化粒子少量 焼土ブロック微量
7	暗褐色	ロームブロック微量	17	にぶい黄褐色	ロームブロック中量
8	褐色	ローム粒子中量	18	黒褐色	ロームブロック微量
9	褐色	ロームブロック少量	19	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
10	褐色	ローム粒子少量			

遺物出土状況 土師質土器片534点（小皿42，内耳鍋466，擂鉢24，甕2），陶器片6点（常滑系甕2，瀬戸・美濃系碗2，瀬戸・美濃系皿1，志野系皿1），磁器片5点，土製品7点（球状土錘1，支脚5，羽口1），石器13点（石臼8，砥石5），鉄製品1点（釘）のほか，鉄滓5点が北部の上層を中心に出土している。また，混入した土師器片557点，須恵器片136点も出土している。1057～1059・1063・M181は北部の覆土上層，1064は北部の覆土中層，1061は北部の覆土下層から出土し，廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。1062は中央部の覆土上層から中層，TP52は中央部，1060は南部の覆土中からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 第155号溝とほぼ平行して延びていることから，同時期に機能していたものと考えられ，調査区北側に位置する妙徳寺の正面から直線的に延びており，参道の側溝として機能していた可能性がある。時期は，出土土器や陶器から16世紀前半と考えられる。

第95号堀跡出土遺物観察表（第650・651図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1057	土師質土器	小皿	-	(2.3)	3.7	長石・雲母・赤色粒子	灰黄	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	上層	50%
1058	土師質土器	小皿	9.3	2.9	3.1	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	上層	100% PL133
1059	土師質土器	小皿	5.9	2.0	2.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	上層	95% 油煙付着 PL133
1060	土師質土器	内耳鍋	[34.2]	12.9	[20.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	覆土中	10%
1061	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(18.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ	下層	30% 体部外面煤付着
1062	土師質土器	甕	[22.8]	(11.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面ナデ 体部外面ナデ	上・中層	10% 体部内面剥離が激しい
1063	陶器	皿	[11.6]	2.1	7.0	精良・長石釉	灰白	良好	ロクロ成形 体部内・外面長石釉 底部外面無釉 トチン痕	上層	30% 瀬戸・美濃系
1064	陶器	甕	[27.6]	(10.5)	-	精良	にぶい褐	良好	口辺部横ナデ 体部内・外面ヘラナデ	中層	10% 常滑系
TP52	土師質土器	擂鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	底部片	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M181	釘	(7.0)	(1.1)	0.6	(7.8)	鉄	頭部一部欠損 先端部屈曲 断面長方形	上層	

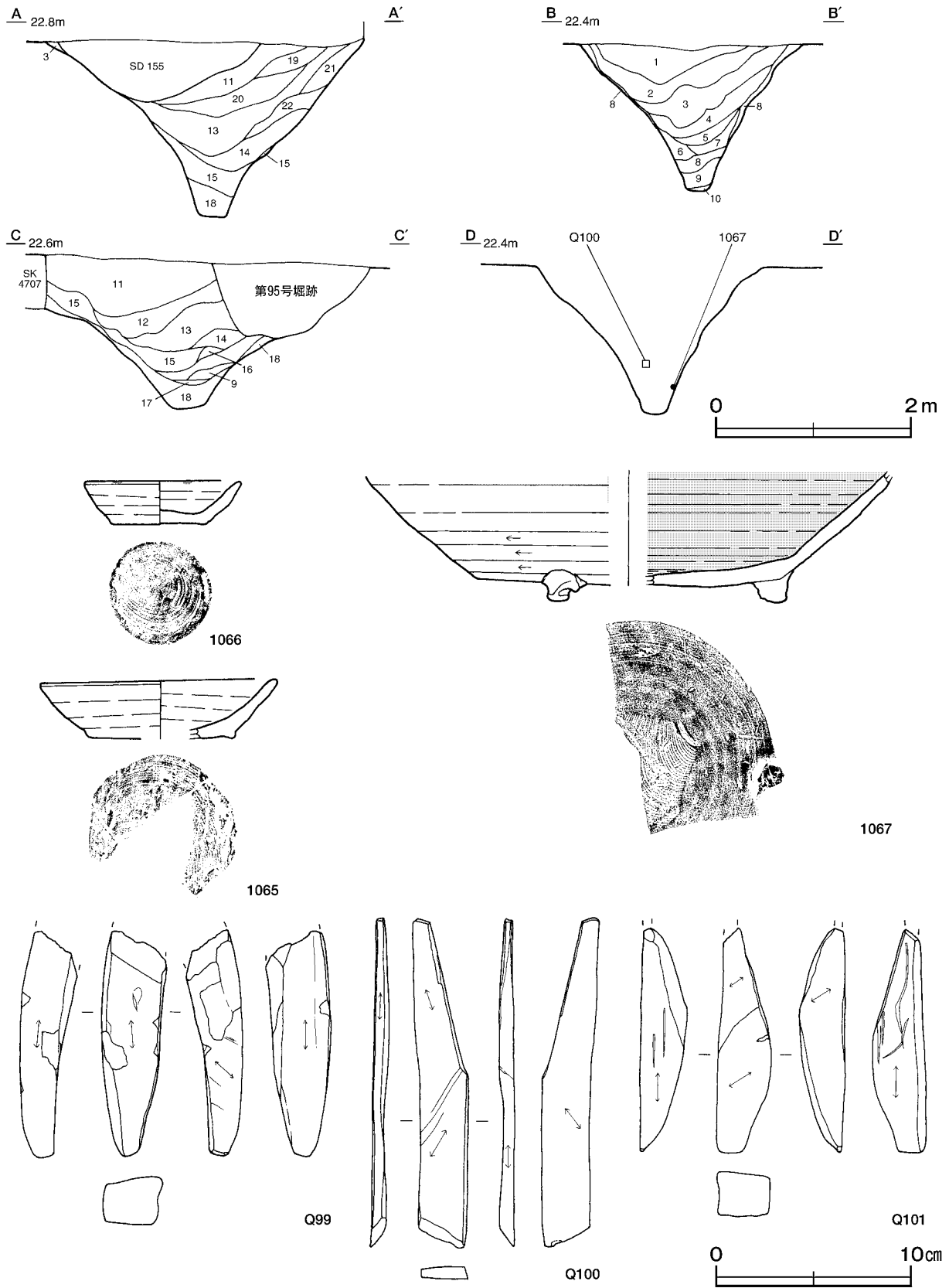
第96号堀跡（第652図）

位置 調査区北部のP4i0～Q5d5区，標高22.0～22.5mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第79号方形竪穴遺構，第62・64号地下式塙，第93・95号堀，第154・155号溝，第4707・4720・4727号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 北部と東部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは43.1mである。Q5d5区から西方向（W-8°-N）に直線的に延び，Q4d0区で直角に曲がって北方向（N-6°-E）に直線的に延びている。規模は上幅198～324cm，下幅14～36cm，深さ135～176cmである。断面は薬研状で，壁は緩やかに外傾し

て立ち上がっている。Q 4 d0 区のコーナー部の底面が最も低くなっている。



第652図 第96号掘跡・出土遺物実測図

**覆土** 22層に分けられる。下層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であるが、上層はロームや粘土のブロックを含み不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |          |                                 |           |                     |
|----------|---------------------------------|-----------|---------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量                       | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量, 粘土ブロック少量 |
| 2 暗オリブ褐色 | 粘土ブロック中量                        | 13 黒褐色    | ロームブロック中量, 粘土粒子少量   |
| 3 黒色     | 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 黒色     | ロームブロック微量           |
| 4 黒褐色    | 粘土ブロック少量, ローム粒子微量               | 15 黒褐色    | ロームブロック少量           |
| 5 灰黄褐色   | ロームブロック中量                       | 16 黒褐色    | ローム粒子少量, 焼土粒子微量     |
| 6 オリブ褐色  | ロームブロック中量                       | 17 黒褐色    | ロームブロック微量           |
| 7 褐灰色    | ロームブロック少量                       | 18 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量             |
| 8 暗褐色    | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量             | 19 褐色     | ロームブロック多量           |
| 9 黒褐色    | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量             | 20 暗褐色    | ロームブロック中量, 炭化物微量    |
| 10 黄灰色   | 砂粒少量                            | 21 褐灰色    | ロームブロック微量           |
| 11 黒褐色   | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量   | 22 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量           |

**遺物出土状況** 土師質土器片67点(皿4, 小皿38, 内耳鍋23, 播鉢1, 甕1), 陶器片17点(常滑系甕5, 皿4, 直縁大皿1, 播鉢3, 甕3, 瓶類1), 石器・石製品7点(磨石1, 石臼1, 砥石5), 石塔1点(五輪塔)のほか, 混入した土師器片494点, 須恵器片119点も出土している。1067・Q100は北部の覆土下層からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。1065・1066・Q101はコーナー部, Q99は北部の覆土中からそれぞれ出土し, いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 周辺に中世の遺構が確認され, それらを区画するように巡っていることから, 区画的な機能を有していたと想定される。また, 底面の深さはコーナー部が一番低く, 北部と東部の底面に高低差がほとんど無いことから, 防御施設としても機能していた可能性がある。調査区の北側には妙徳寺があり, 関連が考えられるが明らかではない。時期は, 出土土器や陶器と重複関係から15世紀後半と考えられる。

**第96号堀跡出土遺物観察表 (第652図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1065	土師質土器	皿	12.0	3.1	7.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	55% PL133
1066	土師質土器	小皿	7.9	2.3	4.8	雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	90% 油煙付着 PL133
1067	陶器	直縁大皿	-	(5.9)	[15.6]	長石・石英・黒色粒子・灰釉	灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り 底部回転系切り後回転ヘラ削り 高台貼り付け 外面上部・内面灰釉	下層	20% 古瀬戸

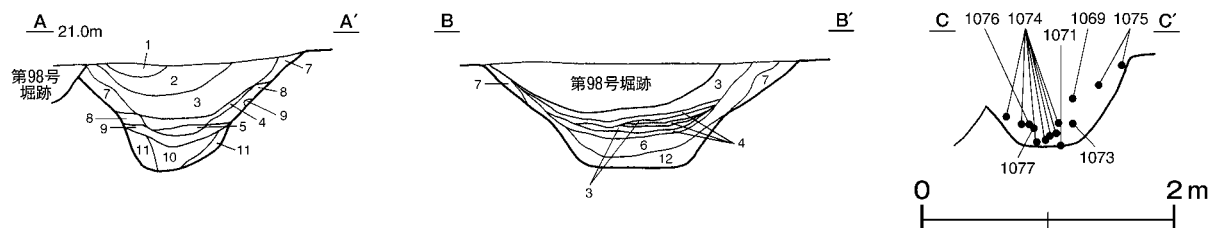
  

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q99	砥石	(11.7)	3.1	2.4	(123.0)	凝灰岩	砥面4面うち1面に条線状の研磨痕有り 他は破断面	覆土中	
Q100	砥石	16.9	2.8	0.6	53.4	泥岩	砥面5面 他は破断面	下層	PL142
Q101	砥石	(11.5)	2.8	2.3	(81.0)	凝灰岩	砥面5面うち2面に条線状の研磨痕有り 他は破断面	覆土中	PL142

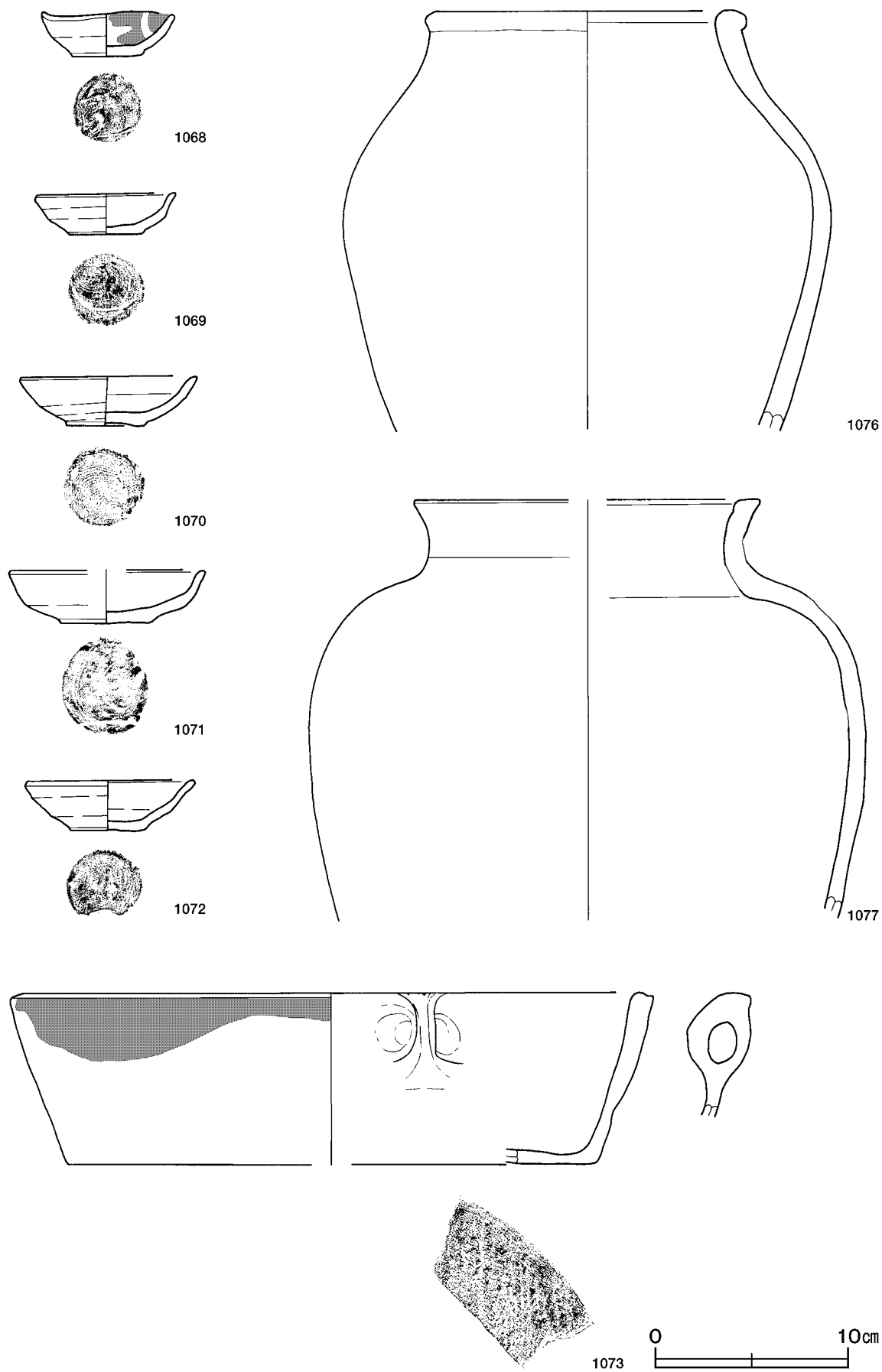
**第97号堀跡 (第653図)**

**位置** 調査区北西部のQ4c2 ~ R3a9区, 標高21.0mほどの斜面部中段に位置している。

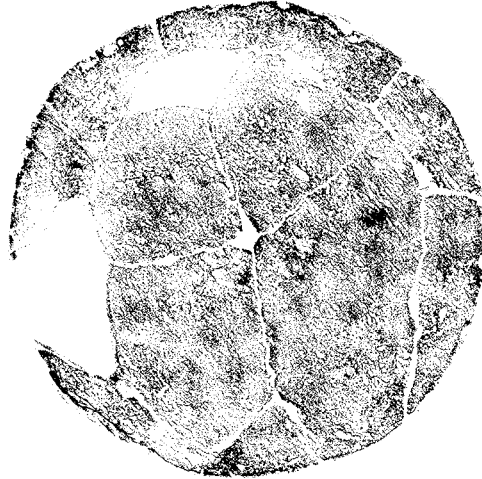
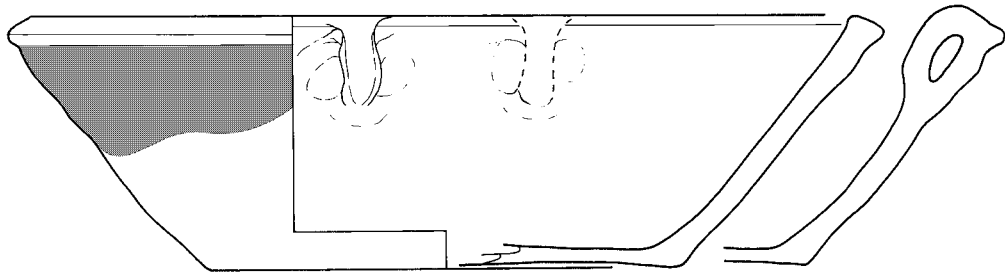
**重複関係** 第98・100号堀, 第158・165号溝に掘り込まれている。



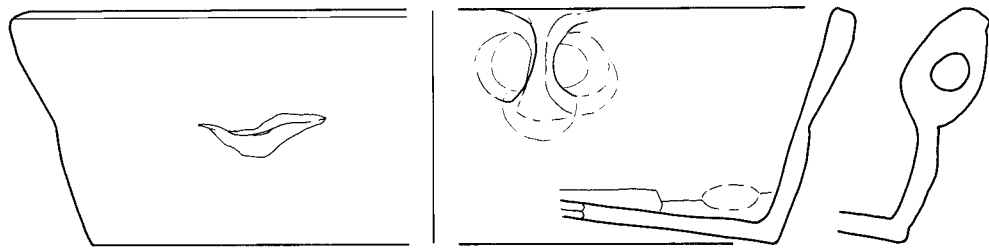
**第653図** 第97号堀跡実測図



第654图 第97号出土遺物実測図(1)



1074



1075



第655図 第97号出土遺物実測図(2)

**規模と構造** R 3 a9 区から北方向 (N - 23° - E) に直線的に延び、長さ36.0mが調査され、規模は上幅60 ~ 186cm, 下幅20 ~ 60cm, 深さ60 ~ 88cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

**覆土** 12層に分けられる。各層にロームや白色粘土のブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第1 ~ 5層は掘り返し後の覆土であり、第3・4層を主体として版築し、道路として利用されたと想定される。中央部北寄りでは掘り返す以前でも第8・9層を主体として版築している。



**土層解説**

- |          |                       |         |                       |
|----------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 白色粘土ブロック微量 | 7 灰黄褐色  | 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 2 暗灰黄色   | ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量 | 8 暗灰黄色  | 白色粘土ブロック中量            |
| 3 暗灰黄色   | 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | 9 黄灰色   | ロームブロック・白色粘土ブロック少量    |
| 4 灰色     | ロームブロック・白色粘土ブロック微量    | 10 灰黄色  | 白色粘土ブロック多量            |
| 5 灰色     | 白色粘土ブロック少量            | 11 暗灰黄色 | 白色粘土ブロック多量            |
| 6 黒褐色    | ロームブロック・白色粘土ブロック微量    | 12 黄灰色  | 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片413点(小皿75, 内耳鍋239, 播鉢55, 甕42, 壺類2), 陶器片3点(壺), 磁器片2点(皿), 青磁片1点(龍泉系皿), 石器12点(石臼7, 砥石5)のほか, 鉄滓10点が南部に集中して出土している。また, 混入した土師器片8点も出土している。1074は南部の覆土下層から底面, 1076は中央部, 1071・1077は南部の覆土下層からそれぞれ出土し, いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。1069は南部, 1073は中央部の覆土中層, 1070は中央部の覆土中, 1068・1072は覆土中からそれぞれ出土している。また, 1075は中央部南寄りの覆土上層から下層にかけて出土した破片が接合している。いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 周辺に中世の遺構が確認され, それらを区画するように巡っていることから, 区画的な機能を有していたと想定される。第99号堀跡と規模形状が近似しており, とともに底面は北側に下るように傾斜していることから同時期に機能していたと考えられる。時期は, 出土土器から16世紀半ばから後半と考えられる。

**第97号堀跡出土遺物観察表(第654・655図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1068	土師質土器	小皿	6.6	2.3	3.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁端面取り ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	100% 油煙付着 PL132
1069	土師質土器	小皿	7.1	2.2	3.8	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	中層	95% PL132
1070	土師質土器	小皿	9.1	2.6	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	70%
1071	土師質土器	小皿	[10.0]	2.8	4.6	雲母・赤色粒子	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ナデ	下層	70%
1072	土師質土器	小皿	8.6	2.6	3.8	雲母・赤色粒子・小礫	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	65%
1073	土師質土器	内耳鍋	(31.4)	8.9	[27.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 底部網代状の圧痕	中層	25% 体部外面煤付着
1074	土師質土器	内耳鍋	32.7	10.1	18.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 底部ヘラナデ	下層・底面	65% PL132
1075	土師質土器	内耳鍋	[31.8]	9.3	[27.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ 体部内・外面ナデ 底部ヘラナデ	上~下層	20%
1076	土師質土器	甕	15.8	(21.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	下層	30%
1077	土師質土器	甕	[18.0]	(21.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	下層	20%

**第98号堀跡(第656図)**

**位置** 調査区北西部のQ 4 c2 ~ R 3 a9区, 標高21.0mほどの斜面部中段に位置している。

**重複関係** 第97号堀跡を掘り込み, 第100号堀, 第158・165号溝, 第109号井戸, 第5440号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 北部を第109号井戸に掘り込まれているため, 確認できた長さは37.0mである。Q 4 c2区から南方向(S - 18° - W)に直線的に伸び, R 3 a9区で西方向(W - 3° - N)に屈曲して止まり, 第100号堀に至っている。規模は上幅72~214cm, 下幅22~50cm, 深さ22~80cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

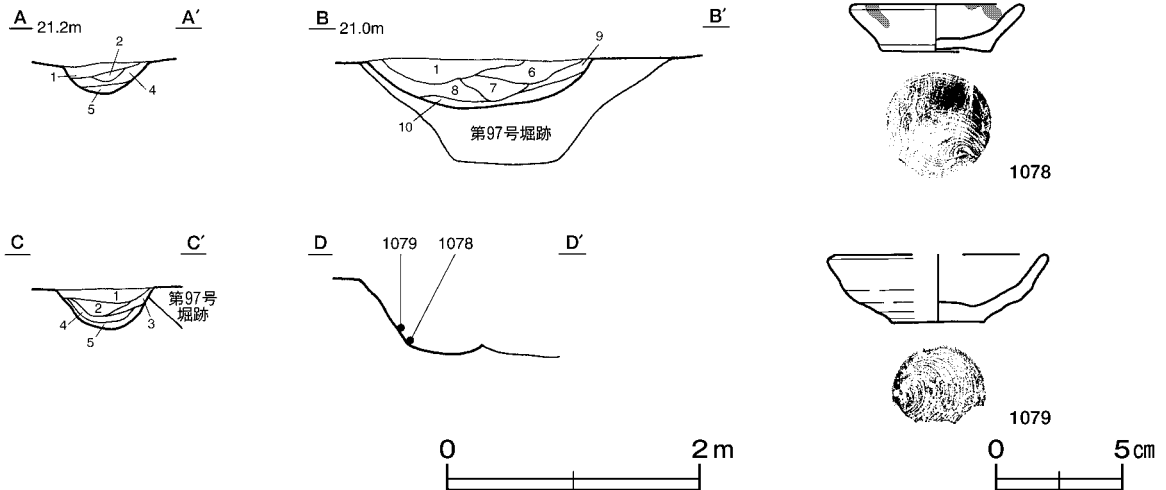
**覆土** 10層に分けられる。各層にロームや白色粘土のブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |          |                               |           |                                  |
|----------|-------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1 にぶい褐色  | ロームブロック少量                     | 7 暗灰黄色    | ロームブロック・炭化材少量，焼土粒子微量             |
| 2 褐灰色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材・白色粘土ブロック少量 | 8 暗オリーブ褐色 | ロームブロック中量，白色粘土ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 灰黄褐色   | ローム粒子少量，白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  | 9 黄灰色     | 白色粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 4 オリーブ褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子少量       | 10 黒褐色    | ロームブロック中量，白色粘土ブロック・炭化粒子少量        |
| 5 暗灰黄色   | 白色粘土ブロック中量                    |           |                                  |
| 6 暗褐色    | ロームブロック少量，焼土ブロック・白色粘土粒子微量     |           |                                  |

**遺物出土状況** 土師質土器片 8 点(小皿 2，内耳鍋 4，播鉢 1，甕 1)が南部に集中して出土している。1078・1079は南部の覆土下層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 周辺に中世の遺構が確認され，それらを区画するように巡っていることから，区画的な機能を有していたと想定される。第97号堀の廃絶後に掘り替えられたと考えられる。第100号堀につながって止まっていることから，同時期もしくは古くなると推定される。時期は，出土土器や重複関係から16世紀後半と考えられる。



**第656図** 第98号堀跡・出土遺物実測図

第98号堀跡出土遺物観察表 (第656図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1078	土師質土器	小皿	6.7	1.9	4.4	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	下層	100% 油煙 付着 PL132
1079	土師質土器	小皿	[8.4]	2.7	3.6	長石・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	下層	50%

**第99号堀跡 (第657・658図)**

**位置** 調査区北西部の Q 3 e8 ~ Q 3 i7 区，標高19.5~20.0mの斜面部中段から下段に位置している。

**重複関係** 第113・118~120号井戸跡を掘り込み，第160・161号溝に掘り込まれている。

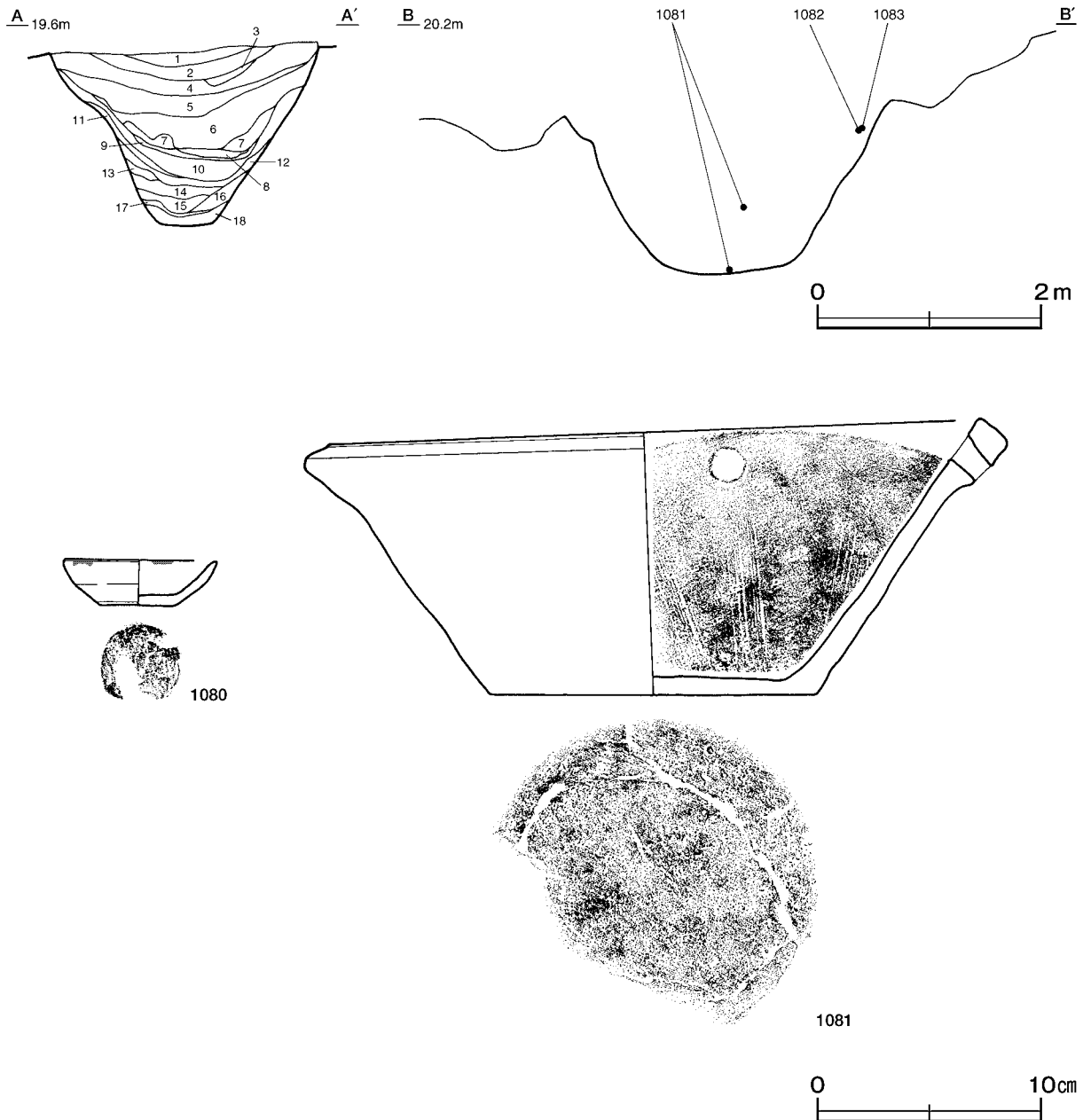
**規模と構造** 北部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは17.1mである。Q 3 i7 区から北方向に (N - 16° - E) に直線的に延び，規模は上幅234~294cm，下幅50~78cm，深さ160~183cmである。断面は薬研状で，壁は外傾して立ち上がっている。南端が方形に掘られ止まっている。

**覆土** 18層に分けられる。下層(第8~18層)は両壁外から交互に流れ込んで堆積方向が変わる堀特有のレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり，上層は各層にロームや白色粘土のブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

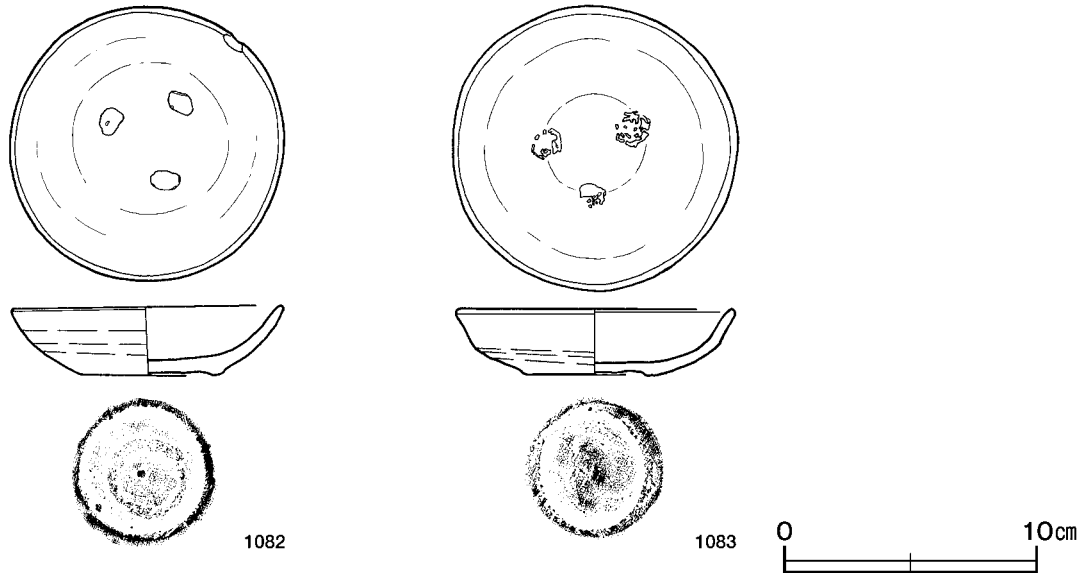
1 褐色	ロームブロック・炭化材・白色粘土ブロック少量, 焼土粒子微量	8 にぶい黄褐色	白色粘土ブロック多量
2 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・白色粘土ブロック少量	9 灰色	ロームブロック中量, 白色粘土粒子少量
3 褐灰色	炭化材・ローム粒子少量, 白色粘土ブロック・焼土粒子微量	10 灰色	白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量
4 にぶい褐色	白色粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 焼土粒子微量	11 灰色	ローム粒子・白色粘土粒子微量
5 灰黄褐色	白色粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 焼土粒子微量	12 灰色	ローム粒子微量
6 灰黄褐色	白色粘土ブロック多量, ロームブロック少量	13 褐色	ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量
7 褐灰色	ロームブロック少量	14 褐灰色	白色粘土ブロック多量, ロームブロック少量
		15 黄灰色	白色粘土ブロック多量, ローム粒子少量
		16 黄灰色	白色粘土粒子少量, ローム粒子微量
		17 暗灰色	白色粘土粒子微量
		18 褐灰色	白色粘土粒子少量, ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片159点(小皿13, 内耳鍋122, 播鉢24), 陶器片5点(皿2, 不明3), 石器4点(石臼2, 砥石2)のほか, 混入した土師器片15点, 須恵器片3点も出土している。1082・1083は南部の覆土中層から重ねられた状態で出土している。また1081は南部の覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。1080は北部の覆土中から出土している。いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。



第657図 第99号堀跡・出土遺物実測図

**所見** 周辺に中世の遺構が確認され、それらを区画するように巡っていることから、区画的な機能を有していたと想定される。第97号堀跡と規模形状が近似しており、ともに底面は北側に下るように傾斜していることから同時期に機能していたと考えられる。時期は、出土土器や陶器と重複関係から16世紀半ばから16世紀後半と考えられる。



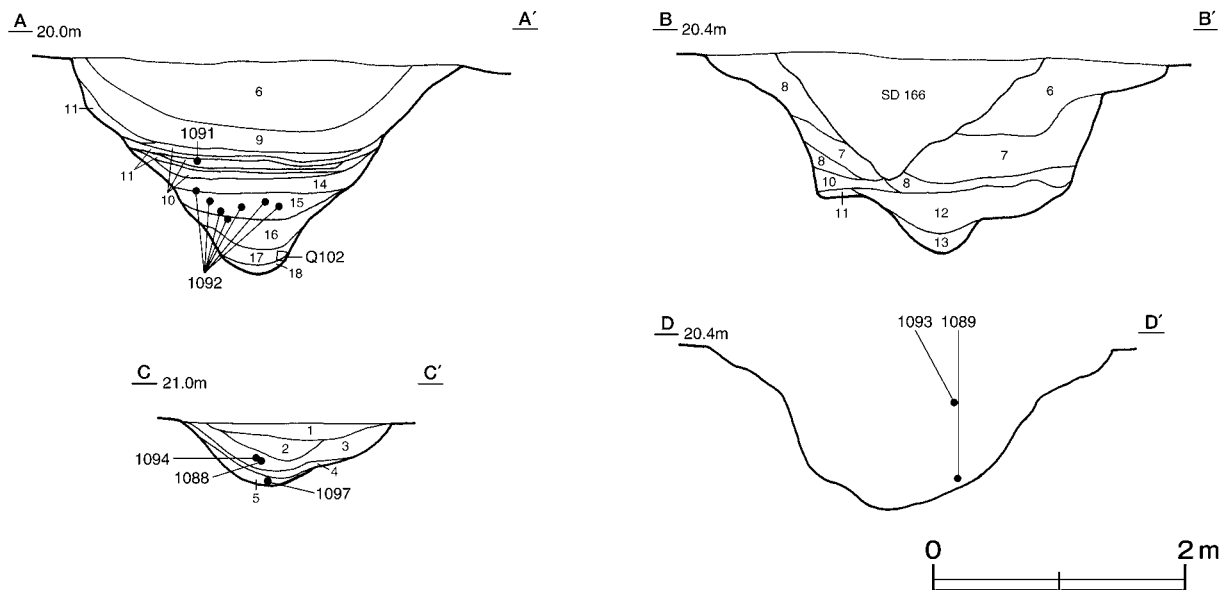
第658図 第99号堀跡出土遺物実測図

第99号堀跡出土遺物観察表 (第657・658図)

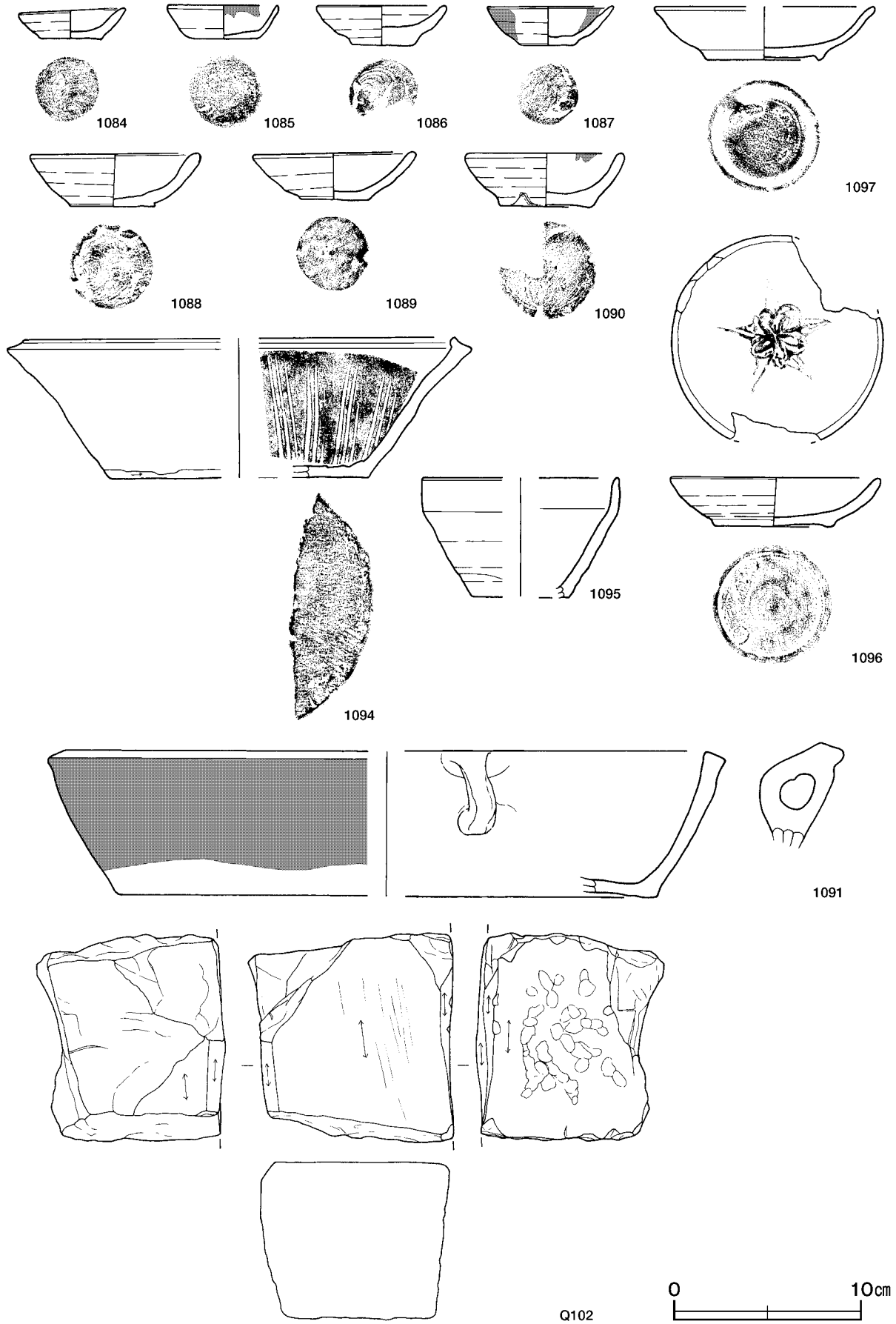
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1080	土師質土器	小皿	6.7	2.1	3.4	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土中	70% 油煙付着
1081	土師質土器	播鉢	29.0	12.4	14.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面ナデ 内面5条1単位の襷目 底部網代状の圧痕 孔径1.3cm	中・下層	60% PL132
1082	陶器	皿	10.6	2.8	5.5	精良・鉄釉	暗赤褐	良好	ロクロ成形 体部内・外面鉄釉 片口 底部内面トチン痕 外面輪トチ	中層	100% PL132
1083	陶器	皿	11.0	2.6	5.2	精良・鉄釉	黒褐	良好	ロクロ成形 体部内・外面鉄釉 底部内面トチン痕 外面輪トチ	中層	95% PL132

**第100号堀跡 (第659~661図)**

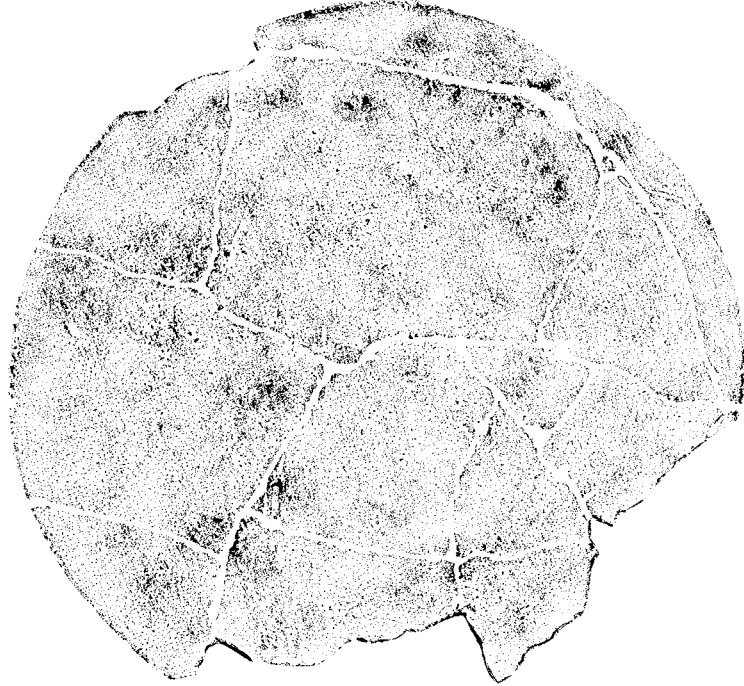
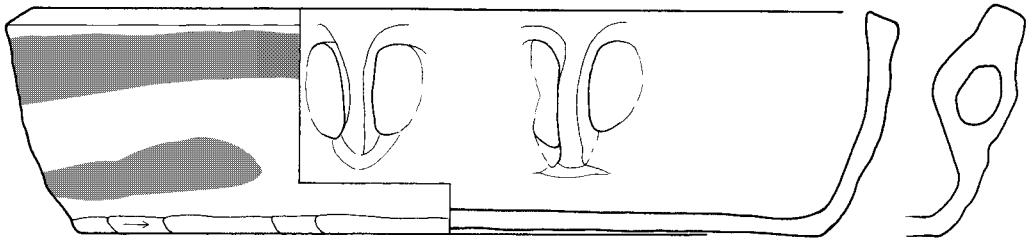
**位置** 調査区北西部のQ 3 h2 ~ R 3 a9 区、標高20.0~20.5mの斜面部中段から下段に位置している。



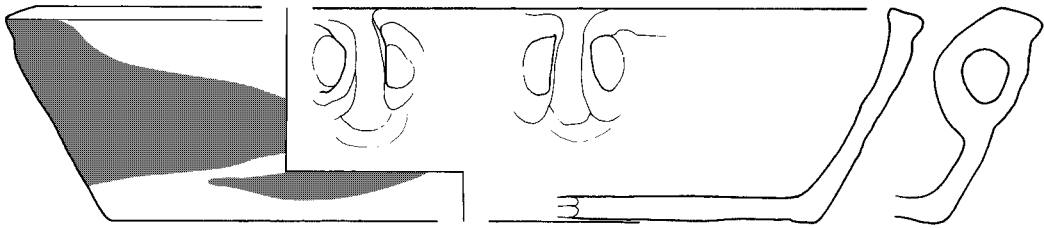
第659図 第100号堀跡実測図



第660图 第100号掘跡出土遺物実測図(1)



1092



1093



第661图 第100号堀跡出土遺物実測図(2)

**重複関係** 第97・98号堀跡，第5400号土坑を掘り込み，第166号溝，第99号井戸に掘り込まれている。

**規模と構造** 西部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは29.0mである。R 3 a 9 区から西方向( W - 5 ° - N )に直線的に延び，規模は上幅170～370cm，下幅20～60cm，深さ50～168cmである。断面は葉研状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。東部は上幅・深さともに規模は小さく，Q 3 j 8 区から上幅が広くなり，深さも急に深くなって延びている。第98号堀と東部( R 3 a 9 区)でつながっている。

**覆土** 18層に分けられる。下層(第12～18層)はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であり，上層は各層にロームや白色粘土のブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。白色粘土を主体とする第10・11層を水平に版築し，道路として利用されたと想定される。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	10 にぶい黄褐色	白色粘土ブロック多量
2 灰色	ロームブロック・白色粘土ブロック少量	11 灰色	白色粘土ブロック少量
3 黄灰色	白色粘土ブロック少量，ロームブロック微量	12 灰黄褐色	白色粘土ブロック多量，砂粒少量
4 暗黄褐色	白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量	13 オリーブ褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子微量
5 黄褐色	ロームブロック少量，白色粘土ブロック微量	14 褐灰色	ロームブロック少量，白色粘土ブロック微量
6 灰黄褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック中量	15 灰黄褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック少量
7 暗褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量	16 にぶい黄褐色	ロームブロック多量，白色粘土ブロック中量
8 黄灰色	ロームブロック・白色粘土ブロック・砂粒少量	17 灰色	ローム粒子・白色粘土粒子・砂粒少量
9 灰黄褐色	白色粘土ブロック多量，ロームブロック中量	18 褐色	白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師質土器片596点(小皿83，内耳鍋470，播鉢29，火鉢1，甕13)，陶器片14点(瀬戸・美濃系天目茶碗6，瀬戸・美濃系碗1，瀬戸・美濃系灰釉端反皿1，瀬戸・美濃系瓶類1，瀬戸・美濃系香炉3，壺1，不明1)，青磁片4点(輪花皿)，石器・石製品11点(石臼1，砥石10)，石塔1点(不明)のほか，鉄滓4点が出土している。また混入した土師器片2点，須恵器片11点も出土している。1097は東部の底面，1084・1088・1094は東部の覆土下層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。1089は中央部東寄り，Q102は西部の覆土下層からそれぞれ出土し，廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。1085は東部，1091は中央部西寄り，1093は中央部東寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。また，1092は中央部東寄りの覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。1086・1087・1090・1095は東部の覆土上層，1096は東部の覆土中からそれぞれ出土している。いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 周辺に中世の遺構が確認され，それらを区画するように巡っていることから，区画的な機能を有していたと想定される。時期は，出土土器と重複関係から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。

**第100号堀跡出土遺物観察表(第660・661図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1084	土師質土器	小皿	5.5	1.7	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	下層	100% 油煙付着 PL133
1085	土師質土器	小皿	5.8	1.8	3.6	雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラナデ	中層	95% 油煙付着 PL133
1086	土師質土器	小皿	6.8	2.1	3.3	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	上層	80% PL133
1087	土師質土器	小皿	6.7	2.1	3.0	雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラナデ	上層	70% 油煙付着
1088	土師質土器	小皿	8.8	2.8	4.6	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラナデ	下層	100% PL133
1089	土師質土器	小皿	8.4	2.6	3.7	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	下層	100% PL133
1090	土師質土器	小皿	8.0	3.0	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラナデ	上層	85% 油煙付着 PL133
1091	土師質土器	内耳鍋	[34.2]	7.8	[28.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 体部下端横ナデ 底部布状の圧痕	中層	20%
1092	土師質土器	内耳鍋	33.0	8.9	29.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ 体部下端ヘラ削り	中・下層	75% 体部外面煤付着 PL133
1093	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	8.5	[28.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部横位のナデ 底部網代状の圧痕	中層	20% 外面煤付着
1094	土師質土器	播鉢	[23.0]	7.5	[13.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ 体部外面縦位のヘラナデ 内面3条1単位の播り目 体部下端ナデ後ヘラ削り	下層	25%
1095	陶器	天目茶碗	[10.4]	(6.5)	[5.2]	精良・鉄釉	黒褐	良好	体部内・外面鉄釉 削り出し高台 高台周辺露胎	上層	瀬戸・美濃系
1096	陶器	皿	11.2	2.6	6.2	精良・長石釉	灰白	良好	ロクロ成形 体部内・外面長石釉 内面花模様 鉄絵 底部外面トチン痕	覆土中	80% 志野系 PL133
1097	陶器	灰釉端反皿	[11.8]	2.9	6.2	精良・灰釉	灰白	良好	体部内・外面灰釉 底部外面トチン痕 釉溜まり	底面	50% 瀬戸・美濃系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q102	砥石	(11.2)	(10.9)	(8.4)	(1657.9)	砂岩	砥面5面うち1面に条線状の研磨痕有り	下層	

### 第101号堀跡 (第662・663図)

**位置** 調査区西部から中央部の R 3 e8 ~ R 4 g5 区, 標高21.0~22.0mの斜面部上段から中段に位置している。

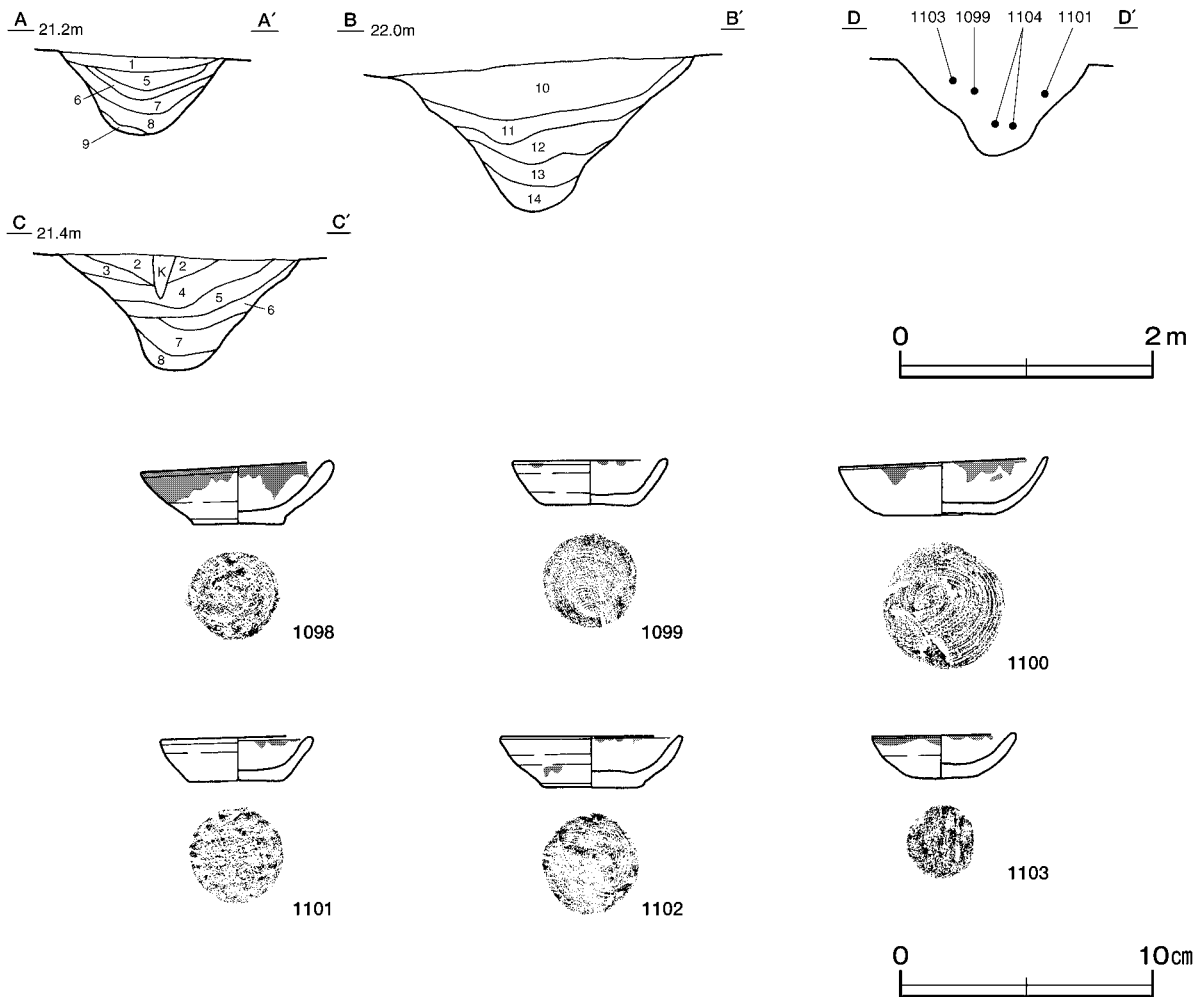
**重複関係** 第157号溝跡を掘り込み, 第75・95号井戸に掘り込まれている。

**規模と構造** R 4 g5 区から西方向 (W - 17° - N) に直線的に伸び, 長さ29.6mが調査されている。規模は上幅124~256cm, 下幅26~48cm, 深さ62~104cmである。断面は薬研状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

**覆土** 14層に分けられる。各層にロームや白色粘土のブロックを含む堆積状況を示した人為堆積である。

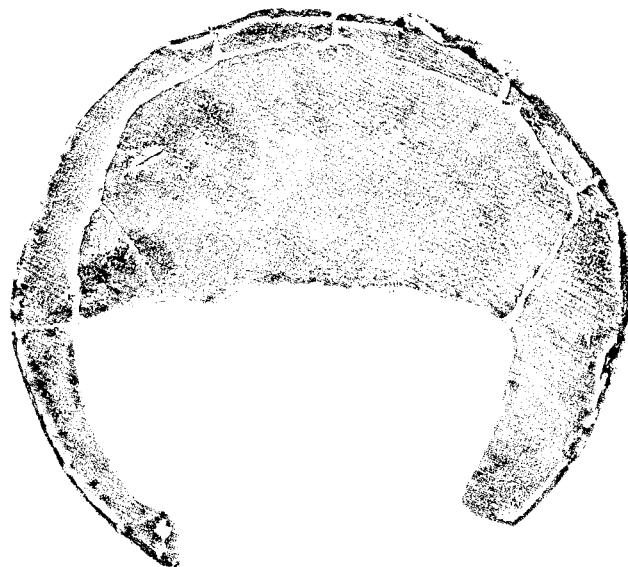
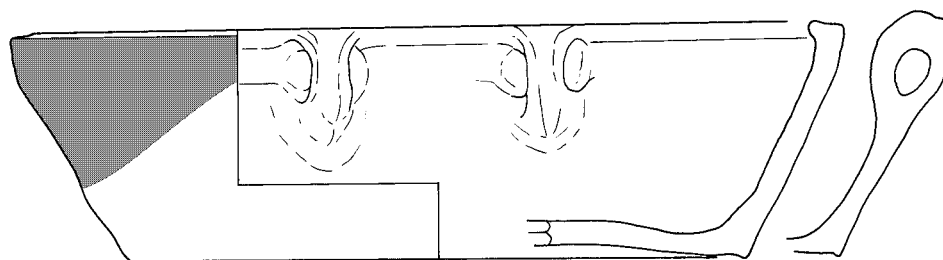
#### 土層解説

- |          |                             |          |                         |
|----------|-----------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック・白色粘土ブロック少量          | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック中量      |
| 2 にぶい黄褐色 | 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量       | 9 黒褐色    | 白色粘土ブロック少量              |
| 3 灰黄褐色   | 白色粘土ブロック中量                  | 10 灰褐色   | ロームブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐灰色    | 白色粘土粒子少量, 鉄分沈着              | 11 褐色    | 白色粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 5 灰黄褐色   | 白色粘土ブロック多量                  | 12 灰褐色   | 白色粘土ブロック少量, ロームブロック微量   |
| 6 褐灰色    | 白色粘土ブロック少量, 鉄分沈着            | 13 灰褐色   | ローム粒子微量                 |
| 7 灰黄褐色   | ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量, 鉄分沈着 | 14 暗褐色   | ローム粒子微量                 |

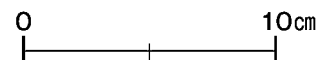


第662図 第101号堀跡・出土遺物実測図





1104



第663図 第101号堀跡出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片151点(小皿16,内耳鍋125,播鉢6,甕4),陶磁器片1点(不明),石器9点(磨石1,石臼2,砥石6)のほか,椀状滓1点が出土している。また,混入した土師器片52点,須恵器片31点も出土している。1104は破碎された状態で西部の覆土下層から出土し,廃絶時に廃棄されたものと考えられる。1099・1103は西部の覆土上層,1101は西部の覆土中層,1098・1102は東部,1100は西部の覆土中からそれぞれ出土し,いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 中央から西側の底面に高低差がほとんど認められないことや,壁面は白色粘土であるが表面が風化し褐色化していることから,機能時は空堀であったと考えられ,防御や区画施設としての機能を有していたと想定される。時期は,出土土器から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。

第101号堀跡出土遺物観察表(第662・663図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1098	土師質土器	小皿	7.5	2.5	3.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	100% 油煙 附着 PL134
1099	土師質土器	小皿	6.0	1.9	3.7	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	上層	100% 油煙 附着 PL134
1100	土師質土器	小皿	8.3	2.3	4.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	95% 油煙 附着 PL134
1101	土師質土器	小皿	5.8	1.8	3.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	中層	95% 油煙 附着 PL134
1102	土師質土器	小皿	7.0	2.1	4.0	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	85% 油煙 附着 PL134
1103	土師質土器	小皿	5.6	1.8	2.8	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	上層	80% 油煙 附着 PL134
1104	土師質土器	内耳鍋	30.9	9.4	24.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口辺部ナデ 体部内・外面ナデ 底部網代状の圧痕	下層	70% 体部外面 煤附着 PL133

第102号堀跡 (第664図)

位置 調査区南部のS 4 f 8 ~ S 5 g 3 区, 標高21.5~22.0mの斜面部上段に位置している。

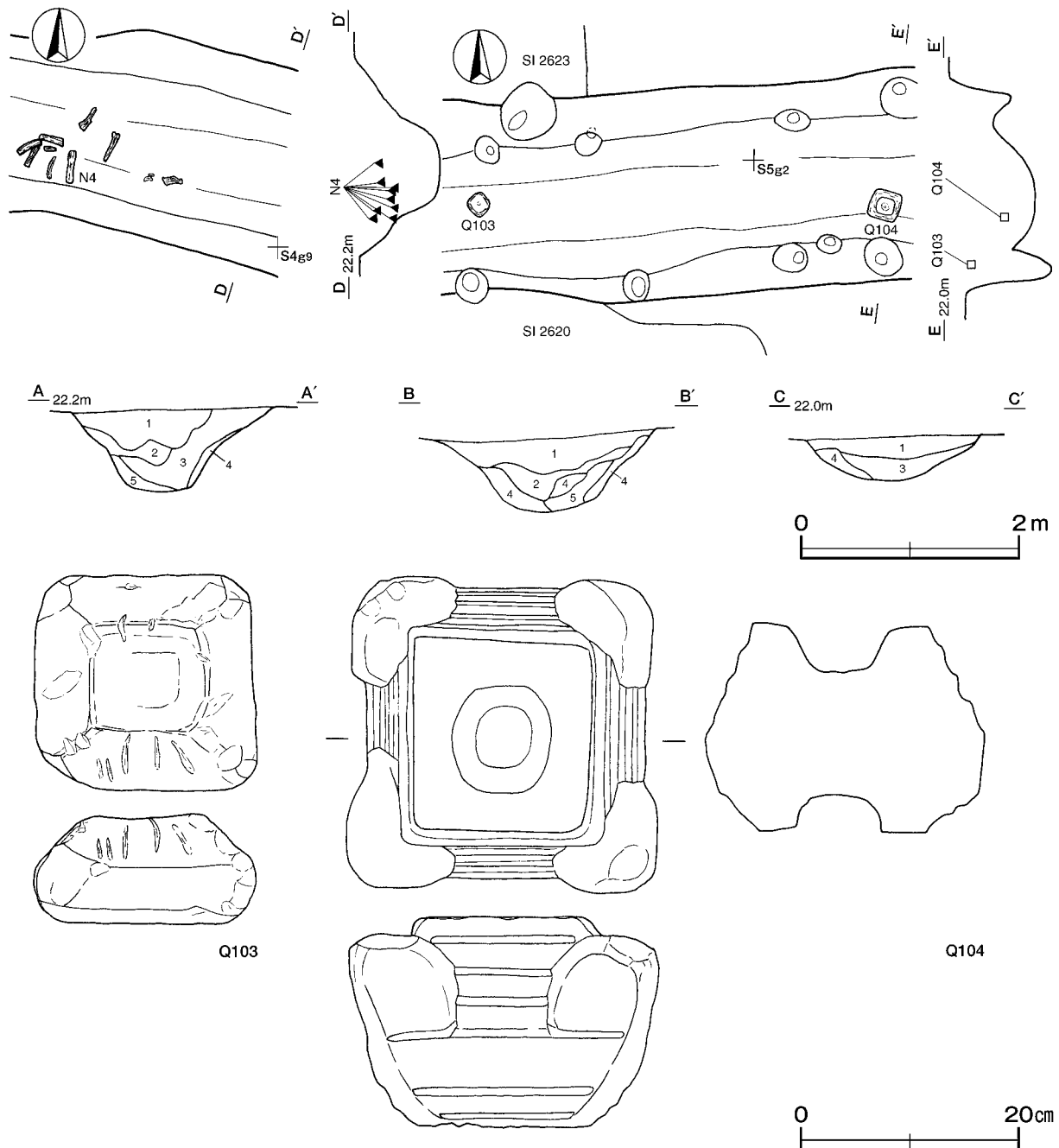
重複関係 第2590~2593・2605・2620・2623号住居跡を掘り込み, 第93号堀に掘り込まれている。

規模と構造 東部が調査区域外に延びているため, 確認できた長さは23.0mである。S 4 f 8 区から東方向( E - 3 ° - S )に直線的に延び, 規模は上幅126~200cm, 下幅46~80cm, 深さ40~74cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分けられる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量    |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量           | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |                 |



第664図 第102号堀跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片37点（小皿8，鉢1，内耳鍋9，播鉢19），陶器片2点（常滑系甕），磁器片1点（皿），石器・石製品8点（石臼4，茶臼2，砥石2），石塔2点（五輪塔，宝篋印塔）のほか，馬骨・馬歯10点がまとまって出土している。また，混入した土師器片568点，須恵器片106点も出土している。Q103は中央部の覆土上層，Q104は中央部の覆土中層，N4は西部の覆土上層から中層にかけてそれぞれ出土し，いずれも廃絶後に投棄されたものと考えられる。N4は馬の骨や歯で，写真図版（PL150）に掲載した。

**所見** 第103号堀と比べると規模が小さく，浅いことから別の堀と考えられる。調査区域外を東方向に延ばしていくと東西に延びる現代の農道につながることから区画的な機能を有していたと想定される。また，覆土上層から下層にかけて馬骨や馬歯がまとまって出土していることから馬捨場であった可能性も想定できる。時期は，出土土器や重複関係から中世後半と考えられ，第93号堀と同時期もしくは古くなる。

第102号堀跡出土遺物観察表（第664図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q103	五輪塔	19.9	20.3	10.1	6430	花崗岩	火輪 四隅が一部欠損	上層	PL143
Q104	宝篋印塔	28.8	28.3	18.9	23640	花崗岩	笠	中層	PL143

**第103号堀跡（第665・666図）**

**位置** 調査区南西部から南部のS3e3～S4f7区，標高20.00～22.5mの斜面部上段から中段に位置している。

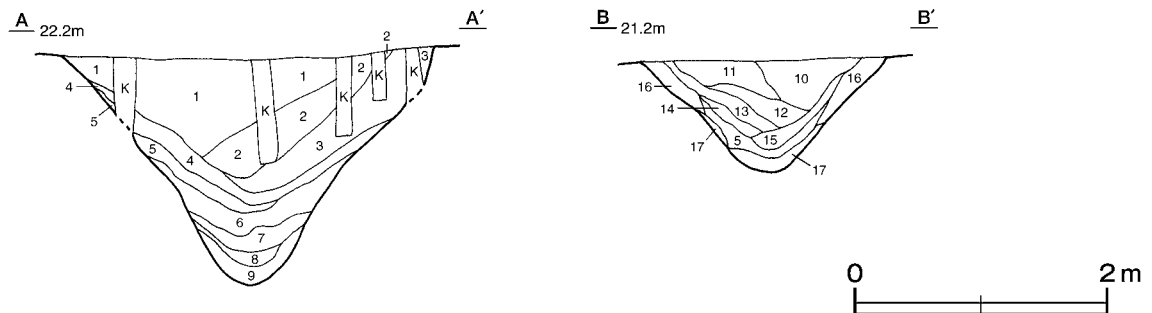
**重複関係** 第2607号住居跡，第95号堀跡を掘り込み，第175号溝に掘り込まれている。

**規模と構造** 西部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは57.4mである。S4f7区から西方向（W-3°-N）に直線的に延び，規模は上幅152～394cm，下幅20～48cm，深さ80～180cmである。断面は葉研状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

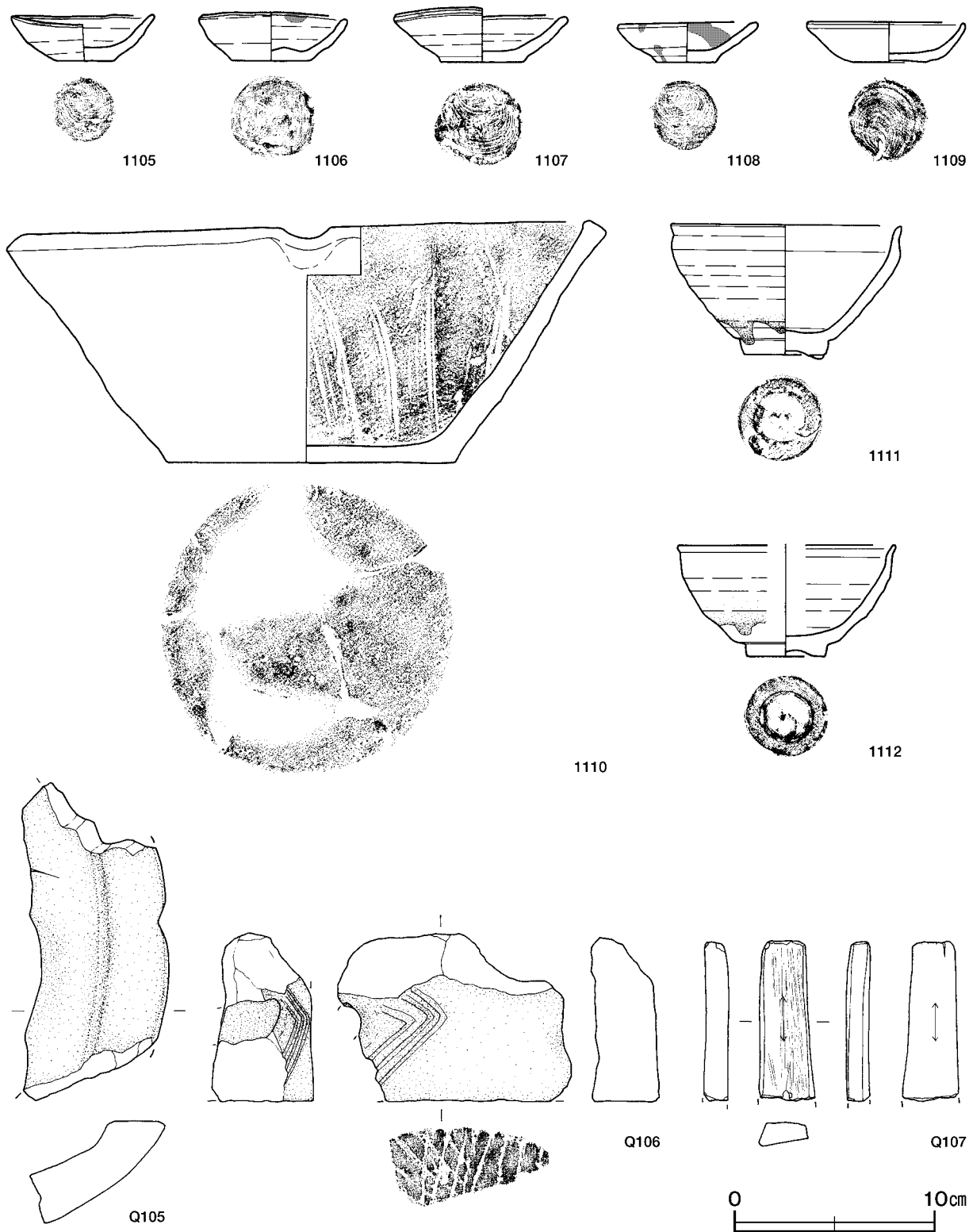
**覆土** 17層に分けられる。各層にロームや白色粘土のブロックを多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |   |        |                               |    |        |                                |
|---|--------|-------------------------------|----|--------|--------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ロームブロック・白色粘土ブロック中量，炭化物・焼土粒子微量 | 10 | にぶい黄褐色 | 白色粘土ブロック多量，ロームブロック中量           |
| 2 | 灰黄褐色   | ロームブロック中量，炭化粒子少量              | 11 | 暗褐色    | ロームブロック少量                      |
| 3 | 黒褐色    | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量         | 12 | 暗褐色    | ロームブロック少量，白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 褐灰色    | ロームブロック少量                     | 13 | 黒褐色    | ロームブロック微量                      |
| 5 | 褐色     | ロームブロック多量                     | 14 | 暗褐色    | ロームブロック中量，白色粘土ブロック少量           |
| 6 | にぶい黄褐色 | ロームブロック多量                     | 15 | 褐灰色    | ロームブロック中量，白色粘土ブロック微量           |
| 7 | 灰褐色    | ロームブロック中量，白色粘土粒子少量            | 16 | にぶい黄褐色 | ロームブロック中量                      |
| 8 | 灰黄褐色   | ロームブロック中量，白色粘土粒子微量            | 17 | 褐灰色    | ロームブロック・白色粘土ブロック中量             |
| 9 | 灰黄褐色   | ロームブロック中量，白色粘土ブロック少量          |    |        |                                |



第665図 第103号堀跡実測図



第666図 第103号堀跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片106点（小皿21，内耳鍋65，播鉢19，甕類1），陶器片5点（瀬戸・美濃系天目茶碗）のほか，鉄滓5点が出土している。また，混入した土師器片76点，須恵器片12点も出土している。1109～1111は中央部，1106～1108・1112・Q106・Q107は西部の覆土中，1105・Q105は覆土中からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 調査区域外を西方向に伸ばしていくと東西に延びる現代の農道につながることから、区画的な機能を有していたと想定できる。第93号堀と土橋状の地山掘り残し部を挟んで規模形状が近似していることから、同一の堀と想定され、同時期に機能していたものと考えられる。時期は、出土土器や陶器から16世紀後半と考えられる。

第103号堀跡出土遺物観察表（第666図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1105	土師質土器	小皿	7.1	2.3	3.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ナデ	覆土中	100% 油煙付着 PL134
1106	土師質土器	小皿	7.2	2.4	3.9	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	100% 油煙付着 PL134
1107	土師質土器	小皿	8.5	2.8	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	95% 油煙付着 PL134
1108	土師質土器	小皿	6.7	2.0	3.1	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	95% 油煙付着 PL134
1109	土師質土器	小皿	7.8	2.0	3.8	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラナデ	覆土中	80% PL134
1110	土師質土器	播鉢	28.5	12.2	14.5	長石・雲母・小礫	赤橙	普通	口辺部横ナデ 体部外面ナデ 内面5条1単位の襷目 底部内面5条1単位の襷目が格子状 外面ナデ	覆土中	75% PL134
1111	陶器	天目茶碗	11.4	6.5	4.2	精良・鉄釉	にぶい赤褐	良好	ロクロ成形 体部内・外面鉄釉 削り出し高台 高台周辺錆釉 底部外面トナシ痕	覆土中	65% 瀬戸・美濃系 PL134
1112	陶器	天目茶碗 [10.8]	5.6	4.0	精良・鉄釉	浅黄橙	良好	ロクロ成形 体部内・外面鉄釉 削り出し高台 高台周辺錆釉	覆土中	50% 瀬戸・美濃系 PL134	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q105	茶臼	(15.9)	(7.4)	2.7	(385.0)	安山岩	下白片	覆土中	PL143
Q106	茶臼	(11.6)	(5.0)	3.5	(409.1)	安山岩	上白片 側面に菱形の文様 隅丸方形の孔有り	覆土中	
Q107	砥石	(8.0)	2.8	1.3	(39.8)	凝灰岩	砥面2面うち1面に条線状の研磨痕有り 他は破断面	覆土中	

#### (5) 溝跡

当調査区からは32条の溝跡が検出されており、そのうち第151・153・155・176号溝跡は中世、第150・152・158・163号溝跡は近世に該当する。その他の溝については、時期不明なものが多いが、出土遺物や重複関係から中・近世の区画的な機能を有していたと考えられる。また、第177・178・180号溝は、規模や方向が近似していることから同時期に機能していたと考えられる。以下、遺構の特徴について記述するが、ここでは土層断面図と出土遺物を掲載し、平面図は遺構全体図に示す。

#### 第150号溝跡（第667図）

**位置** 調査区北東部から東部のQ 6 g7 ~ S 6 a4 区、標高21.5~22.5mの平坦な台地上から斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第2690・2695・2700・2702・2704号住居跡、第92号堀跡、第4494号土坑を掘り込んでいる。

**規模と構造** 北部と南部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは61.8mである。Q 6 g7 区から南方向（S - 8° - W）に直線的に延び、規模は上幅86~180cm、下幅6~42cm、深さ52~64cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

**覆土** 5層に分けられる。各層にロームブロックを含む堆積状況を示した人為堆積である。

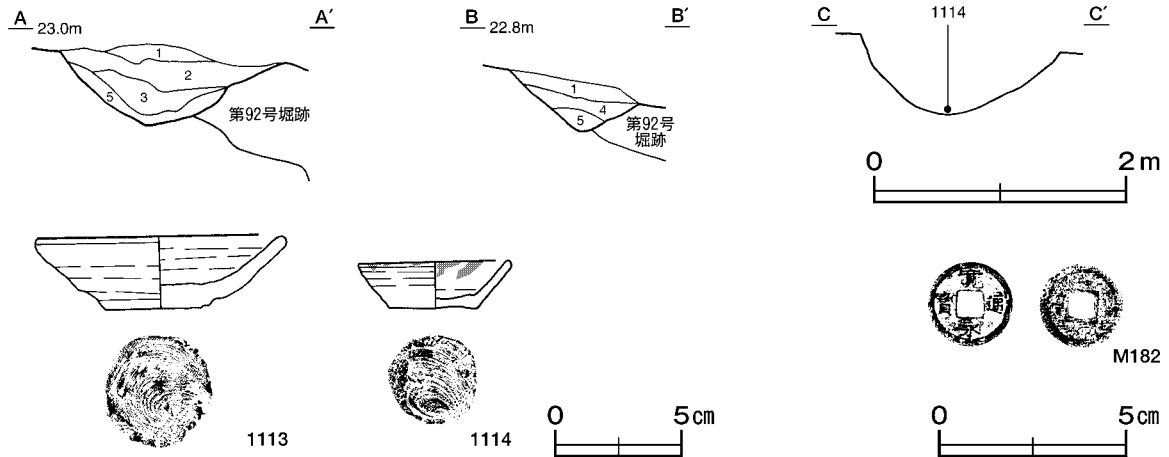
#### 土層解説

- |       |                         |       |                  |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量               | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量               | 5 暗褐色 | ロームブロック少量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |       |                  |

**遺物出土状況** 土師質土器片114点（小皿6，内耳鍋101，播鉢3，甕4），陶磁器片6点（常滑系播鉢1，常滑系壺1，常滑系甕2，皿2），瓦片1点，石器1点（石臼）のほか、古銭1点が出土している。また、混入

した土師器片41点，須恵器片25点も出土している。1114は南部の覆土下層，1113・M182は南部の覆土中からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 第152号溝跡と規模や形状が近似しており，同じ時期に区画的な機能を有していたと想定される。時期は，出土土器や重複関係から17世紀前半と考えられる。



第667図 第150号溝跡・出土遺物実測図

第150号溝跡出土遺物観察表（第667図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1114	土師質土器	小皿	6.0	2.0	3.5	雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁端面取り 回転糸切り	ロクロナデ後ヘラナデ 底部	下層 100% 油煙付着 PL134
1113	土師質土器	小皿	9.9	2.9	4.3	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	60%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M182	古銭	2.3	0.72	0.1	1.8	銅	古寛永通宝 初鑄1636年	覆土中	PL148

### 第151号溝跡（第668図）

**位置** 調査区北東部から東部のQ 6 g6 ~ R 6 d5 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2690・2700・2702号住居跡，第59号地下式塙を掘り込み，第4608号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 北部が調査区域外に伸びているため，確認できた長さは29.1mである。R 6 d5 区から北方向(N - 8° - E)に直線的に伸び，規模は上幅72~128cm，下幅34~96cm，深さ12~24cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

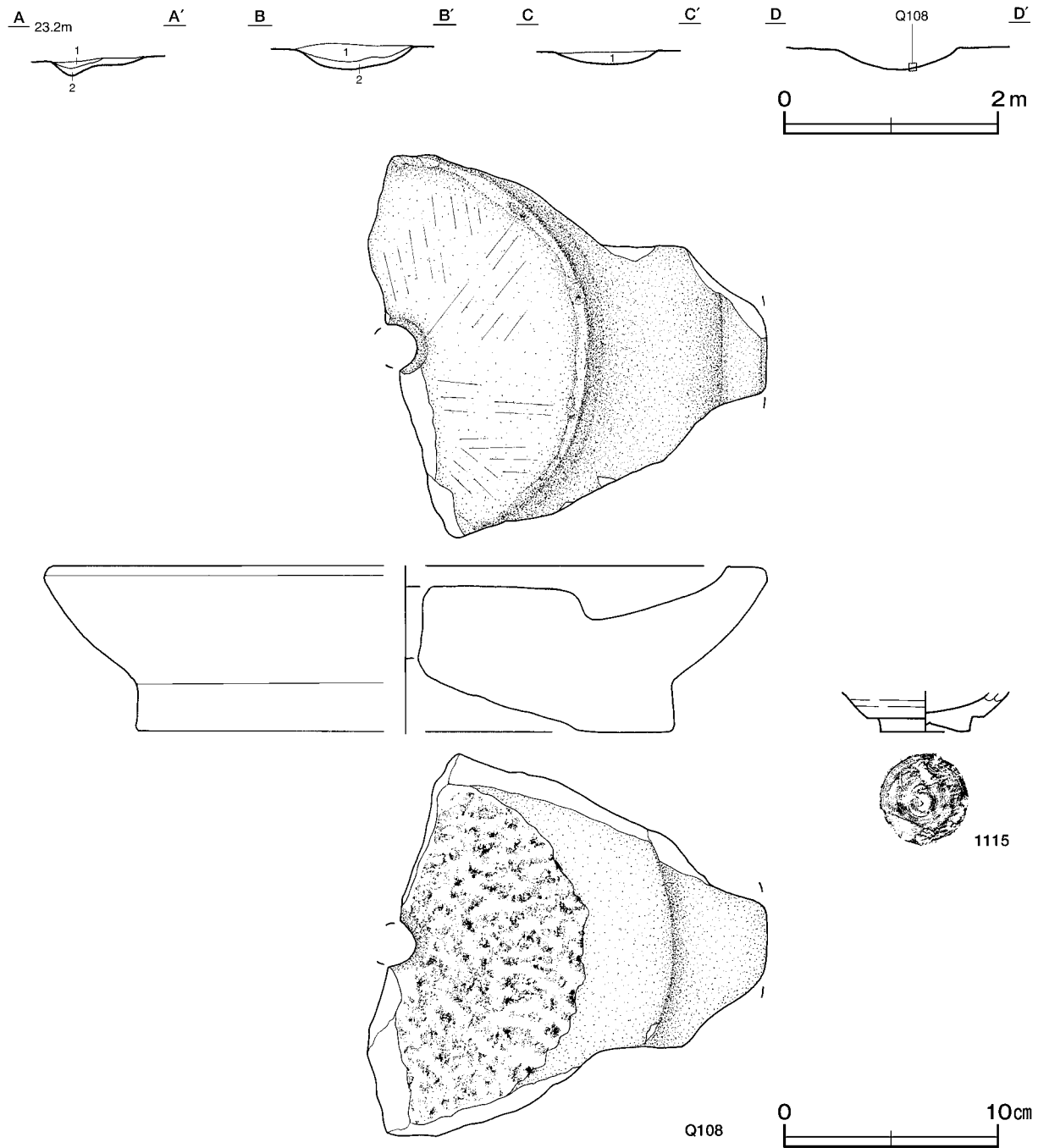
**覆土** 2層に分けられる。各層にローム粒子を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量                      2 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師質土器片140点（内耳鍋120，搗鉢3，甕17），陶器片4点（瀬戸・美濃系天目茶碗1，不明3），磁器片2点，石器・石製品3点（石臼2，硯1），鉄製品1点（不明）が中央部北寄りに集中して出土している。また，混入した土師器片122点，須恵器片28点も出土している。1115は南部の覆土中，Q108は中央部北寄りの覆土下層からそれぞれ出土し，いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器や陶器から16世紀後半と考えられる。



第668図 第151号溝跡・出土遺物実測図

第151号溝跡出土遺物観察表（第668図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1115	陶器	天目茶碗	-	(1.9)	4.2	精良・鉄釉	にぶい赤褐	良好	口ケロ成形 高台周辺錆釉 体部内・外面鉄釉 削り出し高台	覆土中	20%

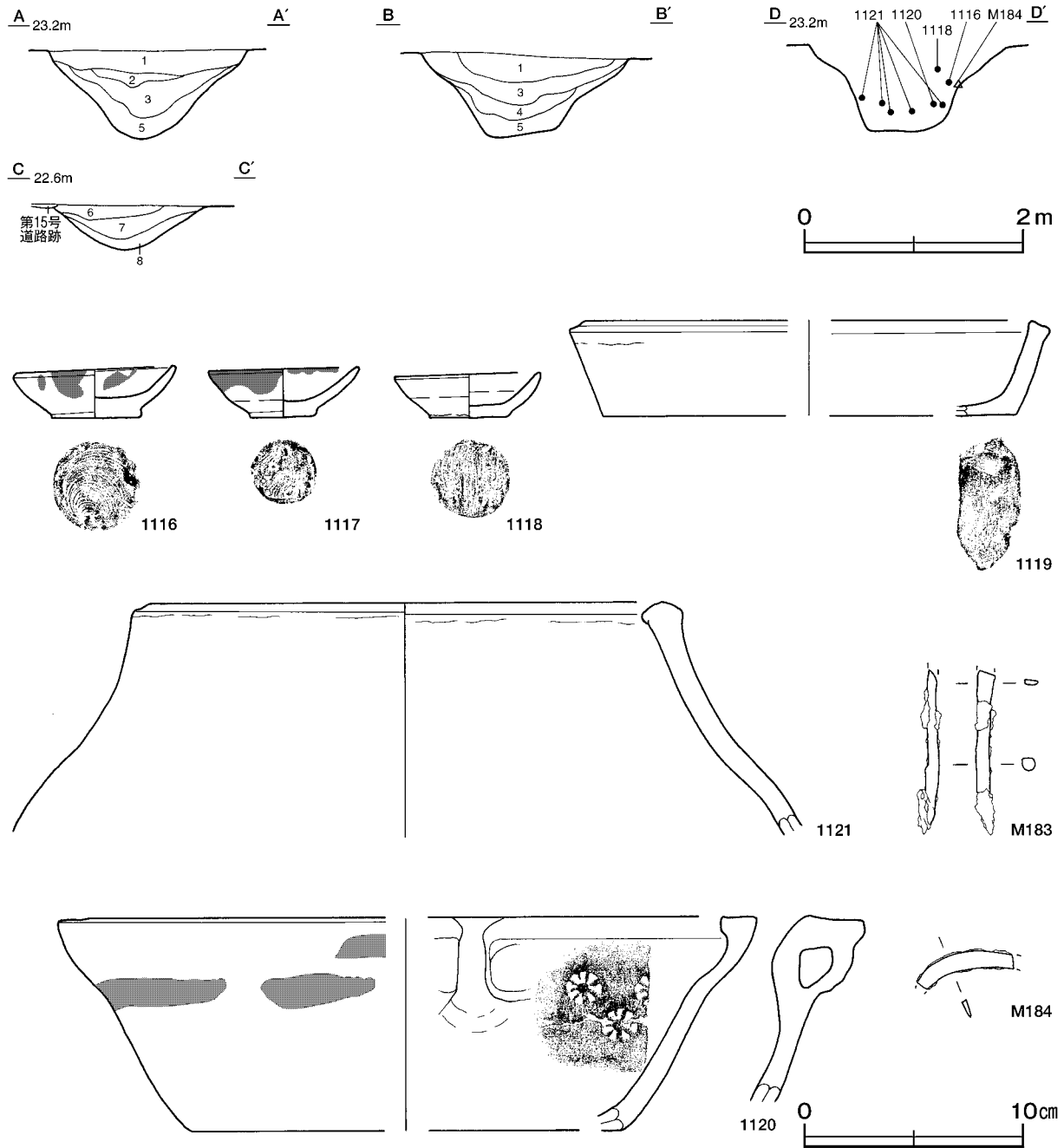
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q108	石臼	(18.7)	(17.9)	7.8	(2614.4)	安山岩	下白片	下層	PL143

**第152号溝跡 (第669図)**

**位置** 調査区北東部から南東部のQ 6 g5 ~ S 5 c0 区, 標高22.0~23.0mの平坦な台地上から斜面部中段に位置している。

**重複関係** 第2634・2666・2686・2687・2691・2702・2703号住居跡, 第59号地下式墳, 第4609号土坑を掘り込み, 第15号道路に掘り込まれている。

**規模と構造** 北部が調査区域外に延びているため, 確認できた長さは73.2mである。Q 6 g5 区から南方向(S - 7° - W)に直線的に延び, R 6 j3 区で南西方向(S - 42° - W)に彎曲している。規模は上幅110~190cm, 下幅30~58cm, 深さ42~58cmである。断面はU字状で, 壁は外傾して立ち上がっている。



**第669図** 第152号溝跡・出土遺物実測図



**覆土** 8層に分けられる。北部と中央部（第1～5層）は、各層にロームブロックを含む堆積状況を示す人為堆積であるが、南部（第6～8層）はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第1・2層は締まりが強く、硬化している。

**土層解説**

1 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	8 褐色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師質土器片242点（小皿89, 播鉢16, 内耳鍋103, 甕34）, 陶器片12点（常滑系甕4, 碗3, 皿3, 瓶類2）, 瓦片3点, 石器・石製品14点（敲石1, 石臼7, 砥石4, 硯2）, 鉄製品7点（釘3, 不明4）が出土している。また、混入した土師器片1665点, 須恵器片267点も出土している。1121は南部の覆土下層から出土した破片が接合したものであり、廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。1120は北部の覆土下層から出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。1116・1118・M184は中央部の覆土中層, 1117は中央部北寄り, 1119・M183は南部の覆土中からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 第150号溝跡と規模や形状が近似しており、同じ時期に区画的な機能を有していたと想定される。時期は、出土土器から17世紀前半と考えられる。

**第152号溝跡出土遺物観察表（第669図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1116	土師質土器	小皿	7.4	2.5	4.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	中層	100% 油煙 付着 PL135
1117	土師質土器	小皿	7.0	2.3	3.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土中	90% 油煙 付着 PL135
1118	土師質土器	小皿	6.6	2.1	3.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	中層	80% PL135
1119	土師質土器	内耳鍋	[20.4]	4.4	[19.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ 体部内・外面横ナデ 底部ヘラ削り	覆土中	10%
1120	土師質土器	内耳鍋	[29.0]	9.8	[19.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ 体部内・外面横ナデ 内面菊花文	下層	10% 体部 外面煤付着
1121	土師質土器	甕	23.6	(10.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口辺部横ナデ 体部内・外面横ナデ	下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M183	鍍	(7.6)	0.9	0.6	(8.7)	鉄	鍍身部・茎部一部欠損 茎部断面長方形	覆土中	
M184	不明	(4.6)	0.8	0.2	(4.1)	鉄	わずかに彎曲 断面三角形	中層	

**第153号溝跡（第670図）**

**位置** 調査区東部から南東部のQ6j1～S5c9区, 標高22.0～23.0mの平坦な台地上から斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第2624・2625・2637・2660・2661・2671・2676・2682・2692・2694・2697・2698・2701・2705号住居跡, 第489号掘立柱建物跡, 第4655・4724号土坑を掘り込み, 第488号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と構造** Q6j1区から南方向(S-9°-W)に直線的に延び、長さ50.4mが調査されている。規模は上幅52～94cm, 下幅28～58cm, 深さ6～26cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

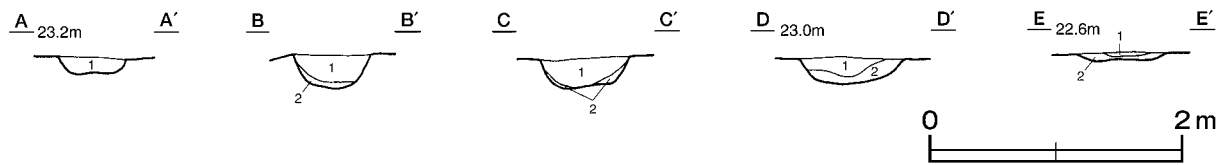
**覆土** 2層に分けられる。各層にロームブロックを含む堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

1 暗褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量	2 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
-------	------------------------	------	-------------------

**遺物出土状況** 土師質土器片38点（小皿20, 内耳鍋5, 播鉢11, 甕2）, 陶器片1点（常滑系甕）のほか、混入した土師器片462点, 須恵器片30点も出土している。

所見 時期は、出土土器がいずれも細片のため図示できるものはないが、土師質土器の小皿片や内耳銅片などが出土していることや、第488号掘立柱建物に掘り込まれていることから中世後半と考えられる。

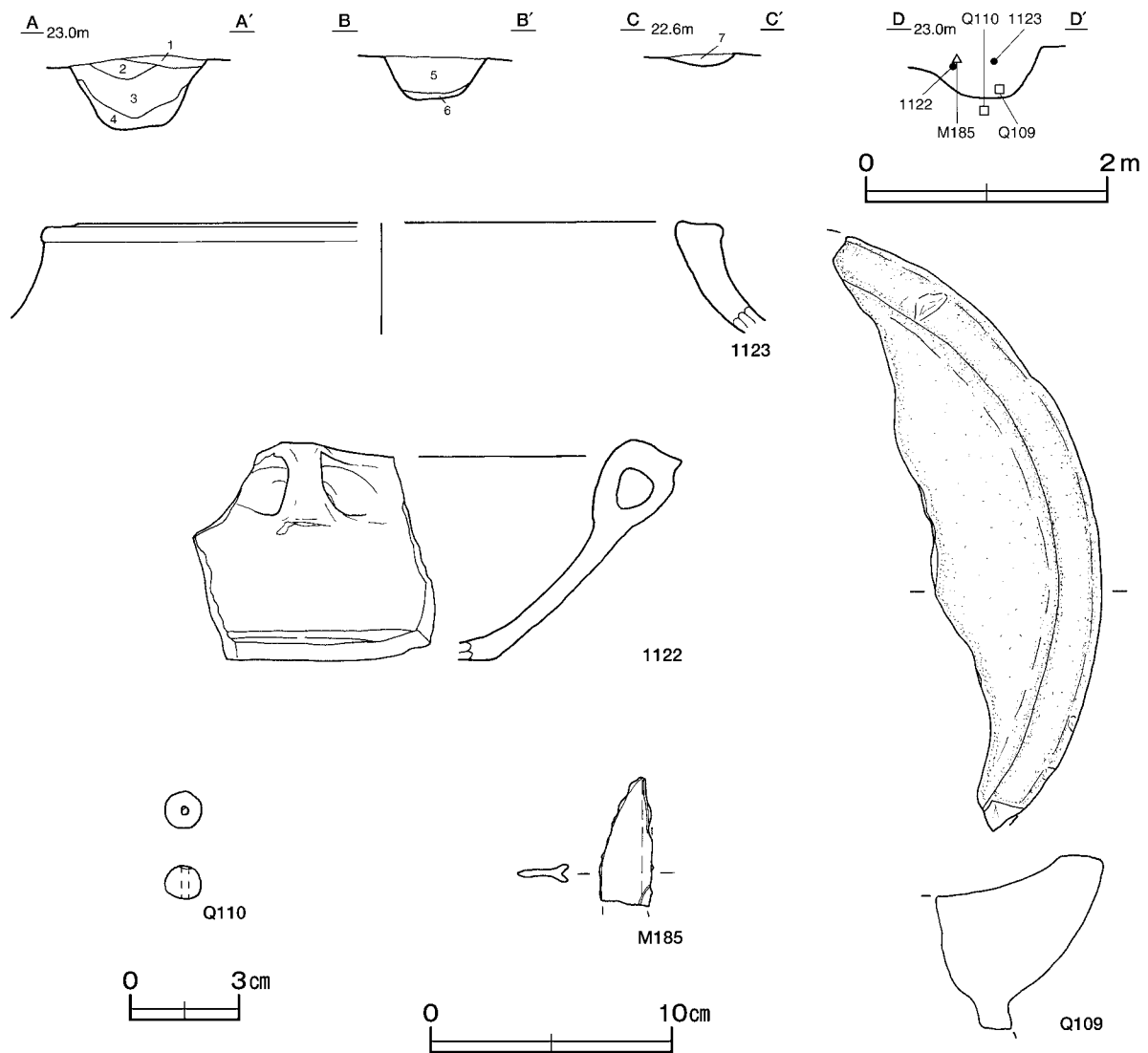


第670図 第153号溝跡実測図

第155号溝跡 (第671図)

位置 調査区北部から南部のQ 5 d4 ~ S 4 e7 区, 標高22.5~23.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2613・2622・2627~2629・2638号住居跡, 第96号堀跡, 第5378号土坑を掘り込み, 第79号井戸, 第4200・4202・4277・4290・4334号土坑に掘り込まれている。



第671図 第155号溝跡・出土遺物実測図

**規模と構造** 北部が調査区域外に延びているため、確認できた長さは88.1mである。Q 5 d4 区から南方向 ( S - 20° - W ) に直線的に延び、R 4 c0 区で一端途切れ、再びR 4 c0 区から南方向 ( S - 13° - W ) に直線的に延びている。規模は上幅28～120cm、下幅13～68cm、深さ10～56cmである。断面はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 7層に分けられる。各層にロームブロックを含む堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

1	にぶい褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5	褐色	ロームブロック少量
2	明褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 土師質土器片48点 ( 小皿17, 内耳鍋22, 播鉢 8, 甕 1 ), 陶器片 4 点 ( 瀬戸・美濃系大皿 1, 瓶類 2, 不明 1 ), 磁器片 4 点 ( 碗 ), 瓦片 1 点, 石器・石製品 7 点 ( 石臼 3, 茶臼 1, 砥石 1, 小玉 1, 硯 1 ), 鉄製品 1 点 ( 不明 ) のほか、鉄滓 1 点が出土している。また、混入した土師器片392点、須恵器片106点も出土している。1123は中央部北寄り、1122・M185は中央部の覆土上層からそれぞれ出土し、いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。Q109は中央部北寄りの覆土下層、Q110は中央部の底面からそれぞれ出土し、いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 第95号堀とほぼ平行して延びていることから、同時期に機能していたものと考えられ、調査区北側に位置する妙徳寺の正面から直線的に延びており、参道の側溝として機能していた可能性がある。時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。

**第155号溝跡出土遺物観察表 ( 第671図 )**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1122	土師質土器	内耳鍋	[ 36.8 ]	9.1	[ 21.0 ]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部ナデ 体部外面縦位のヘラナデ 内面ナデ	上層	10%
1123	土師質土器	甕	[ 24.8 ]	( 4.7 )	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部内・外面ナデ	上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q109	茶臼	( 27.4 )	( 6.8 )	( 5.5 )	( 978.4 )	安山岩	下白片	下層	PL143

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q110	小玉	1.0	0.2	0.9	1.4	泥岩	球状 一方向からの穿孔	底面	PL144

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M185	鋤先	( 5.3 )	2.1	0.8	( 12.8 )	鉄	鋤先の破片 身 ( 着装部 ) の差込式	上層	PL146

**第158号溝跡 ( 第672図 )**

**位置** 調査区北部から北西部のQ 4 c7 ~ Q 4 g5 区、標高20.5～21.5mの斜面部上段から中段に位置している。

**重複関係** 第97・98号堀跡、第159号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** Q 4 c7 区から南方向 ( S - 11° - W ) に直線的に延び、Q 4 g5 区で直角に曲がり、西方向 ( W - 20° - N ) に直線的に延びている。長さ42.5mが調査され、規模は上幅28～176cm、下幅15～68cm、深さ 6 ～ 30cmである。断面はU字状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

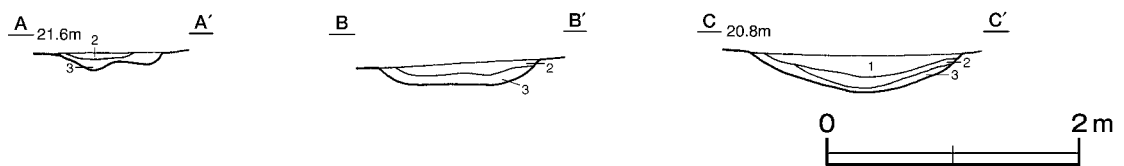
**覆土** 3層に分けられる。各層にロームや白色粘土のブロックを含む堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 3 灰白色 白色粘土ブロック多量

**遺物出土状況** 土師質土器片10点(小皿1, 内耳鍋5, 播鉢2, 甕2), 陶器片8点(志野系皿2, 灯明皿1, 不明5), 磁器片2点(皿)のほか, 鉄滓3点が出土している。また混入した土師器片11点, 須恵器片3点も出土している。

**所見** 第507号掘立柱建物跡を囲むようにL字状に延び, 桁行・梁行方向とほぼ一致していることから, 同時期に区画的な機能を有していたと考えられる。時期は, 土師質土器片や陶磁器片が出土していることから17世紀代と考えられる。



第672図 第158号溝跡実測図

**第163号溝跡 (第673図)**

**位置** 調査区北西部のQ3 f3 ~ Q3 f5区, 標高19.0mほどの斜面部下段に位置している。

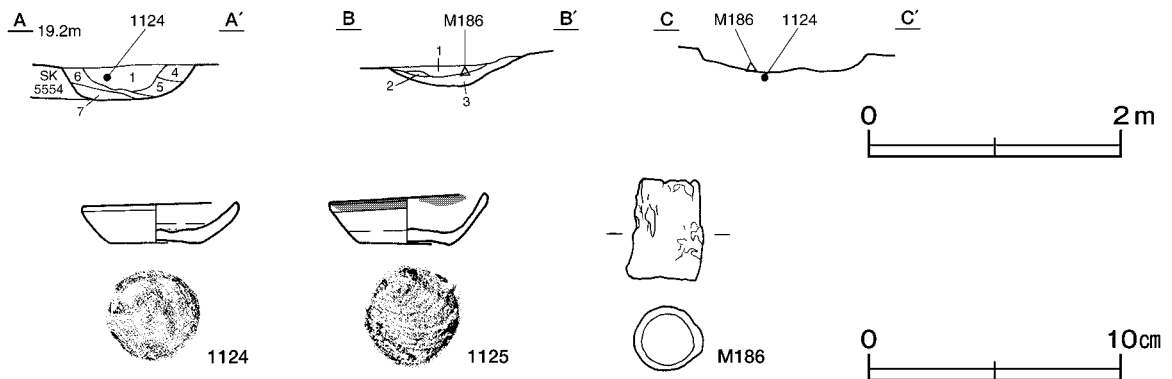
**重複関係** 第164号溝跡, 第5554号土坑を掘り込み, 第19号ピット群に掘り込まれている。

**規模と構造** Q3 g4区から南西方向(W-32°-S)に延び, Q3 g4区から西方向(W-13°-N)に直線的に延び, Q3 g3区で南西方向(S-31°-W)に屈曲している。長さ8.8mが調査され, 規模は上幅42~120cm, 下幅20~80cm, 深さ30~50cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

**覆土** 7層に分けられる。各層に白色粘土ブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・白色粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・白色粘土粒子微量
- 3 灰黄褐色 白色粘土粒子中量
- 4 にぶい黄色 白色粘土粒子多量
- 5 黒褐色 白色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 6 にぶい黄色 白色粘土ブロック中量
- 7 黒褐色 白色粘土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量



第673図 第163号溝跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片32点（小皿7，内耳鍋25），石器2点（砥石），鉄製品2点（縁金具カ，不明）のほか，混入した土師器片1点，須恵器片3点も出土している。1124は西部，M186は中央部の覆土上層，1125は覆土中からそれぞれ出土し，いずれも廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 第508号掘立柱建物跡を囲むように本跡と第164号溝跡が延びていることから，同じ時期に区画的な機能を有していたと想定される。時期は，出土土器から17世紀前半と考えられる。

#### 第163号溝跡出土遺物観察表（第673図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1124	土師質土器	小皿	6.1	1.6	3.7	雲母	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラナデ	上層	95% PL135
1125	土師質土器	小皿	6.2	2.1	3.7	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後ヘラナデ	覆土中	95% 油煙 付着 PL135

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M186	縁金具カ	4.0	3.0	2.5	19.0	鉄	筒状で上位から下位にかけて幅が広がる	上層	PL147

#### 第176号溝跡（第674図）

**位置** 調査区南西部のS 3 g3 ~ S 3 g6区，標高20.0~21.0mの斜面部中段から下段に位置している。

**重複関係** 第175号溝に掘り込まれている。

**規模と構造** 西部が調査区域外に延びているため，確認できた長さは11.6mである。S 3 g6区から西方向（W - 11° - S）に直線的に延び，規模は上幅142~460cm，下幅60~310cm，深さ68~140cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

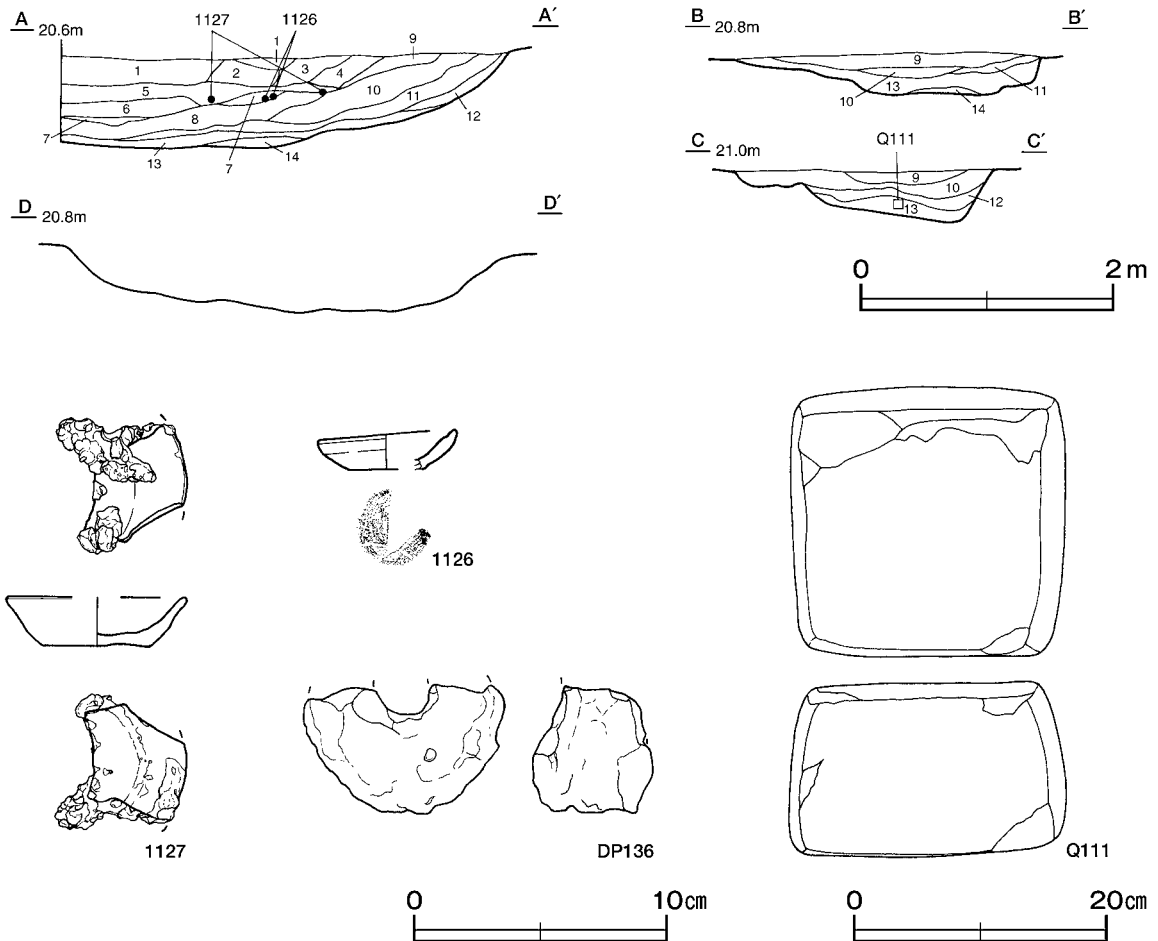
**覆土** 14層に分けられる。下層（第8~14層）はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であるが，上層はロームブロックを多く含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- |          |                    |          |                      |
|----------|--------------------|----------|----------------------|
| 1 灰黄褐色   | ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，白色粘土ブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量          | 9 暗褐色    | ロームブロック少量，炭化物微量      |
| 3 黒褐色    | ローム粒子微量            | 10 黒褐色   | ロームブロック少量            |
| 4 灰黄褐色   | ロームブロック少量          | 11 灰黄褐色  | 白色粘土ブロック多量           |
| 5 褐色     | ロームブロック中量，炭化物少量    | 12 灰黄褐色  | ロームブロック・白色粘土ブロック少量   |
| 6 灰黄褐色   | ロームブロック中量          | 13 黄灰色   | 白色粘土ブロック少量           |
| 7 黒色     | 炭化物中量              | 14 褐灰色   | 白色粘土ブロック中量           |

**遺物出土状況** 土師質土器片42点（小皿13，内耳鍋27，甕2），陶器片2点（不明），磁器片1（碗），土製品4点（羽口），石器・石製品2点（砥石），石塔1点（五輪塔），鉄滓410点（5.54kg）が出土している。また，混入した土師器片24点，須恵器片5点も出土している。1126・1127は西部の覆土中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。また，DP136は西部の覆土中から出土している。さらに，炭化物に混ざって鉄滓が一か所（第7層に相当）にまとまって出土している。いずれも自然堆積によってできた窪地に一括して投棄されたものと考えられる。鉄滓は，写真図版（PL149・150）に掲載した。Q111は東部の覆土下層から出土し，廃絶後間もなく廃棄されたものである。

**所見** 周辺に中世の遺構が確認され、それらを区画するように巡っていることから、区画的な機能を有していたと想定される。鉄滓がまとまって出土していることから、周辺で鑄造が行われていたと想定される。時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



**第674図** 第176号溝跡・出土遺物実測図

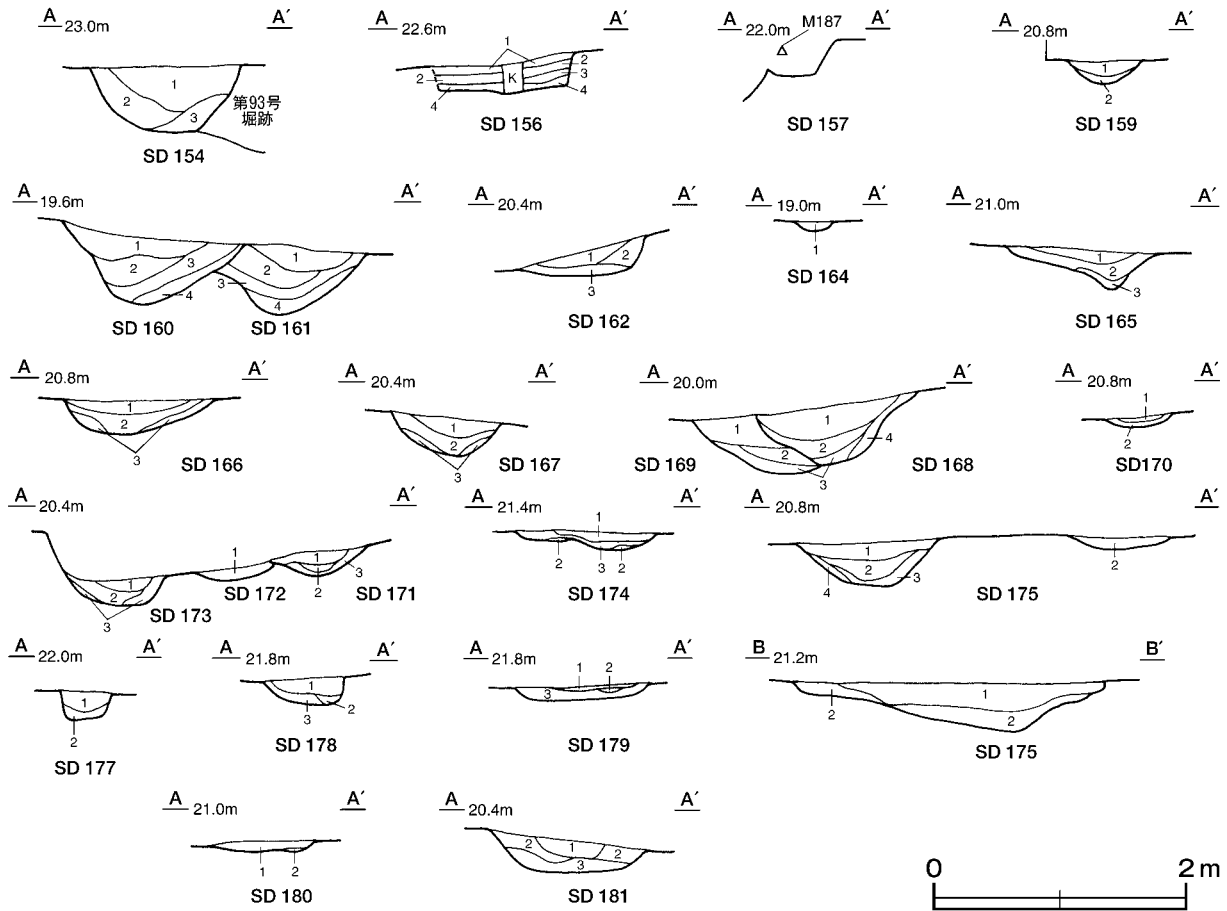
第176号溝跡出土遺物観察表（第674図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1126	土師質土器	小皿	5.5	1.6	3.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口クロナデ 底部回転糸切り	中層	70% 油煙 附着 PL135
1127	土師質土器	取瓶	[7.0]	1.95	[4.2]	長石	灰黄	普通	口辺部内・外面ナデ 体部内面鉄滓附着	中層	35% PL149

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP136	羽口	(4.8)	8.0	(5.1)	(141.3)	長石・小礫	ナデ 孔径2.1cm 端部に鉄滓附着 外面は灰黄色 内面は被熱痕により橙色	覆土中	PL149

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q111	五輪塔	21.5	22.0	14.2	12180	花崗岩	地輪 一部欠損	下層	PL143

その他の溝跡 (第675・676図)



第675図 その他の溝跡実測図

第154号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第156号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 灰褐色 ロームブロック微量

第159号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 白色粘土粒子少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量

第160号溝跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 白色粘土ブロック多量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第161号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 白色粘土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第162号溝跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 白色粘土ブロック多量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック微量

第164号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量

第165号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・白色粘土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, 白色粘土ブロック・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第166号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐灰色 白色粘土ブロック中量

第167号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 3 にぶい褐色 粘土ブロック少量

第168号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量, 焼土粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 白色粘土ブロック多量, ロームブロック中量

第169号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック・白色粘土ブロック微量
- 2 暗オリーブ褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黄灰色 白色粘土ブロック・ローム粒子微量

第170号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量,白色粘土ブロック・焼土粒子微量

第171号溝跡土層解説

- 1 灰黄褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・白色粘土粒子少量
- 2 暗褐色 白色粘土ブロック・焼土粒子少量,炭化材微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子少量

第172号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

第173号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黄灰色 ローム粒子少量
- 3 暗灰黄色 ロームブロック中量

第174号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第175号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量,炭化粒子微量
- 2 黒褐色 白色粘土ブロック少量,ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 白色粘土ブロック中量
- 4 灰黄褐色 白色粘土ブロック少量

第177号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第178号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化材少量

第179号溝跡土層解説

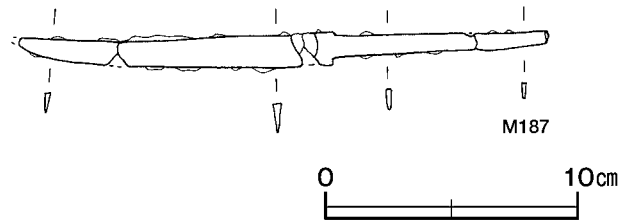
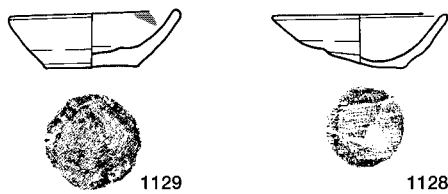
- 1 黒褐色 ロームブロック少量,焼土粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第180号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量

第181号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量



第676図 その他の溝跡出土遺物実測図

第157号溝跡出土遺物観察表 (第676図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M187	刀子	(21.0)	1.4	0.4	(19.3)	鉄	ほぼ完形 刃先部一部欠損 両区 刃部断面三角形 茎部断面長方形	上層	PL145

第161号溝跡出土遺物観察表 (第676図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1128	土師質土器	小皿	6.9	2.1	3.0	雲母	褐灰	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後へら削り	覆土中	85% PL135

第166号溝跡出土遺物観察表 (第676図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1129	土師質土器	小皿	6.6	2.2	3.8	石英・雲母・赤色粒子・礫	橙	普通	ロクロナデ 底部回転系切り後へらナデ	覆土中	100% 油煙付着 PL135

(6) 道路跡

当調査区からは4条の道路跡が検出されており,第16~18号道路跡が中世,第15号道路跡が近世に相当する。第17号道路跡と第18号道路跡は当調査区の南部で合流しており,東部の調査区域外に延びている。以下,遺構の特徴について記述するが,ここでは土層断面図と出土遺物を掲載し,平面図は遺構全体図に示す。



### 第15号道路跡 (第677図)

**位置** 調査区北東部から南東部のQ 6 g5 ~ S 6 b1区, 標高22.0~23.0mの平坦な台地上から斜面上段に位置している。

**重複関係** 第2666・2686・2687・2691・2702・2703号住居跡, 第152号溝跡, 第59号地下式墳, 第4298号土坑を掘り込んでいる。

**規模と構造** 北部が調査区域外に延びているため, 確認できた長さは58.8mである。Q 6 g5区から南方向(S - 7° - W)に直線的に延び, R 6 j3区で南西方向(S - 42° - W)に彎曲して止まっている。規模は上幅170~210cmである。

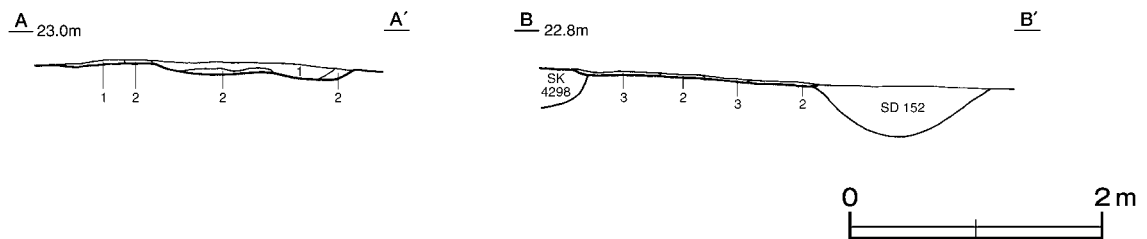
**覆土** 3層に分けられる。ローム粒子を多く含み, 締まりの強い堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                   |       |                      |
|-------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子多量           |       |                      |

**遺物出土状況** 土師質土器片6点(内耳鍋)のほか, 混入した土師器片2点, 須恵器片2点も出土している。

**所見** 掘り込みがほとんど無く上面が硬化していることから, 第152号溝跡の廃絶後, 道路として機能していたと考えられる。時期は, 出土土器と重複関係から17世紀前半以降と考えられる。



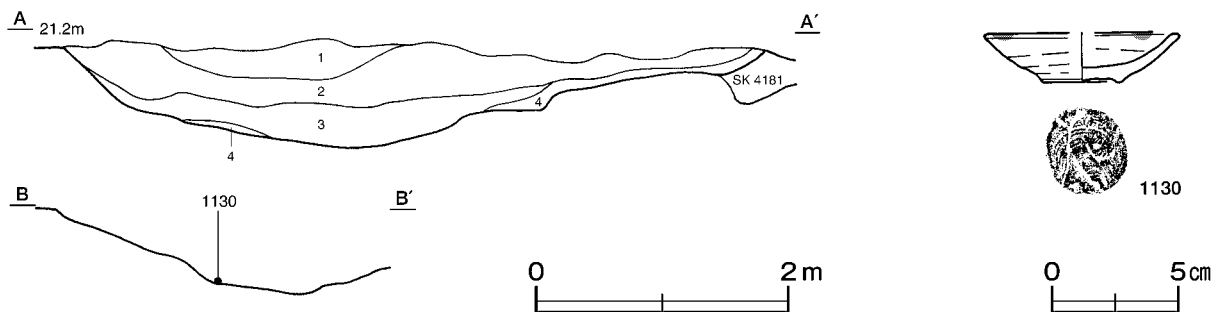
第677図 第15号道路跡実測図

### 第16号道路跡 (第678図)

**位置** 調査区南部のS 4 h7 ~ S 4 j0区, 標高21.0~21.5mの斜面上段から中段に位置している。

**重複関係** 第2596・2602号住居跡, 第4181号土坑を掘り込み, 第94号堀, 第80号方形竪穴遺構, 第4172・4179号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 東部が調査区域外に延びているため, 確認できた長さは13.0mである。S 4 h7区から東方向(E - 20° - S)に直線的に延び, 規模は上幅298~620cm, 下幅94~142cm, 深さ40~82cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。北側の壁は斜面を段切り状に整形して掘り込んだものと考えられる。底面は, 平坦で硬化している。



第678図 第16号道路跡・出土遺物実測図

**覆土** 4層に分けられる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                |       |         |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   | 3 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量,ローム粒子微量 | 4 褐色  | ローム粒子少量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片11点(小皿5,内耳鍋4,甕2),石器・石製品3点(砥石,石鏃,双孔円板)のほか,混入した土師器片59点,須恵器片11点も出土している。1130は東部の覆土下層から出土し,廃絶後間もなく遺棄されたものと考えられる。

**所見** 南側には中世の墓坑と考えられる土坑が数基確認されていることから,中世の区画的な機能も有していたと想定される。時期は,出土土器や重複関係16世紀前半と考えられる。

**第16号道路跡出土遺物観察表(第678図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1130	土師質土器	小皿	[7.6]	1.9	3.2	雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 底部回転糸切り	下層	55% 油煙付着

**第17号道路跡(第679図)**

**位置** 調査区南部のT4b7~T4b8区,標高20.5~21.0mの斜面部中段に位置している。

**重複関係** 第94号堀,第4175・4182号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** 東部が調査区域外に延びているため,確認できた長さは4.5mである。T4b7区から東方向(E-18°-S)に直線的に延び,規模は上幅393~445cm,下幅190~258cm,深さ67cmである。断面はU字状で,壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

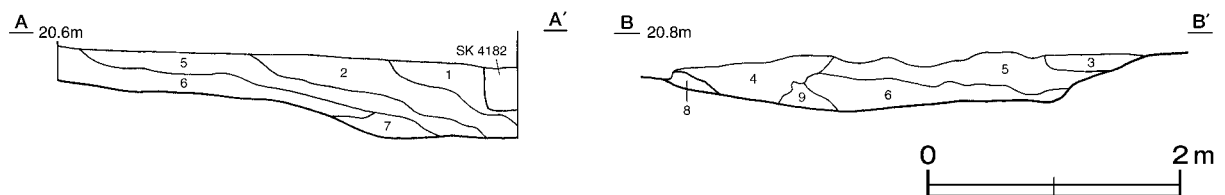
**覆土** 10層に分けられる。各層にロームや砂質粘土のブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積であり,西側から東側に向かって埋め戻されたと考えられる。底面は,平坦で硬化している。

**土層解説**

- |          |                             |        |                  |
|----------|-----------------------------|--------|------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量,ロームブロック少量,炭化粒子微量 | 5 褐色   | ロームブロック少量,炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色    | ロームブロック・炭化粒子微量              | 6 暗褐色  | ロームブロック少量        |
| 3 暗褐色    | ロームブロック少量,炭化粒子微量            | 7 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 4 暗褐色    | ロームブロック微量                   | 8 暗褐色  | 粘土ブロック・ローム粒子微量   |
|          |                             | 9 褐色   | ロームブロック少量        |

**遺物出土状況** 土師質土器片21点(小皿8,内耳鍋12,播鉢1),陶器片6点(常滑系甕4,碗2)のほか,磁器片2点が出土している。また,混入した土師器片21点,須恵器片1点も出土している。

**所見** 北側には中世の墓坑と考えられる土坑が数基確認されており,第16号道路と規模や形状が近似していることから,同じ時期に区画的な機能も有していたと想定される。時期は出土土器から16世紀前半と考えられる。



**第679図** 第17号道路跡実測図

### 第18号道路跡（第680図）

**位置** 調査区南西部から南部のT 4 a3 ~ T 4 b6 区，標高21.0~21.5mほどの斜面部中段に位置している。

**重複関係** 第87号井戸跡，第5256号土坑を掘り込み，第94号堀，第5257・5260号土坑に掘り込まれている。

**規模と構造** T 4 a3 区から東方向（E - 18° - S）に直線的に伸び，長さ13.4mが調査されている。規模は上幅148~248cm，下幅136~205cm，深さ20~48cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。中央部から西部の底面には，幅19~32cmの轍痕が確認されている。東部では，第94号堀を挟んで第17号道路跡に至り，下幅の規模が近似していることから同一の道路と考えられる。

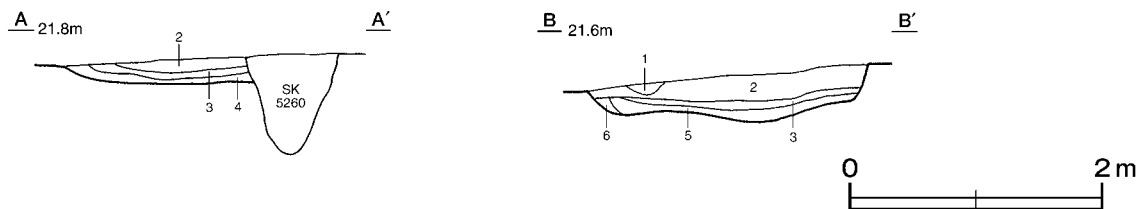
**覆土** 6層に分けられる。各層にロームブロックを多く含む堆積状況を示した人為堆積である。硬化面は第4・5層下で確認されている。

#### 土層解説

- |          |                     |          |                |
|----------|---------------------|----------|----------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量           | 4 黄灰色    | ロームブロック中量，鉄分沈着 |
| 2 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色    | ロームブロック中量，炭化粒子微量    | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量      |

**遺物出土状況** 五輪塔片2点のほか，混入した土師器片5点，須恵器片3点も出土している。

**所見** 底面は平坦で硬化し，轍痕が確認できる。東側にある第17号道路跡と同一の道路であり，同時期に機能していたと考えられる。出土遺物が少なく，いずれも細片であるため時期判断は困難であるが，重複関係から16世紀前半と考えられる。



第680図 第18号道路跡実測図

#### (7) 井戸跡

今回の調査で，56基の井戸跡が確認された。これらは，掘り方の形状から次の3種類に分類される。

ア 円筒状の井戸跡

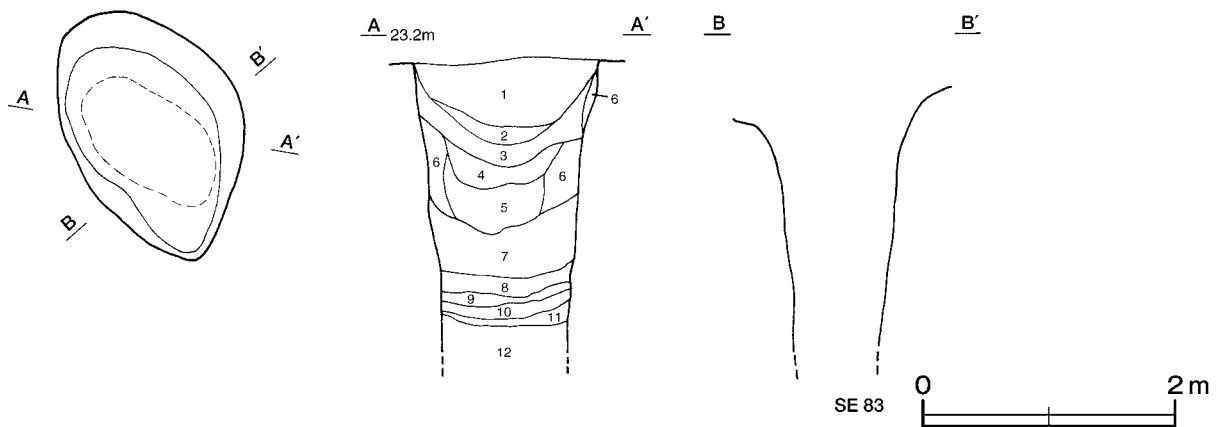
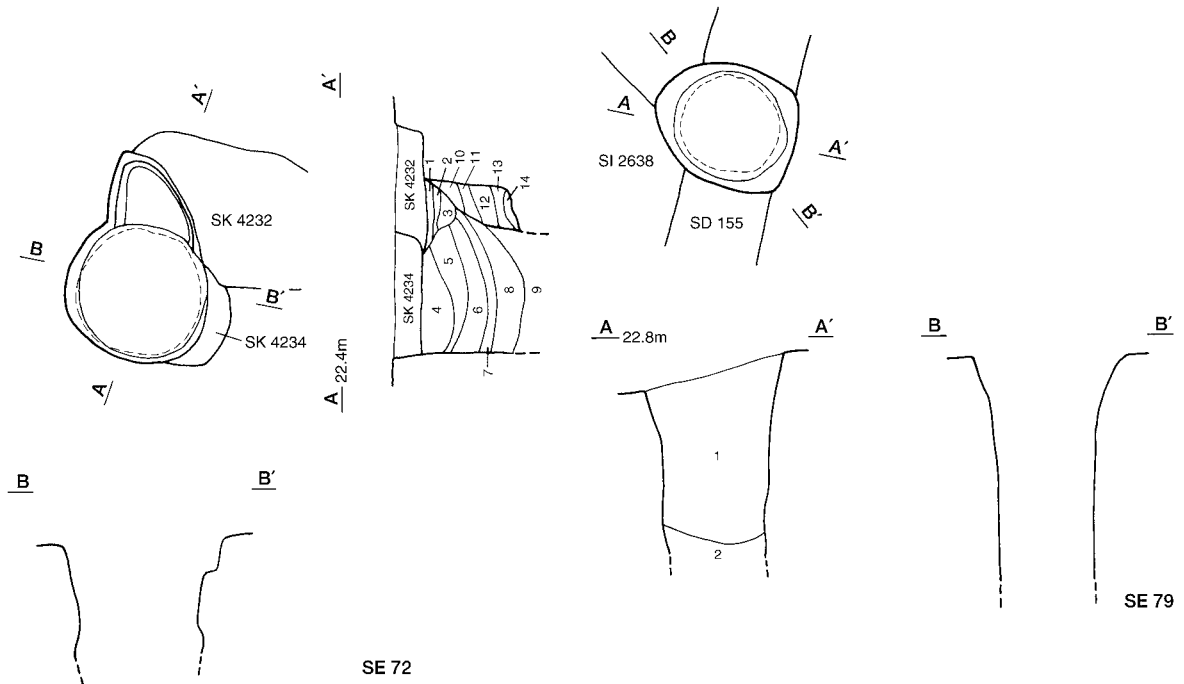
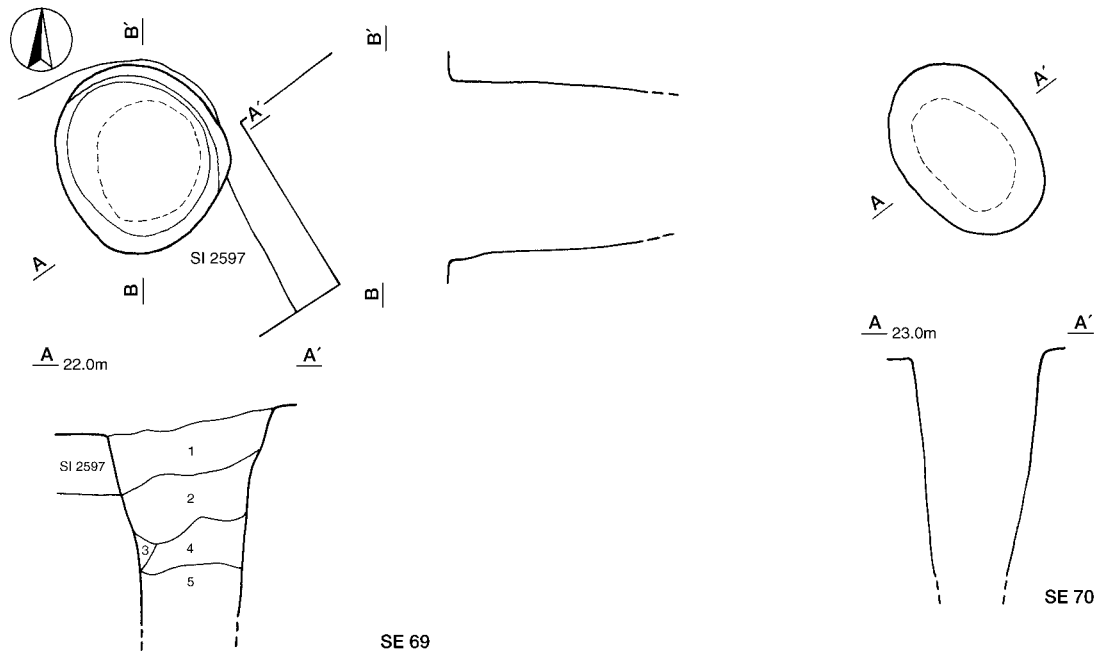
イ 漏斗状の井戸跡

ウ 二段掘りまたは漏斗状で，井戸枠を埋設した版築状の埋土がみられる井戸跡

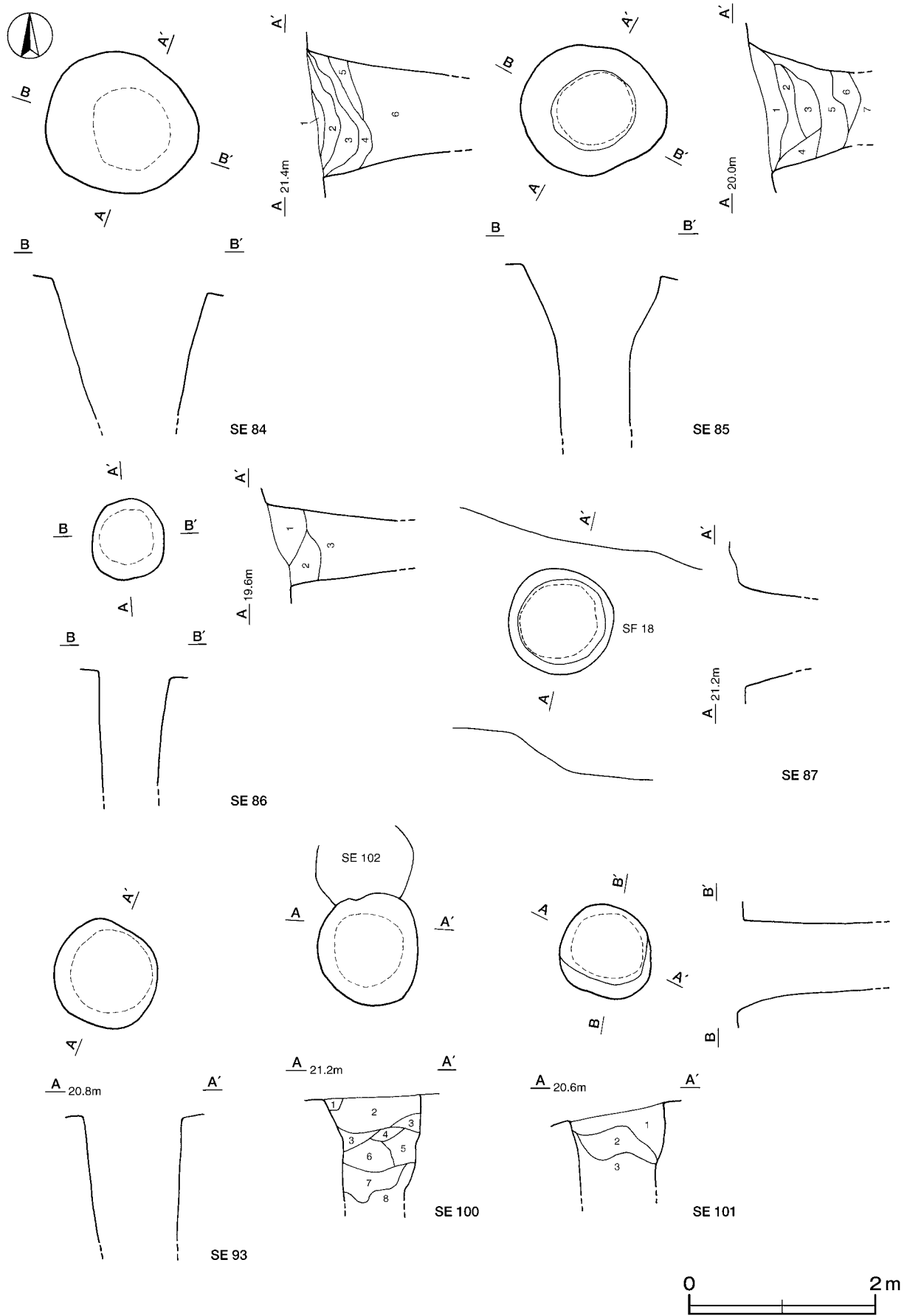
以下，形状別に実測図と土層解説で紹介する。

#### ア 円筒状の井戸跡（第681~685図）

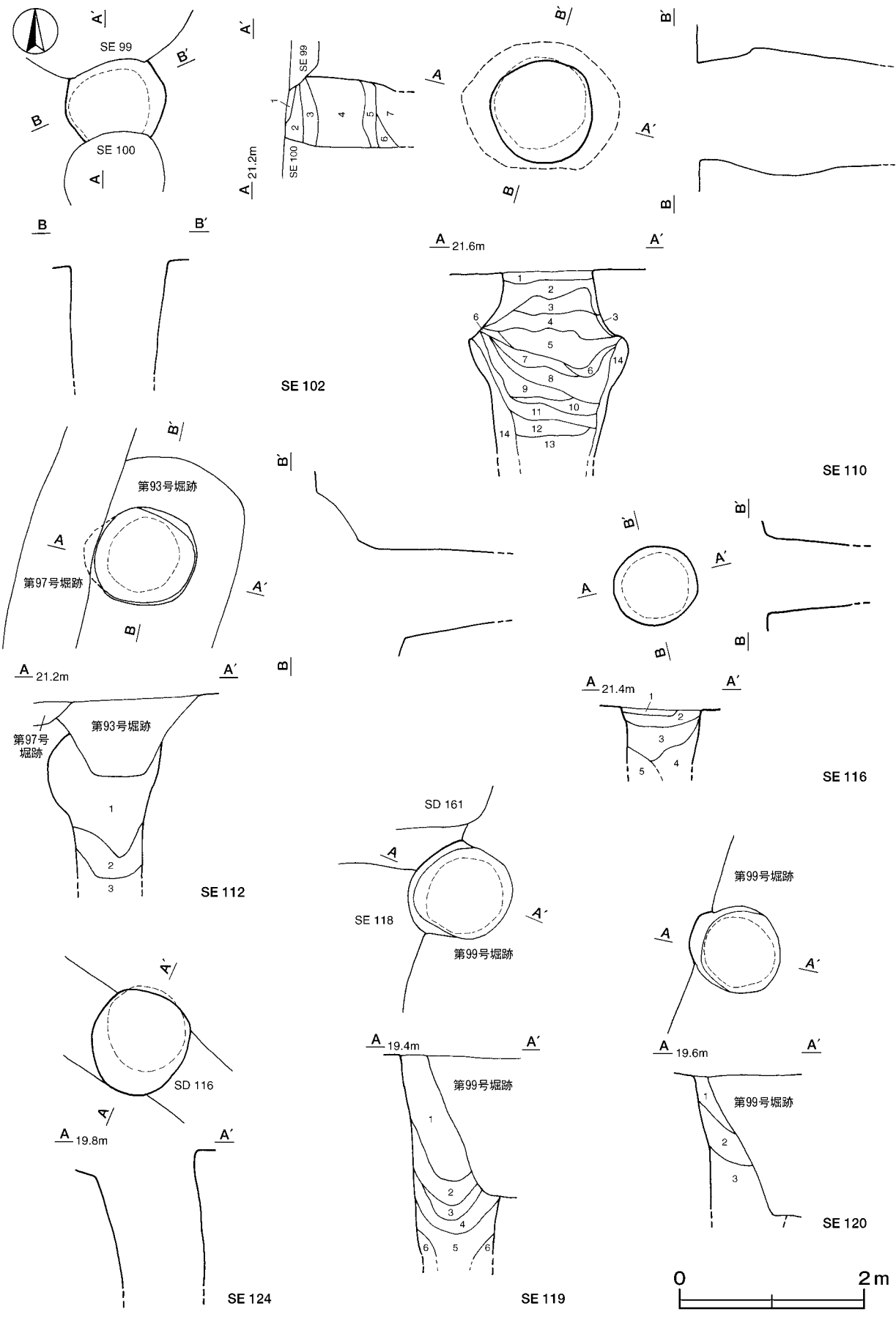
22基。標高22.0~23.0mの台地縁辺部に5基，標高19.5~21.0mの斜面部中段に17基が確認されている。平面形は円形で，壁はほぼ垂直な円筒状であり，素掘りの井戸と推定される。覆土はロームブロックや粘土ブロックを多く含む人為堆積である。出土遺物が極めて少なく，いずれも細片であるため時期を特定することはできないが，重複関係から漏斗状の井戸跡や二段掘りの井戸跡よりも古い様相を示している。



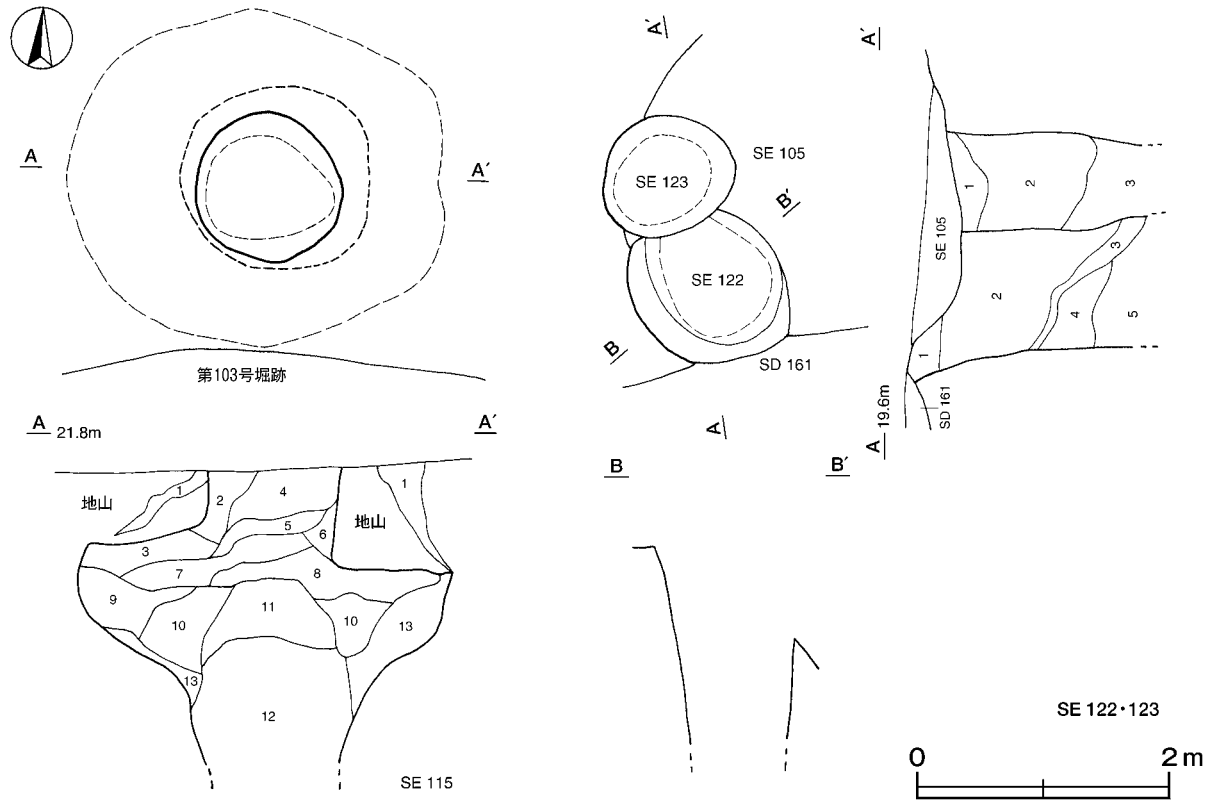
第681図 円筒状の井戸跡実測図(1)



第682図 円筒状の井戸跡実測図(2)



第683図 円筒状の井戸跡実測図(3)



第684図 円筒状の井戸跡実測図(4)

**第69号井戸跡土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

**第72号井戸跡土層解説**

- 1 明褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量，粘土粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 10 明褐色 ロームブロック中量
- 11 褐色 ローム粒子中量
- 12 明褐色 ローム粒子多量
- 13 褐色 ローム粒子中量，粘土粒子微量
- 14 明褐色 ロームブロック多量

**第79号井戸跡土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

**第83号井戸跡土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
- 6 明褐色 ローム粒子多量
- 7 褐色 ローム粒子多量
- 8 にぶい黄褐色 ローム粒子多量
- 9 暗褐色 ロームブロック多量
- 10 黒褐色 ローム粒子・粘土ブロック少量
- 11 褐色 ロームブロック多量
- 12 黒褐色 ロームブロック少量

**第84号井戸跡土層解説**

- 1 黒褐色 粘土粒子少量，ロームブロック微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 4 暗灰黄色 粘土粒子多量，ロームブロック少量
- 5 暗オリブ褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量

**第85号井戸跡土層解説**

- 1 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 褐色 粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 7 黒褐色 粘土粒子中量，ローム粒子微量

**第86号井戸跡土層解説**

- 1 黒褐色 粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

**第100号井戸跡土層解説**

- 1 明褐色 粘土粒子多量,炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量,炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量,炭化物少量,粘土粒子微量
- 6 にぶい橙色 粘土粒子多量,ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 にぶい褐色 粘土ブロック多量,ローム粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

**第101号井戸跡土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量,ローム粒子・炭化粒子微量

**第102号井戸跡土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 明黄褐色 粘土粒子多量,ローム粒子微量
- 3 黄褐色 粘土粒子多量,ローム粒子微量
- 4 にぶい褐色 粘土ブロック多量
- 5 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 黄褐色 粘土ブロック多量,ローム粒子微量
- 7 明黄褐色 粘土ブロック多量,ローム粒子微量

**第110号井戸跡土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量,焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量,焼土ブロック微量
- 6 暗オリーブ褐色 粘土粒子中量,ロームブロック少量
- 7 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量
- 9 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 10 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 11 暗褐色 ロームブロック微量
- 12 灰黄褐色 ローム粒子少量
- 13 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 14 暗オリーブ褐色 ロームブロック中量

**第112号井戸跡土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子少量,粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 褐色 粘土ブロック少量,ローム粒子微量

**第115号井戸跡土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 7 黒褐色 焼土ブロック少量,ロームブロック・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック多量
- 10 黒褐色 ローム粒子微量
- 11 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 12 黒褐色 黒色土ブロック多量
- 13 黒褐色 ローム粒子少量,粘土ブロック微量

**第116号井戸跡土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 褐灰色 粘土ブロック中量,ロームブロック少量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック多量,ロームブロック少量
- 4 暗褐色 粘土粒子少量,ローム粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 粘土粒子多量,ロームブロック少量

**第119号井戸跡土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 黄灰色 粘土ブロック中量,ロームブロック少量
- 3 灰色 粘土粒子多量,ロームブロック中量
- 4 オリーブ褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 5 黒褐色 炭化物中量,粘土ブロック少量
- 6 黒色 ロームブロック・粘土粒子少量

**第120号井戸跡土層解説**

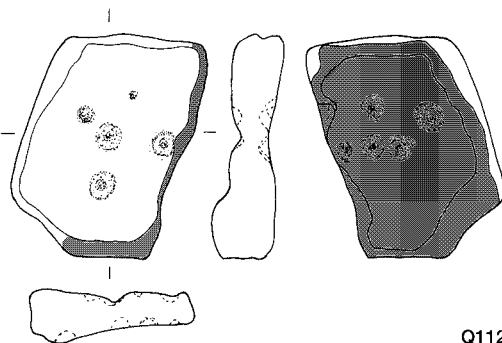
- 1 黒褐色 粘土ブロック少量
- 2 黒色 粘土粒子微量
- 3 黒色 黒色土粒子多量

**第122号井戸跡土層解説**

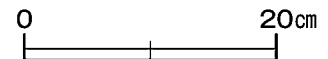
- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量,焼土粒子少量
- 3 黒褐色 黒色土粒子多量,粘土粒子微量
- 4 褐灰色 黒色土粒子多量,粘土ブロック中量
- 5 灰黄褐色 粘土粒子多量

**第123号井戸跡土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子多量,粘土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子多量,粘土粒子微量
- 3 灰黄褐色 ローム粒子多量,粘土粒子微量



Q112



**第685図 円筒状の井戸跡出土遺物実測図**

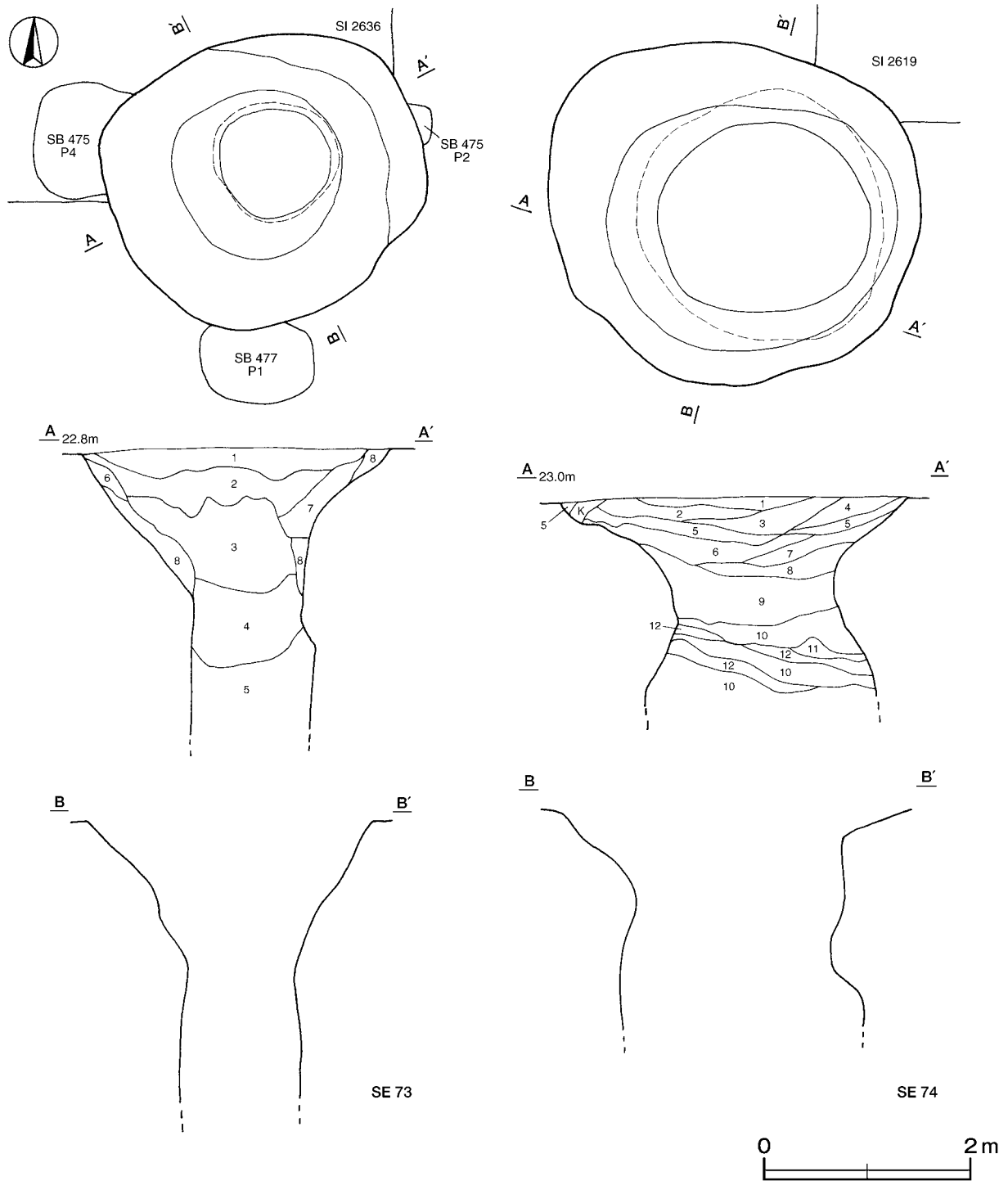
第120号井戸跡出土遺物観察表 (第685図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q112	凹石	17.7	15.8	5.6	1781.4	雲母片岩	石材転用力(用途不明) 表・裏面凹み10ヵ所	覆土中	煤付着

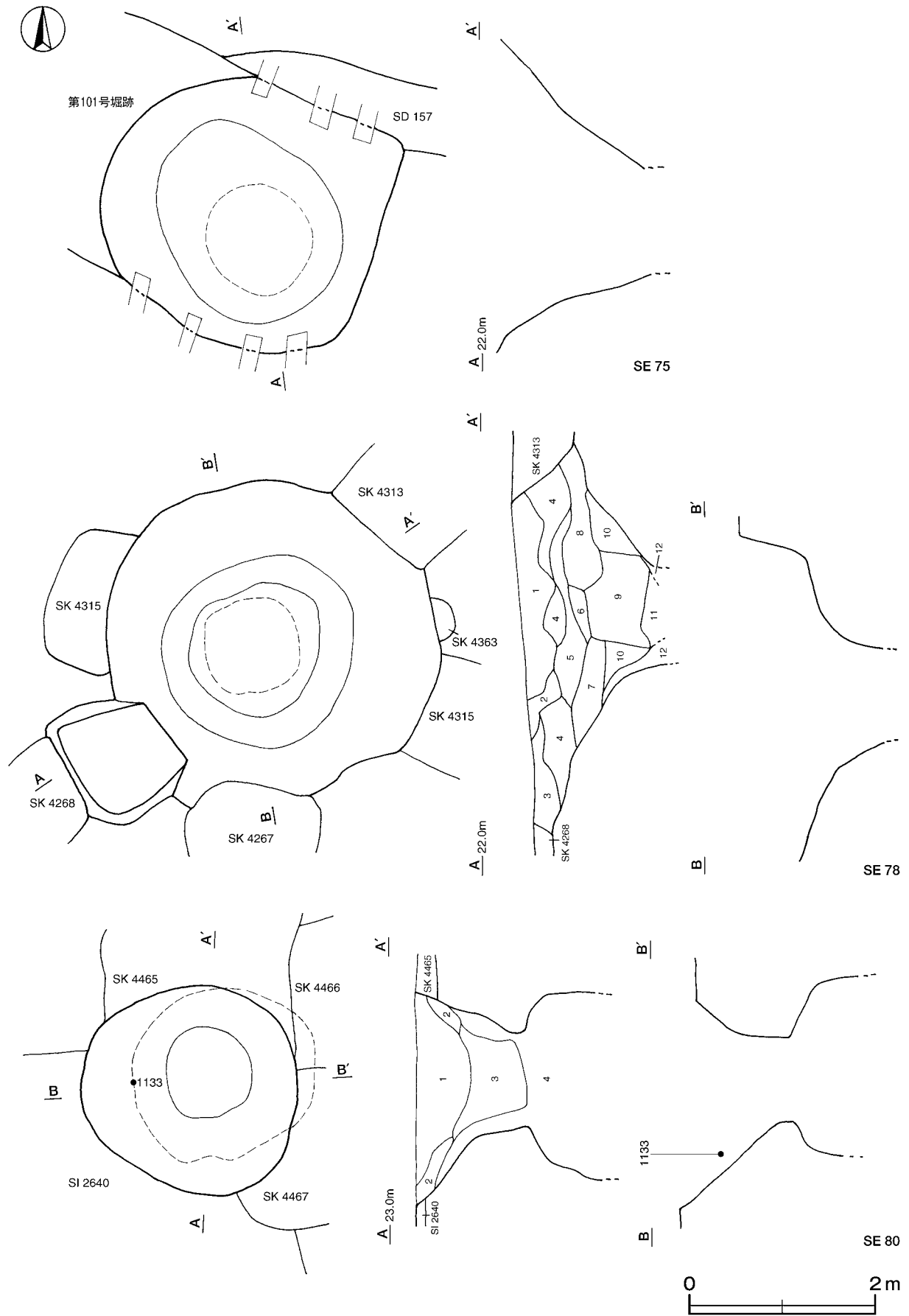


イ 漏斗状の井戸跡 (第686~693図)

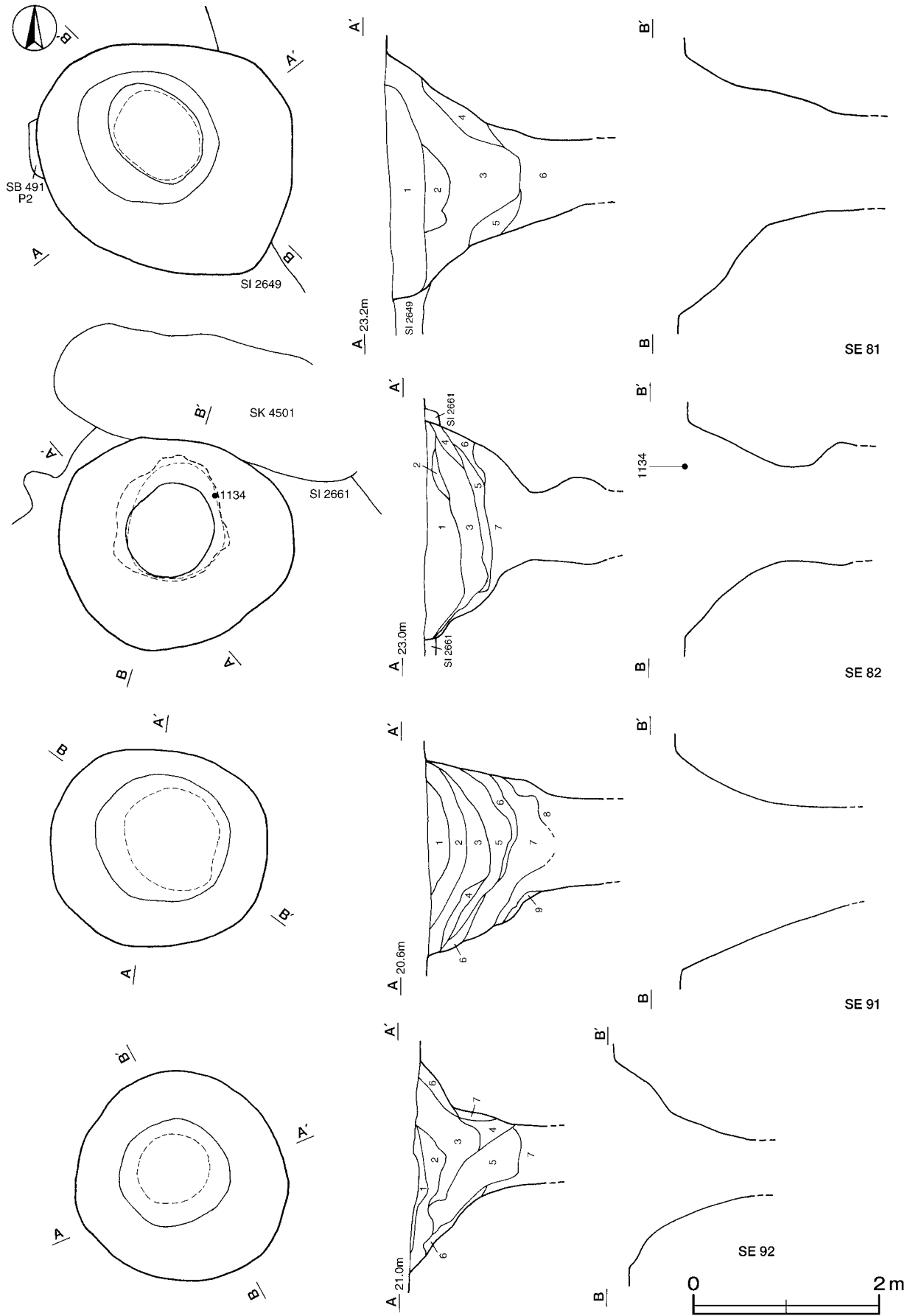
20基。標高22.0~23.0mの平坦な台地上から縁辺部に8基、標高19.5~21.0mの斜面部中段に12基が確認されている。平面形は円形で、断面形は漏斗状である。覆土は複雑な堆積状況を示した人為堆積で、廃絶後に埋め戻された状況が見られる。井戸枠の抜き取り痕は認められないことから、素掘りの井戸と推定される。15世紀後半から17世紀前半の時期の土器類が出土しており、中世後半から近世前半にかけて一般的な形状であったと考えられる。



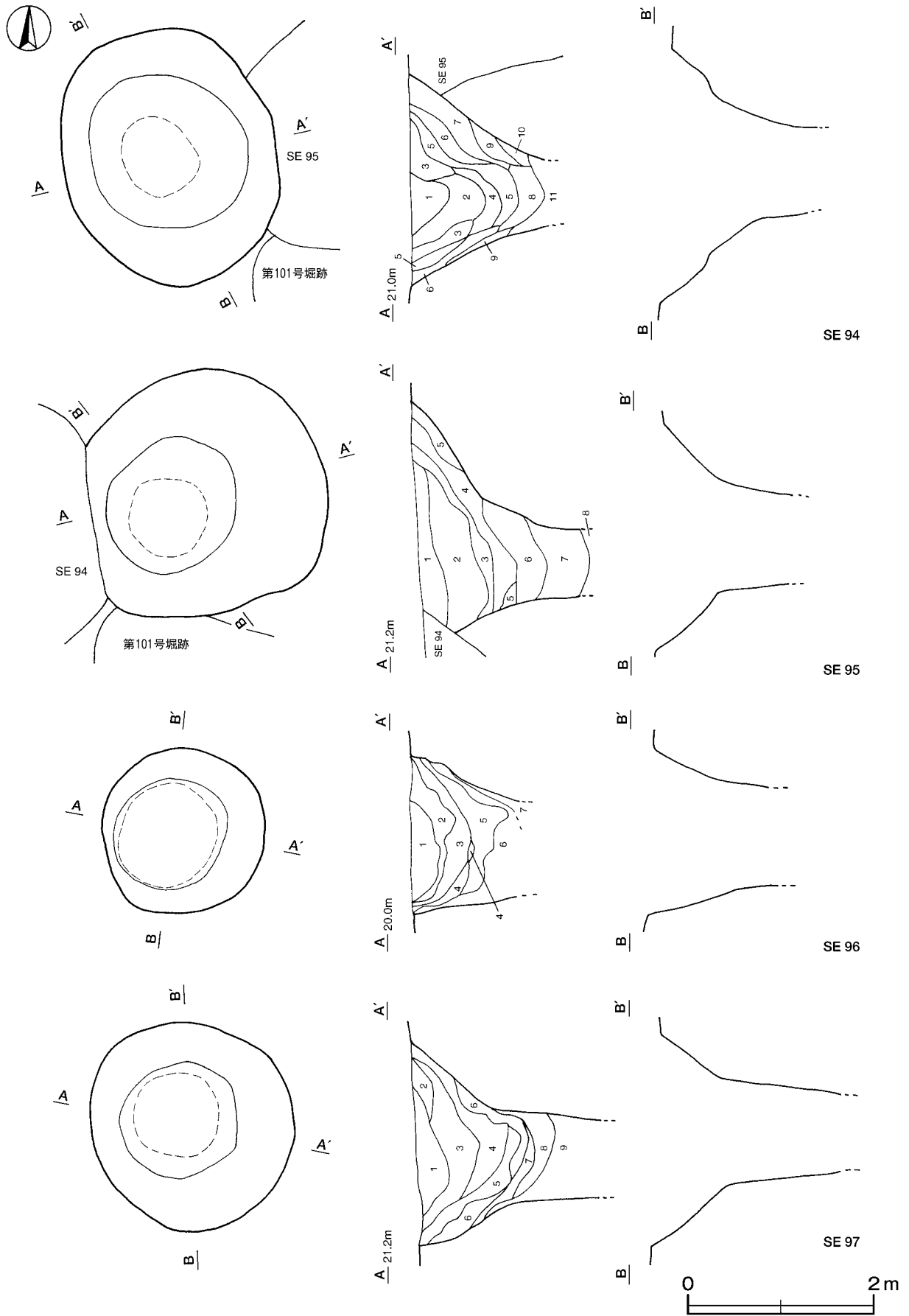
第686図 漏斗状の井戸跡実測図(1)



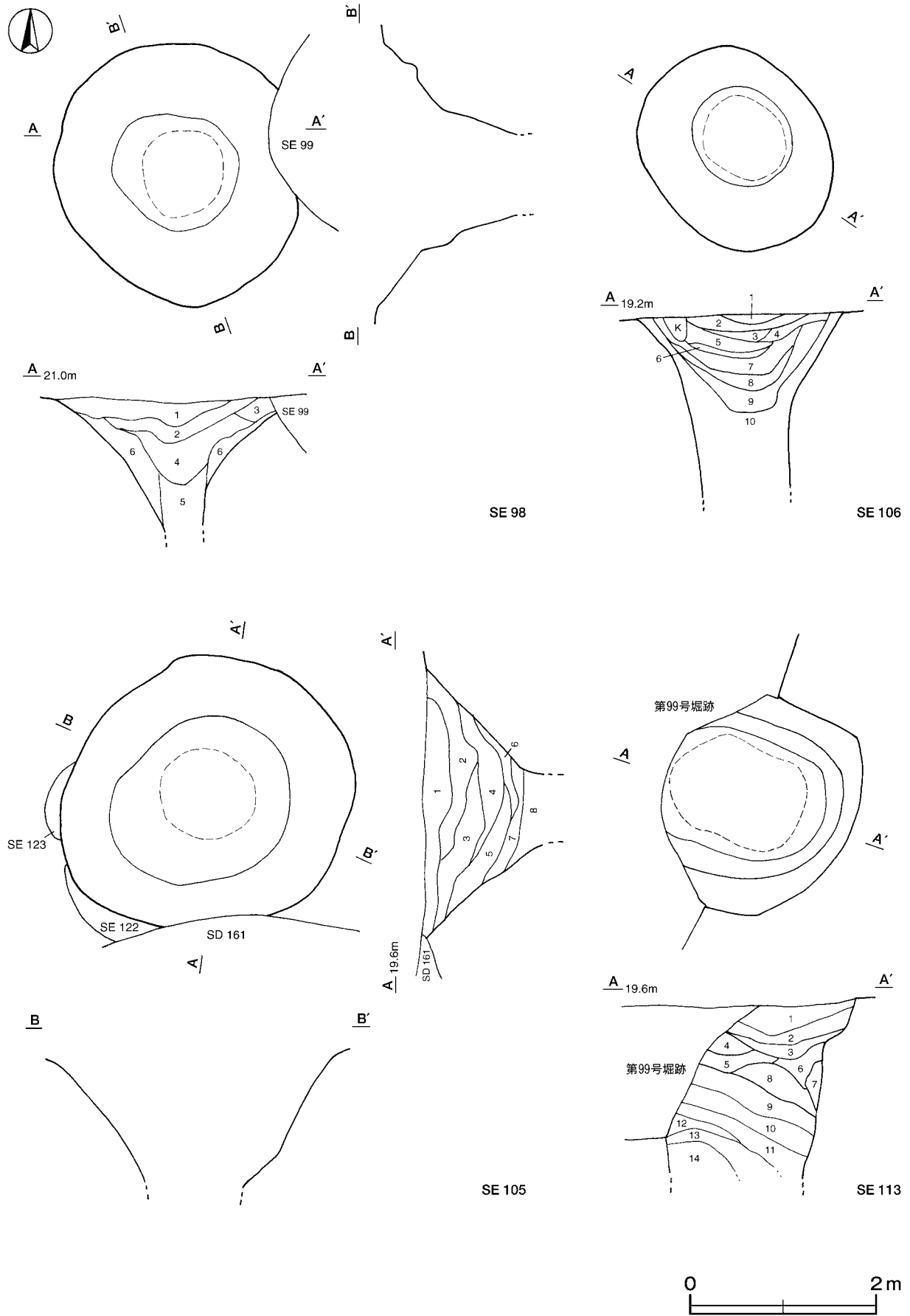
第687図 漏斗状の井戸跡実測図(2)



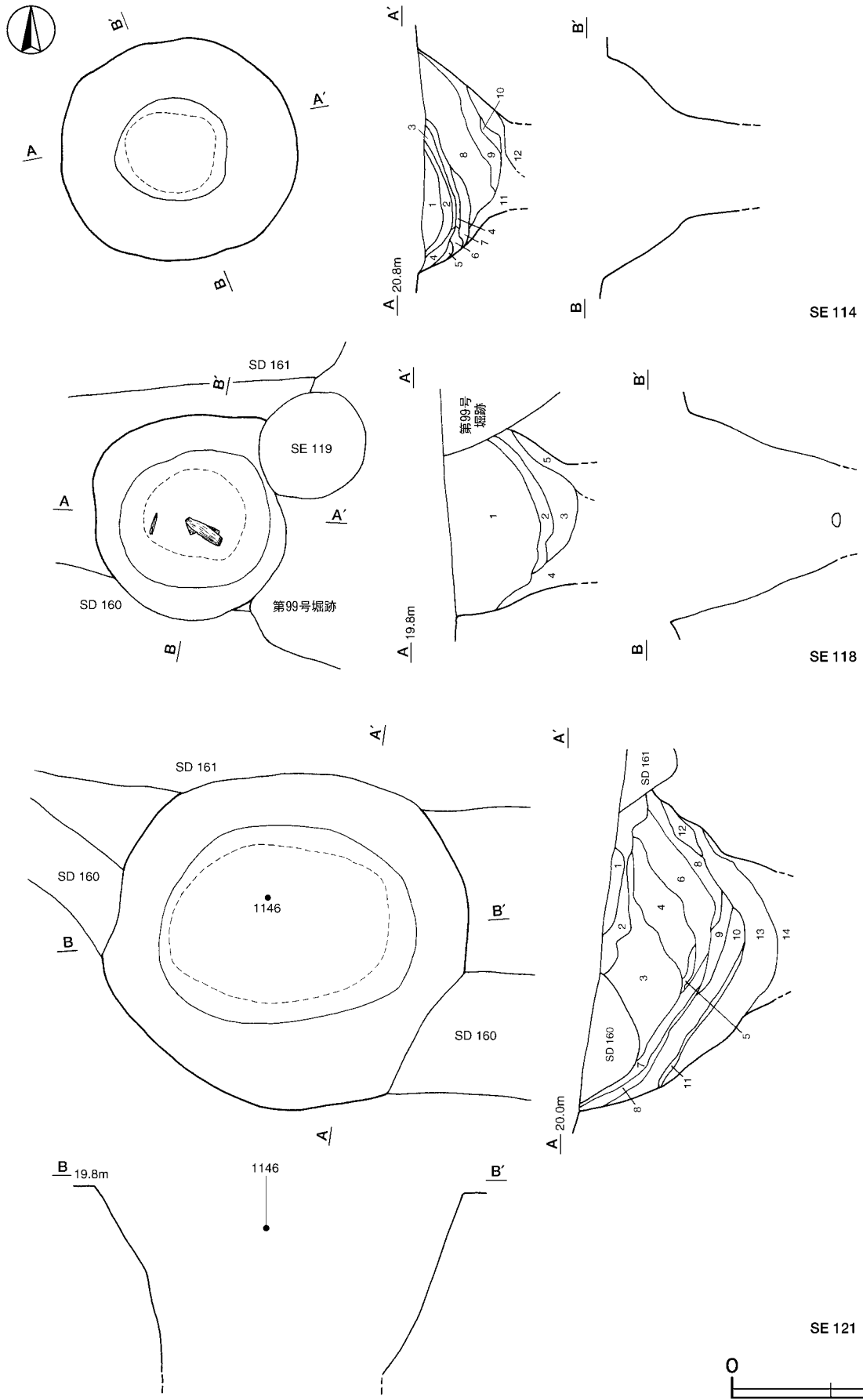
第688図 漏斗状の井戸跡実測図(3)



第689図 漏斗状の井戸跡実測図(4)



第690図 漏斗状の井戸跡実測図(5)



第691図 漏斗状の井戸跡実測図(6)

**第73号井戸跡土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 炭化物・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子中量

**第74号井戸跡土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック多量,焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量,炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック多量,炭化粒子微量
- 10 にぶい褐色 暗褐色土ブロック多量,炭化物微量
- 11 明褐色 ローム粒子多量,炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量,焼土粒子微量

**第78号井戸跡土層解説**

- 1 褐色 粘土粒子中量,ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量,粘土粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量,粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量,粘土ブロック・炭化粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 8 褐色 ロームブロック中量,粘土粒子少量,炭化物微量
- 9 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量,焼土粒子微量
- 10 褐色 ロームブロック・粘土粒子中量,炭化粒子微量
- 11 褐色 ロームブロック中量,炭化粒子・粘土粒子少量
- 12 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量,炭化物少量

**第80号井戸跡土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗灰黄色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 オリーブ褐色 ロームブロック多量,炭化物少量,焼土粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ローム粒子少量

**第81号井戸跡土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量,炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量,炭化物・焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量

**第82号井戸跡土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子・粘土粒子少量
- 7 にぶい黄褐色 ローム粒子・粘土粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子微量

**第91号井戸跡土層解説**

- 1 褐色灰色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック・炭化粒子少量,焼土粒子微量
- 3 灰黄褐色 炭化粒子少量,焼土粒子微量
- 4 黄灰色 粘土粒子少量
- 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量
- 6 灰黄褐色 粘土ブロック多量
- 7 暗褐色 粘土粒子微量
- 8 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量
- 9 黒褐色 粘土ブロック少量

**第92号井戸跡土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 にぶい褐色 粘土粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量,粘土ブロック微量
- 5 明褐色 粘土粒子多量,ローム粒子微量
- 6 褐色 粘土粒子少量,ロームブロック微量
- 7 灰褐色 ロームブロック中量

**第94号井戸跡土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 粘土粒子多量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量,粘土ブロック少量
- 8 灰黄褐色 粘土ブロック少量
- 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量
- 10 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 11 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量

**第95号井戸跡土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック多量,焼土ブロック少量,炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子多量,ロームブロック少量,焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量,粘土粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック多量,粘土ブロック少量
- 5 灰黄褐色 粘土ブロック多量
- 6 褐色 ロームブロック多量,粘土粒子微量
- 7 にぶい黄褐色 ローム粒子多量
- 8 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

**第96号井戸跡土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量,粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量,粘土粒子微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量,粘土ブロック少量
- 4 褐色灰色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量,粘土粒子中量
- 6 褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量
- 7 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

**第97号井戸跡土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック多量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量,粘土粒子微量
- 5 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック中量,粘土ブロック微量
- 7 褐色灰色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 8 灰黄褐色 ロームブロック少量,粘土ブロック微量
- 9 灰黄褐色 ロームブロック中量

**第98号井戸跡土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量,炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量,炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量,粘土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子多量

**第105号井戸跡土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量,炭化物微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量,炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色灰色 粘土ブロック少量,ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 粘土粒子多量,ローム粒子微量
- 5 黄灰色 粘土粒子多量
- 6 黄褐色 粘土粒子多量
- 7 オリーブ褐色 粘土粒子多量,ローム粒子微量
- 8 黒褐色 粘土粒子多量

第106号井戸跡土層解説

- 1 灰黄色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗灰黄色 粘土粒子多量，ローム粒子微量
- 4 黄褐色 粘土ブロック中量，ローム粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量
- 6 灰色 粘土粒子少量
- 7 黄褐色 粘土ブロック多量
- 8 黄灰色 粘土ブロック中量
- 9 暗灰黄色 粘土ブロック多量
- 10 灰色 粘土粒子少量

第113号井戸跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量，粘土ブロック中量，焼土粒子微量
- 2 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量，粘土ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量
- 6 黄褐色 ロームブロック多量，粘土ブロック少量
- 7 灰黄色 粘土ブロック多量，ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量
- 9 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 10 灰黄色 粘土ブロック多量，ロームブロック少量
- 11 黒褐色 粘土ブロック中量，ローム粒子少量
- 12 黒色 粘土ブロック中量
- 13 灰黄褐色 粘土ブロック中量
- 14 黒褐色 粘土粒子微量

第114号井戸跡土層解説

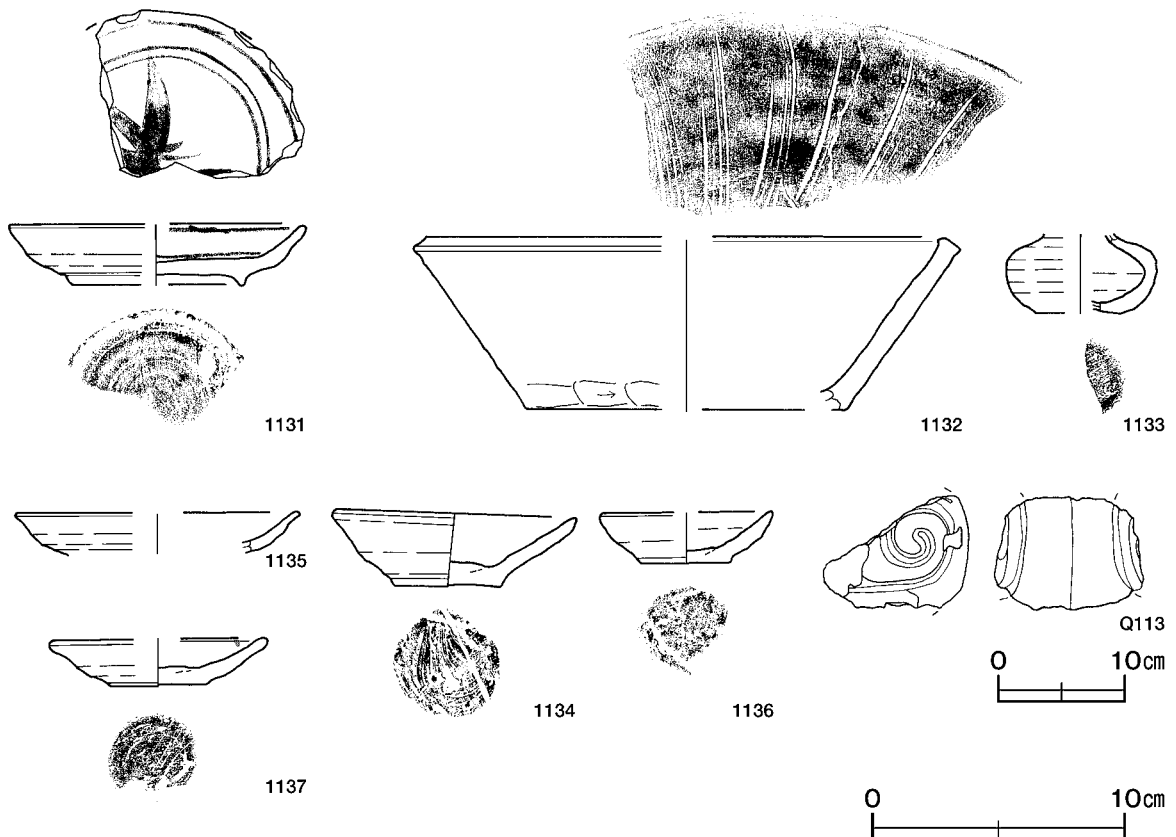
- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 にぶい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
- 9 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，ローム粒子少量
- 10 黒褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 11 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，ローム粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子少量

第118号井戸跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量，ロームブロック少量
- 5 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

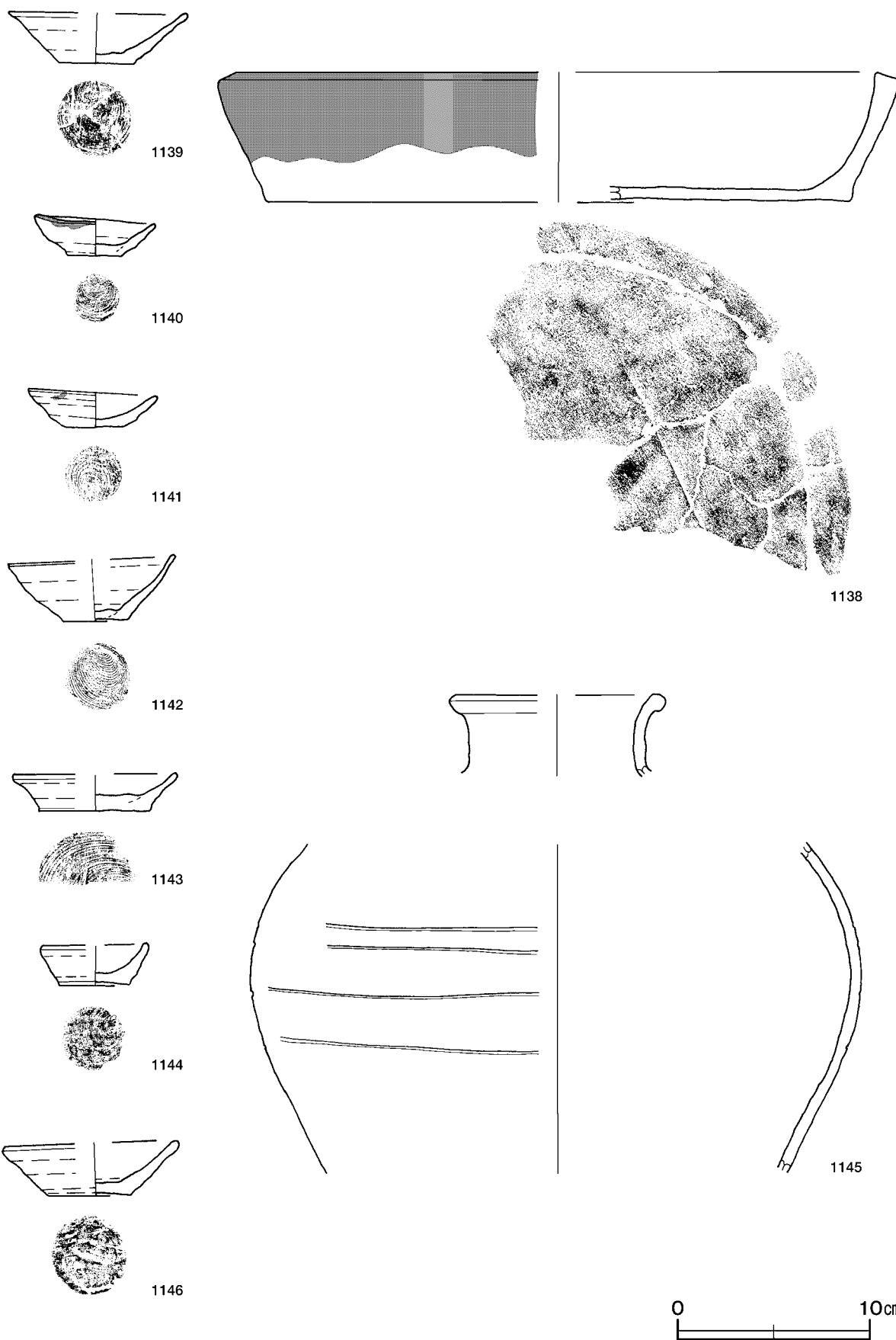
第121号井戸跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子多量，ローム粒子微量
- 4 褐色 粘土ブロック中量
- 5 暗褐色 粘土ブロック少量
- 6 褐色 粘土粒子少量
- 7 褐色 粘土粒子中量
- 8 にぶい黄褐色 粘土粒子中量
- 9 にぶい褐色 粘土ブロック多量
- 10 にぶい橙色 粘土粒子多量
- 11 黒褐色 粘土ブロック微量
- 12 灰褐色 粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 にぶい褐色 粘土ブロック少量
- 14 にぶい褐色 粘土ブロック多量



第692図 漏斗状の井戸跡出土遺物実測図(1)





第693図 漏斗状の井戸跡出土遺物実測図(2)

第75号井戸跡出土遺物観察表 (第692図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1131	陶器	鉄絵皿	[11.6]	2.4	[6.7]	精良・長石釉	灰白	良好	口ク口成形 鉄絵 削りだし高台 体部内・外面長石釉 内面草花文の 底部無釉 外面トチン痕	覆土中	30% 志野系

第80号井戸跡出土遺物観察表 (第692図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1132	土師質土器	播鉢	(20.5)	6.8	[12.5]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口ク口成形 内面3条1単位の摺り目 体部下 端手持ちヘラ削り	覆土中	10%
1133	陶器	水滴	-	(3.1)	[3.4]	長石・灰釉	にぶい黄橙	良好	口ク口成形 体部内・外面灰釉 底部回転系切り	上層	40% 瀬戸・美濃系

第82号井戸跡出土遺物観察表 (第692図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1134	土師質土器	小皿	9.4	3.1	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口ク口ナデ 体部内面ナデ 底部 回転系切り	上層	90% PL135
1135	陶器	灰釉 端反皿	[11.2]	(1.7)	-	長石・石英・灰釉	灰黄	普通	口ク口成形 体部内・外面灰釉 体部下位回転 へら削り	上層	5%

第91号井戸跡出土遺物観察表 (第692図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1136	土師質土器	小皿	[6.8]	2.1	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ク口ナデ 体部内面ナデ 底部 回転系切り	覆土中	55%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q113	石幢	(11.4)	(11.9)	(8.8)	(1.35)	花崗岩	笠宝蔵部	覆土中	

第92号井戸跡出土遺物観察表 (第692図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1137	土師質土器	小皿	(8.1)	1.9	3.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口ク口ナデ 体部内面ナデ 底部 回転系切り	覆土中	55% 油煙付着

第94号井戸跡出土遺物観察表 (第693図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1138	土師質土器	内耳鍋	[35.4]	6.8	[30.3]	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ 体部外面ナデ 内面ヘラナデ 底部板状圧痕	床面	20% 体部 外面煤付着

第97号井戸跡出土遺物観察表 (第693図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1139	土師質土器	小皿	[9.0]	2.7	4.0	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口ク口ナデ 体部内面ナデ 底部 回転系切り	覆土中	60%
1140	土師質土器	小皿	6.1	2.2	2.9	雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口ク口ナデ 体部内面ナデ 底部 回転系切り	覆土中	100% 油煙 付着 PL135
1141	土師質土器	小皿	6.6	2.1	2.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ク口ナデ 底部回転系切り	覆土中	90% 油煙 付着 PL135
1142	土師質土器	小皿	[8.5]	3.3	3.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ク口ナデ 体部内面ナデ 底部 回転系切り	覆土中	70%

第98号井戸跡出土遺物観察表 (第693図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1143	土師質土器	小皿	[8.4]	2.0	5.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ク口ナデ 体部内面ナデ 底部 回転系切り	覆土中	20%

第105号井戸跡出土遺物観察表（第693図）

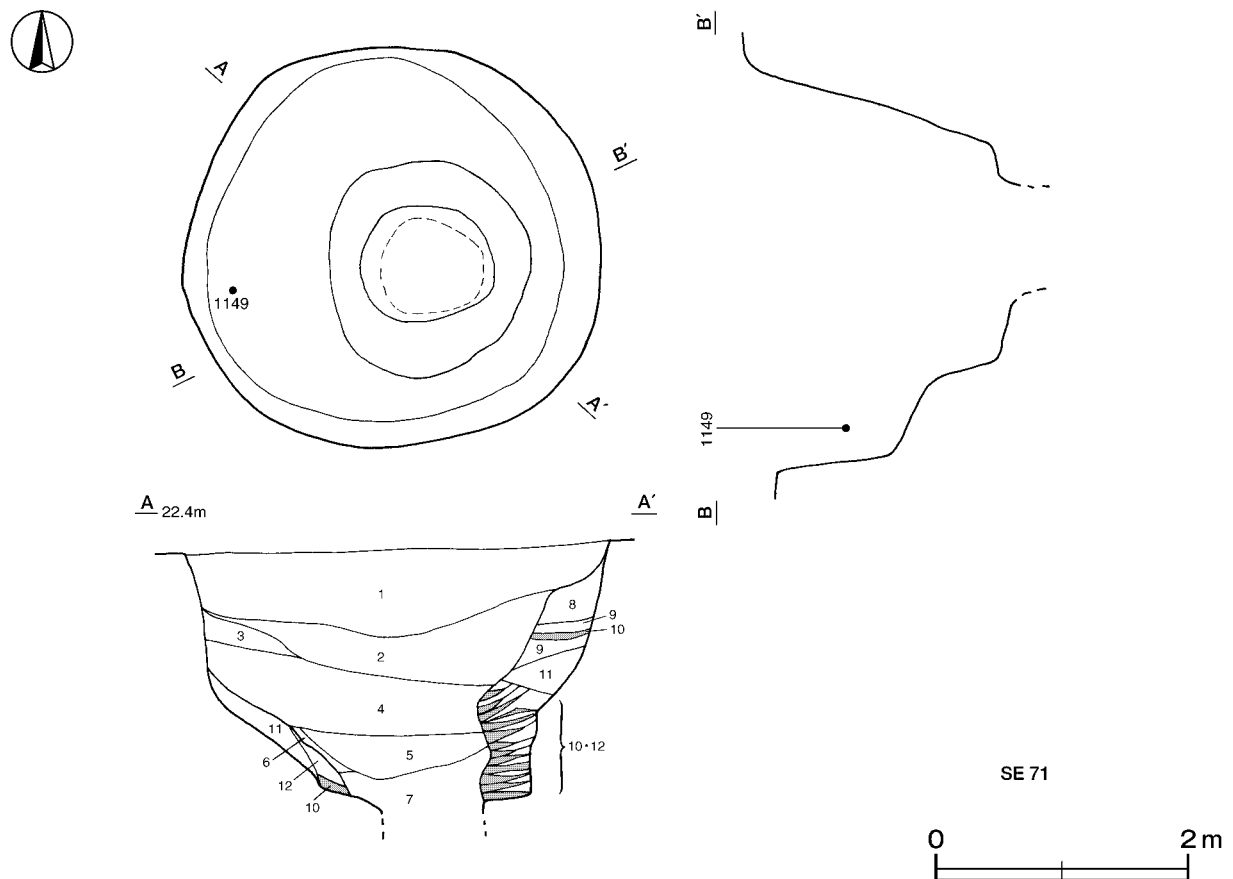
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1144	土師質土器	小皿	[5.5]	2.2	3.7	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	80%
1145	土師質土器	甕	[10.4]	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外面横ナデ 体部外面横位の沈線4条	覆土中	10%

第121号井戸跡出土遺物観察表（第693図）

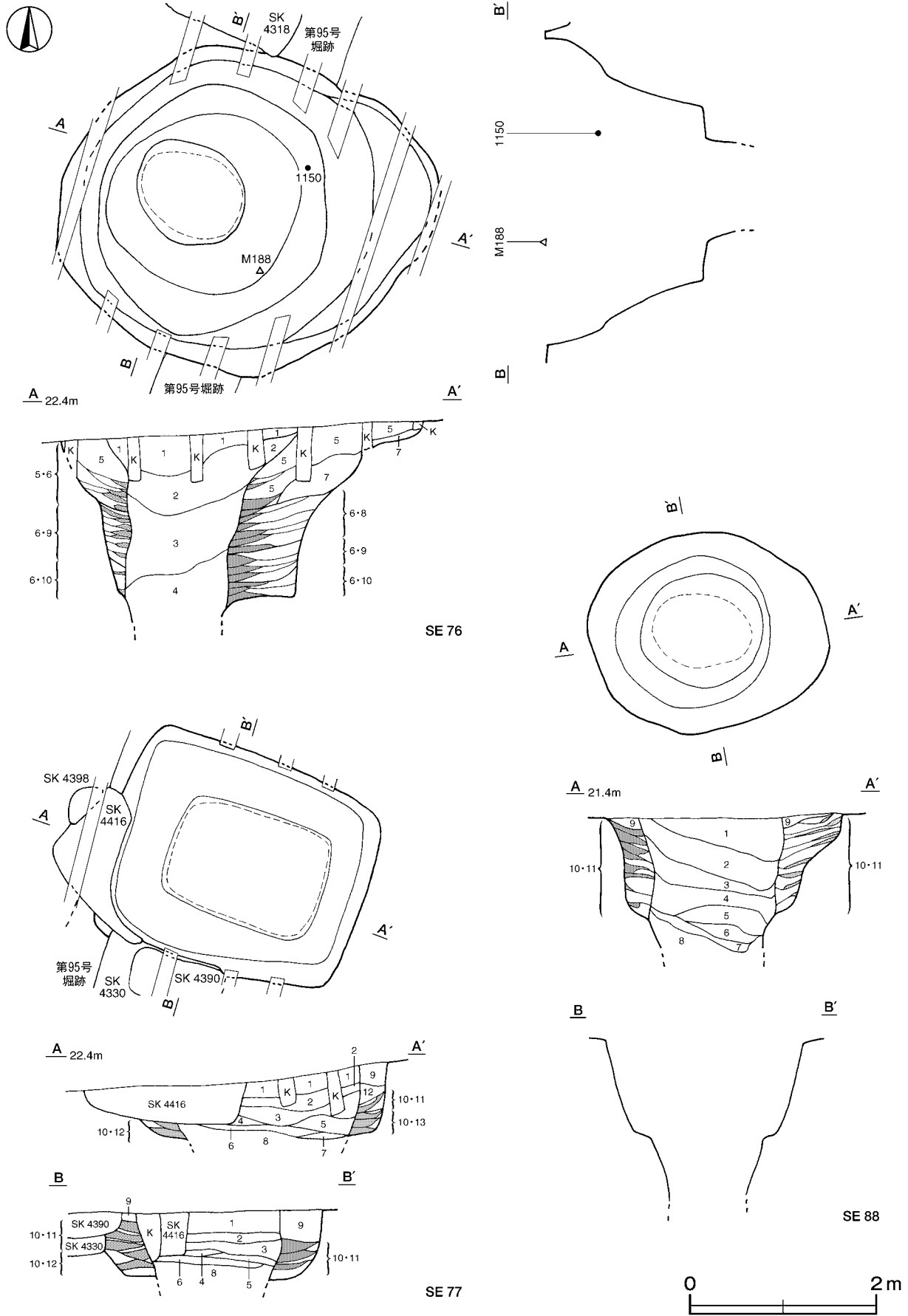
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1146	土師質土器	小皿	[8.9]	2.9	4.2	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	上層	70%

ウ 二段掘りの井戸跡（第694～701図）

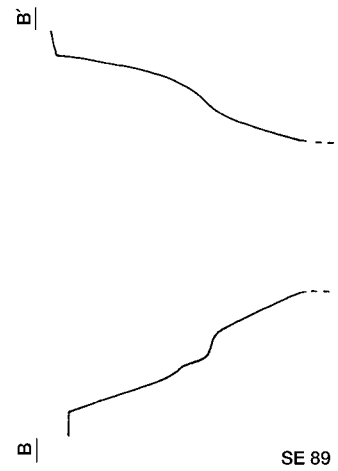
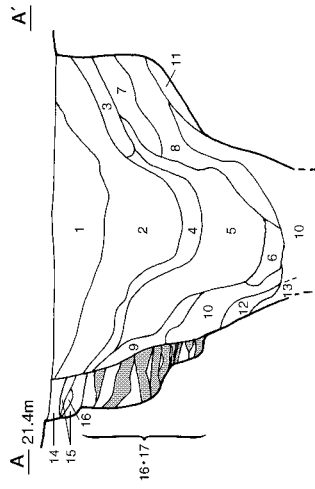
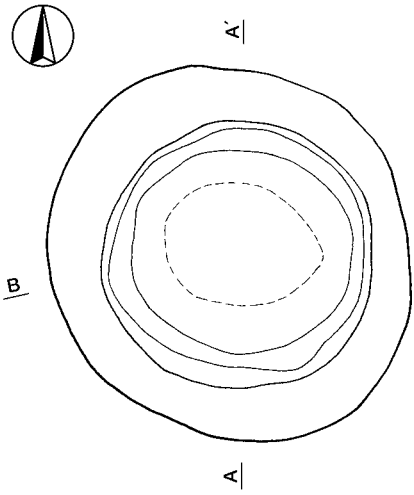
14基。標高22.5mほどの台地縁辺部に3基，標高20.5～21.0mの斜面部上段に11基が確認されている。平面形は円形で，断面形は二段掘りまたは漏斗状である。開口部には，黒色土とローム土が版築状に埋土されており，壁部の崩落を防ぐための井戸枠が設置されていたと推定される。形状から曲物の桶枠が用いられていた可能性が高いが，井戸枠は廃絶時に抜き取られて遺存していない。覆土はロームブロックや粘土ブロックを多く含む人為堆積である。出土遺物が少ないため明確な時期は判断できないが，出土土器の時期は16世紀後半に集中する傾向がみられ，素掘りの円筒状の井戸跡や漏斗状の井戸跡より新しい様相を示している。



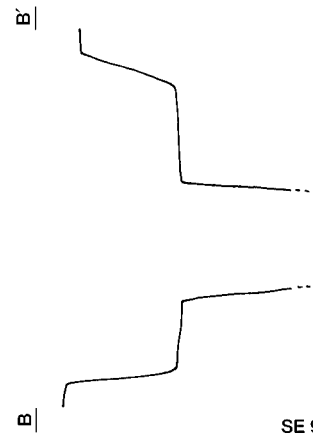
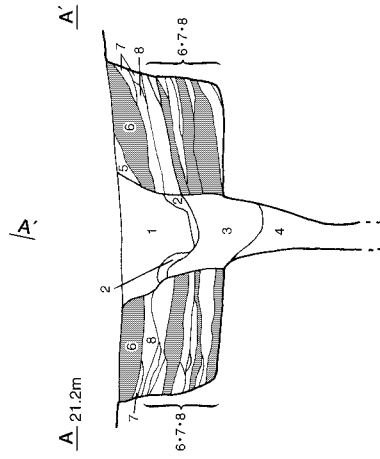
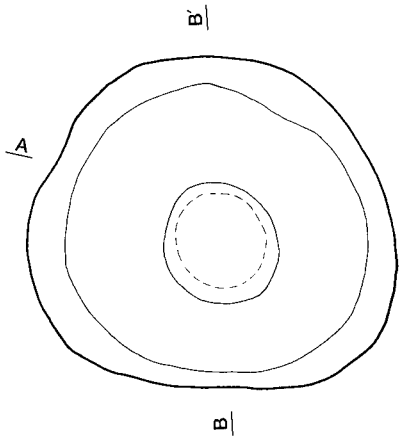
第694図 二段掘りの井戸跡実測図(1)



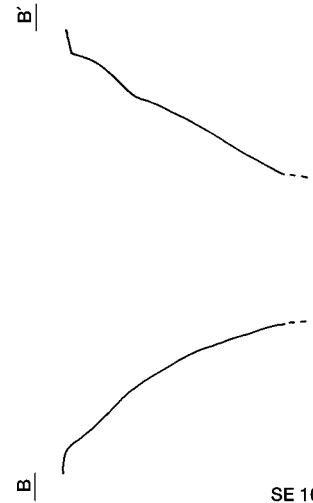
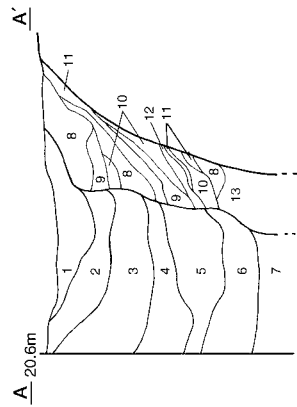
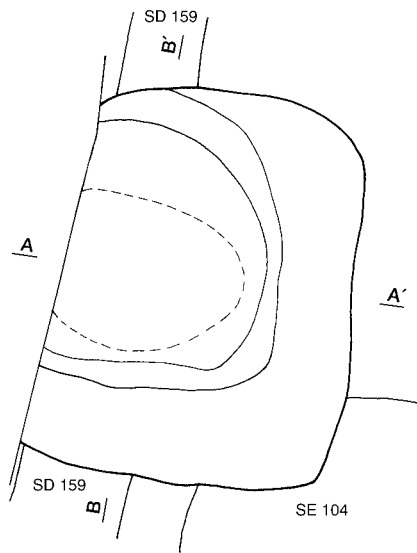
第695図 二段掘りの井戸跡実測図(2)



SE 89



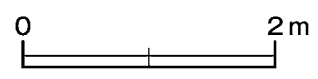
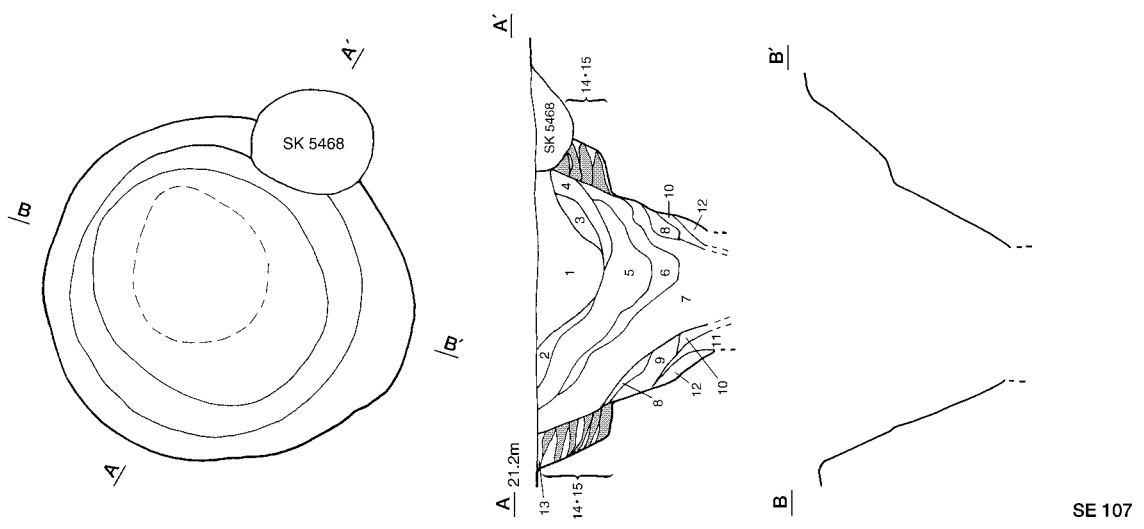
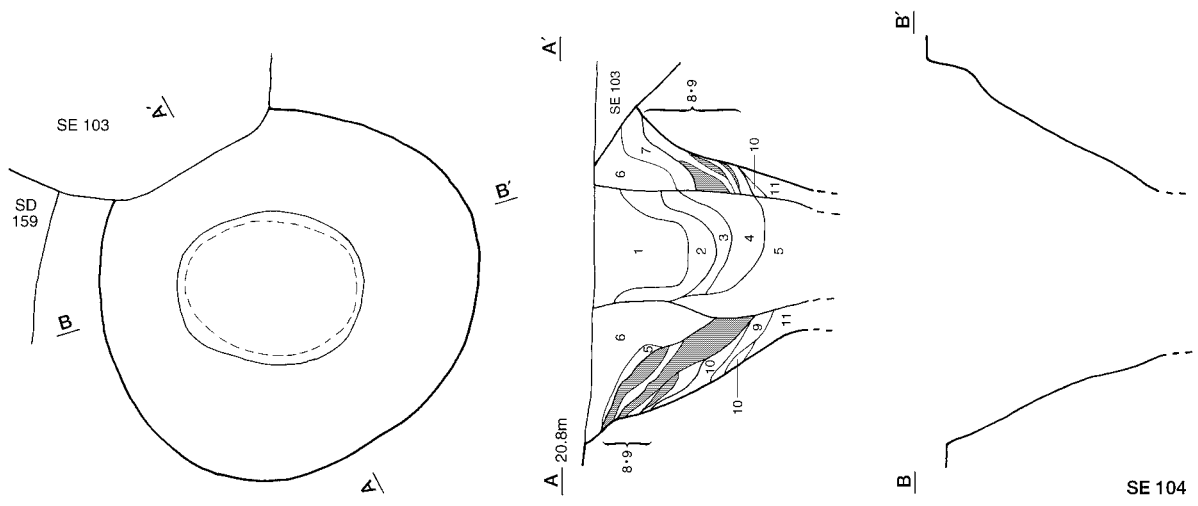
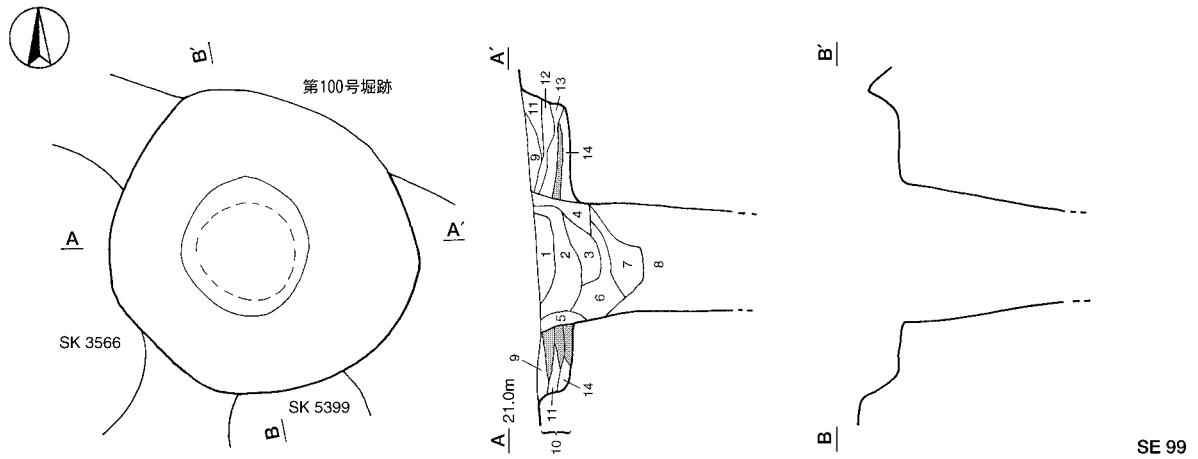
SE 90



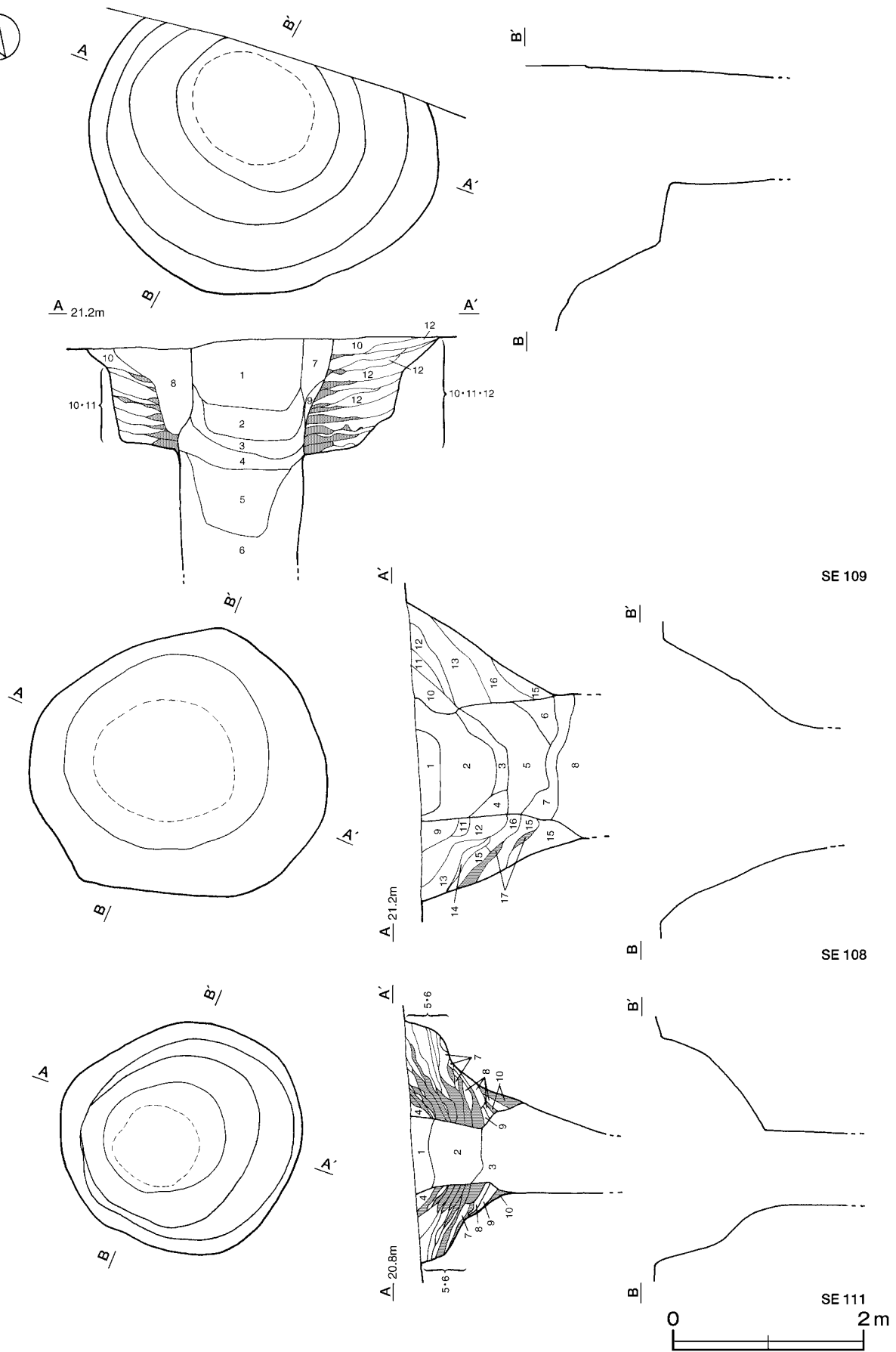
SE 103



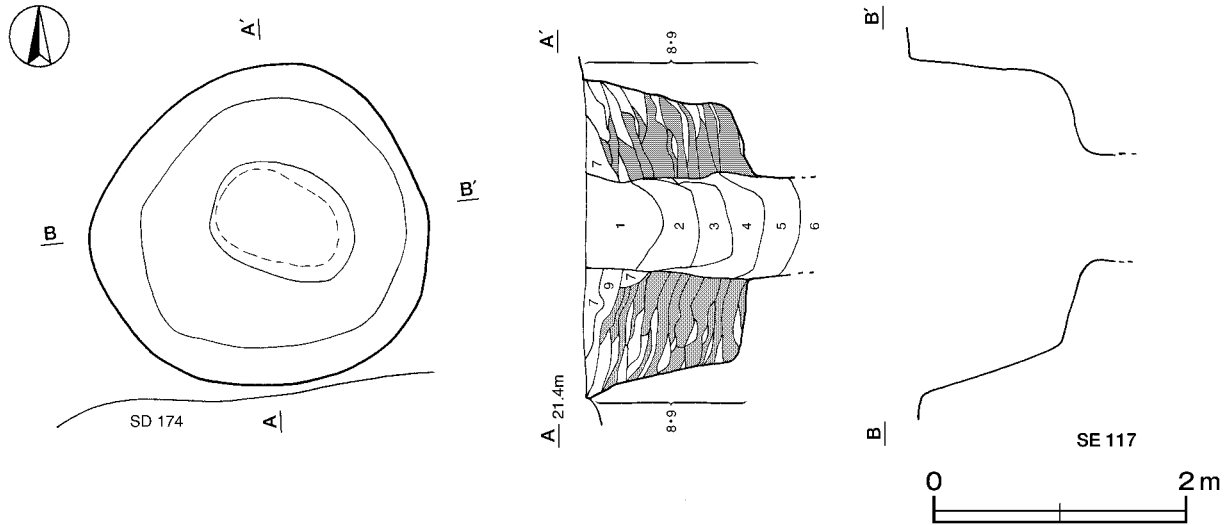
第696図 二段掘りの井戸跡実測図(3)



第697図 二段掘りの井戸跡実測図(4)



第698図 二段掘りの井戸跡実測図(5)



第699図 二段掘りの井戸跡実測図(6)

第71号井戸跡土層解説

- |    |     |                           |
|----|-----|---------------------------|
| 1  | 褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子・粘土粒子微量    |
| 2  | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量         |
| 3  | 明褐色 | ロームブロック中量                 |
| 4  | 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量       |
| 5  | 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量            |
| 6  | 明褐色 | ロームブロック多量                 |
| 7  | 褐色  | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 粘土粒子微量 |
| 8  | 黄褐色 | ローム粒子中量, 粘土ブロック, 炭化粒子少量   |
| 9  | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量       |
| 10 | 黒色  | 炭化粒子多量, 粘土ブロック・ローム粒子微量    |
| 11 | 明褐色 | ローム粒子多量                   |
| 12 | 褐色  | ローム粒子・炭化粒子中量, 粘土ブロック少量    |

第76号井戸跡土層解説

- |    |       |                         |
|----|-------|-------------------------|
| 1  | 灰褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 2  | 灰褐色   | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量     |
| 3  | 灰褐色   | ロームブロック・粘土ブロック微量        |
| 4  | 灰褐色   | ローム粒子・粘土粒子微量            |
| 5  | 灰褐色   | ロームブロック・焼土粒子・黒色土粒子微量    |
| 6  | 黒色    | 黒色土ブロック多量               |
| 7  | 灰褐色   | 粘土ブロック中量, ローム粒子・黒色土粒子微量 |
| 8  | 褐色    | 粘土粒子少量, ローム粒子・黒色土粒子微量   |
| 9  | 褐色    | ローム粒子微量                 |
| 10 | にぶい褐色 | 粘土ブロック微量                |

第77号井戸跡土層解説

- |    |     |                         |
|----|-----|-------------------------|
| 1  | 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・黒色土粒子微量      |
| 2  | 灰褐色 | ローム粒子少量, 黒色土ブロック・焼土粒子微量 |
| 3  | 灰褐色 | 黒色土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4  | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量            |
| 5  | 灰褐色 | ローム粒子少量                 |
| 6  | 褐色  | ローム粒子微量                 |
| 7  | 灰褐色 | ロームブロック微量               |
| 8  | 灰褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 9  | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量          |
| 10 | 黒色  | 黒色土ブロック多量               |
| 11 | 暗褐色 | ロームブロック微量               |
| 12 | 暗褐色 | ローム粒子微量                 |
| 13 | 褐色  | ロームブロック微量               |

第88号井戸跡土層解説

- |    |        |                            |
|----|--------|----------------------------|
| 1  | 褐色     | ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量 |
| 2  | にぶい褐色  | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量        |
| 3  | 灰黄褐色   | 粘土粒子中量, ロームブロック少量          |
| 4  | 黒褐色    | 粘土粒子微量                     |
| 5  | 暗褐色    | 黒色土ブロック多量                  |
| 6  | 黒褐色    | ローム粒子・粘土粒子微量               |
| 7  | 褐灰色    | ロームブロック・粘土粒子少量             |
| 8  | 灰黄褐色   | 粘土粒子多量, ロームブロック中量          |
| 9  | にぶい黄褐色 | ロームブロック中量                  |
| 10 | 褐色     | ローム粒子多量, 粘土粒子少量            |
| 11 | 黒色     | 粘土ブロック微量                   |

第89号井戸跡土層解説

- |    |        |                           |
|----|--------|---------------------------|
| 1  | 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子微量            |
| 2  | 灰黄褐色   | ロームブロック少量                 |
| 3  | 褐灰色    | ロームブロック少量                 |
| 4  | 暗褐色    | ロームブロック中量, 砂粒少量           |
| 5  | 黄褐色    | 砂粒多量, ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 6  | 灰黄褐色   | 砂粒中量                      |
| 7  | にぶい黄褐色 | ロームブロック多量                 |
| 8  | 灰黄褐色   | ロームブロック中量                 |
| 9  | 暗褐色    | ロームブロック・粘土粒子少量            |
| 10 | 灰黄色    | 粘土ブロック・砂粒多量               |
| 11 | 褐色     | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量       |
| 12 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量                  |
| 13 | 灰オリブ色  | 粘土ブロック・砂粒中量               |
| 14 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量                 |
| 15 | 暗褐色    | ロームブロック少量                 |
| 16 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック中量       |
| 17 | 黒褐色    | ロームブロック・粘土粒子微量            |

第90号井戸跡土層解説

- |   |        |                     |
|---|--------|---------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 | 褐灰色    | ロームブロック・焼土粒子微量      |
| 3 | 灰黄褐色   | ロームブロック中量           |
| 4 | 褐灰色    | 粘土ブロック多量            |
| 5 | 暗褐色    | ロームブロック中量           |
| 6 | 黒色     | 黒色土ブロック多量           |
| 7 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量            |
| 8 | 黒褐色    | ローム粒子微量             |

第99号井戸跡土層解説

- |    |        |                  |
|----|--------|------------------|
| 1  | 暗褐色    | 粘土ブロック微量         |
| 2  | 暗褐色    | 粘土ブロック・砂粒少量      |
| 3  | 黒褐色    | ローム粒子少量, 砂粒微量    |
| 4  | にぶい黄褐色 | 砂粒多量, 粘土ブロック中量   |
| 5  | 黒色     | 焼土粒子微量           |
| 6  | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック, 砂粒多量     |
| 7  | 暗褐色    | 粘土ブロック多量, 砂粒中量   |
| 8  | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 砂粒中量   |
| 9  | 黒褐色    | ローム粒子少量          |
| 10 | 黒色     | ローム粒子・炭化粒子微量     |
| 11 | 褐色     | ロームブロック・粘土ブロック多量 |
| 12 | 橙黄色    | 粘土ブロック多量         |
| 13 | 黒色     | 粘土ブロック・ローム粒子微量   |
| 14 | 黒色     | ローム粒子微量          |



第103号井戸跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 6 灰黄褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量
- 8 褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 10 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 11 褐灰色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 12 灰黄褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量
- 13 灰黄褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量

第104号井戸跡土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量
- 2 褐灰色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 5 灰黄褐色 ロームブロック多量, 粘土粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量
- 7 にぶい黄褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土ブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 9 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 10 褐灰色 ロームブロック中量
- 11 にぶい黄褐色 ロームブロック多量

第107号井戸跡土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 3 灰黄色 砂粒多量, 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 4 にぶい黄色 粘土ブロック・砂粒少量
- 5 明褐色 砂粒多量, ロームブロック・粘土ブロック少量
- 6 黄灰色 粘土粒子多量
- 7 にぶい黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子, 黒色土ブロック少量
- 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, ローム粒子少量
- 10 黒色 粘土ブロック中量
- 11 灰白色 粘土ブロック多量
- 12 褐灰色 粘土ブロック少量
- 13 褐灰色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 14 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量

第108号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子微量
- 5 灰黄褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量
- 6 灰黄褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 8 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量
- 10 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 黒褐色 ロームブロック少量
- 12 褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 13 暗灰黄色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 14 黄灰色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 15 灰黄色 粘土粒子中量, ロームブロック少量
- 16 暗灰黄色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 17 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量

第109号井戸跡土層解説

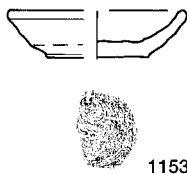
- 1 褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量
- 6 灰褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 7 灰黄褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 9 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 10 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 11 黒色 ローム粒子微量
- 12 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第111号井戸跡土層解説

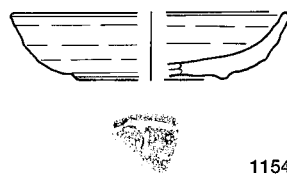
- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 灰黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 黒色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量
- 7 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量
- 8 灰黄褐色 ロームブロック・粘土粒子少量
- 9 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 10 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

第117号井戸跡土層解説

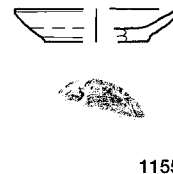
- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量
- 5 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 6 灰黄褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック中量, 粘土粒子少量
- 8 黒色 ローム粒子微量
- 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック中量



1153



1154



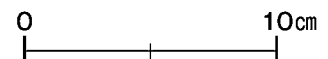
1155



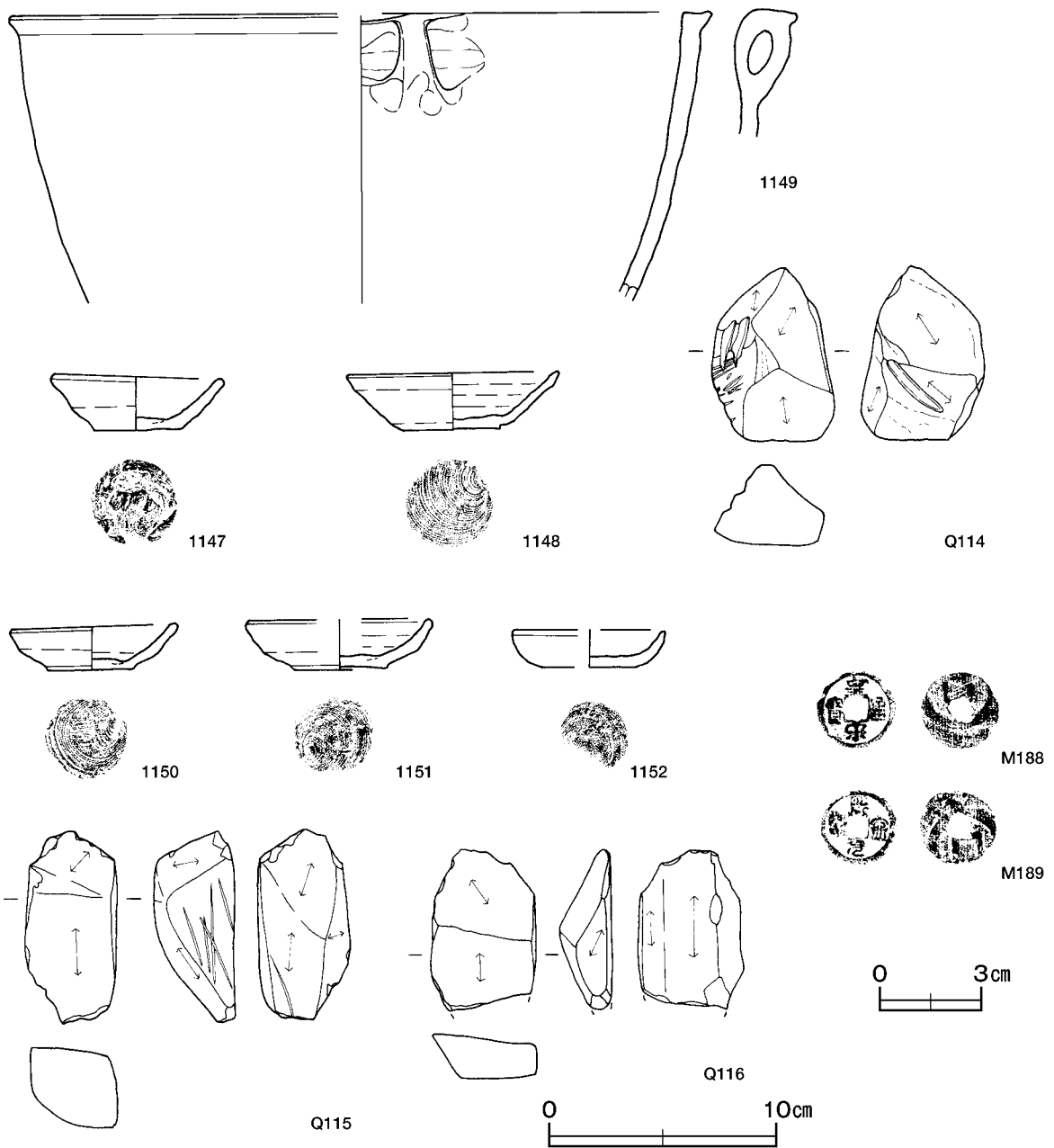
1156



M190



第700図 二段掘りの井戸跡出土遺物実測図(1)



第701図 二段掘りの井戸跡出土遺物実測図(2)

第71号井戸跡出土遺物観察表 (第701図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1147	土師質土器	小皿	7.3	2.6	3.8	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	覆土中	95% 油煙付着 PL135
1148	土師質土器	小皿	9.2	2.6	4.6	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	80%
1149	土師質土器	内耳鍋	[30.7]	[12.8]	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ	上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q114	砥石	7.7	5.5	3.6	114.2	凝灰岩	砥面7面 断面隅丸三角形	覆土中	

第76号井戸跡出土遺物観察表 (第701図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1150	土師質土器	小皿	7.1	2.0	3.8	長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り	埋土上層	95% 油煙付着 PL135
1151	土師質土器	小皿	[8.0]	2.2	4.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り	覆土中	65%
1152	土師質土器	小皿	[6.6]	1.7	[4.1]	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転系切り	覆土中	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q115	砥石	8.5	4.1	3.6	132.1	凝灰岩	砥面6面 断面隅丸方形	覆土中	
Q116	砥石	(7.0)	4.6	2.3	(72.8)	凝灰岩	端部欠損 砥面5面 断面台形	覆土中	PL142

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M188	古銭	2.44	0.74	0.15	(3.9)	銅	皇宋通寶 初鑄1038年 北宋銭 真書	上層	PL148
M189	古銭	2.36	0.62	0.14	(2.3)	銅	熙寧元寶 初鑄1068年 北宋銭 篆書	覆土中	PL148

第89号井戸跡出土遺物観察表 (第701図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1153	土師質土器	小皿	[6.9]	1.9	[3.9]	長石・黒色粒子・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り	覆土中	30%
1154	陶器	丸皿	[10.9]	2.7	[5.6]	精良・長石釉	灰白	良好	口クロナ成形 体部内・外面長石釉 削り出し高台 底部無釉	覆土中	10% 志野系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M190	不明	2.7	1.3	0.12	2.3	銅	長径1.2cm・短径0.8cmの円孔有り 径0.09cmの銅線2本	覆土中	

第108号井戸跡出土遺物観察表 (第700図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1155	土師質土器	小皿	[6.4]	1.4	[4.1]	長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子	淡橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転系切り	覆土中	30%

第117号井戸跡出土遺物観察表 (第700図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1156	土師質土器	小皿	[5.4]	1.4	2.5	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転系切り	覆土中	80%

(8) 土坑

第4214号土坑 (第702図)

**位置** 調査区北部のQ 4 g6区, 標高22.5mほどの斜面部上段に位置している。

**規模と形状** 長径1.88m, 短径1.58mの楕円形で, 長径方向はN - 32° - Eである。深さは33cmで, 壁は緩やかに傾斜している。底面は浅い掘鉢状である。

**覆土** 3層に分けられる。第1・2層は含有物が細粒かつ微量な自然堆積である。最下層の第3層は, 粘性をおびており, 締まりも弱いことから滞水時に堆積した可能性がある。

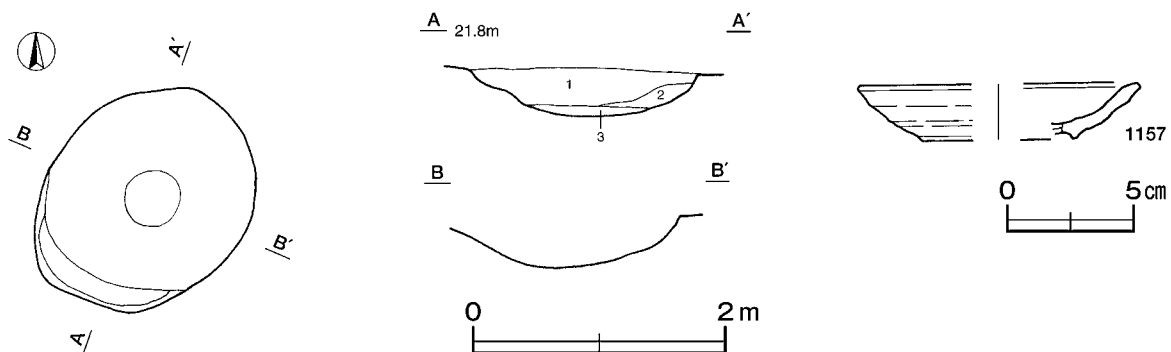
**土層解説**

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量      3 黒色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師質土器片5点(小皿2, 内耳鍋2, 掘鉢1), 陶器片2点(瀬戸・美濃系丸皿), 石器1点(砥石), 鉄滓1点, 粘土塊3点が出土しているほか, 土師器片14点も流れ込んでいる。いずれも覆土中から

細片で出土しており、廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

**所見** 堆積状況から一時的に滞水していた状況がうかがえるが、性格は不明である。同時期には、台地の縁辺部に沿って墓坑群が展開しており、墓域に関連する施設と考えられる。時期は、出土遺物から16世紀後半以前と考えられる。



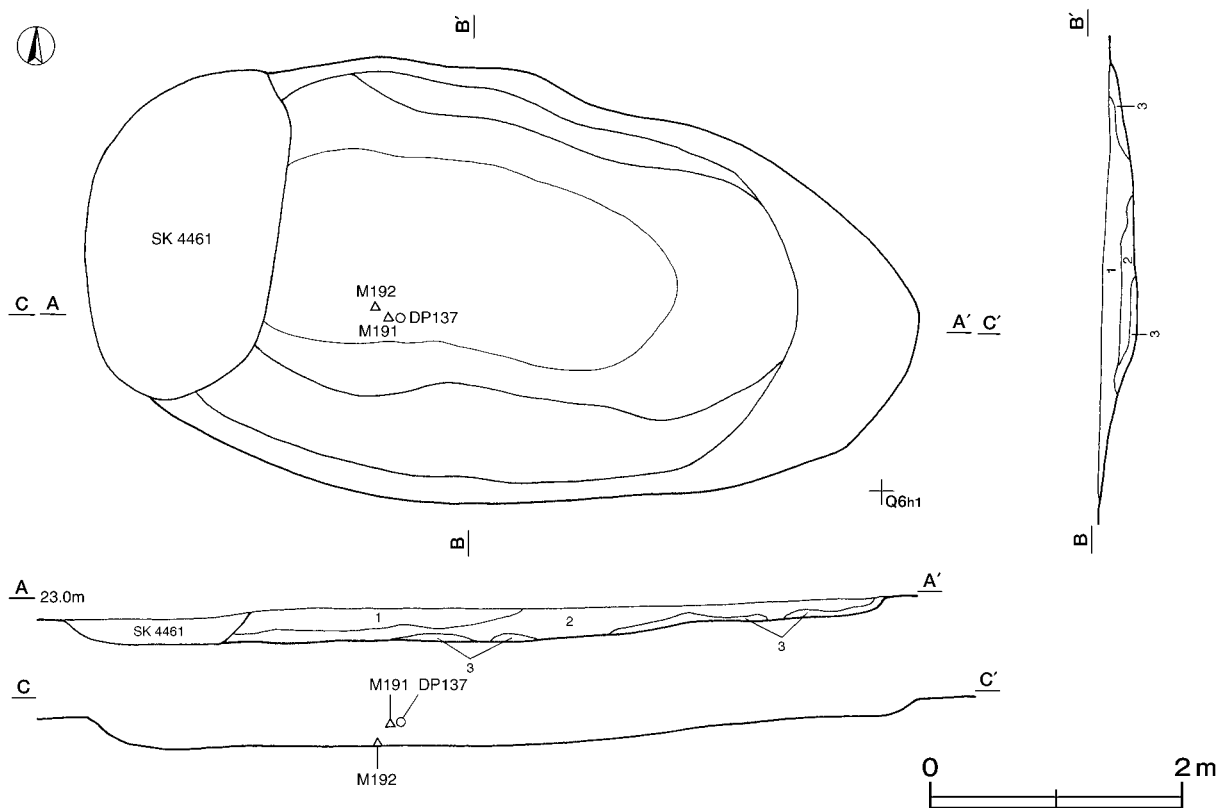
第702図 第4214号土坑・出土遺物実測図

第4214号土坑出土遺物観察表（第702図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1157	陶器	丸皿	[10.8]	2.2	[6.2]	精良・灰釉	灰白	良好	口ク口成形 底部無釉 体部内・外面灰釉 削り出し高台	覆土中	5% 瀬戸・美濃系

### 第4462号土坑（第703・704図）

**位置** 調査区北部のQ 5 g 0 区、標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。



第703図 第4462号土坑実測図

**重複関係** 第4461号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径は5.12mを確認しており、短径は3.26mの不整楕円形で、長径方向はN - 81° - Wである。深さは32cmで、底面は皿状で、壁は緩やかに傾斜している。

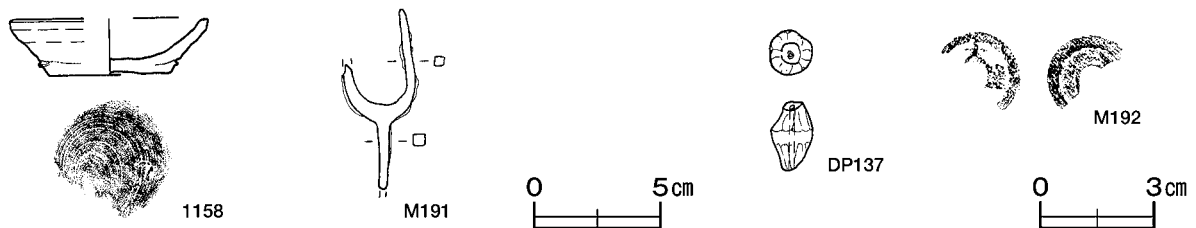
**覆土** 3層に分けられる。周囲から流入した堆積状況を示した自然堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量,炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片43点(小皿9,内耳鍋31,播鉢3),陶器片3点(碗),土製品1点(切子玉),石器2点(砥石,石臼),鉄製品1点(鏝),古銭1点(太平通寶)が出土しているほか,土師器片134点,須恵器片25点が流れ込んでいます。ほとんどが覆土中に散在した状態であり,埋没過程で投棄されたものと考えられる。M192は中央部の底面から出土している。

**所見** 遺物の出土状況から,廃絶後の凹地が廃棄土坑として利用されたと考えられるが,本来の機能は不明である。時期は,出土土器から15世紀後半以前と考えられる。



第704図 第4462号土坑出土遺物実測図

第4462号土坑出土遺物観察表 (第704図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1158	土師質土器	小皿	[7.7]	2.2	4.8	長石・石英・雲母	淡黄	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転系切り	覆土中	55%
番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
DP137	切子玉	1.8	1.2	0.2	2.0	土(石英・長石)	ナデ	一方向からの穿孔 10面体	上層	PL140	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M191	鏝	(7.1)	2.9	0.4~0.5	(9.3)	鉄	刃・茎部欠損	雁股式 断面長方形 無開	上層	PL145	
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
M192	古銭	(2.41)	(0.52)	0.10	1.1	銅	太(平)通(寶)	初鑄976年 北宋銭	底面		

第4463号土坑 (第705図)

**位置** 調査区北部のQ 5 g6 区, 標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2640号住居跡を掘り込み, 第4487号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径6.95m, 短径3.50mの不整楕円形で、長径方向はN - 62° - Wである。深さは20cmで、底面は皿状であり、壁は緩やかに傾斜している。

**覆土** 2層に分けられる。ローム粒子やブロックを多く含む人為堆積である。

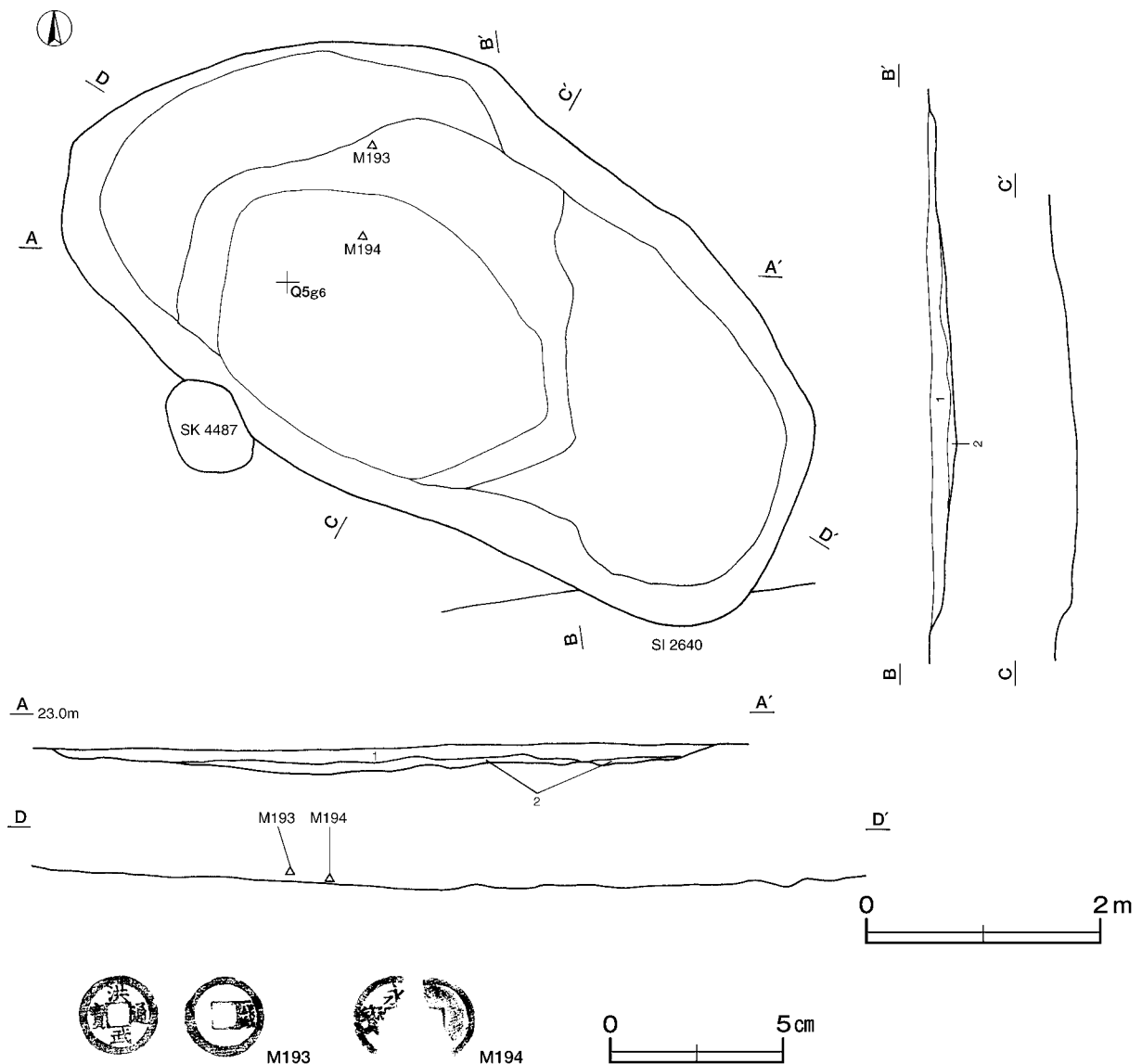
**土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片27点(小皿9, 内耳鍋16, 挿鉢2), 陶器片2点(不明), 古銭2点(洪武通寶, 永楽通寶)が中央部の覆土下層を中心に散在した状態で出土している。そのほか土師器片75点, 須恵器片3点流れ込んでいる。

**所見** 遺物の出土状況や堆積状況から, 廃絶後の凹地が廃棄土坑として利用されたと考えられるが, 本来の性格は不明である。時期は, 出土土器から16世紀前半以前と考えられる。



第705図 第4463号土坑・出土遺物実測図

第4463号土坑出土遺物観察表(第705図)

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M193	古銭	2.31	0.59	0.17	4.0	銅	洪武通寶 初鑄1368年 明銭 背一銭	下層	PL148
M194	古銭	(2.43)	-	0.11	0.9	銅	永(楽通)寶 初鑄1408年 明銭	下層	

**第4490号土坑（第706図）**

**位置** 調査区中央部のR 5 e4区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2647号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径4.40m，短径2.85mの不整楕円形で，長径方向はN - 53° - Wである。深さは28cmで，壁は緩やかに傾斜している。底面には，円形の掘り込みが2か所確認されている。規模は径137～152cm，深さ8～28cmで，壁は外傾しており，底面は平坦である。

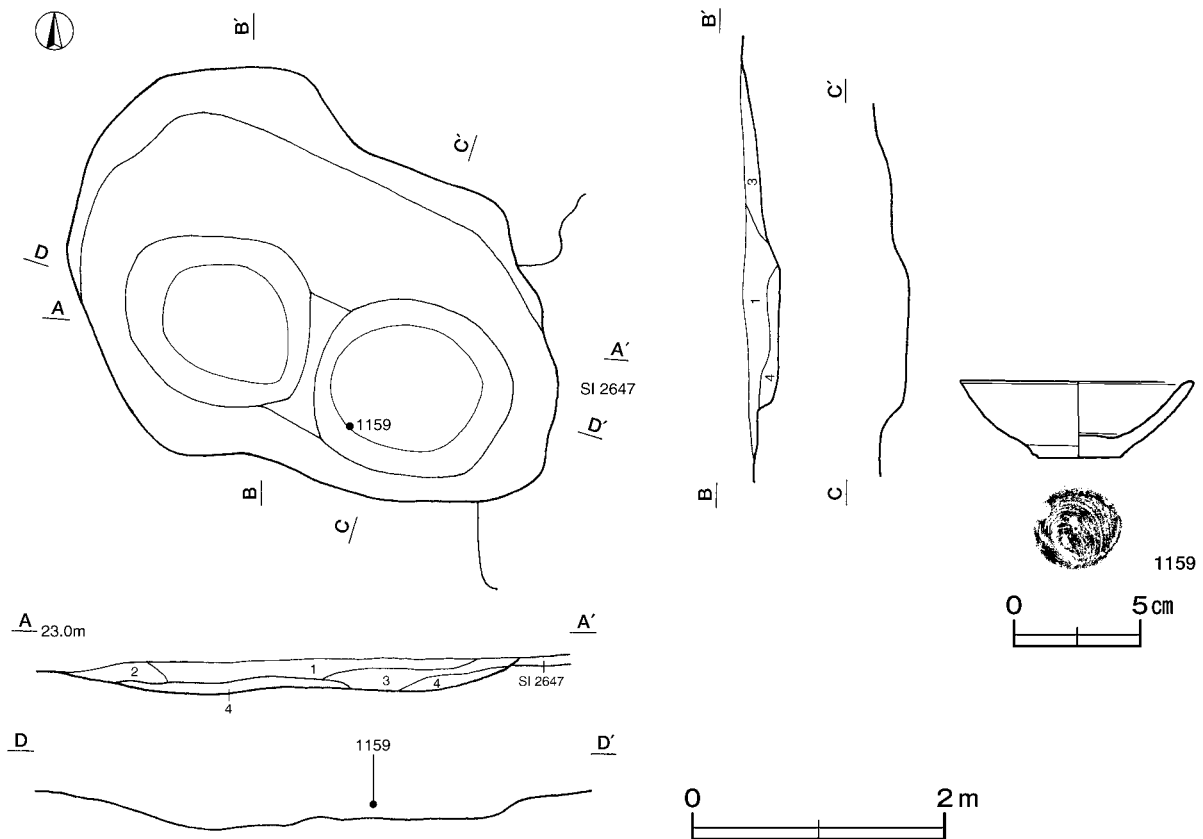
**覆土** 4層に分けられる。ローム粒子や炭化粒子を含む人為堆積である。

**土層解説**

- |   |    |                     |   |     |                     |
|---|----|---------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 | 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 褐色  | ローム粒子中量，炭化粒子少量      |

**遺物出土状況** 土師質土器11点（小皿3，内耳鍋7，播鉢1），石器2点（砥石，茶臼）が出土しているほか，土師器片44点，須恵器片10点も流れ込んでいる。1159は中央部の覆土下層から出土しており，廃絶後の埋没過程で廃棄されたものと考えられる。

**所見** 遺物の出土状況や堆積状況から，廃絶後の凹地が廃棄土坑として利用されたと考えられるが，本来の性格は不明である。時期は，出土土器から16世紀前半以前と考えられる。



**第706図** 第4490号土坑・出土遺物実測図

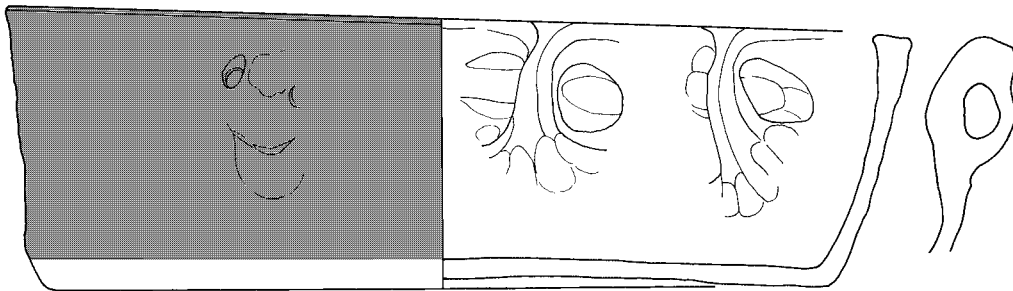
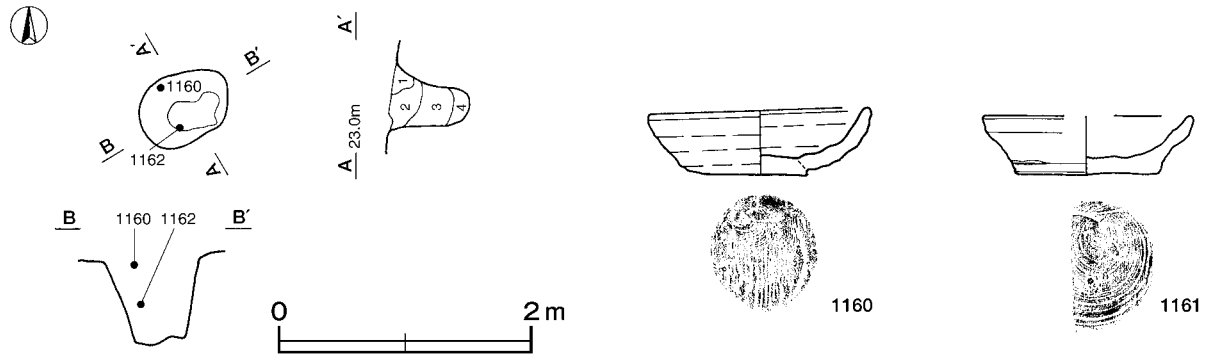
**第4490号土坑出土遺物観察表（第706図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1159	土師質土器	小皿	9.3	3.1	3.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 回転系切り	体部内面ナデ 底部	下層 75%

第4669号土坑（第707図）

位置 調査区東部のR 5 a9区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.74m，短径0.52mの楕円形で，長径方向はN - 58° - Eである。深さは69cmで，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。



第707図 第4669号土坑・出土遺物実測図



**覆土** 4層に分けられる。ロームブロックを多量に含む人為堆積である。

**土層解説**

- |   |       |                        |   |      |                        |
|---|-------|------------------------|---|------|------------------------|
| 1 | にぶい褐色 | ロームブロック多量              | 3 | 黒褐色  | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色   | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 灰黄褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片27点（小皿3，内耳鍋24）が出土している。1160・1162はほぼ完形であり，1160は覆土上層から底部を上向きにした斜位，1162は覆土中層から破砕された状態でそれぞれ出土している。

**所見** 時期は，出土土器から15世紀前半と考えられる。

**第4669号土坑出土遺物観察表（第707図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1160	土師質土器	小皿	8.5	2.7	3.8	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	上層	100% PL135
1161	土師質土器	小皿	[8.2]	2.3	5.4	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	50%
1162	土師質土器	内耳鍋	35.7	11.3	30.6	長石・雲母	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ 体部外面ナデ 底部板状圧痕	中層	80% 体部外面煤付着 PL136

**第5343号土坑（第708図）**

**位置** 調査区西部のR 3 d5区，標高21.0mほどの斜面部中段に位置している。

**規模と形状** 長径5.72m，短径2.48mの不整楕円形で，長径方向はN - 82° - Wである。深さは23cmで，底面は皿状であり，壁は緩やかに傾斜している。

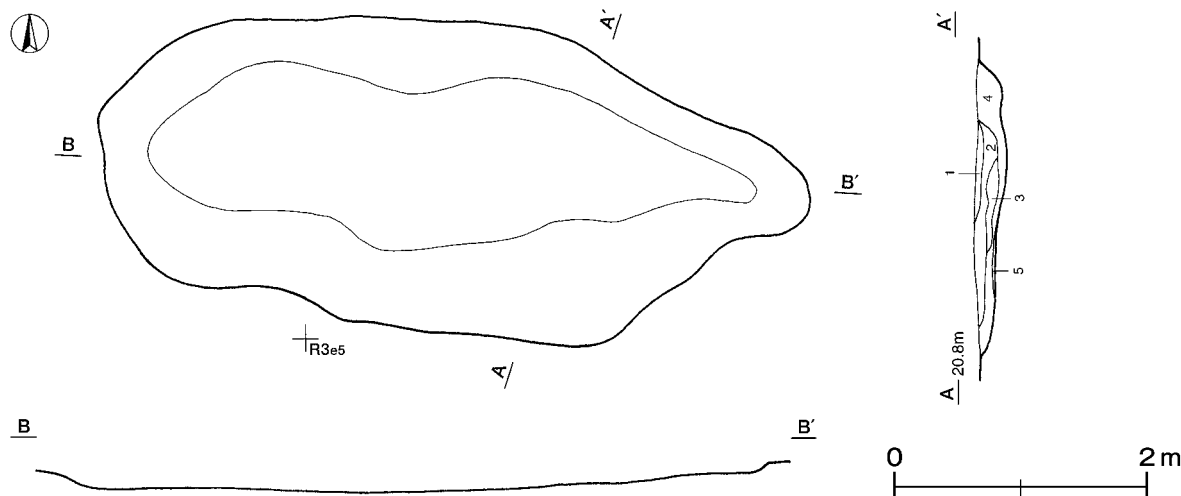
**覆土** 5層に分けられる。ロームや粘土のブロックを含み，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |   |       |                                  |   |      |                |
|---|-------|----------------------------------|---|------|----------------|
| 1 | 黒色    | 焼土粒子少量                           | 4 | 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量       |
| 2 | にぶい褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 5 | 黒色   | 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 | 灰褐色   | 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量            |   |      |                |

**遺物出土状況** 土師質土器片16点（内耳鍋15，播鉢1），粘土塊30点が出土しているほか，土師器片5点も流れ込んでいる。粘土塊は東部の覆土中から出土しており，火を受けた痕跡が認められる。

**所見** 時期は，出土遺物から中世後半と考えられる。



**第708図** 第5343号土坑実測図

**第5400号土坑（第709図）**

**位置** 調査区北西部のQ3j7区，標高21.0mほどの斜面部中段に位置している。

**重複関係** 第100号堀に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.64m，短軸1.50mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 32° - Eである。深さは60cmで，底面は平坦であり，壁は外傾して立ち上がっている。

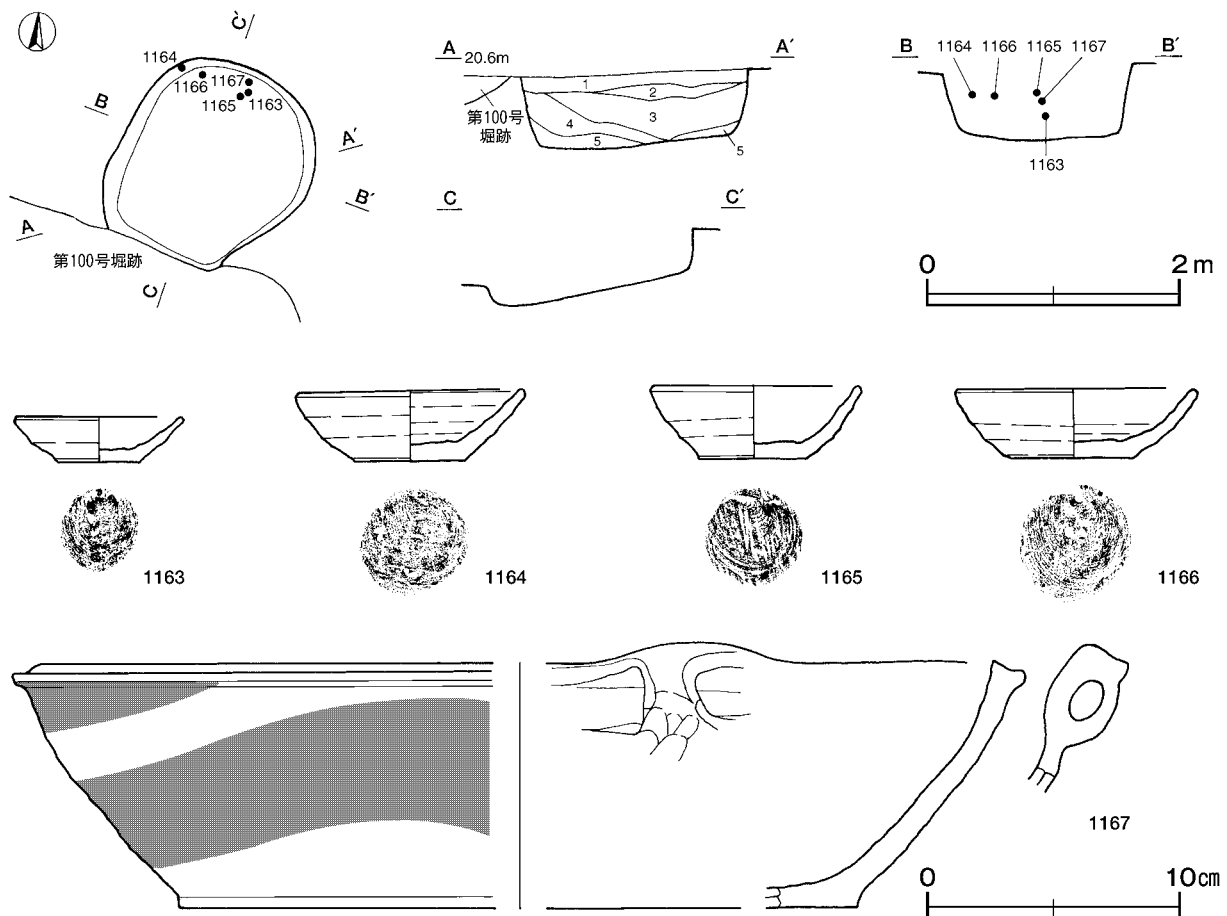
**覆土** 5層に分けられる。ローム粒子や粘土粒子を多く含む人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                       |         |                |
|-------|-----------------------|---------|----------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック微量      | 4 にぶい褐色 | 粘土粒子中量，ローム粒子少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 にぶい褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量   |
| 3 褐色  | ロームブロック多量，炭化粒子微量      |         |                |

**遺物出土状況** 土師質土器片7点（小皿5，内耳鍋2），鉄滓が出土しているほか，土師器片5点も流れ込んでいる。1163～1167は北壁際の覆土中層からまとめて出土しており，埋め戻した際に一括して投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土遺物から16世紀前葉以前と考えられる。



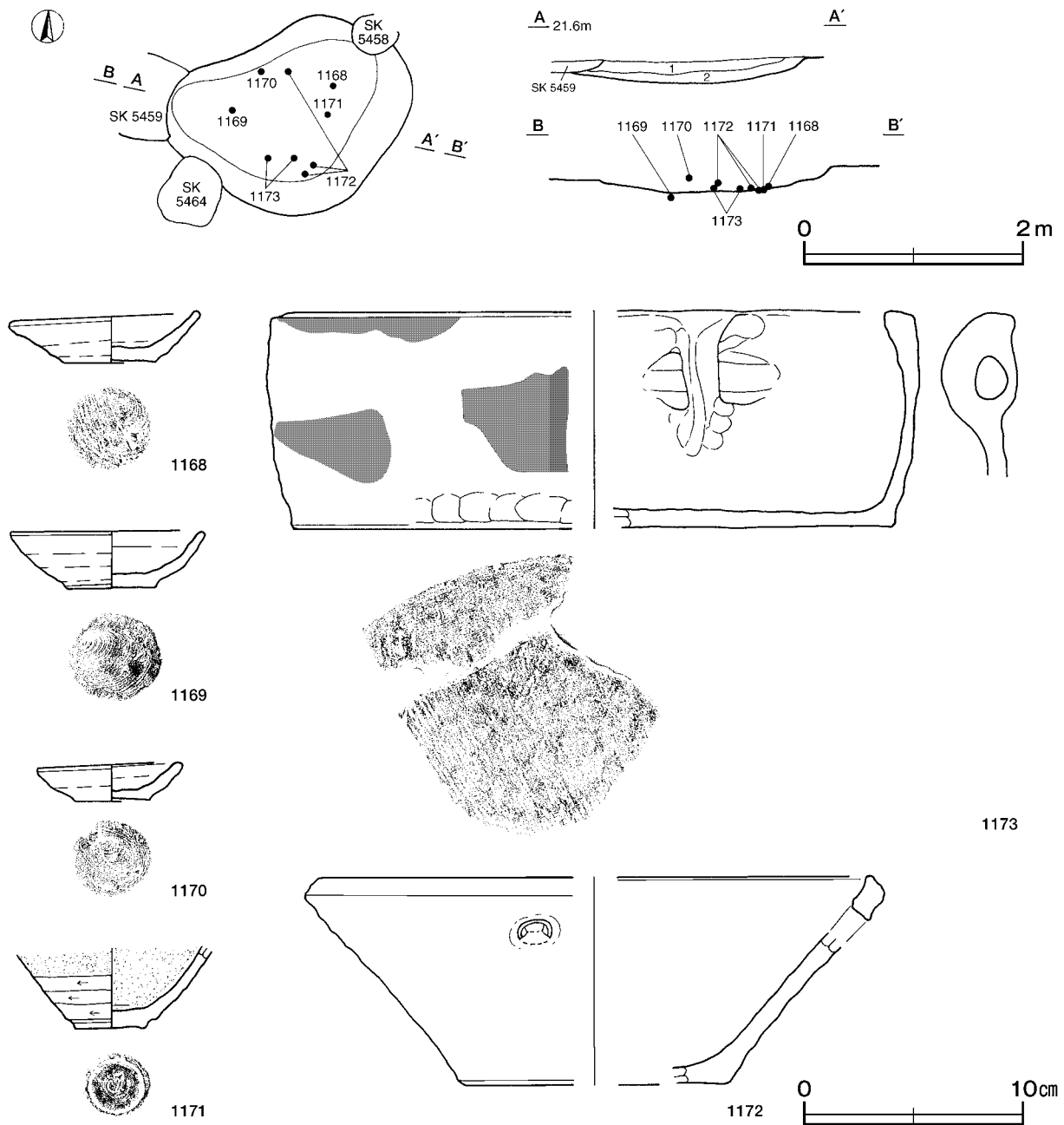
**第709図** 第5400号土坑・出土遺物実測図

第5400号土坑出土遺物観察表 (第709図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1163	土師質土器	小皿	6.6	1.9	3.2	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り	中層	100% PL136
1164	土師質土器	小皿	9.1	2.8	4.5	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り	中層	100% PL136
1165	土師質土器	小皿	8.2	2.8	4.2	石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り	中層	100% PL136
1166	土師質土器	小皿	9.3	2.9	4.7	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転系切り	中層	100% PL136
1167	土師質土器	内耳鍋	[40.0]	10.5	[27.0]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口辺部横ナデ 体部内・外面ナデ	中層	20% 体部外面煤付着

第5458号土坑 (第710図)

位置 調査区西部のR 4 c 2 区, 標高21.5mほどの斜面部上段に位置している。



第710図 第5458号土坑・出土遺物実測図

**重複関係** 第5459・5464・5458号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.10m，短径1.62mの不整楕円形で，長径方向はN - 59° - Eである。深さは20cmで，底面は皿状で，壁は緩やかに傾斜している。

**覆土** 2層に分けられる。ローム粒子を多く含む人為堆積である。

**土層解説**

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量，炭化物少量                      2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片90点（小皿17，内耳鍋61，播鉢12），陶器片1点（瀬戸・美濃系灰釉丸碗），石器5点（砥石3，石臼2）が覆土下層を中心に出土している。1168～1170はほぼ完形で，その他の土器は破片の状態で散在している。いずれも床面から浮いた状態であり，埋め戻した際に一括して投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土遺物から16世紀前半以前と考えられる。

第5458号土坑出土遺物観察表（第710図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1168	土師質土器	小皿	8.6	2.3	4.0	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	下層	100% PL136
1169	土師質土器	小皿	8.8	2.6	4.2	長石・石英・小礫	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	下層	95% PL136
1170	土師質土器	小皿	6.4	1.8	3.5	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	上層	100% PL136
1171	陶器	天目茶碗	-	(3.7)	3.2	精良・灰釉	にぶい黄橙	良好	体部内・外面灰釉 体部下位回転ヘラ削り 削り出し高台 高台周辺露胎	下層	50% 瀬戸・美濃系
1172	土師質土器	播鉢	[25.2]	9.5	[12.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ 摩擦のため調整不明瞭 内面3条1単位の襷り目カ	下層	10%
1173	土師質土器	内耳鍋	[29.4]	9.6	[27.4]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ 体部上位孔有り 内・外面ナデ 外面下端指頭痕 底部板状庄痕	下層	20% 体部外面煤付着

(9) 粘土貼り土坑

第5381号土坑（第711図）

**位置** 調査区西部のR 4 j2区，標高21.5mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第5383号土坑を掘り込み，第5382・5384号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸は3.61mを確認し，短軸2.80mである。隅丸長方形で，長軸方向はN - 45° - Wである。深さは42cmで，壁は緩やかに傾斜している。底面の南東寄りには長軸200cm，短軸1.85cm，深さ17cmの方形の落ち込みがあり，周囲には層厚20cmほどの粘土層が貼り付けられている。落ち込みの底面はほぼ平坦である。

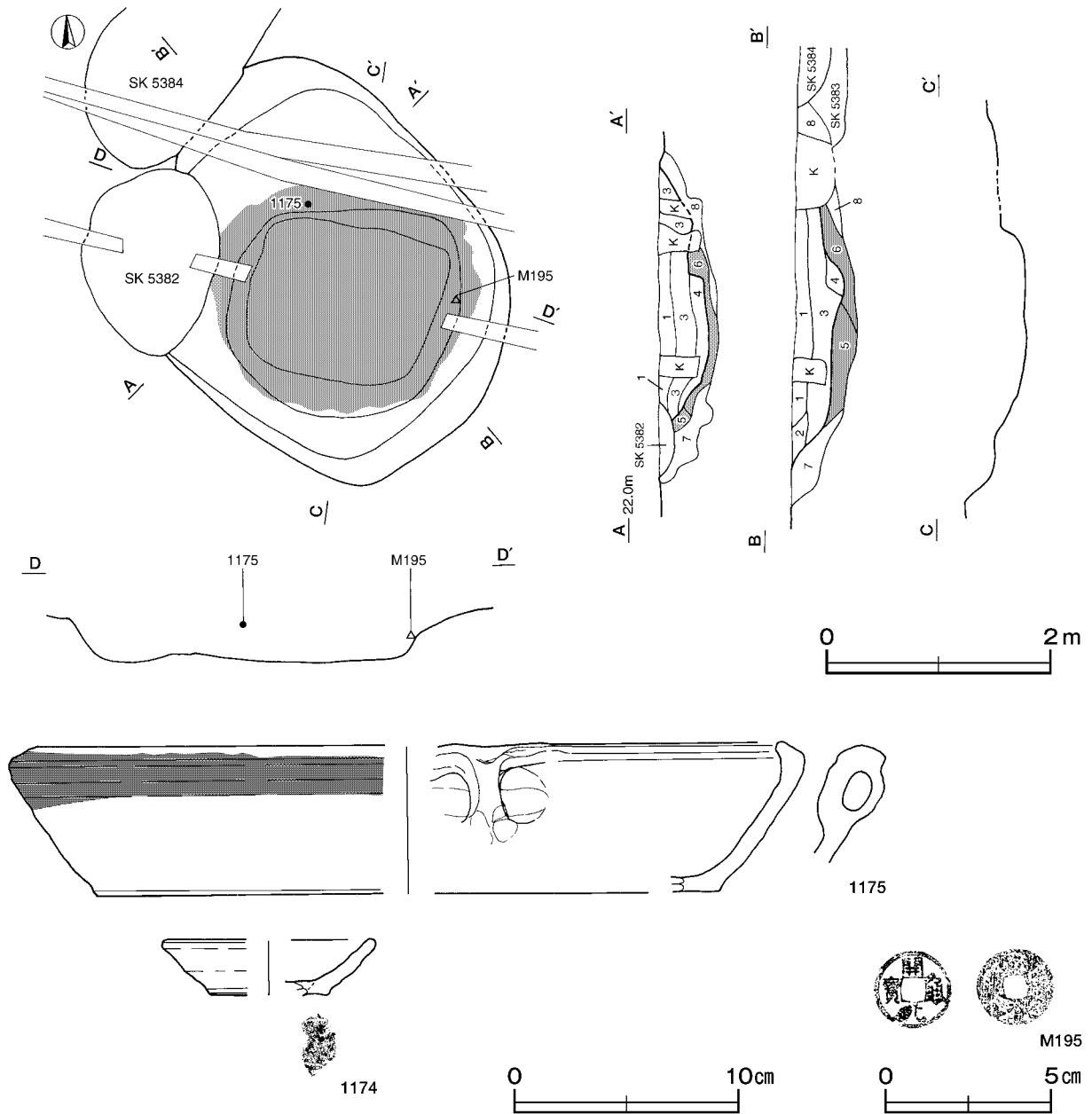
**覆土** 8層に分けられる。覆土は第1～4層でロームの粒子やブロックを含む人為堆積である。また，第5・6層は底面に貼り付けられた粘土層で，第7・8層は掘り方の埋土である。

**土層解説**

- 1 褐色                      色                      ローム粒子少量，炭化粒子微量                      5 黒褐色                      粘土ブロック中量，ロームブロック微量  
 2 黒褐色                      ロームブロック・粘土粒子微量                      6 にぶい黄橙色                      粘土ブロック多量，ロームブロック微量  
 3 暗褐色                      ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量                      7 黒褐色                      ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量  
 4 褐色                      ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量                      8 黒褐色                      ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片21点（小皿3，内耳鍋15，播鉢2，火鉢1），古銭1点（開元通寶）が出土しているほか，土師器片42点，須恵器片1も流れ込んでいる。M195は落ち込み東壁際の覆土下層，1175は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 遺構の形状や古銭が出土していることから墓坑としての機能が考えられ、埋葬状況は臥屈葬と推定される。同時期には台地の縁辺部に沿って墓坑群が展開しているが、本跡は西側のやや離れた位置に存在している。また、重複する第5382号土坑との形状の違いは、臥屈葬から座葬へ埋葬形態が変化したことによるものと考えられる。時期は、出土遺物から16世紀後半以前と考えられる。



**第711図** 第5381号土坑・出土遺物実測図

第5381号土坑出土遺物観察表（第711図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1174	土師質土器	小皿	[8.9]	2.5	[5.3]	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	20%
1175	土師質土器	内耳鍋	[35.4]	6.7	[27.8]	雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ 体部内・面ナデ	上層	10% 体部外面煤附着

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M195	古銭	2.46	0.60	0.12	2.1	銅	開元通寶 初鑄845年 唐銭 背梁銭	下層	PL148

### 第5382号土坑（第712図）

**位置** 調査区西部のR 4 j1区，標高21.5mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第5381号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.66m，短径1.36mの楕円形で，長径方向はN - 0°である。深さは40cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面の中央部には長径86cm，短径52cm，深さ12cmの円形の落ち込みがあり，周囲には厚さ10cmほどの白色粘土層が貼り付けられている。落ち込みの底面はほぼ平坦である。

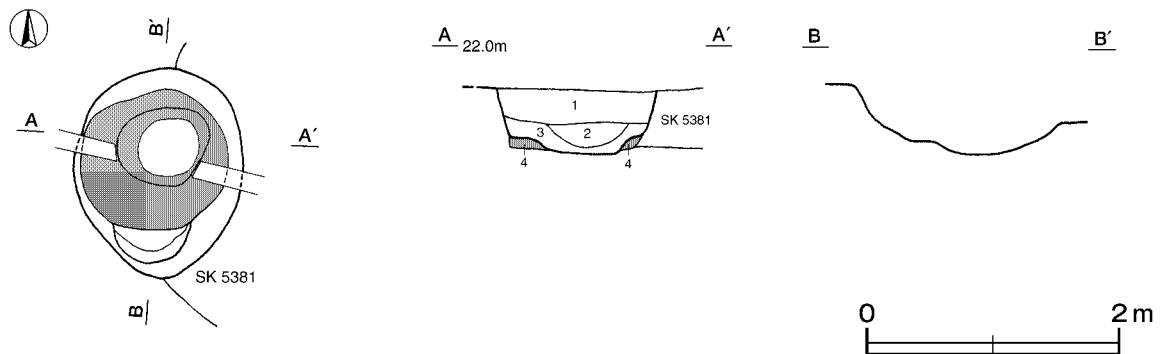
**覆土** 4層に分けられる。ロームブロックを多く含む人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                    |          |                  |
|-------|--------------------|----------|------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量     | 3 黒褐色    | ロームブロック中量，粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量，粘土ブロック少量 | 4 にぶい黄橙色 | 粘土ブロック多量，ローム粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師質土器片9点（内耳鍋3，播鉢1，火鉢5），陶器片1点（瀬戸・美濃系天目茶碗），石器1点（砥石）が出土しているほか，土師器片10点，須恵器片2点も流れ込んでいる。いずれも細片で，埋没過程で混入したものと考えられる。

**所見** 遺構の形状から墓坑と考えられ，埋葬状況は座葬と推定される。時期は，第5381号土坑との重複関係から16世紀後半以降と考えられる。



第712図 第5382号土坑実測図

### 第5397号土坑（第713図）

**位置** 調査区南西部のS 3 h0区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第178号溝に掘り込まれている。

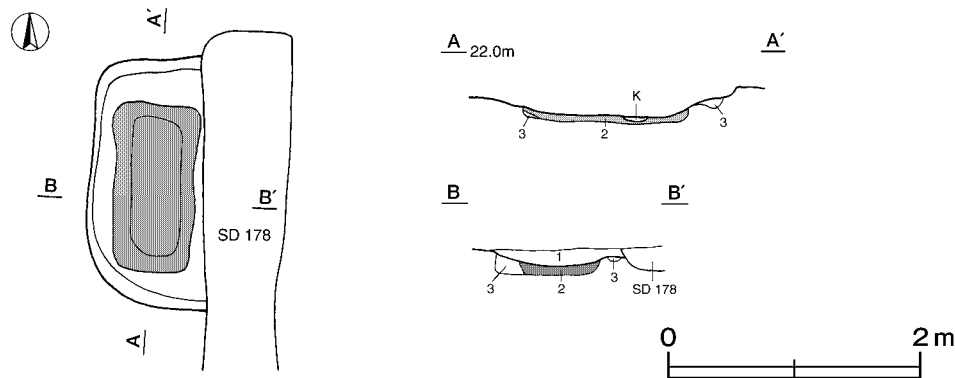
**規模と形状** 長軸は2.00mで，短軸0.92mを確認している。隅丸長方形で，長軸方向はN - 5° - Eである。深さは12cmで，壁は緩やかに傾斜している。底面の中央部には長軸138cm，短軸66cm，深さ8cmの長方形の落ち込みがあり，同範囲には層厚8cmほどの粘土層が貼り付けられている。落ち込みの底面はほぼ平坦である。

**覆土** 3層に分けられる。覆土は第1層で，ロームブロックを含む人為堆積である。第2層は底面に貼り付けられた粘土層，第3層は掘り方の埋土である。

#### 土層解説

- |       |                    |       |                |
|-------|--------------------|-------|----------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 灰白色 | 粘土ブロック多量           |       |                |

**所見** 遺構の形状から墓坑と考えられ、埋葬状況は臥屈葬と推定される。遺物が出土していないため時期判定は困難であるが、他の粘土貼り土坑や墓坑群の年代観から中世後半から近世前半と考えられる。



第713図 第5397号土坑実測図

**第5523号土坑（第714図）**

**位置** 調査区南西部のS 3 f 9 区，標高21.5mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第5522号土坑に掘り込まれている。

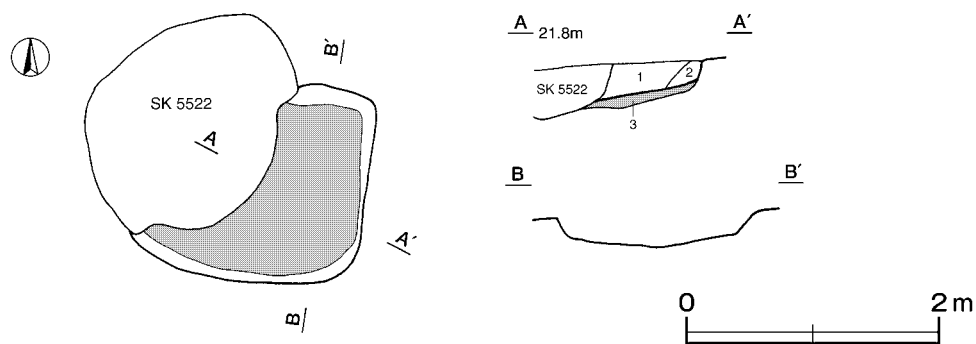
**規模と形状** 長軸は1.82mを確認し，短軸1.56mである。隅丸長方形で，長軸方向はN - 80° - Wである。深さは28cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，厚さ12cmほどの粘土層が貼り付けられている。

**覆土** 3層に分けられる。覆土は第1・2層で，ロームブロックを含む人為堆積である。また，第3層は底面に貼り付けられた粘土層である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

**所見** 遺構の形状から墓坑と考えられ，埋葬状況は臥屈葬と推定される。出土遺物がないため時期判定は困難であるが，重複している第5522号土坑の覆土中から陶器片（瀬戸・美濃系丸皿）や古銭（熙寧元寶）が出土しており，本跡から混入した可能性が考えられる。したがって，時期は，16世紀後半以前と考えられる。



第714図 第5523号土坑実測図

(10) 火葬土坑

第4253号土坑 (第715図)

位置 調査区北部のQ 4 e0 区, 標高22.0mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第4230号土坑を掘り込み, 第4215号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.48m, 短軸1.08mの隅丸長方形で, 長軸方向はN - 18° - Eである。深さは76cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦であり, 南半部には焼土層が堆積し, 細かい炭化材が散在している。

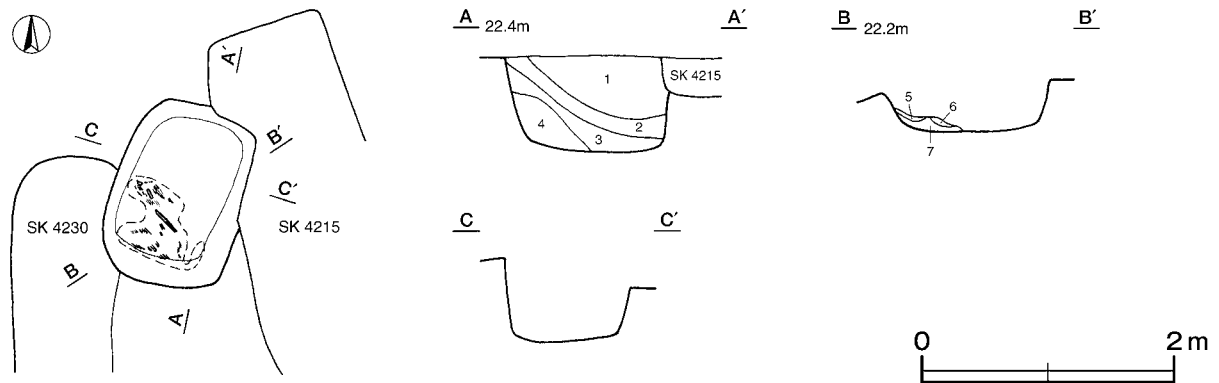
覆土 7層に分けられる。第1～4層はロームブロックを含む人為堆積であり, 西側から埋め戻された堆積状況を示している。第5・6層は焼土と炭化物の堆積層である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5 赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量	6 黒色	焼土粒子多量, 炭化材中量
3 褐色	ロームブロック中量	7 褐色	ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片1点(播鉢)が覆土中から出土しているほか, 土師器片4点, 須恵器片2点も流れ込んでいる。

所見 骨片などは確認されていないが, 底面に焼土が堆積していることや墓坑の可能性のある土坑と重複していることから, 火葬施設の可能性が高い。時期は, 土坑群の年代観から16世紀代と考えられる。



第715図 第4253号土坑実測図

第4273号土坑 (第716図)

位置 調査区中央部のR 4 f5 区, 標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

規模と形状 径1.33mの円形である。深さは22cmで, 壁は緩やかに外傾している。底面は平坦で, 厚さ8cmの焼土層が堆積している。

覆土 5層に分けられる。覆土は, 第1～4層で不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第5層は底面に堆積した焼土層である。

土層解説

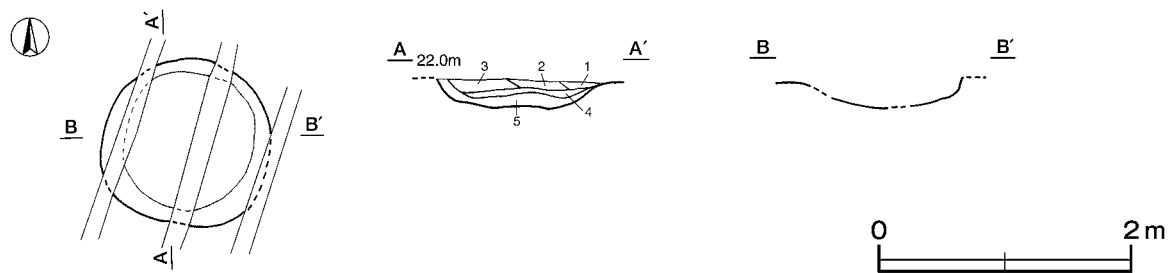
1 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子・黒色土粒子微量	4 黒褐色	黒色土ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	焼土粒子多量	5 赤褐色	焼土ブロック多量
3 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片6点(坏2, 甕類4), 石器1点(砥石)が出土しているが, いずれも細片であり埋没過程で混入したものと考えられる。

所見 骨片などは検出されていないが, 底面に焼土が堆積していることや, 周囲に墓坑の可能性のある土坑が



密集していることから、火葬施設の可能性が高い。時期は、土坑群の年代観から15世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第716図 第4273号土坑実測図

### 第4735号土坑（第717図）

**位置** 調査区北東部のQ 5 g 8 区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2652号住居跡，第4580号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径2.54m，短径2.22mの楕円形で，長径方向はN - 50° - Wである。深さは22cmで，壁は緩やかに傾斜している。底面は凹凸で，焼土ブロックが堆積している。

**覆土** 4層に分けられる。各層は，焼土やロームブロックを多く含む人為堆積である。特に，最下層の第4層は焼土ブロックが多量に含まれており，底面に堆積していた焼土が埋め戻しの際に攪拌されたと考えられる。

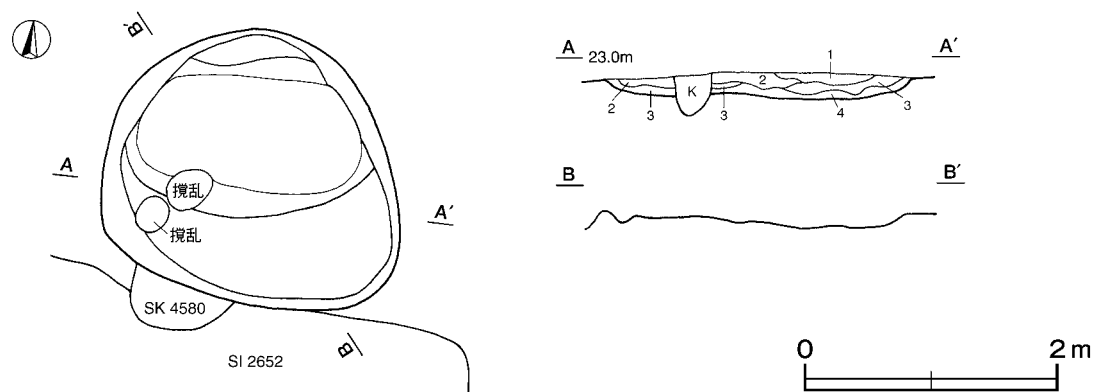
**土層解説**

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量  | 3 褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック中量 |
| 2 褐色 焼土粒子多量，ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 4 橙色 ロームブロック・焼土ブロック多量   |

**遺物出土状況** 土師質土器片4点( 搦鉢 )が出土しているほか，土師器片52点，須恵器18点も流れ込んでいる。

いずれも細片であり，廃絶後に混入したものと考えられる。

**所見** 底面に焼土が堆積していたと推定される。台地上に単独で存在しており，骨片などは確認されていないが，火葬施設の可能性がある。時期は，出土遺物から中世後半と考えられる。



第717図 第4735号土坑実測図

### 第5254号土坑（第718図）

**位置** 調査区南部のT 4 a5区，標高21.5mほどの斜面部上段に位置している。

**規模と形状** 長径2.70m，短径1.97mの楕円形で，長径方向はN - 77° - Wである。深さは60cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，焼土や炭化物，骨片を含む灰が互層に堆積しており，厚さは25cmである。

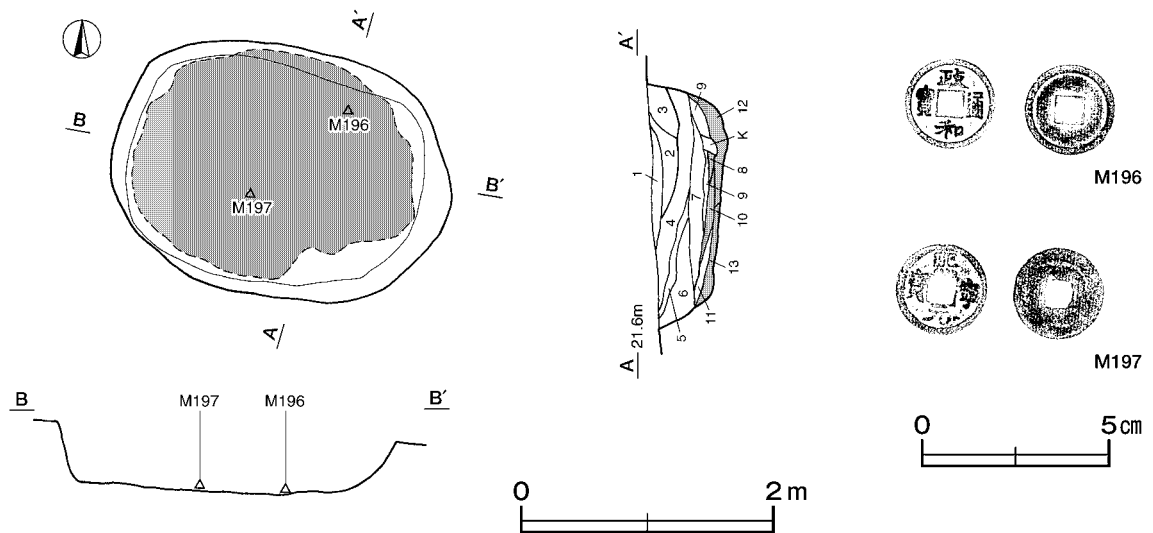
**覆土** 13層に分けられる。第1～4層は，ロームブロックを多く含む人為堆積である。第5～13層は，焼土や炭化物，骨片を含む灰が互層に堆積しており，厚さは25cmで，火葬土坑の機能時の堆積物である。第5・7・11層は火を受けて赤変している。

#### 土層解説

- |          |                              |           |                                 |
|----------|------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック・炭化粒子微量               | 8 赤黒色     | 炭化物多量，焼土粒子・灰中量，骨片含む             |
| 2 暗褐色    | ロームブロック中量，炭化粒子少量             | 9 暗赤褐色    | 炭化物中量，ロームブロック・焼土ブロック・灰少量，骨片含む   |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，骨片含む               | 10 暗灰色    | 炭化物多量，焼土ブロック・灰少量，ロームブロック微量，骨片含む |
| 4 灰黄褐色   | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量        | 11 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化物少量            |
| 5 暗赤灰色   | 焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック・灰少量，骨片含む | 12 灰褐色    | 炭化物中量，ロームブロック・焼土粒子少量            |
| 6 黒褐色    | ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量         | 13 灰黄褐色   | ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量            |
| 7 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・灰多量，炭化物中量，骨片含む        |           |                                 |

**遺物出土状況** 土師質土器片6点（小皿4，播鉢2），鉄製品1点（釘），古銭2点（政和通寶，熙寧元寶）が出土しているほか，土師器片16点，須恵器片2点も流れ込んでいる。M196は北壁際，M197は中央部の灰層からそれぞれ出土しており，火葬後に遺棄されたものと考えられる。また，覆土中からは骨片が検出されている。

**所見** 底面に焼土や炭化物，骨片を含む灰層が堆積した火葬施設で，堆積状況から少なくとも3回の操業が想定される。また，覆土上層から大腿骨の一部とみられる骨片が出土しており，火葬施設の廃絶後，埋葬施設として利用されたと考えられる。時期は，出土遺物から16世紀代と考えられる。



第718図 第5254号土坑・出土遺物実測図

#### 第5254号土坑出土遺物観察表（第718図）

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M196	古銭	2.50	0.65	0.11	2.5	銅	政和通寶 初鑄1111年 北宋銭 分楷	下層	PL148
M197	古銭	2.50	0.55	0.12	2.4	銅	熙寧元寶 初鑄1068年 北宋銭 真書	下層	PL148

**第5407号土坑（第719図）**

**位置** 調査区北西部のQ 4 f 3 区，標高21.0mほどの斜面部上段に位置している。

**規模と形状** 径1.08mの円形である。深さは22cmで，壁は緩やかに傾斜している。底面は皿状であり，焼土ブロックが堆積している。

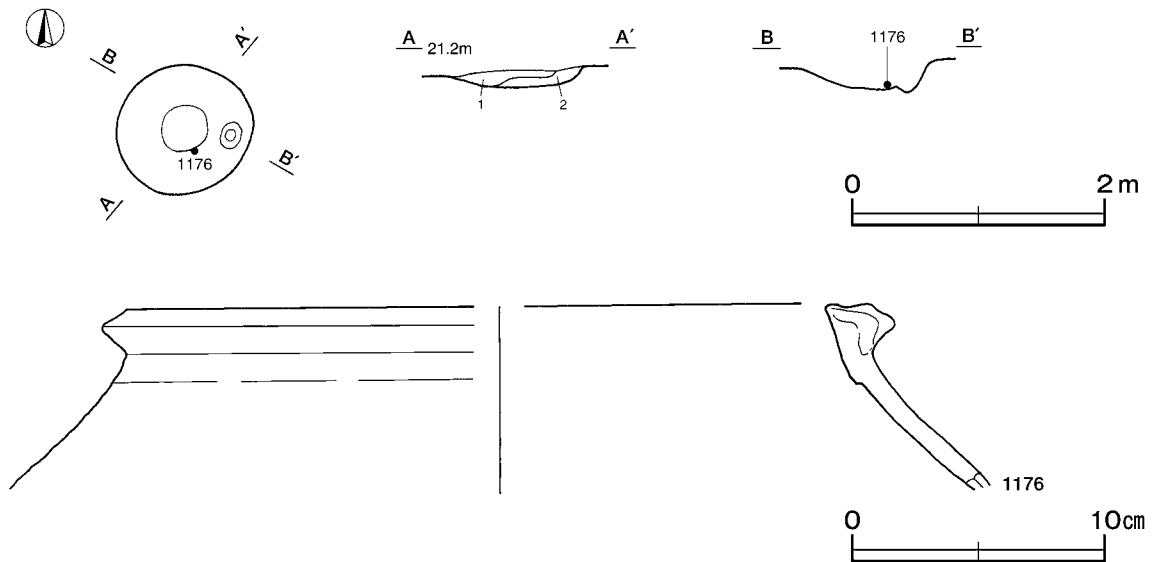
**覆土** 2層に分けられる。第1・2層は，焼土ブロックや炭化物を多く含む人為堆積で，底面に堆積していた焼土が埋め戻しの際に攪拌されたと考えられる。

**土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化材中量，ロームブロック少量・炭化物少量

**遺物出土状況** 陶器片1点（常滑系甕），石器1点（石臼）が覆土下層から破片の状態で出土しており，廃絶後に混入したものと考えられる。

**所見** 底面に焼土が堆積していたと推定され，周囲に墓坑の可能性ある土坑が密集していることから，火葬施設の可能性がある。時期は，出土遺物や土坑群の年代観から16世紀代と考えられる。



**第719図** 第5407号土坑・出土遺物実測図

**第5407号土坑出土遺物観察表（第719図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1176	陶器	甕	[26.2]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ 摩滅・剥離のため調整不明瞭	下層	10% 常滑系

(1) 墓坑

**第4258号土坑（第720図）**

**位置** 調査区北部のQ 4 i 9 区，標高22.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第95号堀跡，第4208号土坑を掘り込み，第4209号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.74m，短軸0.84mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 76° - Wである。深さは24cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，炭化物が付着している。

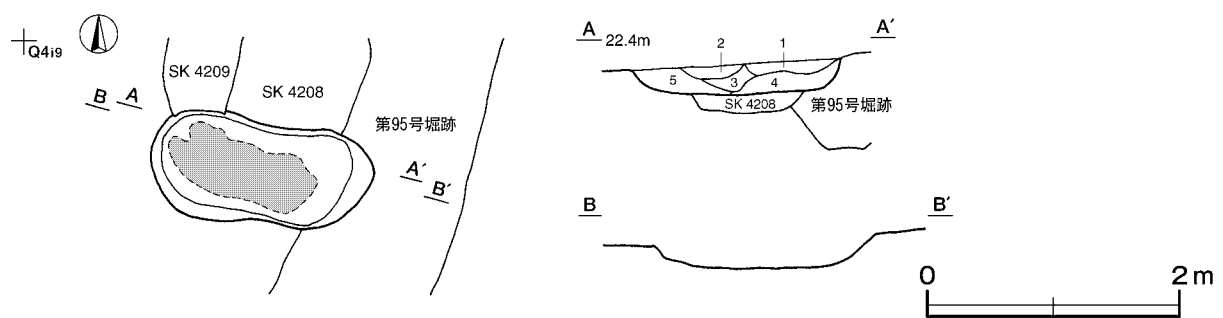
**覆土** 5層に分けられる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                 |      |                 |
|-------|-----------------|------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量         | 5 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |      |                 |

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(小皿, 内耳鍋, 播鉢), 石器1点(石臼)が覆土中から細片で出土しており, 廃絶後の埋没過程で混入したものと考えられる。

**所見** 人為的に埋め戻した痕跡がみられ, 底面に炭化物が付着している。埋葬状況は, 形状から伸展葬と推定される。第4373・4375土坑と規模や主軸方向が類似しており, 近接した時期に構築されたと想定される。時期は, 重複している第95号堀跡の年代観から16世紀前半以降と考えられる。



第720図 第4258号土坑実測図

**第4373号土坑 (第721図)**

**位置** 調査区北部のR 4 f4区, 標高22.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第4379・4381号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.80m, 短軸0.72mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-71°-Wである。深さは19cmで, 壁は直立している。底面は平坦で, 部分的に炭化物が付着している。

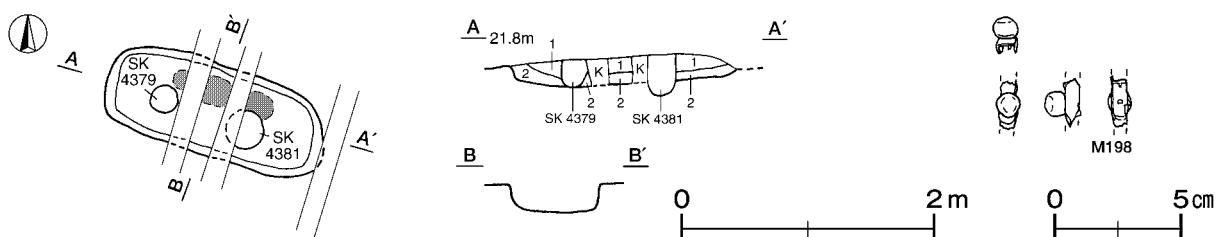
**覆土** 2層に分けられる。ローム粒子を多量に含む人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                 |      |                 |
|-------|-----------------|------|-----------------|
| 1 明褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
|-------|-----------------|------|-----------------|

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(小皿), 銅製品1点(飾金具カ)が覆土中から細片で出土しており, 廃絶後の埋没過程で混入したものと考えられる。

**所見** 人為的に埋め戻した痕跡がみられ, 底面に炭化物が付着している。埋葬状況は, 形状から伸展葬と推定される。時期は, 規模や形状が類似している第4258号土坑の年代観から16世紀前半以降と考えられる。



第721図 第4373号土坑・出土遺物実測図

第4373号土坑出土遺物観察表（第721図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M198	飾金具カ	(2.0)	0.9	(1.3)	(4.3)	銅	鋏部円形 断面コ字状	覆土中	

第4375号土坑（第722図）

**位置** 調査区北部のR 4 e4区，標高22.0mほどの台地縁辺部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.64m，短軸0.84mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 72° - Wである。深さは20cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，北側中央部に炭化物が付着している。

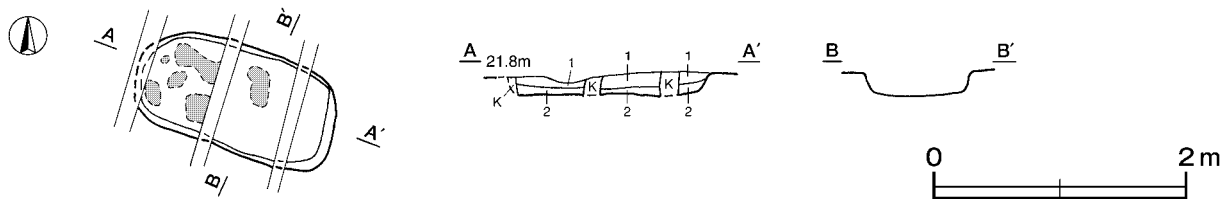
**覆土** 2層に分けられる。ローム粒子を多量に含む人為堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量      2 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片5点（小皿1，内耳鍋4），古銭1点（元豊通寶）が覆土中から出土している。

**所見** 人為的に埋め戻した痕跡がみられ，底面に炭化物が付着している。埋葬状況は，形状から伸展葬と推定され，古銭は副葬品と考えられる。時期は，規模や形状が類似している第4258号土坑の年代観から16世紀前半以降と考えられる。



第722図 第4375号土坑実測図

第5252号土坑（第723図）

**位置** 調査区南西部のS 4 i4区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

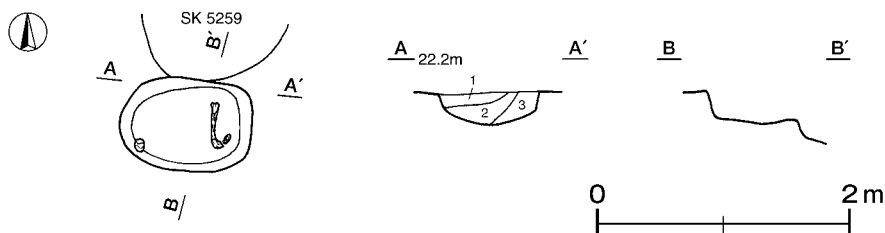
**重複関係** 第5259号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸1.05m，短軸0.71mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 86° - Wである。深さは28cmで，底面は平坦で，壁は直立している。

**覆土** 3層に分けられる。ロームブロックを多量に含む人為堆積である。

**土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量      3 褐色 ロームブロック多量  
2 黒褐色 ロームブロック中量



第723図 第5252号土坑実測図

**遺物出土状況** 人骨の頭骸骨及び上腕骨の一部が出土している。

**所見** 埋葬状況は、人骨の出土状況から頭位を西に向けた臥屈葬と推定される。時期は、遺構の形状から中世後半と考えられる。

#### 第5253号土坑（第724図）

**位置** 調査区南西部のS 4 i 4 区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**規模と形状** 長軸1.14m，短軸0.74mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 5° - Eである。深さは43cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

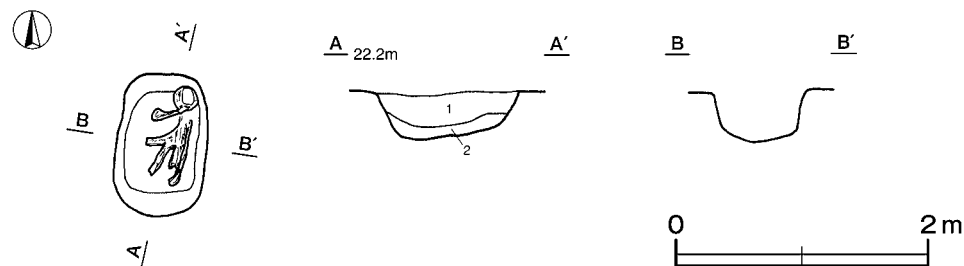
**覆土** 2層に分けられる。ロームブロックを含む人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量      2 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 人骨の頭骸骨及び上腕骨，大腿骨が出土している。

**所見** 埋葬状況は、人骨の出土状況から頭位を北に向けた臥屈葬と推定される。時期は、遺構の形状から中世後半と考えられる。



第724図 第5253号土坑実測図

#### 第5257号土坑（第725図）

**位置** 調査区南部のT 4 a 4 区，標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第18号道路跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.46m，短径1.38mの円形で，長径方向はN - 56° - Wである。深さは38cmで，壁は直立している。底面は平坦で，中央部に径98cm，幅9cm，深さ3cmの円形の落ち込みが確認され，棺桶の底部の圧痕と考えられる。

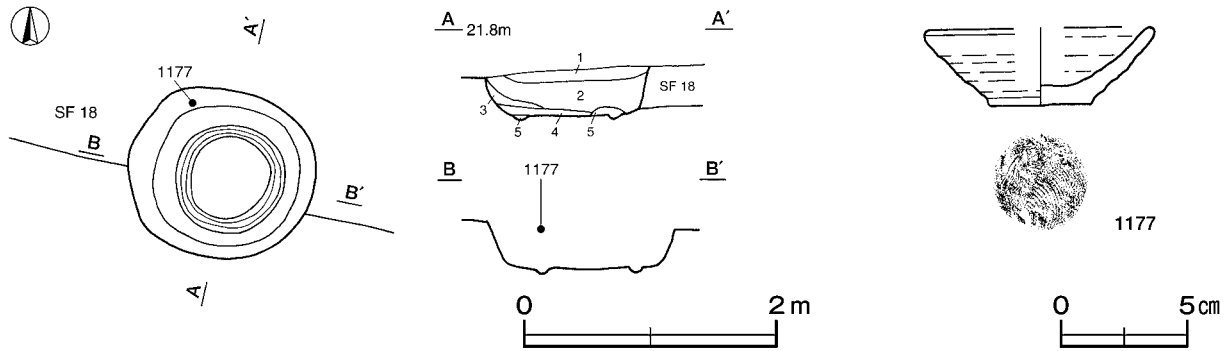
**覆土** 5層に分けられる。ロームブロックを多量に含む人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量      4 黒褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量      5 黒褐色 ローム粒子少量  
3 褐色 ロームブロック多量，炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片2点（小皿），鉄滓1点が出土しているほか，土師器片10点，須恵器片2点も流れ込んでいる。1177は北壁際の覆土上層から斜位で出土しており，埋没過程で混入したものと考えられる。

**所見** 底面に円形の落ち込みがみられることから，桶を棺に用いた座葬と推定される。時期は，出土遺物から16世紀後半以前と考えられる。



第725図 第5257号土坑・出土遺物実測図

第5257号土坑出土遺物観察表（第725図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1177	土師質土器	小皿	[8.8]	3.1	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	80%

### 第5259号土坑（第726図）

**位置** 調査区南西部のS 4 h4区、標高22.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第5252号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.21m、短軸1.10mの隅丸方形で、長軸方向はN - 20° - Eである。深さは51cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

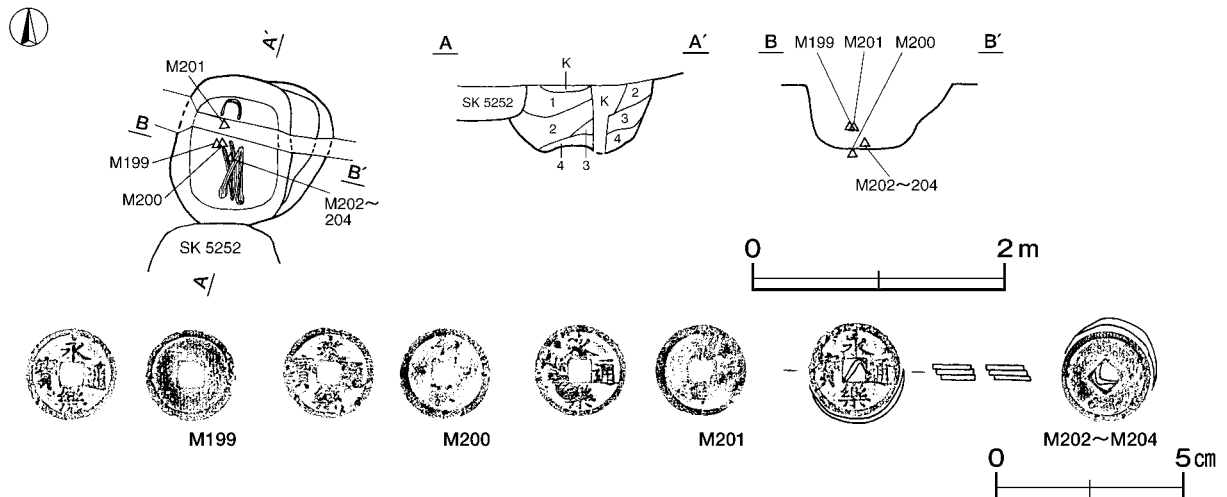
**覆土** 4層に分けられる。ロームブロックを含む人為堆積で、東側から埋め戻された状況を示している。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 人骨（頭骨、上腕骨、大腿骨）、古銭6点（永楽通寶4、融着のため不明2）が出土している。M199～204は、人骨の胸元にあたる位置からまとめて出土している。

**所見** 人骨の出土状況から、頭位を北に向けた臥屈葬と推定される。南側に位置する第5253号土坑と主軸方向や埋葬頭位が一致しており、近接した時期と考えられる。また、第5252号土坑との重複関係から、埋葬頭位が北から西へ移行していることが想定される。時期は、遺構の形状や出土遺物から中世後半と考えられる。



第726図 第5259号土坑・出土遺物実測図

第5259号土坑出土遺物観察表（第726図）

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M199	古銭	2.50	0.60	0.13	2.1	銅	永楽通寶 初鑄1408年 明銭	下層	PL148
M200	古銭	2.50	0.55	0.12	2.4	銅	永楽通寶 初鑄1408年 明銭	下層	
M201	古銭	2.50	0.58	0.12	1.9	銅	永楽通寶 初鑄1408年 明銭	下層	
M202	古銭	2.54	0.60	0.14	[3.2]	銅	永楽通寶 初鑄1408年 明銭	下層	PL148
M203	古銭	2.42	0.60	0.14	[3.2]	銅	錆のため融着	下層	PL148
M204	古銭	2.45	0.62	0.13	[3.2]	銅	錆のため融着	下層	PL148

第5519号土坑（第727図）

**位置** 調査区南西部のS 3 j8区，標高21.0mほどの斜面部中段に位置している。

**規模と形状** 長軸1.92m，短軸0.75mの隅丸長方形で，長軸方向はN - 83° - Eである。深さは49cmで，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

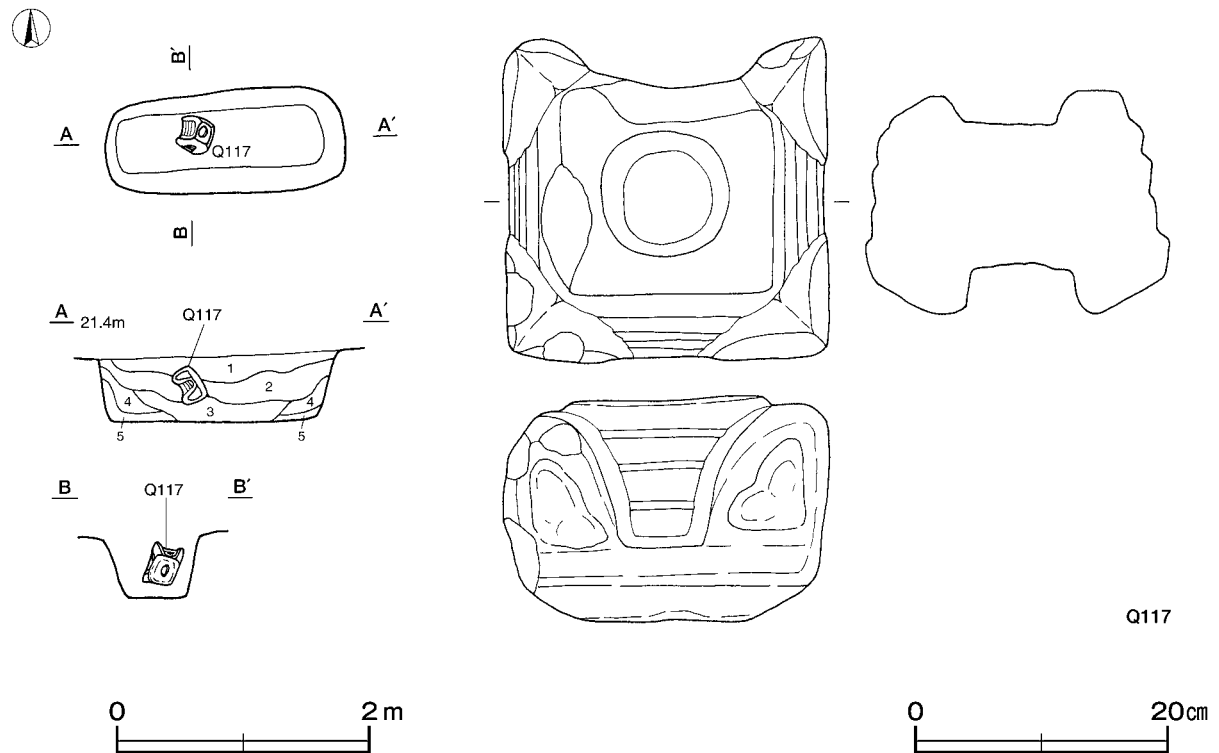
**覆土** 5層に分けられる。ロームブロックを多量に含む人為堆積である。

土層解説

- |          |           |       |           |
|----------|-----------|-------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 | 4 黒褐色 | ローム粒子微量   |
| 2 褐色     | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 灰黄褐色   | ロームブロック少量 |       |           |

**遺物出土状況** 石塔1点（宝篋印塔笠部）が覆土中層から横転した状態で出土している。

**所見** 遺構の形状から，埋葬状況は伸展葬と推定され，供養塔として宝篋印塔が建てられていた可能性がある。時期判定の根拠となる遺物が出土していないため，時期は明確でないが，周辺の墓坑群の年代観から15世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第727図 第5519号土坑・出土遺物実測図



第5519号土坑出土遺物観察表（第727図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q117	宝篋印塔	25.8	25.4	17.7	19.75	花崗岩	笠	中層	PL143

第5563号土坑（第728図）

**位置** 調査区南部のT4a7区、標高21.0mほどの斜面部上段に位置している。

**重複関係** 第94号堀に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸は1.12m、短軸は0.52mを確認している。形状は隅丸長方形と推定され、長軸方向はN - 6° - Wである。深さは26cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

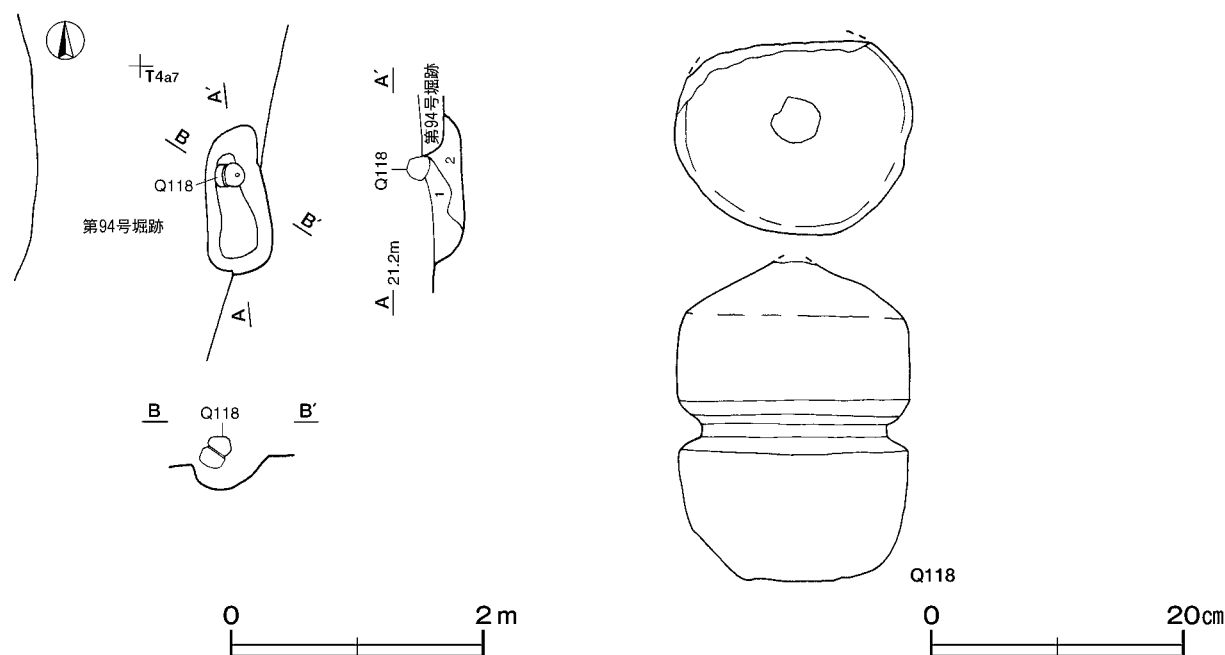
**覆土** 2層に分けられる。ロームブロックを含む人為堆積であり、西側から埋め戻された状況を示している。

**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量      2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片5点（内耳鍋4、播鉢1）、陶器片1点（瀬戸・美濃系丸皿）、石塔1点（五輪塔空風輪）が覆土中から出土している。

**所見** 埋葬状況は形状から伸展葬と推定される。時期は、出土遺物や重複している第94号堀の年代観から16世紀後半以前と考えられる。



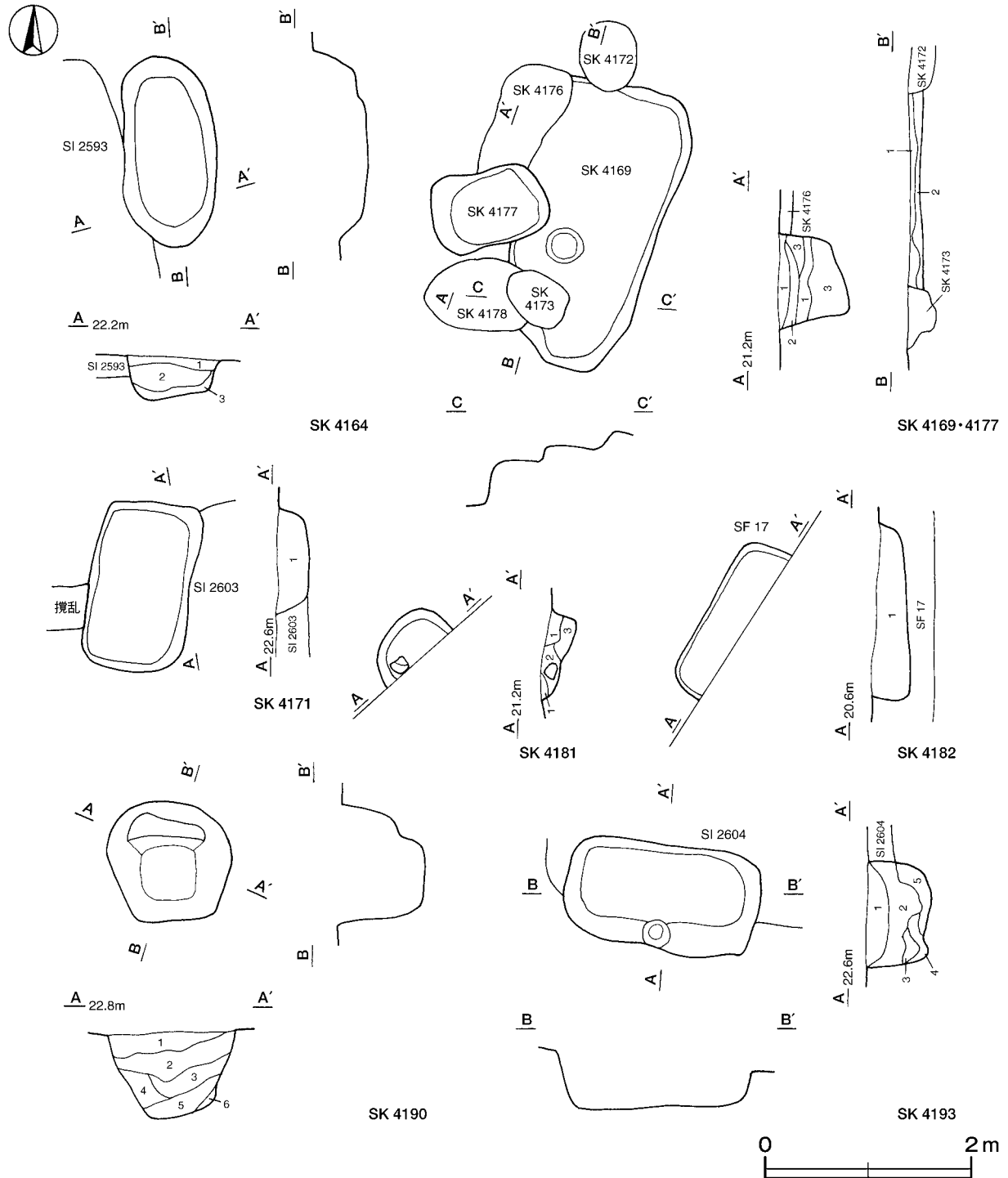
第728図 第5563号土坑・出土遺物実測図

第5563号土坑出土遺物観察表（第728図）

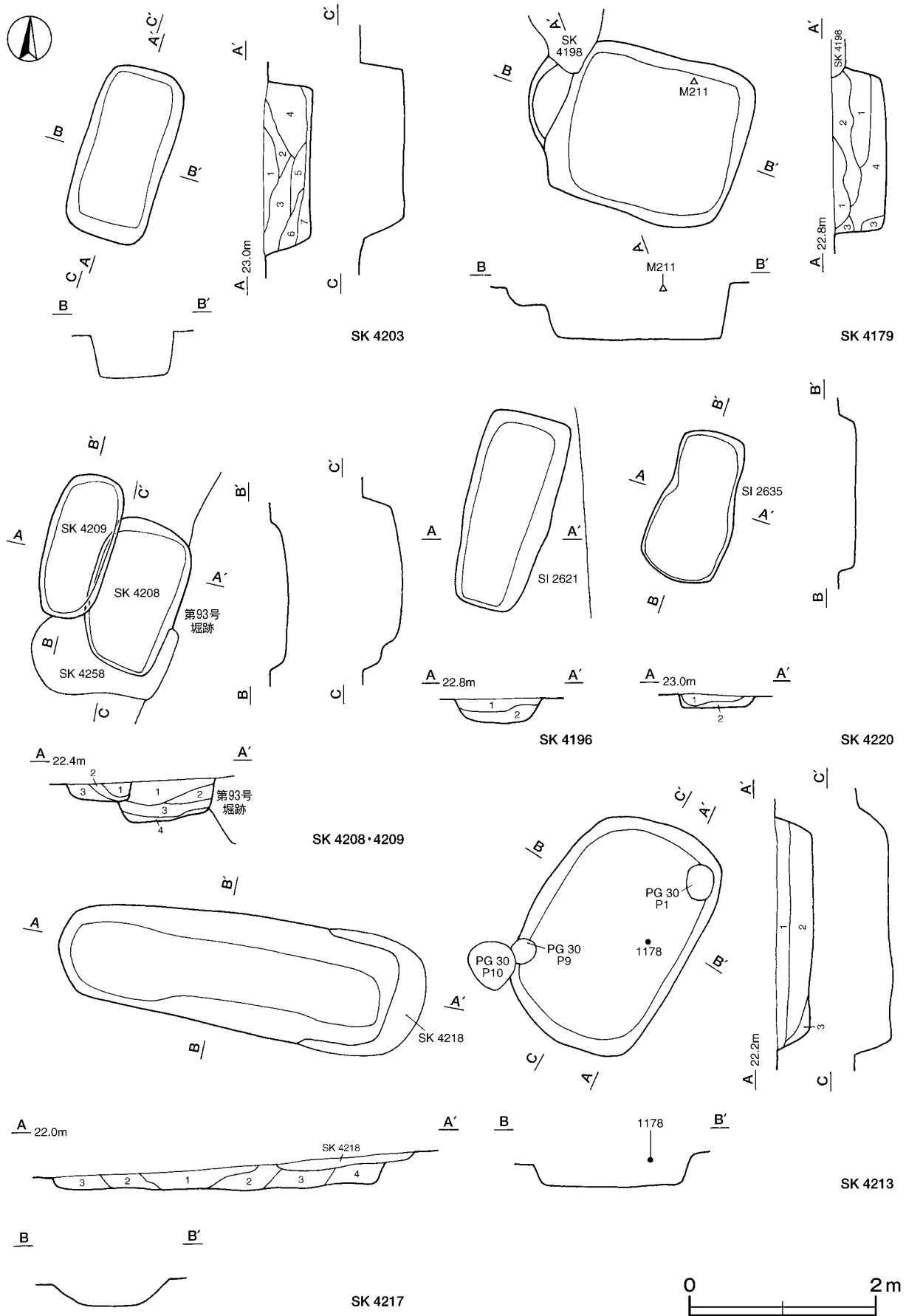
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q118	五輪塔	(25.2)	19.0	(15.2)	(10.83)	花崗岩	空風輪 端部欠損	上層	PL143

(12) 墓坑の可能性のある土坑

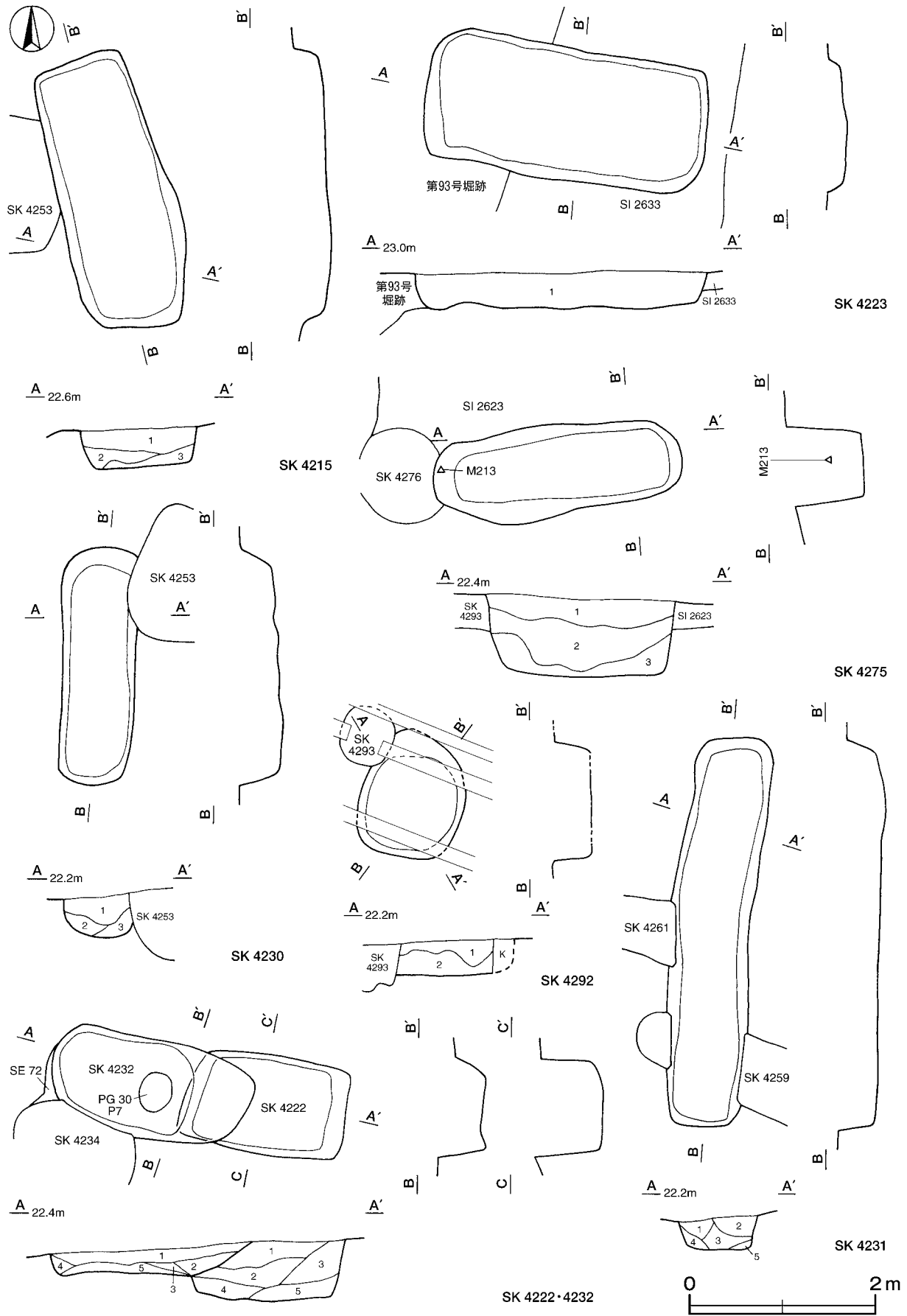
16区から検出された土坑のうち、人為的に埋め戻された痕跡があり、位置や形状が墓坑と類似している土坑が175基確認された。15世紀後半から17世紀前半の時期の土器類や古寛永通寶を含む古銭が出土しており、時期は、中世後半から近世前半と考えられる。以下、実測図と土層解説で紹介する。



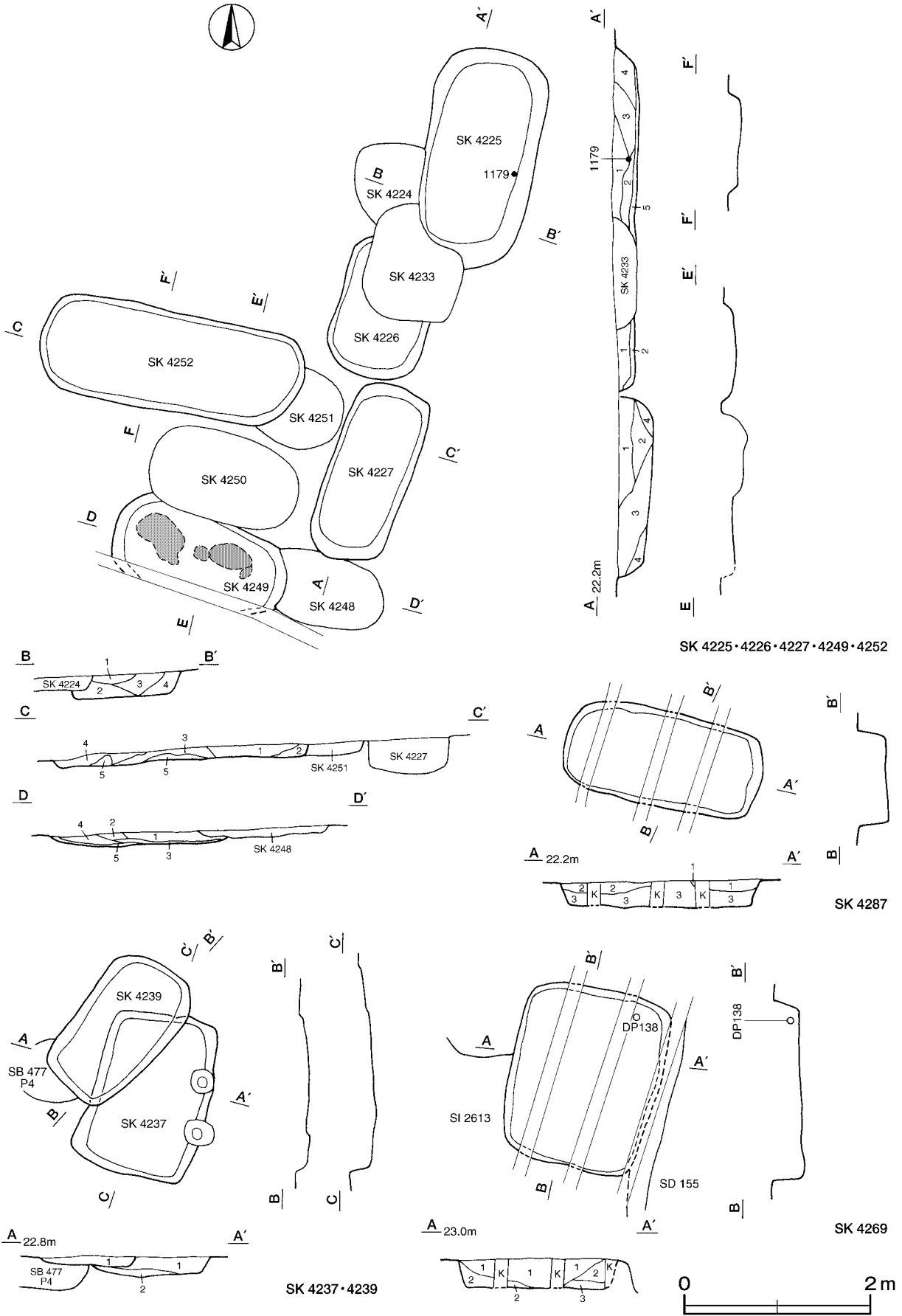
第729図 墓坑の可能性のある土坑(1)



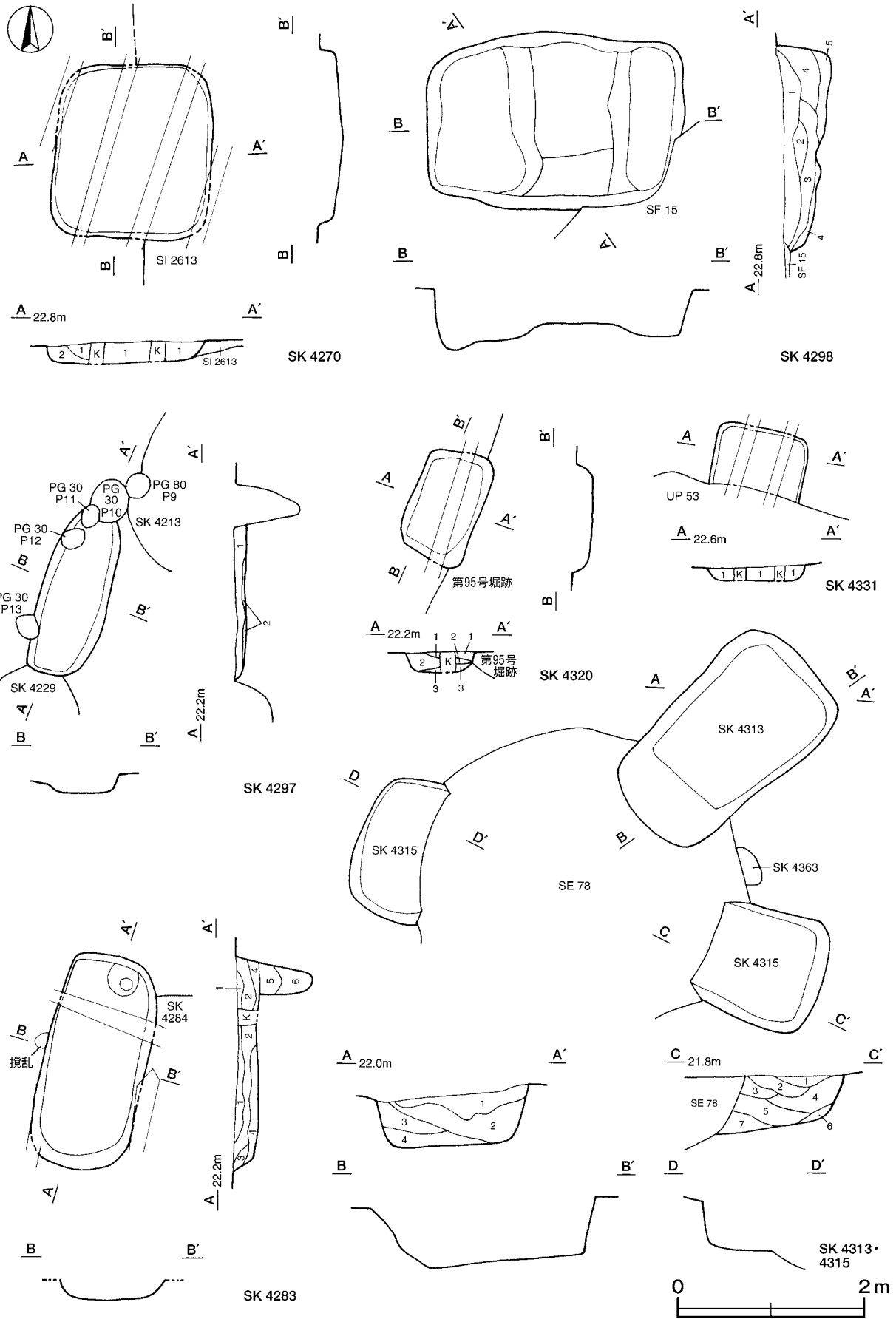
第730図 墓坑の可能性のある土坑(2)



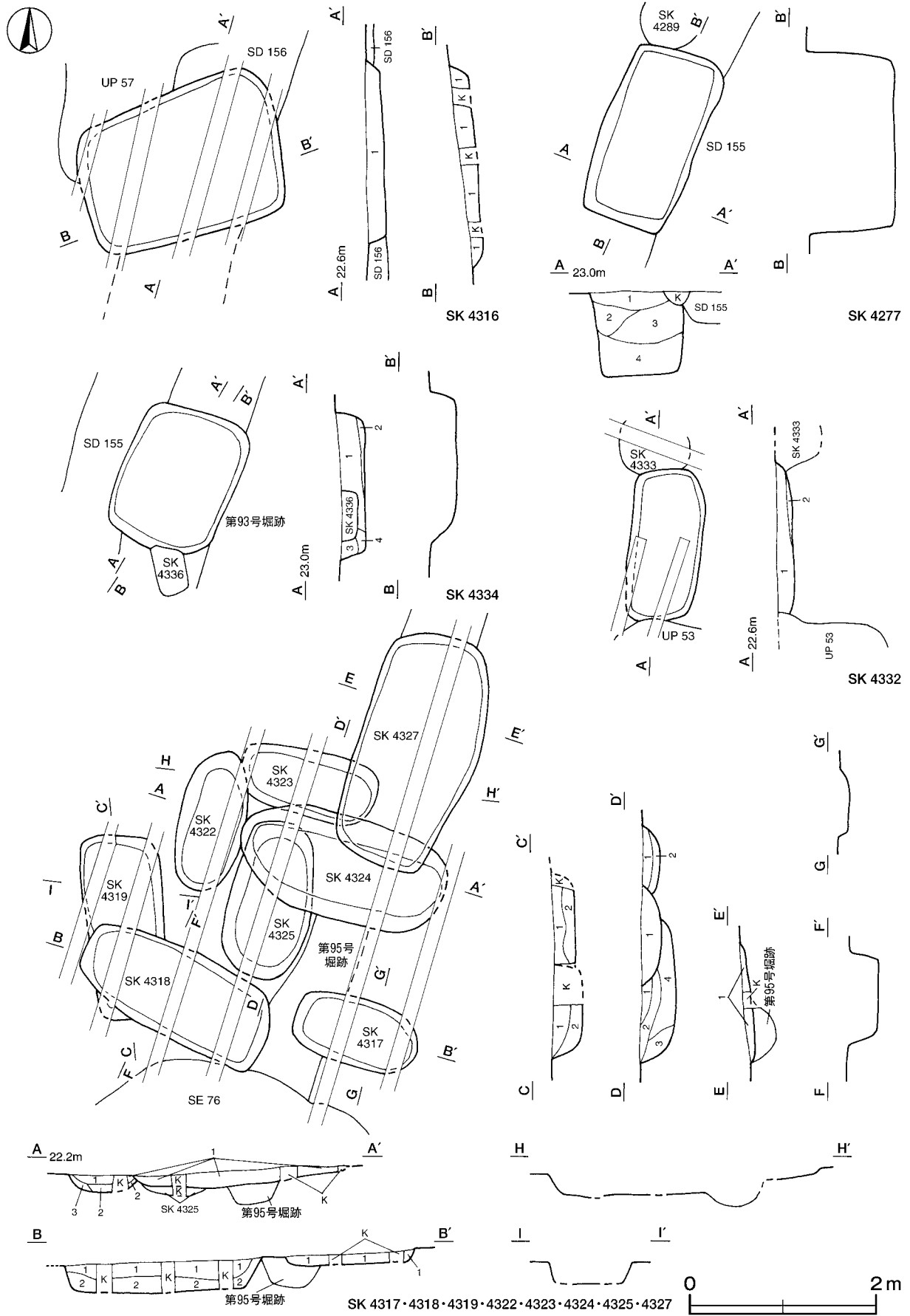
第731図 墓坑の可能性のある土坑(3)



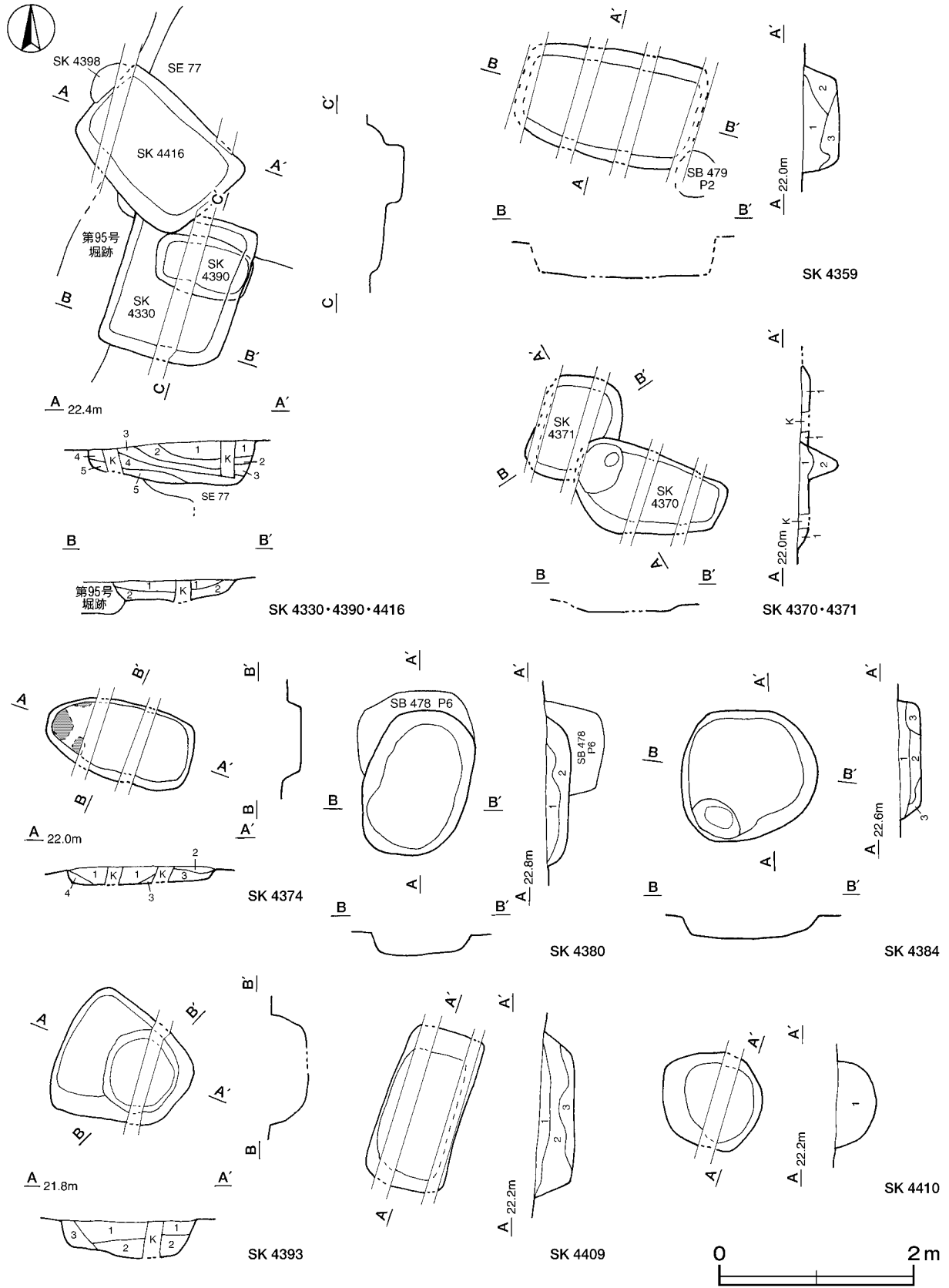
第732図 墓坑の可能性のある土坑(4)



第733図 墓坑の可能性のある土坑(5)

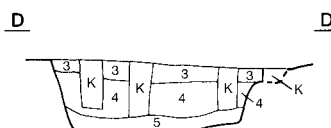
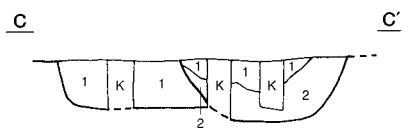
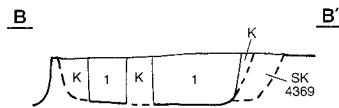
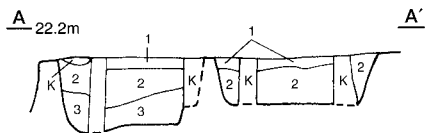
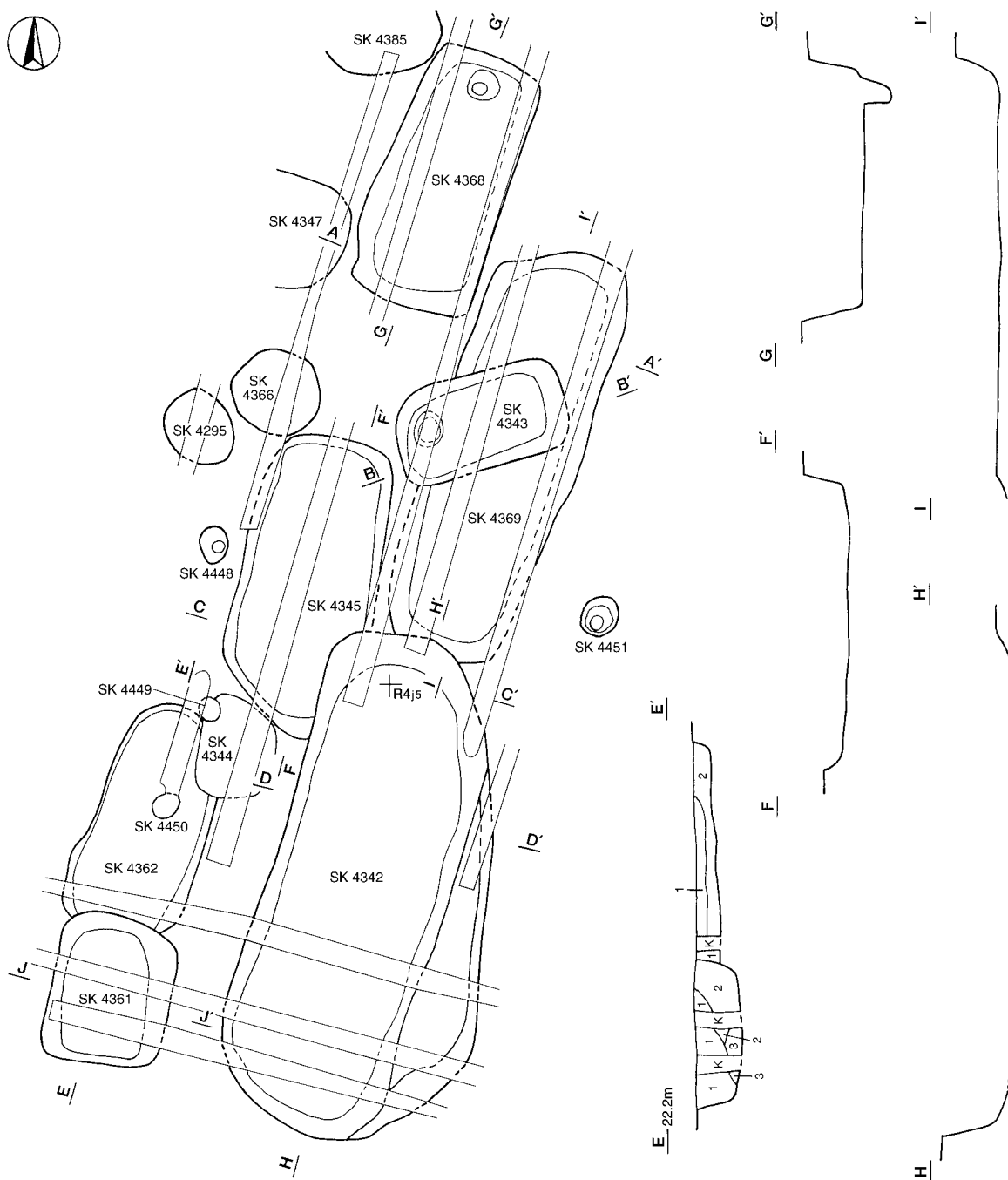


第734図 墓坑の可能性のある土坑(6)



第735図 墓坑の可能性のある土坑(7)

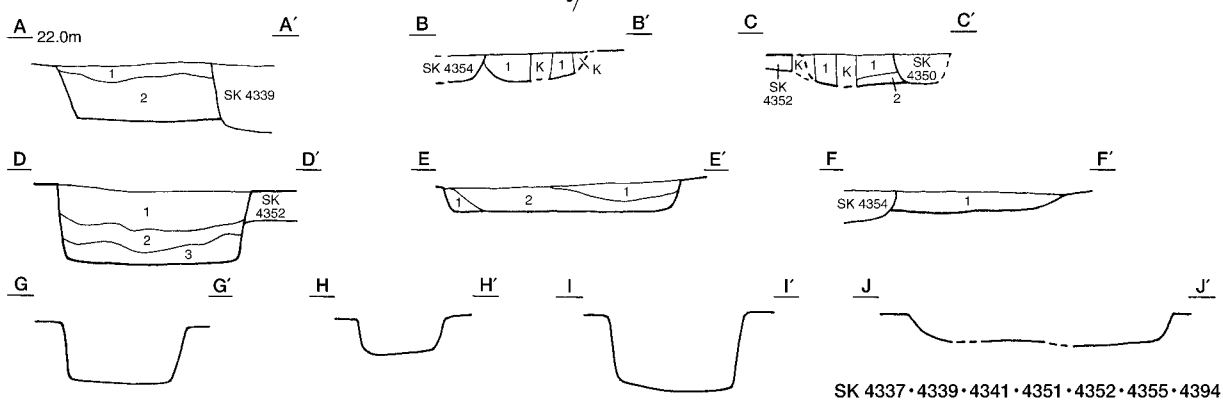
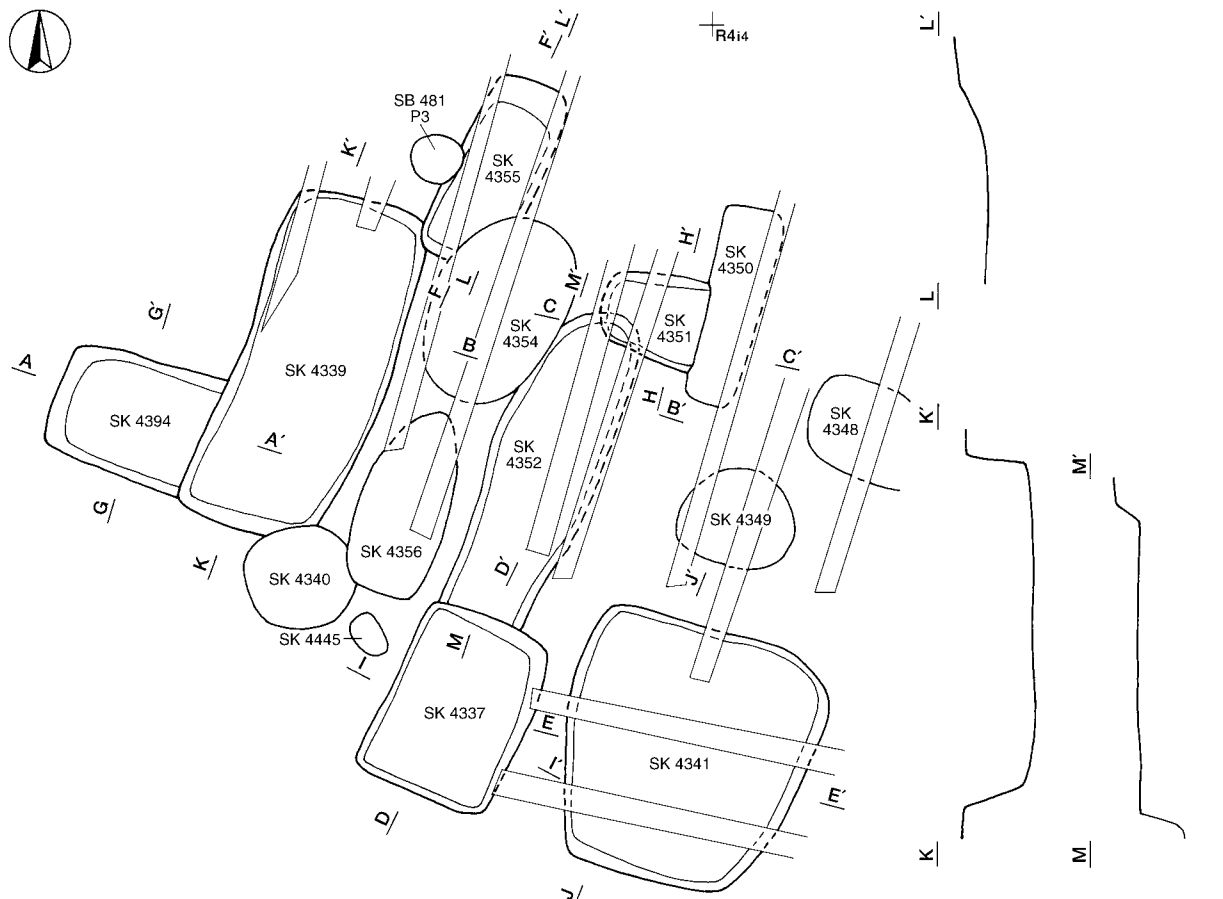




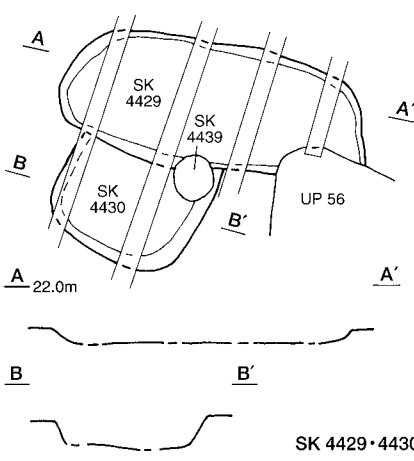
SK 4342・4343・4345・4361・4362・4368・4369



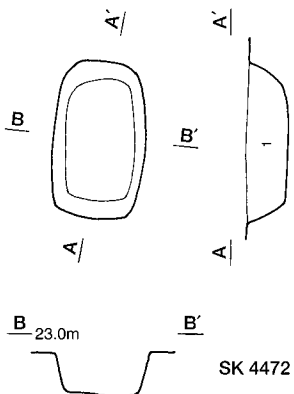
第736図 墓坑の可能性のある土坑(8)



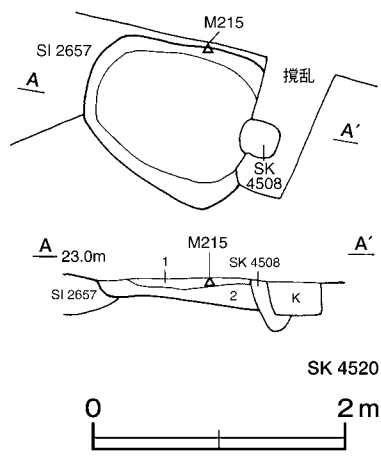
SK 4337・4339・4341・4351・4352・4355・4394



SK 4429・4430

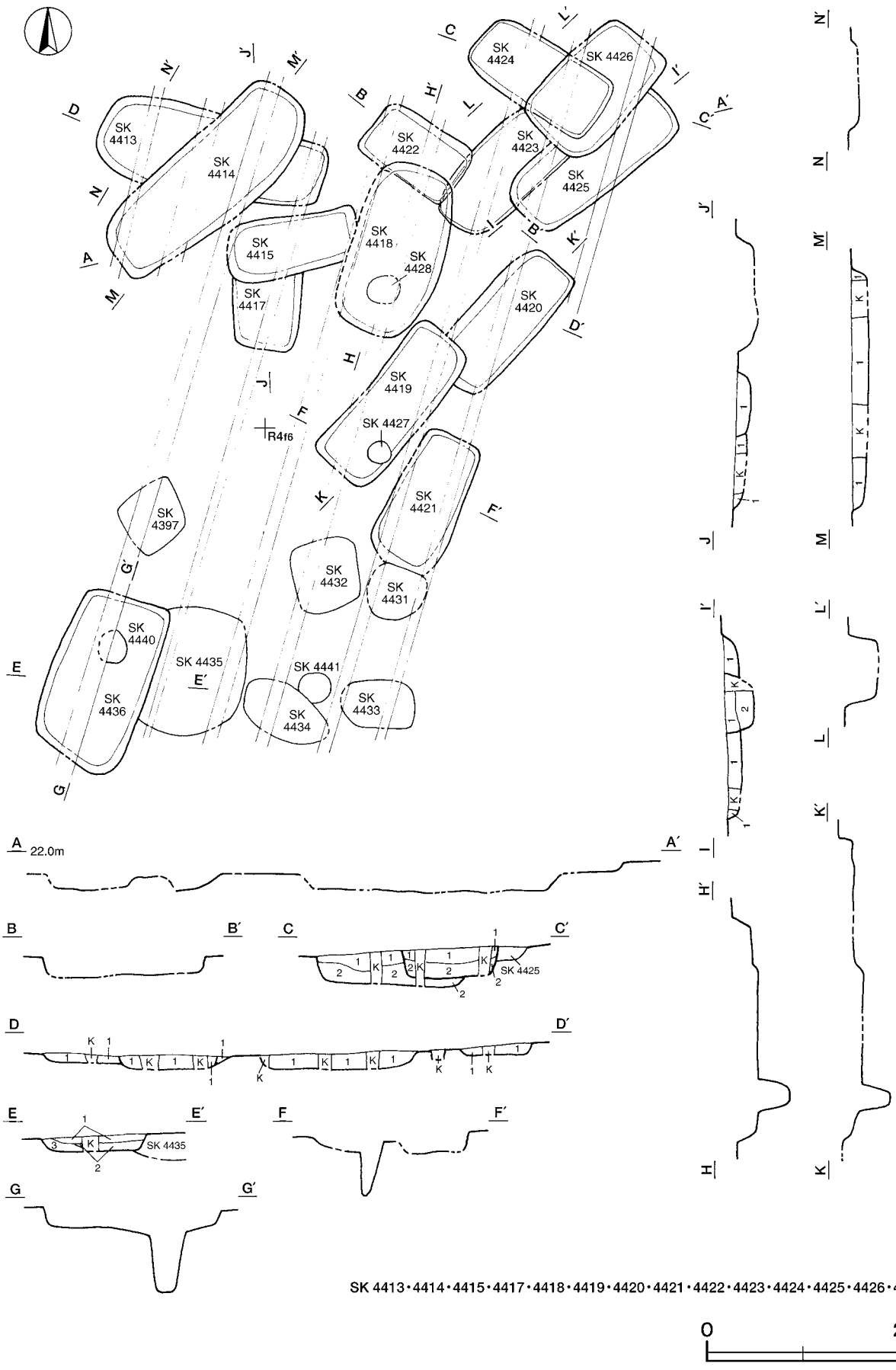


SK 4472



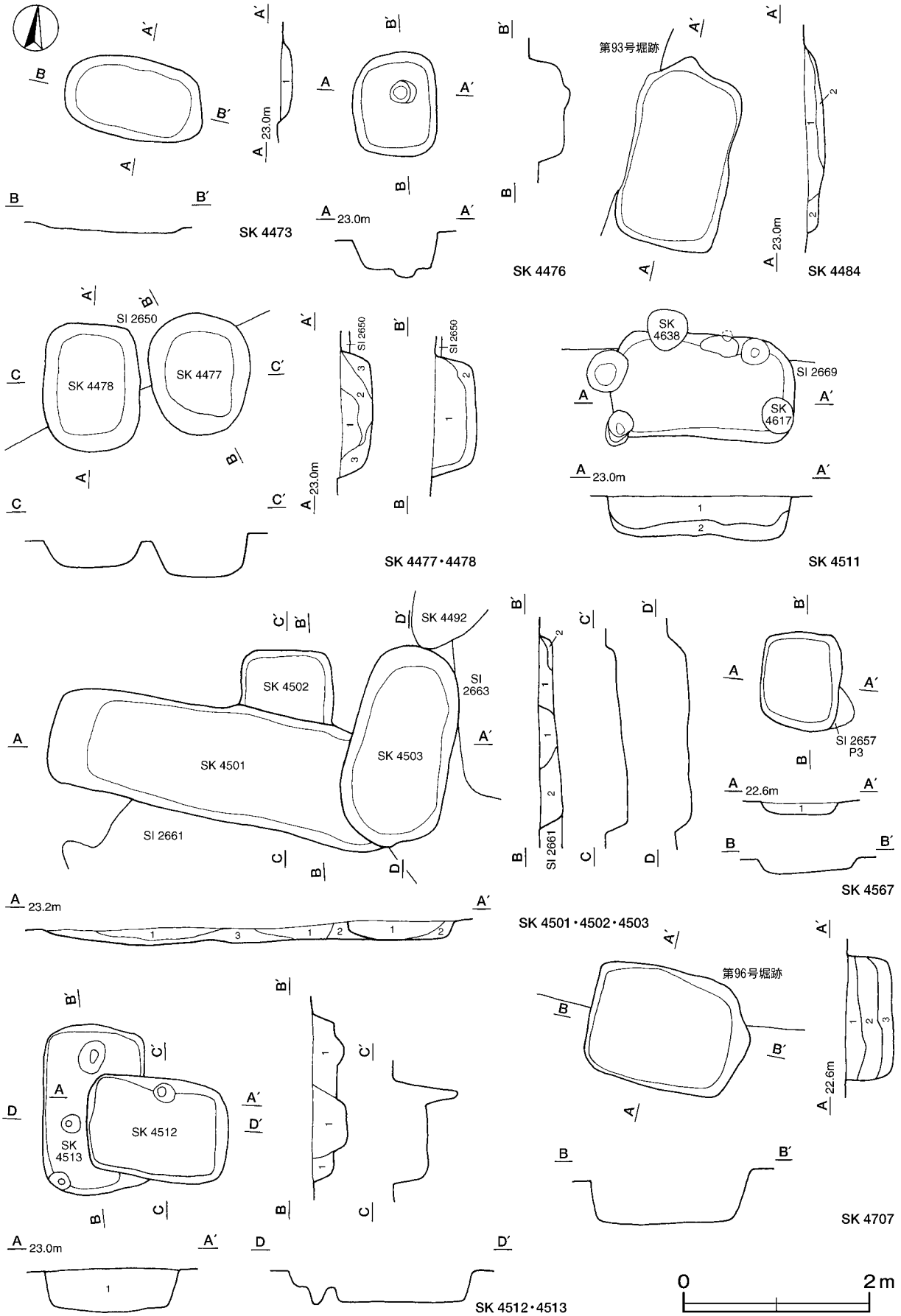
SK 4520

第737図 墓坑の可能性のある土坑(9)

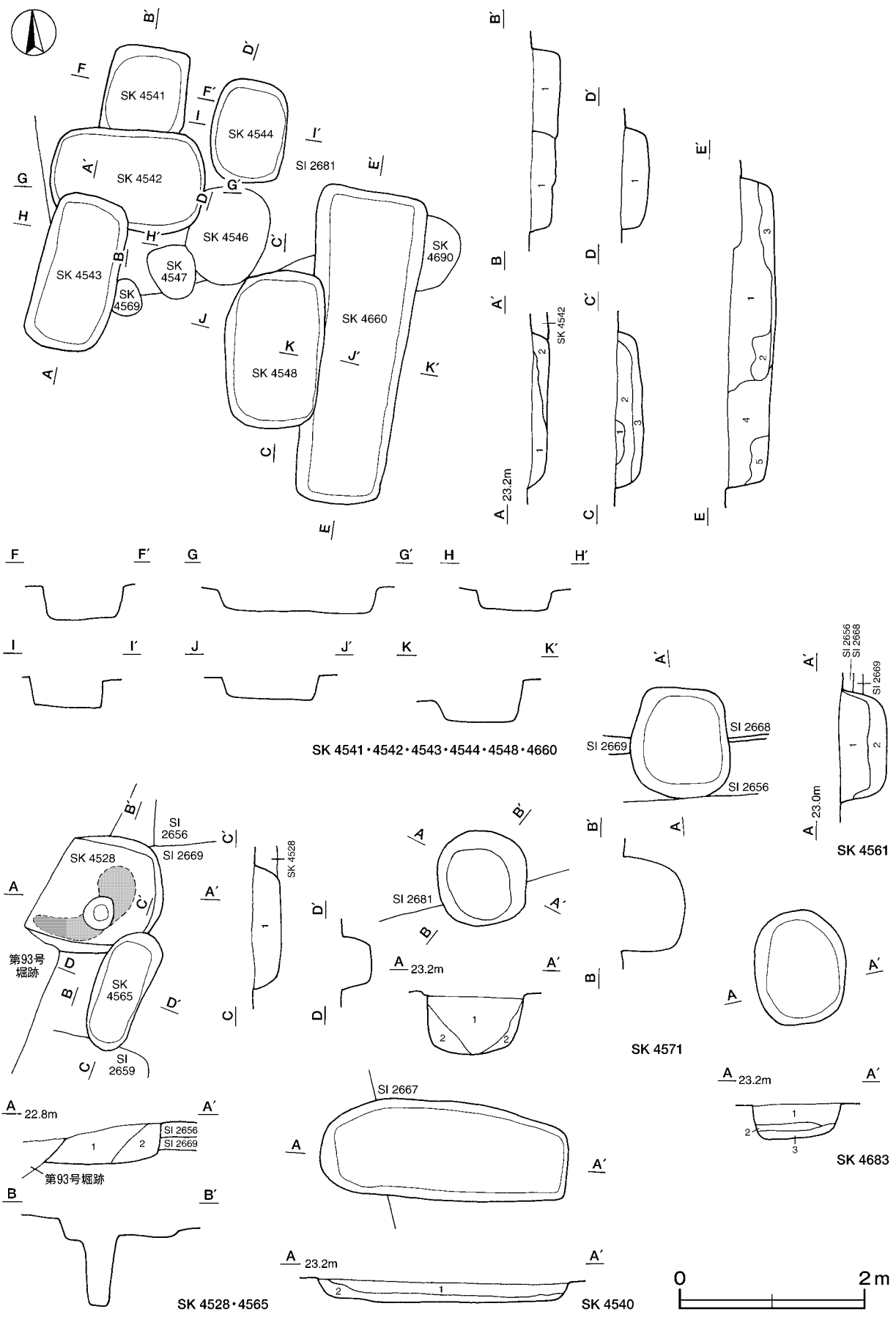


SK 4413・4414・4415・4417・4418・4419・4420・4421・4422・4423・4424・4425・4426・4436

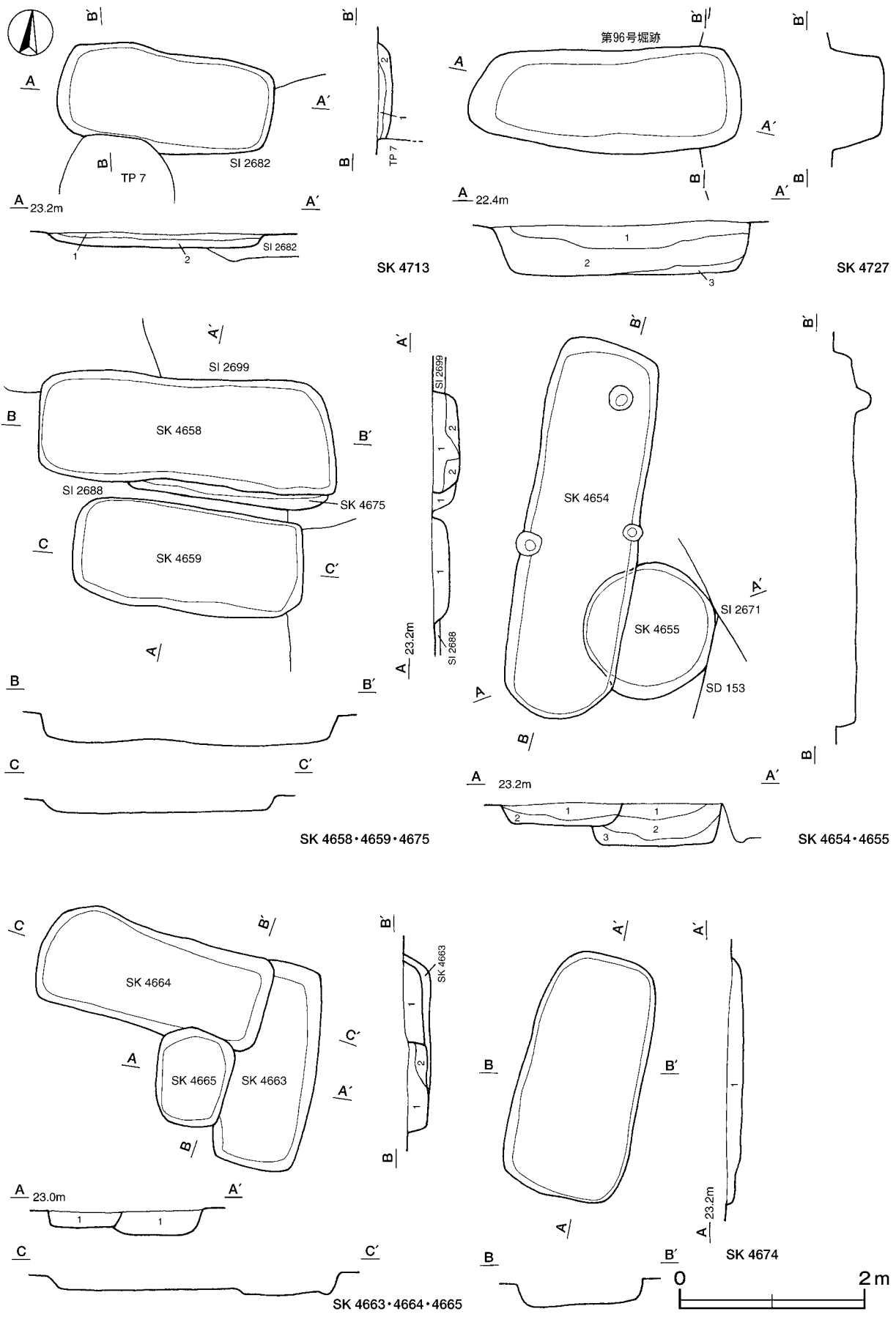
第738図 墓坑の可能性のある土坑(10)



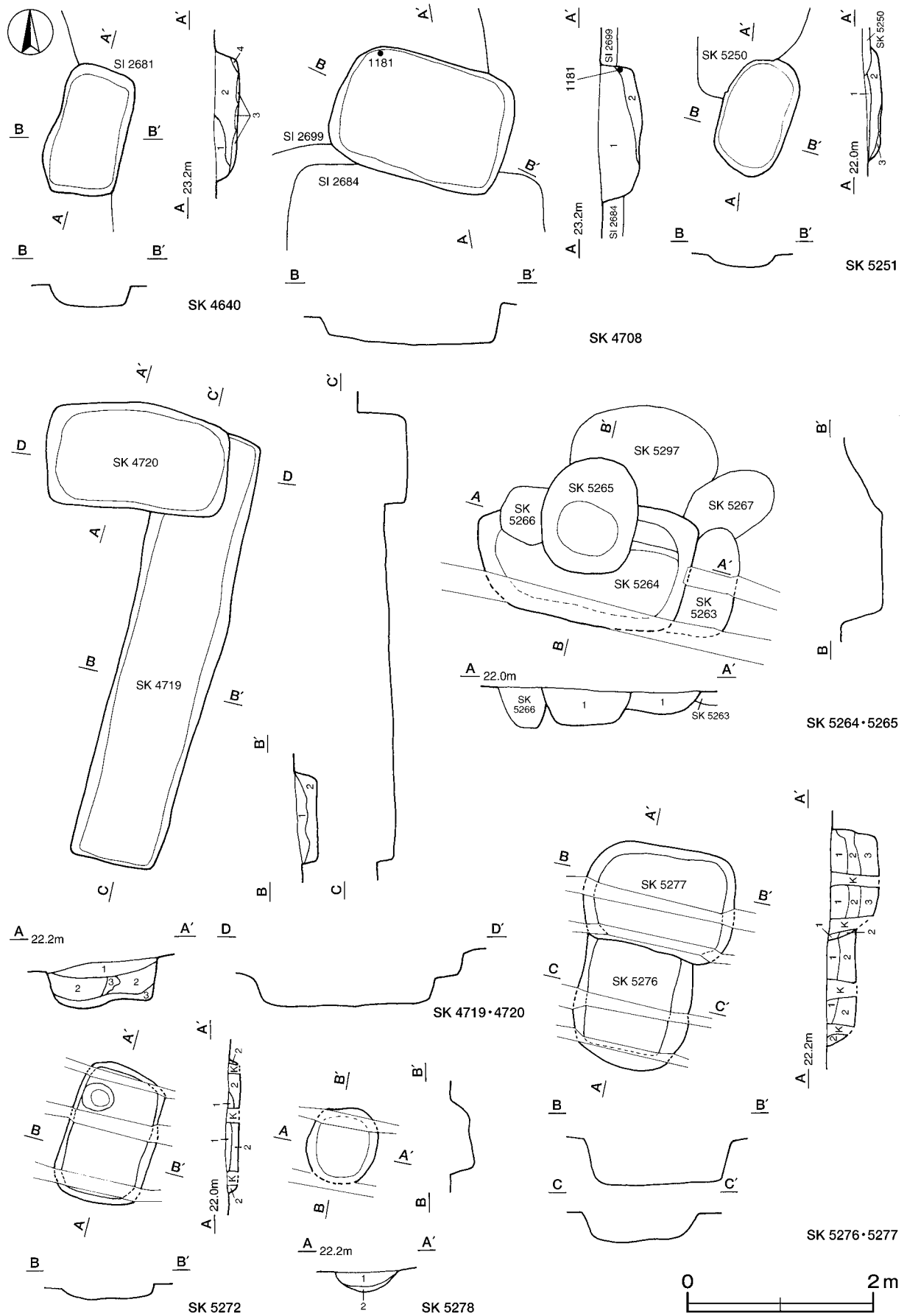
第739図 墓坑の可能性のある土坑(11)



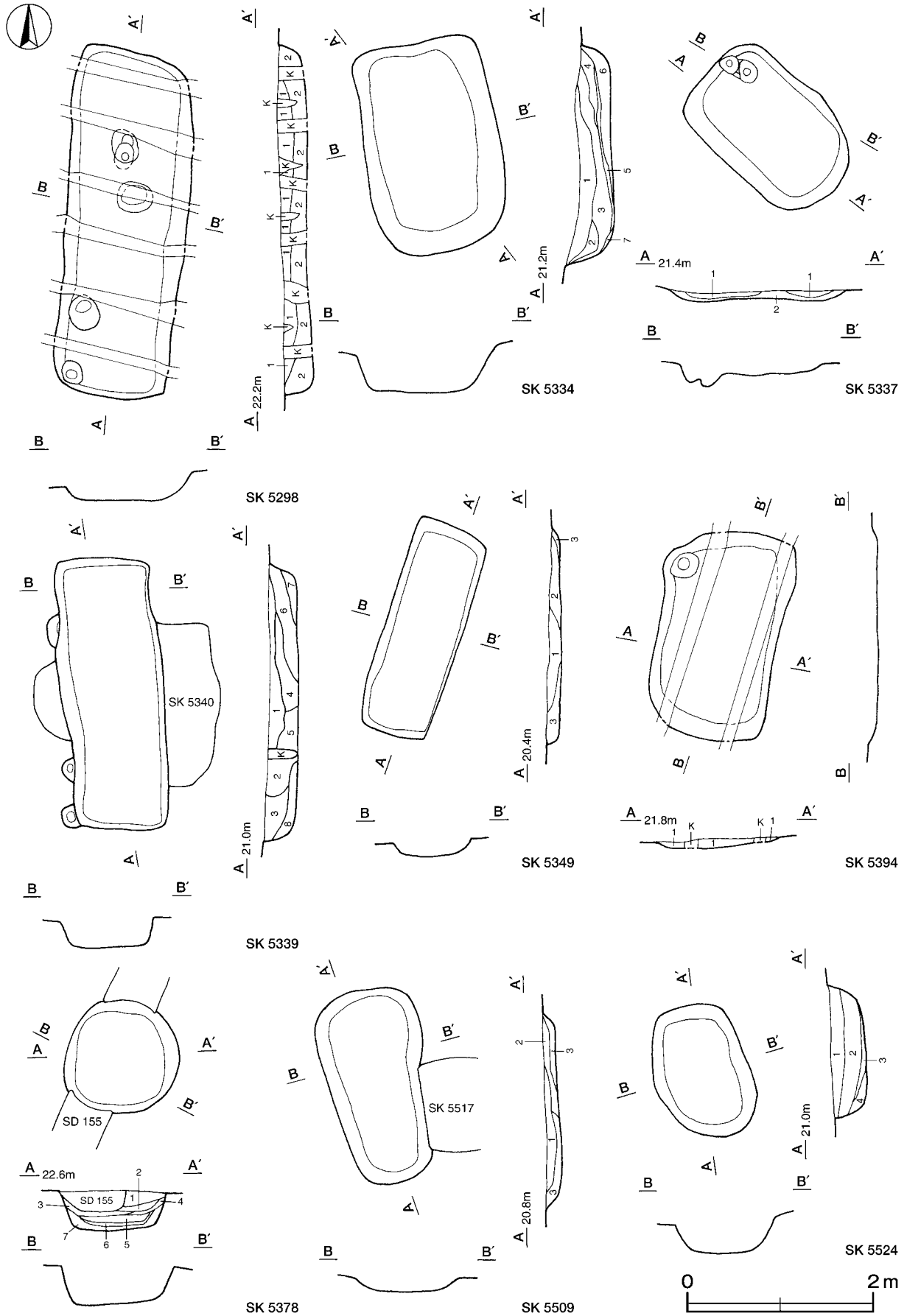
第740図 墓坑の可能性のある土坑(12)



第741図 墓坑の可能性のある土坑(13)

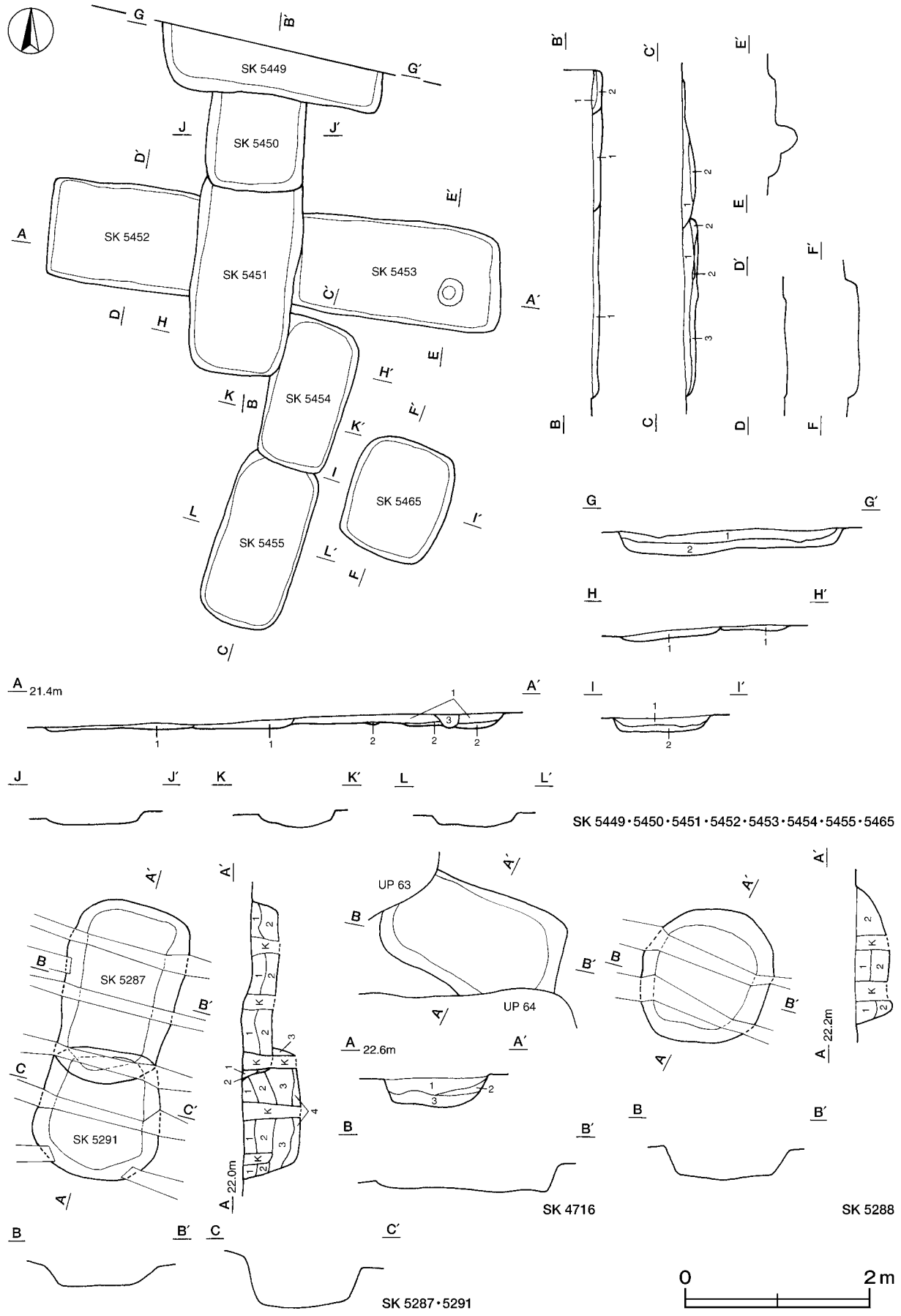


第742図 墓坑の可能性のある土坑(14)

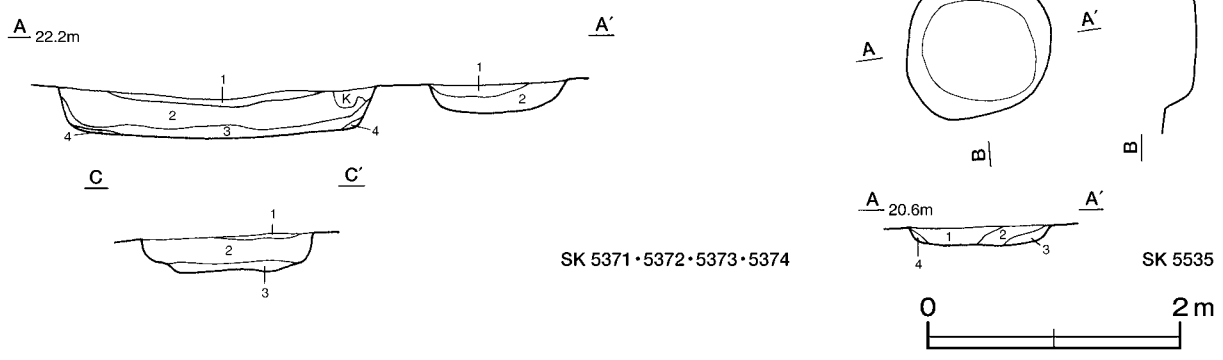
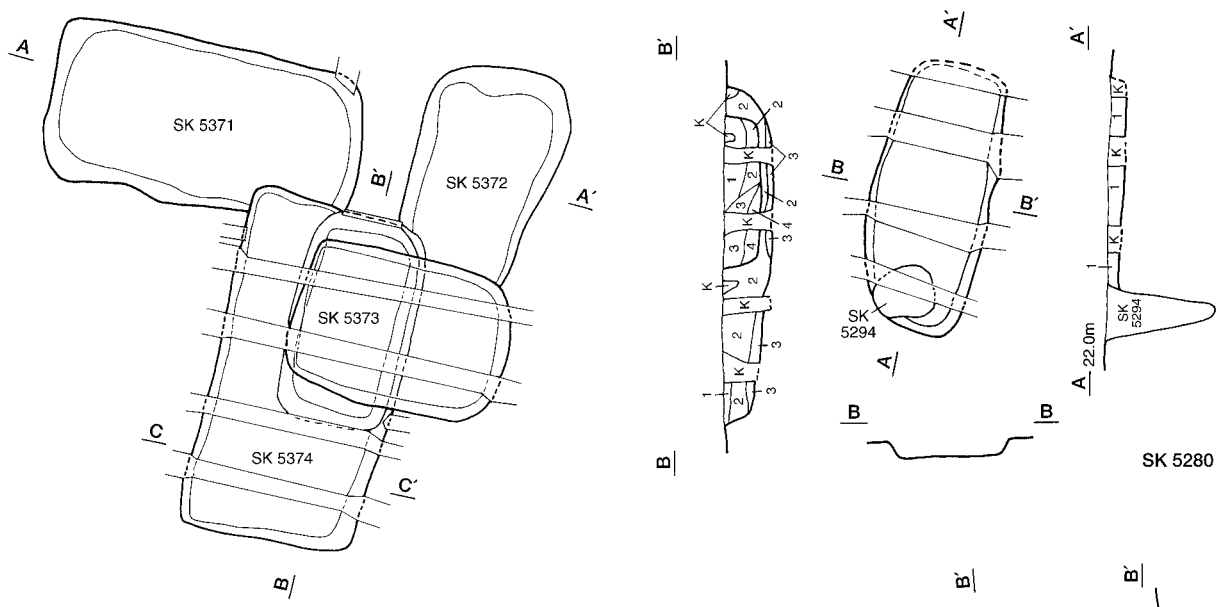
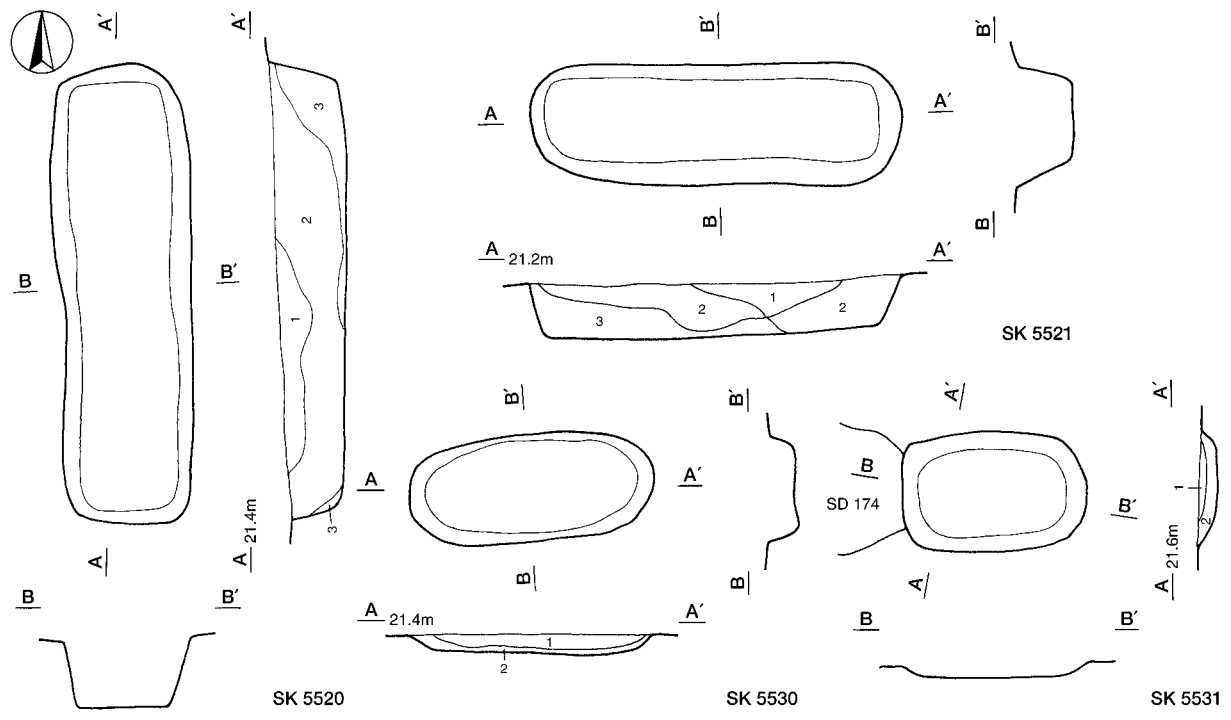


第743図 墓坑の可能性のある土坑(15)





第744図 墓坑の可能性のある土坑(16)



第745図 墓坑の可能性のある土坑(17)

**第4164号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

**第4169号土坑土層解説**

- 1 極 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

**第4171号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量

**第4177号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量

**第4181号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

**第4182号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量

**第4190号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐 色 ローム粒子中量

**第4193号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

**第4196号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量

**第4199号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第4203号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 6 褐 色 ロームブロック中量
- 7 黒 褐 色 ローム粒子微量

**第4208号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 明 褐 色 ローム粒子多量

**第4209号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

**第4213号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

**第4215号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 明 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第4217号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子少量

**第4220号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量

**第4222号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 明 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 明 褐 色 ロームブロック多量

**第4223号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4225号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 明 褐 色 ローム粒子多量

**第4226号土坑土層解説**

- 1 明 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 明 褐 色 ローム粒子多量

**第4227号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

**第4230号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第4231号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 明 褐 色 ローム粒子多量

**第4232号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 明 褐 色 ロームブロック多量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量

**第4237号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

**第4239号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第4249号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

**第4252号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 4 明 褐 色 ローム粒子多量
- 5 明 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

**第4269号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量

**第4270号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4275号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第4277号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量
- 4 灰褐色 ロームブロック微量

**第4283号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量

**第4287号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第4292号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

**第4297号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4298号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック少量

**第4313号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

**第4315号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 灰褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化材微量
- 7 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化材少量

**第4316号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量

**第4317号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

**第4318号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

**第4319号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

**第4320号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

**第4322号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

**第4323号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第4324号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量

**第4325号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4327号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

**第4330号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック微量
- 2 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

**第4331号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

**第4332号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック・黒色土ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

**第4334号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子微量

**第4337号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 明褐色 黒色土ブロック少量

**第4341号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック多量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量

**第4342号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック多量, 炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 炭化物少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子多量

**第4343号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子多量

**第4345号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック少量

**第4351号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック少量

**第4352号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色土ブロック微量

**第4355号土坑土層解説**

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量, 黒色土ブロック少量

**第4359号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量, 黒色土ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化物微量

**第4361号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第4362号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック微量

**第4368号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック中量, 炭化物微量
- 3 明褐色 黒色土ブロック中量

**第4369号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

**第4370号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化物微量

**第4371号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

**第4374号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4380号土坑土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

**第4384号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

**第4393号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

**第4394号土坑土層解説**

- 1 にぶい褐色 ローム粒子多量, 黒色土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック・炭化物微量

**第4409号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量, 黒色土ブロック中量

**第4410号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック中量

**第4413号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第4414号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

**第4415号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4416号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・黒色粒子微量
- 3 黒褐色 黒色粒子少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

**第4417号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量

**第4418号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4420号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量

**第4424号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

**第4425号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4426号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

**第4436号土坑土層解説**

- 1 明褐色 ロームブロック少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第4472号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量

**第4473号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量

**第4477号土坑土層解説**

- 1 明褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子中量

**第4478号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

**第4484号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

**第4501号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第4502号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

**第4503号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

**第4511号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**第4512号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

**第4513号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4520号土坑土層解説**

- 1 暗オリーブ褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量

**第4528号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量

**第4540号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

**第4541号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

**第4542号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4543号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4544号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量

**第4548号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

**第4561号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4565号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4567号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

**第4571号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4640号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 灰褐色 ローム粒子少量

**第4654号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**第4655号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

**第4658号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

**第4659号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

**第4660号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 黒色土ブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 黒色土ブロック少量

**第4663号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

**第4664号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

**第4665号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

**第4674号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4675号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

**第4683号土坑土層解説**

- 1 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 2 灰褐色 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量

**第4707号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量, 炭化物微量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量

**第4708号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

**第4713号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第4716号土坑土層解説**

- 1 オリーブ褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 オリーブ褐色 ロームブロック多量

**第4719号土坑土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量

**第4720号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量

**第4727号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック微量

**第5251号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 黒色 ロームブロック微量

**第5264号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

**第5265号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

**第5272号土坑土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

**第5276号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量

**第5277号土坑土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

**第5278号土坑土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック少量

**第5280号土坑土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

**第5287号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

**第5288号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

**第5291号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量

**第5298号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

**第5334号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 灰黄褐色 白色粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 4 褐 色 ロームブロック多量
- 5 褐 灰 色 白色粘土ブロック少量
- 6 灰黄褐色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック微量
- 7 灰黄褐色 白色粘土ブロック多量

**第5337号土坑土層解説**

- 1 にぶい褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 灰 褐 色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量

**第5339号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 4 黒 褐 色 白色粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック微量
- 6 灰 褐 色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック少量
- 7 褐 灰 色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量
- 8 褐 色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック少量

**第5349号土坑土層解説**

- 1 明 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 3 褐 色 粘土粒子少量, ロームブロック微量

**第5371号土坑土層解説**

- 1 褐 灰 色 ロームブロック中量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

**第5372号土坑土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

**第5373号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量

**第5374号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

**第5378号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 褐 灰 色 ロームブロック少量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 7 灰黄褐色 ロームブロック中量

**第5394号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

**第5449号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

**第5450号土坑土層解説**

- 1 灰黄褐色 炭化材多量, ロームブロック中量, 焼土粒子微量

**第5451号土坑土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量

**第5452号土坑土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化材微量

**第5453号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量

**第5454号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量

**第5455号土坑土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量

**第5465号土坑土層解説**

- 1 灰黄褐色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

**第5509号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

**第5520号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

**第5521号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

**第5524号土坑土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子多量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 3 黒 色 ロームブロック微量
- 4 灰黄褐色 ロームブロック中量

**第5530号土坑土層解説**

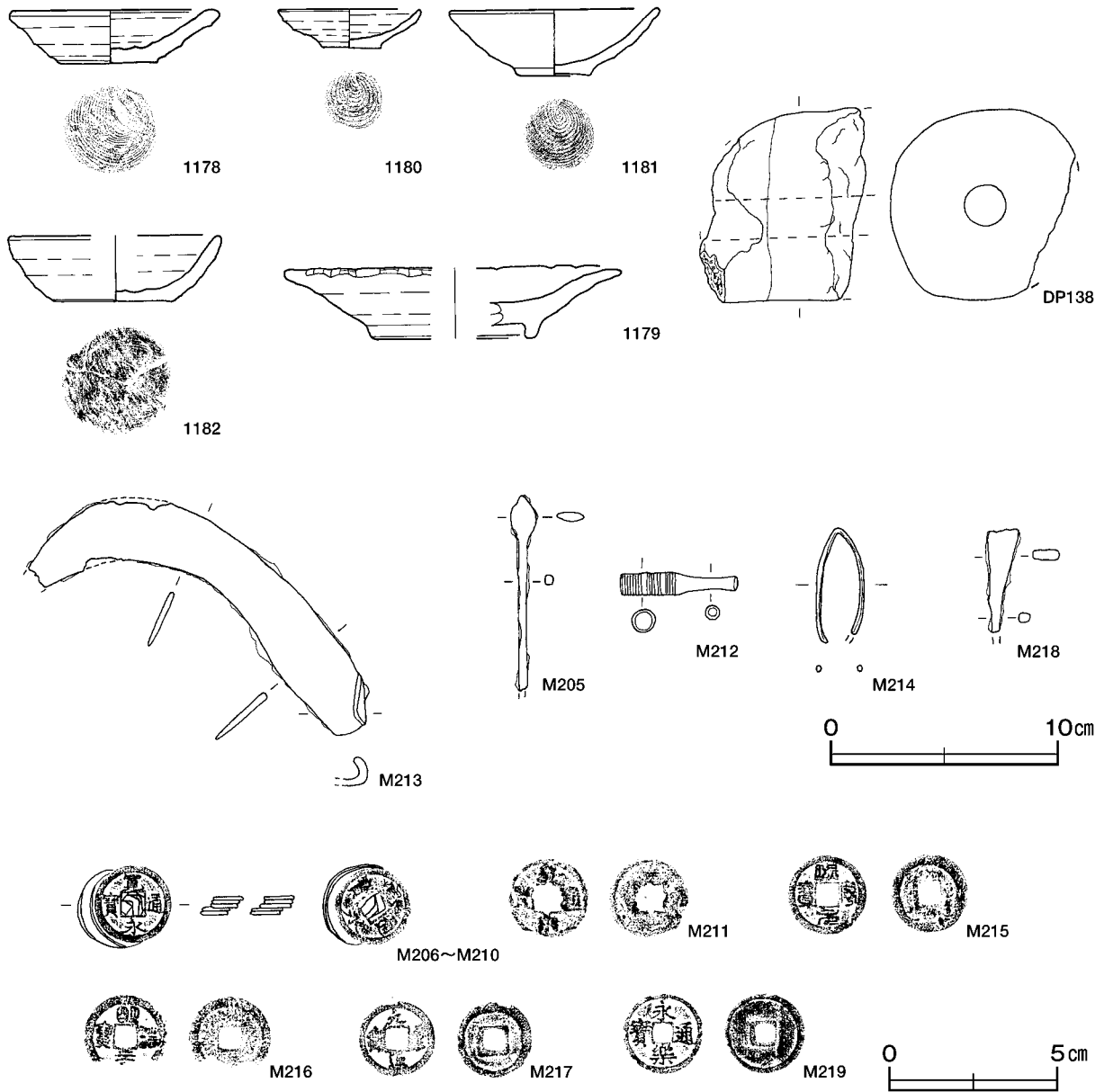
- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

**第5531号土坑土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

**第5535号土坑土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 灰 白 色 白色粘土ブロック多量



第746図 墓坑の可能性の土坑出土遺物実測図

第4164号土坑出土遺物観察表 (第746図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M205	鎌	(8.6)	1.2	0.5	(8.1)	鉄	茎部一部欠損 木葉形 丸造 無関	上層	PL145

第4169号土坑出土遺物観察表 (第746図)

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M206 ~210	古銭	2.37	0.66	0.56	13.1	銅	寛永通寶 初鑄1636年 古寛永 5枚鑄のため融着	底面	PL148

第4199号土坑出土遺物観察表 (第746図)

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M211	古銭	2.49	0.76	0.12	2.4	銅	皇宋通寶 初鑄1038年 北宋銭 篆書	上層	PL148



第4213号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1178	土師質土器	小皿	9.1	2.4	4.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	上層	90%

第4225号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1179	磁器	青磁椀 花皿	[15.0]	3.0	[7.2]	精良・青磁釉	明緑灰	良好	体部内・外面青磁釉 削り出し高台	上層	20% 龍泉窯

第4269号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP138	羽口	(7.4)	3.7	1.9	(414.4)	長石・石英	ナデ 端部に鉄滓付着 外面黄灰色 火を受けた部分は橙色	中層	PL149

第4270号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M212	煙管	5.1	1.0	0.13	8.8	銅	外面緑青 肩部有り 吸口部	覆土中	

第4275号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M213	鎌	(14.8)	2.9	0.3	(57.1)	鉄	先端部欠損 曲刃 基部折り返し	中層	PL146

第4342号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M214	不明	5.1	2.1	0.2	(2.7)	銅	端部欠損 断面円形の銅線をU字状に折り曲げている	覆土中	

第4520号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M215	古銭	2.40	0.62	0.15	2.6	銅	熙寧元寶 初鑄1068年 北宋銭 真書 篆書	下層	PL148

第4654号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1180	土師質土器	小皿	6.1	1.7	2.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	60%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M216	古銭	2.50	0.60	0.12	(2.3)	銅	明道元寶 初鑄1032年 北宋銭 篆書	覆土中	PL148

第4708号土坑出土遺物観察表（第746図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1181	土師質土器	小皿	9.1	2.9	3.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	下層	100% PL135

第5251号土坑出土遺物観察表 (第746図)

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M217	古銭	2.30	0.61	0.12	2.8	銅	元豊通寶 初鑄1078年 北宋銭 行書	覆土中	PL148

第5287号土坑出土遺物観察表 (第746図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M218	鏃	(4.5)	1.6	0.4	(7.0)	鉄	茎部欠損 方頭形 平造 無開	覆土中	

第5372号土坑出土遺物観察表 (第746図)

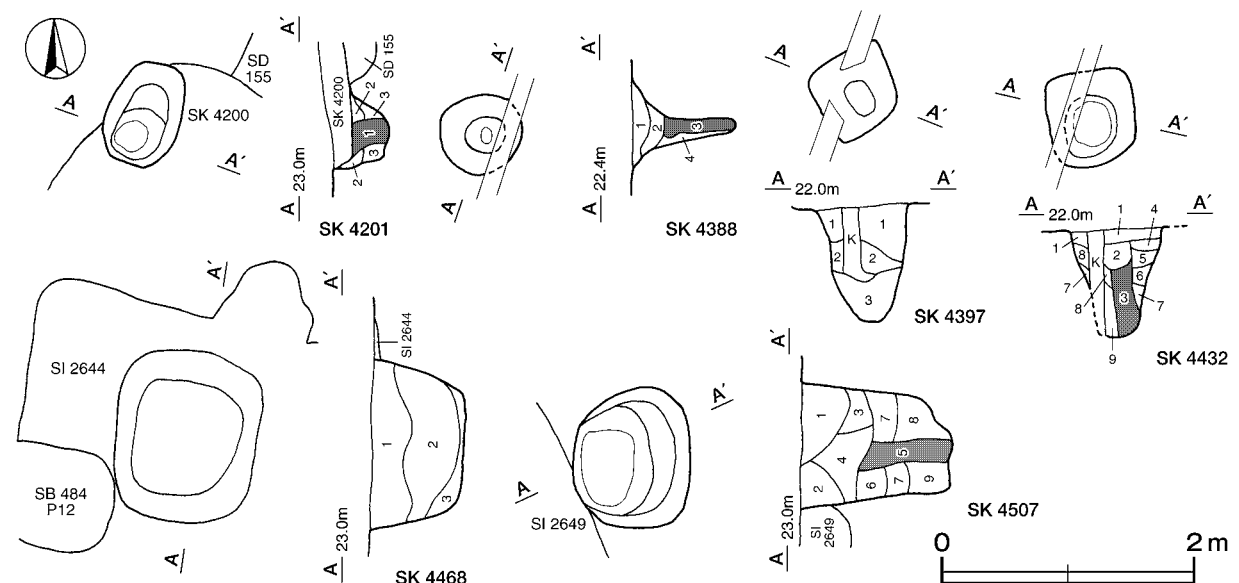
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1182	土師質土器	小皿	[9.0]	2.9	5.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	60%

第5373号土坑出土遺物観察表 (第746図)

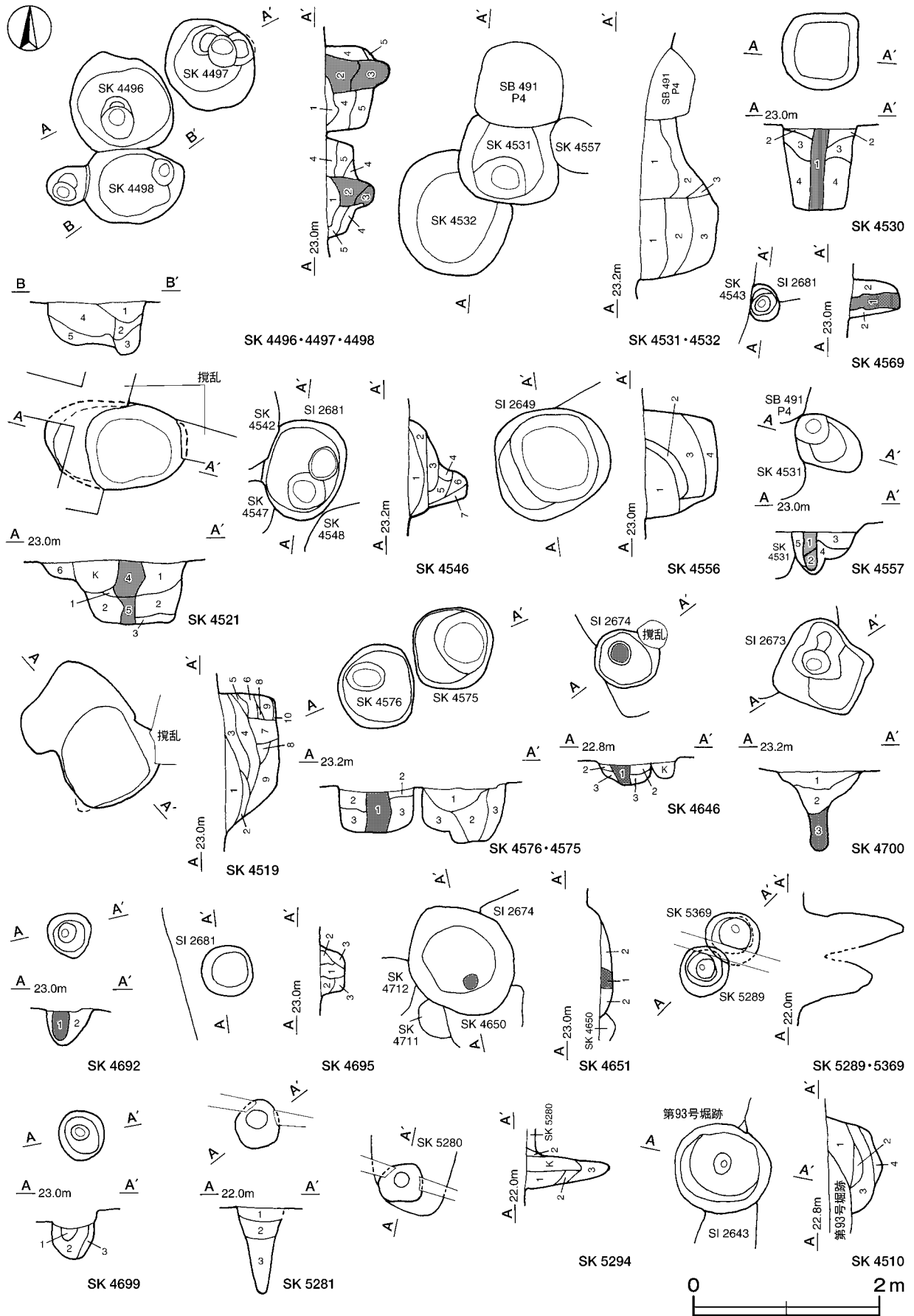
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M219	古銭	2.46	0.55	0.12	1.9	銅	永樂通寶 初鑄1408年 明銭	覆土中	PL148

(13) 柱穴の可能性のある土坑

16区から検出された土坑のうち、柱痕や柱のあたり、人為的に埋め戻された痕跡が認められる土坑が31基礎確認された。何らかの建物跡の可能性が考えられるが、建物の配列や構造を特定することはできなかった。出土遺物に土師質土器片や陶磁器片が含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。以下、実測図と土層解説で紹介する。



第747図 柱穴の可能性のある土坑(1)



第748図 柱穴の可能性のある土坑実測図(2)

**第4201号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

**第4388号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

**第4397号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量

**第4432号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子多量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 明褐色 ロームブロック多量

**第4468号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

**第4496号土坑土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

**第4497号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量

**第4498号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

**第4507号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 褐色 ロームブロック微量

**第4510号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第4519号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗灰黄色 ロームブロック中量
- 3 黄褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック多量
- 8 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 9 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
- 10 黒褐色 ロームブロック少量

**第4521号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量

**第4530号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第4531号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第4532号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

**第4546号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量
- 7 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

**第4556号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

**第4557号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

**第4569号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

**第4575号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

**第4576号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック少量

**第4646号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第4651号土坑土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック微量

**第4692号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

**第4695号土坑土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 灰褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

第4699号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第5281号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第4700号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック・炭化粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

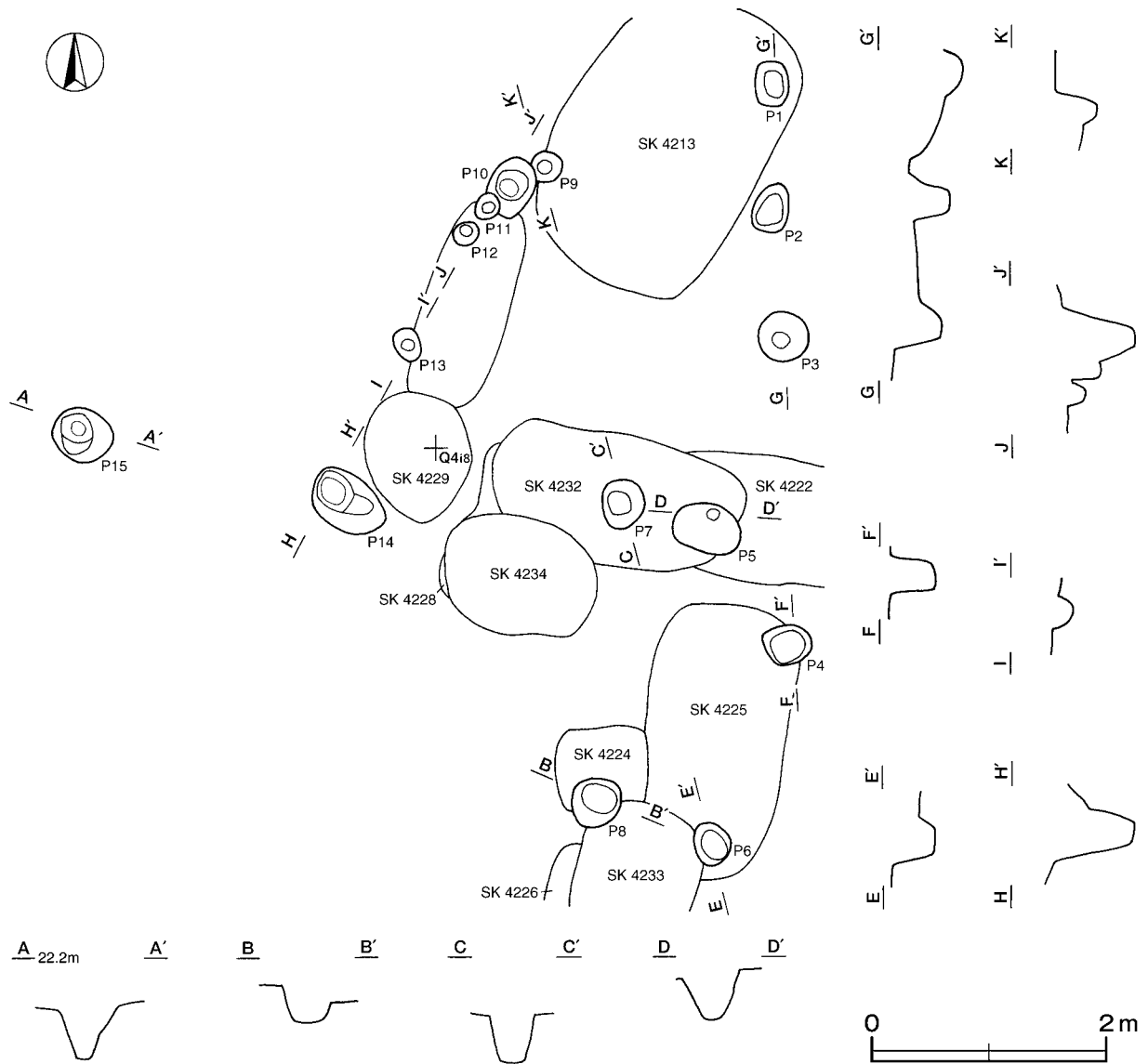
第5294号土坑土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

(14) ピット群

今回の調査で3か所のピット群が検出され, 調査区北部の台地縁辺部に1か所と北西部の斜面部に2か所分布している。各ピットの形状や規模は様々であるが, 平面形は円形を呈し, 径25~50cm, 深さ20~70cmのものが多い。一部のピットには土層断面中に柱痕跡が認められ, 何らかの建物の一部であった可能性も考えられるが, 建物の配列や構造を特定することはできない。時期は, 出土遺物に17世紀前半の土師質土器小皿等が含まれていることから, 近世前半と考えられる。以下, 実測図と一覧表で紹介する。

第30号ピット群 (第749図)



第749図 第30号ピット群実測図

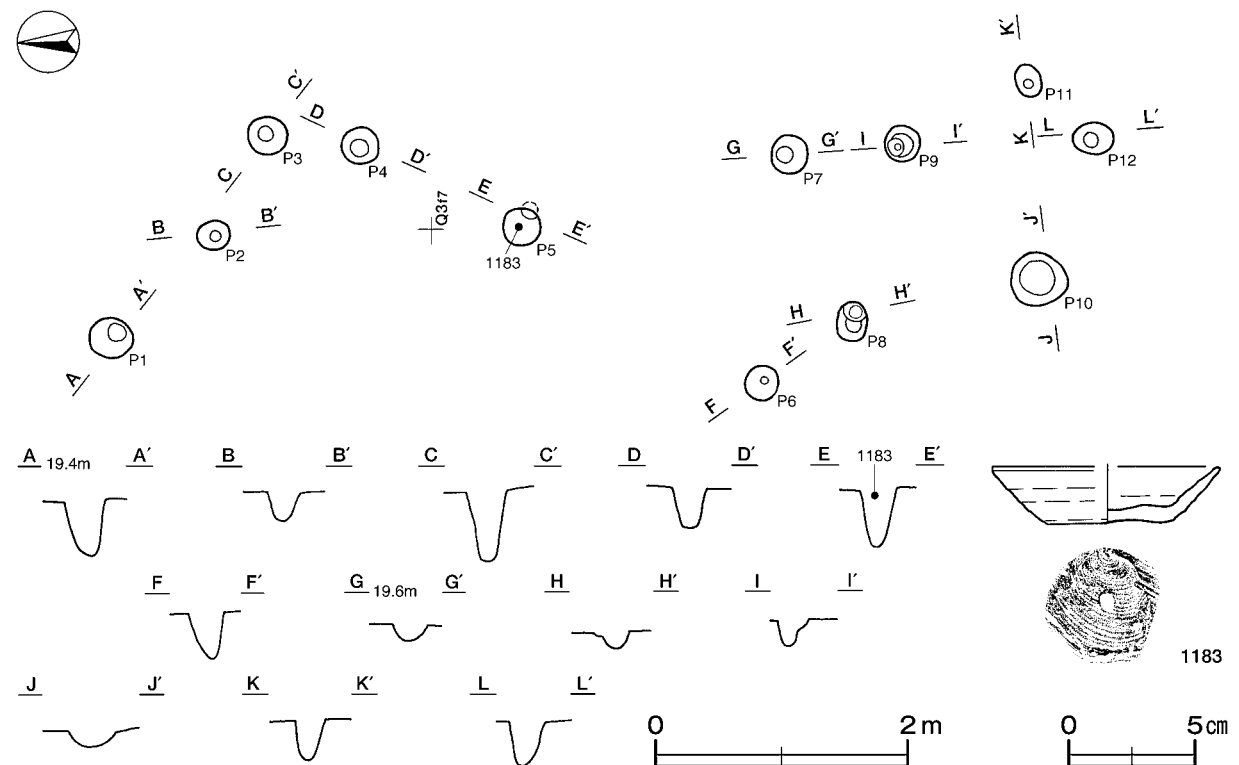
調査区北部のQ 4 h7 ~ Q 4 i8 から15か所のピットが検出された。標高22.0mほどの台地縁辺部に位置し、平面形は長径24~70cmの円形または楕円形で、深さは19~70cmである。一部のピットには土層断面中に柱痕跡が認められるが、建物の配列や構造は不明である。周囲に墓坑の可能性ある土坑群が密集していることから、墓域に関連する施設の可能性がある。時期は、土坑群の年代観から中世後半から近世前半と考えられる。

表48 第30号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		ピット番号	位置	形状	規模 (cm)	
			長軸(径)×短軸(径)	深さ				長軸(径)×短軸(径)	深さ
1	Q 4 h8	楕円形	37×30	44	9	Q 4 h8	円形	28×26	34
2	Q 4 h8	楕円形	43×30	38	10	Q 4 h8	楕円形	52×40	60
3	Q 4 h8	円形	43×44	44	11	Q 4 h8	円形	22×20	30
4	Q 4 i8	楕円形	41×33	38	12	Q 4 h8	円形	23×21	15
5	Q 4 i8	楕円形	60×42	36	13	Q 4 h7	楕円形	29×22	15
6	Q 4 i8	円形	37×35	36	14	Q 4 h7	楕円形	70×47	72
7	Q 4 i8	楕円形	42×36	40	15	Q 4 h7	楕円形	53×47	48
8	Q 4 i8	楕円形	46×40	30					

第31号ピット群 (第750図)

調査区北西部のQ 3 e6 ~ Q 3 g7 から12か所のピットが検出された。標高19.5mほどの斜面中部に位置し、平面形は長径27~44cmの円形または楕円形で、深さは13~55cmである。一部のピットには土層断面中に柱痕跡が認められるが、建物の配列や構造は不明である。1183はP5の柱抜き取り痕の覆土上層から出土しており、時期は、17世紀前半と考えられる。



第750図 第31号ピット群・出土遺物実測図

第31号ピット群出土遺物観察表（第750図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1183	土師質土器	小皿	[9.1]	2.3	4.8	長石・雲母	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	60%

表49 第31号ピット群ピット一覧表

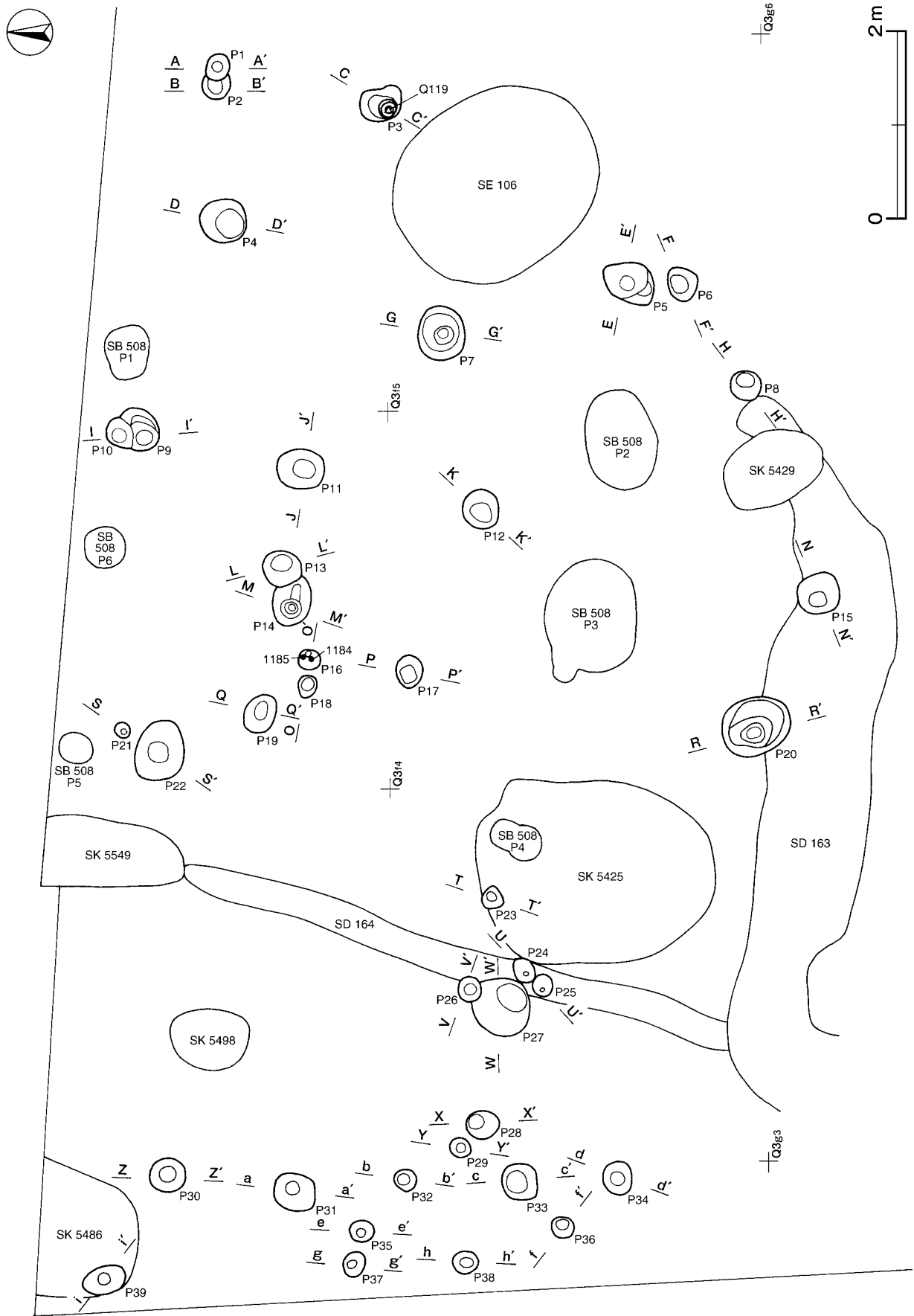
ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		ピット番号	位置	形状	規模 (cm)	
			長軸(径)×短軸(径)	深さ				長軸(径)×短軸(径)	深さ
1	Q 3 e6	円形	34×32	45	7	Q 3 f7	円形	30×29	12
2	Q 3 e6	楕円形	27×23	22	8	Q 3 f6	楕円形	32×24	14
3	Q 3 e7	円形	33×32	56	9	Q 3 f7	円形	29×28	21
4	Q 3 e7	円形	32×30	32	10	Q 3 g6	不整円形	45×42	12
5	Q 3 f7	円形	32×30	44	11	Q 3 g7	楕円形	26×20	32
6	Q 3 f6	楕円形	29×25	37	12	Q 3 g7	楕円形	32×24	34

第32号ピット群（第751図）

調査区北西部のQ 3 e2 ~ Q 3 g5 から39か所のピットが検出された。標高19.0mほどの斜面部下段に位置し、平面形は長径17~76cmの円形または楕円形で、深さは10~82cmである。一部のピットには土層断面中に柱痕跡が認められるが、建物の配列や構造は不明である。第508号掘立柱建物跡と平面構造が重複しているが、新旧関係は不明である。1184・1185はP 16 の覆土上層，Q 119はP 3 の覆土中層から逆位でそれぞれ出土しており、時期は17世紀前半と考えられる。

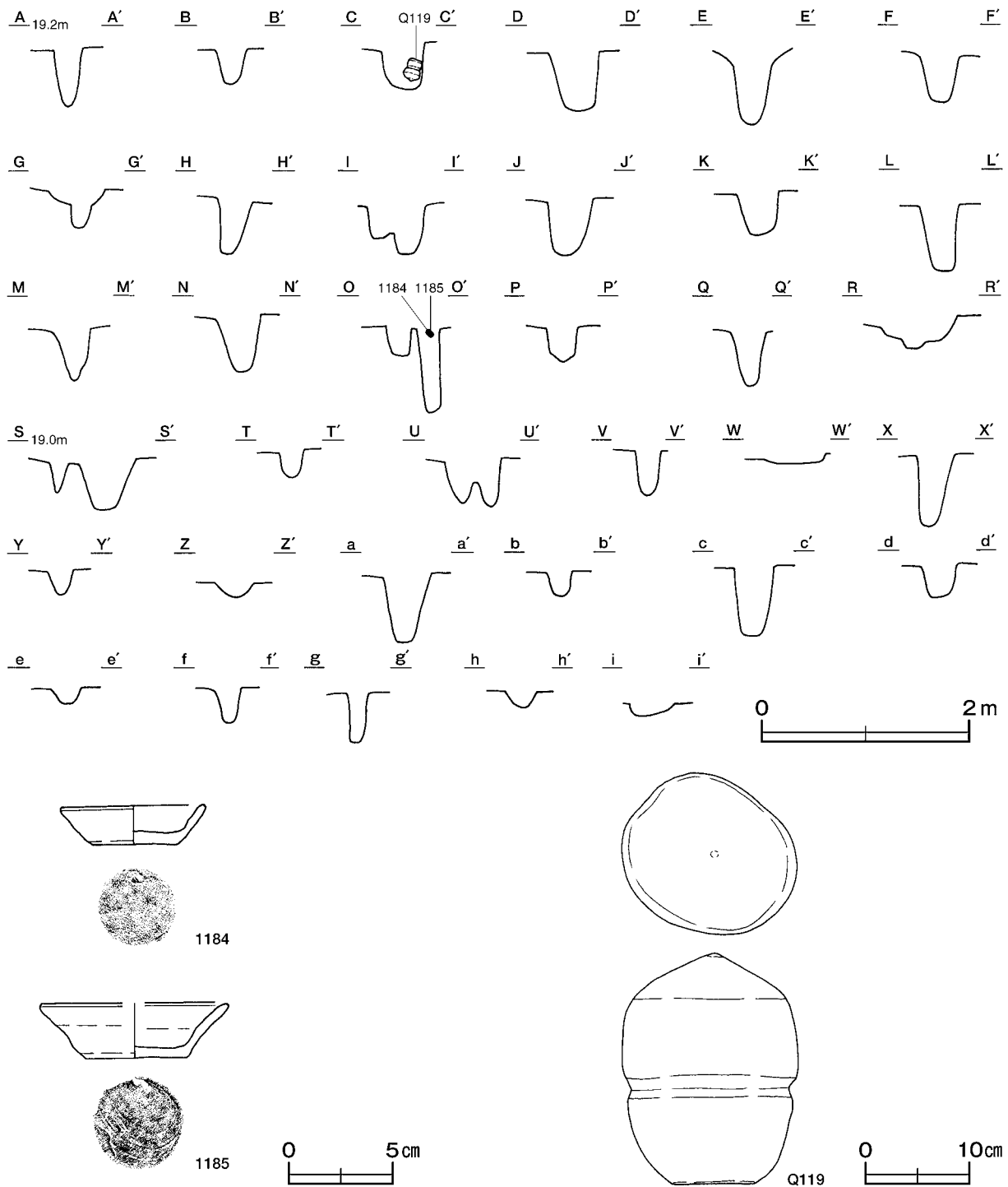
表50 第32号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		ピット番号	位置	形状	規模 (cm)	
			長軸(径)×短軸(径)	深さ				長軸(径)×短軸(径)	深さ
1	Q 3 e5	楕円形	32×24	54	21	Q 3 e4	楕円形	20×16	28
2	Q 3 e5	[円形]	32×(20)	31	22	Q 3 e4	楕円形	64×50	48
3	Q 3 e5	不整楕円形	47×38	44	23	Q 3 f3	楕円形	26×21	25
4	Q 3 e5	円形	50×47	58	24	Q 3 f3	楕円形	28×22	40
5	Q 3 f5	楕円形	62×44	60	25	Q 3 f3	円形	22×21	44
6	Q 3 f5	楕円形	38×32	42	26	Q 3 f3	円形	29×28	40
7	Q 3 f5	楕円形	59×51	35	27	Q 3 f3	円形	66×62	8
8	Q 3 f5	円形	32×(32)	51	28	Q 3 f3	楕円形	35×31	68
9	Q 3 e4	[楕円形]	50×(30)	43	29	Q 3 f3	円形	24×23	24
10	Q 3 e4	楕円形	36×27	30	30	Q 3 e2	円形	38×36	14
11	Q 3 e4	楕円形	50×43	53	31	Q 3 e2	楕円形	47×40	65
12	Q 3 f4	楕円形	43×39	39	32	Q 3 f2	円形	25×24	24
13	Q 3 e4	円形	42×39	61	33	Q 3 f2	円形	44×41	63
14	Q 3 e4	楕円形	57×40	52	34	Q 3 f2	円形	35×34	31
15	Q 3 g4	円形	48×45	52	35	Q 3 e2	円形	25×24	14
16	Q 3 e4	円形	24×22	82	36	Q 3 f2	楕円形	26×23	31
17	Q 3 f4	楕円形	36×30	26	37	Q 3 e2	楕円形	28×24	47
18	Q 3 e4	楕円形	24×19	28	38	Q 3 f2	楕円形	28×23	15
19	Q 3 e4	楕円形	43×32	52	39	Q 3 e2	楕円形	47×28	14
20	Q 3 f4	楕円形	77×61	26					



第751図 第32号ピット群実測図





第752図 第32号ピット群・出土遺物実測図

第32号ピット群出土遺物観察表 (第751図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1184	土師質土器	小皿	6.8	1.9	3.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	75%
1185	土師質土器	小皿	[9.0]	2.6	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量 (kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q119	五輪塔	22.5	16.7	15.5	7.57	花崗岩	空風輪	P 3 中層	PL143

(15) 不明遺構

第20号不明遺構 (第753～756図)

**位置** 調査区南部のT 4 b3～T 4 d5区, 標高21.0mほどの斜面部下段に位置している。

**規模と形状** 斜面部を段切りして, 平坦面を造成している。平坦面は長軸10.2m, 短軸6.5mの隅丸長方形で, 主軸方向はN-89°-Eである。北側の壁高は31～37cmで, 外傾して立ち上がっている。北側および東西の壁下には, 幅45～60cm, 深さ11～32cmでU字状の断面を呈する溝を構築している。底面の標高は中央部が最も高く, 地形に沿って傾斜しており, 排水溝として機能していたと考えられる。

**床** ほぼ平坦である。ロームブロックを多く含む第7層で整地しており, 溝および柱穴は第4層を掘り込んで構築している。

**覆土** 7層に分けられる。第1～2・4層はロームや焼土のブロック, 第3層は炭化物を多く含む人為堆積で, 北側から埋め戻された堆積状況を示している。第5・6層は溝の覆土である。含有物が細粒かつ微量な自然堆積で, 本跡の廃絶時には既に埋没していたと考えられる。第7層は床面の整地土である。

**土層解説**

1 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	6 にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量	7 灰黄褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量
4 灰褐色	ロームブロック・炭化物少量		

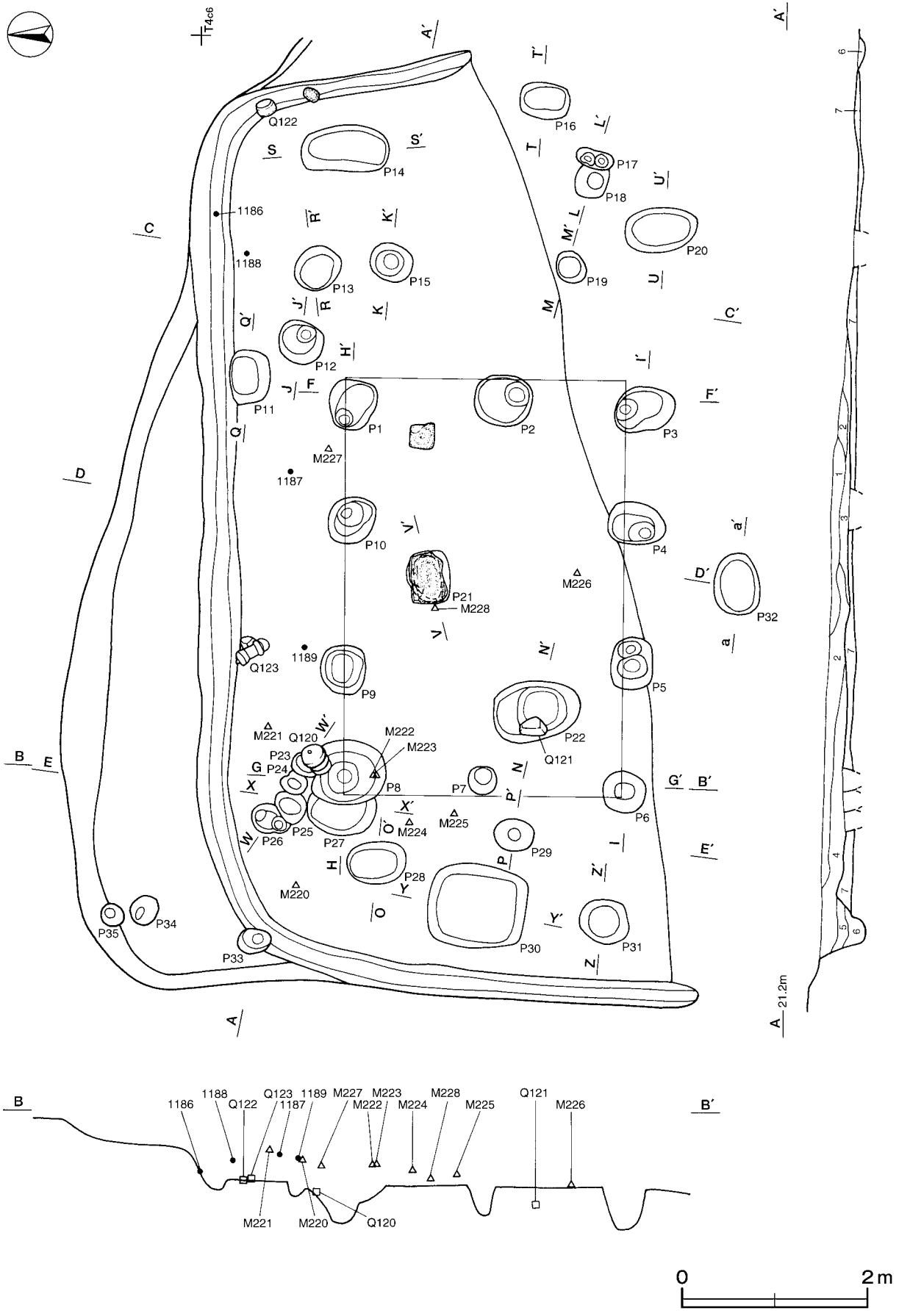
**掘立柱建物** 中央部の西寄りに位置している。桁行3間, 梁行2間の側柱建物で, 桁行方向N-89°-Eの東西棟である。規模は, 桁行4.5m, 梁行3.0mで, 面積は13.5㎡である。柱間寸法は, 桁行, 梁行ともに1.5m(5尺)を基調とし, 均等に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 35か所。P1～P10は掘立柱建物を構成する柱穴で, 深さは34～54cmである。土層は, 第1・2層が柱抜き取り痕, 第3層が柱の痕跡, 第4～6層が埋土である。P12・P15・P18・P19・P28・P29は深さ21～40cmである。柱の痕跡が認められるが建物構造は不明である。P22は深さ30cmで, 五輪塔の火輪が逆位で出土している。P11・P13・P14・P20・P21・P30～P32は深さ9～30cmで, 断面形状が浅い逆台形を呈し, 底面は平坦である。石塔等を設置するための掘り方の可能性が考えられる。また, P30には, 雲母片岩の板石が水平に置かれており, 石塔等の基部の根石の可能性が考えられる。P16・P17・P22～P27・P33～P35は性格不明である。

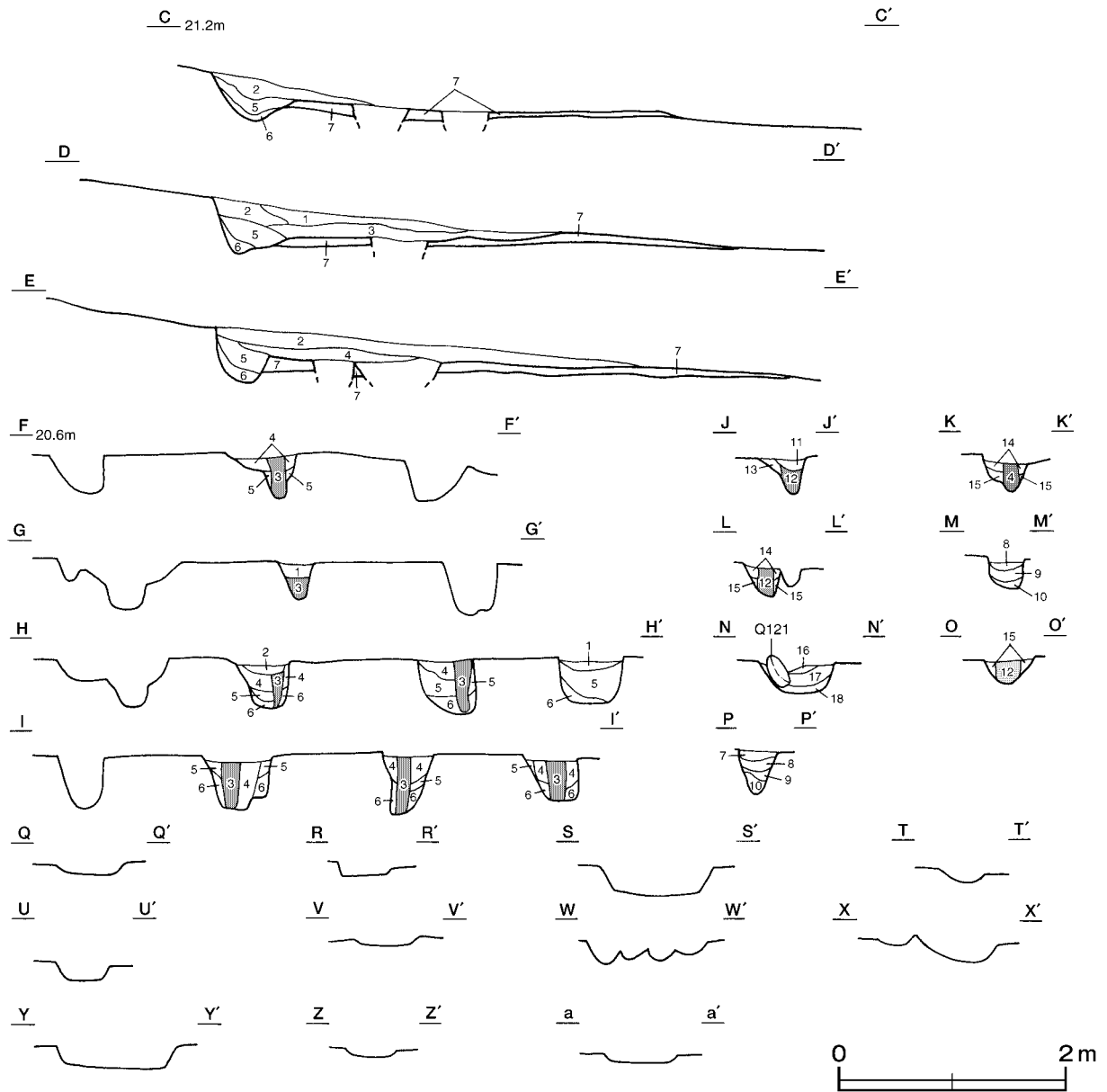
**柱穴土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量	11 暗褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
2 褐色	ロームブロック多量, 粘土ブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 粘土ブロック微量	13 褐色	ロームブロック中量
4 にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 粘土粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック少量, 粘土粒子微量
5 にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	15 灰黄褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
6 灰黄褐色	ロームブロック中量, 粘土ブロック微量	16 黒褐色	炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子少量
7 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量	17 褐色	ロームブロック・炭化物中量, 粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
8 灰黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	18 にぶい黄褐色	粘土ブロック多量
9 にぶい黄褐色	ロームブロック中量, 粘土ブロック少量		
10 灰黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量		

**遺物出土状況** 土師質土器片71点(小皿47, 内耳鍋19, 播鉢4, 甕類1), 陶器片6点(甕), 石製品7点(五輪塔4, 宝篋印塔2, 石幢1), 鉄製品3点(釘), 銅製品1点(古銭), 鉄滓20点が出土しているほか, 土師器片, 須恵器片等が多数流れ込んでいる。1186～1189は覆土上・中層から出土しており, 廃絶後に投棄されたものと考えられる。Q120はP8から斜位, Q121はP22から逆位, Q122は北東コーナー部の溝の覆土中から破片の状態, Q123は北壁際から斜位でそれぞれ出土している。いずれも原位置は保っておらず, 廃絶時に投棄されたものと考えられる。M221～M228の鉄滓は, 北西側から中央部の覆土中層を中心に出土しており, 廃絶後に北西側から投棄されたものと考えられる。写真図版(PL149)に掲載した。

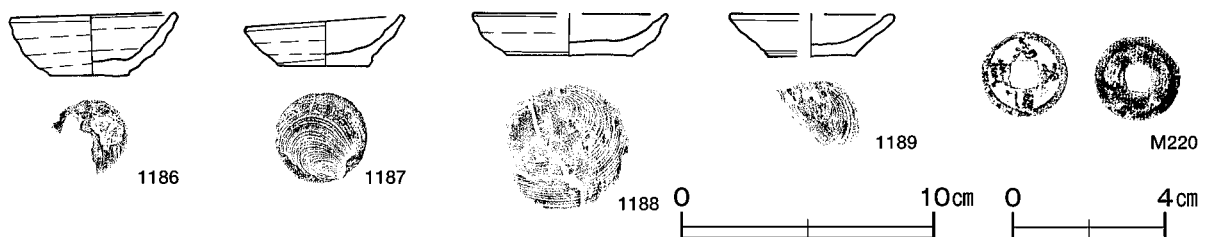


第753图 第20号不明遺構実測図(1)

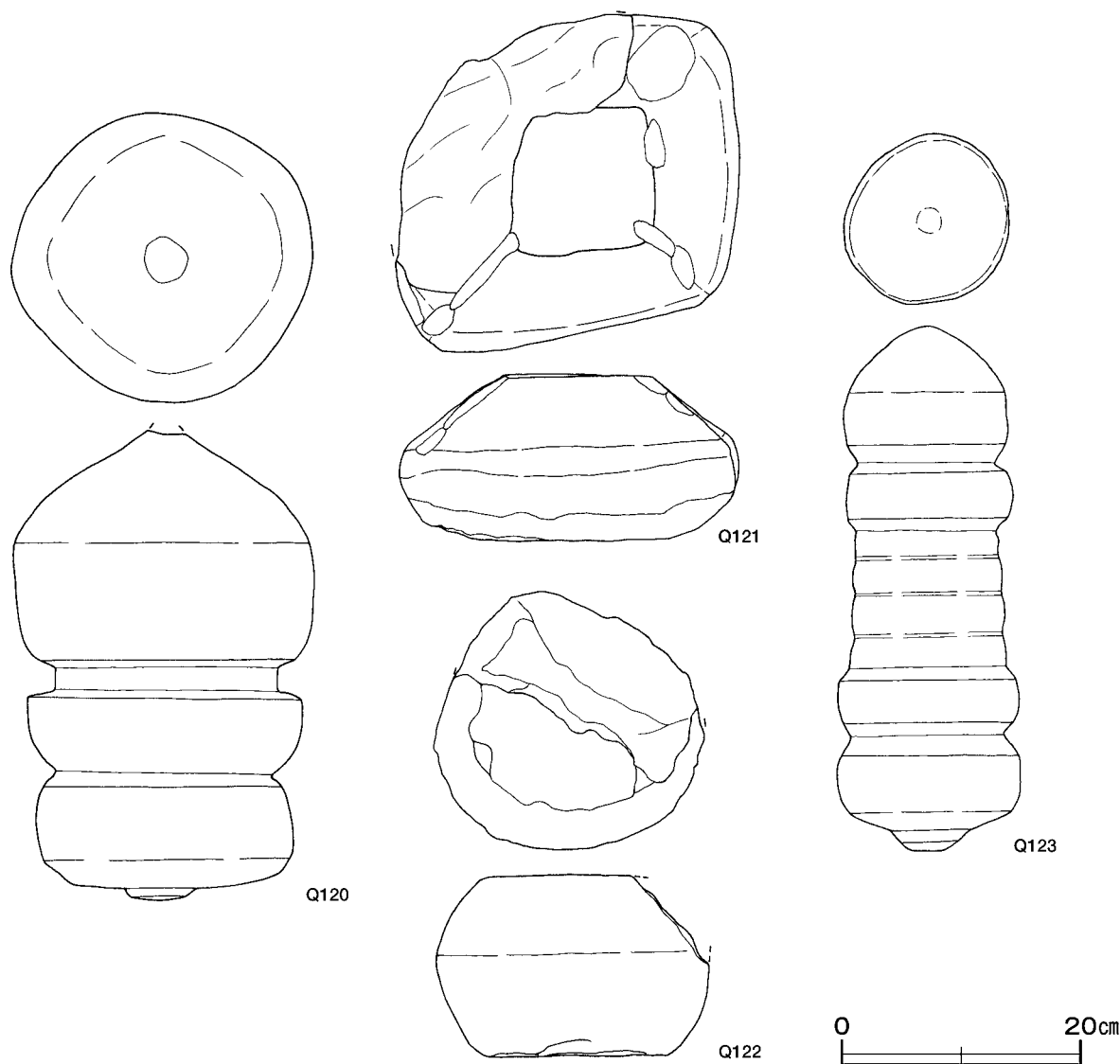


第754図 第20号不明遺構実測図(2)

所見 五輪塔や宝篋印塔などの石塔の部材が多数出土しており、草堂と推定される。調査前の土地利用図をみると、調査区に隣接する妙徳寺から南へ延びる参道があり、本跡はその南端の位置に相当する。また、参道と農道、現在の道路とが合流する地点にあたることから、現在の土地区画が本跡の築造時期頃まで遡る可能性が考えられる。また、同時期には妙徳寺の南側の台地上において墓域が展開していることから、本跡は墓域および寺域の南限を示す性格も有していたと考えられる。時期は、出土遺物から16世紀前半以前と考えられる。



第755図 第20号不明遺構出土遺物実測図(1)



第756図 第20号不明遺構出土遺物実測図(2)

第20号不明遺構出土遺物観察表 (第755・756図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1186	土師質土器	小皿	6.1	2.4	3.1	長石・石英	黒	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	中層	95% PL136
1187	土師質土器	小皿	6.3	2.1	3.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	85% PL136
1188	土師質土器	小皿	7.8	1.7	5.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 体部内面ナデ 底部回転糸切り	上層	80%
1189	土師質土器	小皿	[6.6]	1.7	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	上層	40%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M220	古銭	2.40	0.66	0.13	2.5	銅	元祐通寶 初鑄1086年 北宋銭 行書	上層	PL148

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q120	石幢	(39.2)	24.8	24.4	(31.78)	花崗岩	宝珠 端部欠損	下層	PL143
Q121	五輪塔	(28.0)	28.0	(14.0)	(15.24)	花崗岩	火輪 一部欠損	下層	
Q122	五輪塔	22.8	(21.6)	15.2	(13.25)	花崗岩	水輪 一部欠損	溝覆土中	
Q123	宝篋印塔	43.6	15.2	14.0	7.65	花崗岩	相輪	下層	PL143

表51 中・近世掘立柱建物跡一覽表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁 (間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	柱穴 (cm)				主な出土遺物	備考 (時期)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
479	R 4 h3	N - 20 ° - E	2 × 1	3.6×2.1	7.56	1.8	2.1	側柱	6	楕円形	24 ~ 63	土師器片	17世紀前半以降
481	R 4 h3	N - 23 ° - E	1 × 1	3.0×2.7	8.10	3.0	2.7	側柱	4	円形 楕円形	36 ~ 58	-	17世紀前半以降
488	R 6 h1	N - 2 ° - W	4 × 2	8.1×4.2	34.02	2.1 1.8	2.1	側柱	12	円形 楕円形	20 ~ 62	土師器片	中世後半以降
507	Q 4 e3	N - 60 ° - W	4 × 1	7.2×3.6	25.92	1.8	3.6	側柱	10	円形 楕円形	20 ~ 62	-	17世紀前半以降
508	Q 5 e4	N - 10 ° - E	1 × 2	4.8×4.2	20.16	4.8	2.1	側柱	6	円形 楕円形	45 ~ 68	土師質土器片, 陶器片, 鉄滓	17世紀前半以降

表52 中・近世方形竪穴遺構一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設			覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
							柱穴	ビット	出入口部			
73	S 4 b0	N - 15 ° - E	長方形	2.42×1.90	8 ~ 29	ほぼ 平坦	2	-	-	自然	土師質土器片, 鉄鏝	SI2616→本跡
74	R 4 c9	N - 6 ° - E	長方形	3.35×2.72	30 ~ 48	ほぼ 平坦	-	-	-	自然	土師質土器片, 陶器片, 砥 石, 鉄滓	SI2626→SK4331→ UP53→本跡
75	R 4 h5	N - 44 ° - E	方形	2.72×2.68	50 ~ 54	ほぼ 平坦	-	3	-	人為	土師質土器片, 陶器片	SK4395→本跡→SK4385
76	Q 5 h7	N - 30 ° - E	方形	2.22×2.06	34 ~ 52	平坦	4	-	-	人為	土師質土器片, 陶器片, 鉄 滓	SI2640→本跡
77	R 5 b5	N - 68 ° - E	長方形	2.85×2.50	5 ~ 16	ほぼ 平坦	-	-	-	自然	土師質土器片, 陶器片, 鉄 鏝	SI2649→SB490・491→ SK4605→本跡→SK4517
78	R 6 f2	N - 66 ° - W	長方形	2.14×1.49	22	平坦	2	1	-	自然	土師質土器片, 瓦質土器片	SI2689→本跡
79	Q 4 c0	N - 6 ° - W	方形	2.58×2.46	46 ~ 56	ほぼ 平坦	-	-	1	人為	土師質土器片, 陶器片, 硯, 石臼, 貝殻	第96号掘跡→本跡
80	S 4 j9	N - 21 ° - E	方形	2.18×1.94	26	ほぼ 平坦	2	1	-	人為	五輪塔, 宝篋印塔, 砥石	SF16→本跡

表53 中・近世地下式墳一覽表

番号	位置	主軸方向	規 模 (m)								覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
			竪 坑				主 室						
			長軸×短軸	壁高 (cm)	平面形	底面	長軸×短軸	深さ (cm)	平面形	底面			
50	Q 4 j0	N - 13 ° - E	2.10×1.90	114 ~ 120	方形	平坦	2.95×(2.24)	124	長方形	平坦	人為	土師質土器片, 陶 器片, 鉄滓	UP55→本跡→ UP51
51	Q 4 j0	N - 79 ° - W	1.64×1.44	120	長方形	平坦	2.88×2.02	122	楕円形	平坦	人為	土師質土器片, 陶器 片, 石臼, 貝, 種子	SI2626→UP50 →本跡
52	Q 4 j6	N - 51 ° - E	1.53×1.12	54	長方形	緩斜	2.22×1.40	69	長方形	平坦	人為	土師質土器片, 陶 器片, 釘	
53	R 4 b9	N - 72 ° - W	1.22×0.98	122	長方形	平坦	3.06×2.32	124	長方形	平坦	人為	土師質土器片, 陶 器片	SI2626→SK4331・ 4332→本跡→第74 号方形竪穴遺構
54	Q 4 h0	N - 78 ° - E	1.78×1.58	88	楕円形	階段状	2.00×1.68	156	楕円形	平坦	人為	土師質土器片, 炭 化材	第95号掘跡→ 本跡
55	Q 4 i0	N - 77 ° - W	(0.84)×(0.14)	-	長方形	平坦	2.40×2.14	106	楕円形	U字状	人為	土師質土器片, 釘	本跡→UP50
56	R 4 g4	N - 74 ° - W	1.07×1.07	54	方形	緩斜	1.94×1.75	65	長方形	平坦	自然	土師質土器片	SK4429→ SK4452→本跡
57	R 4 f8	N - 15 ° - E	1.80×1.15	62	長方形	緩斜	[2.66]×2.15	98	長方形	平坦	人為	土師質土器片	SD156→本跡 →SK4316
58	R 5 c4	N - 81 ° - E	0.85×0.85	34 ~ 49	円形	平坦	2.04×1.60	96	T字形	平坦	人為	土師質土器片	
59	Q 6 h6	N - 46 ° - W	(0.70)×(0.51)	194	[長方形]	平坦	(3.64)×(2.42)	194	長方形	平坦	人為	土師質土器片, 陶器 片, 瓦片, 鉄製品	本跡→SD151・ 152
60	P 5 j3	N - 15 ° - W	1.63×1.63	106	円形	平坦	(2.98)×(2.34)	106	長方形	平坦	自然	土師質土器片, 瓦 片, 鉄製品, 支脚	
61	P 5 j4	N - 19 ° - W	1.46×1.28	106	隅丸長方形	平坦	(2.90)×(1.90)	104	長方形	平坦	自然	土師質土器片, 陶 器片, 瓦片	
62	Q 5 c2	N - 17 ° - E	1.72×0.68	118	長方形	平坦	3.08×1.98	112	長方形	平坦	人為	陶器片, 鉄滓	第96号掘跡→ 本跡
63	Q 4 c0	N - 18 ° - E	1.83×(1.32)	92	長方形	平坦	2.82×2.30	104	楕円形	平坦	人為	土師質土器片	SK4716→本跡 →UP64
64	Q 5 c1	N - 2 ° - E	1.66×0.92	86	長方形	平坦	3.04×2.32	92	長方形	平坦	人為	土師質土器片	第96号掘跡・UP63 ・SK4716→本跡
65	S 4 d4	N - 82 ° - W	1.44×1.06	124	長方形	凹凸	2.12×1.38	130	長方形	平坦	人為	鉄製品	
66	S 4 c4	N - 78 ° - W	1.16×1.04	118	長方形	凹凸	2.74×1.80	100	長方形	平坦	自然	土師質土器片, 石 臼	SK5380→本跡

表54 中・近世堀跡一覽表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
92	Q 6 g7 ~ S 6 a4	S - 6 ° - W	直線状	51.0	430 ~ 540	42 ~ 92	183 ~ 223	逆台形状	人為 自然	外傾	土師質土器片 陶磁器片 青磁片 瓦片 支脚 石臼 茶臼 砥石 硯 五輪塔 釘 古銭	16世紀後半
93	Q 5 e4 ~ S 4 f8	S - 17 ° - W W - 2 ° - S	直線状	91.3	172 ~ 425	10 ~ 40	100 ~ 152	葉研状	人為 自然	外傾	土師質土器片 陶磁器片 磁器片 青磁片 支脚 砥石 硯 鉄鍔 釘 古銭	16世紀後半
94	S 4 f8 ~ T 4 e6	S - 17 ° - W	直線状	33.9	78 ~ 264	20 ~ 68	74 ~ 95	U字状	人為 自然	外傾	土師質土器片 陶磁器片 石臼 砥石 五輪塔	中世後半
95	P 5 i2 ~ S 4 h4	S - 18 ° - W	直線状	118.9	60 ~ 254	14 ~ 60	32 ~ 86	U字状	自然	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 磁器片 球状土錘 支脚 羽口 石臼 砥石 釘	16世紀前半
96	P 4 i0 ~ Q 5 d4	W - 8 ° - N N - 6 ° - E	L字状	43.1	198 ~ 324	14 ~ 36	135 ~ 176	葉研状	人為 自然	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 陶器片 磨石 石臼 砥石 五輪塔	15世紀後半
97	Q 4 c2 ~ R 3 a9	N - 23 ° - E	直線状	36.0	60 ~ 186	20 ~ 60	60 ~ 88	U字状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 磁器片 青磁片 石臼 砥石 鉄滓	16世紀半ば ~ 後半
98	Q 4 c2 ~ R 3 a9	S - 18 ° - W W - 3 ° - N	直線状	37.0	72 ~ 214	22 ~ 50	22 ~ 80	U字状	人為	緩斜	土師質土器片	16世紀後半
99	Q 3 e8 ~ Q 3 i7	N - 16 ° - E	直線状	17.1	234 ~ 294	50 ~ 78	160 ~ 183	葉研状	人為 自然	外傾	土師質土器片 陶磁器片 石臼 砥石	16世紀半ば ~ 後半
100	Q 3 h2 ~ R 3 a9	W - 5 ° - N	直線状	29.0	170 ~ 370	20 ~ 60	50 ~ 168	葉研状	人為 自然	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 青磁片 石臼 砥石 石塔片 鉄滓	16世紀後半 ~ 17世紀前半
101	R 3 e8 ~ R 4 g5	W - 17 ° - N	直線状	29.6	124 ~ 256	26 ~ 48	62 ~ 114	葉研状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 磨石 石臼 砥石 梯状滓	16世紀後半 ~ 17世紀前半
102	S 4 f8 ~ S 5 g3	E - 3 ° - S	直線状	23.0	126 ~ 200	46 ~ 80	40 ~ 74	U字状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 磁器片 茶臼 五輪塔 宝篋印塔 馬骨 馬齒	中世後半
103	S 3 e3 ~ S 4 f7	W - 3 ° - N	直線状	57.4	152 ~ 394	20 ~ 48	80 ~ 180	葉研状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 鉄滓	16世紀後半

表55 中・近世溝跡一覽表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
150	Q 6 g7 ~ S 6 a4	S - 8 ° - W	直線状	61.8	86 ~ 180	6 ~ 42	52 ~ 64	U字状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 瓦片 石臼 古銭	17世紀前半
151	Q 6 g6 ~ R 6 d5	N - 8 ° - E	直線状	29.1	72 ~ 128	34 ~ 96	12 ~ 24	U字状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 磁器片 石臼 硯 鉄製品 鉄滓	16世紀後半
152	Q 6 g5 ~ S 5 c0	S - 7 ° - W S - 42 ° - W	直線状	73.2	110 ~ 190	30 ~ 58	42 ~ 80	U字状	人為 自然	外傾	土師質土器片 陶磁器片 瓦片 砥石 石臼 砥石 硯 釘 鉄製品	17世紀前半
153	Q 6 j1 ~ S 5 e9	S - 9 ° - W	直線状	50.4	52 ~ 94	28 ~ 58	6 ~ 26	U字状	人為	緩斜	土師質土器片, 陶磁器片	中世後半
154	Q 5 e4 ~ S 4 b9	S - 11 ° - W	直線状	75.8	118 ~ 184	18 ~ 50	46 ~ 64	U字状	人為	外傾		17世紀前半以降
155	Q 5 d4 ~ S 4 e7	S - 20 ° - W S - 13 ° - W	直線状	88.1	28 ~ 120	13 ~ 68	10 ~ 56	U字状	人為	外傾	土師質土器片 陶磁器片 磁器片 瓦片 石臼 茶臼 砥石 五輪塔 硯 鉄製品 鉄滓	16世紀前半
156	R 4 e8 ~ R 4 h7	S - 17 ° - W	直線状	11.2	64 ~ 122	46 ~ 96	10 ~ 27	U字状	自然	外傾	土師質土器片, 陶磁器片, 砥石	近世
157	R 4 f5 ~ R 4 g6	W - 2 ° - N	直線状	5.2	66 ~ 92	26 ~ 36	36	U字状	不明	緩斜	鉄製品(刀子)	中世
158	Q 4 c7 ~ Q 4 g5	S - 11 ° - W W - 20 ° - N	L字状	42.5	28 ~ 176	15 ~ 68	6 ~ 30	U字状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 磁器片, 鉄滓	17世紀代
159	Q 4 b1 ~ Q 3 f0	S - 11 ° - E	直線状	20.3	28 ~ 98	14 ~ 42	10 ~ 46	U字状	人為	緩斜	土師質土器片	中世
160	Q 3 e9 ~ Q 3 g3	N - 28 ° - E W - 14 ° - N	L字状	31.0	70 ~ 130	16 ~ 36	25 ~ 58	U字状	人為	緩斜	土師質土器片 瓦質土器片 陶磁器片 石臼 砥石 鉄滓	17世紀前半以降
161	Q 3 e9 ~ Q 3 g3	N - 42 ° - E W - 9 ° - N	L字状	36.2	65 ~ 112	12 ~ 55	39 ~ 55	U字状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 砥石, 鉄滓	17世紀前半以降
162	Q 3 f9 ~ Q 3 h8	N - 22 ° - E	直線状	7.1	18 ~ 102	10 ~ 88	20 ~ 40	U字状	人為	緩斜	土師質土器片	17世紀前半以降
163	Q 3 f3 ~ Q 3 f5	W - 32 ° - S W - 13 ° - N S - 31 ° - W	直線状	8.8	42 ~ 120	20 ~ 80	30 ~ 50	U字状	人為	緩斜	土師質土器片, 砥石, 縁金具力, 鉄製品	17世紀前半
164	Q 3 e3 ~ Q 3 f3	N - 17 ° - E	直線状	6.1	32 ~ 38	12 ~ 22	6 ~ 8	U字状	不明	外傾		中世
165	Q 3 i7 ~ R 3 a0	W - 26 ° - N	直線状	13.9	30 ~ 132	10 ~ 22	30 ~ 38	V字状	自然	外傾	土師質土器片, 陶磁器片	17世紀前半以降
166	Q 3 h2 ~ R 3 f3	W - 5 ° - N N - 15 ° - W W - 31 ° - N	コの字状	55.2	72 ~ 188	20 ~ 142	20 ~ 36	U字状	自然	緩斜	土師質土器片, 陶磁器片, 瓦片, 鉄滓	17世紀後半 以降
167	R 3 b2 ~ R 3 b6	W - 5 ° - N	直線状	14.2	56 ~ 122	16 ~ 34	13 ~ 32	U字状	人為	緩斜	土師質土器片, 陶磁器片, 鉄滓	近世
168	R 3 d2 ~ R 3 j3	N - 5 ° - W	直線状	25.0	130 ~ 160	13 ~ 68	40 ~ 65	U字状	自然	緩斜		中・近世
169	R 3 e2 ~ R 3 j1	N - 5 ° - W W - 3 ° - N	L字状	26.4	88 ~ 126	23 ~ 50	42 ~ 47	U字状	自然	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 石臼 砥石, 鉄滓	中・近世
170	R 3 h3 ~ S 3 a2	S - 3 ° - W W - 2 ° - N	L字状	12.6	40 ~ 58	10 ~ 46	8 ~ 13	U字状	自然	緩斜	土師質土器片, 陶磁器片	中・近世
171	R 3 j2 ~ S 3 d3	N - 9 ° - W	直線状	15.2	62 ~ 78	10 ~ 28	20 ~ 29	U字状	自然	緩斜		中・近世
172	R 3 j2 ~ S 3 c2	N - 9 ° - W	直線状	10.0	48 ~ 66	12 ~ 32	10	U字状	人為	緩斜	土師質土器片	中・近世
173	R 3 j2 ~ S 3 b2	S - 11 ° - E	直線状	7.4	84 ~ 94	34 ~ 46	20	U字状	自然	緩斜	土師質土器片 磁器片 石塔片	中・近世
174	S 3 c6 ~ S 3 c8	W - 2 ° - S	直線状	7.8	76 ~ 130	20 ~ 98	8 ~ 15	U字状	人為	緩斜	土師質土器片, 砥石	中・近世
175	S 3 d3 ~ S 3 c7	W - 9 ° - S S - 3 ° - W S - 1 ° - E	直線状	38.5	40 ~ 270	20 ~ 76	10 ~ 40	U字状	人為	緩斜		17世紀前半 以降
176	S 3 g3 ~ S 3 g6	W - 11 ° - S	直線状	11.6	142 ~ 460	60 ~ 310	68 ~ 140	U字状	人為 自然	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 磁器片 羽口 砥石 五輪塔 鉄滓	15世紀後半
177	S 3 h0 ~ T 3 a0	S - 6 ° - W	直線状	11.8	33 ~ 59	17 ~ 42	8 ~ 23	U字状	人為	緩斜	土師質土器片 陶磁器片 瓦片, 釘	中・近世

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
178	S 3 h0 ~ S 3 j0	S - 2° - E	直線状	8.1	50~74	24~42	6~24	U字状	人為	外傾	土師質土器片, 陶磁器片, 磨石	中・近世
179	S 3 j0 ~ T 4 a2	W - 12° - N	直線状	8.4	58~100	42~62	12	U字状	人為	緩斜	土師質土器片, 陶器片	中・近世
180	T 3 b0 ~ T 3 c0	S - 2° - W	直線状	7.3	57~88	25~48	4~8	U字状	自然	緩斜	土師質土器片, 陶磁器片	中・近世
181	T 3 d6 ~ T 3 e9	S - 12° - W W - 4° - N	L字状	14.1	115~168	36~88	28~35	U字状	自然	外傾	土師質土器片, 陶磁器片, 羽口, 砥石	中・近世

表56 中・近世道路跡一覽表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	壁面	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
15	Q 6 g5 ~ S 6 b1	S - 7° - W S - 42° - W	直線状	58.8	170~210	-	-	-	人為	-	土師質土器片	17世紀前半以降
16	S 4 h7 ~ S 4 j0	E - 20° - S	直線状	13.0	298~620	94~142	40~82	U字状	自然	緩斜	土師質土器片, 砥石, 石鏃, 双孔円板	16世紀前半
17	T 4 b7 ~ T 4 b8	E - 18° - S	直線状	4.5	393~445	190~258	67	U字状	人為	緩斜	土師質土器片, 陶器片	16世紀前半
18	T 4 a3 ~ T 4 b6	E - 18° - S	直線状	13.4	148~248	136~205	20~48	U字状	人為	緩斜	五輪塔片	16世紀前半

表57 中・近世井戸跡一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ(cm)					
69	S 5 h2	N - 24° - W	楕円形	1.50×1.34	(1.68)	垂直	-	人為	土製支脚	SI2597→本跡
70	R 5 j8	N - 35° - W	楕円形	1.47×1.04	(1.81)	垂直	-	人為		
71	Q 4 g9	N - 43° - W	円形	3.38×3.30	(2.15)	漏斗状	-	人為	土師質土器片 陶磁器片 瓦片 硯石 白 砥石	
72	Q 4 i8	N - 4° - W	楕円形	1.63×[1.14]	(0.92)	垂直	-	人為	土師質土器片, 陶磁器片, 砥石	本跡→SK4232→SK4234
73	S 5 a2	N - 26° - E	楕円形	3.02×2.76	(2.80)	垂直	-	人為	土師質土器片 陶磁器片 鉄滓 白玉	SI2636→SB475・477→本跡
74	R 5 h3	N - 47° - W	楕円形	3.77×3.38	(2.16)	漏斗状	-	人為	土師質土器片, 陶磁器片	SI2619→本跡
75	R 4 g5	N - 67° - W	隅丸長方形	2.99×2.77	(1.50)	緩斜	-	人為	土師質土器片, 陶器片	SD157→第101号堀→本跡
76	R 4 d7	N - 82° - E	楕円形	4.17×3.63	(1.92)	外傾	-	人為	土師質土器片 陶磁器片 砥石 鉄滓 古銭	第95号堀→本跡→SK4318
77	R 4 b8	N - 70° - W	隅丸長方形	2.80×2.36	(0.76)	漏斗状	-	人為	土師質土器片, 灰釉陶器片	第95号堀→本跡→SK4330・4390・4398・4416
78	Q 4 i6	N - 27° - E	円形	3.70×3.64	(1.50)	垂直	-	人為	土師質土器片, 骨片	SK4315・4363→本跡→SK4313・4267・4268
79	R 4 h9	N - 52° - W	楕円形	1.13×0.98	(1.80)	垂直	-	人為		SI2638→SD155→本跡
80	Q 5 g7	N - 46° - W	円形	2.44×2.20	(2.10)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器 灰釉陶器片 陶器片 土製支脚	SI2640→SK4465・4467→本跡
81	R 5 c6	N - 36° - W	楕円形	2.84×2.40	(2.30)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片, 灰釉陶器片	SI2649→SB491→本跡
82	Q 6 j1	N - 80° - E	円形	2.48×2.30	(1.88)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片, 陶器片	SI2661→SK4501→本跡
83	R 5 c8	N - 28° - W	楕円形	2.05×1.35	(2.36)	垂直	-	人為		
84	T 4 b5	N - 72° - W	楕円形	1.66×1.48	(1.55)	外傾	-	人為	土師質土器片	
85	T 4 e4	N - 82° - W	楕円形	1.57×1.40	(1.88)	漏斗状	-	人為	釘	
86	T 4 f3	N - 7° - W	楕円形	0.86×0.78	(1.30)	垂直	-	人為	土師質土器片	
87	T 4 a5	N - 46° - W	円形	1.14×1.12	(0.72)	外傾	-	人為		本跡→SF18
88	R 3 i7	N - 83° - W	楕円形	2.50×2.10	(1.90)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片, 陶器片	
89	R 3 i8	N - 24° - W	楕円形	3.10×2.80	(2.04)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片, 陶器片, 砥石	
90	R 3 h6	N - 55° - W	楕円形	2.95×2.65	(1.90)	漏斗状垂直	-	人為	石	
91	R 3 e3	N - 68° - W	円形	2.32×2.12	(1.90)	外傾	-	人為	土師質土器片 陶磁器片 瓦片 石塔	
92	R 3 f7	N - 27° - W	円形	2.29×2.25	(1.50)	外傾	-	人為	土師質土器片	
93	R 3 d4	N - 0°	円形	1.20×1.10	(1.36)	垂直	-	人為	土師質土器片, 鉄製品	
94	R 3 d8	N - 23° - W	楕円形	2.75×2.30	(1.60)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片	SE95→本跡
95	R 3 d8	N - 69° - E	楕円形	(2.60)×2.55	(1.71)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片	第101号堀→本跡→SE94
96	Q 3 j3	N - 31° - E	円形	1.86×1.78	(1.30)	外傾	-	人為	土師質土器片, 鉄滓	
97	R 3 b8	N - 45° - W	円形	2.30×2.26	(2.08)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片	
98	R 3 a8	N - 7° - W	楕円形	2.87×(2.45)	(1.50)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片	本跡→SE99
99	R 3 a8	N - 47° - W	円形	2.42×(2.30)	(1.64)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片	SK3566・3599→第100号堀→本跡
100	R 3 b9	N - 0°	楕円形	1.23×1.07	(1.15)	外傾	-	人為	土師質土器片	SE102→本跡
101	Q 3 i8	N - 20° - W	円形	1.08×1.00	(1.47)	垂直	-	人為		
102	R 3 b9	N - 77° - E	楕円形	1.12×0.80	(1.26)	垂直	-	人為		本跡→SE99・100
103	Q 4 c1	N - 7° - E	[隅丸方形]	3.16×(2.18)	(1.90)	漏斗状	-	人為	土師質土器片	SD159・SE104→本跡



番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ (cm)					
104	Q 4 d1	N - 66° - E	円形	3.05×(2.60)	(1.90)	漏斗状	-	人為	土師質土器片	本跡→SE103
105	Q 3 h6	N - 38° - E	円形	3.20×2.92	(1.24)	緩斜	-	人為	土師質土器片,瓦質土器片,瓦片,石臼,鉄滓	SE122→SE123→本跡→SD161
106	Q 3 f5	N - 40° - W	楕円形	2.27×1.87	(1.92)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片,陶器片	
107	Q 4 j1	N - 57° - W	円形	2.96×2.76	(1.54)	外傾	-	人為		本跡→SK5468
108	Q 4 g2	N - 66° - W	円形	3.14×3.00	(1.74)	外傾	-	人為	土師質土器片,陶磁器片,砥石,磨石	
109	Q 4 b2	N - 71° - W	[楕円形]	3.68×(2.60)	(2.30)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片	
110	Q 4 d6	N - 75° - W	楕円形	1.12×[1.10]	(1.98)	垂直	-	人為	鉄滓	
111	Q 3 g0	N - 70° - W	円形	2.51×2.44	(1.90)	外傾	-	人為	土師質土器片,瓦片,石臼	
112	Q 4 c2	N - 50° - E	円形	1.16×1.08	(1.96)	垂直	-	人為		本跡→第97・98号堀
113	Q 3 f8	N - 21° - E	楕円形	2.32×(2.08)	(1.80)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片,陶器片,砥石	本跡→第99号堀
114	S 3 h4	N - 63° - E	楕円形	2.45×2.21	(1.40)	垂直	-	人為		
115	S 3 d9	N - 52° - E	円形	1.16×1.14	(2.30)	垂直	-	人為	土師質土器片,陶器片,砥石	
116	S 3 b7	N - 28° - W	円形	0.91×0.84	(0.96)	垂直	-	人為	土師質土器片	
117	S 3 b7	N - 66° - E	円形	2.61×2.48	(1.65)	漏斗状垂直	-	人為	土師質土器片	
118	Q 3 h6	N - 34° - W	[楕円]	(2.08)×(1.90)	(1.58)	垂直	-	人為	土師質土器片,陶器片,瓦質土器片,砥石	本跡→SE119→第99号堀→SD161→SD160
119	Q 3 h7	N - 22° - E	楕円形	1.20×1.08	(2.37)	垂直	-	人為		SE118→本跡→第99号堀→SD161
120	Q 3 h7	N - 48° - W	楕円形	1.09×0.95	(1.50)	垂直	-	人為	土師質土器片,陶器片,凹石,砥石	本跡→第99号堀
121	Q 3 h5	N - 85° - E	楕円形	3.74×(3.40)	(1.86)	垂直	-	人為	土師質土器片	本跡→SD161→SD160
122	Q 3 h6	N - 46° - W	楕円形	(1.20)×1.17	(1.58)	垂直	-	人為		本跡→SE123→SE105→SD161
123	Q 3 h6	N - 68° - E	楕円形	1.11×0.92	(1.48)	垂直	-	人為		本跡→SD161
124	Q 3 i4	N - 18° - W	円形	1.18×1.06	(1.46)	垂直	-	人為		

表58 中・近世土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ (cm)					
4214	Q 4 g6	N - 32° - E	楕円形	1.88×1.58	33	緩斜	搦鉢状	自然	土師質土器片,陶器片,砥石,鉄滓	
4462	Q 5 g0	N - 81° - W	不整楕円形	(5.12)×3.26	32	緩斜	皿状	自然	土師質土器片,陶器片,切子玉,石臼,砥石,鉄鏝,古銭	本跡→SK4461
4463	Q 5 g6	N - 62° - W	不整楕円形	6.95×3.50	20	緩斜	皿状	人為	土師質土器片,陶器片,古銭	SI2640→本跡→SK4487
4490	R 5 e4	N - 53° - W	不整楕円形	4.40×2.85	28	緩斜	平坦	人為	土師質土器片,茶臼,砥石	SI2647→本跡
4669	R 5 a9	N - 58° - E	楕円形	0.74×0.52	69	外傾	皿状	人為	土師質土器片	
5343	R 3 d5	N - 82° - W	不整楕円形	5.72×2.48	23	緩斜	皿状	人為	土師質土器片	
5400	Q 3 j7	N - 32° - E	隅丸長方形	(1.64)×1.50	60	外傾	平坦	人為	土師質土器片,鉄滓	本跡→第100号堀跡
5458	R 4 c2	N - 59° - E	不整楕円形	[2.10]×1.62	20	緩斜	皿状	人為	土師質土器片,陶器片,石臼,砥石	本跡→SK5459・5464・5481

表59 中・近世粘土貼り土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ (cm)					
5381	R 4 j2	N - 45° - W	隅丸長方形	(3.61)×2.80	42	緩斜	平坦	人為	土師質土器片,古銭	SK5383→本跡→SK5382・5384
5382	R 4 j1	N - 0°	楕円形	1.66×1.36	40	緩斜	平坦	人為	土師質土器片,陶器片,砥石	SK5381→本跡
5397	S 3 h0	N - 5° - E	[隅丸長方形]	2.00×(0.92)	12	緩斜	平坦	人為		本跡→SD178
5523	S 3 f9	N - 80° - W	[長方形]	(1.82)×1.56	28	外傾	平坦	人為		本跡→SK5522

表60 中・近世火葬土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ (cm)					
4253	Q 4 e0	N - 18° - E	隅丸長方形	1.48×1.08	76	外傾	平坦	人為	土師質土器片	SK4230→本跡→SK4215
4273	R 4 f5	N - 0°	円形	1.33×1.33	22	緩斜	平坦	人為	土師質土器片,砥石	
4735	Q 5 g8	N - 50° - W	楕円形	2.54×2.22	22	緩斜	凹凸	人為	土師質土器片	SI2652→SK4580→本跡
5254	T 4 a5	N - 77° - W	楕円形	2.70×1.97	60	緩斜	平坦	人為	土師質土器片,釘,古銭,骨片	
5407	Q 4 f3	N - 31° - E	円形	1.08×1.08	22	緩斜	皿状	人為	陶器片,石臼	

表61 中・近世墓坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	人骨 (有・無)	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ(cm)						
4258	Q 4 i 9	N - 76° - W	隅丸長方形	1.74×0.84	24	外傾	平坦	人為	無	土師質土器片, 石臼	第95号堀跡・SK4208→本跡→SK4209
4373	R 4 f 4	N - 71° - W	隅丸長方形	1.80×0.72	19	垂直	平坦	人為	無	土師質土器片, 飾金具カ	本跡→SK4379・4381
4375	R 4 e 4	N - 72° - W	隅丸長方形	1.64×0.84	20	外傾	平坦	人為	無	土師質土器片, 古銭	
5252	S 4 i 4	N - 86° - W	隅丸長方形	1.05×0.71	28	垂直	平坦	人為	有	人骨片	SK5259→本跡
5253	S 5 i 4	N - 5° - E	隅丸長方形	1.14×0.74	43	外傾	平坦	人為	有	人骨片	
5257	T 4 a 4	N - 56° - W	円形	1.46×1.38	38	垂直	平坦	人為	無	土師質土器片, 鉄滓	SF18→本跡
5259	S 4 h 4	N - 20° - E	隅丸長方形	1.21×1.10	51	外傾	平坦	人為	有	古銭, 人骨片	本跡→SK5252
5519	S 3 j 8	N - 83° - E	隅丸長方形	1.92×0.75	49	外傾	平坦	人為	無	宝篋印塔	
5563	T 4 a 7	N - 6° - W	隅丸長方形	1.12×0.52	26	外傾	平坦	人為	無	土師質土器片, 陶器片, 五輪塔	本跡→第94号堀

表62 中・近世墓坑の可能性のある土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ(cm)					
4164	S 5 f 3	N - 6° - W	長方形	1.88×0.89	51	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄鏃	SI2593→本跡
4169	S 4 i 8	N - 19° - E	[隅丸長方形]	2.50×[1.35]	22	垂直	平坦	人為	古銭	本跡→SK4172・4176・4178 →SK4173・4177
4171	S 4 d 9	N - 10° - E	隅丸長方形	1.68×1.00	30	外傾	平坦	人為		SI2603→本跡
4177	S 4 j 8	N - 71° - E	隅丸長方形	1.14×0.76	82	垂直	傾斜	人為	土師器片, 土師質土器片	SI2602→SK4169→本跡・SK 4172・4176→SK4173・4177
4181	S 4 j 9	N - 42° - E	[隅丸長方形]	0.84×(0.40)	28	外傾	平坦	人為	五輪塔	
4182	T 4 b 8	N - 29° - E	[隅丸長方形]	1.62×(0.48)	40	垂直	平坦	人為		SF17→本跡
4190	S 4 d 0	N - 5° - E	方形	1.16×1.12	81	外傾	平坦	人為		
4193	S 4 e 0	N - 81° - W	長方形	1.88×1.00	56	外傾	平坦	人為		SI2604→本跡
4196	R 4 j 0	N - 14° - E	長方形	2.16×0.95	28	緩斜	U字状	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2621→本跡
4199	S 4 c 0	N - 74° - W	長方形	2.40×1.75	58	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 灰釉陶器片, 砥石, 古銭	本跡→SK4198
4203	Q 5 i 1	N - 18° - E	長方形	1.91×0.90	48	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
4208	Q 4 i 9	N - 16° - E	[長方形]	[1.63]×[1.00]	42	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	第95号堀跡→SK4258→ 本跡→SK4209
4209	Q 4 i 9	N - 17° - E	[隅丸長方形]	1.60×[0.70]	21	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	第95号堀跡→SK4258→ SK4208→本跡
4213	Q 4 h 8	N - 28° - E	長方形	2.64×1.73	37	緩斜	平坦	人為	土師質土器片	本跡→PG30
4215	Q 4 e 0	N - 14° - W	長方形	2.97×1.23	42	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 瓦片, 鉄滓	SK4253→本跡
4217	Q 4 f 8	N - 79° - W	隅丸長方形	3.58×1.22	27	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	本跡→SK4218
4220	R 5 i 4	N - 17° - E	長方形	1.65×0.80	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2635→本跡
4222	Q 4 i 8	N - 79° - W	[長方形]	[1.68]×1.08	66	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶器片	SE72→本跡→SK4232→ SK4234
4223	R 5 h 1	N - 80° - W	長方形	3.07×1.42	40	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2633→第93号堀跡→本跡
4225	Q 4 i 8	N - 11° - E	隅丸長方形	2.36×1.20	26	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 青磁片	本跡→SK4224・SK4226→ SK4233
4226	Q 4 j 8	N - 14° - E	隅丸長方形	1.28×1.00	20	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SK4225→本跡・SK4224→ SK4233
4227	Q 4 j 8	N - 18° - E	隅丸長方形	1.97×0.88	35	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SK4248→本跡
4230	Q 4 f 9	N - 4° - E	長方形	2.55×0.80	41	緩斜	平坦	人為		本跡→SK4253
4231	Q 4 f 9	N - 6° - E	長方形	4.22×0.85	35	外傾	平坦	人為		本跡→SK4259・4261
4232	Q 4 i 8	N - 79° - W	隅丸長方形	2.16×1.08	38	外傾	平坦	人為		SE72→SK4222→本跡→ SK4234
4237	S 5 b 1	N - 16° - E	長方形	1.77×1.25	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	本跡→SK4239
4239	S 5 b 1	N - 37° - E	長方形	1.67×0.96	13	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SB477・SK4237→本跡
4249	Q 4 j 8	N - 72° - W	[楕円形]	1.60×[0.86]	14	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	本跡→SK4248・4250
4252	Q 4 j 7	N - 80° - W	楕円形	2.86×1.07	15	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 釘	SK4251→本跡
4269	R 4 f 9	N - 14° - E	隅丸長方形	1.94×[1.62]	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 羽口	SI2613→本跡
4270	R 4 f 8	N - 4° - E	隅丸長方形	1.86×1.66	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓, 煙管	SI2613→本跡
4275	S 4 f 0	N - 85° - E	隅丸長方形	2.70×1.02	84	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土玉, 鎌	SI2623→SK4276→本跡
4277	R 5 a 1	N - 19° - E	隅丸長方形	1.96×1.06	94	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 瓦片	SD155・SK4289→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ (cm)					
4283	R 4 a 8	N - 14 ° - E	長方形	2.32 × 1.10	20	緩斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	SK4284→本跡
4287	R 4 b 7	N - 78 ° - W	隅丸長方形	2.15 × 1.02	30	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	
4292	R 4 a 8	N - 17 ° - E	楕円形	1.32 × 1.10	40	垂直	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	本跡→SK4293
4297	Q 4 h 8	N - 18 ° - E	[長方形]	(1.70) × 0.74	11	外傾	平坦	人為	陶器片, 鉄滓	SK4229→本跡→PG30
4298	S 6 a 1	N - 90 ° - E	長方形	2.77 × 1.92	66	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶器片, 瓦片, 釘	本跡→SF15
4313	Q 4 h 6	N - 45 ° - E	長方形	2.42 × 1.40	52	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SE78→本跡
4315	Q 4 i 5	N - 72 ° - W	長方形	5.20 × 1.14	58	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	本跡→SE78
4316	R 4 f 8	N - 67 ° - E	隅丸長方形	2.22 × 1.60	20	緩斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	SD156→UP57→本跡
4317	R 4 d 8	N - 71 ° - W	楕円形	1.36 × 0.84	12	外傾	平坦	人為		第95号堀跡→本跡
4318	R 4 d 7	N - 63 ° - W	隅丸長方形	2.18 × 0.96	34	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	第95号堀跡→SE76・SK4319→本跡
4319	R 4 c 7	N - 7 ° - W	隅丸長方形	2.00 × 0.86	23	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	本跡→SK4318
4320	R 4 e 7	N - 21 ° - E	長方形	1.18 × 0.76	19	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 陶器片 砥石	第95号堀跡→本跡
4322	R 4 c 7	N - 16 ° - E	楕円形	1.52 × 0.70	20	外傾	平坦	人為		SK4323→本跡→SK4324
4323	R 4 c 7	N - 75 ° - W	楕円形	[1.50] × 0.72	18	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	第95号堀跡→本跡→SK4322・4324・4327
4324	R 4 c 8	N - 72 ° - W	楕円形	[2.30] × 1.12	24	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	第95号堀跡→SK4322・4323・4325→本跡→SK4327
4325	R 4 c 7	N - 10 ° - E	楕円形	1.70 × 0.92	39	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 陶器片	本跡→SK4324
4327	R 4 c 8	N - 16 ° - E	隅丸長方形	2.54 × 1.28	12	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	第95号堀跡→SK4323・4324→本跡
4330	R 4 b 8	N - 20 ° - E	隅丸長方形	1.52 × 1.26	25	外傾	平坦	人為		第95号堀跡→SE77→SK4390→本跡→SK4416
4331	R 4 b 9	N - 78 ° - W	[長方形]	1.01 × (0.70)	15	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	本跡→UP53
4332	R 4 b 9	N - 7 ° - E	[長方形]	[1.64] × 0.78	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2626→SK4333→本跡→UP53
4334	R 4 g 0	N - 21 ° - E	長方形	1.56 × 1.22	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	第93号堀跡・SD155→本跡→SK4336
4337	R 4 j 3	N - 25 ° - E	長方形	1.53 × 1.12	62	垂直	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SK4352→本跡
4339	R 4 i 3	N - 20 ° - E	長方形	2.79 × 1.19	57	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 石臼, 刀子	SK4394→本跡→SK4340・4355
4341	R 4 j 3	N - 20 ° - E	方形	2.08 × 1.97	26	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶器片, 土玉	
4342	R 4 j 4	N - 15 ° - E	不整長方形	4.64 × 2.28	75	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 不明銅製品	SK4345・4369→本跡
4343	R 4 i 5	N - 74 ° - E	隅丸長方形	1.58 × 0.88	40	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片 釘	SK4369→本跡
4345	R 4 i 4	N - 10 ° - E	隅丸長方形	2.70 × 1.20	38	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	本跡→SK4342
4351	R 4 i 3	N - 74 ° - W	[隅丸長方形]	(0.80) × 0.71	30	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 砥石	SK4352→本跡→SK4350
4352	R 4 i 3	N - 19 ° - E	[長方形]	(2.60) × [0.92]	20	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	本跡→SK4337・4351・4354
4355	R 4 i 3	N - 26 ° - E	[長方形]	1.60 × (0.68)	24	緩斜	平坦	人為		SK4339→本跡→SB481・SK4354
4359	R 4 h 3	N - 78 ° - W	[長方形]	[1.92] × 1.15	38	緩斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	本跡→SB479
4361	R 4 j 4	N - 12 ° - E	隅丸長方形	1.36 × 1.10	40	緩斜	平坦	人為		SK4362→本跡
4362	R 4 j 4	N - 19 ° - E	[楕円形]	(2.02) × 1.02	20	緩斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	本跡→SK4344・4361・4450
4368	R 4 h 5	N - 18 ° - E	隅丸長方形	2.40 × 1.18	54	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶磁器片, 釘	
4369	R 4 i 5	N - 18 ° - E	隅丸長方形	[3.88] × [1.30]	42	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 砥石	本跡→SK4342・4343
4370	R 4 h 4	N - 70 ° - W	楕円形	1.56 × 0.85	11	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SK4371→本跡
4371	R 4 h 4	N - 16 ° - E	隅丸長方形	1.09 × 0.86	10	緩斜	平坦	人為		本跡→SK4370
4374	R 4 e 4	N - 73 ° - W	楕円形	1.52 × 0.82	19	緩斜	平坦	人為		
4380	S 5 c 1	N - 16 ° - E	楕円形	1.55 × 1.06	24	緩斜	平坦	人為		SB478→本跡
4384	S 5 e 1	N - 87 ° - W	円形	1.42 × 1.36	26	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
4390	R 4 b 8	N - 76 ° - W	隅丸長方形	1.10 × 0.60	42	垂直	平坦	人為		SE77→本跡→SK4330・4416
4393	R 4 c 4	N - 67 ° - W	台形	1.36 × 1.28	41	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 陶器片	
4394	R 4 i 2	N - 72 ° - W	[長方形]	(1.20) × 0.97	47	外傾	平坦	人為		本跡→SK4339
4409	R 4 h 5	N - 18 ° - E	隅丸長方形	1.70 × 0.80	38	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
4410	R 4 h 5	N - 59 ° - W	楕円形	1.10 × 1.00	40	外傾	U字状	人為	土師器片, 須惠器片	
4413	R 4 e 5	N - 74 ° - W	隅丸長方形	2.40 × 0.90	14	外傾	平坦	人為		本跡→SK4414

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ(cm)					
4414	R 4 e5	N - 38° - E	隅丸長方形	2.50×0.92	20	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶器片	SK4413→本跡
4415	R 4 e6	N - 80° - E	隅丸長方形	1.37×0.62	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SK4417→本跡
4416	R 4 b8	N - 44° - W	隅丸長方形	1.60×1.14	45	外傾	平坦	人為		第95号堀跡・SE77・SK4330・4390→本跡→SK4398
4417	R 4 e5	N - 1° - W	[隅丸長方形]	(0.74)×0.72	12	外傾	平坦	人為		本跡→SK4415
4418	R 4 e6	N - 16° - E	隅丸長方形	1.82×[0.98]	26	外傾	平坦	人為		SK4415・4422・4423→本跡→SK4428
4419	R 4 e6	N - 41° - E	隅丸長方形	1.80×0.70	24	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 鉄滓	SK4420→本跡→SK4427
4420	R 4 e6	N - 47° - E	隅丸長方形	1.66×0.72	16	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	本跡→SK4419
4421	R 4 f6	N - 29° - E	隅丸長方形	1.50×0.75	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	本跡→SK4431
4422	R 4 e6	N - 57° - W	隅丸長方形	1.07×0.70	21	外傾	平坦	人為		本跡→SK4418・4423
4423	R 4 e6	N - 48° - E	[隅丸長方形]	(1.32)×0.75	18	垂直	平坦	人為		SK4422・4424→本跡→SK4418・4425・4426
4424	R 4 e6	N - 58° - W	隅丸長方形	1.50×0.72	33	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	本跡→SK4423→SK4425→SK4426
4425	R 4 e6	N - 53° - E	隅丸長方形	1.90×0.78	18	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SK4424→SK4423→本跡→SK4426
4426	R 4 e6	N - 45° - E	隅丸長方形	1.42×0.94	31	外傾	平坦	人為		SK4424→SK4423→SK4425→本跡
4429	R 4 g4	N - 78° - W	楕円形	2.50×1.04	12	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 古銭	SK4430→本跡→UP56・SK4439
4430	R 4 g3	N - 26° - E	[隅丸長方形]	1.14×(0.94)	28	外傾	平坦	人為		本跡→SK4429・4439
4436	R 4 f5	N - 22° - E	隅丸長方形	1.78×1.06	21	外傾	平坦	人為		SK4435→本跡→SK4440
4472	R 5 a3	N - 4° - E	長方形	1.25×0.74	35	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 釘	
4473	Q 5 h5	N - 83° - W	隅丸長方形	1.48×0.86	5	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2644→本跡
4476	R 5 a3	N - 2° - W	隅丸長方形	1.12×0.90	40	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	
4477	Q 5 h5	N - 4° - E	隅丸長方形	1.32×1.07	44	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2650→本跡
4478	Q 5 h5	N - 1° - W	隅丸長方形	1.39×1.03	34	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2650→本跡
4484	Q 5 g4	N - 11° - E	長方形	2.07×1.09	15	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI2650→本跡→第93号堀跡
4501	Q 6 j1	N - 79° - W	[長方形]	(3.50)×1.20	24	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SI2661→SK4502→本跡→SK4503
4502	Q 6 j1	N - 88° - W	[長方形]	1.02×(0.71)	12	緩斜	平坦	人為		SI2661→本跡→SK4501
4503	Q 6 j1	N - 12° - E	隅丸長方形	2.16×1.09	20	緩斜	平坦	人為		SI2661・2663→SK4501→本跡・SK4492
4511	R 5 b3	N - 85° - W	隅丸長方形	2.26×1.10	50	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 鉄滓	SI2669→SI2668→SI2656→本跡→SK4617・4638
4512	R 5 c3	N - 83° - W	長方形	1.51×1.10	45	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2669→SI2668→SI2656→SK4513→本跡
4513	R 5 c3	N - 2° - E	長方形	1.82×1.07	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2669→SI2668→SI2656→本跡→SK4512
4520	Q 5 j5	N - 73° - W	[隅丸長方形]	[1.51]×1.10	20	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 古銭	SI2657→本跡→SK4508
4528	R 5 c2	N - 18° - E	[楕円形]	1.30×(1.24)	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SI2669→SI2656→本跡→SK4565→第93号堀跡
4540	R 6 d1	N - 88° - W	長方形	2.70×1.07	21	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2667→本跡
4541	R 5 f6	N - 10° - E	[長方形]	[0.92]×0.88	37	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2681→本跡→SK4542
4542	R 5 f6	N - 87° - W	楕円形	1.70×1.10	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2681→SK4546→SK4541→本跡→SK4543
4543	R 5 f6	N - 14° - E	長方形	1.70×0.86	20	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2681→SK4569→SK4542→本跡
4544	R 5 f6	N - 4° - E	楕円形	1.12×0.81	29	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 双孔円板	SI2681→本跡
4548	R 5 g6	N - 0°	長方形	1.70×1.05	26	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2681→SK4660→本跡
4561	R 5 d3	N - 0°	隅丸長方形	1.21×1.06	50	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2669→SI2668→SI2656→本跡→SK4586
4565	R 5 c2	N - 20° - E	楕円形	1.36×0.56	32	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2659・SK4528→本跡
4567	Q 5 j4	N - 4° - E	隅丸長方形	1.05×0.87	13	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2657→本跡
4571	R 5 e6	N - 9° - W	円形	1.03×0.94	68	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2681→本跡
4640	R 5 e6	N - 5° - E	長方形	1.41×0.80	22	外傾	平坦	人為		SI2681→本跡
4654	R 5 b0	N - 9° - E	長方形	4.14×1.18	19	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 古銭, 鉄製品	SK4655→本跡
4655	R 6 c1	-	円形	1.50×[1.47]	44	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2671→本跡→SD153・SK4654
4658	R 5 f8	N - 86° - W	長方形	3.21×1.22	32	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2699 SK4675 本跡
4659	R 5 f8	N - 83° - W	長方形	2.51×1.14	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 灰陶器片	SI2699 SI2688 本跡
4660	R 5 g7	N - 7° - E	長方形	3.40×1.06	45	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶器片, 釘	SI2681 SK4690 本跡 SK4548

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 ( m )		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ( cm )					
4663	R 5 g8	N - 7 ° - E	長方形	2.25×(0.89)	24	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	SI2688 本跡 SK4664 SK4665
4664	R 5 f7	N - 70 ° - W	長方形	2.54×1.02	18	緩斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	SI2688 本跡 SI2681 SK4663 SK4665
4665	R 5 g7	N - 3 ° - E	橢円形	1.06×0.80	22	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	SI2688 本跡 SK4663 SK4664
4674	R 5 b0	N - 5 ° - E	長方形	2.68×1.28	29	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 灰釉陶器片, 瓦片, 砥石	SI2688 本跡
4675	R 5 f8	N - 86 ° - W	(長方形)	(2.20)×(0.21)	24	外傾	-	人為	土師器片, 須惠器片	SI2699 SI2688 本跡 SK4658
4683	R 5 e6	N - 5 ° - W	橢円形	1.23×0.99	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2681 本跡
4707	Q 5 d2	N - 75 ° - W	隅丸長方形	1.75×1.30	50	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	第96号堀跡 本跡
4708	R 5 f0	N - 70 ° - W	長方形	1.94×1.34	44	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 灰釉陶器片, 古銭	SI2699 SI2684 本跡
4713	R 5 h9	N - 82 ° - W	長方形	2.34×1.10	16	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	TP 7 SI2682 本跡
4716	Q 5 b1	N - 64 ° - W	隅丸長方形	2.04×1.20	32	外傾	平坦	人為		本跡 UP63・64
4719	Q 4 d0	N - 15 ° - E	隅丸長方形	4.80×1.04	22	垂直	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	本跡 SK4720
4720	Q 4 d0	N - 85 ° - W	隅丸長方形	1.98×1.16	54	垂直	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SK4719 本跡
4727	Q 4 c9	N - 86 ° - W	隅丸長方形	2.93×1.14	58	外傾	平坦	人為		第96号堀跡 本跡
5251	S 4 i5	N - 18 ° - E	隅丸長方形	1.28×0.76	14	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 古銭	本跡 SK5250
5264	S 4 c2	N - 81 ° - W	隅丸長方形	2.26×[1.33]	40	外傾	平坦	人為		SK5263・5267・5297 本跡 SK5265・5266
5265	S 4 c2	N - 9 ° - E	橢円形	1.27×1.00	30	緩斜	平坦	人為		SK5297 SK5264 SK5266 本跡
5272	S 4 b3	N - 19 ° - E	長方形	1.48×0.97	13	緩斜	平坦	人為		
5276	S 4 d2	N - 16 ° - E	[隅丸方形]	(1.32)×1.22	30	緩斜	平坦	人為		本跡 SK5277
5277	S 4 d2	N - 75 ° - W	隅丸長方形	1.62×1.10	50	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 砥石	SK5276 本跡
5278	S 4 d2	N - 17 ° - E	橢円形	[0.83]×0.73	24	外傾 緩斜	平坦	人為	土師質土器片	
5280	S 4 b3	N - 12 ° - E	[隅丸方形]	[2.14]×0.94	13	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	本跡 SK5294
5287	S 4 a3	N - 12 ° - E	隅丸長方形	1.97×1.25	21	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 陶器片, 鉄鏝	SK5291 本跡
5288	S 4 a2	N - 36 ° - E	橢円形	1.58×1.40	34	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	
5291	S 4 a3	N - 12 ° - E	隅丸長方形	1.39×1.34	51	外傾	平坦	人為	土師質土器片	本跡 SK5287
5298	S 4 b4	N - 5 ° - E	隅丸長方形	3.72×1.28	24	緩斜	平坦	人為	土師質土器片, 磁器片, 鉄製品	
5334	R 3 g6	N - 9 ° - W	隅丸長方形	2.29×1.47	44	外傾	平坦	人為		
5337	R 3 g8	N - 48 ° - W	隅丸長方形	1.87×1.19	10	緩斜	平坦	人為		
5339	R 3 h5	N - 5 ° - W	隅丸長方形	2.93×0.97	26	外傾	平坦	人為	土師器片 土師質土器片 瓦質土器片	SK5340 本跡
5349	R 3 a5	N - 21 ° - E	隅丸長方形	2.34×0.86	18	緩斜	平坦	人為		
5371	S 4 a3	N - 79 ° - W	隅丸長方形	2.48×1.32	35	外傾	平坦	人為	土師器片 土師質土器片 陶器片	本跡 SK5374
5372	S 4 a4	N - 17 ° - E	[隅丸長方形]	(1.66)×1.08	23	緩斜	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	本跡 SK5275・5373・5374
5373	S 4 a4	N - 75 ° - W	隅丸長方形	1.70×1.22	32	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 不明鉄製品, 古銭, 砥石, 剥片	SK5372・5374 本跡
5374	S 4 a4	N - 16 ° - E	長方形	2.75×1.42	40	外傾	平坦	人為	土師器片 須惠器片 土師質土器片	SK5371・5372 本跡 SK5373
5378	S 4 b8	N - 24 ° - E	円形	1.30×1.20	42	外傾	平坦	人為		本跡 SD155
5394	R 4 h2	N - 17 ° - E	隅丸長方形	2.20×1.29	10	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶器片	
5449	Q 4 b3	N - 80 ° - W	[長方形]	2.40×(0.51)	12	外傾	平坦	人為		SK5450 本跡
5450	Q 4 c3	N - 2 ° - E	[長方形]	(1.06)×1.04	9	緩斜	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SK5451 本跡 SK5449
5451	Q 4 c3	N - 5 ° - E	[長方形]	(1.99)×1.10	4	緩斜	平坦	人為		SK5452~5454・本跡 SK5450
5452	Q 4 c3	N - 81 ° - W	[長方形]	(1.60)×1.12	3	緩斜	平坦	人為		本跡 SK5451
5453	Q 4 c4	N - 82 ° - W	[長方形]	(2.25)×1.09	15	外傾	平坦	人為	土師質土器片, 陶器片	本跡 SK5451
5454	Q 4 c4	N - 16 ° - E	長方形	1.63×0.86	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SK5455 本跡 SK5451
5455	Q 4 d3	N - 18 ° - E	[隅丸長方形]	[1.90]×0.91	14	外傾	平坦	人為		本跡 SK5454
5465	Q 4 c4	N - 21 ° - E	隅丸長方形	1.30×1.09	14	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片, 釘	
5509	S 3 i4	N - 12 ° - W	橢円形	2.12×0.65	15	緩斜	平坦	人為		本跡 SK5517
5520	S 3 j9	N - 2 ° - W	長方形	3.66×1.08	56	垂直	平坦	人為	土師器片 土師質土器片 陶器片	
5521	T 3 a9	N - 89 ° - E	隅丸長方形	2.96×0.95	43	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶磁器片, 釘	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ(cm)					
5524	T 3 b9	N - 12° - W	隅丸長方形	1.48×1.02	34	外傾	平坦	人為		
5530	S 3 b8	N - 82° - E	長楕円形	1.94×0.82	22	外傾	平坦	人為		
5531	S 3 c8	N - 88° - E	隅丸長方形	1.48×0.97	12	緩斜	平坦	人為		SD174 本跡
5535	T 3 c8	N - 41° - E	円形	1.24×1.16	24	外傾	平坦	人為		

表63 中・近世柱穴の可能性のある土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 旧 新)
				長径×短径	深さ(cm)					
4201	Q 5 i2	N - 20° - E	楕円	0.85×0.62	50	緩斜	平坦	人為		本跡・SD155 SK4200
4388	R 4 g7	N - 56° - E	円形	0.68×0.62	80	外傾	平坦	人為		
4397	R 4 f5	N - 29° - W	隅丸方形	0.64×0.64	94	外傾	U字状	人為	土師器片	
4432	R 4 f6	N - 10° - W	隅丸方形	0.76×0.70	84	外傾	U字状	人為	土師器片	
4468	Q 5 h5	N - 6° - E	隅丸長方形	1.34×1.12	72	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SI2644 本跡
4496	Q 5 h9	N - 54° - W	不整形円形	1.18×1.10	50	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	SK4498 新旧不明
4497	Q 5 h9	N - 45° - W	不整形円形	1.06×0.93	68	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
4498	Q 5 i9	N - 74° - W	不整形楕円形	1.50×0.82	56	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片	SK4496 新旧不明
4507	R 5 b6	N - 2° - W	楕円形	1.10×0.94	120	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2649 本跡
4510	Q 5 j3	N - 82° - W	円形	1.05×0.97	60	外傾	U字状	人為		SI2643 本跡 第93号掘跡
4519	Q 5 j6	N - 41° - W	不整形長方形	1.52×0.98	60	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土師質土器片, 陶器片	
4521	Q 5 j6	N - 76° - W	[楕円形]	[1.53]×0.98	68	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
4530	R 5 a6	N - 87° - W	隅丸方形	0.84×0.82	91	垂直	平坦	人為	土師器片	
4531	R 5 d6	N - 76° - W	[楕円形]	1.06×(0.87)	72	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SK4532 本跡 SB491 SK4557
4532	R 5 d6	N - 2° - E	楕円形	1.34×1.21	86	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	本跡 SK4531
4546	R 5 f6	N - 12° - E	[楕円形]	1.06×0.85	64	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2681 本跡 SK4547 SK4542
4556	R 5 d7	N - 27° - E	不整形円形	1.28×1.20	78	外傾	平坦	人為	土師器片, 釘	SI2649 本跡
4557	R 5 d6	N - 52° - W	楕円形	0.80×0.55	56	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SB491・SK4531 本跡
4569	R 5 g6	N - 17° - W	[楕円形]	0.41×0.33	50	垂直	平坦	人為		SI2681 本跡 SK4543
4575	R 5 e5	N - 40° - E	円形	0.96×0.88	62	垂直	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片	
4576	R 5 e5	N - 13° - E	楕円形	0.92×0.80	52	垂直	凹凸	人為		
4646	R 5 a7	N - 50° - W	[円形]	0.68×(0.57)	30	外傾	平坦	人為	土師器片	SI2675 SI2674 本跡
4651	Q 5 j7	N - 30° - W	楕円形	1.30×1.10	25	緩斜 外傾	平坦	人為	土師器片, 土師質土器片	SI2675 SI2674 SK4711 SK4712 SK4650 本跡
4692	R 5 f6	N - 6° - E	円形	0.48×0.46	41	垂直	U字状	人為	土師器片	SI2681 本跡
4695	R 5 e6	N - 11° - W	円形	0.55×0.55	26	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	SI2681 本跡
4699	R 5 e6	N - 8° - W	円形	0.54×0.50	52	垂直	U字状	人為	土師器片	SI2681 本跡
4700	Q 5 j0	N - 60° - W	方形	0.92×0.90	84	外傾	U字状	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 陶器片, 瓦片, 石臼	SI2673 本跡
5281	S 4 b3	N - 17° - E	不整形楕円形	0.54×0.48	102	外傾	平坦	人為		
5289	S 4 b3	N - 41° - E	円形	[0.57]×0.55	72	外傾	平坦	人為	土師質土器片	SK5369 本跡
5294	S 4 b3	N - 77° - E	不整形楕円形	0.48×0.39	86	外傾	平坦	人為		SK5280 本跡
5369	S 4 b3	N - 52° - W	円形	0.58×0.56	104	外傾	平坦	人為		本跡 SK5289

茨城県教育財団文化財調査報告第280集

## 島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIII

### 第 3 分冊

平成19(2007)年3月19日 印刷

平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 (有)川田プリント  
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53  
TEL 029-253-5551